

男女共同参画・女性の活躍促進に関する 意識調査報告書

平成27年3月

福島県

はじめに

県では、すべての県民が個人として尊重され、性別にかかわらず、自己の能力を自らの意思に基づいて発揮することができ、あらゆる分野とともに参画し、責任を担う社会を男女共同参画社会形成のための基本理念とし、「ふくしま男女共同参画プラン（平成13年2月策定、平成24年3月改定）」や「福島県男女平等を実現し男女が個人として尊重される社会を形成するための男女共同参画の推進に関する条例（平成14年3月制定）」に基づき、各種施策を展開しているところです。

しかしながら、東日本大震災と原子力災害の影響に加え、経済活動の低迷や雇用環境の悪化など厳しい社会経済情勢が続いており、男女がその個性や能力を十分に発揮し、多様な生き方を選択できる男女共同参画社会実現の必要性がますます高まってきております。

今回の意識調査は、前回調査（平成21年3月調査）からの変化と女性活躍に関する県民の意識を把握するとともに、初めて、次代を担う高校生、大学生（短大生含む）が男女共同参画や将来に向けた進路選択、女性の活躍促進等についてどのように考えているか調査し、「ふくしま男女共同参画プラン」の改定や今後の効果的な施策を進めていく上での基礎資料とするために実施したものです。

本報告書が、広く皆様に活用され、県内の男女共同参画の現状や課題について理解を深めていただく一助となり、男女共同参画社会を実現する契機の一つとなれば幸いです。

終わりに、本調査の実施に当たりまして御協力いただきました多くの県民の皆様並びに関係機関の皆様に、心から御礼申し上げます。

平成27年3月

福島県生活環境部青少年・男女共生課長
宍戸 志津子

目次

調査の概要	1
【一般県民意識調査】の結果	
回答者の構成	4
調査結果の要約	8
調査結果の詳細	19
1. 男女の地位の平等感、男女の生き方	19
(1) 男女の地位の平等感	19
(2) 男女の望ましい生き方	25
2. 家庭、結婚観	28
(1) 家事・育児・介護の負担割合	28
(2) 家庭、結婚観	32
(3) 出生数が減少している理由	39
3. 子どもの教育について	42
(1) 子どもに受けさせたい教育程度	42
(2) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと	45
4. 職業	48
(1) 仕事をしている理由	48
(2) 仕事を辞めた理由	50
(3) 女性が仕事を持つことに対する考え方	53
(4) 女性が働き続けるために必要なこと	56
5. 女性の活躍促進	58
(1) 女性の活躍状況	58
(2) 女性の活躍に必要なこと	63
(3) 男性の育児休暇取得への賛否	65
(4) 出産・育児の際の望ましい選択	66
(5) リーダー・管理職への意欲	68
6. 介護	72
(1) 家族の介護方法	72
(2) 自分自身の介護	76
7. 男女の人権	80
(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること	80
(2) 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと	82
8. 社会参加	84
(1) 参加している社会活動・地域活動の種類	84
(2) 女性の増加を望む役職	86
(3) 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと	88
9. 配偶者等からの暴力	90

(1) 「良い妻」に対する考え方	90
(2) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況	92
(3) 夫婦間の暴力	95
(4) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入	114
10. 地域の慣習	119
11. 自由意見・要望	124
付. 調査票様式	133

【高校生意識調査】の結果

回答者の構成	144
調査結果の要約	145
調査結果の詳細	150
1. 進学・就職	150
(1) 高校卒業後の進路	150
2. 男女共同参画	157
(1) 男女の平等感	157
(2) 男女の望ましい姿	161
(3) 男女共同参画の認知度	164
3. 家族や社会の状況	168
(1) 日常的役割の負担割合	168
4. 女性の活躍促進	173
(1) 女性の活躍状況	173
(2) リーダー・管理職への意欲	174
5. 将来について	177
(1) 結婚	177
(2) 家事・育児の分担意向	178
(3) 女性が職業を持つこと	180
6. 自由意見・要望	183
付. 調査票様式	187

【大学生・短大生意識調査】の結果

回答者の構成	194
調査結果の要約	196
調査結果の詳細	202
1. 進学・就職	202
(1) 大学卒業後の進路	202
(2) 進学や就職先の所在地	205
2. 男女共同参画	206
(1) 男女の平等感	206
(2) 男女の望ましい姿	210

(3) 男女共同参画の認知度	213
3. 家族や社会の状況	217
(1) 日常的役割の負担割合	217
4. 女性の活躍促進	222
(1) 女性の活躍状況	222
(2) 女性の活躍に必要なこと	225
(3) リーダー・管理職への意欲	226
5. 将来について	229
(1) 結婚	229
(2) 家事・育児の分担意向	230
(3) 女性が職業を持つこと	232
6. 自由意見・要望	235
付. 調査票様式	241

□本書の利用にあたって

●本文及び図表中の回答者の比率は、百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため個々の比率の合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の質問では比率の合計が100%を超える。

●図表中の「n」は回答者総数（該当者だけが回答する質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す比率算出の基数である。

●本調査と調査項目が同一または類似している質問について、前回調査（平成21年3月実施）結果及び国（内閣府）が実施した調査結果との比較を行った。
文中及び図表中では、比較する調査結果を以下のように表記した。

前回（平成21年）

「男女共同参画・配偶者等からの暴力に関する意識調査」

福島県 平成21年3月実施

（調査対象：福島県内に居住する20歳以上の男女個人）

国（平成24年）

「男女共同参画社会に関する世論調査」

内閣府 平成24年10月実施

（調査対象：全国20歳以上の日本国籍を有する者）

調査の概要

1. 調査の目的

男女共同参画に関する県民の意識を把握するとともに前回調査（平成21年3月実施）からの変化を探り、併せて、女性の活躍促進のための現状と課題を探り、調査の分析結果を「ふくしま男女共同参画プラン」の改定及び今後の施策展開の基礎資料とする。

2. 調査実施概要

広く県民及びこれからの男女共同参画社会を担う大学生・高校生の意識を調査した。

【一般県民意識調査】

- (1) 調査地域 福島県全域（34市町村を抽出）
- (2) 調査対象 20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000（人）
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出
第一次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3つのグループに分け、各グループを1つの層とした。各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第二次抽出：第一次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。
- (5) 調査方法 郵送法（配布・回収とも郵送）による自記式のアンケート調査
- (6) 調査期間 平成27年1月5日（月）～1月16日（金）
- (7) 調査項目
 - ①回答者の属性（8問）
 - ②男女の地位の平等感、男女の生き方について（2問）
 - ③家庭、結婚観について（3問）
 - ④子どもの教育について（2問）
 - ⑤職業について（4問）
 - ⑥女性の活躍促進について（10問）
 - ⑦介護について（4問）
 - ⑧男女の人権について（2問）
 - ⑨社会参加について（3問）
 - ⑩配偶者等からの暴力に関することについて（4問）
 - ⑪地域の慣習について（1問）
 - ⑫男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策について（自由意見1問）

（合計44問）

- (8) 回収結果
- | | |
|-------|----------------------------|
| 有効回収数 | 744 (37.2%) |
| 無効票数 | 1 |
| 回収不能数 | 1,255 (転居先不明 15、未回収 1,240) |

【大学生・高校生調査】

- (1) 調査対象 福島県全域の大学生（短大生）・高校生
- (2) 標本数 大学生 1,000（人）
高校生 1,000（人）
- (4) 調査方法 県が県内の大学（短大）及び県立高校に協力を依頼。協力が得られた高校及び大学に調査票を配布。集合法による自記式のアンケート調査
<協力校>

【大学】

県北方部	福島大学
県中方部	日本大学工学部
	郡山女子大学
会津方部	会津大学
	会津大学短期大学部
いわき方部	いわき明星大学
	東日本国際大学
	7校

【高校】

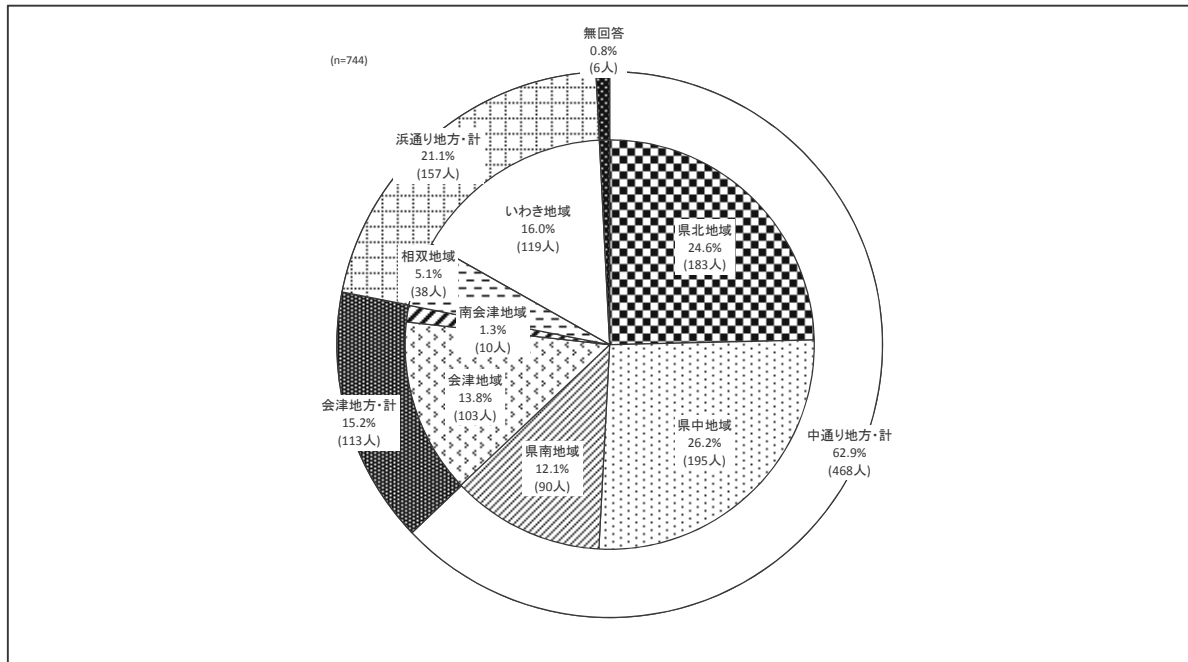
県北方部	福島西高等学校
	保原高等学校
県中方部	郡山高等学校
	須賀川高等学校
県南方部	光南高等学校
会津方部	会津学鳳高等学校
	喜多方東高等学校
相双方部	相馬東高等学校
いわき方部	湯本高等学校
	小名浜高等学校
計	10校

- (6) 調査期間 平成 27 年 1 月 5 日（月）～1 月 23 日（金）
- (7) 調査項目
- ①回答者の属性（大学生 5 問、高校生 3 問）
 - ②進路・進学・就職について（大学生 4 問、高校生 7 問）
 - ③男女共同参画社会について（大学生 3 問、高校生 3 問）
 - ④家庭や社会の状況について（大学生 1 問、高校生 1 問）
 - ⑤女性の活躍促進について（大学生 7 問、高校生 4 問）
 - ⑥将来について（大学生 5 問、高校生 5 問）
 - ⑦男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策について
（自由意見 大学生 1 問、高校生 1 問）
- （合計 大学生 26 問、高校生 24 問）
- (8) 回収結果
- | | |
|-------|-------------|
| 有効回収数 | |
| 大学生 | 391 (39.1%) |
| 高校生 | 983 (98.3%) |

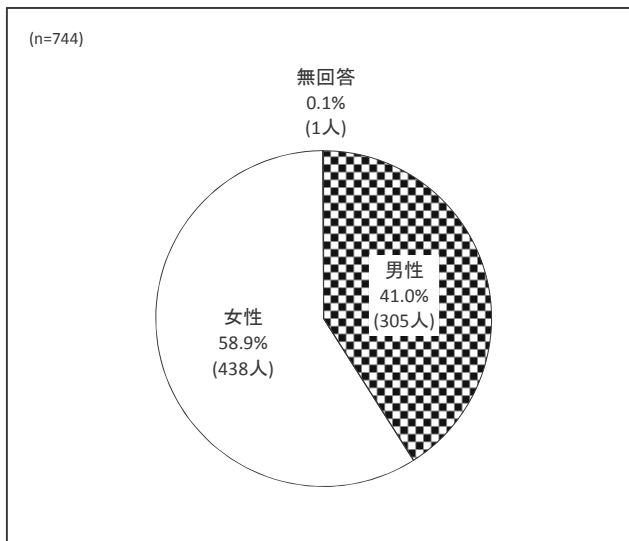
【一般県民意識調査】の結果

回答者の構成

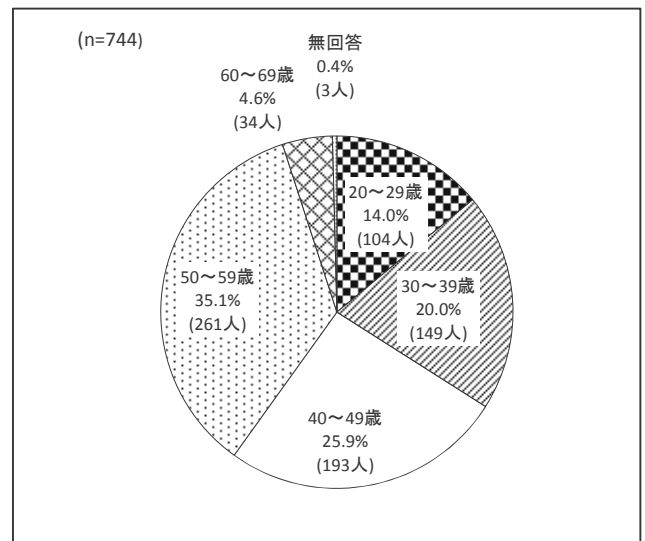
① 居住地



② 性別



③ 年齢

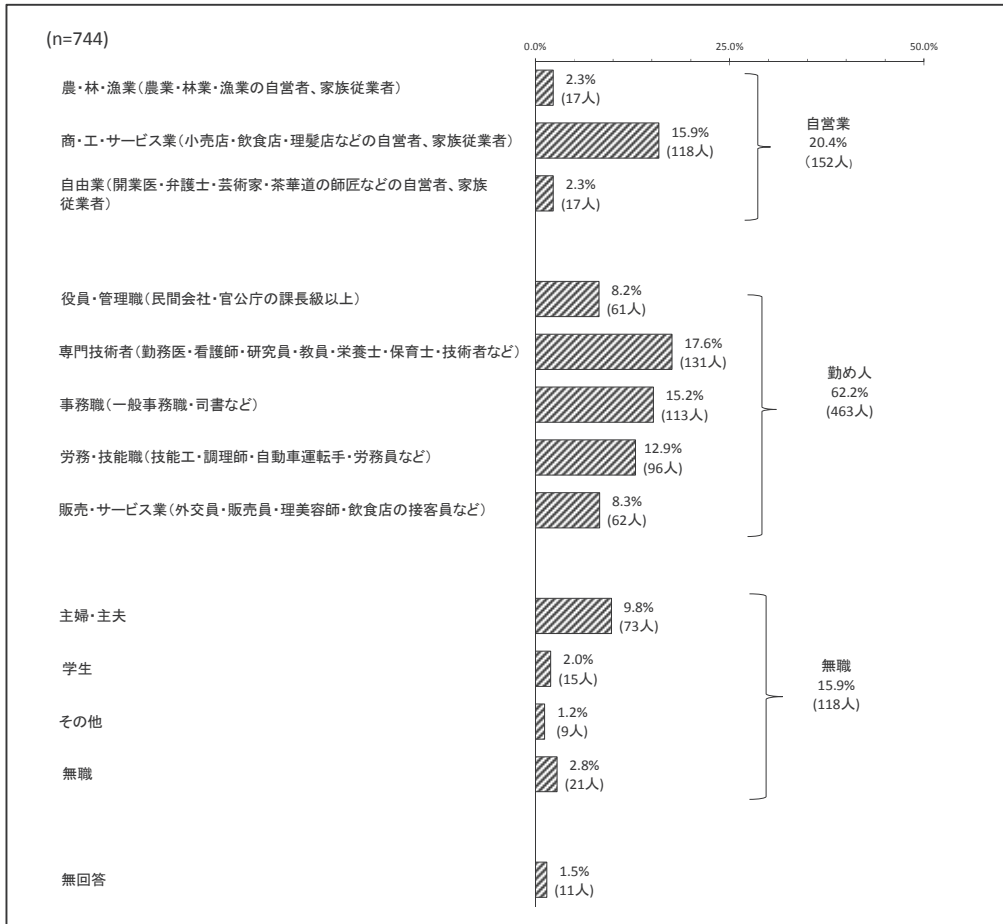


回答者の居住地を3地方別にみると、「中通り」が62.9%（468人）、「会津」が15.2%（113人）、「浜通り」が21.1%（157人）となっており、中通りの割合が高い。

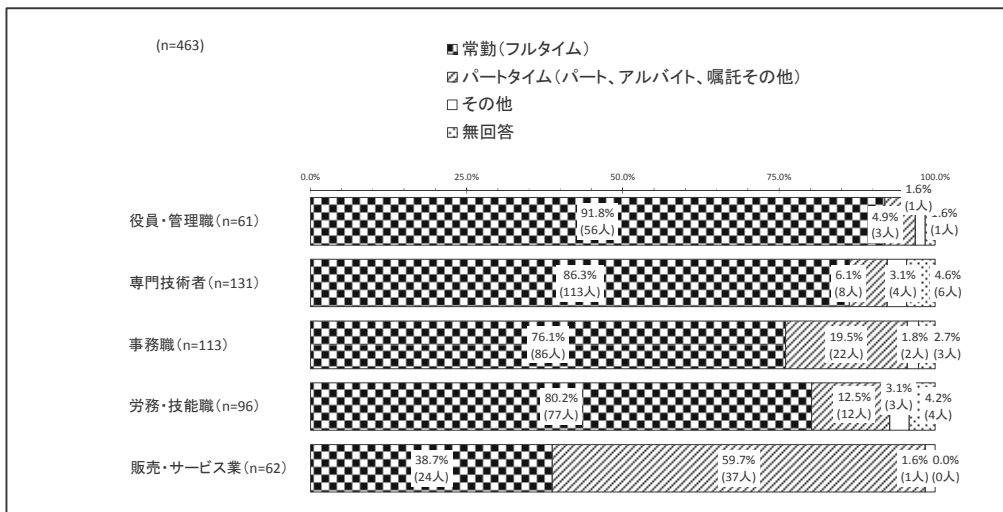
男女別では、「男性」が41.0%（305人）、「女性」が58.9%（438人）であり、女性の割合が高い。

年齢別にみると、最も割合が高いのが「50～59歳」の35.1%（261人）、続いて「40～49歳」が25.9%（193人）、「30～39歳」が20.0%（149人）となっている。

③ 職業

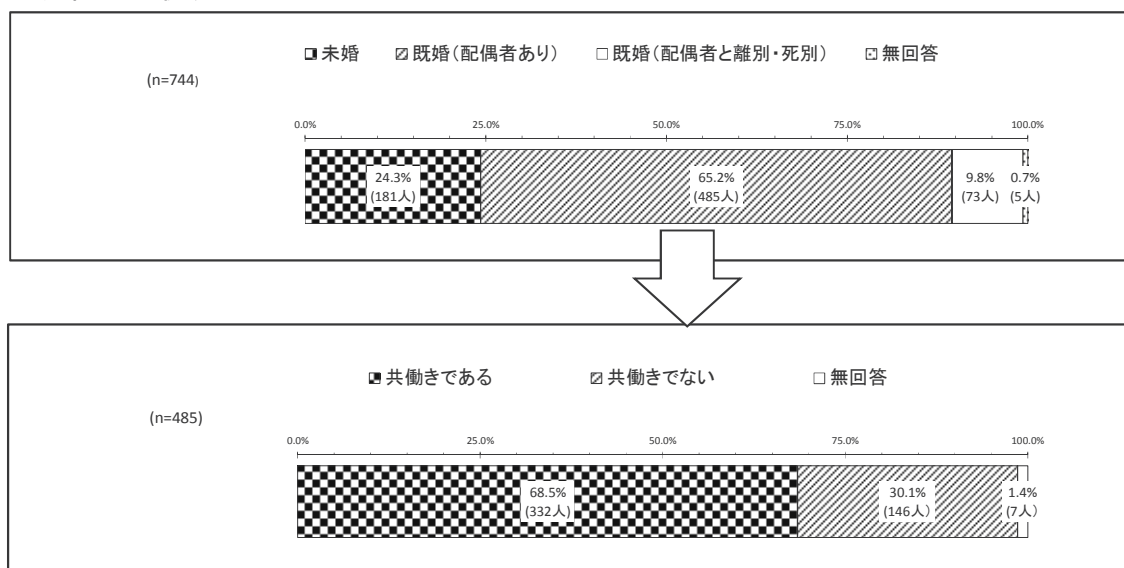


* 勤め人の雇用形態

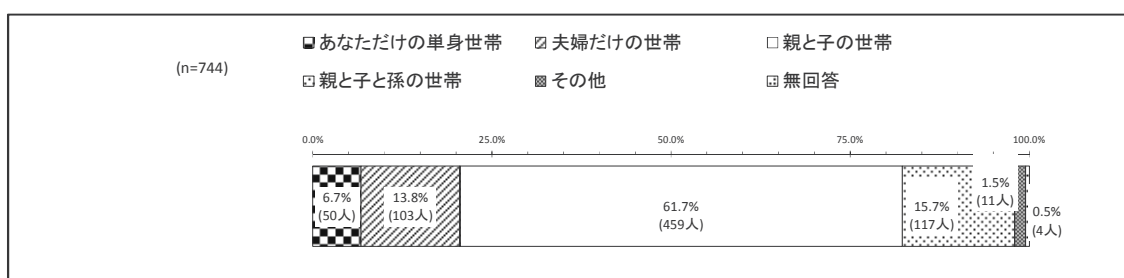


回答者の職業は、「勤め人」(役員・管理職、専門技術者、事務職、労務・技能職、販売・サービス業の計)の割合が62.2% (463人)と最も高く、「自営業」(農・林・漁業、商・工・サービス業、自由業の計)が20.4% (152人)、「無職」(主婦・主夫、学生、その他、無職の計)が15.9% (118人)となっている。

④ 婚姻・共働きの状況

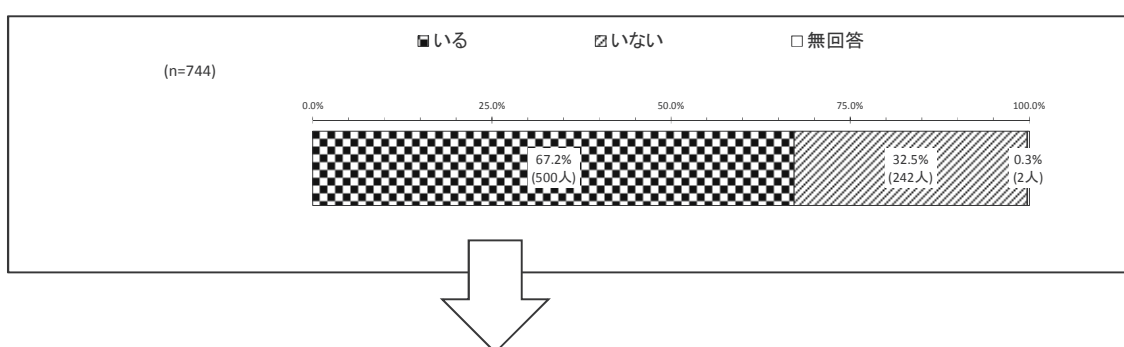


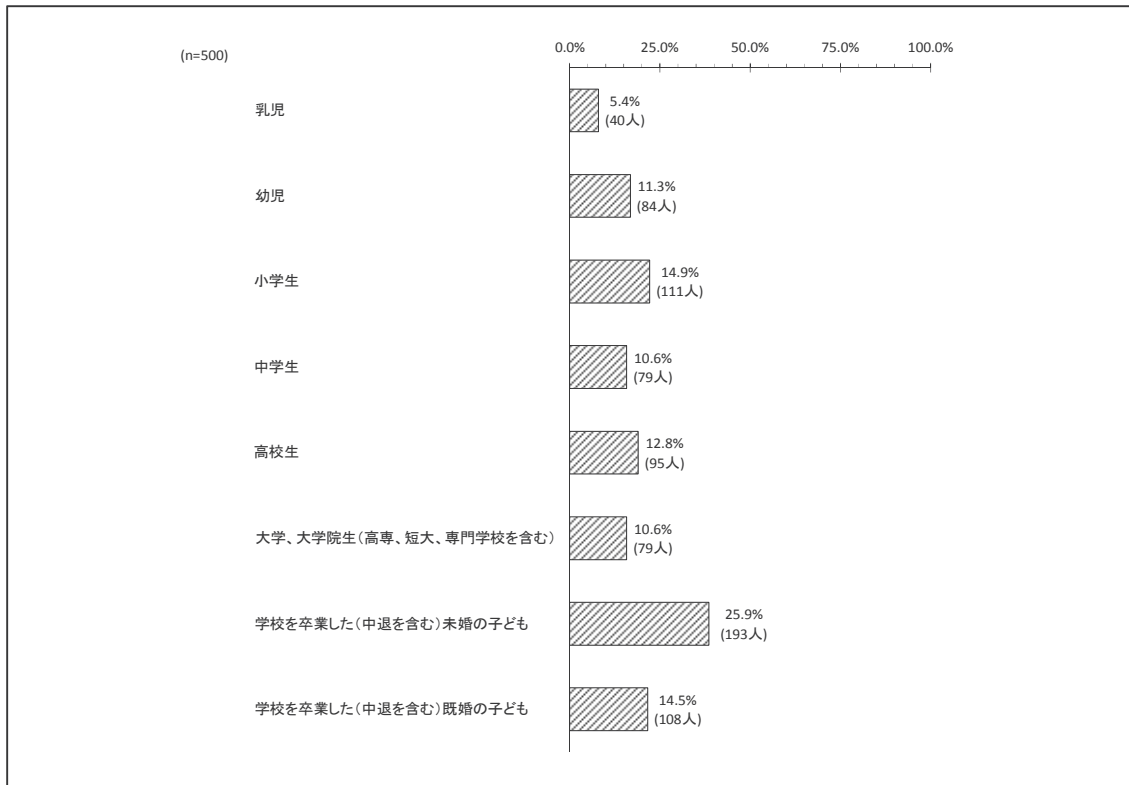
⑤ 家族形態



回答者を婚姻状況別にみると、「既婚者（配偶者あり）」の割合が65.2%（485人）と高い。既婚者の内、「共働きである」人は68.5%（332人）、「共働きでない」人は30.1%（146人）である。家族形態は、「親と子の世帯」の割合が61.7%（459人）と最も高く、「親と子と孫の世帯」が15.7%（117人）、「夫婦だけの世帯」が13.8%（103人）、「単身世帯」が6.7%（50人）などとなっている。

⑥ 子どもの有無・学齢

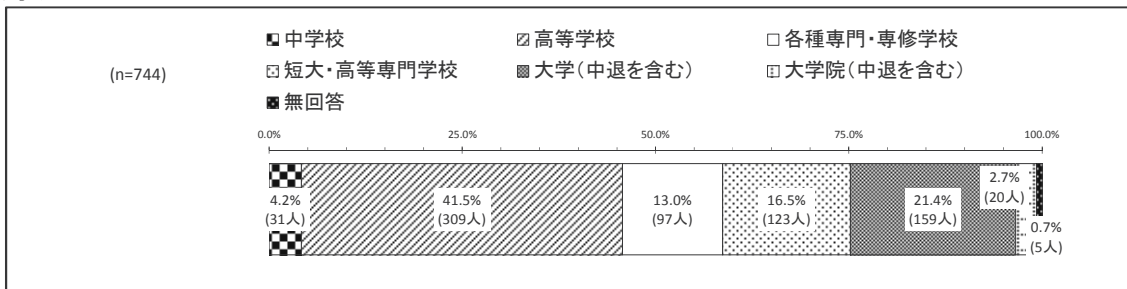




回答者の子どもの有無は、子どもが「いる」人が67.2% (500人)、「いない」人が32.5% (242人)である。

子どもがいる人の子どもの学齢は、「学校を卒業した(中退を含む)未婚の子ども」の割合が25.9% (193人)と最も高く、以下、「小学生」14.9% (111人)、「学校を卒業した(中退を含む)既婚の子ども」14.5% (108人)、「高校生」12.8% (95人)、「幼児」11.3% (84人)、「中学生」「大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む)」ともに10.6% (79人)、「乳児」5.4% (40人)と続いている。

⑦ 最終学歴



回答者の最終学歴の構成は「高等学校」が41.5% (309人)と最も高く、「大学(中退を含む)」が21.4% (159人)、「短大・高等専門学校」が16.5% (123人)、「各種専門・専修学校」が13.0% (97人)、「中学校」が4.2% (31人)、「大学院」が2.7% (20人)などとなっている。

調査結果の要約

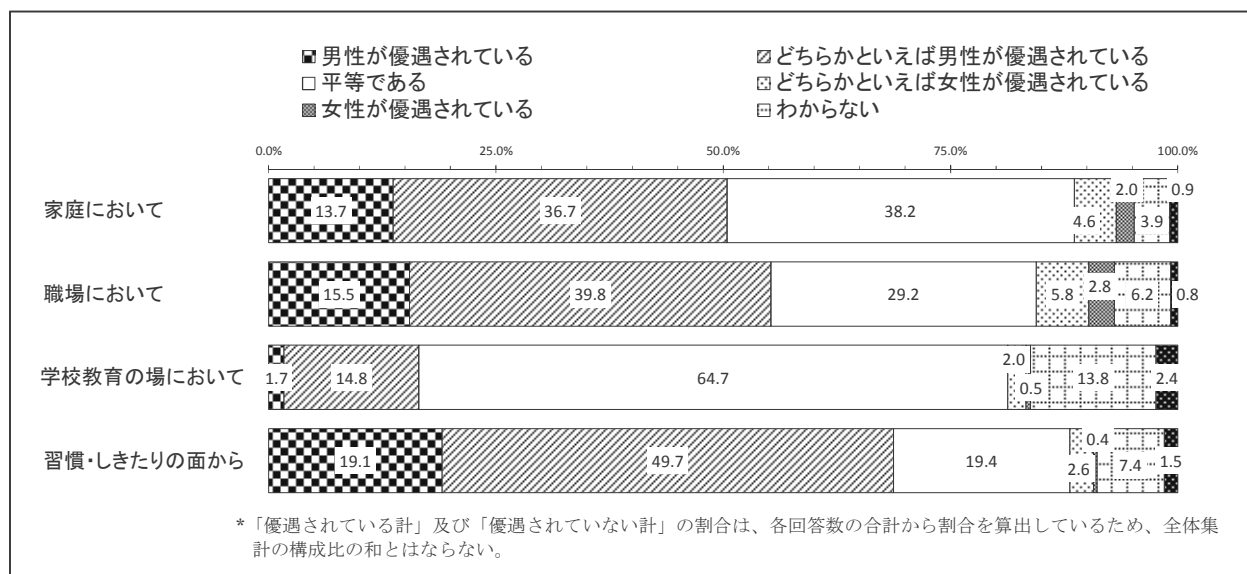
1. 男女の地位の平等感、男女の生き方

○男女の地位の平等感（19～24 ページ）

「家庭」「職場」「学校教育の場」「習慣・しきたり面」の分野で、男女の地位が平等になっているかたずねた。

「学校教育の場」では64.7%が「平等である」と回答した。「家庭」「職場」では、前回からは減少したものの、「男性が優遇されている」（「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の計）*との回答が、「家庭」においては50.4%、「職場」では55.2%である。「習慣・しきたり面」では「男性が優遇されている」68.8%で、前回より増加している。

男女別では、「男性が優遇されている」と回答しているのは、全ての分野で女性の割合が高い。

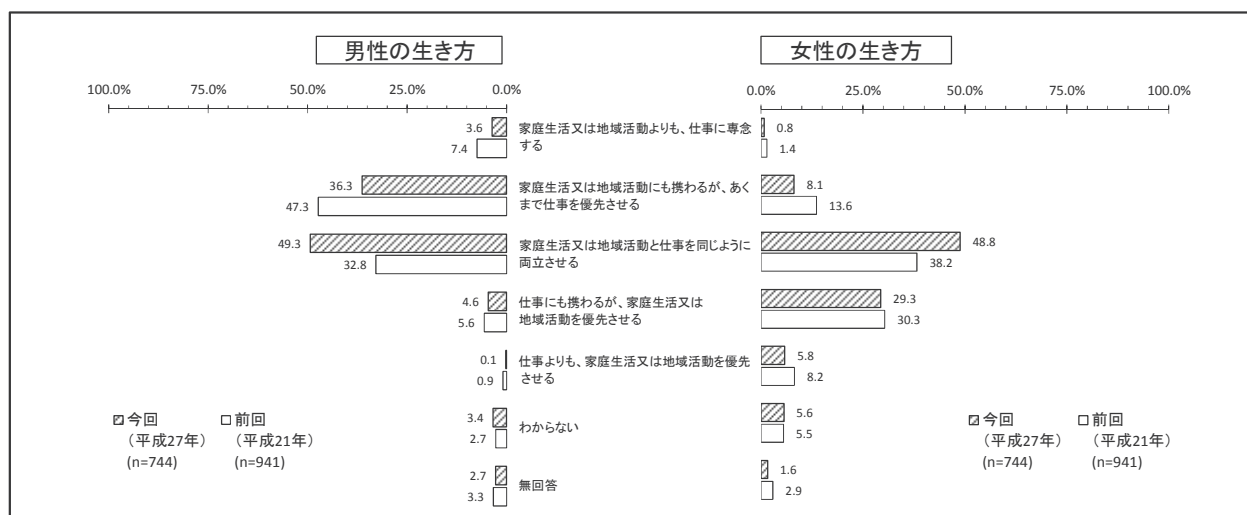


○男女の望ましい生き方（25～27 ページ）

女性及び男性の望ましい生き方についてたずねた。

「女性の生き方」「男性の生き方」とも、「家庭生活または地域生活と仕事を同じように両立させる」生き方が望ましいという回答が多かった。

男女ともに「家庭生活または地域活動を優先させる」「仕事を優先させる」という回答は前回より減少し、どちらかを優先させることより、両立させる生き方が望ましいと感じている。



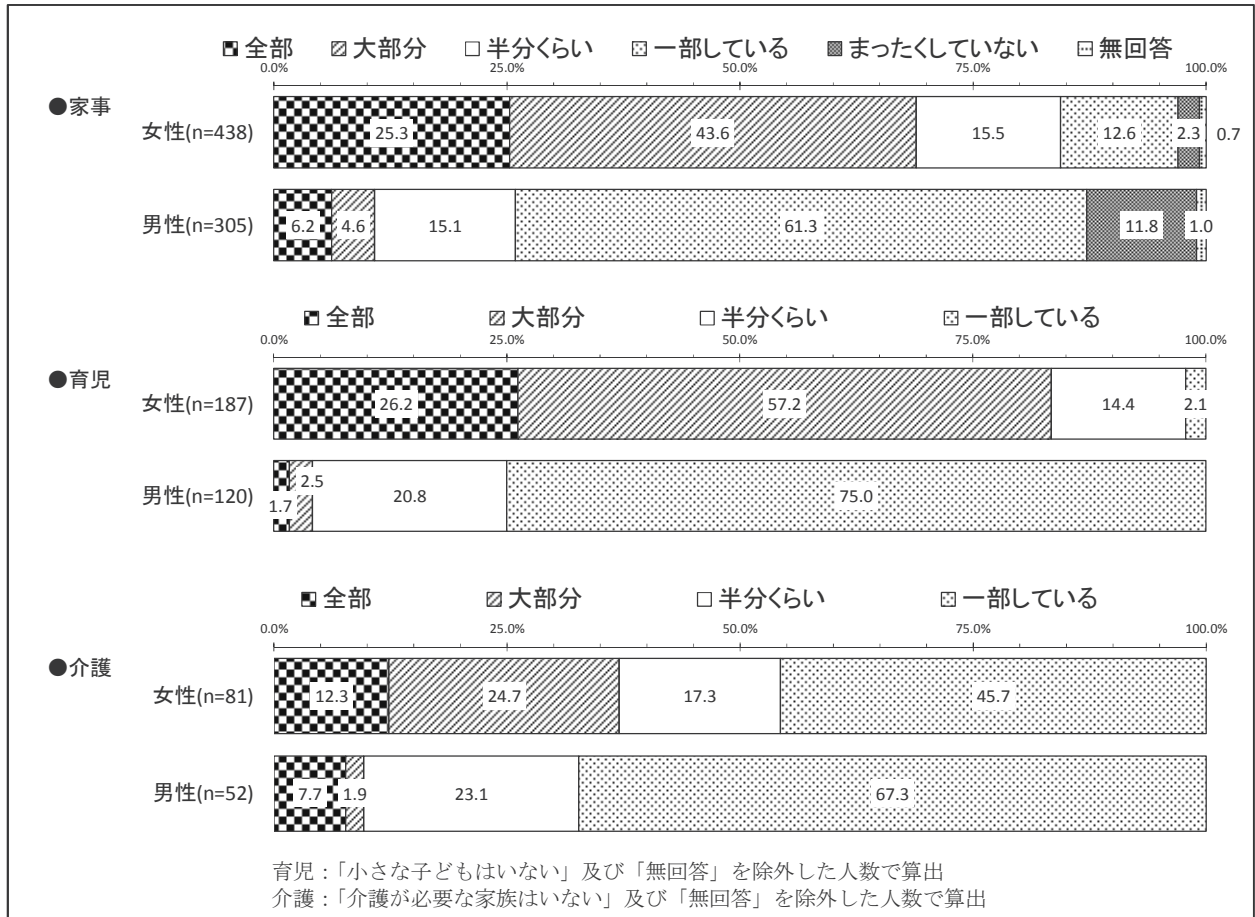
2. 家庭、結婚観

○家事・育児・介護の負担割合（28～31 ページ）

家事・育児・介護の負担割合についてたずねた。

家事・育児・介護の家庭内労働は、いずれも女性が負担している割合が高い。

「家事」は女性の負担が 68.9%、高齢者、既婚者ほど負担割合が高い。「育児」は女性の負担が 83.4%。「介護」は女性の負担が 37.0%、高齢者、既婚者ほど負担割合が高い。共働き世帯では、いずれも「半分くらい」の割合が高くなる。



○家庭、結婚観（32～38 ページ）

結婚、家庭、離婚に関する考え方についてたずねた。

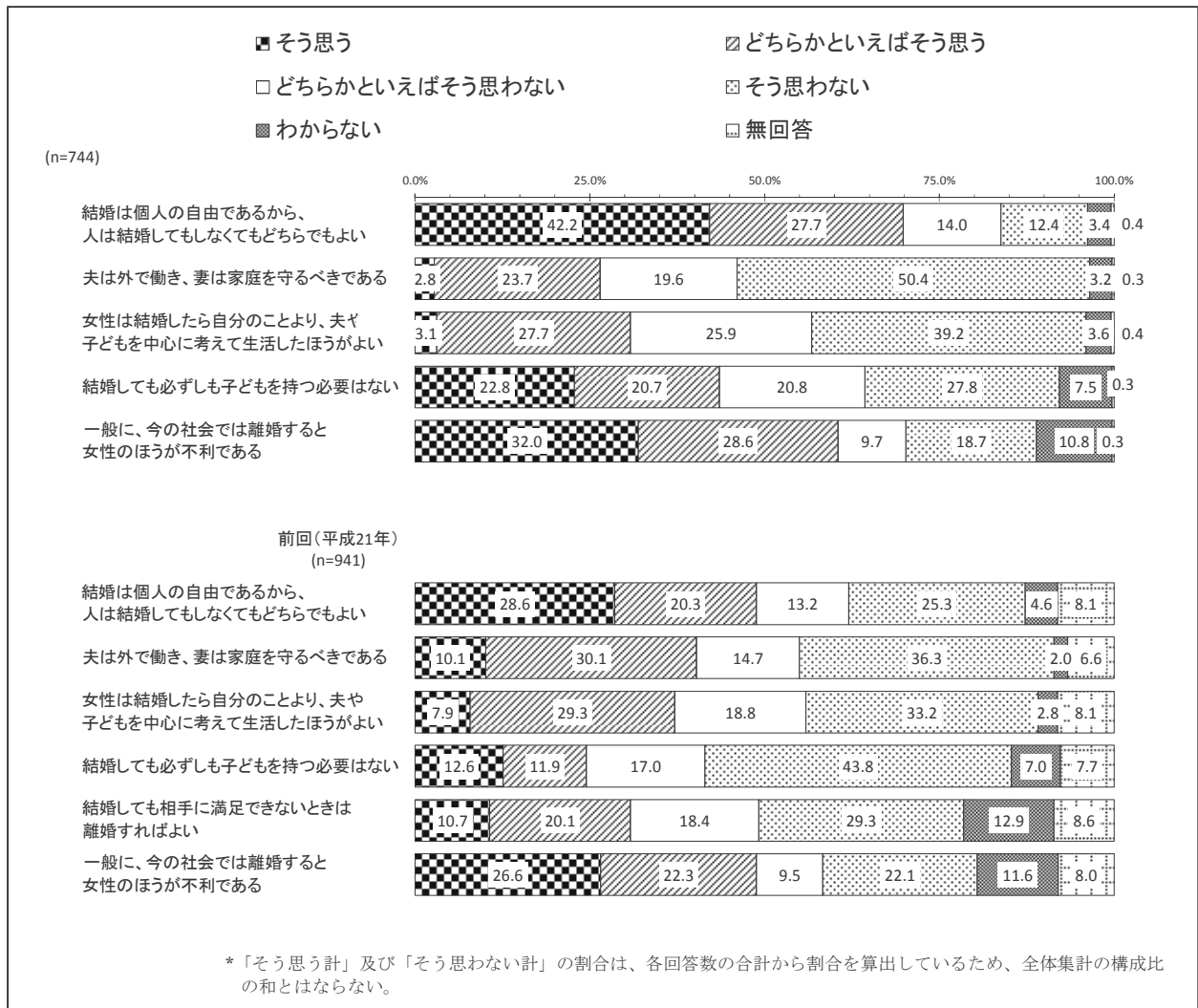
「結婚」について、69.9%が、「結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」と考えている。前回調査の 48.9 から 21.0 ポイント増加した。若いほど賛同者の割合が高い。

「家庭」について「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えには、70.0%が「そう思わない」と答えている。前回の 51.0%から大きく増加した。女性・若い世代ほど反対意見が多い。

「女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい」という考えには、65.1%が「そう思わない」と答えている。前回の 52.0%から大きく増加した。

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えを「そう思う」のは 43.5%。前回の 24.5%より増加した。女性、若い世代ほど賛同者の割合が高い。

「一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である」という考えには、60.6%が「そう思う」と答えている。前回「そう思う」の割合は 48.9%で、「離婚は女性に不利」と考える人が増えている。男性に比べ女性の方が「離婚は女性に不利」と考えている割合が高い。



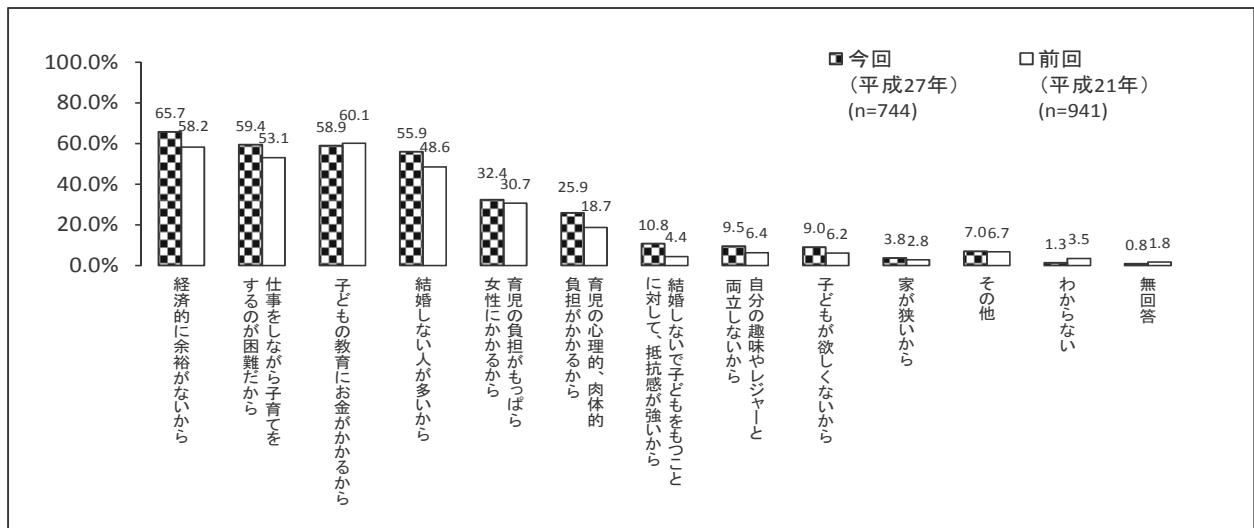
○出生数減少の理由 (39~41 ページ)

出生数が減少している理由についてたずねた。

「経済的に余裕がないから」(65.7%)、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」(59.4%)、「子どもの教育にお金がかかるから」(58.9%)など、主に経済的な理由と、仕事と育児の両立への不安を理由と考えている。

経済的な理由は男女ともに多いが、仕事と育児の両立の困難さや育児負担がもたら女性にかかっていることを理由にするのは女性の割合が高い。

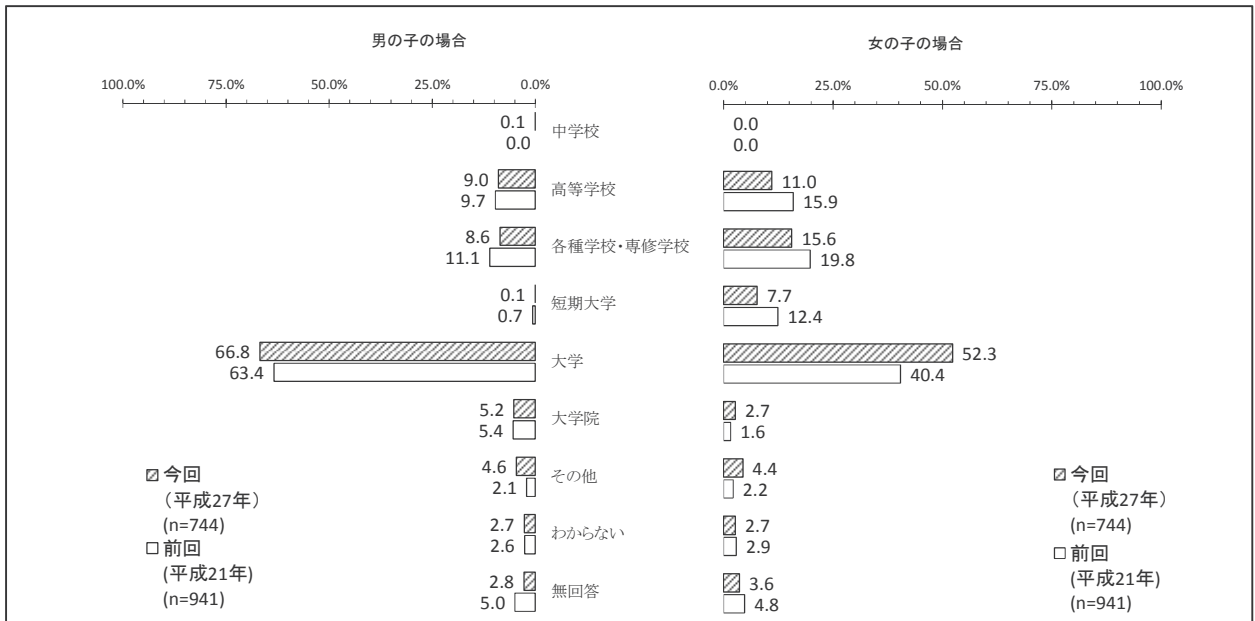
年齢が若いほど、多くの理由で割合が高くなる。



3. 子どもの教育

○子どもに受けさせたい教育程度（42～44 ページ）

自分自身の子どもに受けさせたい教育程度について、女の子と男の子の場合それぞれにたずねた。女の子の場合も、男の子の場合も「大学」が最も多い。

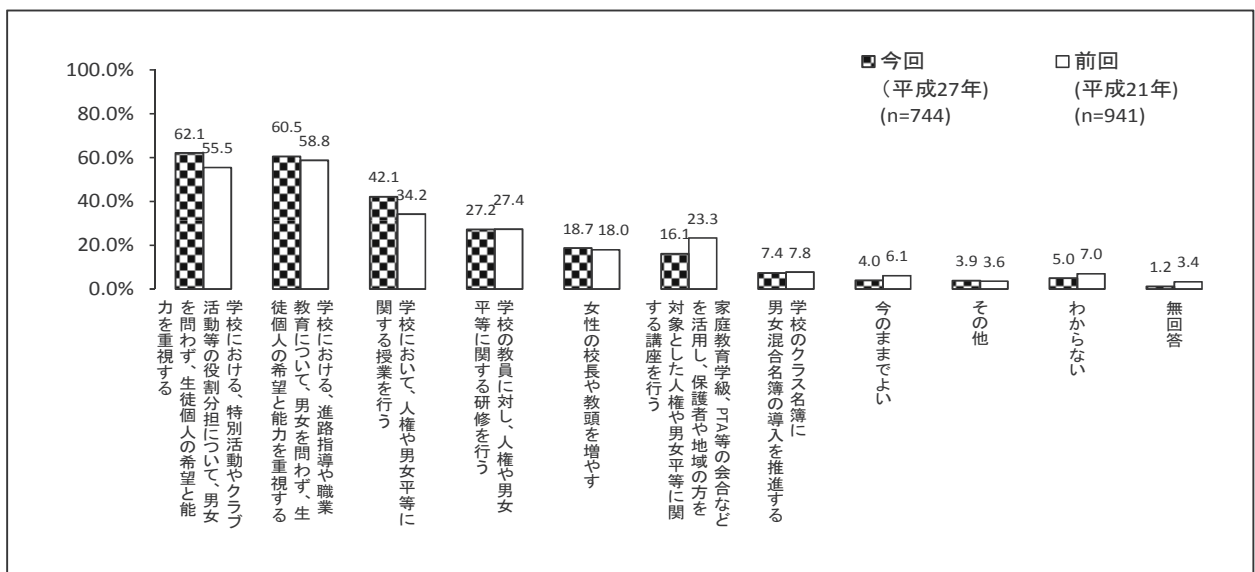


○人権や男女平等意識の育成のために必要なこと（45～47 ページ）

人権や男女平等意識の育成を重視した教育のために、どのようなことが必要かたずねた。

最も多いのは「学校における、特別活動やクラブ活動等での役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」、次いで「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」で、ともに6割以上である。

前回に比べ、必要だという割合が増えている項目が多く、人権や男女平等意識の育成のために様々な教育が必要であると考えている。



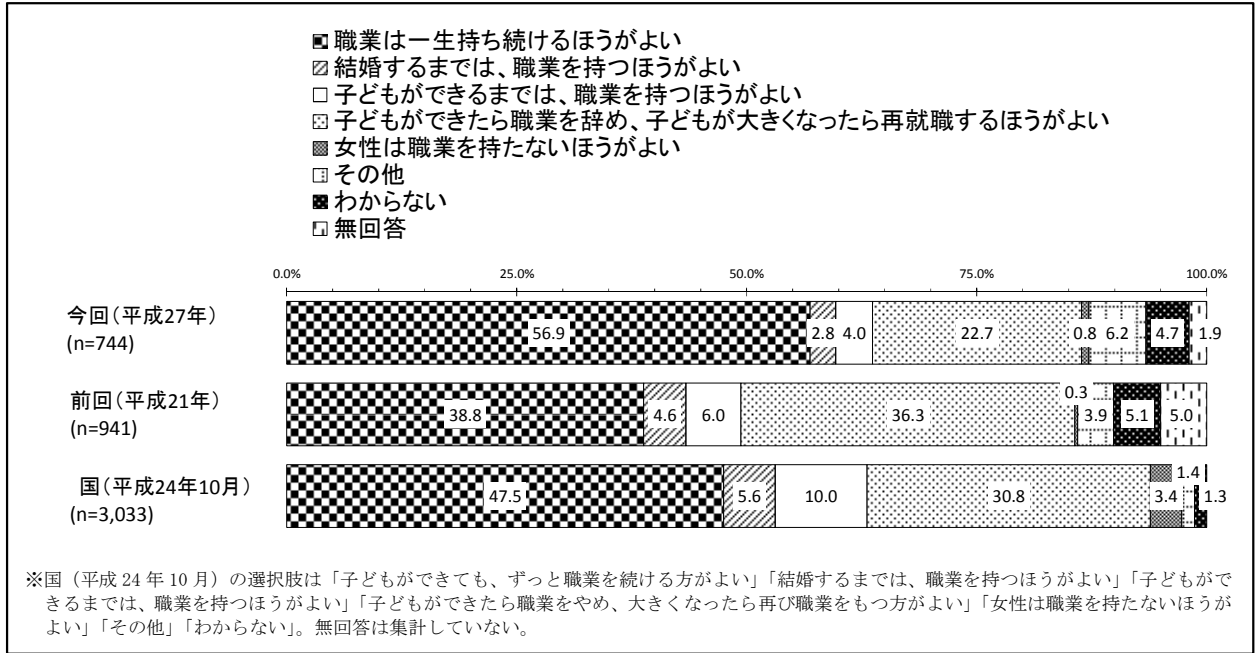
4. 職業

○女性が仕事を持つことに対する考え方 (53～55 ページ)

女性が職業を持つことについてたずねた。

「職業は一生持ち続けるほうがよい」という回答が 56.9%と、最も多い。前回は「職業は一生持ち続けるほうがよい」と「子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」が4割弱で拮抗しており、今回は女性が仕事を持ち続けるべきだという考えが増えた。

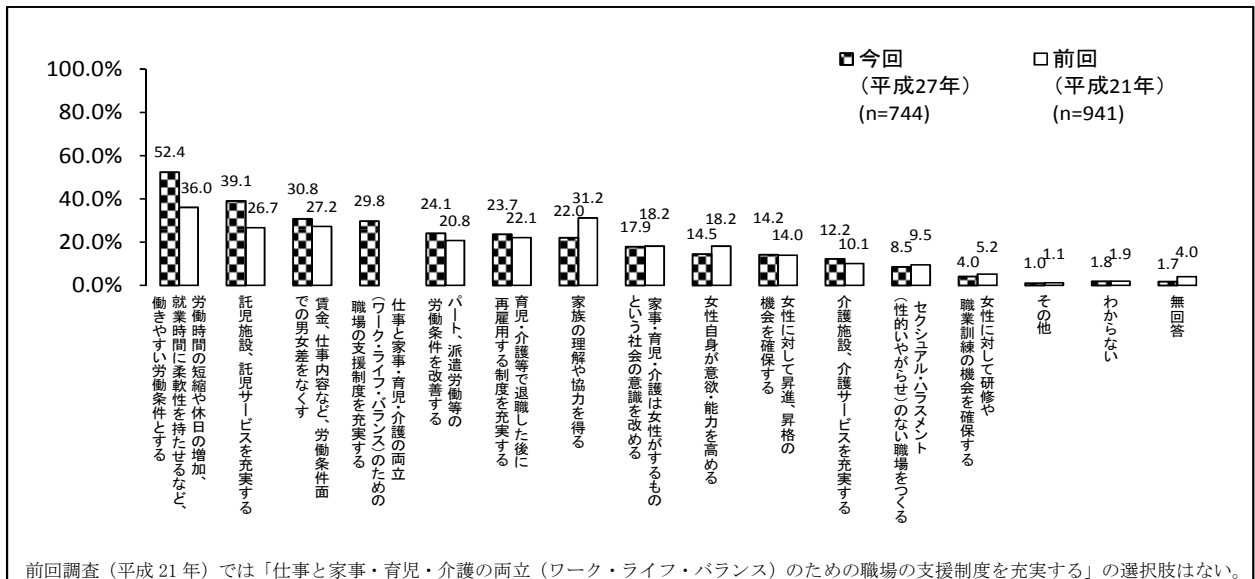
県民の「職業は一生持ち続けるほうがよい」という割合は、国調査の「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合を上回っている。



○女性が働き続けるために必要なこと (56～57 ページ)

女性が働き続けるために必要なことは何かをたずねた。

「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」が 52.4%で最も多かった。次いで「託児施設、託児サービスを充実する」が 39.1%である。これらは男女共に多く、前回よりも増加しており、労働条件の改善や労働環境の整備が必要だと考えている。

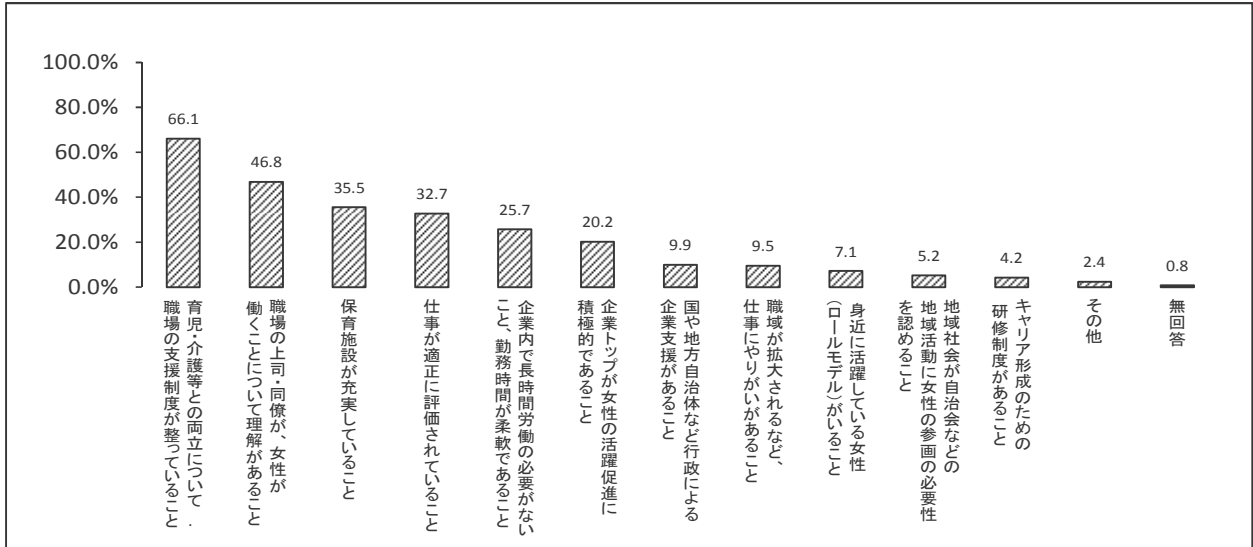


5. 女性の活躍促進

○女性の活躍に必要なこと（63～64 ページ）

女性が活躍するためには何が必要かをたずねた。

「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が66.1%と最も多かった。次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」（46.8%）である。女性では「仕事が適正に評価されていること」も37.7%あり、仕事と家庭生活を両立する制度・環境の改善とともに、周囲の理解や評価などの意識の改革も必要だと考えている。

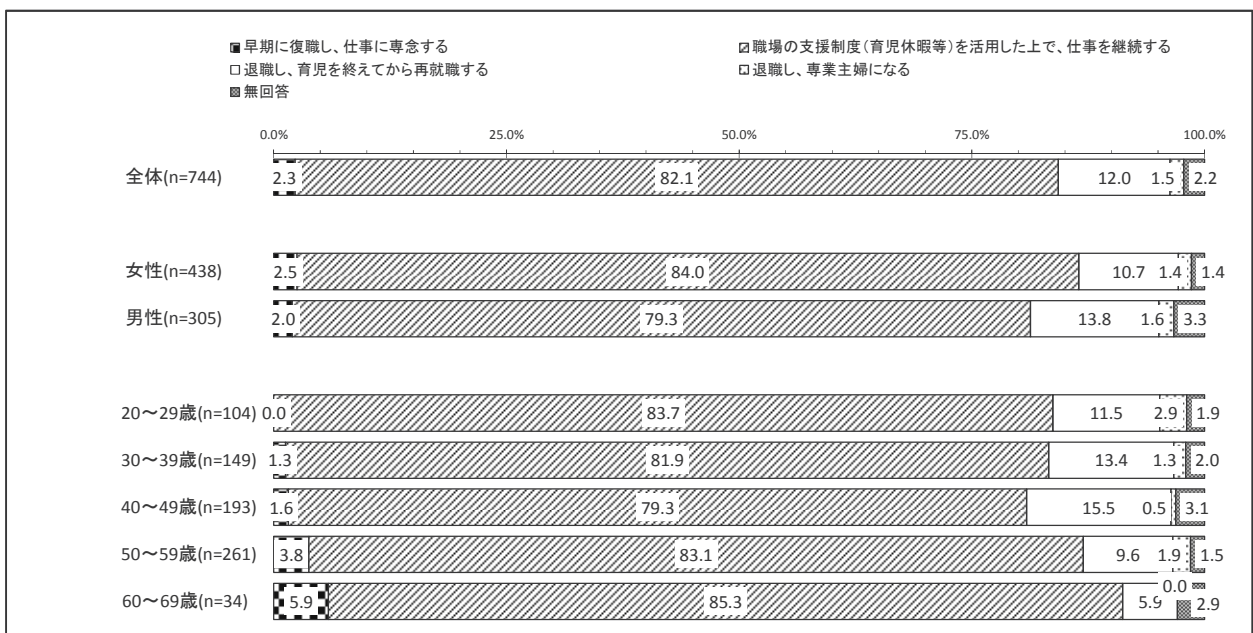


○出産・育児の際の望ましい選択（66～67 ページ）

働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいかをたずねた。

「職場の支援制度（育児休暇等）を活用した上で、仕事を継続する」が82.1%と最も多い。退職はせず、早期に復職するよりも育児休暇を取得して、一定期間育児に専念してから復職する、というのが望ましい選択と考えている。

復職・再就職する際に必要な支援では、「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい体制」が50.0%と最も多かった。

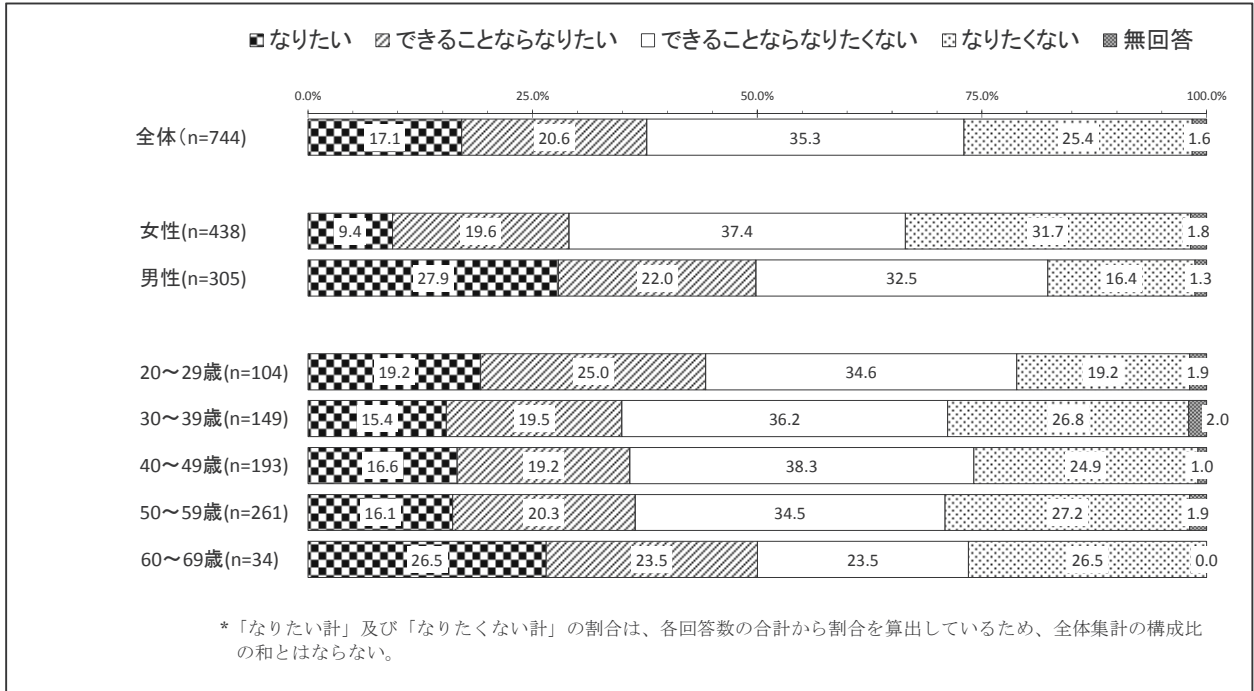


○リーダー・管理職への意欲（68～71 ページ）

リーダー・管理職になりたいかたずねた。

「なりたい」*が37.6%、「なりたくない」*が60.8%である。女性は「なりたい」が29.0%、「なりたくない」が69.1%、男性は「なりたい」が49.9%、「なりたくない」が48.9%である。

「なりたい理由」としては、男女とも「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が多い。「なりたくない理由」としては、女性は「能力やスキルが十分でない」（47.2%）、男性では「人間関係で苦勞したくない」（41.6%）が最も多かった。



6. 介護

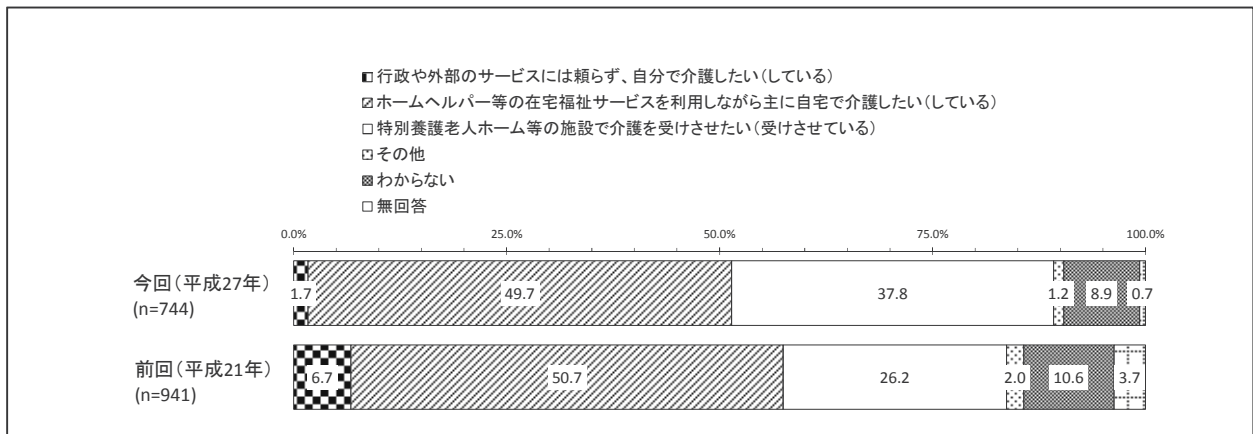
○家族の介護方法（72～75 ページ）

家族の中に介護を要する人がいる（要する状態となった）場合、どのようにしたいかたずねた。

「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が49.7%で最も多い。次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」（37.8%）である。

前回に比べ「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい」は1ポイント減少し、「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい」は11.6ポイント増加した。

自宅で介護する場合の主な介護者は、女性は「主に自分がすると思う（している）」が79.2%、男性は「主に、自分の配偶者がすると思う」が37.8%と最も多く、在宅介護は主に女性が担っている。



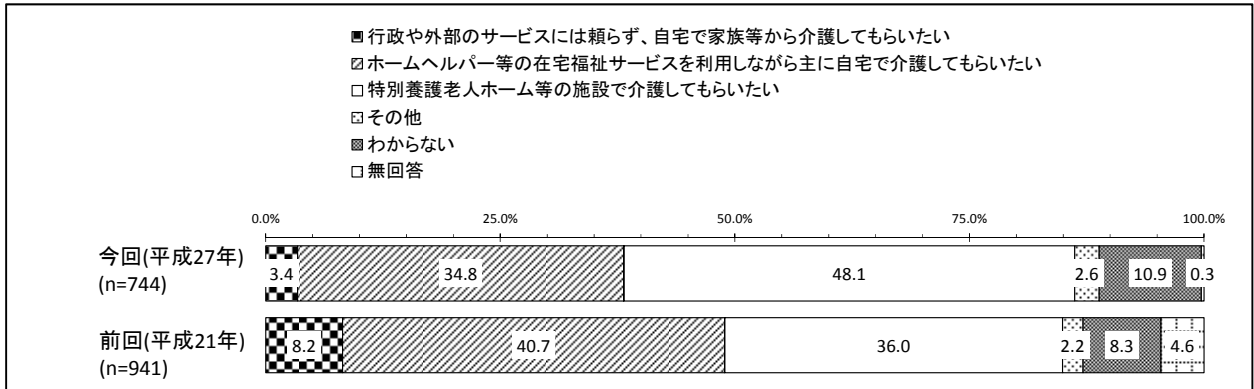
○自分自身の介護（76～79 ページ）

自分自身が介護が必要になった場合、どのようにしてほしいかたずねた。

「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が48.1%と最も多く、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」(34.8%)である。

前回は「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が40.7%と最も多く、今回「自宅で」と「施設で」が逆転した。

自分の介護を頼みたい相手としては、男性は「配偶者（妻）」(64.4%)、女性は「娘」(31.5%)が最も多い。女性が配偶者（夫）に頼みたいという割合は29.1%である。



7. 男女の人権

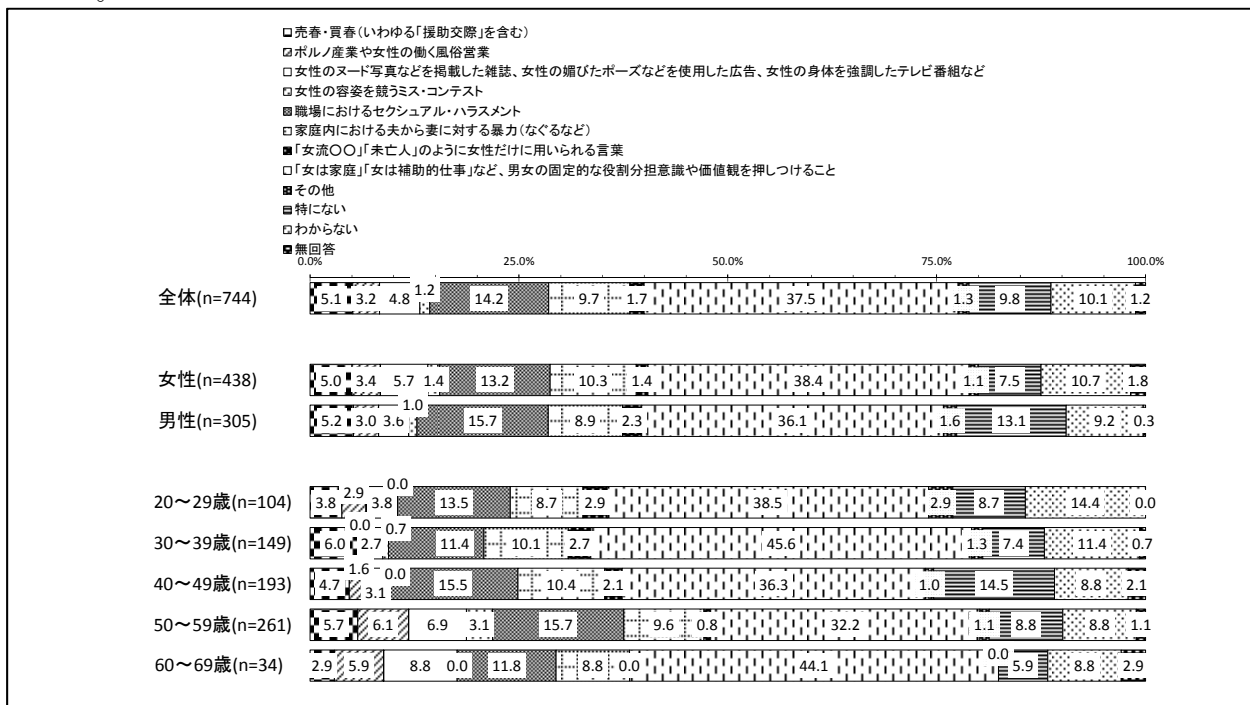
○女性の人権が尊重されていないと感じること（80～81 ページ）

女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことかたずねた。

『女は家庭』『女は補助的仕事』など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること」が37.5%と最も多い。次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(14.2%)である。

男女別では、「特にない」と回答した女性が7.5%であるのに対し男性は13.1%と、意識の違いがみられた。

今回は1つだけ選択の設問で、前回は複数選択設問であるため比較は難しいが、前回は『女は家庭』『女は補助的仕事』など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること」が46.5%と最も多かったが、次いで多かったのは「家庭内における夫から妻に対する暴力(なぐるなど)」(34.2%)だった。



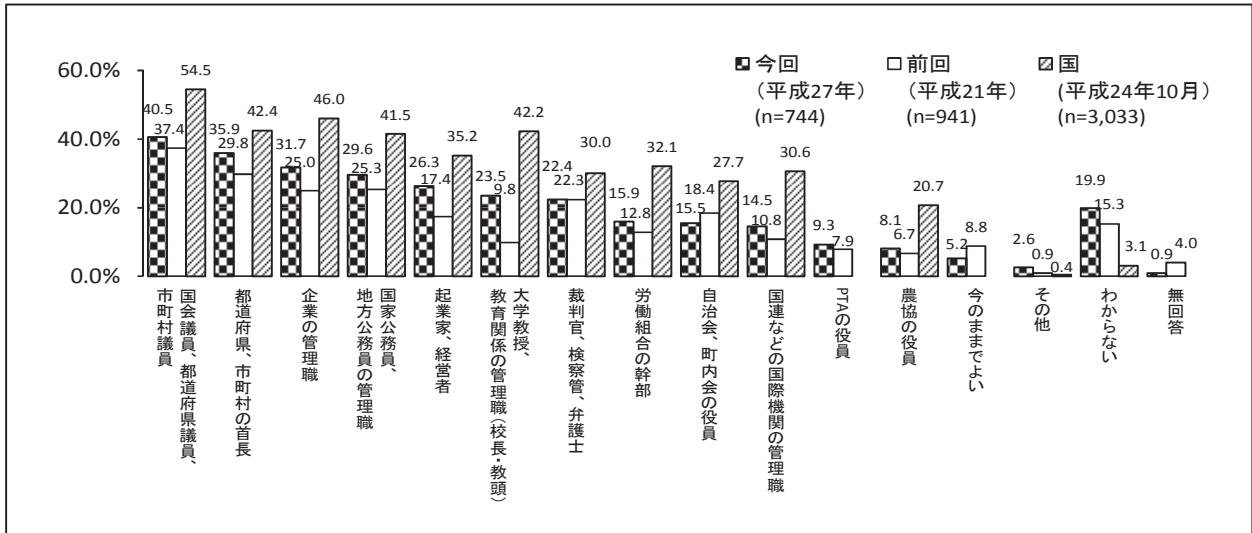
8. 社会参加

○女性の増加を望む役職（86～87 ページ）

政策・方針決定に関わる役職において、女性が増えた方がよいものはどれかたずねた。

「国会議員、都道府県議員、市町村議員」が最も多く40.5%、次いで「都道府県、市町村の首長」（35.9%）、「企業の管理職」（31.7%）であり、行政の分野で女性の参加を望む割合が高いが、「大学教授、教育関係の管理職（校長・教頭）」を望む割合が前回から13.7ポイント増加している。

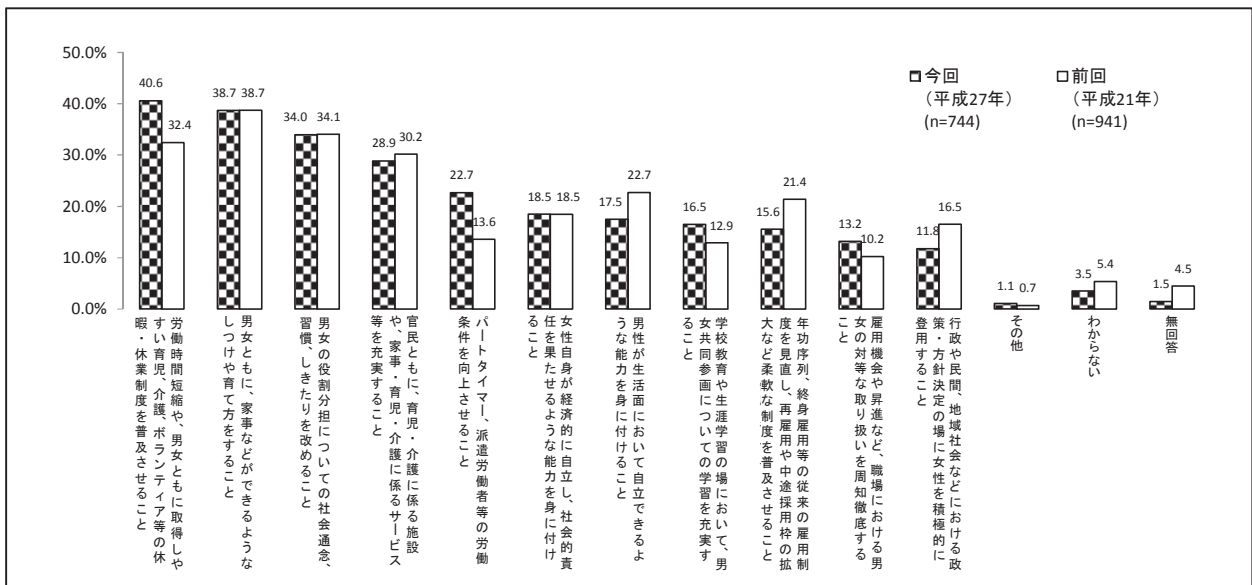
さまざまな役職で前回より増加を望む割合は高くなっているが、国の調査と比べると、「わからない」とする回答が多く、全ての役職で低い結果となっている。



○男女の積極的な社会参加に必要なこと（88～89 ページ）

男女ともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくために必要なことをたずねた。

「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が40.6%と最も高く、次いで「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」(38.7%)、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」(34.0%)などである。制度改革とともに、性別による役割や慣習等に縛られないことが必要だと考えている。

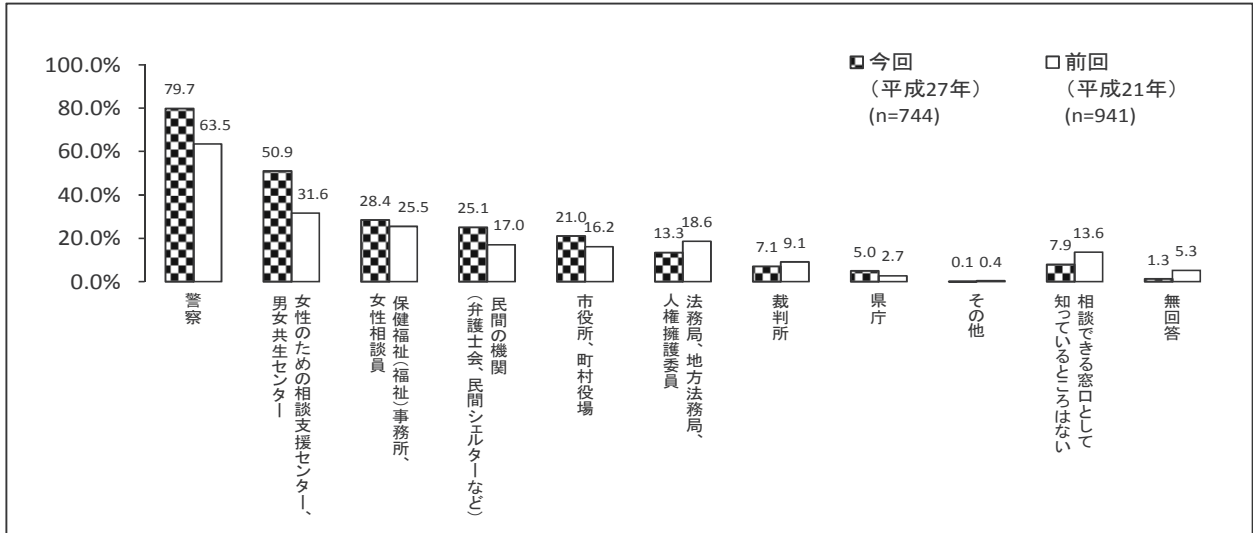


9. 配偶者等からの暴力

○配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況（92～94 ページ）

配偶者からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っているかたずねた。

「警察」が79.7%と最も高く、認知度は前回の63.5%から16.2ポイント増加した。「女性のための相談支援センター、男女共生センター」は50.9%で、前回より19.3ポイント増加した。「相談できる窓口として知っているところはない」は7.9%で、前回（13.6%）より5.7ポイント減少した。



○夫婦間の暴力（95～118 ページ）

例としてあげられていることが夫婦間の暴力にあたると思うかをたずねた。

【身体的暴力】

「刃物などを突きつける」(98.3%)、「殴る、蹴る、首を絞める」(96.0%)、「物を投げつける」(71.6%)など、身体に危害を加える、または危害を加える恐れのあることは、「どんな場合でも暴力にあたる」が多い。

【経済的暴力】

「生活費を渡さない」(67.5%)、「家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない」(48.3%)と、経済的に生活の安全・安心を脅かすことも暴力だと思う割合が高い。

【精神的暴力】

「子どもに母親(父親)を非難することを言わせる」(61.7%)、「相手が大切にしている物を壊す」(51.3%)、「『別れるなら自殺する』などと言う」(47.8%)と、言動や態度で精神的に相手を傷つけることを暴力だと思う割合が高い。「大声でどなる」(35.9%)、「無視する」(22.0%)などを暴力と感じる人も少なくない。

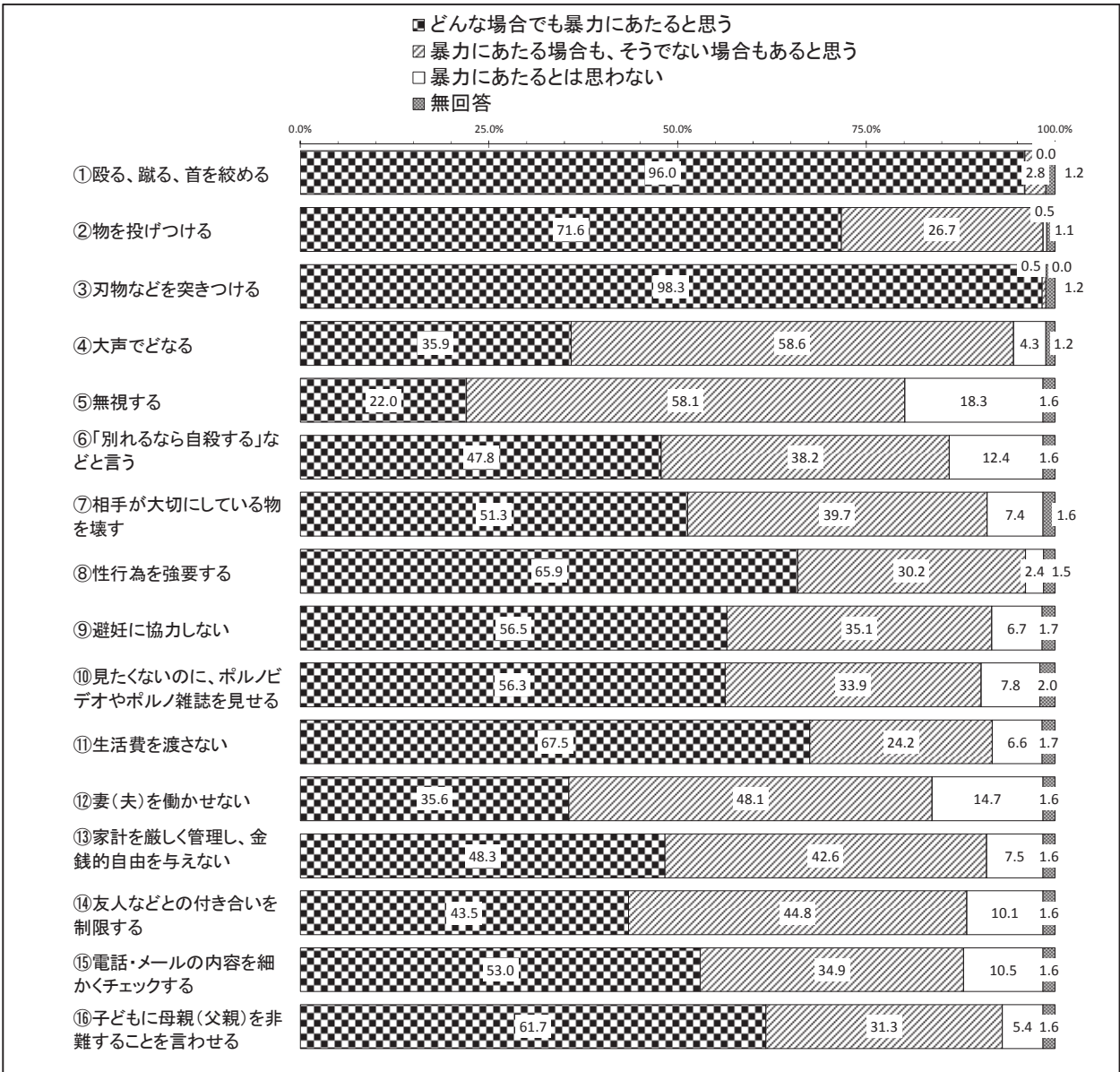
【社会的暴力】

「電話・メールの内容をチェックする」(53.0%)、「友人などとの付き合いを制限する」(43.5%)など社会生活をする上での人間関係を制限することも暴力と感じる割合が高い。「妻(夫)を働かせない」(35.6%)と、社会参加を制限することも暴力と思う場合が多い。

【性的暴力】

「性行為を強要する」(65.9%)、「避妊に協力しない」(56.5%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(56.3%)、など、性的な強制、いやがらせも暴力と思う割合が高い。

夫婦間の暴力について、警察などの公的な機関が解決に向けて関わるべきかについては、「医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける」(47.0%)を除いて、「命の危機を感じるくらいの暴力を受ける」(98.4%)、「医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける」(96.1%)、「医師の治療は必要とならない程度の暴力をひんぱんに受ける」(86.2%)のいずれも「警察などの公的な機関が関わるべき」という意見がほとんどである。



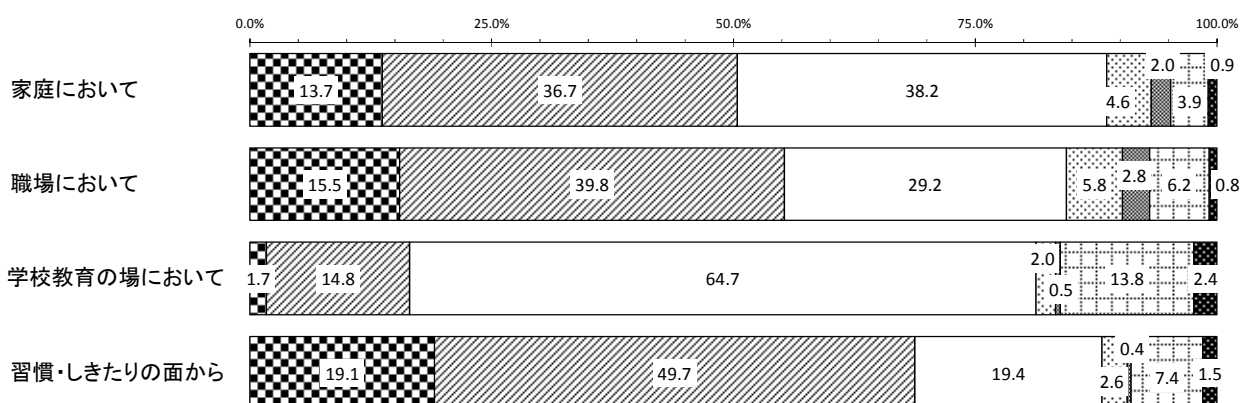
調査結果の詳細

1. 男女の地位の平等感、男女の生き方

(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは次のような各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。
①～④のそれぞれの項目ごとにお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- ▣ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▤ どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



(単位: %)

	男性が優遇 されている 計	平等である	女性が優遇 されている 計
家庭において	50.4	38.2	6.6
職場において	55.2	29.2	8.6
学校教育の場において	16.5	64.7	2.6
習慣・しきたりの面から	68.8	19.4	3.0

* 「男性が優遇されている計」及び「女性が優遇されている計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

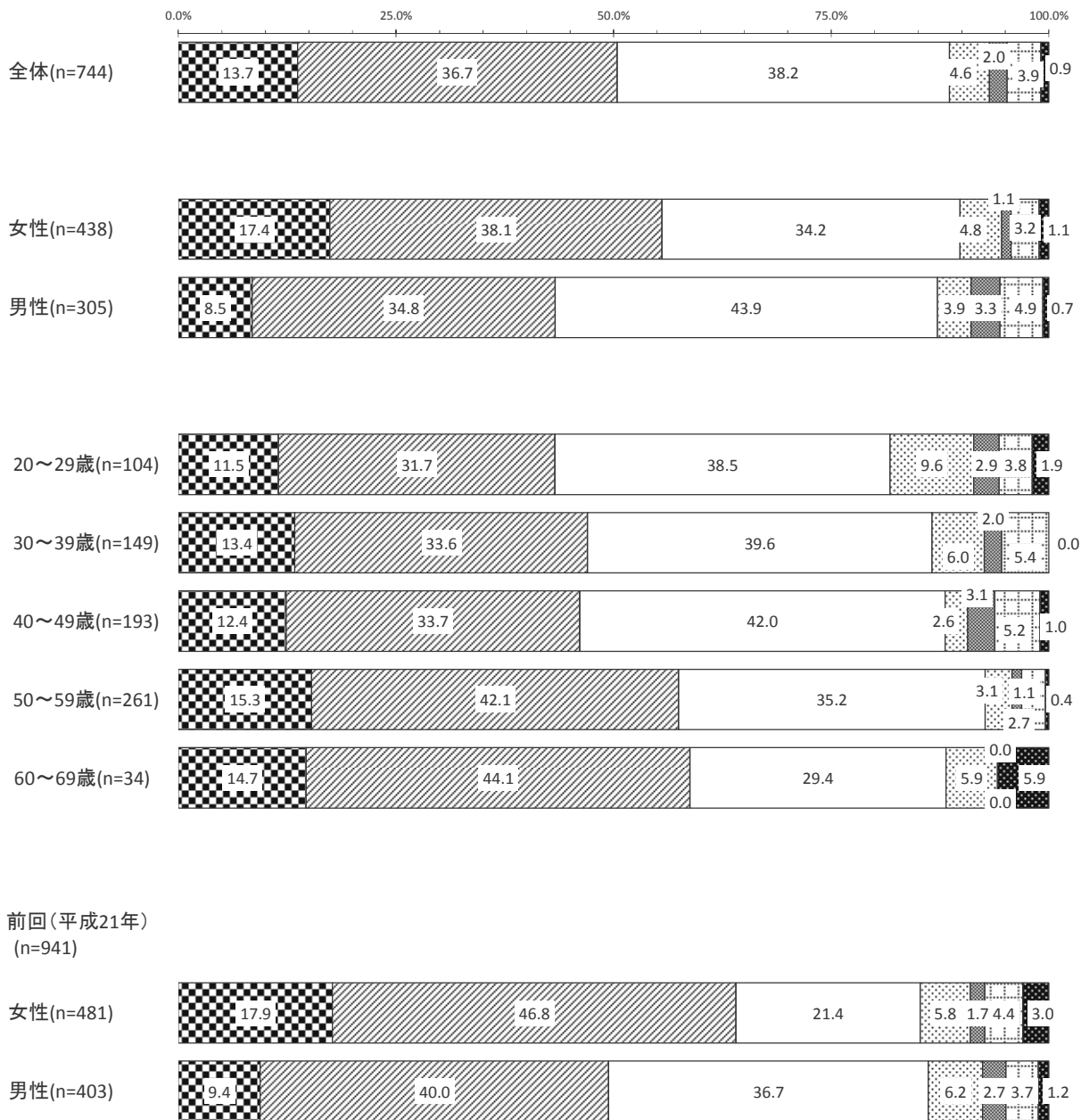
「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計すると、「男性が優遇されている」と感じているのは『習慣・しきたりの面から』が68.8%と最も高く、『職場において』(55.2%)、『家庭において』(50.4%)も5割を超えているが、『学校教育の場において』は「平等である」の割合が64.7%と最も高かった。

①～④すべての分野で、「女性が優遇されている」という回答は少ない。

男女別の回答では、「男性が優遇されている」と回答している割合は、全ての分野で女性回答者のほうが高い。

①男女の地位の平等感 『家庭において』

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



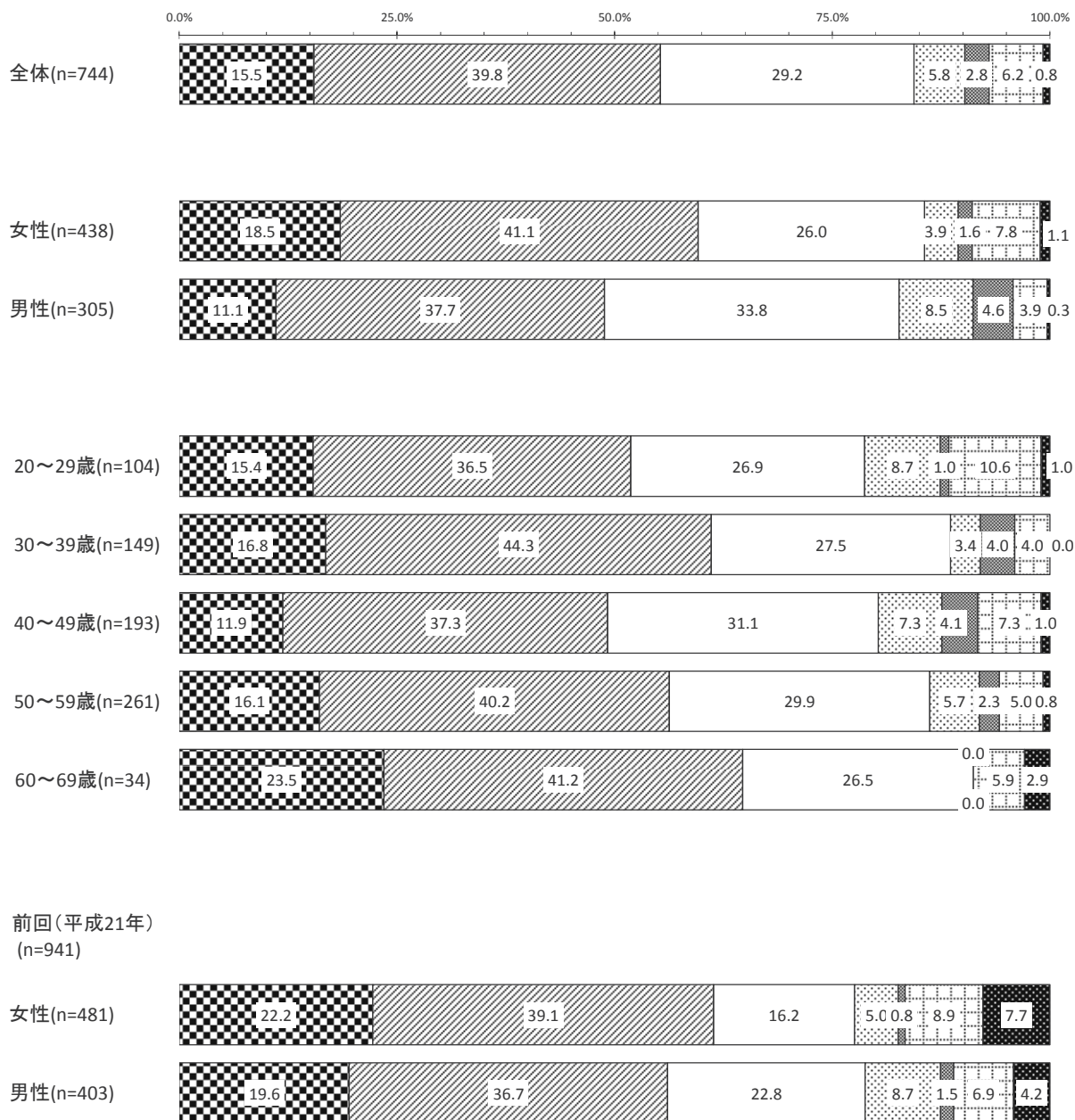
『家庭において』「男性が優遇されている」と回答した割合は男性（優遇されている計：43.3%）より女性（優遇されている計：55.5%）の方が高い。

年齢別では、年齢が高くなるほど「男性が優遇されている」の割合が高い。

前回（平成21年）に比べると男女とも「男性が優遇されている」の割合は減少し、「平等である」が増加している。

②男女の地位の平等感 『職場において』

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- ▣ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▤ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▥ わからない



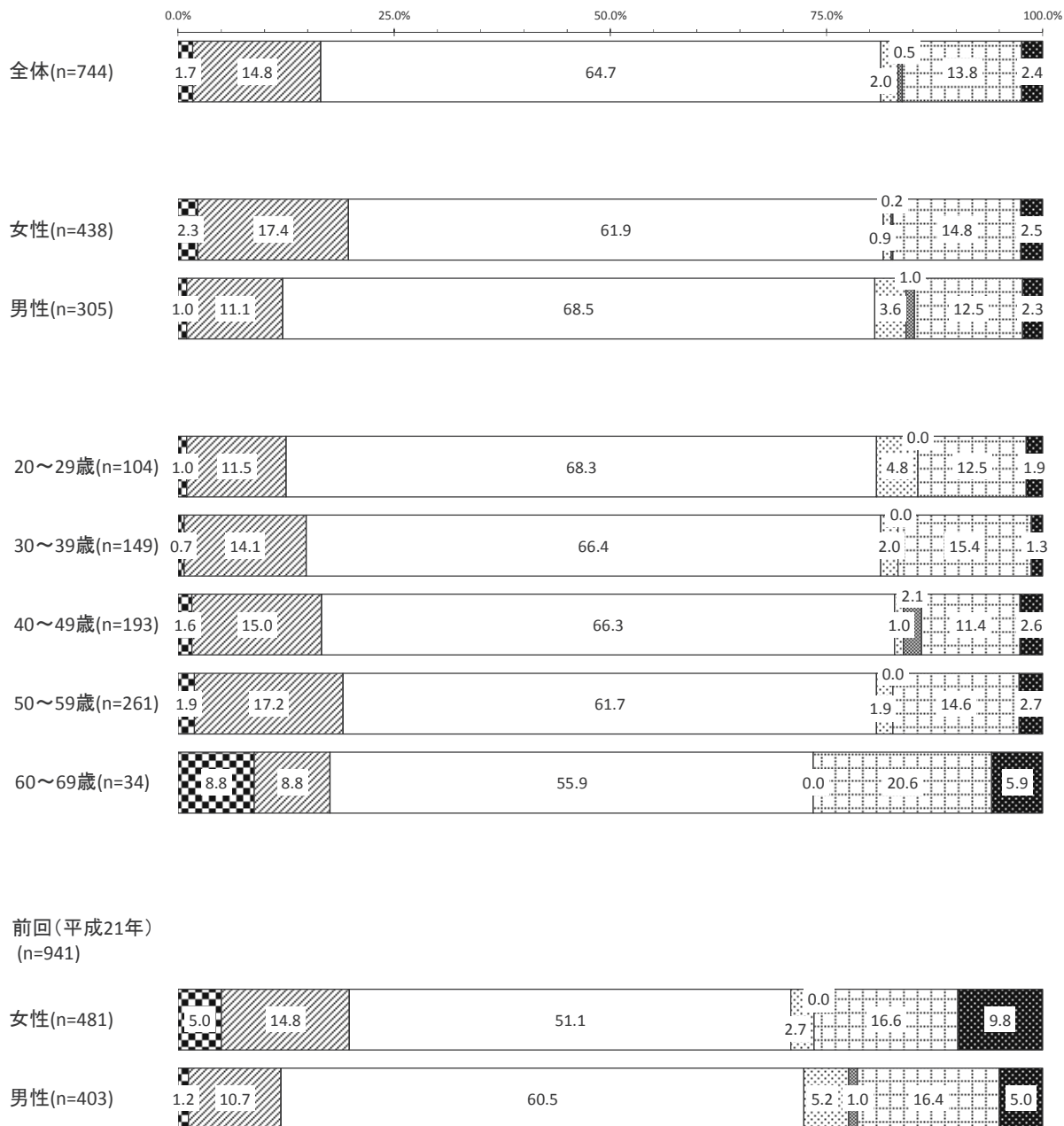
『職場において』「男性が優遇されている」と回答した割合は男性（優遇されている計：48.8%）より女性（優遇されている計：59.6%）の方が高い。

年齢別では、30～39歳、60～69歳で「男性が優遇されている」の割合が高い。

前回（平成21年）に比べると男女とも「男性が優遇されている」の割合は減少し、「平等である」が増加している。

③男女の地位の平等感 『学校教育の場において』

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- ▣ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▣ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▣ わからない



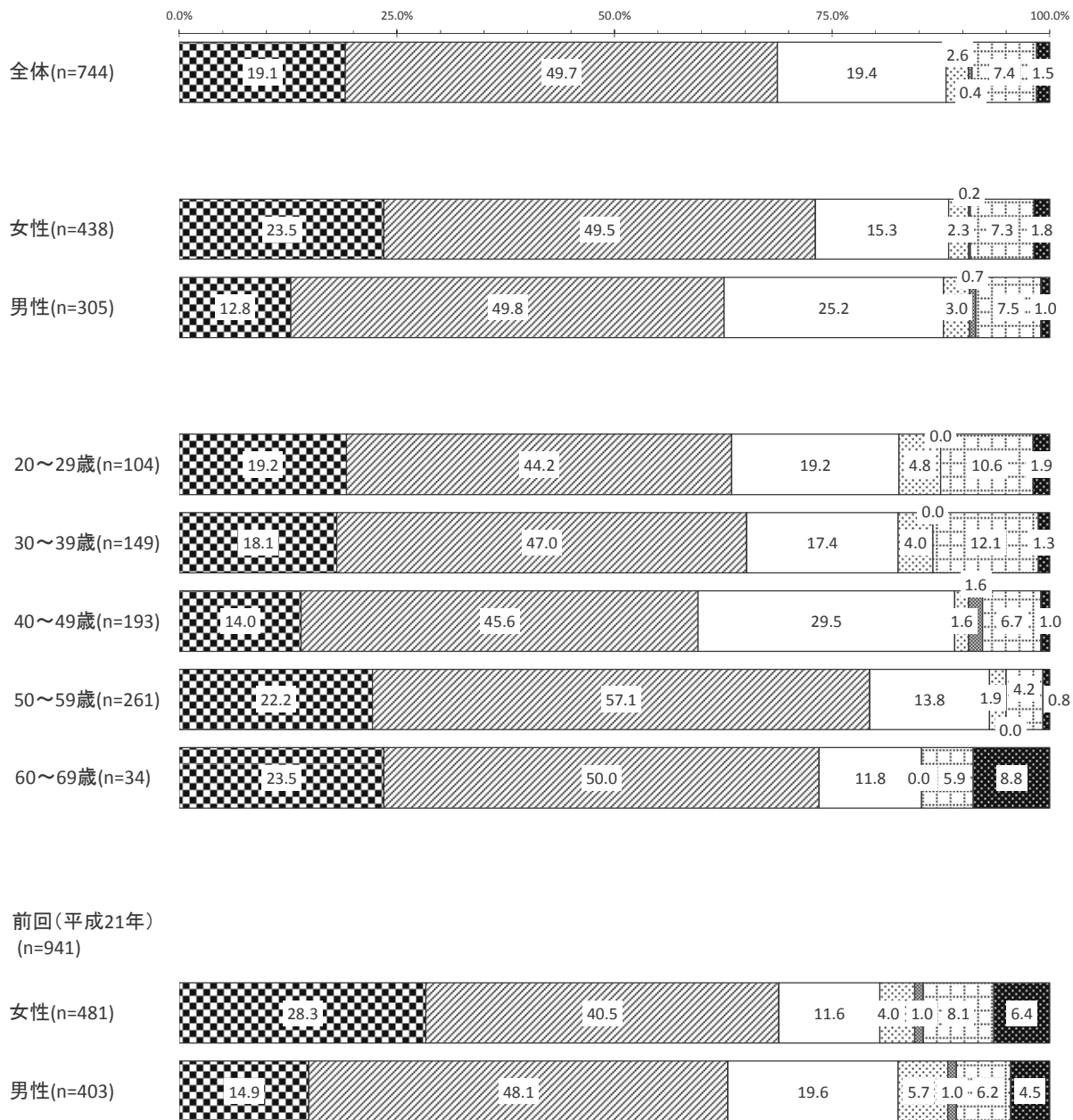
『学校教育の場において』は男女とも「平等である」（女性 61.9%、男性 68.5%）と回答した割合が最も高い。

年齢別では、概ね年齢が高くなるほど「男性が優遇されている」の割合が高くなる。

前回（平成 21 年）に比べると男女とも「平等である」が増加している。

④男女の地位の平等感 『習慣・しきたりの面から』

- 男性が優遇されている
- 平等である
- 女性が優遇されている
- 無回答
- ▣ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▣ どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

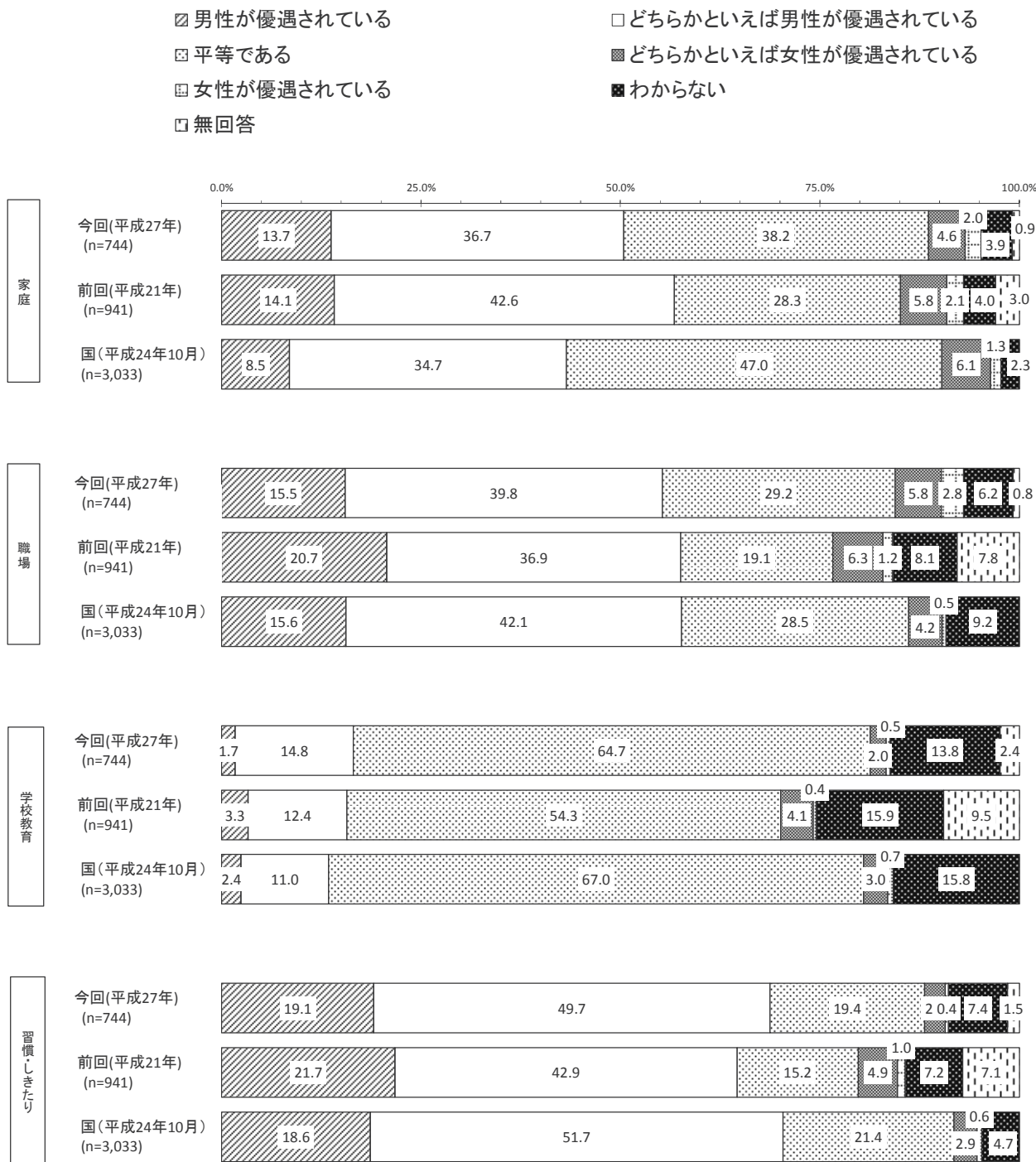


『習慣・しきたりの面から』「男性が優遇されている」と回答した割合は男性（優遇されている計：62.6%）より女性（優遇されている計：73.0%）の方が高い。

年齢別では、50～59歳で「男性が優遇されている」と回答した割合が高い（優遇されている計：79.3%）。

前回（平成21年）に比べると男女とも「平等である」が増加しているものの、「男性が優遇されている」と回答した女性の割合が増加している（優遇されている計で4.2ポイント増）。

⑤男女の地位の平等感<前回（平成21年）および国（平成24年）との比較>



※1 国（平成24年10月）の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「わからない」無回答は集計していない。

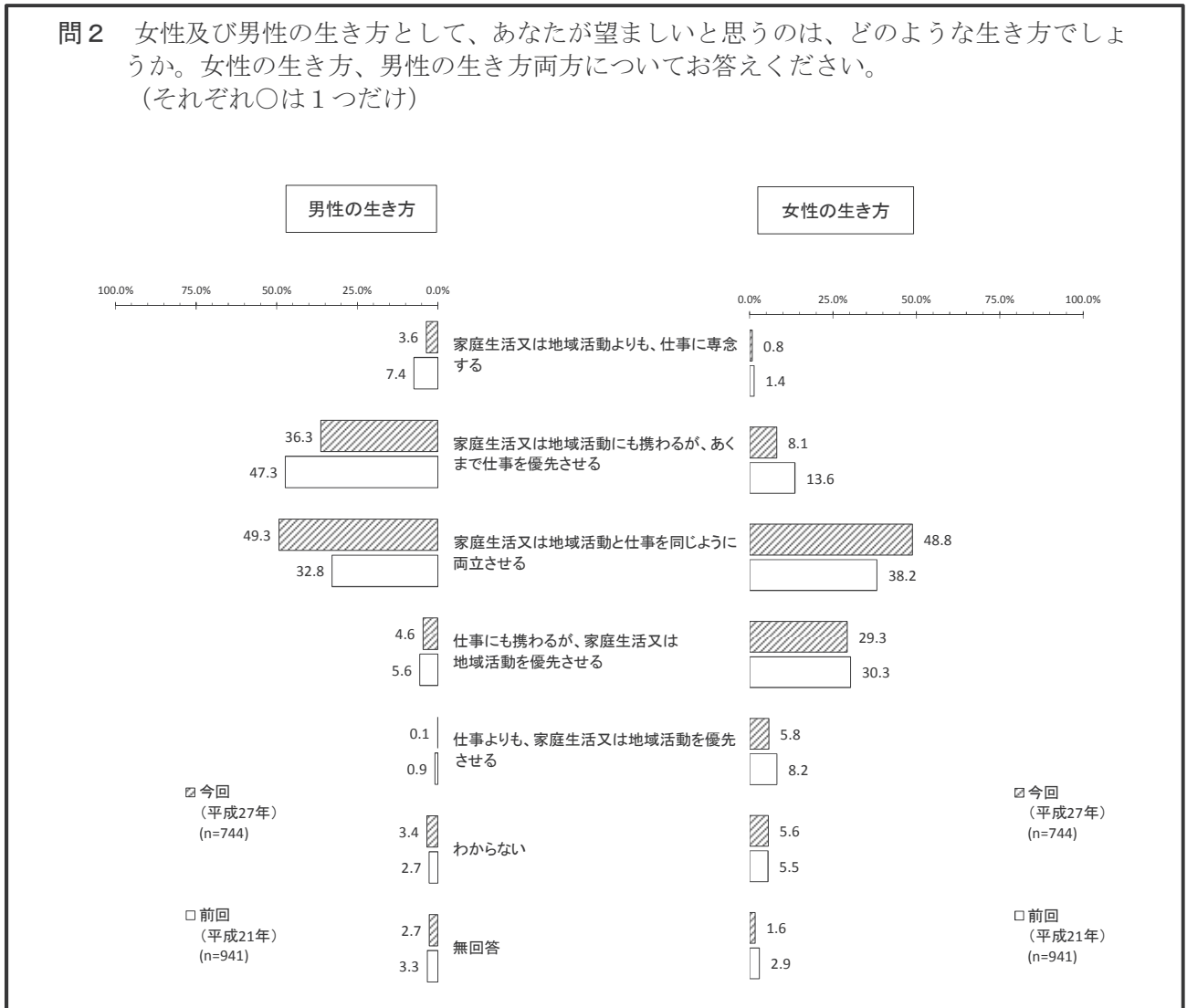
※2 「習慣・しきたり」は、国(平成24年10月)では「社会通念・慣習・しきたりなど」

『家庭において』『職場において』は前回（平成21年）に比べ「男性が優遇されている」と回答した割合は減少している。『学校教育において』は「平等である」が増加しているが、『習慣・しきたりの面から』では、「男性が優遇されている（どちらかと言え場を含む）」は増加している。

国（平成24年）調査と比較すると、『家庭において』『習慣・しきたりの面から』では、「男性が優遇されている」と回答した割合が高い。

(2) 男女の望ましい生き方

問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。
(それぞれ○は1つだけ)



『女性の生き方』『男性の生き方』とも「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」生き方が望ましいと回答した割合が最も高く（女性の生き方で48.8%、男性の生き方で49.3%）、前回（平成21年）に比べ増加している。

次いで『女性の生き方』としては「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」（29.3%）、『男性の生き方』では「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」（36.3%）の割合が高いが、どちらも前回（平成21年）よりは減少しており、どちらかを優先することより、両立させる生き方が望ましいと考えている。

男女別にみると、『女性の生き方』として、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」（女性53.9%、男性41.6%）と回答した割合が男女とも最も高かった。男性（34.1%）は女性（25.8%）に比べ、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」と回答した割合が高い。

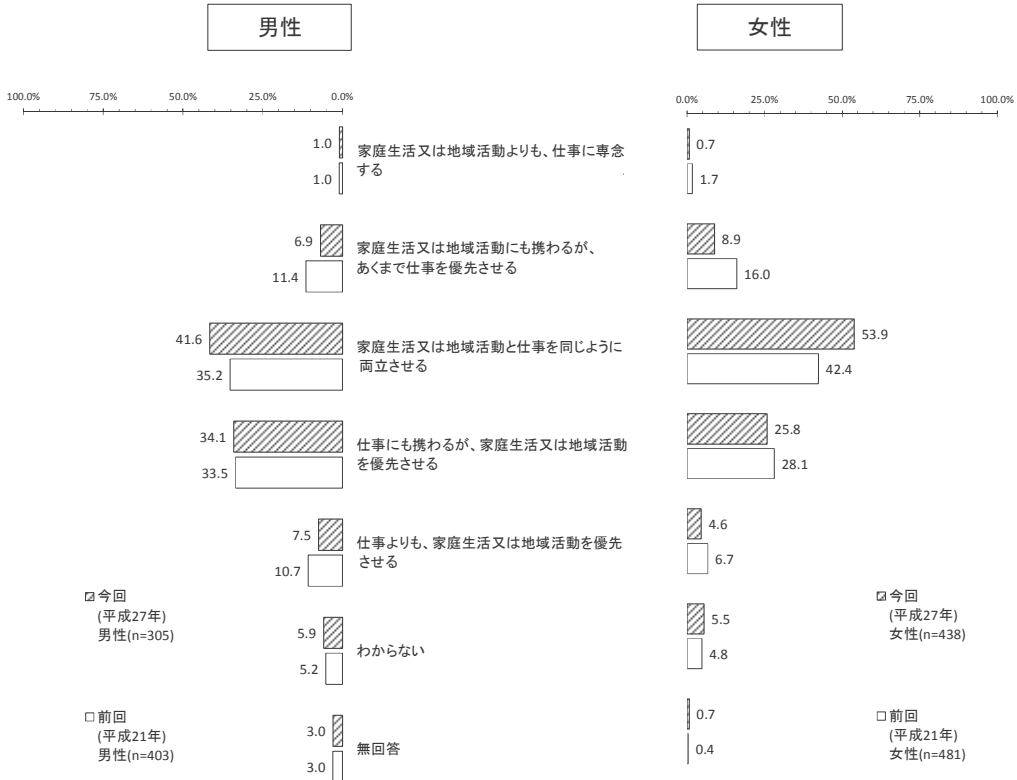
前回（平成21年）と比べると、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」や「仕事よりも、家庭生活又は地域活動を優先させる」など、どちらかを優先する考えは望ましくないと感じている。

『男性の生き方』については、男女とも「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」（女性48.6%、男性50.2%）と回答した割合が最も高かった。「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」と回答した割合は男女とも4.6%と低い。

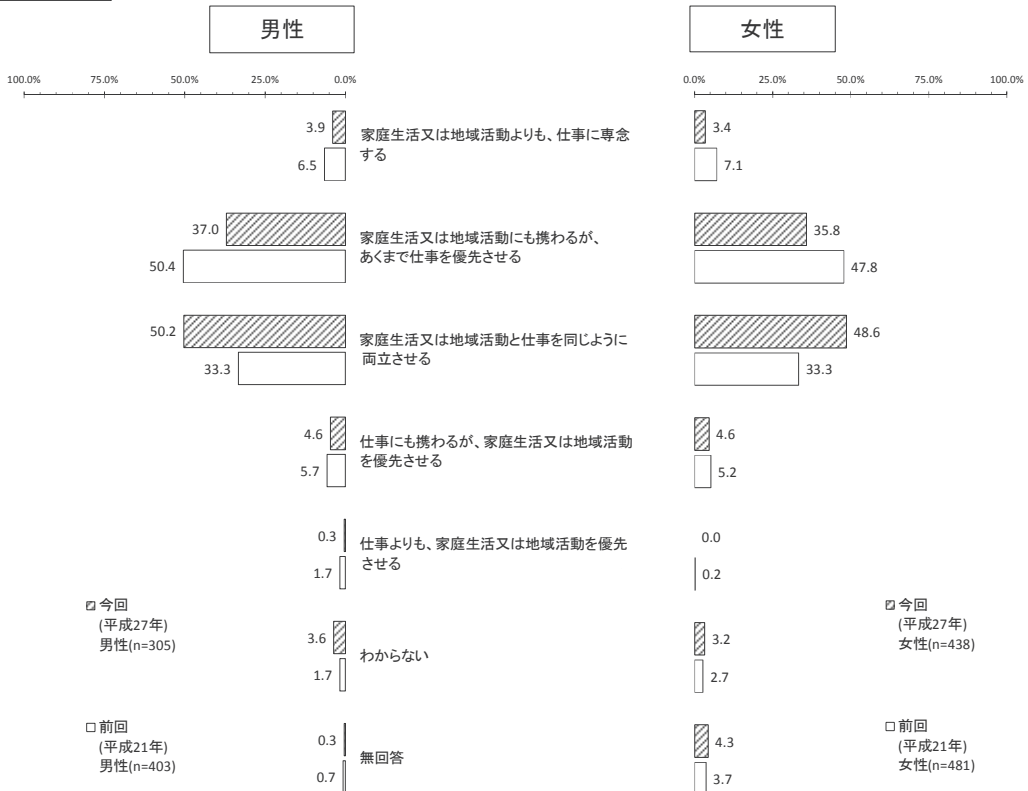
前回（平成21年）最も多かった「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」は男女ともに大きく減少し、男性も仕事を優先することより、家庭生活や地域活動と両立させる生き方が望ましいと考えている。

①女性及び男性の望ましい生き方<男女別>

女性の生き方



男性の生き方



②女性及び男性の望ましい生き方<年齢別>

女性の望ましい生き方<年齢別>

(単位:%)

	家庭生活 又は地域 活動より も、仕事に 専念する	家庭生活 又は地域 活動にも 携わる が、あくま で仕事を 優先させ る	家庭生活 又は地域 活動と仕 事を同じよ うに両立さ せる	仕事にも 携わる が、家庭 生活又は 地域活動 を優先さ せる	仕事より も、家庭生 活又は地 域活動を 優先させ る	わからな い	無回答
20～29歳(n=104)	0.0	4.8	51.0	33.7	5.8	3.8	1.0
30～39歳(n=149)	0.7	4.0	51.0	30.2	10.1	2.0	2.0
40～49歳(n=193)	1.6	6.2	47.7	28.5	3.6	10.4	2.1
50～59歳(n=261)	0.8	10.3	49.0	28.7	5.0	5.0	1.1
60～69歳(n=34)	0.0	29.4	35.3	20.6	5.9	5.9	2.9

男性の望ましい生き方<年齢別>

(単位:%)

	家庭生活 又は地域 活動より も、仕事に 専念する	家庭生活 又は地域 活動にも 携わる が、あくま で仕事を 優先させ る	家庭生活 又は地域 活動と仕 事を同じよ うに両立さ せる	仕事にも 携わる が、家庭 生活又は 地域活動 を優先さ せる	仕事より も、家庭生 活又は地 域活動を 優先させ る	わからな い	無回答
20～29歳(n=104)	1.9	27.9	59.6	5.8	0.0	2.9	1.9
30～39歳(n=149)	2.7	40.9	47.7	5.4	0.0	1.3	2.0
40～49歳(n=193)	5.7	34.7	49.2	3.1	0.0	5.2	2.1
50～59歳(n=261)	3.1	36.0	48.3	5.4	0.4	3.4	3.4
60～69歳(n=34)	5.9	50.0	35.3	0.0	0.0	2.9	5.9

『女性の望ましい生き方』『男性の望ましい生き方』とも、年齢別ではほとんどの年齢で「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した割合が最も高かった。『女性の望ましい生き方』で、60～69歳を除く各年齢で次に多いのは「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」で、年齢が若いほど割合が高いのが特徴である。

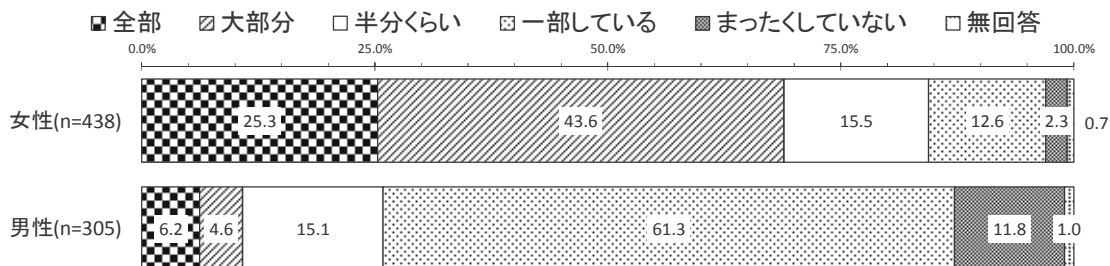
『男性の望ましい生き方』で次に多いのは、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」で、特に60～69歳での割合は50.0%と最も高い。

2. 家庭、結婚観

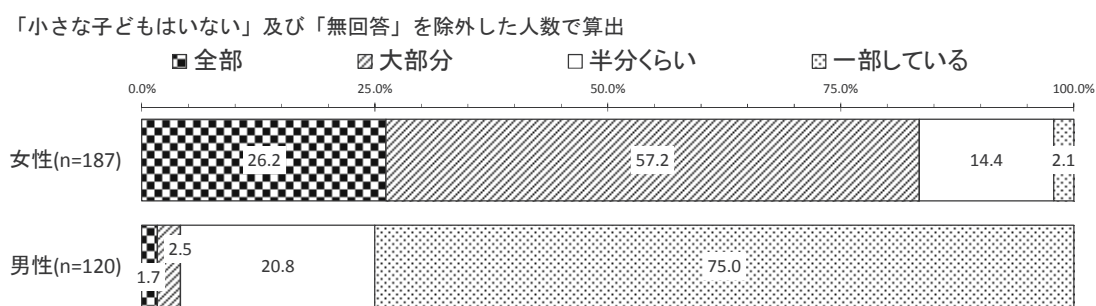
(1) 家事・育児・介護の負担割合

問3 仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどのくらい分担していますか。①～③のそれぞれについて、一番近いものを選んでください。
(それぞれ○は1つだけ)

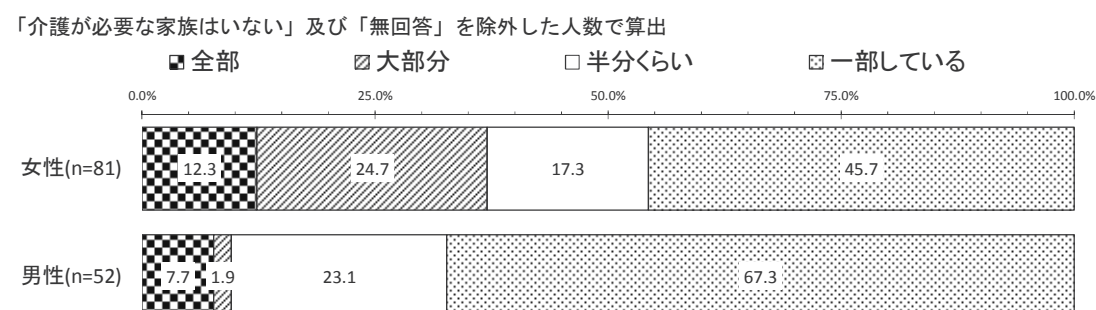
①家事



②育児

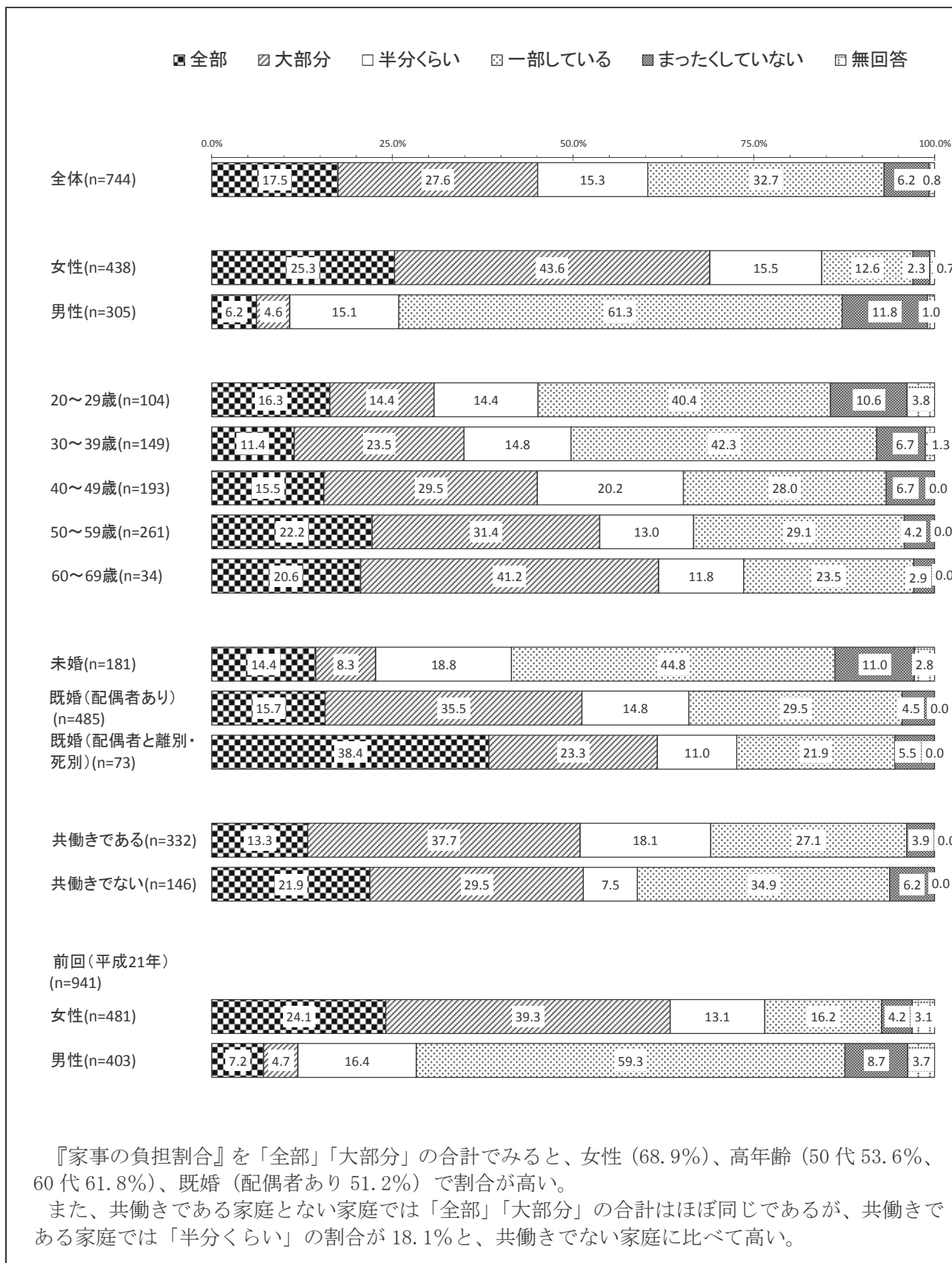


③介護

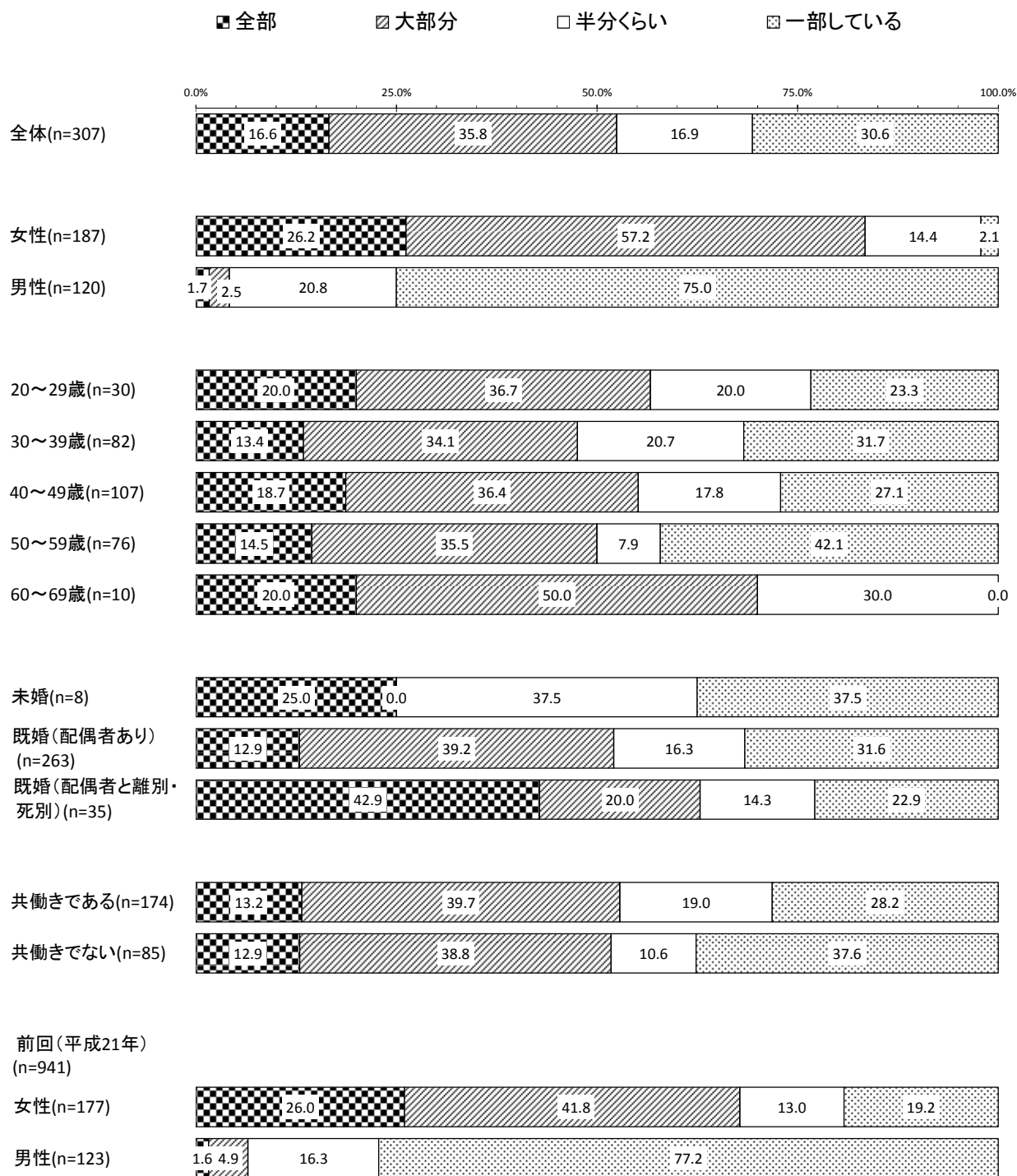


家事・育児・介護の家庭に必要な労働は、いずれも女性が負担している割合が高いが、介護では「全部」「大部分」を合わせた割合が37.0%と、比較的負担が少ない。

①家事の負担割合



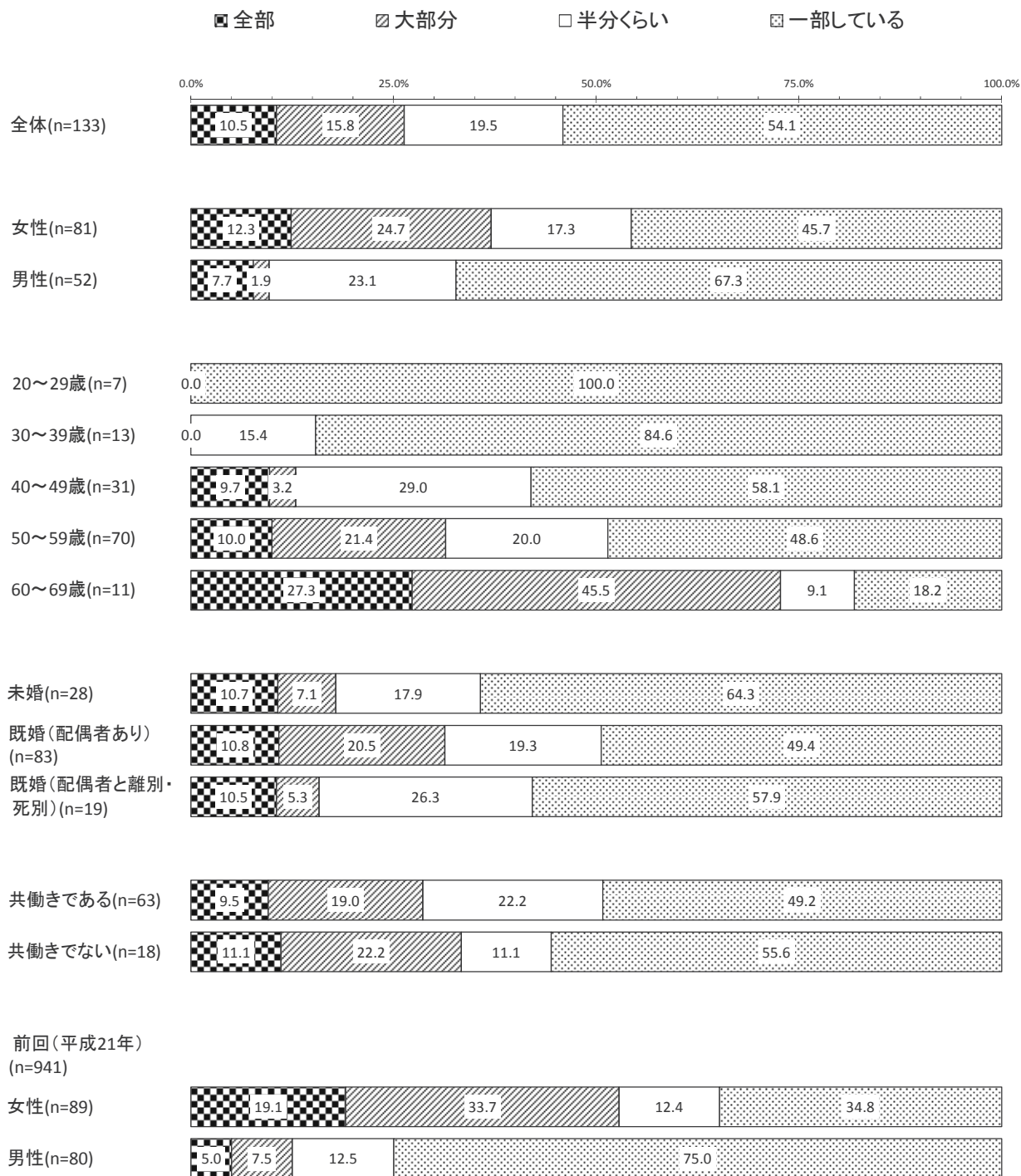
②育児の負担割合 「小さな子どもはいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



『育児の負担割合』を「全部」「大部分」の合計で見ると、女性(83.4%)、既婚(配偶者あり 52.1%)で割合が高い。

また、共働きである家庭とない家庭では「全部」「大部分」の合計はほぼ同じであるが、共働きである家庭では「半分くらい」の割合が19.0%と、共働きでない家庭に比べて高い。

③介護の負担割合 「介護が必要な家族はいない」及び「無回答」を除外した人数で算出



『介護の負担割合』を「全部」「大部分」の合計でみると、女性(37.0%)、高年齢(50代31.4%、60代72.8%)、既婚(配偶者あり31.3%)で割合が高い。

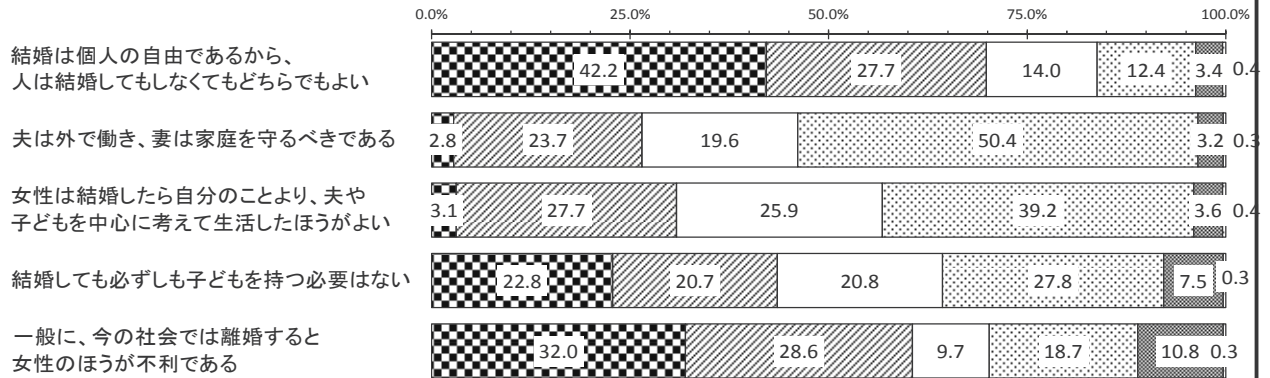
また、共働きである家庭とない家庭では「全部」「大部分」の合計で大きな差はないが、共働きである家庭では「半分くらい」の割合が22.2%と、共働きでない家庭に比べて高い。

(2) 家庭、結婚観

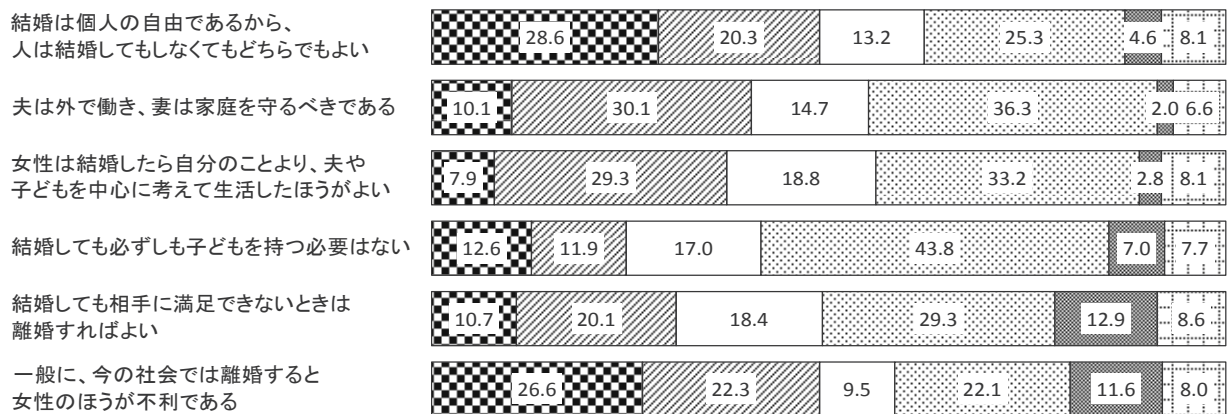
問4 次にあげた①～⑥の結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれのあなたのお考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ○は1つだけ)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

(n=744)



前回(平成21年)
(n=941)



「そう思う」と「そう思わない」の割合

(単位: %)

	そう思う計	そう思わない計
結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもどちらでもよい	69.9	26.3
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	26.5	70.0
女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい	30.8	65.2
結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	43.5	48.7
一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	60.6	28.4

* 「そう思う計」及び「そう思わない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』は69.9%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。

前回（平成21年）より賛同者は増加し、男性よりも女性が多く、年齢が若くなるほど多い。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』は70.0%が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

前回（平成21年）に比べ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が大幅に減少した。

男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は女性よりも男性の方が多く、また、年齢が高くなるほど多くなる。

『女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』も65.2%が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答している。

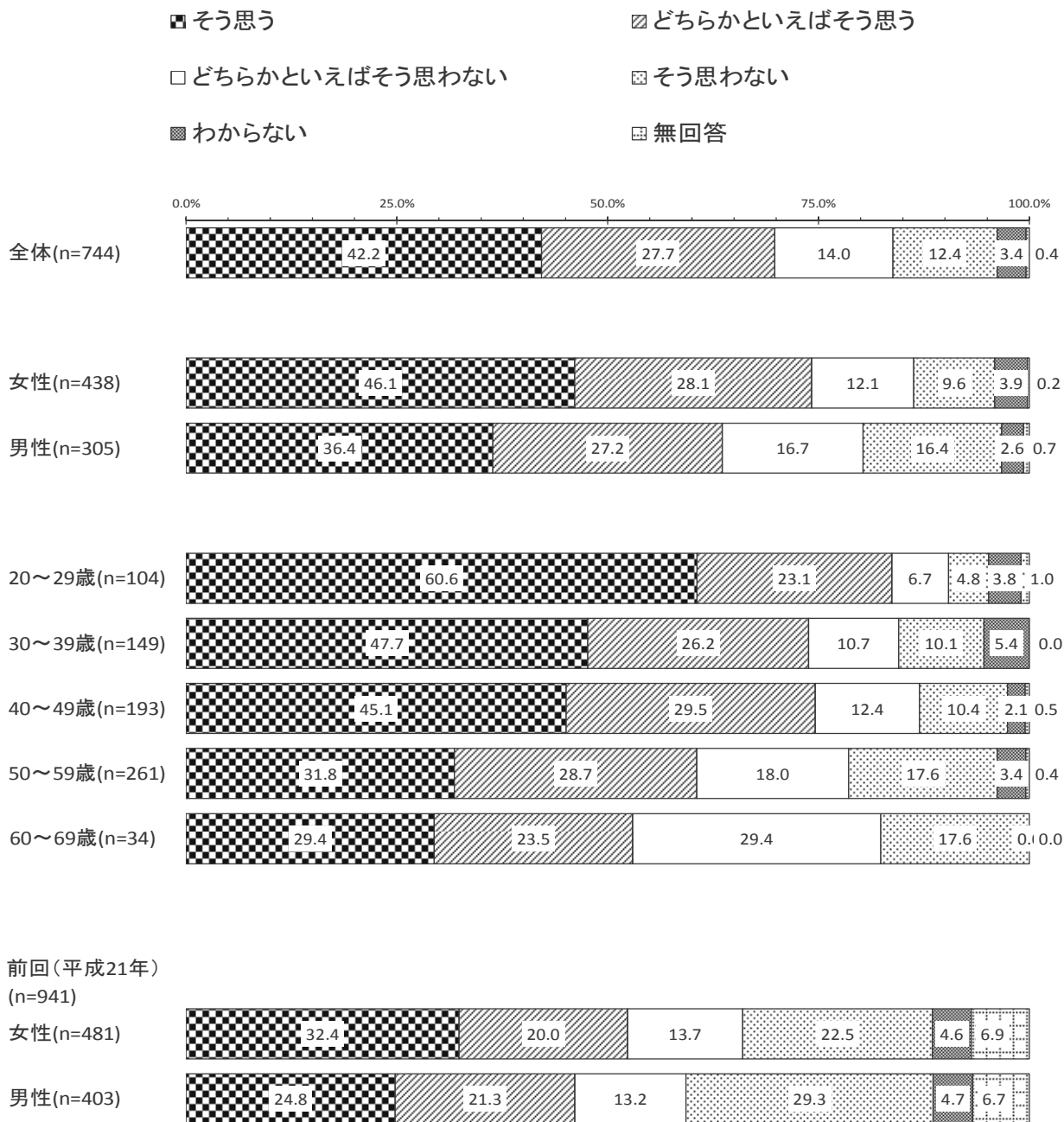
男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は男性より女性の方が多い。

『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』は43.5%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。男性よりも女性が多く、年齢が若くなるほど割合が高い。

『一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』は60.6%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。

男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は男性よりも女性の方が多い。

①結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい

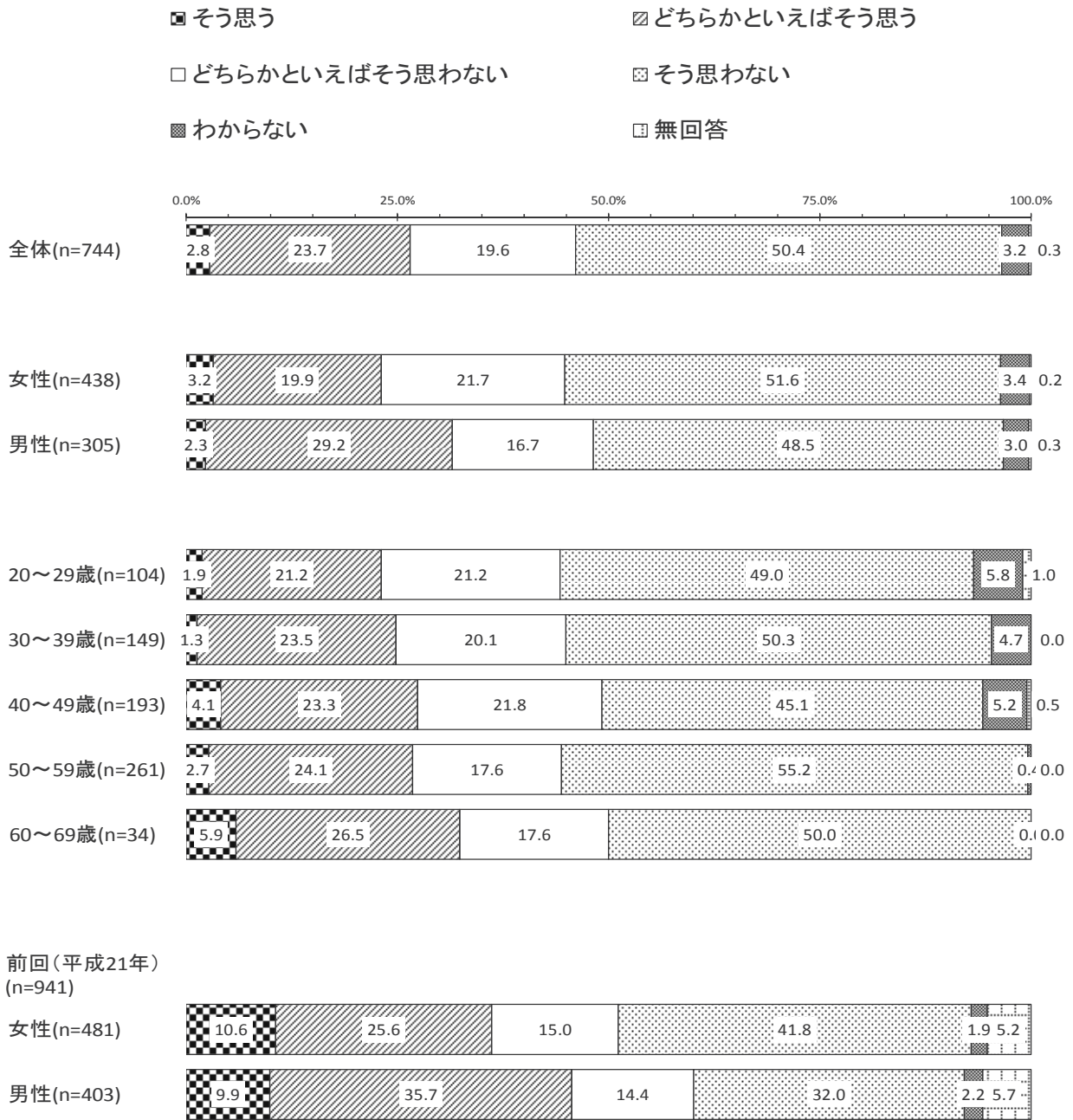


『結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性(63.6%)より女性(74.2%)の方が高い。

年齢別にみると、若いほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」割合が高くなる。

前回(平成21年)に比べると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は、男女とも増加している。

②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

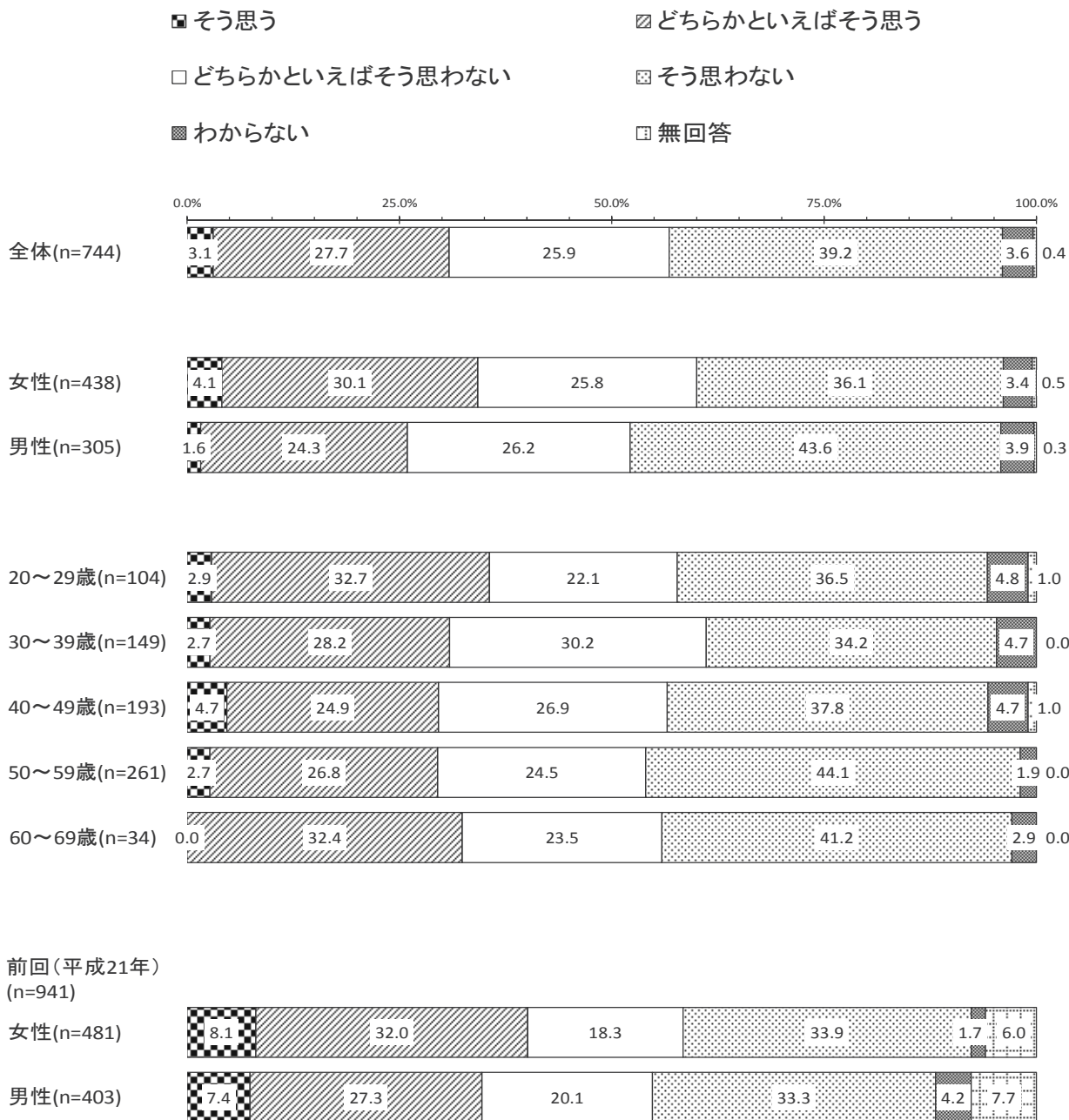


『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は、男性（65.2%）より女性（73.3%）の方が高い。

年齢別にみると、概ね年齢が若いほど「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」割合が高い。

前回（平成21年）に比べると、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」は、男女とも増加している。

③女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい

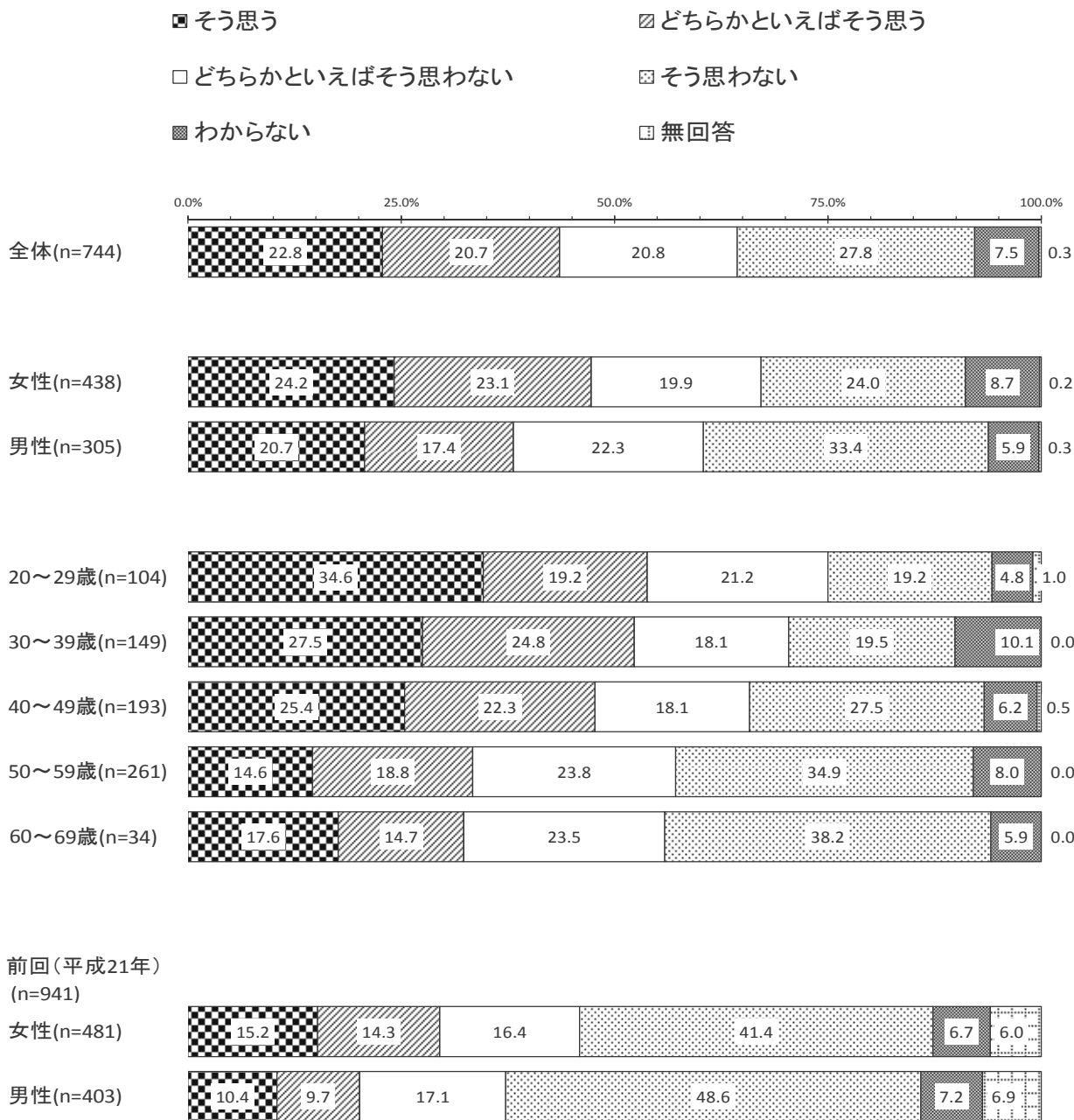


『女性に結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい』という考え方について、男女とも「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が高いが、女性（61.9%）より男性（69.8%）の方が高い。

年齢別にみると、年齢が若いほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が高い傾向がある。

前回（平成21年）に比べると、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」は、男女とも増加している。

④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

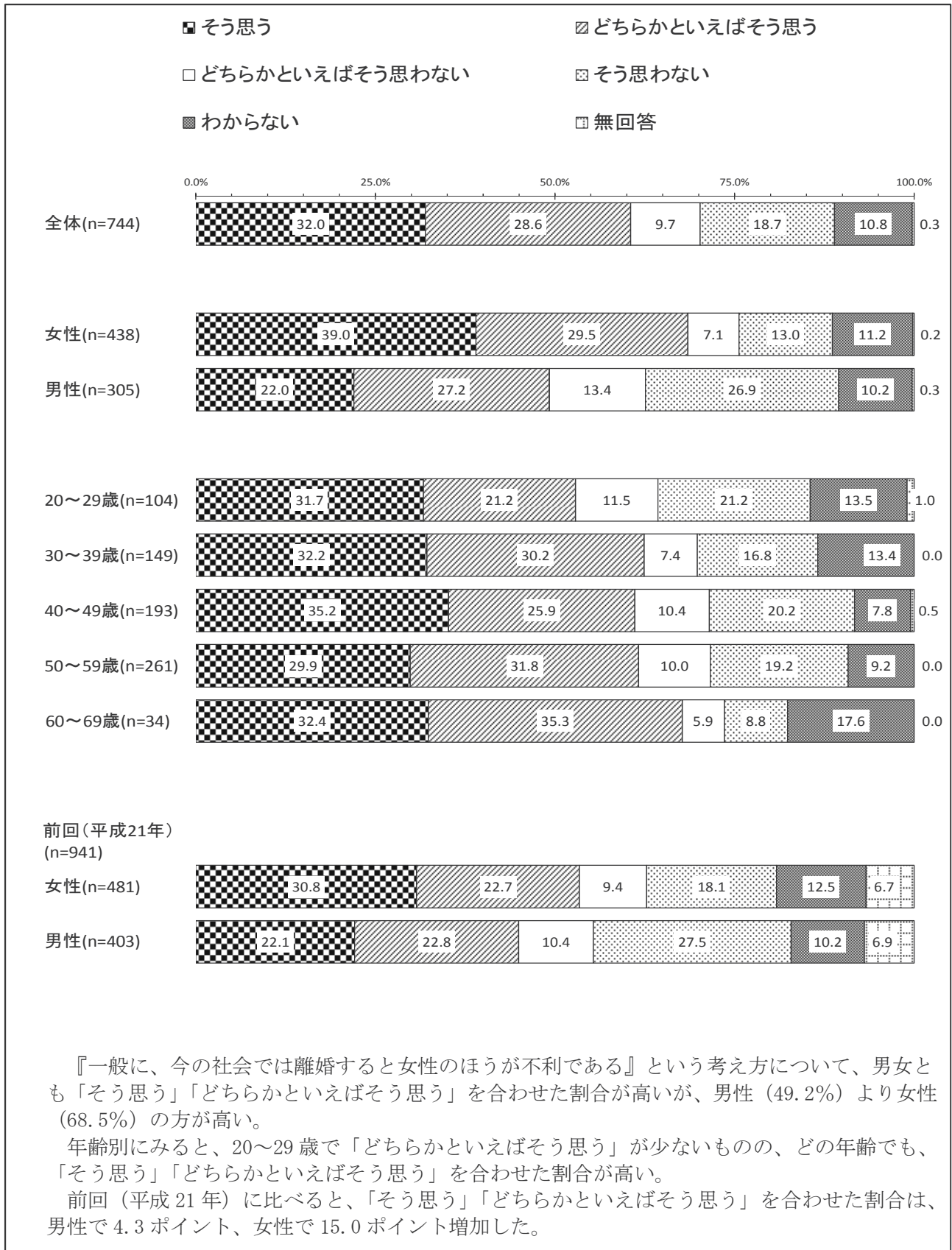


『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』という考え方について、男女とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、男性（38.1%）より女性（47.3%）の方が高い。

年齢別にみると、年齢が若いほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が高い。

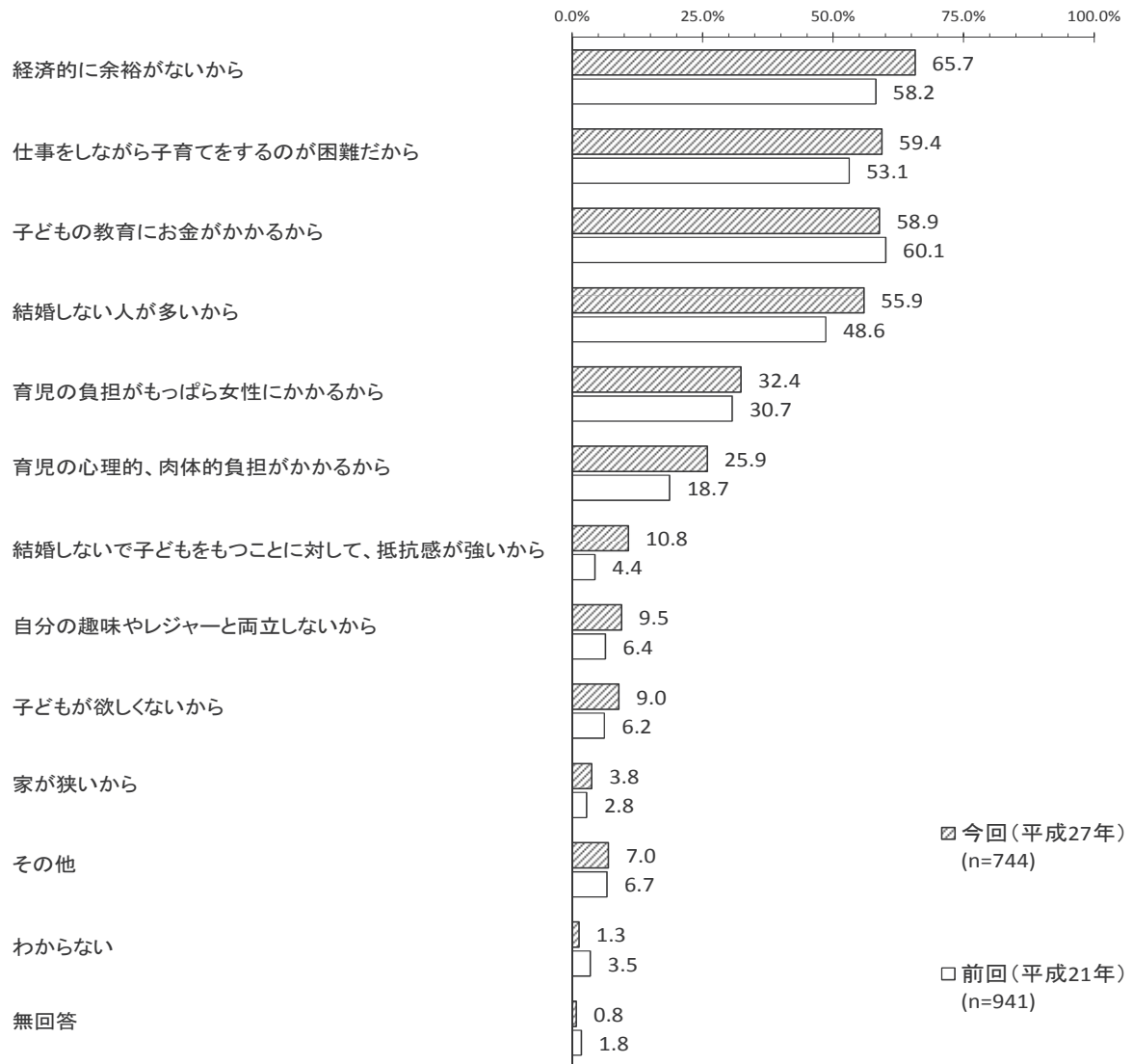
前回（平成21年）に比べると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は、男女とも増加している。

⑤一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である



(3) 出生数が減少している理由

問5 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思えますか。
(〇はいくつでも)

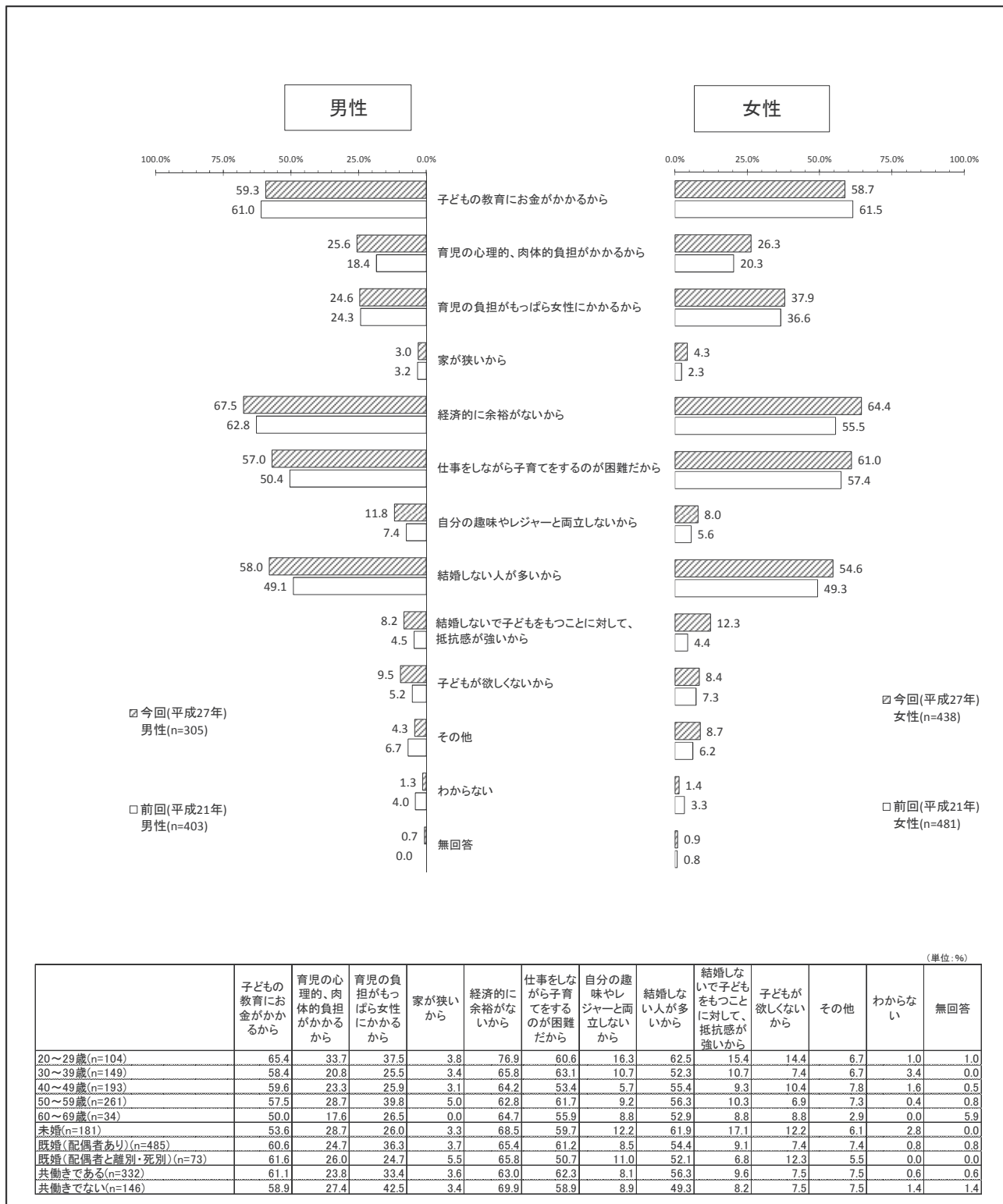


出生数が減少している理由では、「経済的に余裕がないから」が65.7%と最も多い。次いで「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が59.4%である。

男女別にみると、男女とも「経済的に余裕がないから」(女性64.4%、男性67.5%)が最も多い。次いで男性では「子どもの教育にお金がかかるから」(59.3%)、女性では「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」(61.0%)が多い。「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」「育児の負担がもっぱら女性にかかるから」をあげるのは、男性より女性の割合が高い。

年齢が若いほど多くの理由で割合が高く、若い世代ほど出産、育児に不安を持っていることがうかがわれる。

①出生数が減少している理由<男女別・年齢別・未既婚別・共働きの状況>



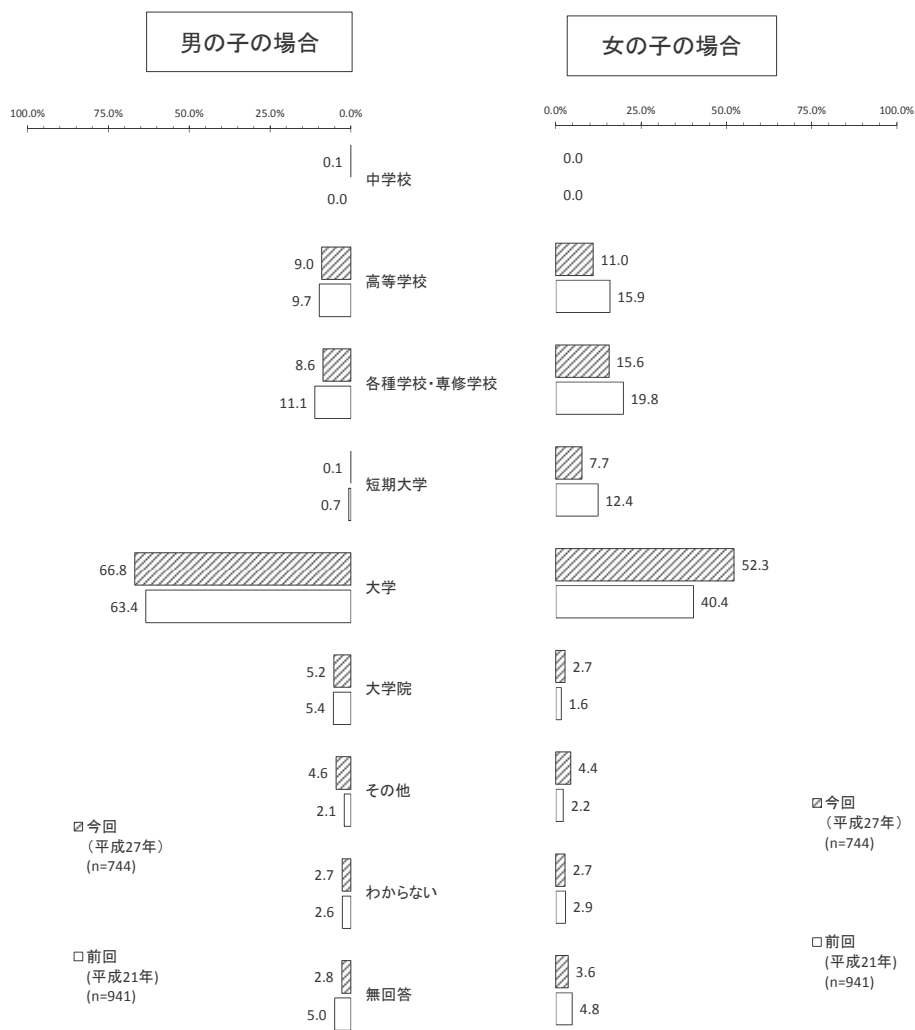
* 出生数が減少している理由<その他>

- ◇ 核家族が増えたから。
- ◇ 社会制度があまりしっかりしていないから。産休、育休はもらえない所もあるし、あっても期間が短い。子どもとの時間を大切にしたいとしても仕事をしながらでは難しい。子どもを産む事でのメリットが少ない等々。
- ◇ 女性の社会進出により子育て等の場面を経験する事が少なくならざるを得なくなってきた。しかし、それは悪いことではないと思う。
- ◇ 欲しくてもできない（不妊）。
- ◇ 不妊治療にお金がかかる。
- ◇ 晩婚化。
- ◇ 時代の流れで今は1人~2人くらいしか産まない為。
- ◇ 子どもをかわいがる、大切にしたい意識が足りない。
- ◇ 親がぜいたくになり、子の衣食住娯楽にお金をかけるのを普通に思っているため。
- ◇ 経済的な面と将来性。男性の役割、女性の役割を男女平等とはき違え、女性が男性社会に進出するだけが男女平等と勘違いしている様に思う。
- ◇ 将来が不安だから。
- ◇ 出産費用が高い。子どものあずけ先が少なく働けない人がいる。
- ◇ 職場の理解度が低い。子どもの急病に対応できる体制。育児休暇がとりにくい。産婦人科（産科）が少ない。
- ◇ 出産に対する恐怖心や良い思い出がなかったり。緊急で帝王切開になったとか。

3. 子どもの教育について

(1) 子どもに受けさせたい教育程度

問6 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。
 お子さんがいらっしゃらない方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。(それぞれ○は1つだけ)



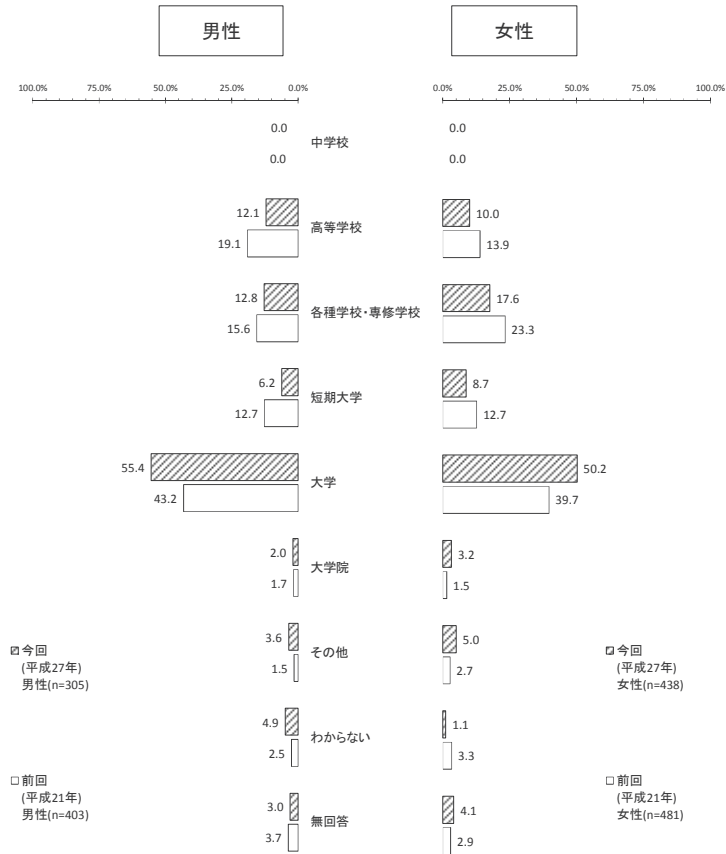
女の子の場合も、男の子の場合も、「大学」まで教育を受けさせたい、と考えている回答者が多い。女の子に「大学」程度の教育を受けさせたいという回答は、前回（平成21年）の40.4%から52.3%と大きく伸びているが、男の子の66.8%と比べると低い。

『女の子に受けさせたい教育の程度』は、男女とも「大学」（女性50.2%、男性55.4%）が最も多く、前回（平成21年）より増加しているが、『男の子に受けさせたい教育の程度』の「大学」の割合が女性は67.8%、男性は65.6%であることと比べると低い（次頁参照）。

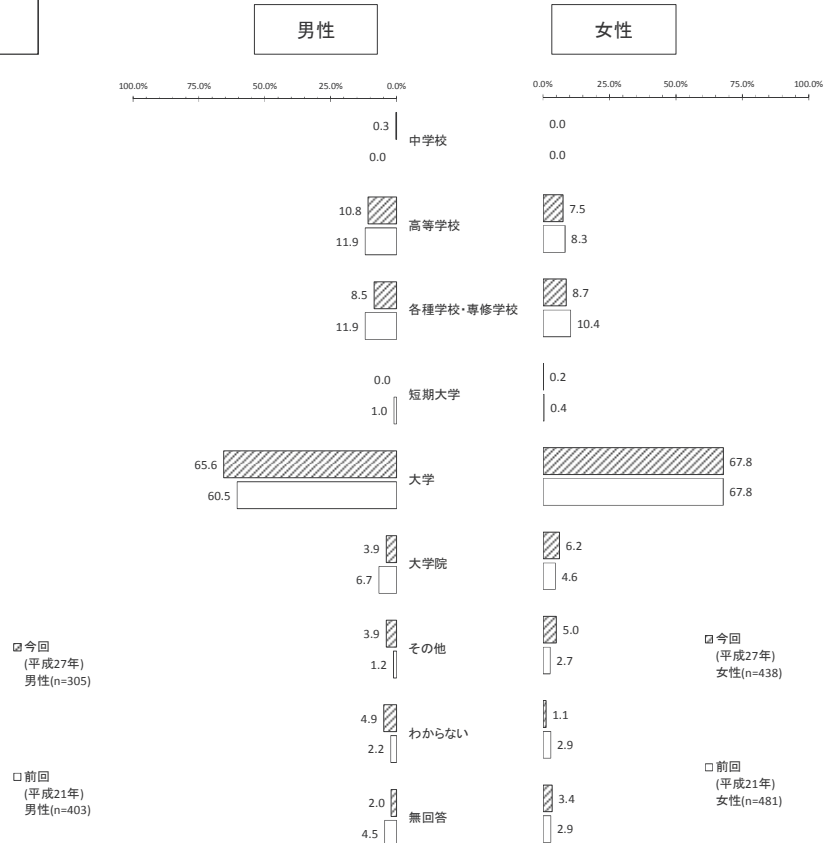
『男の子に受けさせたい教育の程度』は、男女とも「大学」（女性67.8%、男性65.6%）が最も多い。また、男の子に「大学」「大学院」と、より高い教育を受けさせたいと考える割合は、男性（69.5%）より女性（74.0%）の方が高い。

①子どもに受けさせたい教育程度 <男女別>

女の子の場合



男の子の場合



***子どもに受けさせたい教育程度<女の子の場合 その他>**

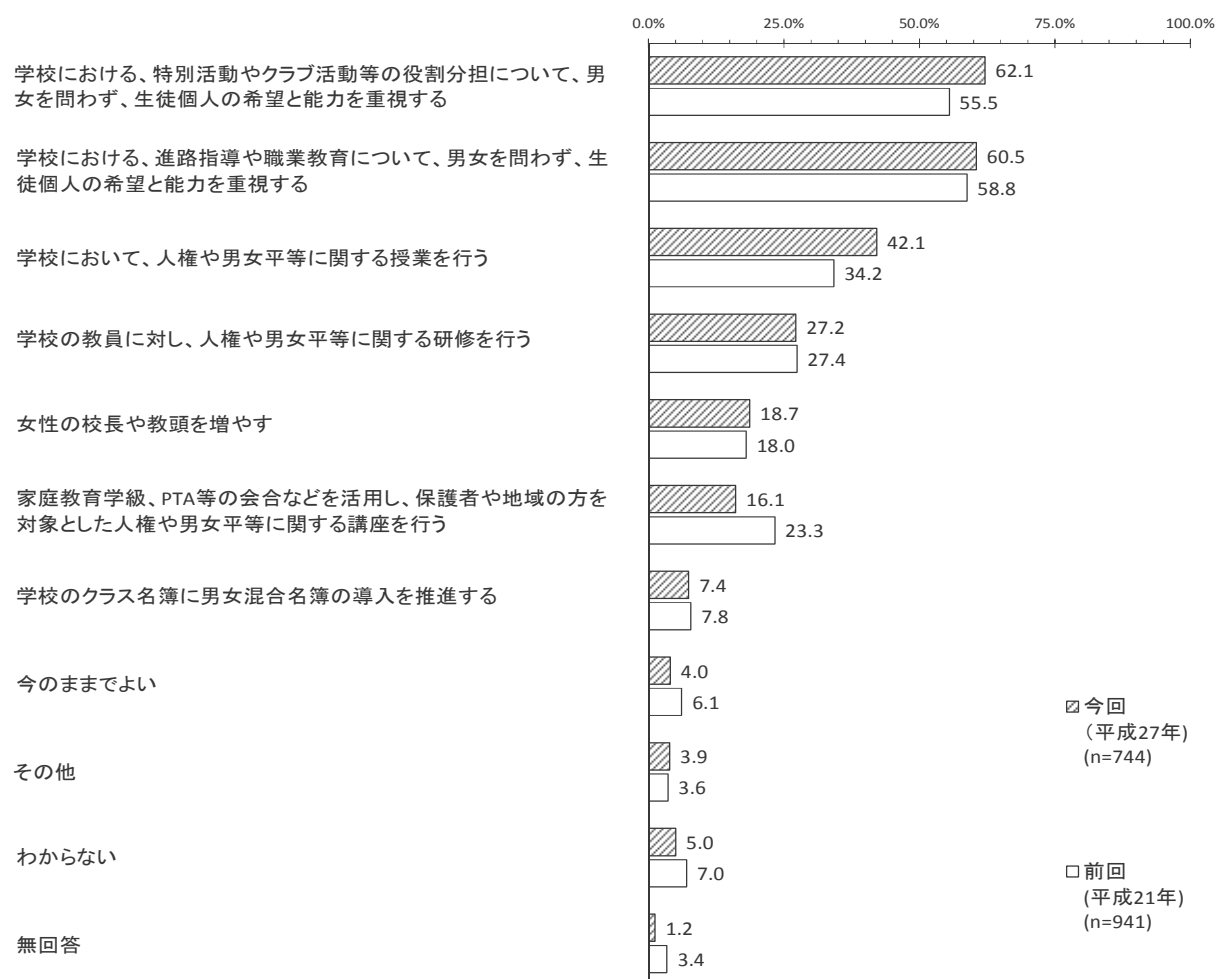
- ◇ 本人の意思によるが高校は出てほしい。
- ◇ 高等学校以上。
- ◇ 本人の意思、希望。
- ◇ 本人の進路と能力による。
- ◇ 本人がなりたい職業に学歴が関係ないのであれば無理に大学までは進まなくてもいいと考えます。しかし、最低でも高等学校までは・・・。
- ◇ 最低限として大学だが、子供が望むならそれ以上の教育を。
- ◇ 高校より先へはあくまでも本人次第。
- ◇ 子どもがいききたいとこまで。
- ◇ 本人の適性と意思による。
- ◇ 行きたいならどこまでも。
- ◇ 子供が満足するまで。

***子どもに受けさせたい教育程度<男の子の場合 その他>**

- ◇ 本人の意思によるが高校は出てほしい。
- ◇ 高等学校以上。
- ◇ 本人の意思、希望。
- ◇ 高卒以降は本人の自由。
- ◇ 本人の進路と能力による。
- ◇ 本人がなりたい職業に学歴が関係ないのであれば無理に大学までは進まなくてもいいと考えます。しかし、最低でも高等学校までは・・・。
- ◇ 高校より先へはあくまでも本人次第。
- ◇ 希望は大卒だが本人のやる気。
- ◇ 子どもがいききたいとこまで。
- ◇ 本人の適性と意思による。
- ◇ 行きたいならどこまでも。
- ◇ 子供が満足するまで。

(2) 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと

問7 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



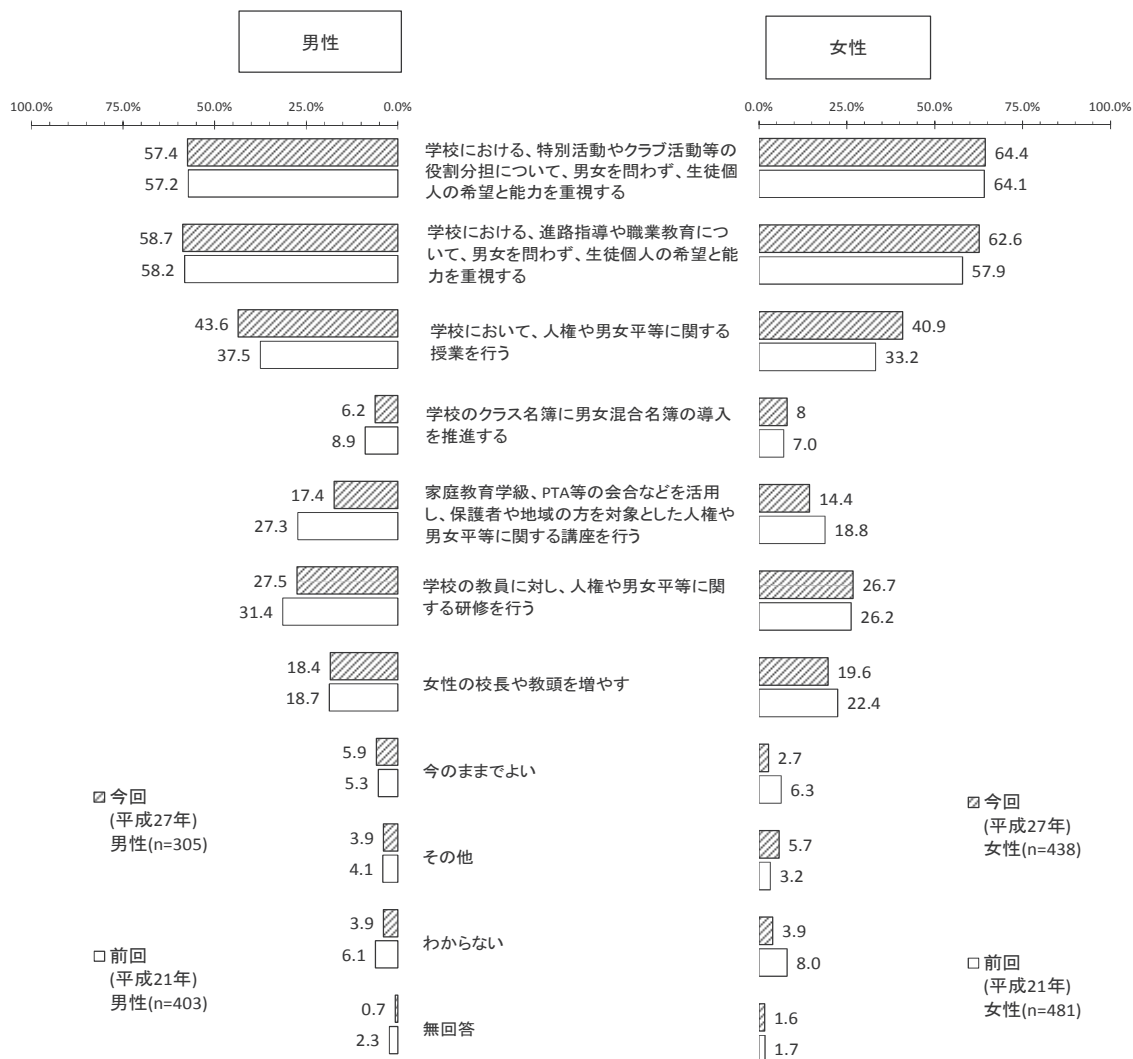
人権や男女平等意識の育成のために必要なこととして最も多いのは、「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(62.1%)である。次いで「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(60.5%)である。

前回(平成21年)は、「進路指導や職業教育について」が最も多かったが、今回はより自由な活動の中で生徒個人の希望と能力が重視されることを望んでいる。また、必要だという割合が増えている項目が多く、人権や男女平等意識の育成のために様々な教育が必要であると考えている。

男女別にみると、男性は「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(58.7%)が最も多く、女性では「学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(64.4%)が最も多い。

年齢別では、年齢が若いほど「特別活動やクラブ活動等の役割分担について」、年齢が高いほど「進路指導や職業教育について」生徒個人の希望と能力を重視すると回答している。

①人権や男女平等意識の育成のために必要なこと〈男女別・年齢別〉



(単位: %)

	学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する	学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する	学校において、人権や男女平等に関する授業を行う	学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進する	家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う	学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う	女性の校長や教頭を増やす	今のままでよい	その他	わからない	無回答
20～29歳(n=104)	62.5	55.8	41.3	12.5	13.5	29.8	26.0	4.8	5.8	3.8	1.9
30～39歳(n=149)	63.8	61.1	40.9	6.0	14.8	25.5	22.1	1.3	4.0	6.7	0.7
40～49歳(n=193)	59.6	63.7	34.2	8.3	10.4	22.3	16.6	5.7	4.1	5.2	1.0
50～59歳(n=261)	63.2	57.9	47.5	6.5	21.8	29.9	17.2	4.6	3.4	3.8	0.8
60～69歳(n=34)	55.9	70.6	47.1	0.0	20.6	32.4	5.9	0.0	0.0	8.8	5.9

* 人権や男女平等意識の育成のために必要なこと<その他>

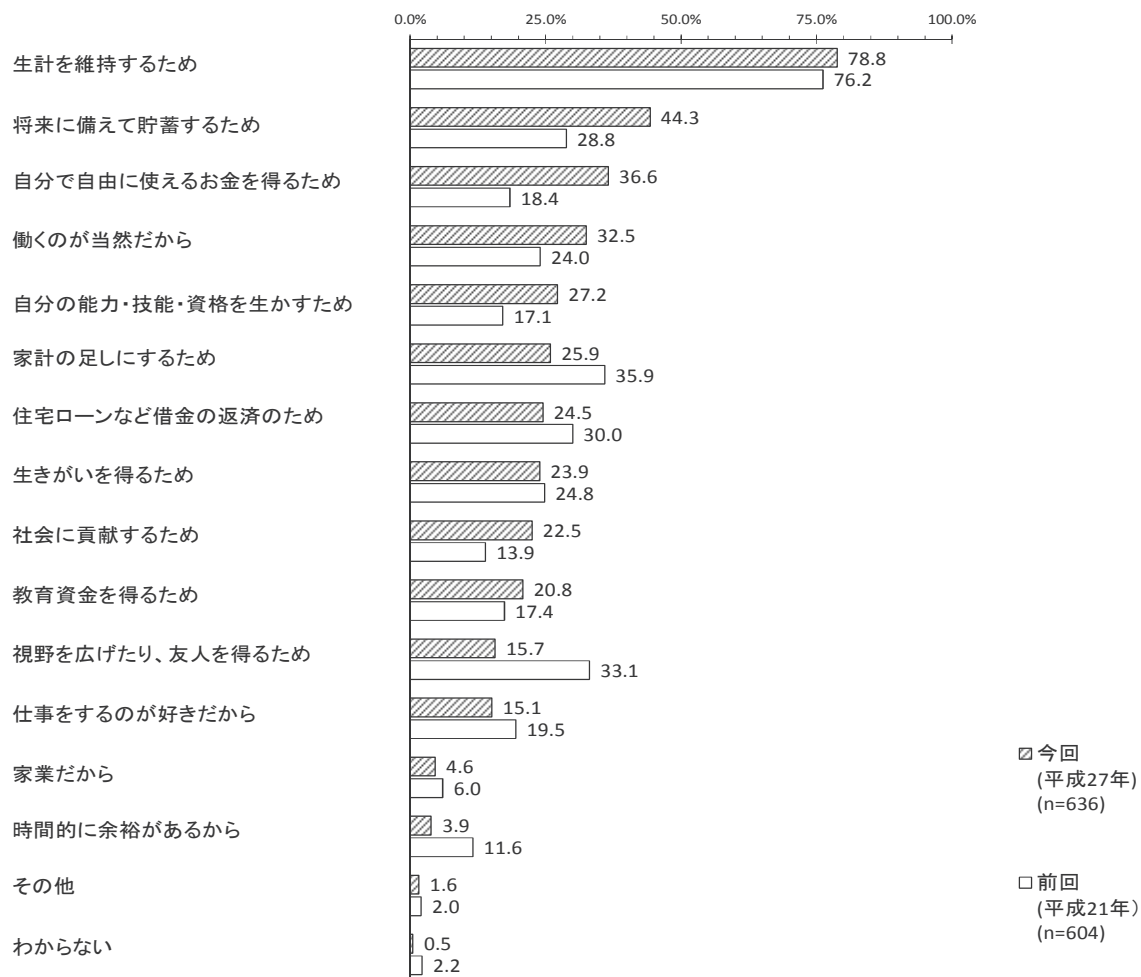
- ◇ まずは子ども達が興味を示すことについて一緒に学び、1つの価値観にとらわれない人間性を育み、そこから自然と人権や男女間について考えるような幅の広い考え方ができるような子育てがしたい。
- ◇ 先生方が心にゆとりをもてることが子ども達にもいいことだと思います。
- ◇ 企業における男女意識の現状を講習。子どもたちは実態を知らないので必要だと思います。
- ◇ 男女を問わず他人を尊重することが必要。
- ◇ 女性には可能だが、男性には不可能、ということもある。肉体的な男女の平等も学ぶべき。
- ◇ 男女の区別なく、平等でも、男性と女性の持って生まれた（備わった）役割はちがうので、そこは、伝えていいことと思います。（必ずそうということではなく例外はあることをそえて・・・）。
- ◇ 子どももそうだが、親も見直した方がいいと思う。
- ◇ 男女平等を意識しすぎる教育は、逆効果なのではないか？
- ◇ 民間企業での教育（夫、妻）が必要。それが子どもに波及する。子どもは親の考え方に近くなるものだから。
- ◇ 時には男女の区別が必要な事もあるが、男女分けての授業が多い気がする。精神面、肉体面での理解を深める授業は必要に思う。
- ◇ 家庭や学校で男女平等の意識を持たせても、受け入れる会社が男性優位では何をしても変わらないと思う。
- ◇ 地域活動や行事でも男女平等に。高齢者の意識改革。
- ◇ 各々の家庭、家族の中で学ぶことが重要と考えます。
- ◇ 男女で助け合うような授業を行う。
- ◇ 議会や政府要人の男尊女卑の発言は、もっと追及されてもよい。子どもに「大人は人権意識や男女平等の意識がない」と思わせる要因になる。そのような人達の意識改革の方が大切かも。
- ◇ 性差と個体差を分けて考え教育にもいかす。
- ◇ 男子に家庭科、女子に技術科という、互いによく知らない教科にもっと親しむ。
- ◇ 男性は女性を、女性は男性の特徴と役割を考えさせる教育。平等ではない、相互尊重のキーワードにしないとうまくいかない。
- ◇ 女性の役割を大切にしながら（たとえば結婚・出産・子育て）平等を唱えるべきと思う。
- ◇ 小さいうちから、やっていい事とダメな事をもっと厳しく教える必要がある。
- ◇ 学校だけでなく家庭や社会の活動の中でも意識の育成が必要だと思う。
- ◇ 男性と女性の違いについて学んだうえで行うべきだと考えます。
- ◇ 教育の過程で男女の不平等を感じた事はない。むしろ社会にでてからの方が感じる。

4. 職業

(1) 仕事をしている理由

(現在、収入をともなう仕事をしていらっしゃる方(学生の方のアルバイトは除く)にだけお聞きします)

問8 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(〇はいくつでも)



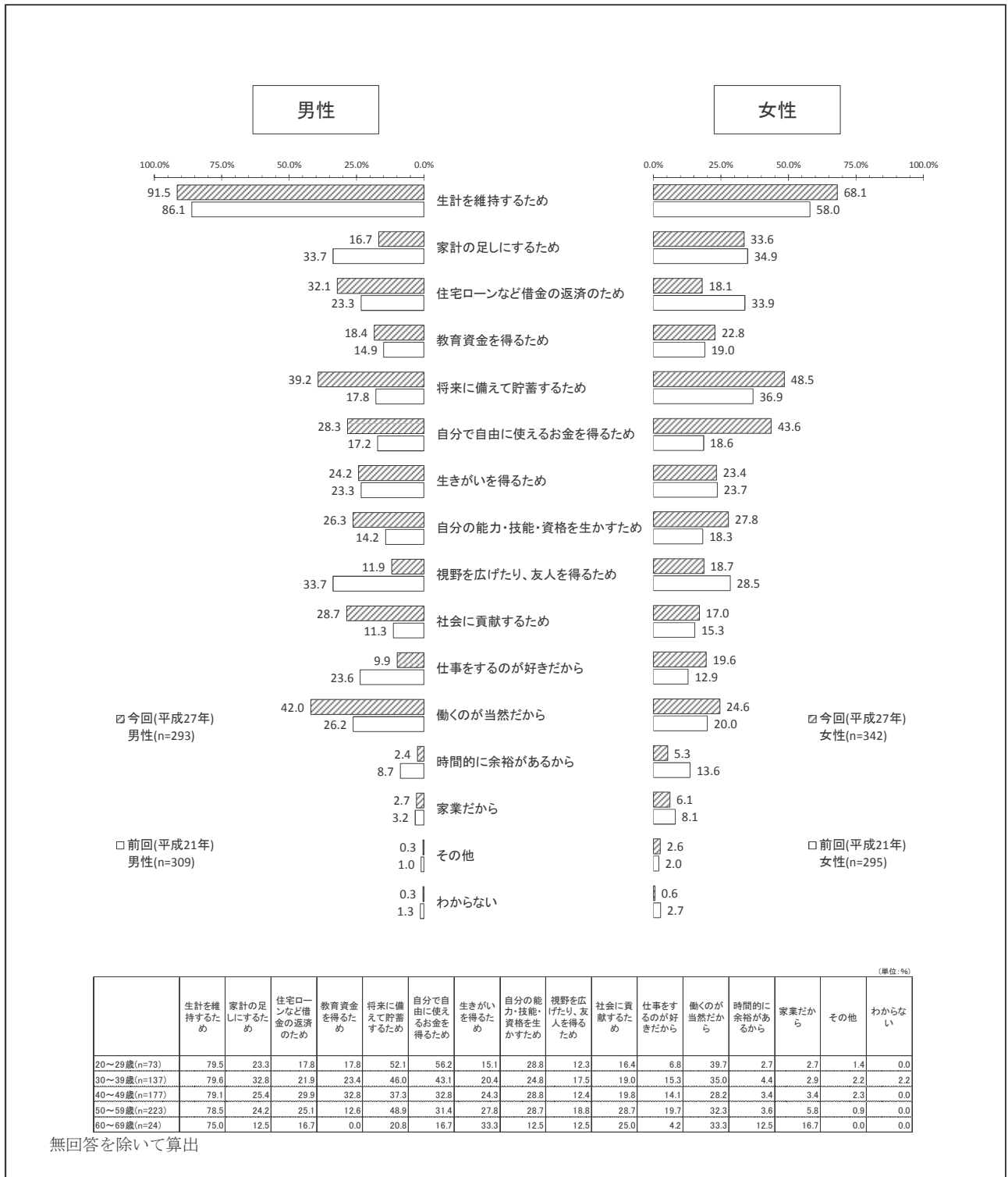
無回答を除いて算出

仕事をしている理由は、「生計を維持するため」(78.8%)が最も多い。次いで「将来に備えて貯蓄するため」(44.3%)、自分で自由に使えるお金を得るため」(36.6%)などが多い。「将来に備えて貯蓄するため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」などは前回(平成21年)より増加したが、「視野を広げたり、友人を得るため」「仕事をするのが好きだから」などは減少し、仕事をするのは、より現実的な理由からになっている。

男女別にみると、男女とも「生計を維持するため」が最も多く、男性は91.5%と、前回(平成21年)から5.4ポイント増加している。次いで、男性では「働くのが当然だから」(42.0%)、「将来に備えて貯蓄するため」(39.2%)などである。女性では「将来に備えて貯蓄するため」(48.5%)、「自分で自由に使えるお金を得るため」(43.6%)などが多い。

男女とも「視野を広げたり、友人を得るため」が前回(平成21年)より減少し、男性では「仕事をするのが好きだから」「家計の足しにするため」という理由が減少している。

①仕事をしている理由<男女別・年齢別>

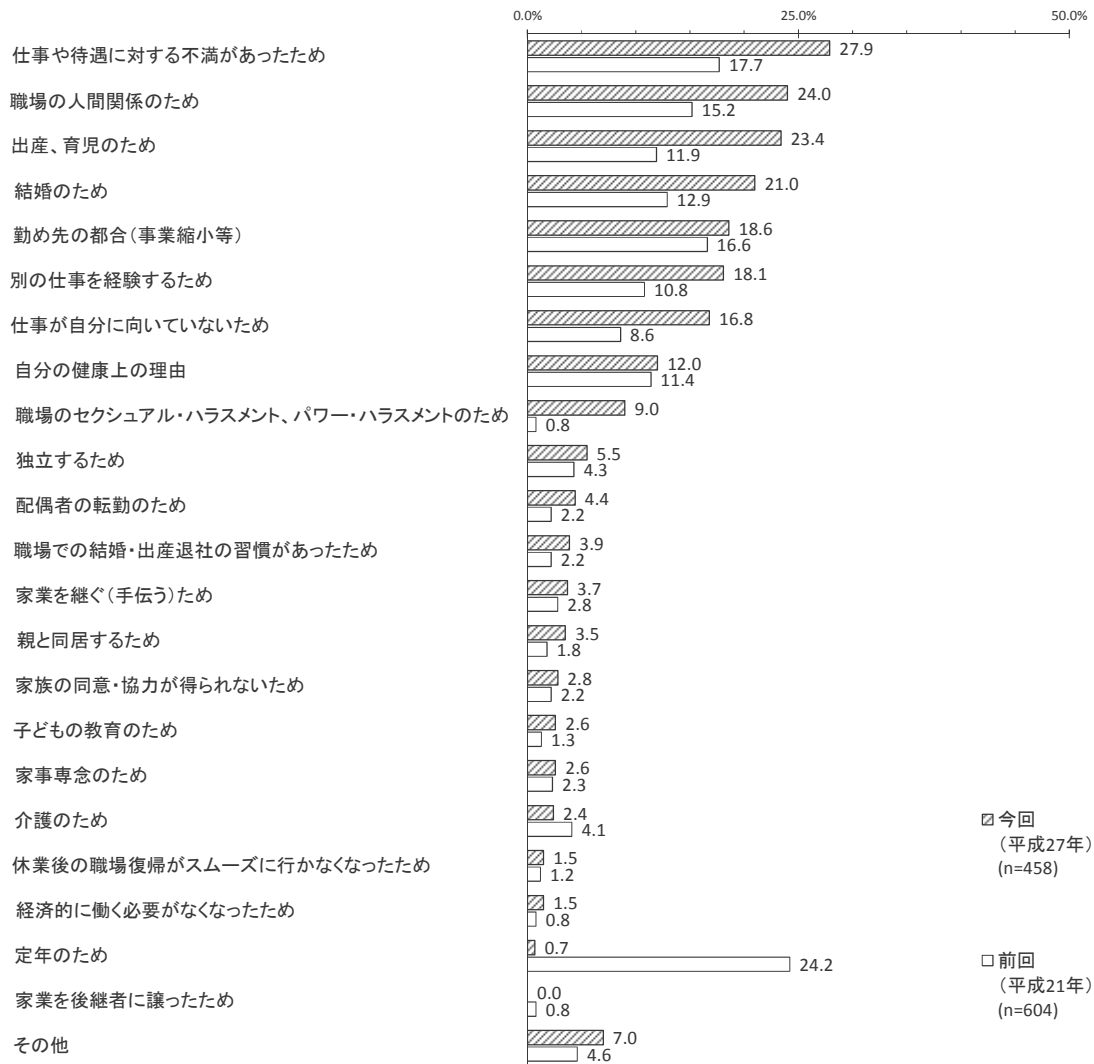


* 仕事をしている理由<その他>

- ◇ 孫の為。
- ◇ 奨学金返済。
- ◇ 育児中心の生活の発散も少しある。
- ◇ 家族に対し情報提供できるから。
- ◇ やりたい仕事だから。
- ◇ 社会と関わりたい (貢献とは違う)。
- ◇ 家にいたくない。
- ◇ 家族のため。

(2) 仕事を辞めた理由

(これまでに仕事を退職した経験のある方にだけお聞きします)
 問9 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。(〇はいくつでも)



無回答を除いて算出

今回は「職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントのため」において、パワー・ハラスメントについて質問していない。

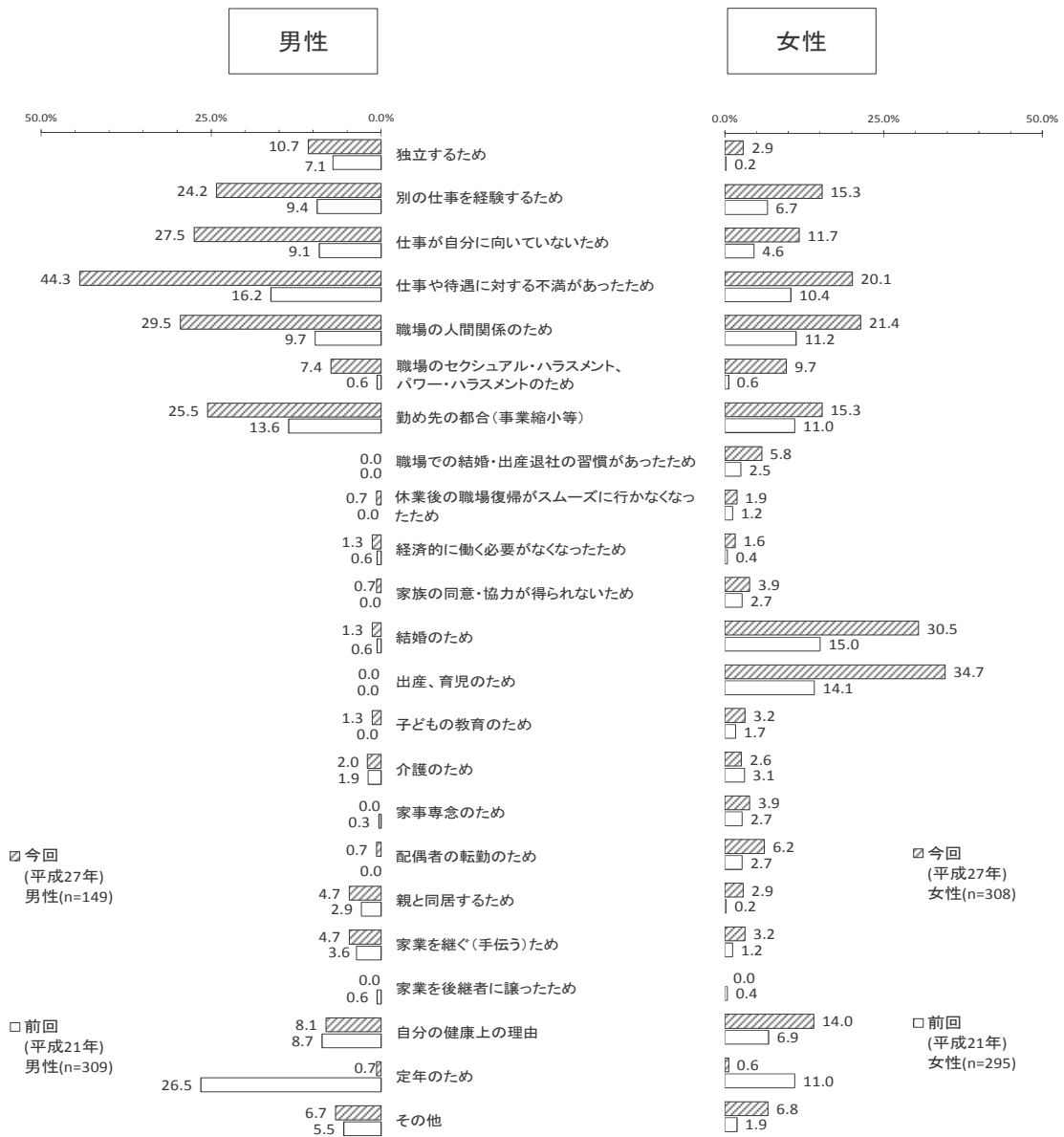
仕事を辞めた理由は、「仕事や待遇に対する不満があったため」(27.9%)が最も多いが、男女別で見ると、女性は「出産・育児のため」(34.7%)、「結婚のため」(30.5%)が多い。

前回(平成21年)仕事を辞めた理由として一番多かった「定年」は、今回の調査では対象年齢を60歳としたため大きく減少している。「職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントのため」は前回(平成21年)と比較すると、8.2ポイントと大きく増えている。

男女別にみると、男性では「仕事や待遇に対する不満があったため」が最も多く44.3%である。次いで「職場の人間関係のため」(29.5%)、「仕事が自分に向いてないため」(27.5%)などとなっている。

女性では「出産・育児のため」が34.7%と最も多く、「結婚のため」(30.5%)と続き、結婚・出産などで仕事を辞める場合が多い。

①仕事を辞めた理由＜男女別・年齢別＞



(単位:%)

	独立するため	別の仕事を体験するため	仕事が自分に向いていないため	仕事や待遇に対する不満があったため	職場の人間関係のため	職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントのため	勤め先の都合(事業縮小等)	職場での結婚・出産退社の習慣があったため	休業後の職場復帰がスムーズに行かなくなったため	経済的に働く必要がなくなったため	家族の同意・協力が得られないため	結婚のため
20~29歳(n=41)	0.0	24.4	22.0	34.1	36.6	17.1	12.2	0.0	0.0	0.0	2.4	9.8
30~39歳(n=99)	2.0	26.3	17.2	36.4	29.3	15.2	14.1	4.0	3.0	1.0	3.0	17.2
40~49歳(n=124)	4.8	16.1	20.2	29.8	21.0	5.6	25.0	6.5	1.6	1.6	1.6	21.8
50~59歳(n=170)	9.4	14.1	12.9	23.5	21.8	7.1	18.8	3.5	1.2	2.4	4.1	25.9
60~69歳(n=21)	4.8	14.3	19.0	4.8	9.5	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	出産、育児のため	子どもの教育のため	介護のため	家事専念のため	配偶者の転勤のため	親と同居するため	家業を継ぐ(手伝う)ため	家業を後継者に譲ったため	自分の健康上の理由	定年のため	その他	
20~29歳(n=41)	26.8	2.4	2.4	0.0	4.9	4.9	4.9	0.0	17.1	0.0	7.3	
30~39歳(n=99)	28.3	4.0	0.0	3.0	3.0	3.0	4.0	0.0	15.2	0.0	9.1	
40~49歳(n=124)	23.4	0.8	0.8	2.4	6.5	3.2	2.4	0.0	8.1	0.8	3.2	
50~59歳(n=170)	21.2	3.5	4.7	3.5	3.5	4.1	4.7	0.0	10.6	0.0	7.6	
60~69歳(n=21)	14.3	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	14.3	9.5	14.3	

無回答を除いて算出

前回は「職場のセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントのため」において、パワー・ハラスメントについて質問していない。

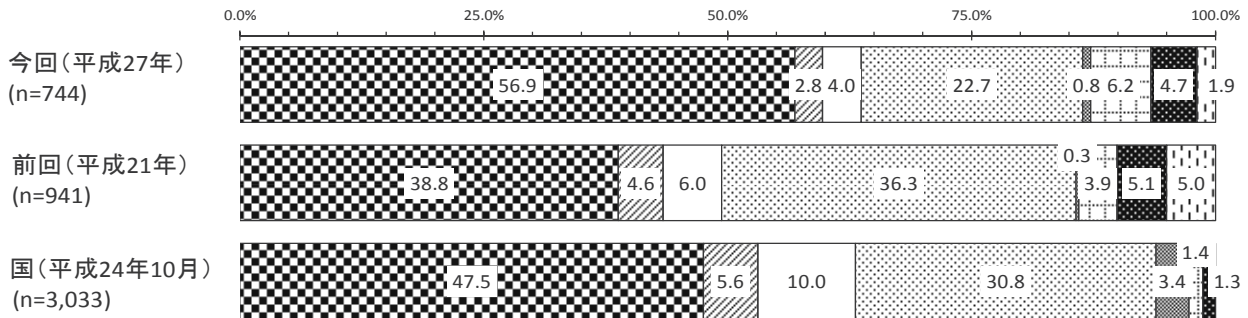
* 仕事を辞めた理由<その他>

- ◇ Uターンしたため。
- ◇ 教師をしていたが、子どもや保護者への対応が難しくなってきた精神にもつかれてきた。
- ◇ 結婚・転居のため。
- ◇ 雇用期間が決められていたため。
- ◇ 夫の仕事を手伝うため。
- ◇ さらに安定した職業に就職するため。
- ◇ 経済的なステップアップ。
- ◇ 核家族で子どもが病気の際や学校行事に休みを貰う為。又、お迎え時間が有り残業できない為。
- ◇ 看護師です。出産後復帰予定だったが、子どもが障がい児で他に見てくれる人もいないので復帰をあきらめるしかなかった。
- ◇ 病気。
- ◇ ケガ。
- ◇ 配偶者の勤務先が遠かった。
- ◇ やるべきことをやり満足したため。他にもやりたい仕事があったため。
- ◇ 役職定年のため。
- ◇ 原発事故の問題で、福島県外で働いた方が健康に良いと思ったため(当時)。
- ◇ 改めて学校へ通うことにした為。
- ◇ 残業が多すぎて帰りがいつも深夜になる。
- ◇ 離婚して母子家庭の時があった。
- ◇ 市町村合併により。
- ◇ マタニティハラスメント。
- ◇ 給料が少ない。

(3) 女性が仕事を持つことに対する考え方

問 10 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。
次の中からあなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つだけ)

- 職業は一生持ち続けるほうがよい
- ▣ 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- ▤ 子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- ▤ その他
- わからない
- 無回答



※国(平成24年10月)の選択肢は「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」「女性は職業を持たないほうがよい」「その他」「わからない」。無回答は集計していない。

女性が仕事を持つことについて「職業は一生持ち続けるほうがよい」との回答が56.9%と最も多い。前回(平成21年)は、「職業は一生持ち続けるほうがよい」と「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」が4割弱で拮抗しており、「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」を合わせると、結婚・出産を機に仕事を辞めた方がよいという意見が多かった。

「職業は一生持ち続けるほうがよい」という県民の意見は、国の調査(平成24年)の「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」という意見を上回っている。

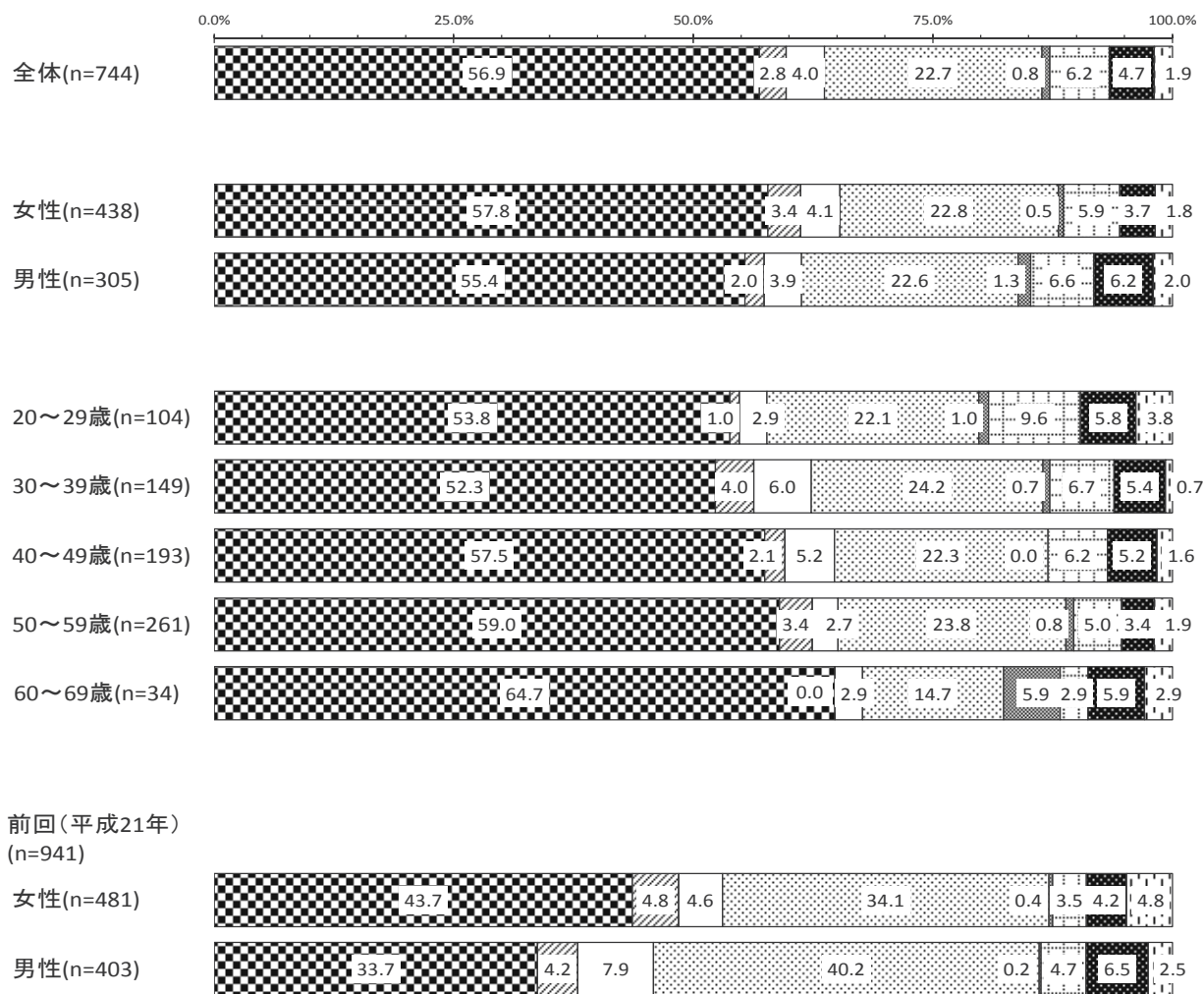
男女とも、女性が仕事を持つことについて「職業は一生持ち続けるほうがよい」が半数以上と最も多い。

前回(平成21年)は、「子どもができたなら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」が男女ともに多く、男性では最も多かったが、今回は大きく減少した。

年代別では、年齢が高いほど「職業は一生持ち続けるほうがよい」の割合が高い。

① 女性が仕事を持つことに対する考え方<男女別・年齢別>

- 職業は一生持ち続けるほうがよい
- ▨ 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- ▩ 子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答

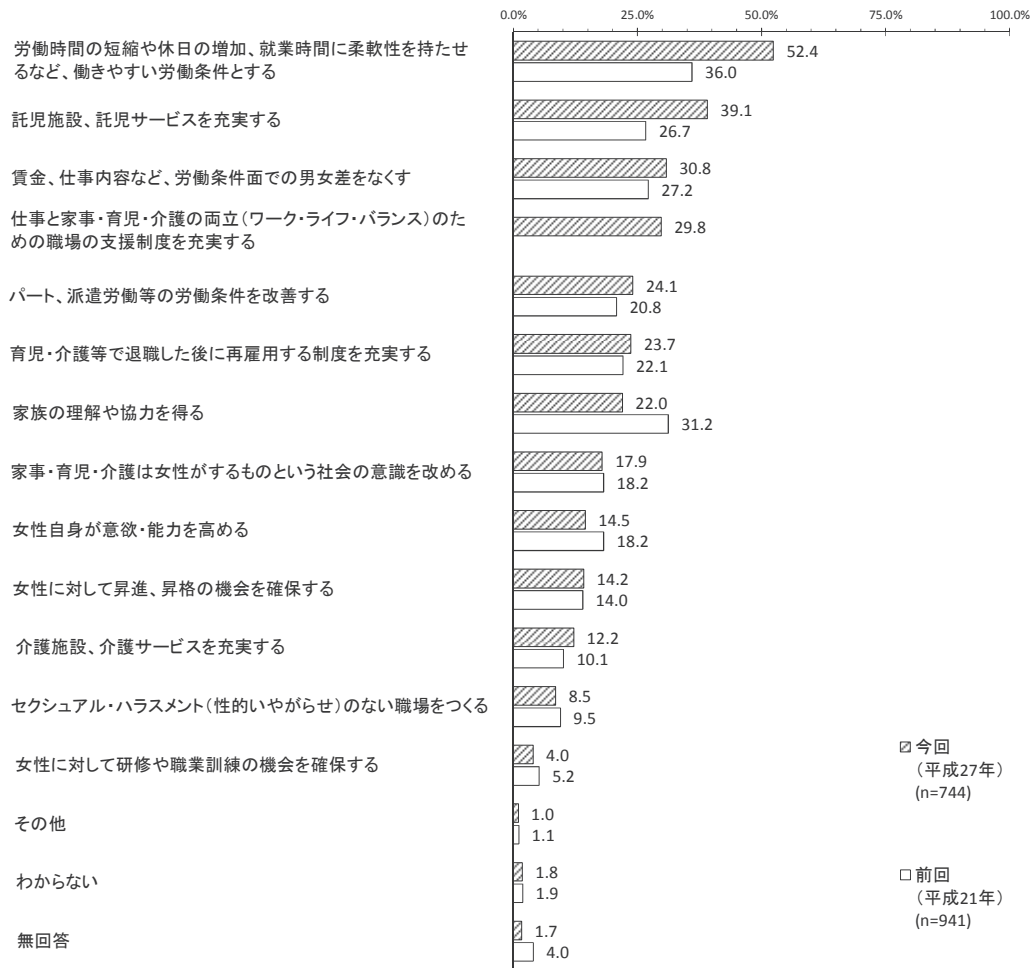


* 女性が仕事を持つことに対する考え方<その他>

- ◇ 家計に合わせた労働形態を選ぶ。
- ◇ 子どもができてもある程度続ける方がいい。
- ◇ 働ける場所があれば子どもがいても働き、辞めたくなくなったら終われば良いんじゃないですか。
- ◇ 状況も含め自分で決めること。ただ働いた方が社会性は身につくと思う。
- ◇ 世帯収入によって。無理に働く必要はない（本人が望まないならば）。
- ◇ 自分で判断して決めることなので、仕事して育児もしているし個々の考えです。
- ◇ その人の人生はその人が決めることである（女性だからと分けて考えるのが差別である）。多様な選択を受け入れられる社会。
- ◇ 一度は経験した方がよい。
- ◇ その時々状況により、職業を持つことが可能であれば職業を持って良いと思う。
- ◇ 働く必要があれば職につけばいいと思う。
- ◇ 結婚、とくに子育ての時、両立して働けるか、負担が女性の方が多くなると思うので……。私は母がいたから働けたけど、両立は出来ないかなあ……。
- ◇ 一人一人の女性に応じて状況は違うと思うので、本人が納得して決めれば良い。
- ◇ 就業したい時期に自由に就職すればよい。
- ◇ パート、フルの違いがあれば社会とのつながりはあった方がよい。
- ◇ 働きやすい環境を作ってください。ただ、小さい子どもは、家に帰って親がいないのは、さびしい経験であり、むずかしい問題だと思います。
- ◇ 家庭によって、その状況で必要な選択をしていけばいいと思う。
- ◇ 子どもが出来たからといって会社を辞める必要はないが、現社会では厳しい。女性に易しくない。辞めざるを得ないケースが多いのではないかな？再雇用が良い。スキルも生かせる。
- ◇ 働ける状況であれば職業を持ち続けるほうが良い。
- ◇ 子どもができたら仕事を縮小し、子どもが大きくなるにつれて増やす。
- ◇ いつまでなどは関係なく、本人が続けたい限り仕事を続ければ良いと思う。仕事によっても違う。
- ◇ 職業を持つというより地域社会と関わりを持つこと。ボランティアなどでもよい。
- ◇ 家庭と仕事の両立ができて、経済的にも恵まれていれば、人とのコミュニケーションもかねて、少しでも持つほうがいいと思う。
- ◇ 社会全体で子育てする人間を応援して、子育てしている人を仕事から離れなくても良い社会風土に出来ればいいと思う。

(4) 女性が働き続けるために必要なこと

問 11 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。
特に重要だと思うものを選んでください。(〇は3つまで)



前回調査(平成21年)では「仕事と家事・育児・介護の両立(ワーク・ライフ・バランス)のための職場の支援制度を充実する」の選択肢はない。

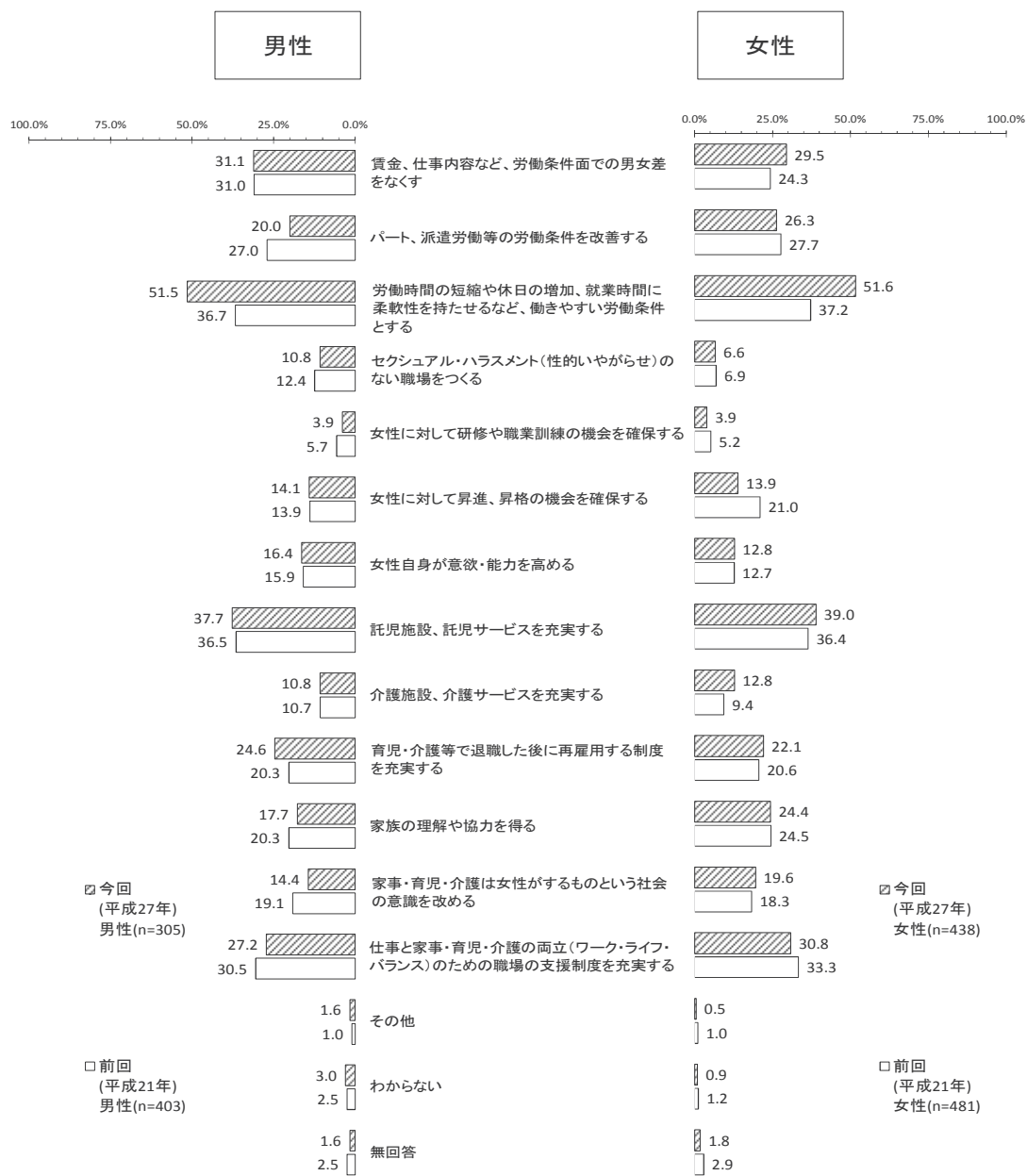
女性が働き続けるために必要なこととして「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」が52.4%と最も多い。次いで「託児施設、託児サービスを充実する」(39.1%)、「賃金、仕事内容など労働条件面での男女差をなくす」(30.8%)など、労働条件、労働環境を改善する項目の割合が高くなっている。前回(平成21年)多かった「家族の理解や協力を得る」は減少しており、理解が広がったことがうかがわれる。

男女とも、女性が働き続けるために必要なこととして「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする」(女性51.6%、男性51.5%)が最も多い。次いで「託児施設、託児サービスを充実する」(女性39.0%、男性37.7%)をあげている。

前回(平成21年)にくらべ、労働条件を改善する項目の割合が高くなっているが、「女性に対して昇進、昇格の機会を確保する」を回答した女性の割合は減少している。

年代別では、20～29歳で「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場をつくる」、30～39歳で「託児施設、託児サービスを充実する」、40～49歳で「パート、派遣社員の労働条件を改善する」、50～59歳で「家族の理解や協力を得る」、60～69歳で「仕事と家事・育児・介護の両立(ワークライフ・バランス)のための職場の支援制度を充実する」が多く、それぞれの年代が抱える問題を反映している。

①女性が働き続けるために必要なこと<男女別・年齢別>



(単位: %)

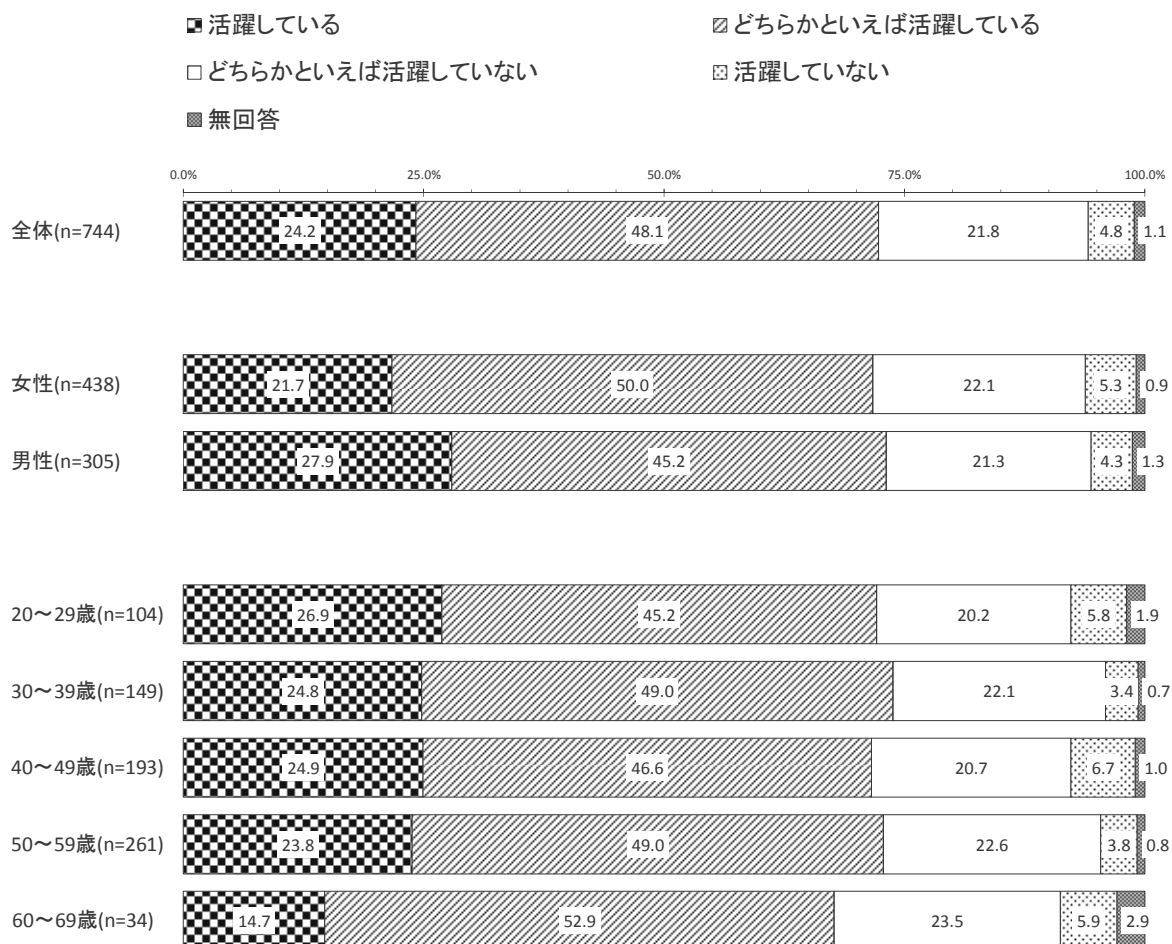
	賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する	女性に対して昇進、昇格の機会を確保する	女性自身が意欲・能力を高める	託児施設、託児サービスを充実する	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家族の理解や協力を得る	家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	仕事と家事・育児・介護の両立(ワーク・ライフ・バランス)のための職場の支援制度を充実する	その他	わからない	無回答
20~29歳(n=104)	33.7	22.1	54.8	15.4	1.9	18.3	12.5	42.3	6.7	26.9	21.2	16.3	32.7	0.0	1.9	2.9
30~39歳(n=149)	29.5	21.5	56.4	10.7	4.7	14.1	10.7	50.3	9.4	27.5	18.1	12.1	30.2	0.7	2.0	0.7
40~49歳(n=193)	28.0	30.6	50.3	6.7	3.1	13	14.0	35.2	14.0	22.3	17.1	21.2	28.0	2.1	1.6	1.6
50~59歳(n=261)	31.8	21.5	48.7	6.1	3.8	14.2	15.3	33.3	14.2	20.7	28.0	19.2	27.6	0.8	1.9	1.9
60~69歳(n=34)	26.5	17.6	47.1	2.9	11.8	5.9	29.4	32.4	8.8	20.6	17.6	8.8	35.3	0.0	0.0	2.9

前回調査(平成21年)では「仕事と家事・育児・介護の両立(ワーク・ライフ・バランス)のための職場の支援制度を充実する」の選択肢はない。

5. 女性の活躍促進

(1) 女性の活躍状況

問 12 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(〇は1つだけ)



「活躍している計」と「活躍していない計」の割合
(単位: %)

	活躍している計	活躍していない計
女性は仕事や地域活動で活躍していると思うか	72.3	26.6

* 「活躍している計」及び「活躍していない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

「活躍している」「どちらかといえば活躍している」を合わせると 72.3%が、女性は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

女性より男性のほうが、「活躍している」と回答した割合が高い。

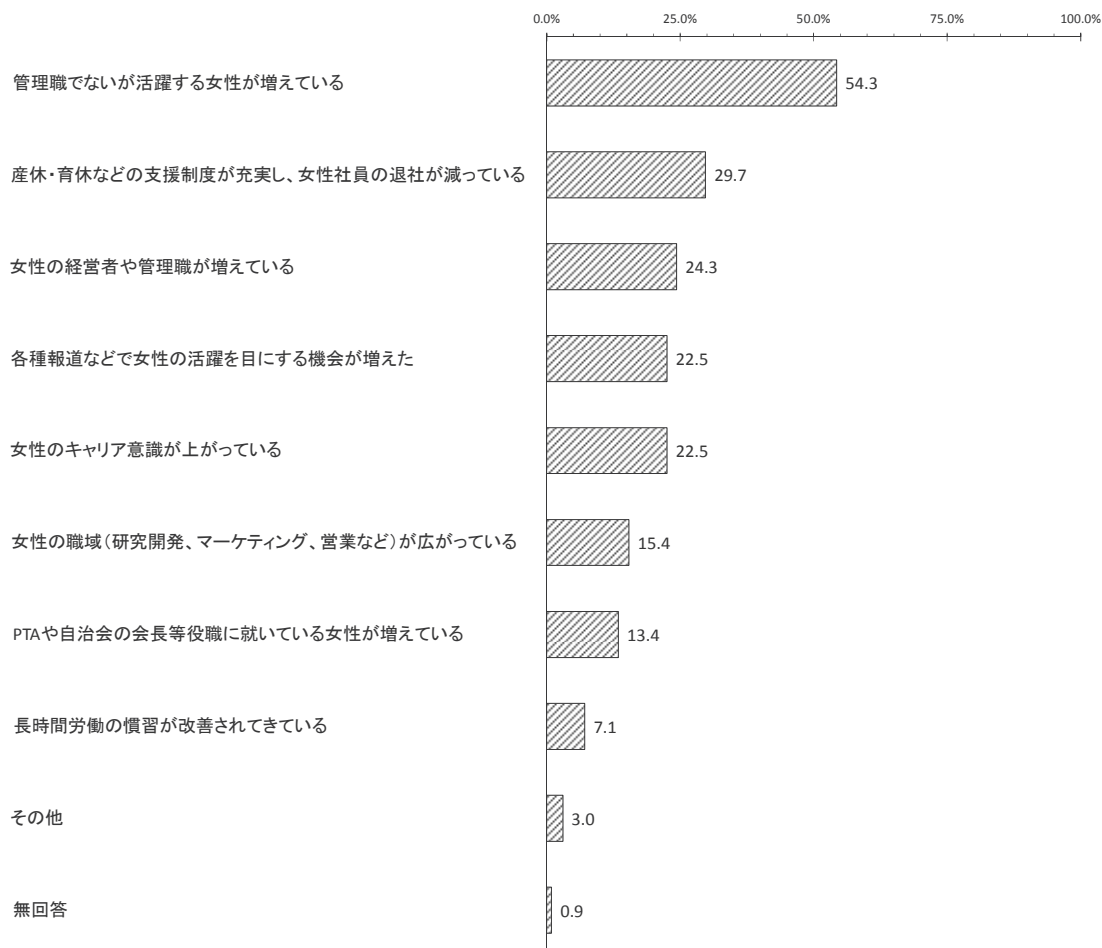
年齢別では、60～69歳で「活躍している」の割合が少ないものの、「活躍している」「どちらかといえば活躍している」を合わせた割合はどの年齢も7割以上と高い。

①女性が活躍していると感じる理由

(問 12 補助質問 1 問 12 で 1 「活躍している」、2 「どちらかと言えば活躍している」を回答した方だけにお聞きします)

活躍していると感じている理由は何ですか。(〇は3つまで)

(n=538)



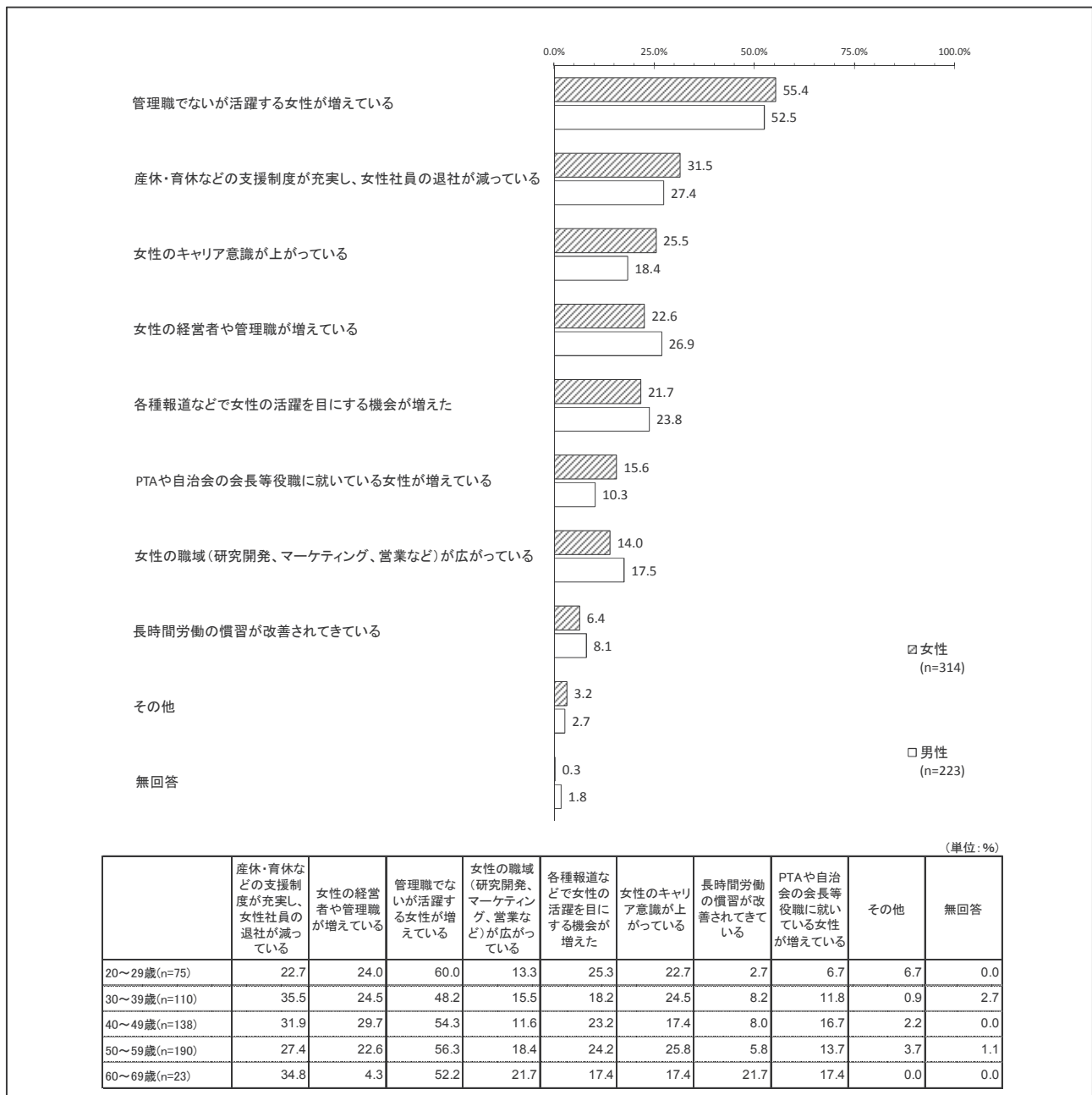
女性が仕事や地域活動で活躍していると感じる理由としては、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が最も多く 54.3%である。

「女性の経営者や管理職が増えている」は 24.3%であることから、役職に関係なく自身が活躍しているか、そのような女性が身近に多いことがうかがえる。

男女別にみると、男女とも「管理職でないが活躍する女性が増えている」(女性 55.4%、男性 52.5%)が最も多い。女性は「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」(31.5%)ことも理由であると感じている人が多い。

年齢別では、20～29歳で「管理職でないが活躍する女性が増えている」、30～39歳で「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている」、40～49歳で「女性の経営者や管理職が増えている」、60～69歳で「PTAや自治会長の会長等役職に就いている女性が増えている」など、それぞれの年齢の回答者の身近にいる女性が活躍している様子がうかがえる。

②女性が活躍していると感じる理由<男女別・年齢別>



*女性が活躍していると感じる理由<その他>

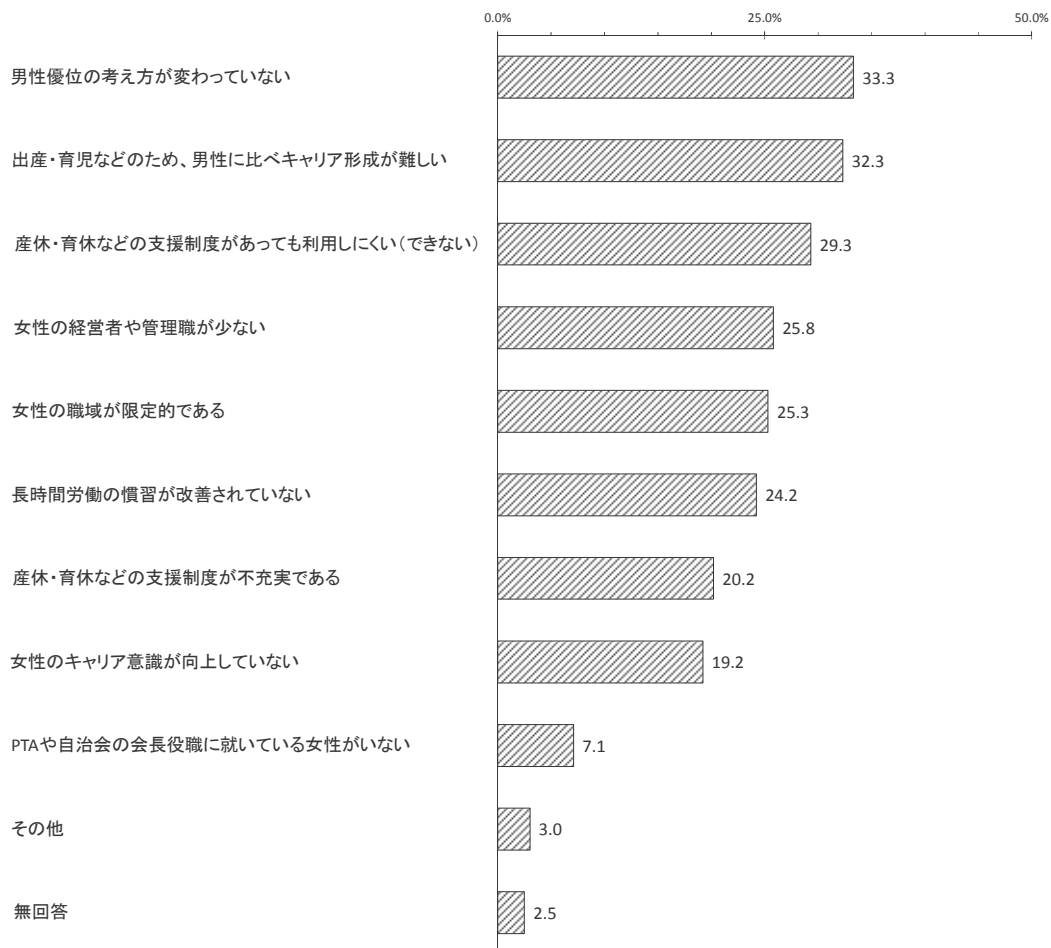
- ◇ 安倍総理が女性の社会進出について取り組んできたから。
- ◇ 町おこしのような活動で女性の活躍が目立つ。
- ◇ とり組の付き合いをスムーズにやっている。
- ◇ 休みなしで働く飲食業界従事者が多い。
- ◇ 家事、育児、仕事、町内会、子ども会を両立している。
- ◇ あちこちで女性(働いている)を見る気がする。
- ◇ 転職しても前職を活かして活躍する女性が増えている。
- ◇ 個人の努力が周囲を変える。
- ◇ 自分自身が何をどれだけ頑張るかという事であり、依存性がなく自分自身で開拓している。
- ◇ ボランティア活動をしている。
- ◇ フリーランスな仕事をしている女性を多く見る。

③女性が活躍していないと感じる理由

(問 12 補助質問 2 問 12 で 3 「どちらかと言えば活躍していない」、4 「活躍していない」を回答した方だけにお聞きします)

活躍していないと感じている理由は何ですか。(〇は3つまで)

(n=198)

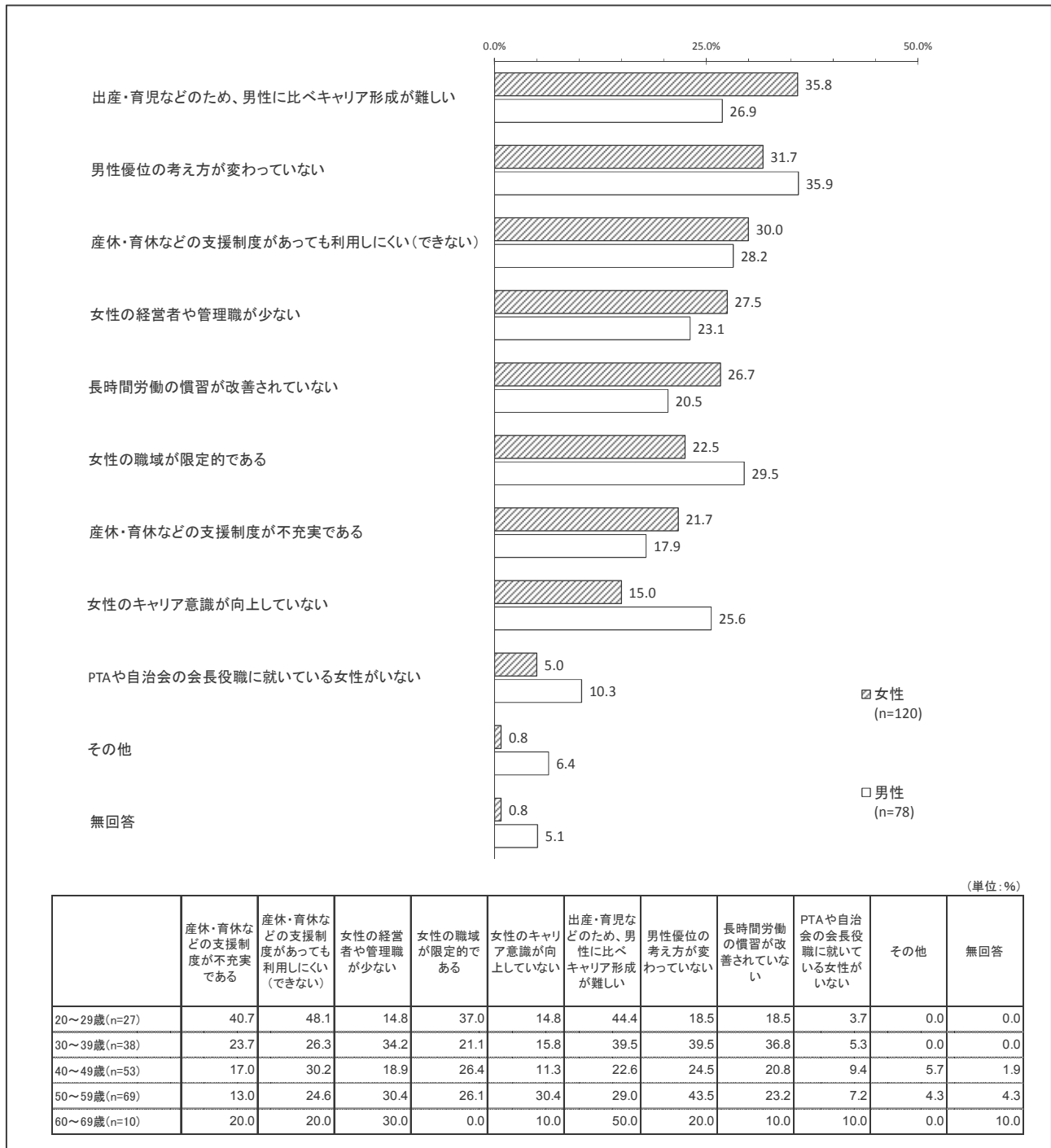


女性が仕事や地域活動で活躍していないと感じる理由としては、「男性優位の考え方が変わっていない」が最も多く 33.3%である。次いで「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が 32.3%、「産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい(できない)」29.3%などである。

男女別にみると、女性は「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」(35.8%)、男性は「男性優位の考え方が変わっていない」(35.9%)が最も多い。女性では「産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい(できない)」も 30.0%と多く、出産・育児などが活躍できない理由になっていると考えている。一方男性は、「女性の職域が限定的である」(29.5%)など、社会構造や意識が障害と考えている。

年齢別では、若い世代ほど出産・育児が活躍できない理由と考えている。

④女性が活躍していないと感じる理由<男女別・年齢別>



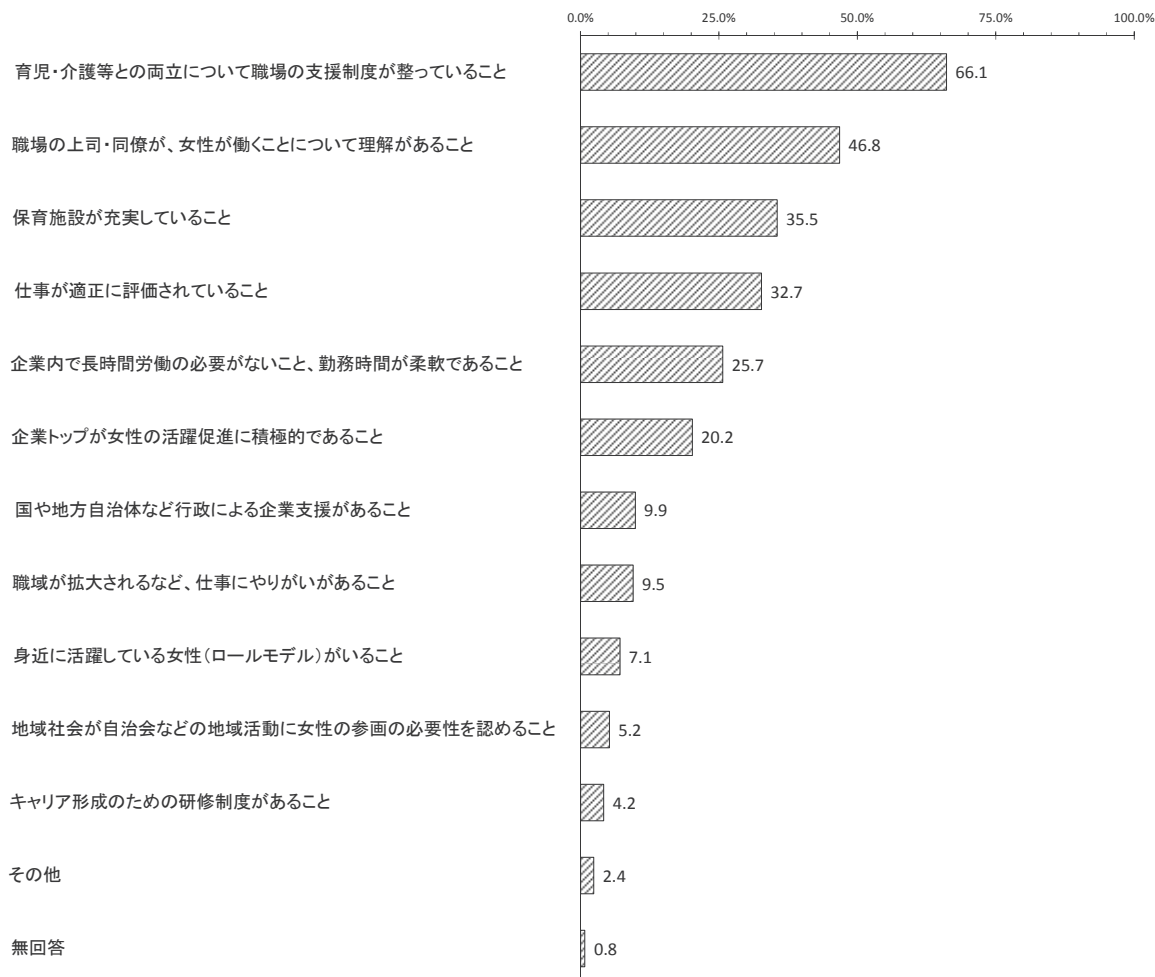
*女性が活躍していないと感じる理由<その他>

- ◇ 家族につくす事に専念する為。
- ◇ 生理的に男女に差がある。
- ◇ 何をもちて活躍といっているのかわからない。家庭を守ることも立派な活躍だと思ふ。
- ◇ 女性が上にいくのはいいが、差別的なやりかた、会社が世の中に良い風にもせるやり方は、中がこわれる。
- ◇ 夫に責任を求めないで女性を理由に活躍していない。

(2) 女性の活躍に必要なこと

問13 女性が活躍するには何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

(n=744)



女性が活躍するために必要なこととしては、「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が66.1%と最も多かった。次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(46.8%)、「保育施設が充実していること」(35.5%)、「仕事が適正に評価されていること」(32.7%)などである。

育児・介護などの家庭生活と両立する制度・環境の改善とともに、周囲の理解や評価など意識の改革も必要だと考えている。

男女別にみると、男女とも「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」(女性69.6%、男性61.0%)を最も多くあげている。次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(女性47.5%、男性45.9%)が多い。「仕事が適正に評価されていること」は女性では37.7%と多いが、男性では25.6%である。

「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」は、20～29歳、60～69歳で7割以上あり、育児・介護に携わっている年代の意識が反映されている。

①女性の活躍に必要なこと<男女別・年齢別>



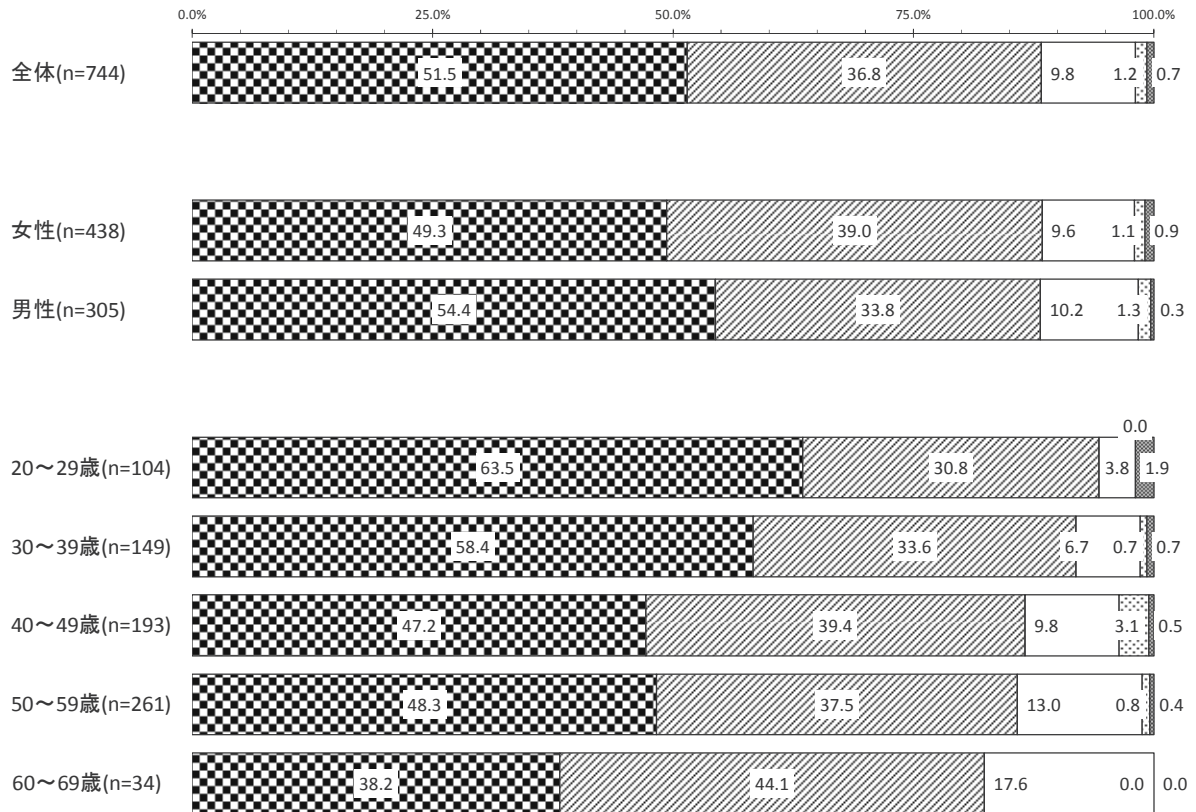
②女性の活躍に必要なこと<その他>

- ◇ 女性の意識向上、仕事の厳しさの認識。
- ◇ 女性の努力。
- ◇ 甘えをなくす。
- ◇ 就職口が必要。
- ◇ 女性を画一的に扱わない社会風土の形成。
- ◇ 家族、身近な人の協力、理解。
- ◇ 男女に生理的な差がある為、女性向な雇用（職種）の場。
- ◇ 学歴ではなく学力に差はないことを認めること。
- ◇ 育児や介護などの個々人が抱える問題をハローワーク的な組織が支援する（就職だけでなく仕事の質に介入）。
- ◇ 本当に実力のある人を正当に評価しポストに就けること。

(3) 男性の育児休暇取得への賛否

問 14 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。(○は1つだけ)

■ 賛成 ▨ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対 ▩ 反対 ■ 無回答



「賛成計」と「反対計」の割合 (単位: %)

	賛成計	反対計
男性の育児休暇取得についてどう思うか	88.3	11.0

* 「賛成計」及び「反対計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

男性が育児休暇を取得することについて「賛成」(51.5%)と「どちらかといえば賛成」(36.8%)を合わせると9割近くが「賛成」と考えている。

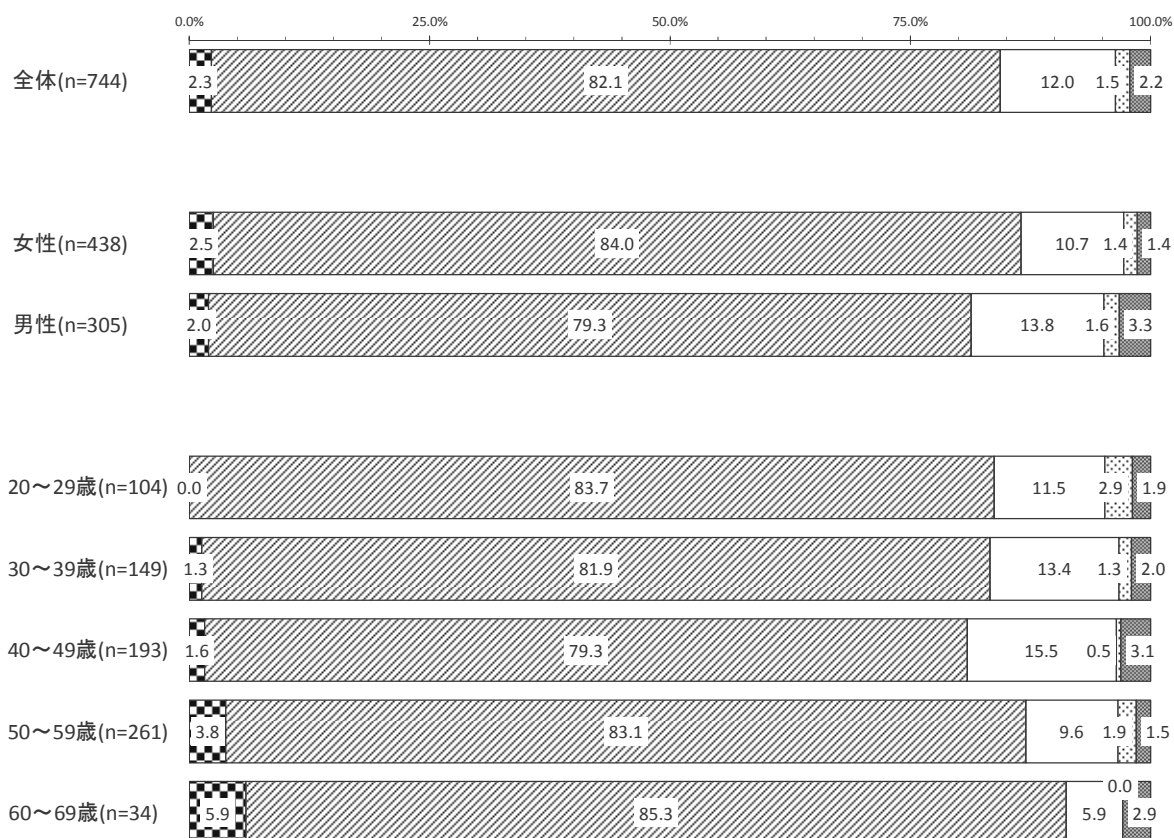
男女とも賛成計は同程度だが、積極的に「賛成」と考えているのは、女性より男性の割合が若干高い。

年齢別では、若い世代ほど「賛成」の割合が高い。

(4) 出産・育児の際の望ましい選択

問 15 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。
(○は1つだけ)

- 早期に復職し、仕事に専念する
- ▨ 職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する
- 退職し、育児を終えてから再就職する
- ▤ 退職し、専業主婦になる
- 無回答



働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思うかでは、「職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する」が、82.1%と最も多い。「早期に復職し、仕事に専念する」は2.3%と少ない。

男女別では、男性の「退職し、育児を終えてから再就職する」(13.8%)の割合が、女性(10.7%)より高い。

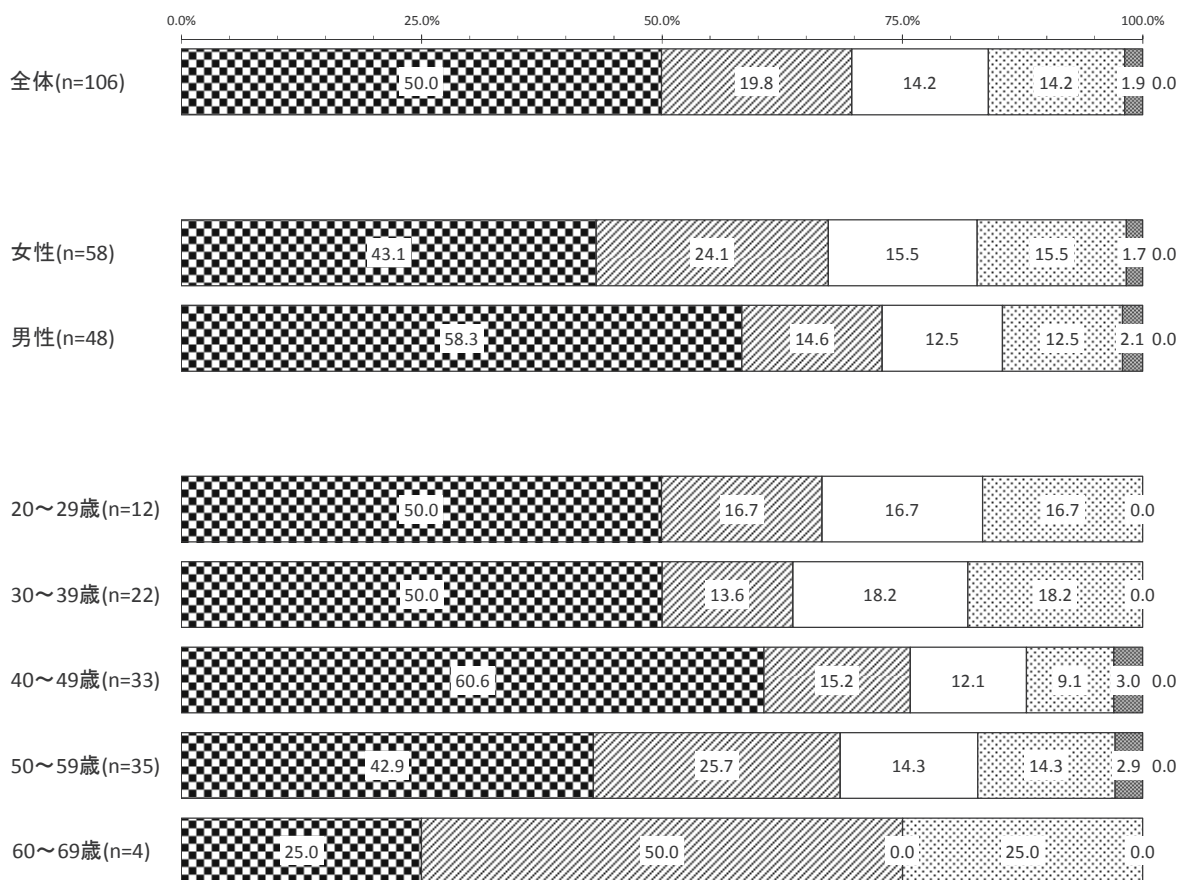
どの年齢でも「職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する」が8割程度と多い。

①復職・再就職する際に必要な支援

(問 15 補助質問 問 15 で 1 「早期に復職し、仕事に専念する」または 3 「退職し、育児を終えてから再就職する」を回答した方にだけお聞きします)

復職・再就職する際どのような支援が必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

- 短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい体制
- ▣ 保育サービス供給体制の整備・充実
- スムーズに復職できる復職前研修制度
- ▤ 再就職の再チャレンジや起業のための研修制度
- その他
- 無回答



復職・再就職する際に必要な支援としては、「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい体制」が最も多く 50.0%である。

女性では「保育サービス供給体制の整備・充実」も 24.1%と多い。

各年齢別でも「短時間勤務やフレックスタイムなどの働きやすい体制」が多いが、20代、30代では復帰前研修や再就職・起業のための研修などの研修制度の充実、40歳以降では労働や支援体制の整備を求める傾向がみられる。

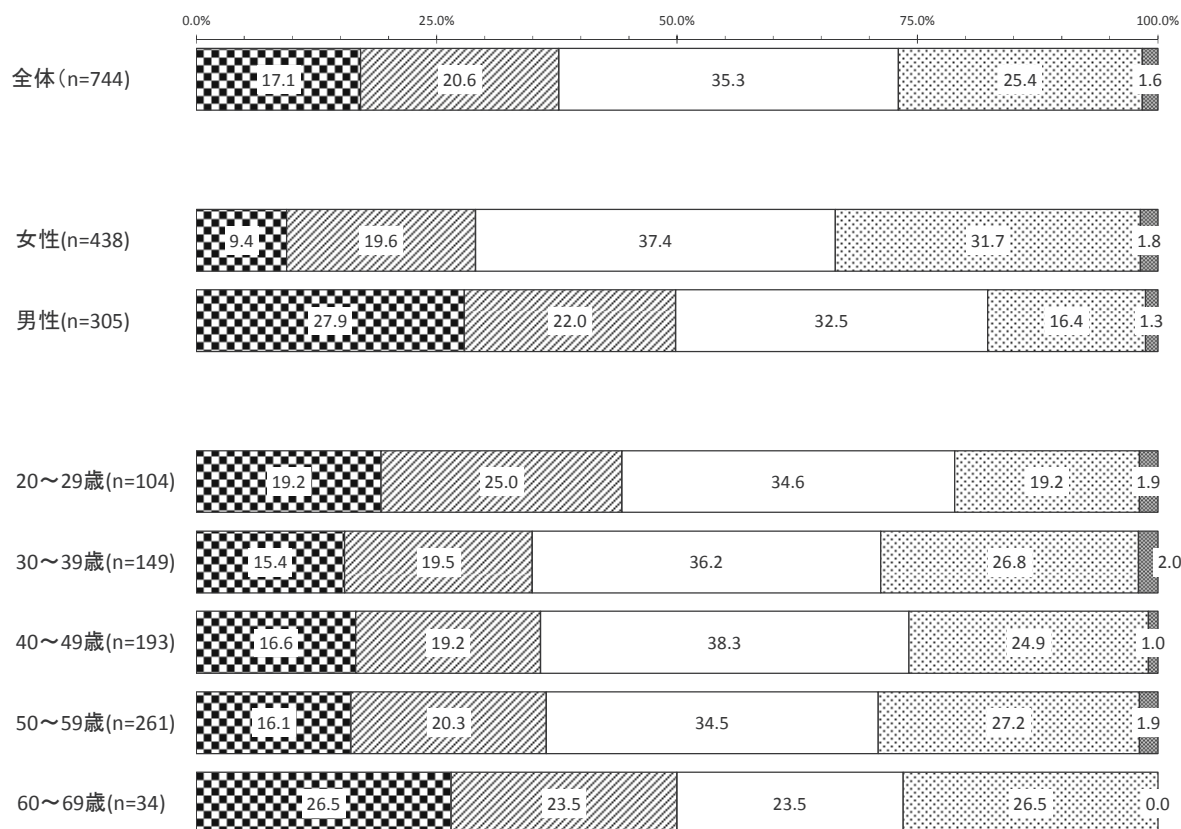
* 復職・再就職する際に必要な支援<その他>

◇ 夫の理解と協力。

(5) リーダー・管理職への意欲

問 16 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)

■ なりたい ▨ できることならなりたい □ できることならなりたいくない ▩ なりたくない ■ 無回答



「なりたい計」と「なりたくない計」の割合

(単位: %)

	なりたい計	なりたくない計
リーダー・管理職になりたいと思うか	37.6	60.8

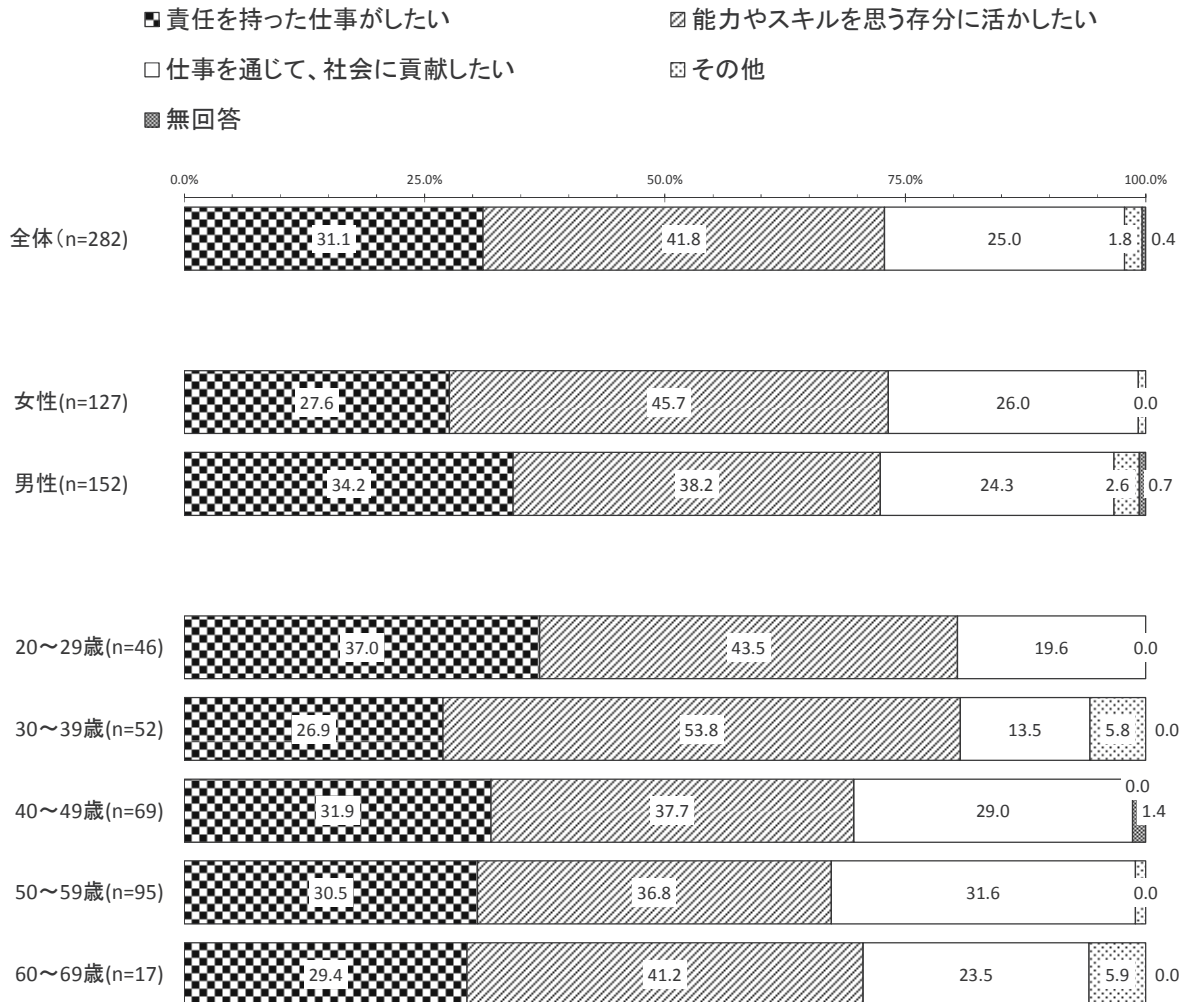
* 「なりたい計」及び「なりたくない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

リーダー・管理職に「なりたい」「できることならなりたい」を合わせた割合は37.6%、「できることならなりたいくない」「なりたくない」を合わせた割合は60.8%と、「なりたくない」が「なりたい」を大きく上回っている。

①リーダー・管理職になりたい理由

(問 16 補助質問 1 問 16 で 1 「なりたい」または 2 「できることならなりたい」を回答した方にだけお聞きします)

なぜなりたいと思いますか。(○は 1 つだけ)



リーダー・管理職になりたい理由としては、男女別、年齢別全てで、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が多く、特に 30~39 歳では 53.8% と多い。

男性に比べ女性のほうが、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」の割合は高い。

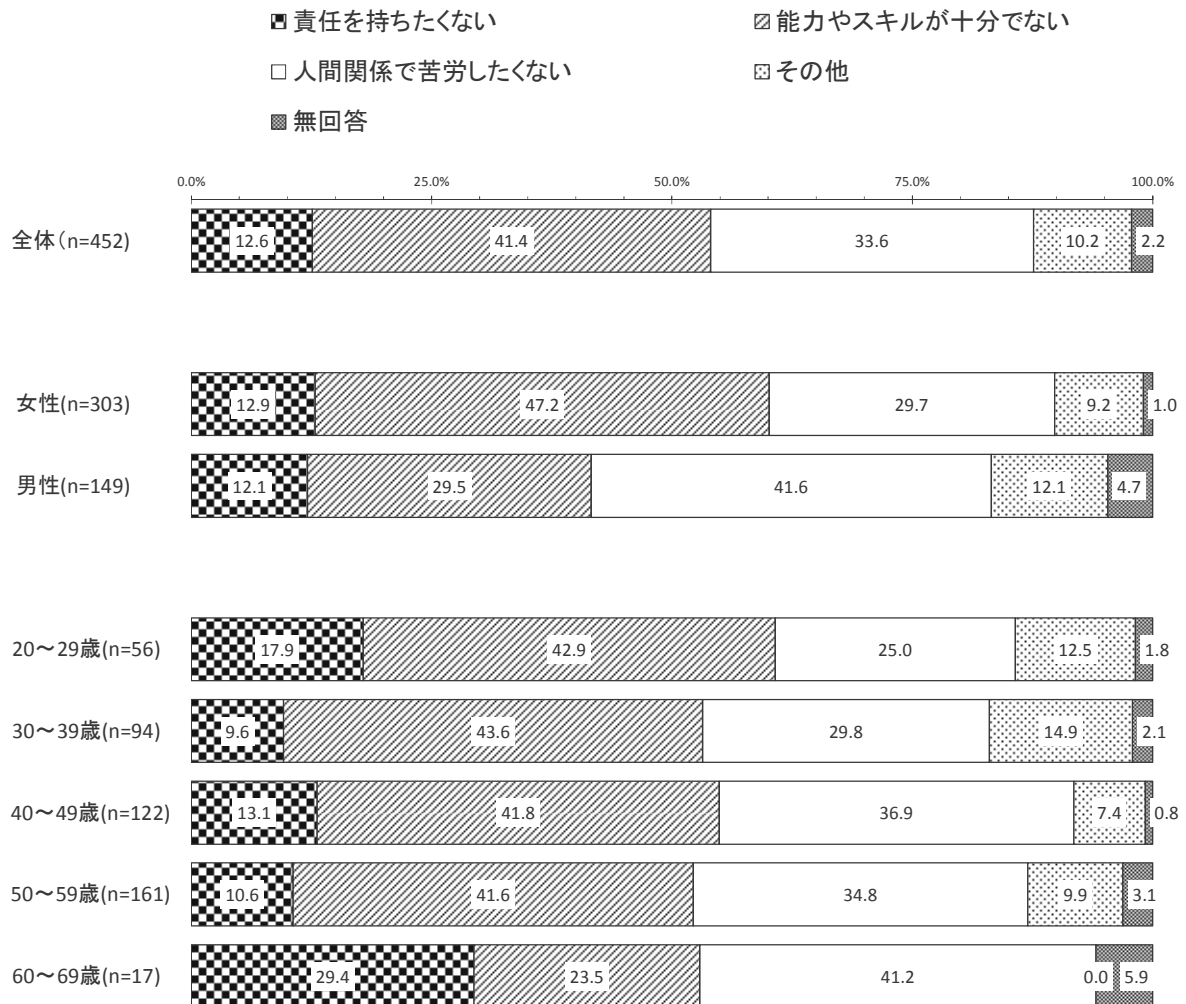
40 歳以降では、「仕事を通じて、社会に貢献したい」という割合も高くなる。

* リーダー・管理職になりたい理由<その他>

- ◇ できるだけ賃金の高い仕事がしたい。
- ◇ 管理職になることを目標とする。

②リーダー・管理職になりたくない理由

(問 16 補助質問 2 問 16 で 3 「できることならなりたくない」または 4 「なりたくない」を回答した方にだけお聞きします)
なぜなりたくないと思いますか。(○は 1 つだけ)



リーダー・管理職になりたくない理由として、女性は「能力やスキルが十分でない」が 47.2%と最も多いが、男性では「人間関係で苦労したくない」が 41.6%と最も多い。

年齢別では、50代までは「能力やスキルが十分でない」が最も多く、次いで「人間関係で苦労したくない」が多いが、60代では「人間関係で苦労したくない」が最も多く、次いで「責任を持ちたくない」が多い。

* リーダー・管理職になりたくない理由<その他>

- ◇ 職場に、それだけのミリオクを感じない為。
- ◇ 正しいことを行いたい、管理職は政治的理由により常に正しくない選択を行わざるを得ないから。
- ◇ 自分の置かれている立場でも充分自分の力を発揮できる。
- ◇ 職人と言われる仕事なので、管理となると仕事の内容が変わるので。
- ◇ 管理職になってからの結婚、出産が躊躇してしまう。産休・育休中の後任の育成が困難。
- ◇ デメリットのほうが大きい。責任のみ重く、労働時間が長く、低賃金。

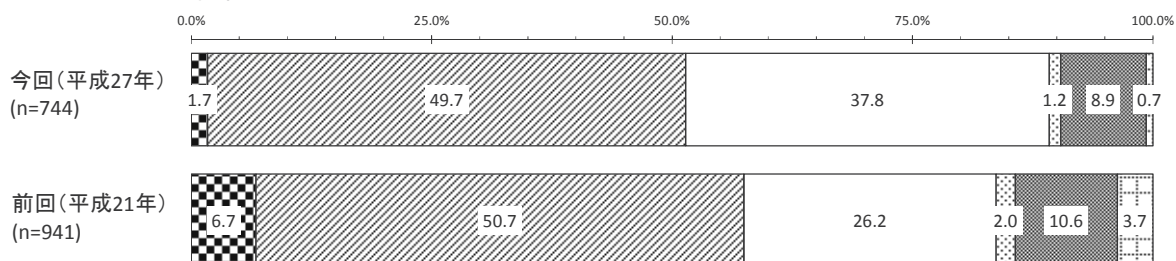
- ◇ 動き方に自由がきかなくなる。
- ◇ 支える立場の方がいい。
- ◇ 自己の介護休暇等がポストにつくと取りにくい。
- ◇ 子どもがいては無理。
- ◇ 事務職＝管理職に向いておらず、元々体を動かす仕事だったので。
- ◇ 仕事より家庭を優先したいから。
- ◇ 時間に追われる事はしたくない。
- ◇ 今は家庭も両立したいので、責任を持てる時期まではつきたくない。
- ◇ 結婚や出産等、色々な環境変化や体の変化にも対応しなくてはならず、会社等でのストレスまで背負えないので。
- ◇ 仕事を1番に優先できないから。家庭のことを優先するしかない。
- ◇ 自分の会社の管理職の環境が悪いため。
- ◇ そこまで仕事に一生懸命になる気がないから。
- ◇ 管理職になるとサービス残業的な時間的拘束が長くなりがち。その時間があるなら家庭の事に使いたい。
- ◇ 人に指導する、指示を出すのがそもそも得意ではない。
- ◇ 結婚し子どもがいる以上、家庭との両立がむずかしい。子どもを産んだ以上成人するまで親は責任があるから。
- ◇ 無用の仕事が多く仕事量と評価が割に合わない。
- ◇ 管理するだけの仕事はしたくない。
- ◇ 役職へのこだわりはない。
- ◇ 持病があるので体力的に難しい。
- ◇ 子どもとの時間を優先したい。
- ◇ 私はあくまでも家庭が第一と考えているため、勤務時間が長くなったりすると困る。
- ◇ ますます忙しくなるため。

6. 介護

(1) 家族の介護方法

問 17 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は1つだけ)

- 行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)
- ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)
- 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)
- その他
- わからない
- 無回答



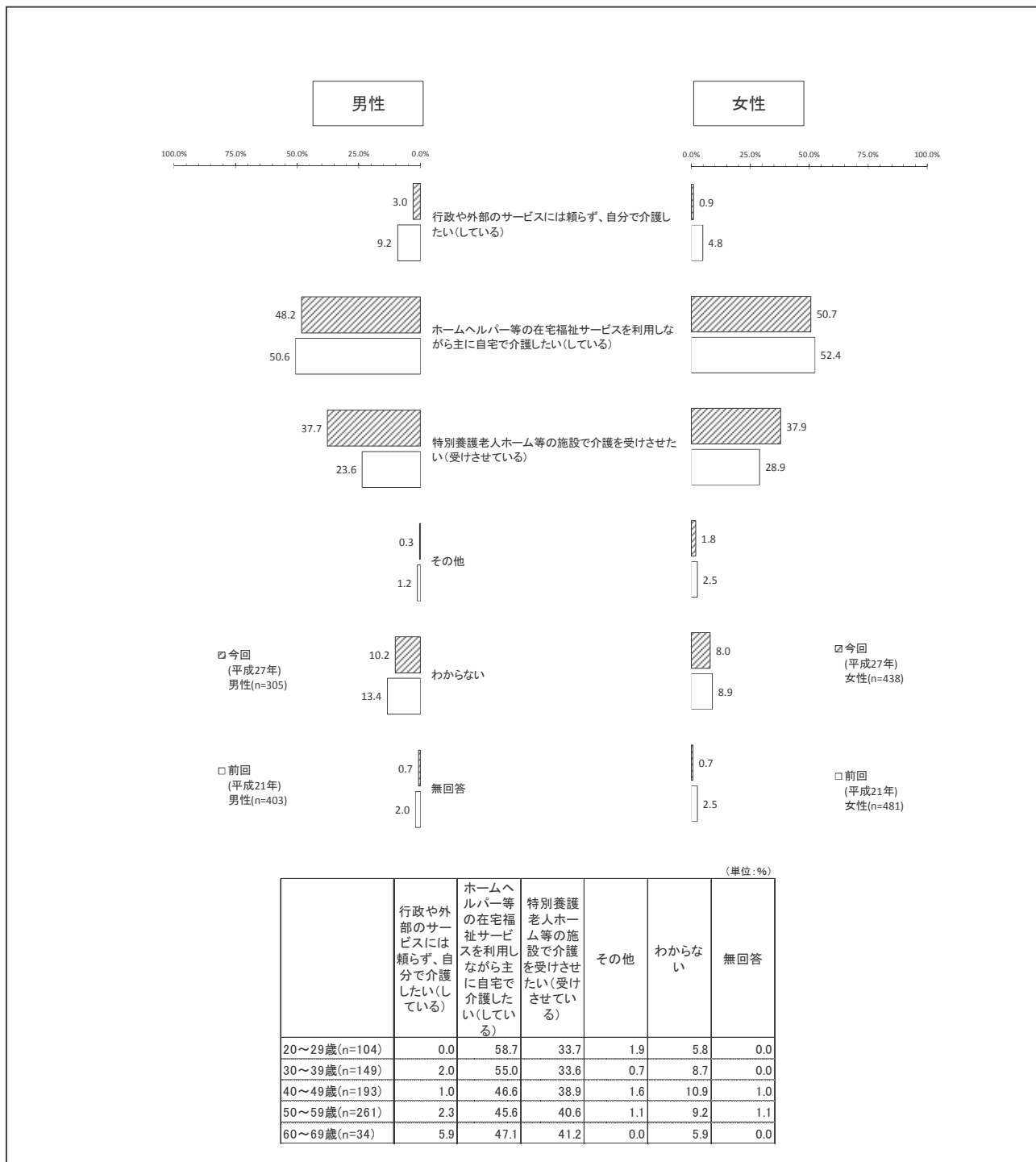
家族の介護方法として最も多いのは、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」で 49.7%である。次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」(37.8%)であるが、前回と比べ「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」が 11.6ポイント増加している。

前回 6.7%あった「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)」は、今回 1.7%と 5.0ポイント減少している。

男女別にみると、男女とも最も多いのは「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」(女性 50.7%、男性 48.2%)で、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」(女性 37.9%、男性 37.7%)であるが、前回(平成 21 年)と比べ「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」は減少し、「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」が増加している。

年齢が高くなるほど、「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)」の割合も増えるが、「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)」の割合も高くなる。

①家族の介護方法<男女別・年齢別>



* 家族の介護方法<その他>

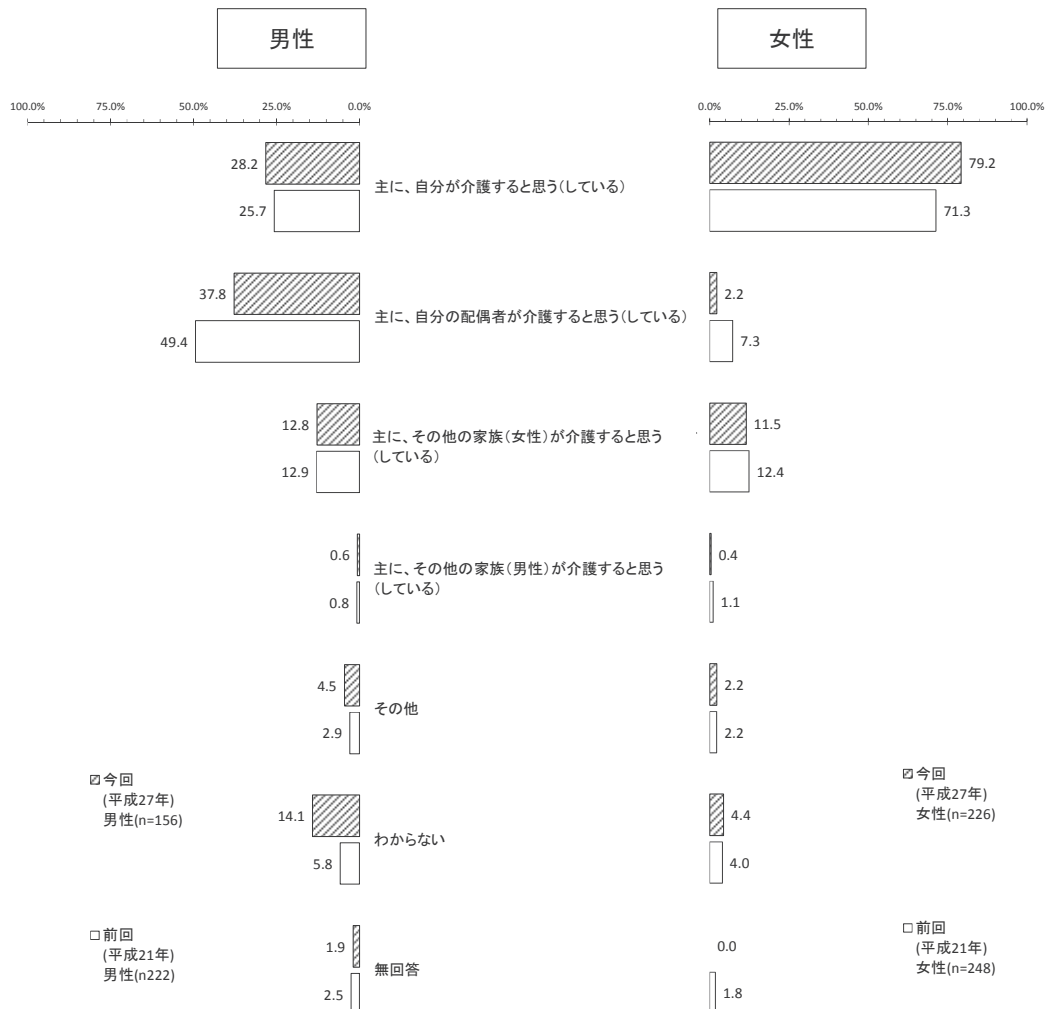
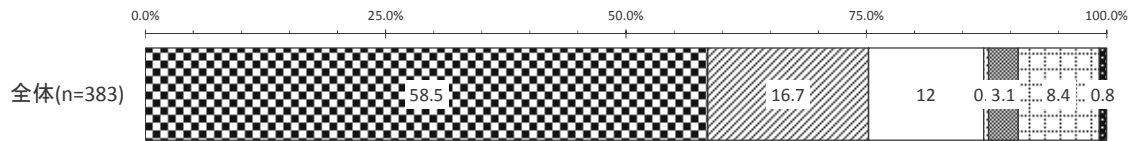
- ◇ 息抜きがしたいので、デイサービスなどを積極的に利用したい。親が自宅にいない時間があると助かる。
- ◇ 要介護本人の意向と周辺の状況を確認して決定したい。
- ◇ その時の本人の状態による。
- ◇ デイサービスなどに通わせたい。
- ◇ 国などでホームヘルパーさんなどを補助金などで手助けしてくれれば利用したい。
- ◇ 老人ホーム等使用したいが金額的にも本人の意思としても難しい。
- ◇ 状態によります。現在介護が始まったばかりです。今はまだ自宅で介護可能です。

②自宅で介護する主な介護者

(問17補助質問 問17で1「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)」または2「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)」を回答した方にだけお聞きします)

自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになると思いますか。(○は1つだけ)

- 主に、自分が介護すると思う(している)
- ▨主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)
- 主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
- ▨主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
- その他
- わからない
- 無回答



(単位: %)

	主に、自分が介護すると思う(している)	主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)	主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)	主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)	その他	わからない	無回答
20～29歳(n=61)	57.4	6.6	19.7	0.0	3.3	13.1	0.0
30～39歳(n=85)	62.4	17.6	8.2	1.2	3.5	5.9	1.2
40～49歳(n=92)	52.2	19.6	13.0	0.0	2.2	13.0	0.0
50～59歳(n=125)	58.4	19.2	12.0	0.8	2.4	5.6	1.6
60～69歳(n=18)	72.2	16.7	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0

自宅で介護する場合の主な介護者としては、「主に自分が介護すると思う(している)」が最も多く 58.5%である。次いで「主に自分の配偶者が介護すると思う(している)」(16.7%)である。

「主に自分が介護すると思う(している)」と回答したのは、男性より女性の割合が高く、「主に自分の配偶者が介護すると思う(している)」と回答したのは男性の割合が高い。自宅介護は主に女性が担っていることがうかがえる。

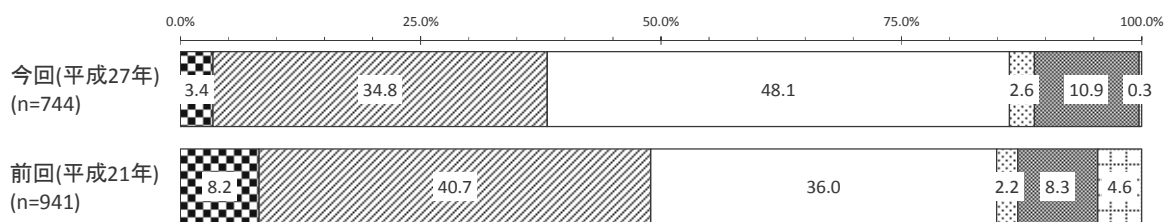
* 自宅で介護する主な介護者<その他>

- ◇ 自分と配偶者両方で。
- ◇ 家族で分担したい。行政サービス等をできるだけ利用していきたい。
- ◇ できる者が協力して行う。
- ◇ 夫婦共に交替で介護すると思う。
- ◇ 出来る時に出来る方がする。
- ◇ 兄弟(姉妹)で。

(2) 自分自身の介護

問 18 もしあなた自身が介護をしてもらう状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つだけ)

- 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい
- ▣ ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい
- 特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
- ▤ その他
- わからない
- ▤ 無回答

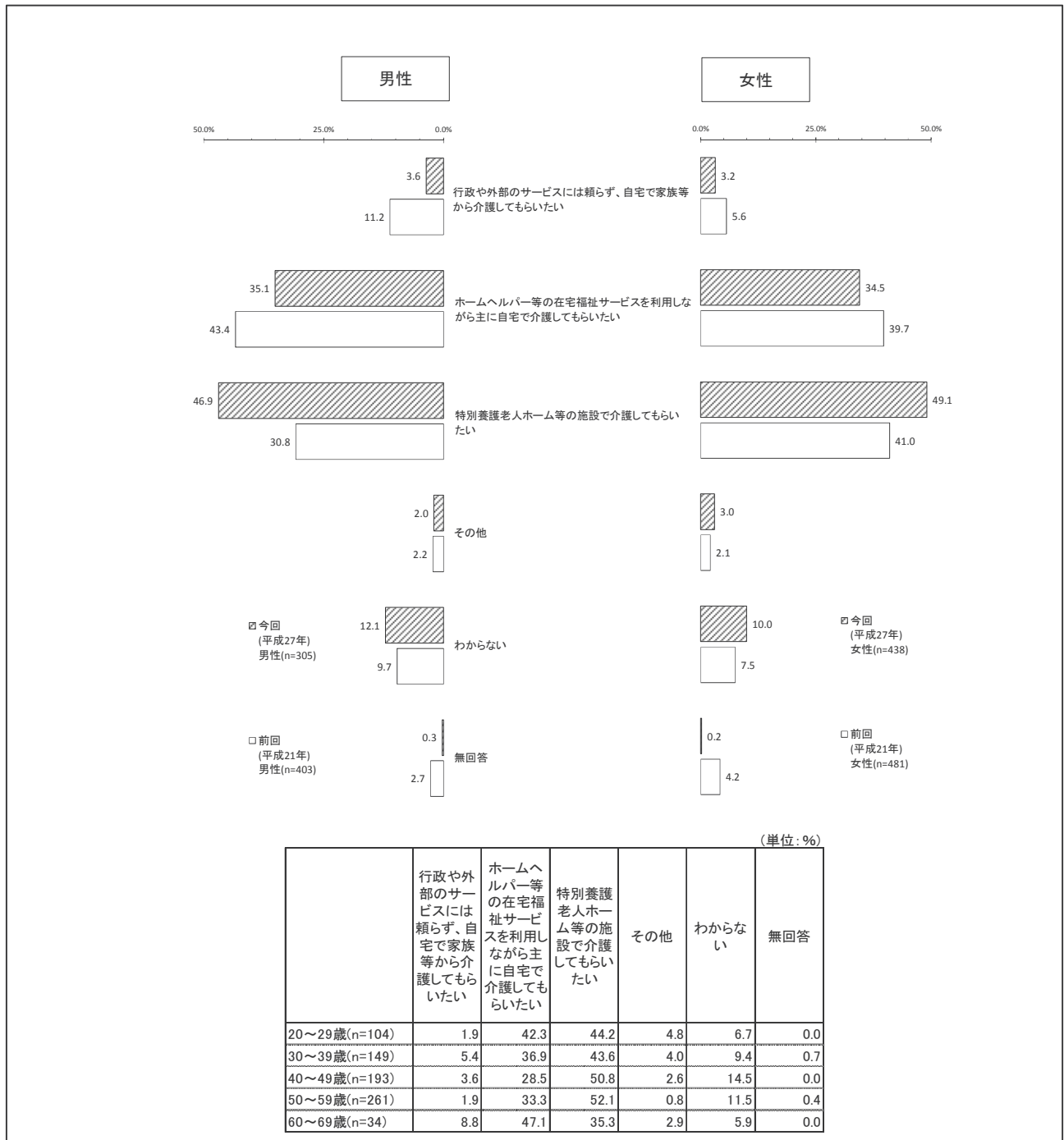


自分自身の介護方法として最も多いのは、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」で48.1%である。次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」(34.8%)である。前回(平成21年)と比べ「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」は減少し、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が増加している。

男女別にみると、男女とも「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」(女性49.1%、男性46.9%)で、次いで「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」(女性34.5%、男性35.1%)である。前回(平成21年)と比べ「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」は男女とも減少し、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」が増加している。

40～49歳、50～59歳は「施設で」、60～69歳は「自宅で」介護されることを望んでいる。

①自分自身の介護方法＜男女別・年齢別＞

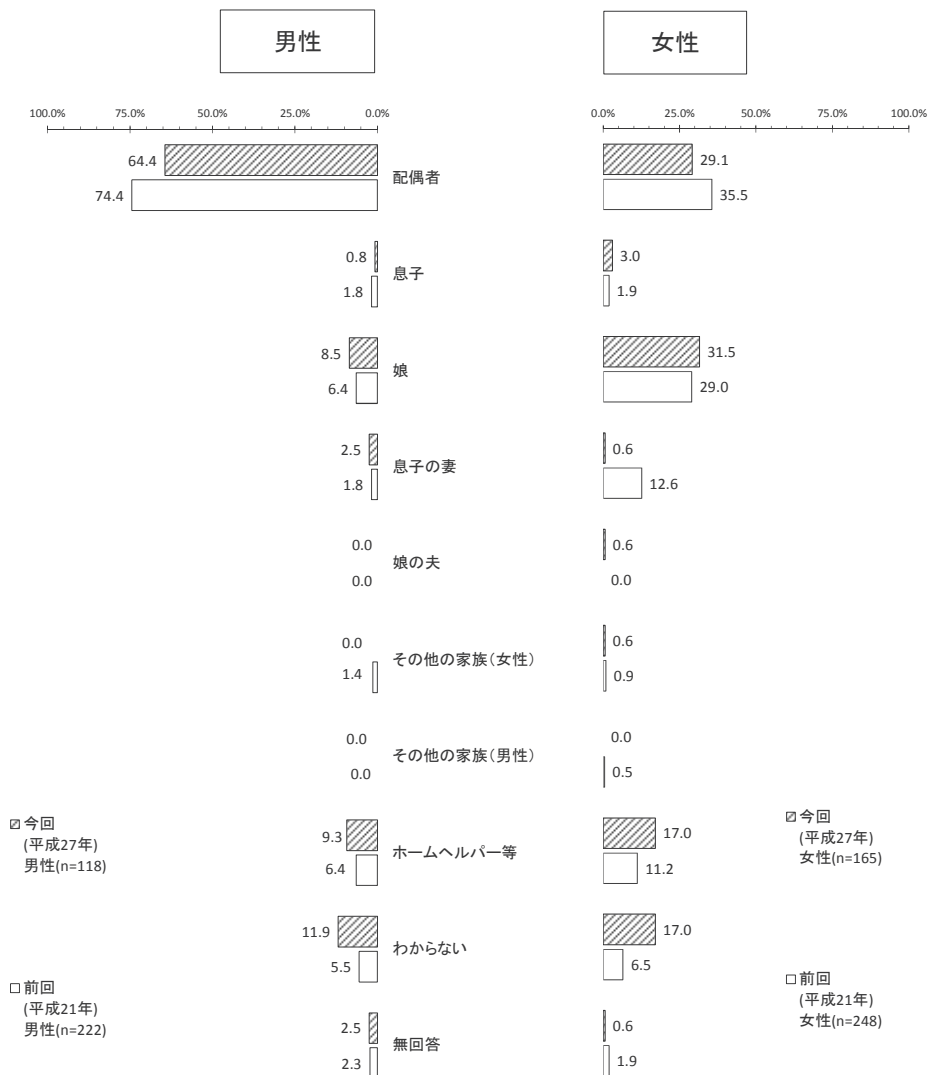
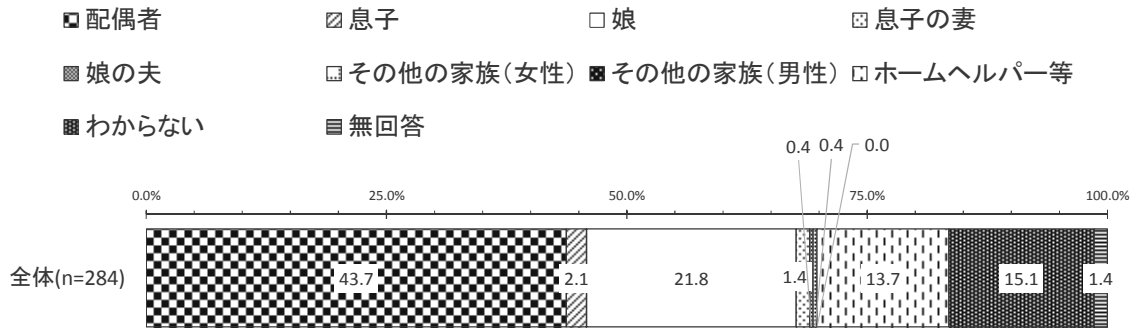


* 自分自身の介護方法＜男女別・年齢別＞

- ◇ 周囲の負担にならないのならば、何でもよい。
- ◇ 自分の意向と周囲の状況との協議で決定してほしい。
- ◇ 金銭面で可能なら施設で、家族に負担がかからないよう。
- ◇ 介護の程度により違うと思う。生活全てで介護が必要になった場合、家族のみでは無理があるので。
- ◇ その時の状態による。
- ◇ デイサービスや短期の滞在などを入れつつ、なるべく負担を少なくして自宅で介護してもらいたい。
- ◇ 施設介護は金銭的に難しいので、在宅福祉サービスを利用。
- ◇ 介護する方の意見を尊重。

②介護を頼みたい相手

(問 18 補助質問 問 18 で 1「行政や外部のサービスには頼らず、自分で家族等から介護してもらいたい」または 2「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」を回答した方にだけお聞きします)
 自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。(○は1つだけ)



(単位:%)

	配偶者	息子	娘	息子の妻	娘の夫	その他の 家族(女 性)	その他の 家族(男 性)	ホームヘルパー等	わからな い	無回答
20～29歳(n=46)	30.4	2.2	28.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	32.6	0.0
30～39歳(n=63)	42.9	1.6	17.5	1.6	1.6	0.0	0.0	15.9	15.9	3.2
40～49歳(n=62)	46.8	1.6	29.0	1.6	0.0	1.6	0.0	6.5	12.9	0.0
50～59歳(n=92)	50.0	1.1	15.2	2.2	0.0	0.0	0.0	19.6	9.8	2.2
60～69歳(n=19)	36.8	10.5	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	5.3	0.0

自分自身の介護を頼みたい相手としては、「配偶者」が最も多く、43.7%である。次いで「娘」(21.8%)、「ホームヘルパー等」(13.7%)である。

男性は「配偶者」(64.4%)に介護してほしいと望んでいるが、女性は「娘」(31.5%)が「配偶者」(29.1%)を上回っている。

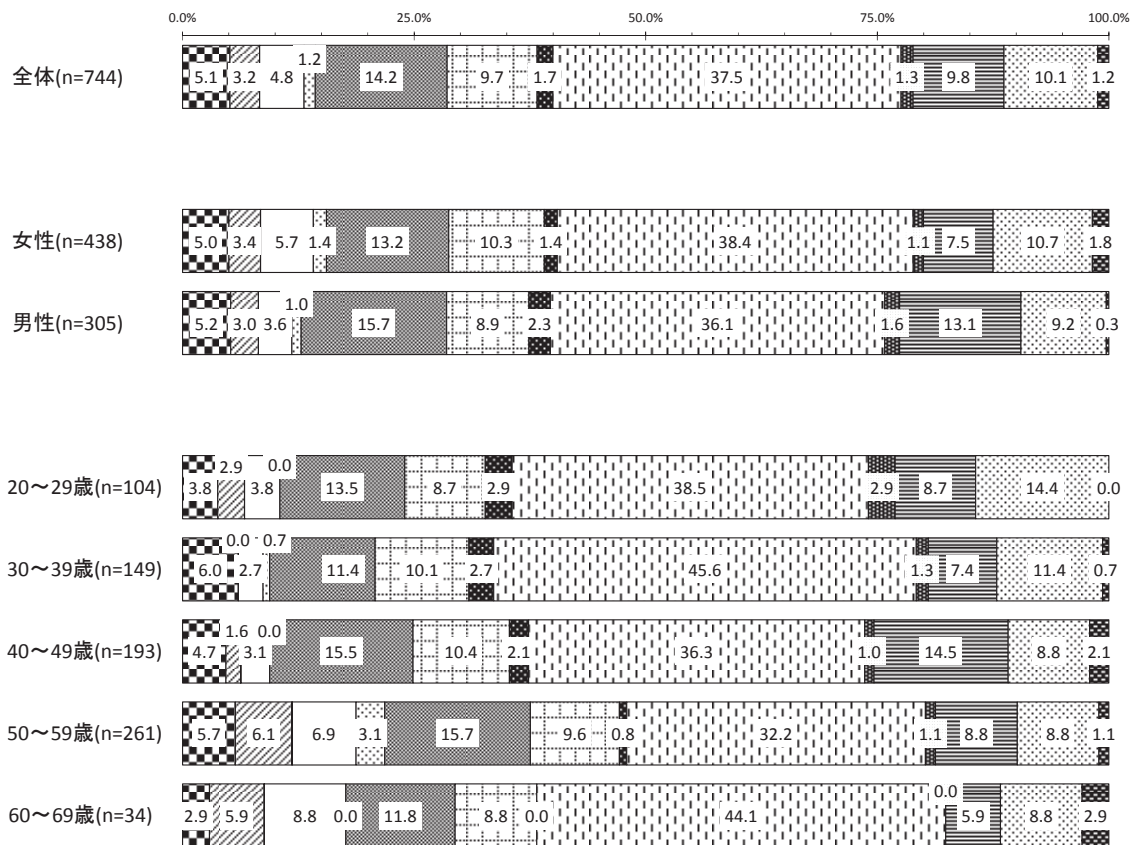
前回(平成21年)にくらべ、男女ともに「ホームヘルパー等」が増加している。

7. 男女の人権

(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること

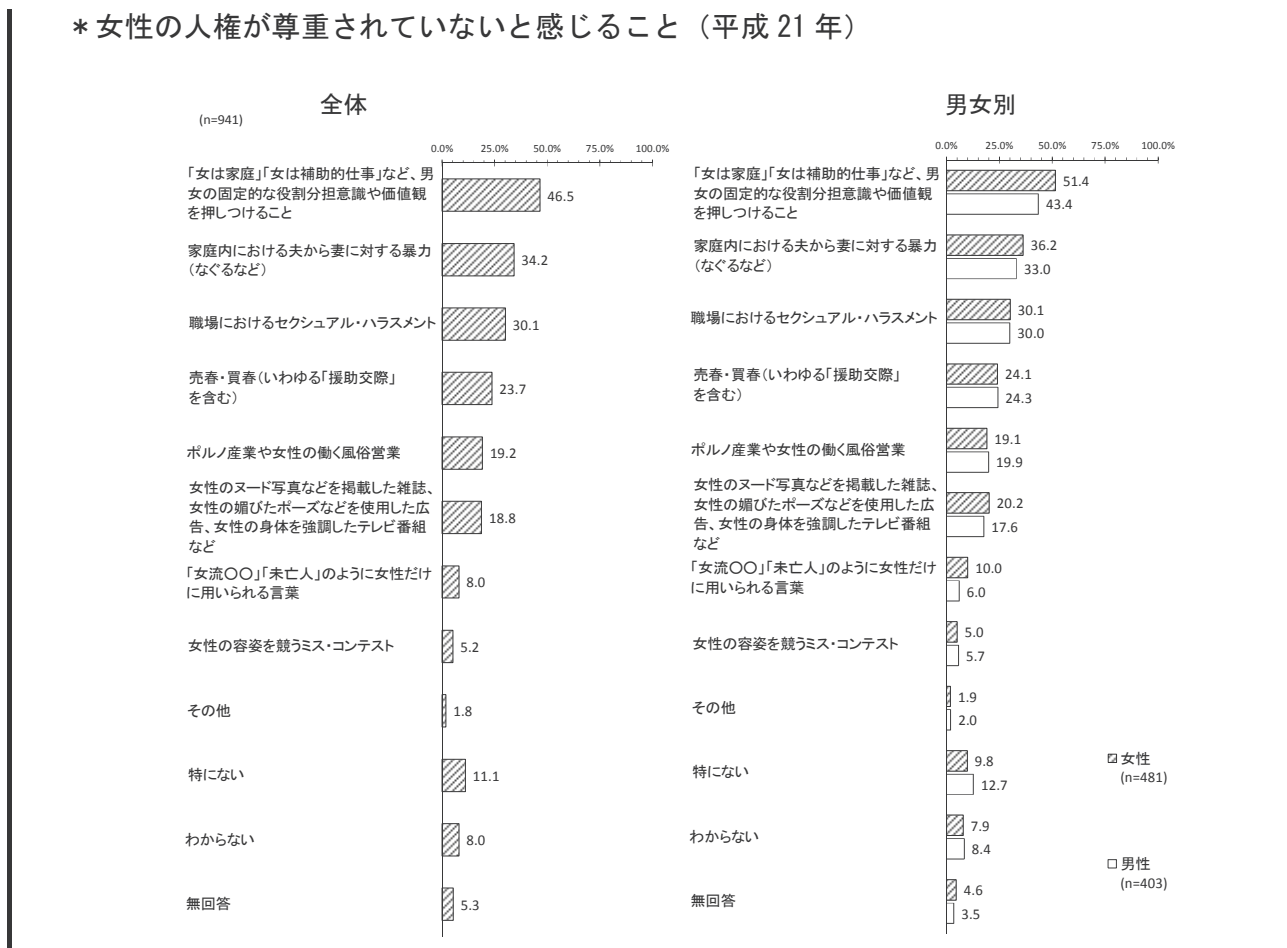
問 19 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
(○は1つだけ)

- 売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)
- ポルノ産業や女性の働く風俗営業
- 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など
- 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 家庭内における夫から妻に対する暴力(なぐるなど)
- 「女流○○」「未亡人」のように女性だけに用いられる言葉
- 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること
- その他
- 特にない
- わからない
- 無回答



*今回は1つだけ選択の間であるが、前回は複数選択であったため比較できない。前回の結果は次ページを参照

* 女性の人権が尊重されていないと感じること（平成 21 年）



女性の人権が尊重されていないと感じることとしては、「『女は家庭』『女は補助的仕事』など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること」が 37.5%と最も多かった。次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(14.2%)である。

男女別では、「特にない」と感じている女性が 7.5%なのに対して、男性は 13.1%と意識の違いがみられる。

年齢別では、50～59 歳、60～69 歳では、「ポルノ産業や女性の働く風俗営業」「女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の媚びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など」と、女性を性的に取り上げることが人権が尊重されていないと感じる割合が高い。

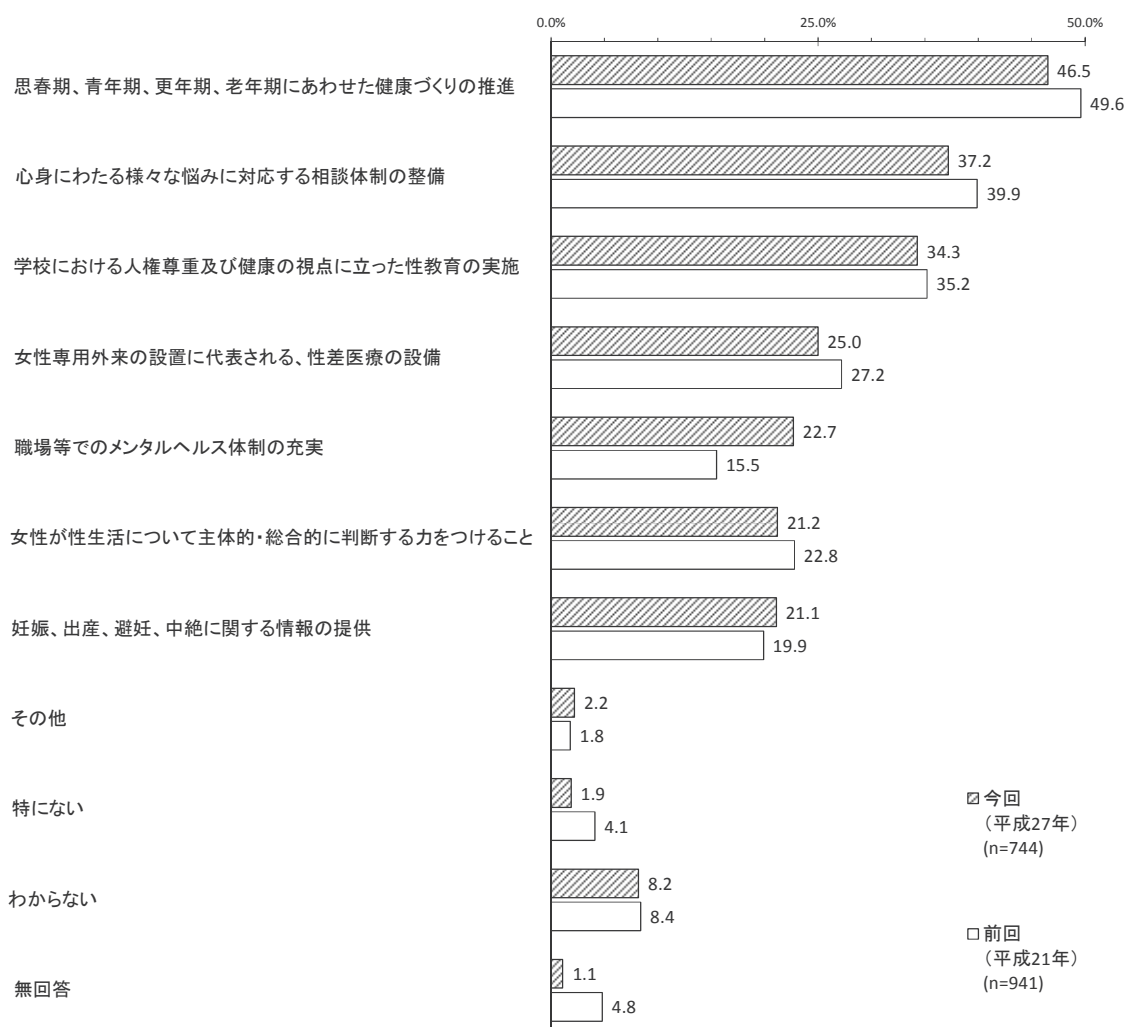
回答形態が異なるため比較は難しいが、前回(平成 21 年)でも『「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押し付けること』が 46.5%と最も多かったが、次に多かったのは、男女ともに「家庭内における夫から妻に対する暴力(なぐるなど)」(34.2%)であった。今回 2 番目に多かったのは「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」(14.2%)であった。

* 女性の人権が尊重されていないと感じること<その他>

- ◇ 女性の管理職は〇割とか数値目標となること。能力で選ぶのが平等と思う。
- ◇ 子どもがいると育児は全て母親、自分の時間すら持てない。
- ◇ 妻が受けている税制面での控除は、女性を一人前とみなさない風潮の温床となっている。
- ◇ 女性にばかり育児、介護が求められるのに、配偶者控除がなくなり、働かなければいけないことに不平等を感じる。
- ◇ 女性に対する犯罪、それに対する周りの意識・理解のなさ。
- ◇ 雇用の実態。休みが実質的にとりづらい職場が多く、退職せざるをえなくなっている。
- ◇ 女社長とか、女性が少ない分野の仕事に対してとりあげて、話題にされるときにまだまだ不平等さを感じる。

(2) 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと

問 20 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)



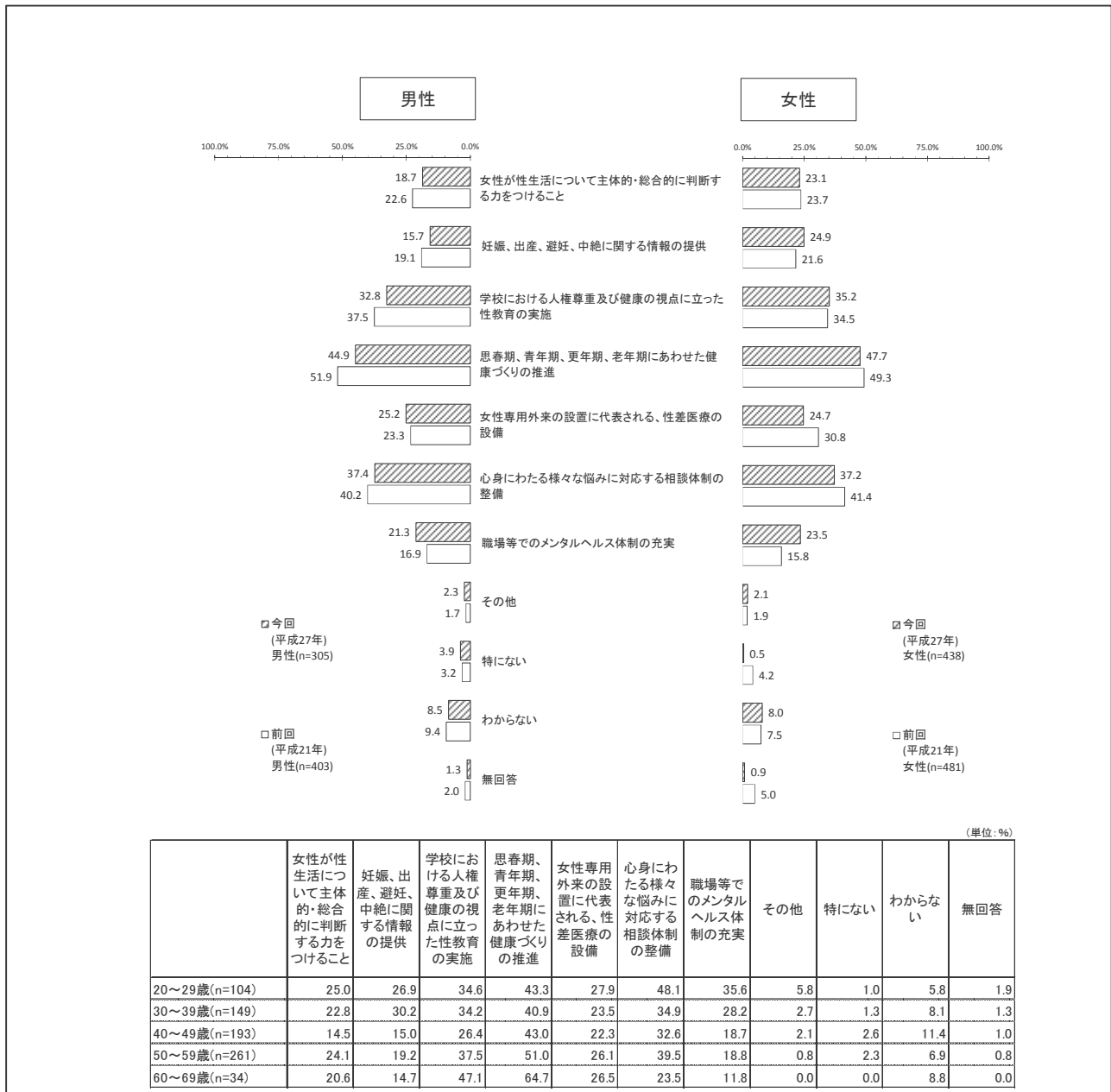
男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこととしては、「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が 46.5%と最も多い。次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」(37.2%)、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」(34.3%) などである。

前回(平成21年)に比べ、「職場等でのメンタルヘルス体制の充実」が7.2ポイント増加している。

男女別にみると、男女とも「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」(女性47.7%、男性44.9%)を最も多くあげている。次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」(女性37.2%、男性37.4%)、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施」(女性35.2%、男性32.8%)などである。

年齢別では、20～29歳、30～39歳で「妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供」が多く、50～59歳、60～69歳では「思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進」が多い。

①男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと<男女別・年齢別>



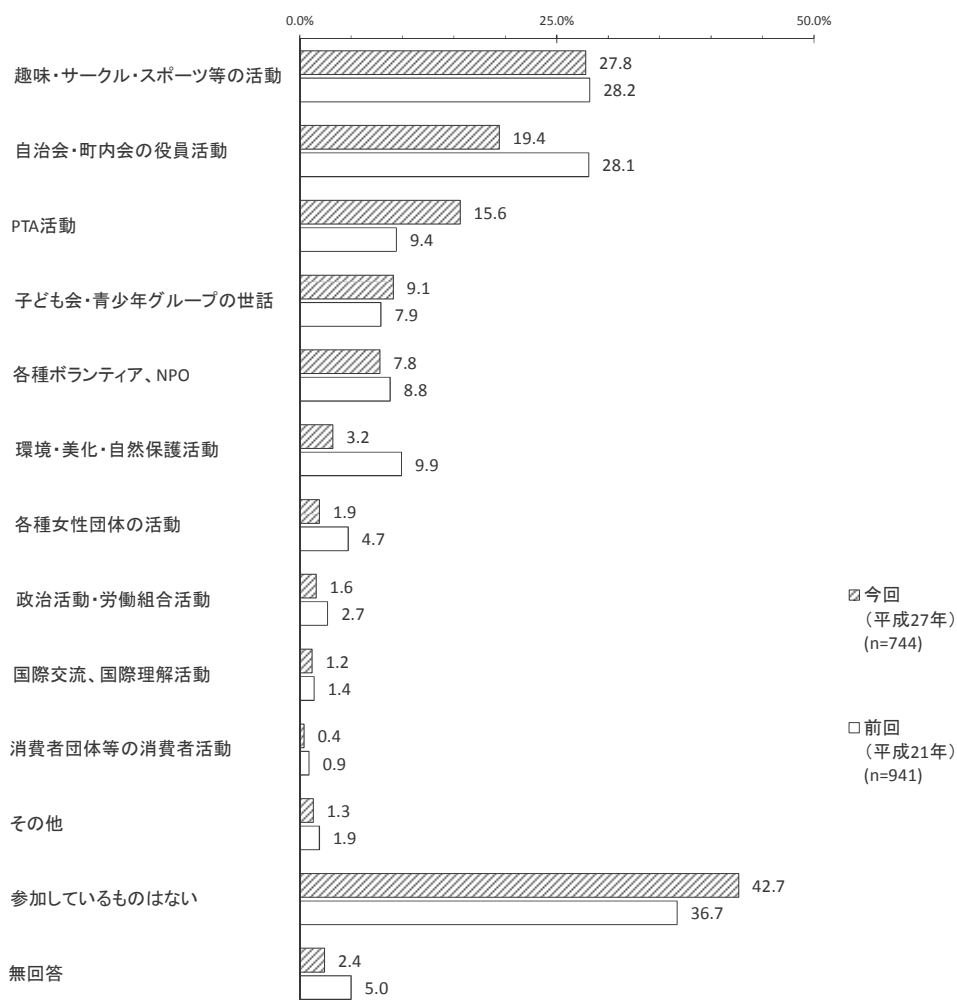
* 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと<その他>

- ◇ 経済的支援。
- ◇ 人権尊重及び健康の視点に立った性教育のような教育を子どもだけでなく大人も受ける機会を作る。マスコミの報道の仕方なども再度検討が必要と思う。
- ◇ 妊娠・出産で障害が起こった時に、立場や身体のプロtectionをしてくれる制度などの充実が不可欠だと思う。
- ◇ 子宮内膜症等、女性ならではの病症は、男女間の心身問題である場合が多いので、病院以外の受け皿をつくる。
- ◇ 思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた情報の提供。
- ◇ 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけることにプラス、男性も力をつけるべきだと思う。
- ◇ 様々な性への理解促進（性同一性障害など）。
- ◇ 適度な運動。
- ◇ 相互理解。
- ◇ 自分の家族がいるなら家族間のコミュニケーション。

8. 社会参加

(1) 参加している社会活動・地域活動の種類

問 21 職業以外に、次のような社会活動、地域活動の中で、あなたが参加しているものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)



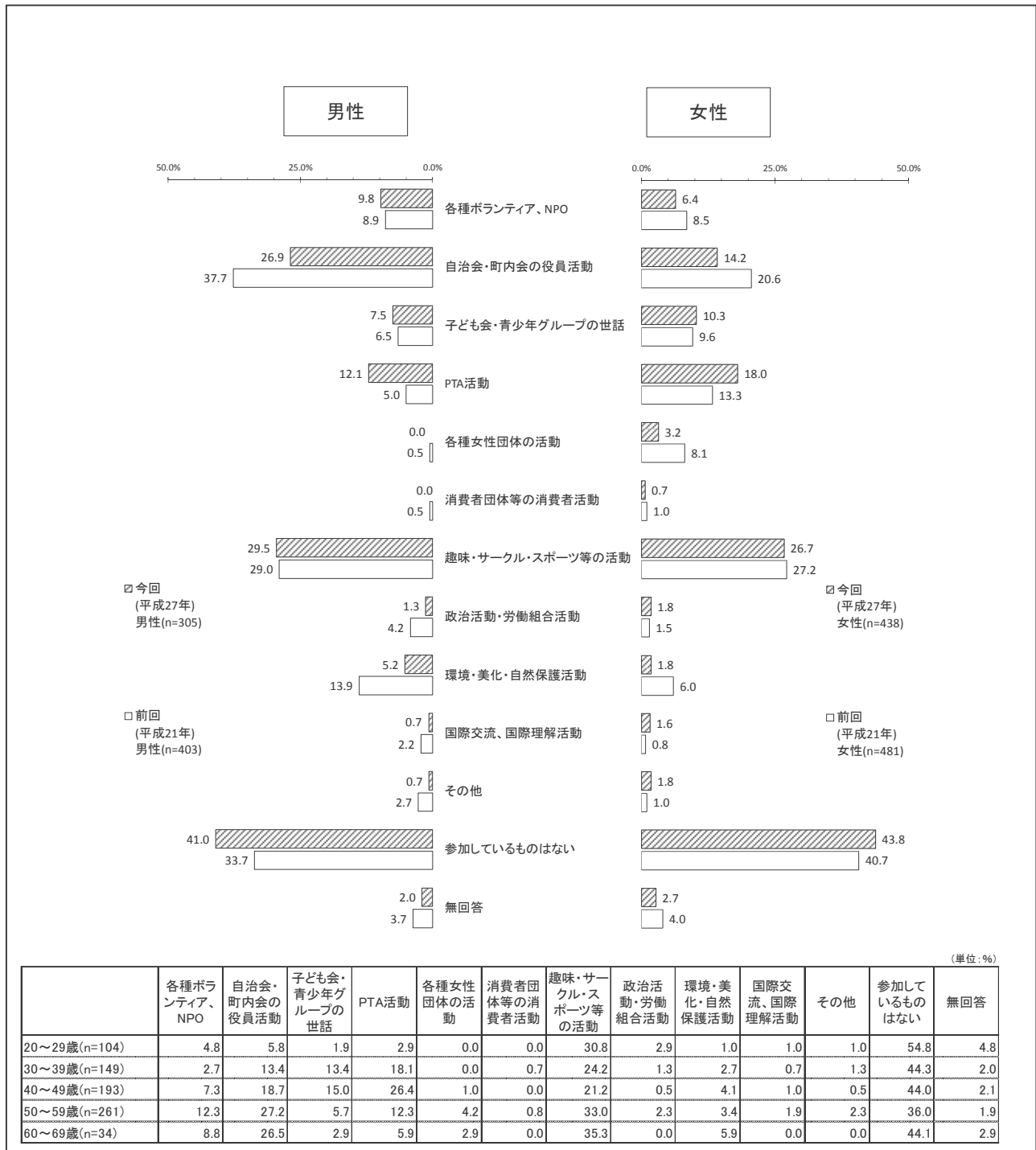
参加している社会活動・地域活動の種類では、「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が27.8%と最も多く、次いで「自治会・町内会の役員活動」(19.4%)、「PTA活動」(15.6%)であるが、42.7%が「参加しているものはない」と回答している。

男女別にみると、男女とも「趣味・サークル・スポーツ等の活動」(女性26.7%、男性29.5%)が最も多く、次いで女性では「PTA活動」(18.0%)、男性では「自治会・町内会の役員活動」(26.9%)が多い。

男女ともに「参加しているものはない」という回答が4割以上である。

年齢別でみると、20～29歳、30～39歳、50～59歳、60～69歳では「趣味・サークル・スポーツ等の活動」が、40～49歳では「PTA活動」が最も多い(「参加しているものはない」を除く)。「自治会・町内会の役員活動」は年齢が高くなるにしたがって、参加している割合が高くなる。50～59歳では他の年齢と比べて「各種ボランティア」の割合が高い。

①参加している社会活動・地域活動の種類＜男女別・年齢別＞

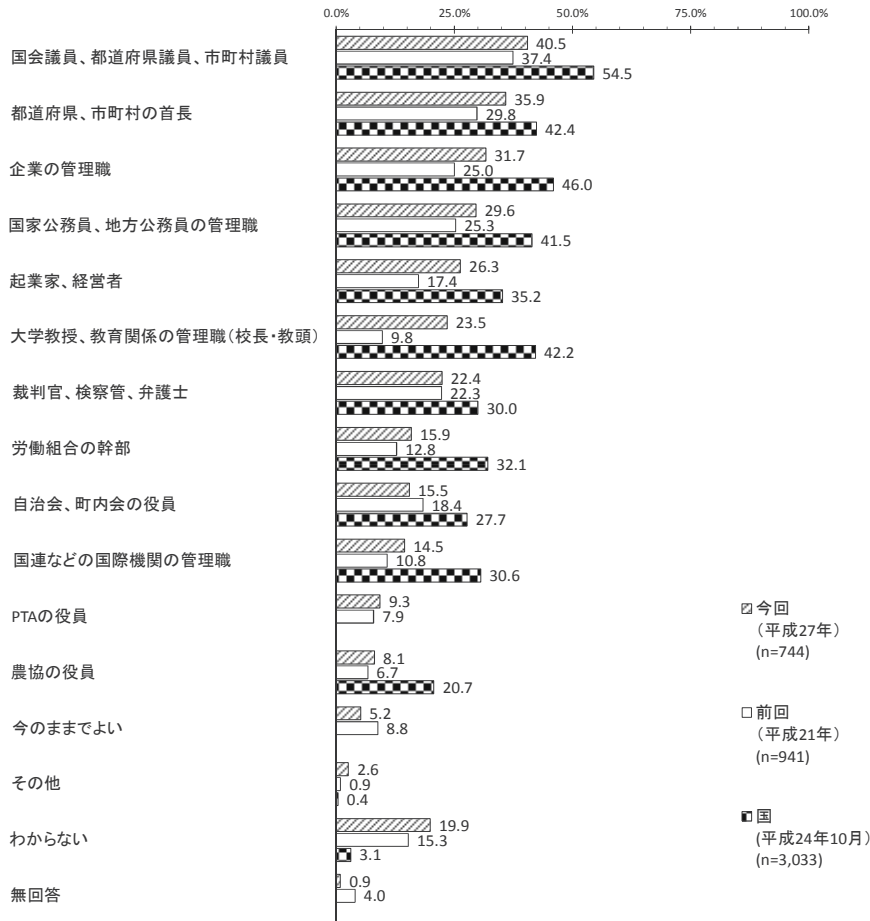


* 参加している社会活動・地域活動の種類＜その他＞

- ◇ 民生委員。
- ◇ その他の組合。
- ◇ 官公庁のモニター活動。
- ◇ 市の母子教室（妊婦）。
- ◇ 老人健康体操指導・放課後の子供をみる。
- ◇ 商店会活動。
- ◇ 地域経済団体。
- ◇ エコチル調査。

(2) 女性の増加を望む役職

問 22 本県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後女性がもっと増えた方がよいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)



※1 前回調査(平成21年)では、選択肢「国会議員、都道府県議員、市町村議員」を「国会議員、都道府県議員、市(区)町村議員」、「大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)」を「大学教授」と設定。

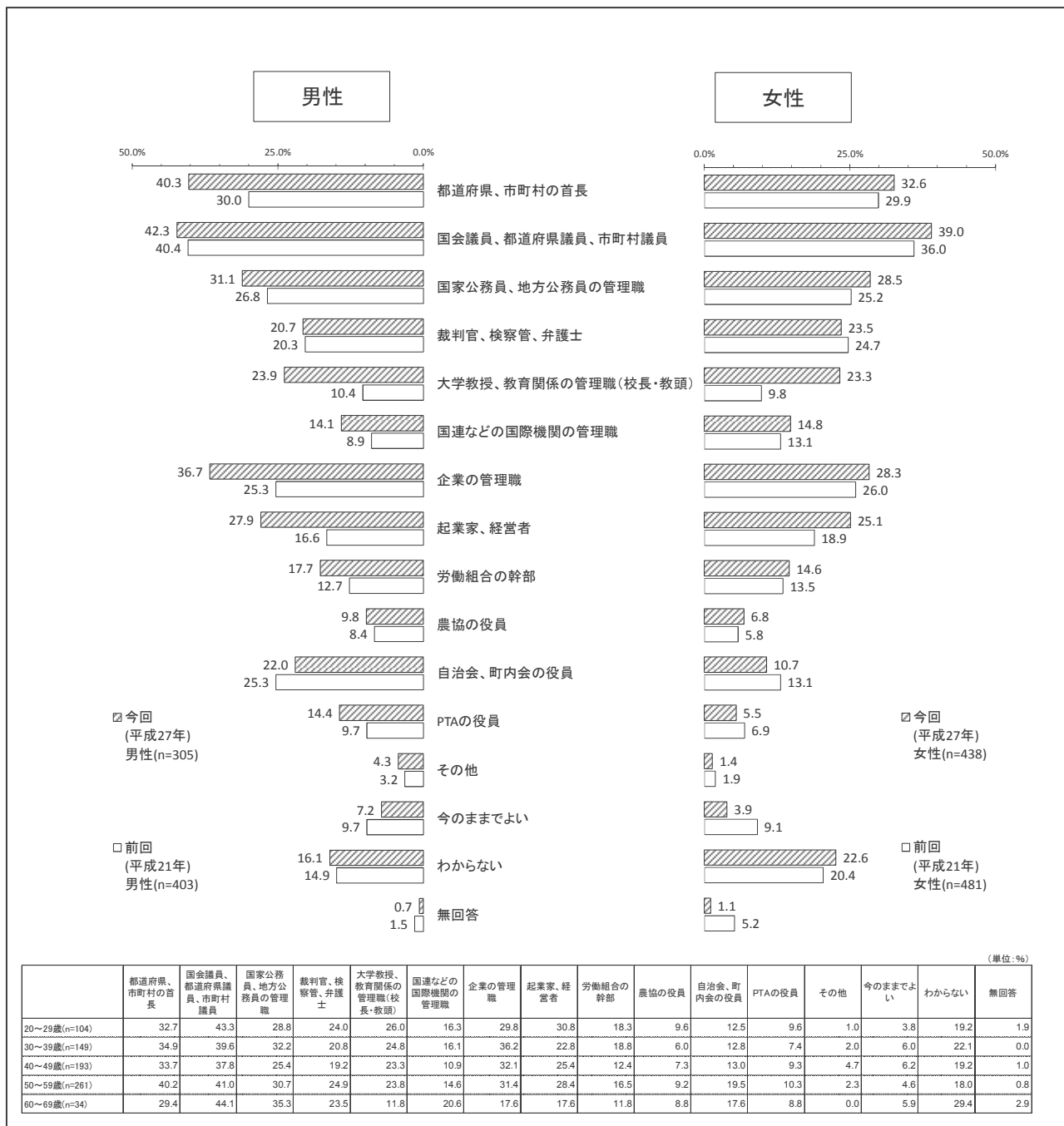
※2 国の調査(平成24年10月)では、選択肢「国会議員、都道府県議員、市町村議員」を「国会議員、都道府県議員、市町村議員」、「自治会、町内会の役員」を「自治会、町内会長等」、「大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)」を「大学教授」と設定。選択肢「PTAの役員」「今のままでよい」は設定していない。選択肢「新聞・放送の記者」「特にない」の回答は記載しない。

女性の増加を望む役職として、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」が40.5%と最も多く、次いで「都道府県、市町村の首長」(35.9%)、「企業の管理職」(31.7%)であり、行政の分野で女性の参加を望む割合が高いが、「大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)」を望む割合が前回(平成21年)から13.7ポイント増加している。さまざまな役職で前回(平成21年)より増加を望む割合が増えているが、国(平成24年)の割合に比べると「わからない」という回答が多く、すべての役職で低い。

男女とも「国会議員、都道府県議員、市町村議員」(女性39.0%、男性42.3%)が最も多く、次いで「都道府県、市町村の首長」(女性32.6%、男性40.3%)、「企業の管理職」(女性28.3%、男性36.7%)、女性は「国家公務員、地方公務員の管理職」(28.5%)を望む声も多い。男女とも「大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)」が、前回に比べ大きく増加している。

年齢別にみると、「国会議員、都道府県議員、市町村議員」はどの年齢でも多いが、年齢が高くなると「国家公務員、地方公務員の管理職」が多く、若い世代では「企業の管理職」「起業家、経営者」の割合が高い。

①女性の増加を望む役職＜男女別・年齢別＞

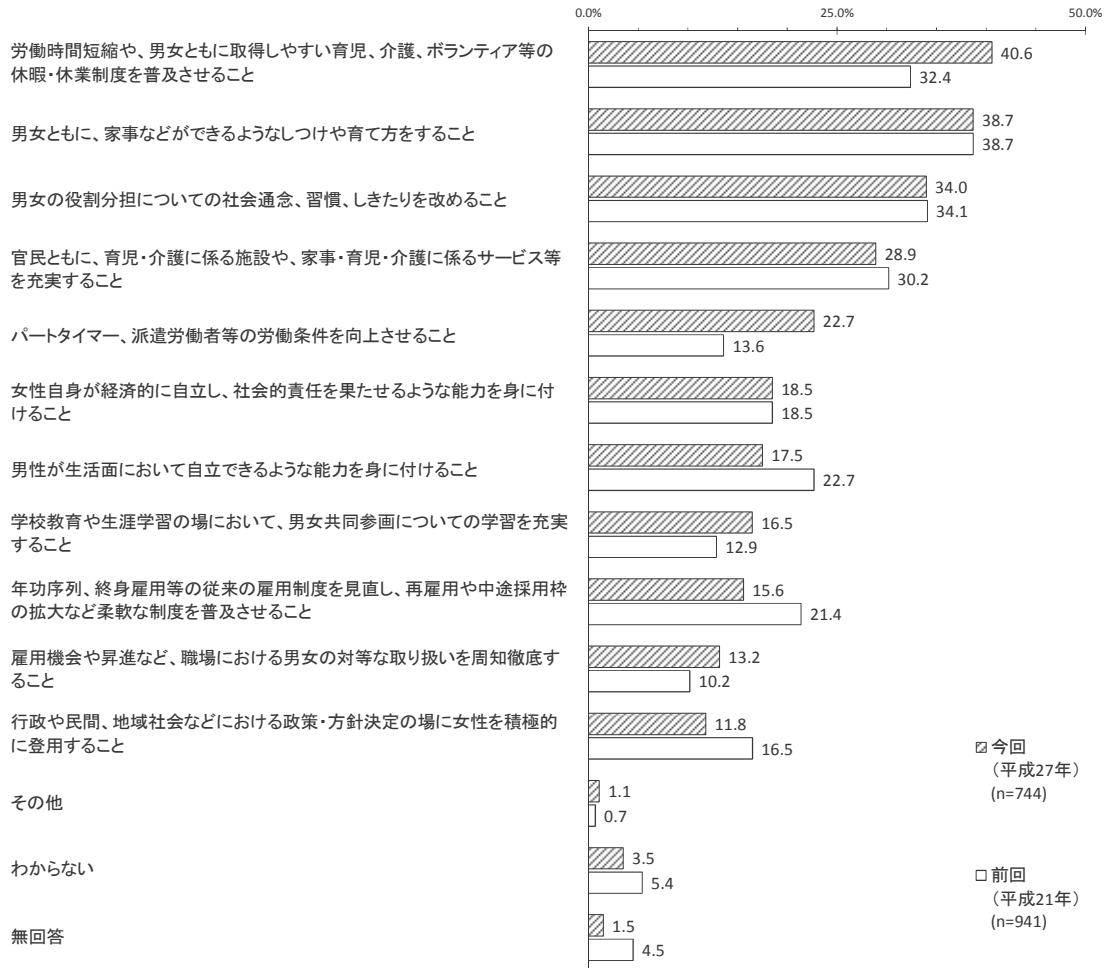


* 女性の増加を望む役職＜その他＞

- ◇ 福島の現状を国にきちんと説明して、理解を得るような、有弁な人が必要。
- ◇ ジャンルは関係ない。
- ◇ 医療従事者。
- ◇ すべてにおいて増えても良いのでは。
- ◇ 強引に割合を上げる必要性はなく適材適所の人材が出てきたとき、その役職につかせれば良い。
- ◇ 能力のある人だったら、男性、女性を問わず誰でも良いと思う。ただし正当な評価をしてほしいと望む。
- ◇ 若い柔軟な考えのできる人でないと何も変わらないと思う。

(3) 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと

問 23 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

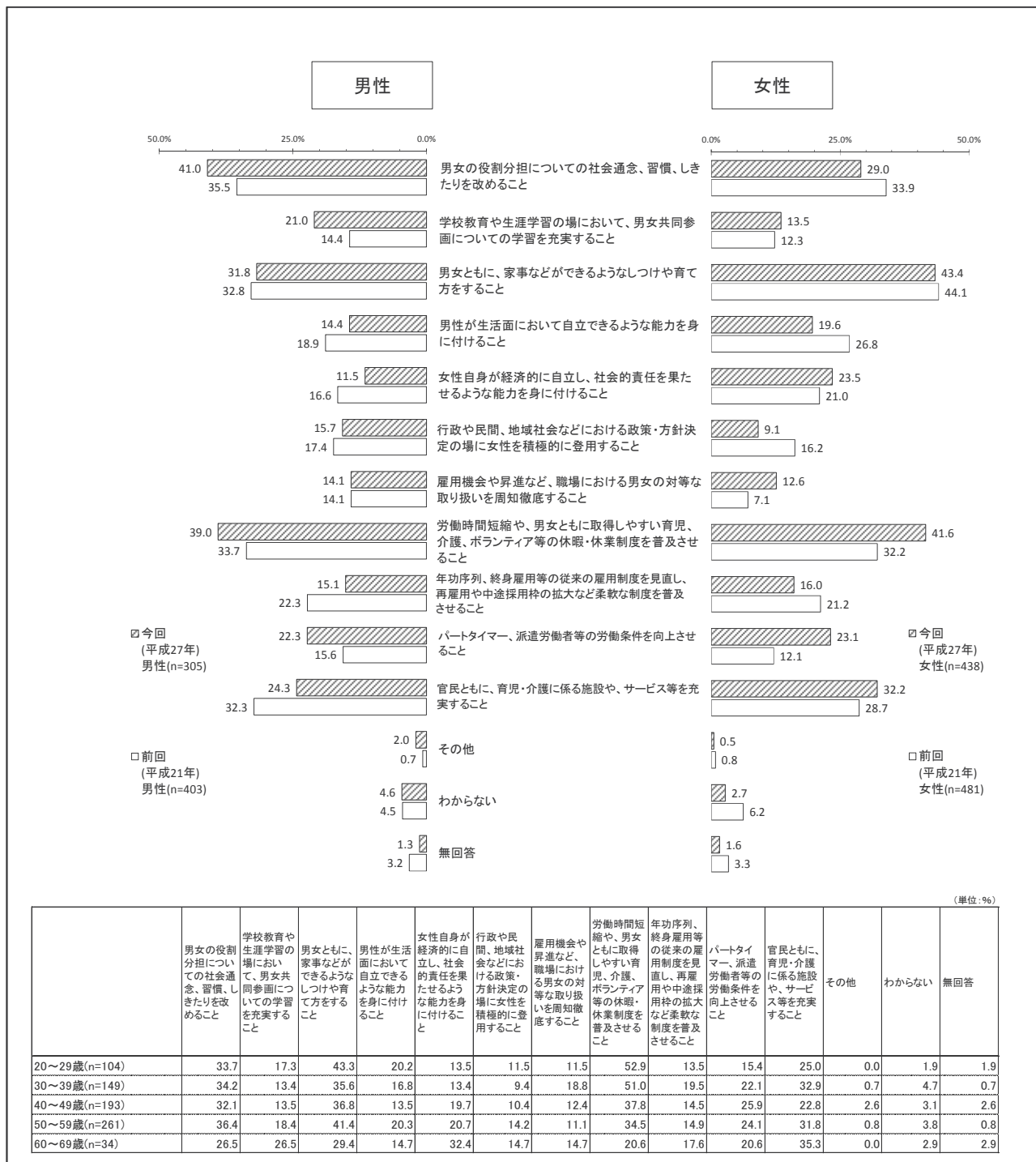


男女が積極的に社会参加していくために必要なこととしては、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が40.6%と最も多く、次いで「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」(38.7%)、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」(34.0%)である。「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」は前回(平成21年)の32.4%から8.2ポイント増加し、積極的な社会参加のためには休暇・休業制度の充実が必要という考えが広がってきている。

男女別にみると、女性では「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」が43.4%と最も多く、次いで「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」(41.6%)が多い。男性で最も多いのは「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」(41.0%)、次いで「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」(39.0%)である。

年齢別では、年齢が若いほど「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」の割合が高く、年齢が高いほど「女性自身が経済的に自立し、社会的責任をはたせるような能力を身に付けること」の割合が高くなる。

①男女が積極的に社会参加していくために必要なこと<男女別・年齢別>



* 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと<その他>

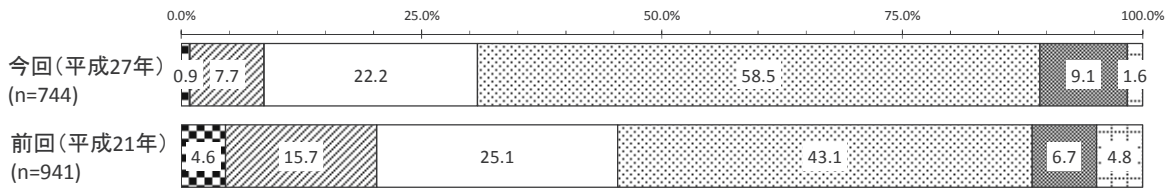
- ◇ 仕事を減らす。
- ◇ 行政機関による充実した政策。
- ◇ 「行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること」をもっと進めて、せめて4割は女性を割り当てる制度をすすめるなくては、物事は変化していかないと考える。
- ◇ 税制面での整備が必要。配偶者控除→家族控除への移行。夫が働き、妻が家事（パート）という働き方を応援するような今の税制が変わらない限りダメ。
- ◇ 夫の理解と協力。

9. 配偶者等からの暴力

(1) 「良い妻」に対する考え方

問 24 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が『良い妻』である」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

- そう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- どちらかといえばそう思う
- そう思わない
- 無回答



「そう思う計」と「そう思わない計」の割合 (単位: %)

	そう思う計	そう思わない計
全体(n=744)	8.6	80.6
女性(n=438)	5.0	87.2
男性(n=305)	13.8	71.1
20～29歳(n=104)	9.6	82.7
30～39歳(n=149)	6.7	80.5
40～49歳(n=193)	9.8	79.3
50～59歳(n=261)	9.2	79.7
60～69歳(n=34)	2.9	88.2
中通り(n=468)	9.8	78.8
会津(n=113)	8.0	80.5
浜通り(n=157)	5.7	86.0

「そう思う計」と「そう思わない計」の割合 前回(平成21年) (単位: %)

	そう思う計	そう思わない計
全体(n=941)	20.3	68.2
女性(n=481)	15.4	75.3
男性(n=403)	25.5	63.7
20～29歳(n=90)	14.4	78.9
30～39歳(n=125)	12.0	77.6
40～49歳(n=130)	16.1	76.2
50～59歳(n=189)	12.7	77.3
60～69歳(n=157)	24.2	70.7
70～79歳(n=141)	35.4	49.7
80歳以上(n=57)	31.6	45.6
中通り地方(n=523)	21.5	68.3
会津地方(n=141)	17.0	72.3
浜通り地方(n=219)	19.6	71.2

* 「そう思う計」及び「そう思わない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

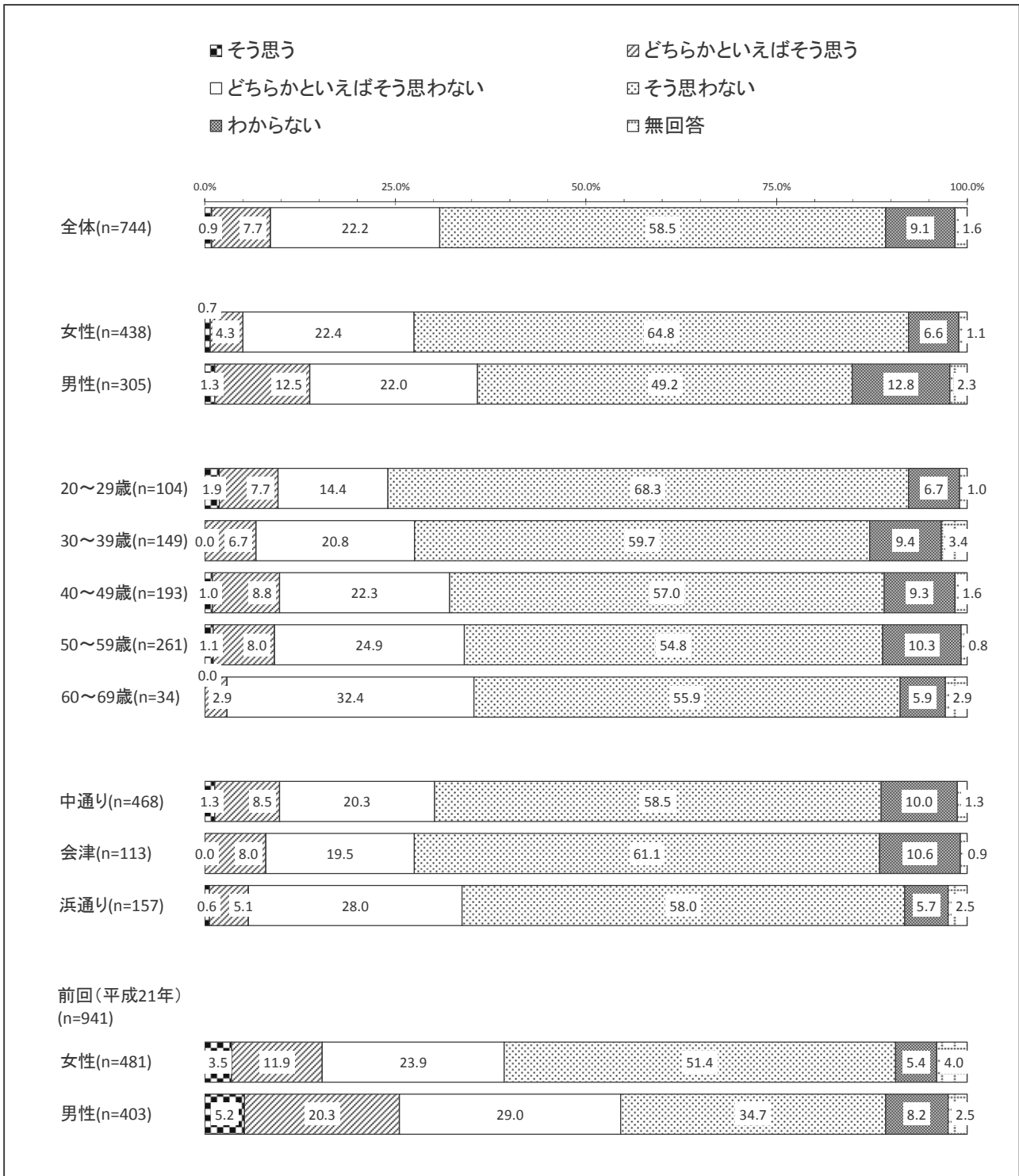
「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が『良い妻』である」という考え方について、「そう思わない」が58.5%と最も多く、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は80.6%である。前回(平成21年)に比べ、「そう思う」「どちらかというところ思う」の合計は20.3%から8.6%と11.7ポイント減少し、「そう思わない」が増加した。

男女別にみると、「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が『良い妻』である」という考え方について、女性では「そう思わない」が64.8%と最も多い。男性も「そう思わない」が最も多いが、49.2%と半数以下である。「そう思う」「どちらかというところ思う」の合計は女性5.0%、男性13.8%であり、前回(平成21年)の女性15.4%、男性25.5%から、それぞれ減少している。

年齢別にみると、若いほど「そう思わない」の割合が高い。「そう思う」「どちらかというところ思う」の合計は、前回(平成21年)に比べ、全ての年齢で減少している。

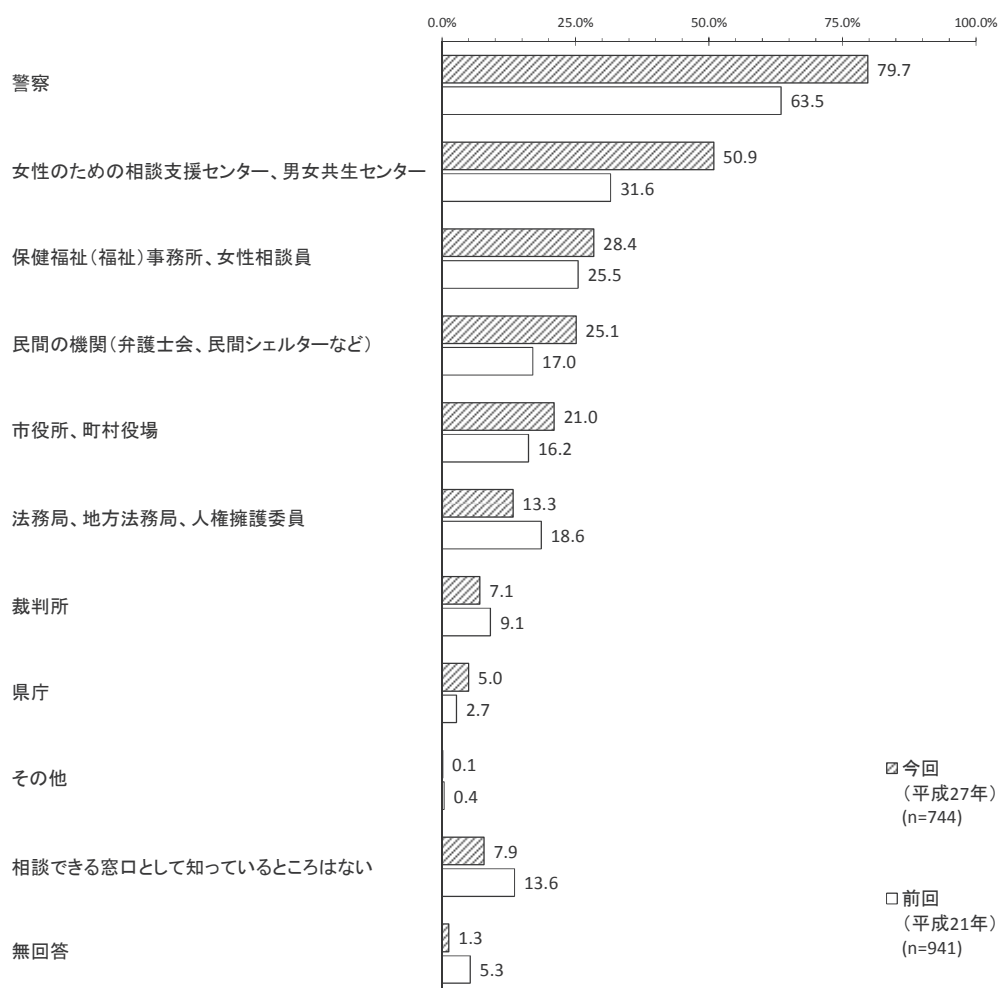
地域別では、3地域とも「そう思わない」が最も多く、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は約8割と高い。「そう思う」「どちらかというところ思う」の合計は中通り9.8%、会津8.0%、浜通り5.7%であり、前回(平成21年)から、それぞれ減少している。

① 「良い妻」に対する考え方＜男女別・年齢別・地域別＞



(2) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況

問 25 あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。あなたがご存知のものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)



配偶者からの暴力に関する相談窓口としては、「警察」の認知度が最も多く 79.7%である。次いで「女性のための相談支援センター、男女共生センター」(50.9%)の認知度が高い。

前回(平成21年)に比べ、それぞれの相談窓口の認知度が高くなっている。「相談窓口として知っている所はない」も13.6%から7.9%と5.7ポイント減少した。

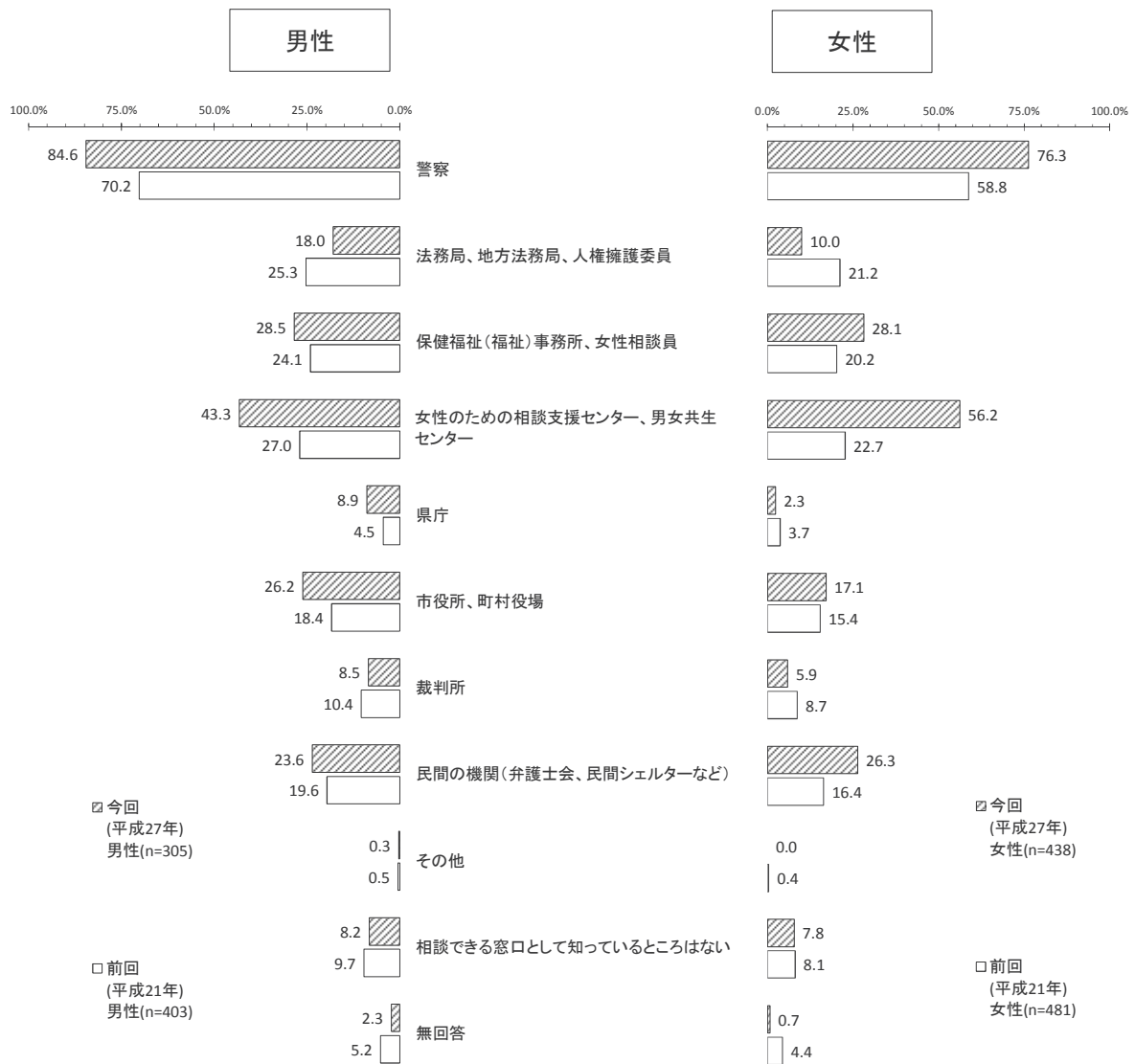
男女別にみると、男女とも「警察」(女性76.3%、男性84.6%)が最も多く、女性では「女性のための相談支援センター、男女共生センター」(56.2%)の認知度が高い。

年齢別にみると、年齢が高いほど、さまざまな相談窓口を認知している割合が高くなる。年齢が若くなるほど、「警察」「女性のための相談支援センター、男女共生センター」以外の相談窓口の認知度は低くなる。

「警察」の認知度は3地域とも約8割である。「女性のための相談支援センター、男女共生センター」の認知度は、中通りで52.1%と、会津49.6%、浜通り48.4%にくらべ若干高い。

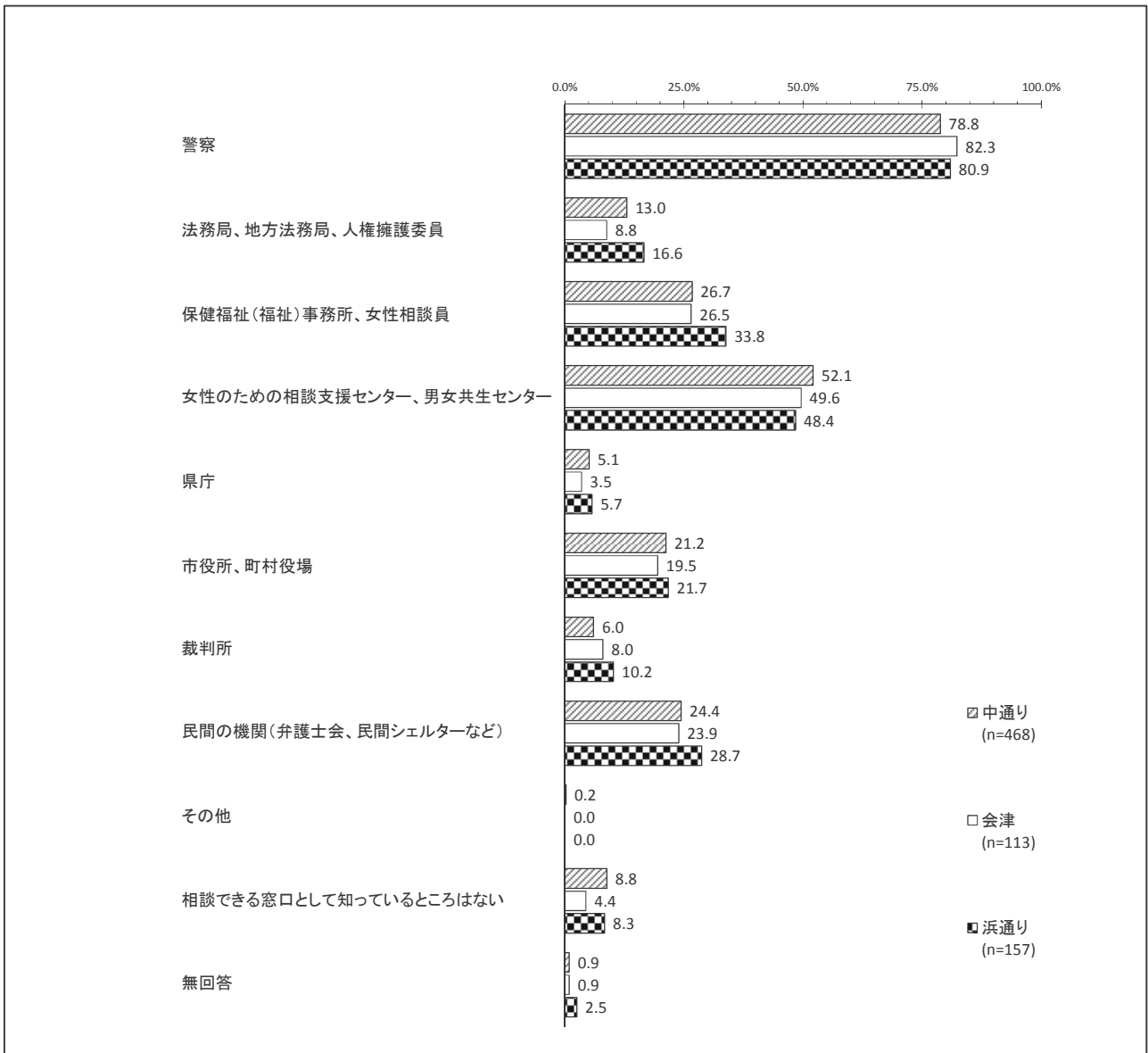
「民間の機関(弁護士会、民間シェルター)」で浜通りの認知度が若干高いものの、各相談窓口の認知状況に地域差はあまり見られない。

①配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況<男女別・年齢別>



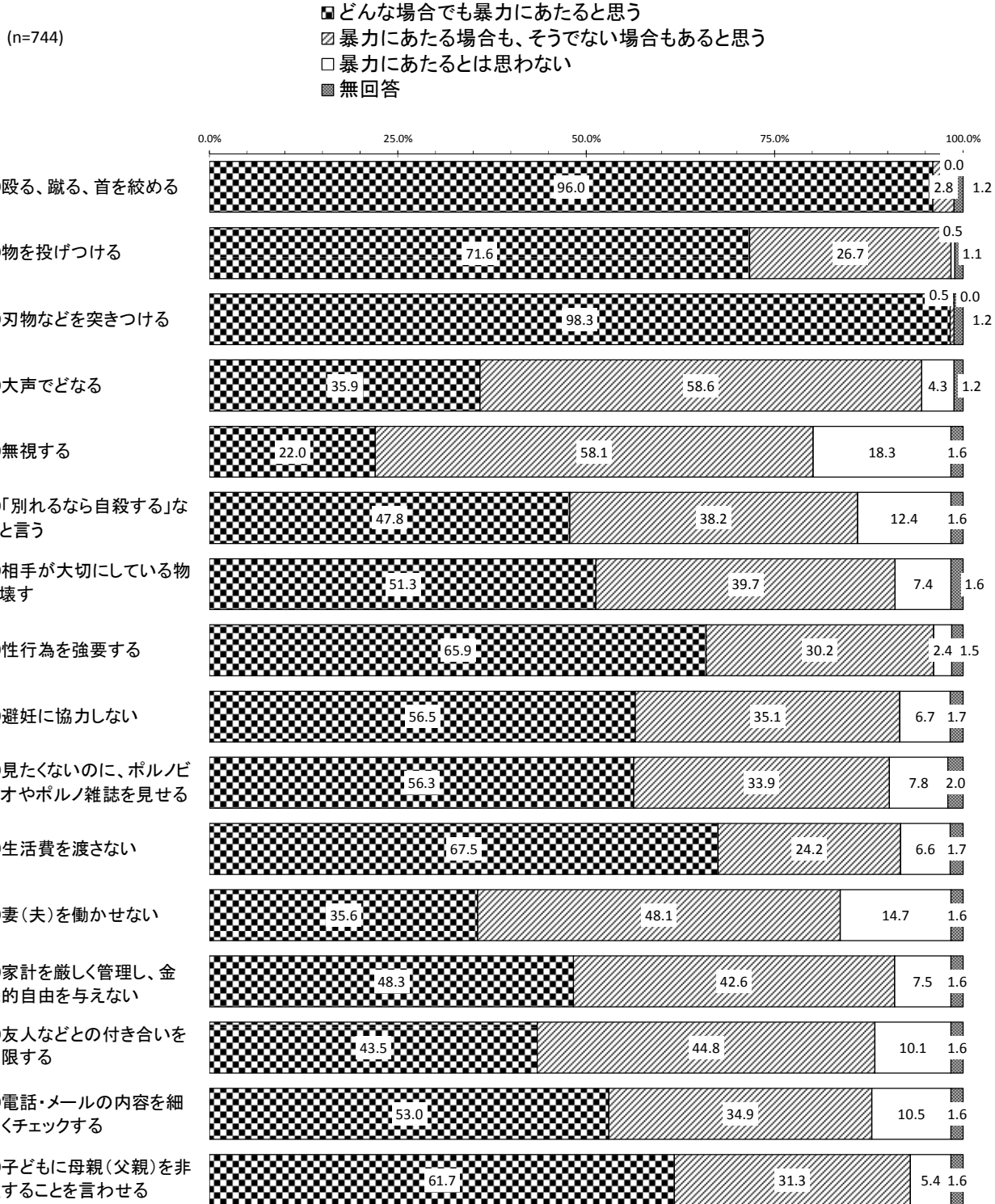
	警察	法務局、 地方法務局、 人権擁護委員	保健福祉 (福祉)事 務所、女 性相談員	女性のた めの相談 支援セン ター、男女 共生セン ター	県庁	市役所、 町村役場	裁判所	民間の機 関(弁護 士会、民 間シェル ターなど)	その他	相談でき る窓口と して知っ ていない	無回答
20~29歳(n=104)	81.7	3.8	28.8	53.8	1.9	21.2	9.6	19.2	0.0	5.8	1.0
30~39歳(n=149)	78.5	8.7	18.1	46.3	2.7	20.8	6.7	25.5	0.7	7.4	2.7
40~49歳(n=193)	80.8	12.4	31.6	52.8	5.2	18.7	4.1	26.4	0.0	8.8	0.5
50~59歳(n=261)	78.9	19.5	30.7	48.3	7.3	22.2	8.0	25.7	0.0	9.2	1.1
60~69歳(n=34)	76.5	17.6	35.3	73.5	5.9	23.5	11.8	29.4	0.0	2.9	2.9

②配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知状況<地域別>



(3) 夫婦間の暴力

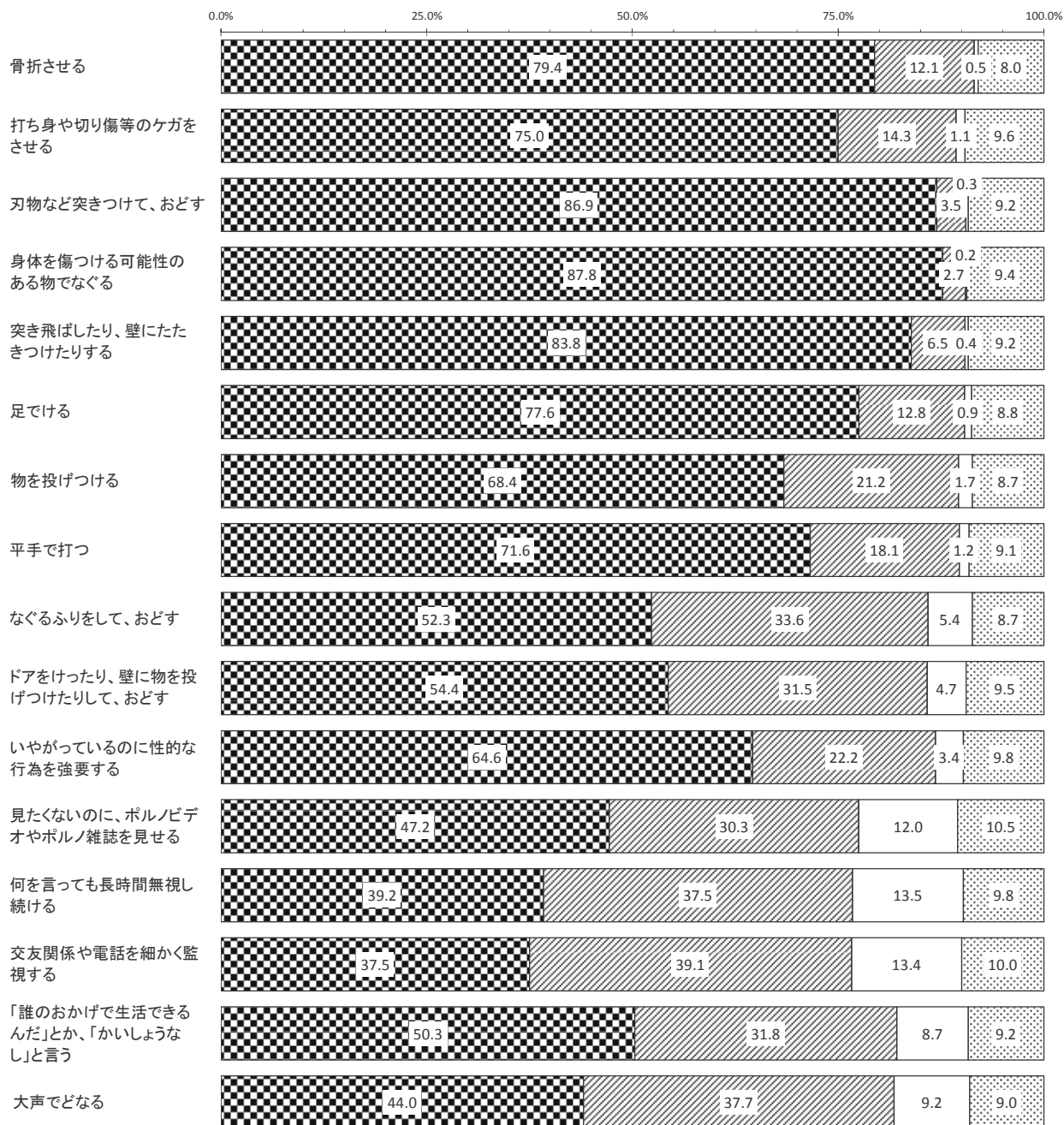
問 26 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。①から⑯のそれぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つだけ)



* 夫婦間の暴力（平成 21 年）

(n=941)

- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- ▩ 無回答



*今回と前回（平成 21 年）では、設問の内容が異なる。

【身体的暴力】

夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思うかどうかについて、『刃物などを突きつける』が 98.3%、『殴る、蹴る、首を絞める』が 96.0%、『物を投げつける』が 71.6%など、身体的に危害を加える、または危害を加える恐れのあることは、「どんな場合でも暴力にあたる」と思っている。

前回（平成 21 年）も、『身体を傷つける可能性のあるものでなぐる』（87.8%）、『刃物などを突きつけて、おどす』（86.9%）、『突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする』（83.8%）、『骨折させる』（79.4%）、『足でける』（77.6%）、『打ち身や切り傷等のケガをさせる』（75.0%）、『平手で打つ』（71.6%）、『物を投げつける』（68.4%）などは、暴力と思う割合が高かった。

【経済的暴力】

『生活費を渡さない』が 67.5%、『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』が 48.3%と、経済的に生活の安全・安心を脅かすことも暴力だと思う割合が高い。

【精神的暴力】

『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』（61.7%）、『相手が大切にしている物を壊す』（51.3%）、『「別れるなら自殺する」などと言う』（47.8%）、『大声でどなる』（35.9%）、『無視する』（22.0%）と、言動や態度で精神的に相手を傷つけることも暴力と思っているが、子どもも含め、相手が大切にしている物を侵害することを、より暴力と思っている割合が高い。

前回（平成 21 年）は、『ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす』（54.4%）、『殴るふりをして、おどす』（52.3%）など、相手に恐怖心を抱かせるものを暴力と思う割合が高かった。

【社会的暴力】

『電話・メールの内容をチェックする』（53.0%）、『友人などとの付き合いを制限する』（43.5%）、『妻（夫）を働かせない』（35.6%）など、社会生活をする上での人間関係や行動を制限することも暴力と思っている。

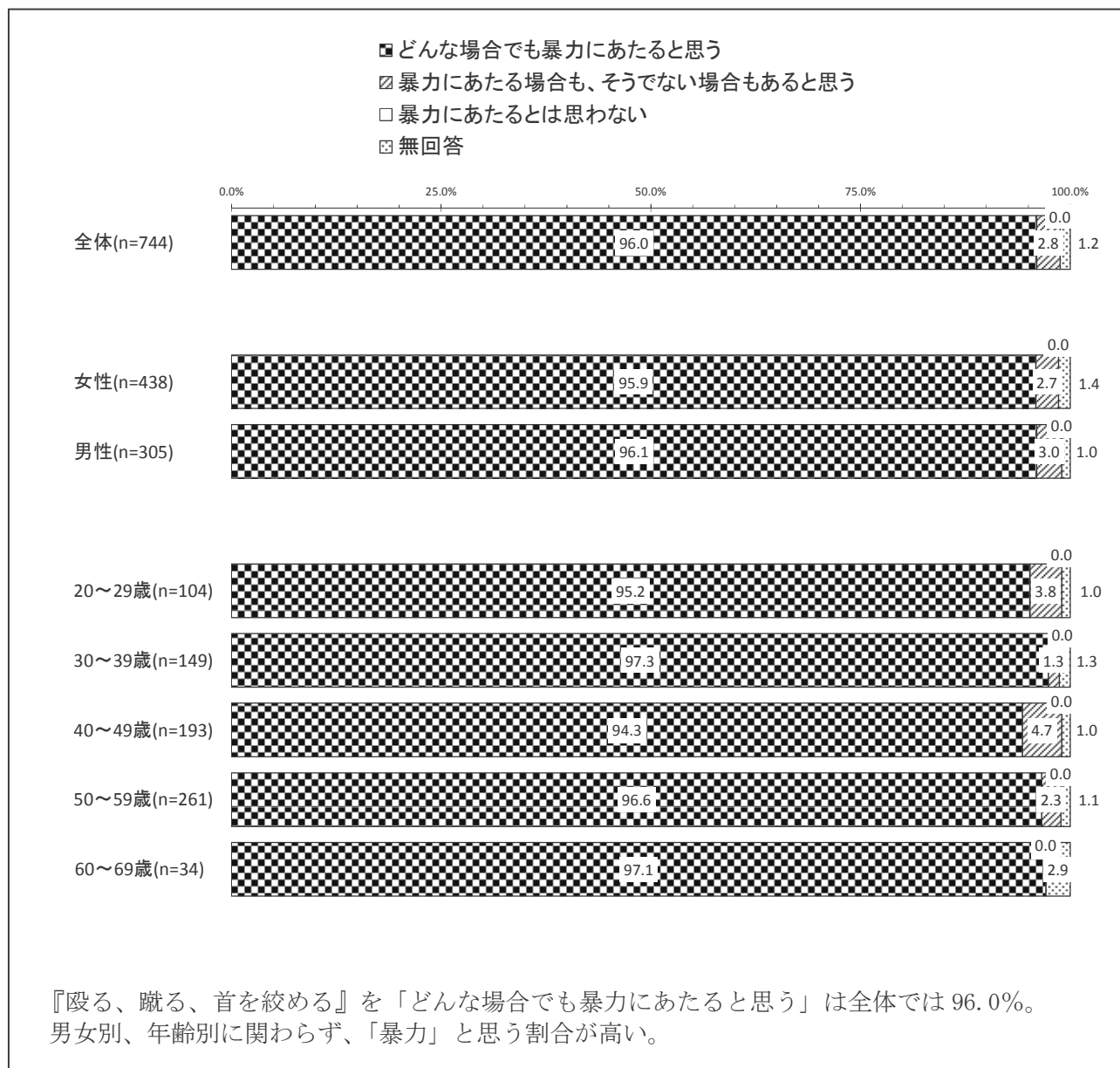
前回（平成 21 年）、『交友関係や電話を細かく監視する』は 37.5%であり、人間関係を制限されることを暴力と思う割合は、より高くなっている。

【性的暴力】

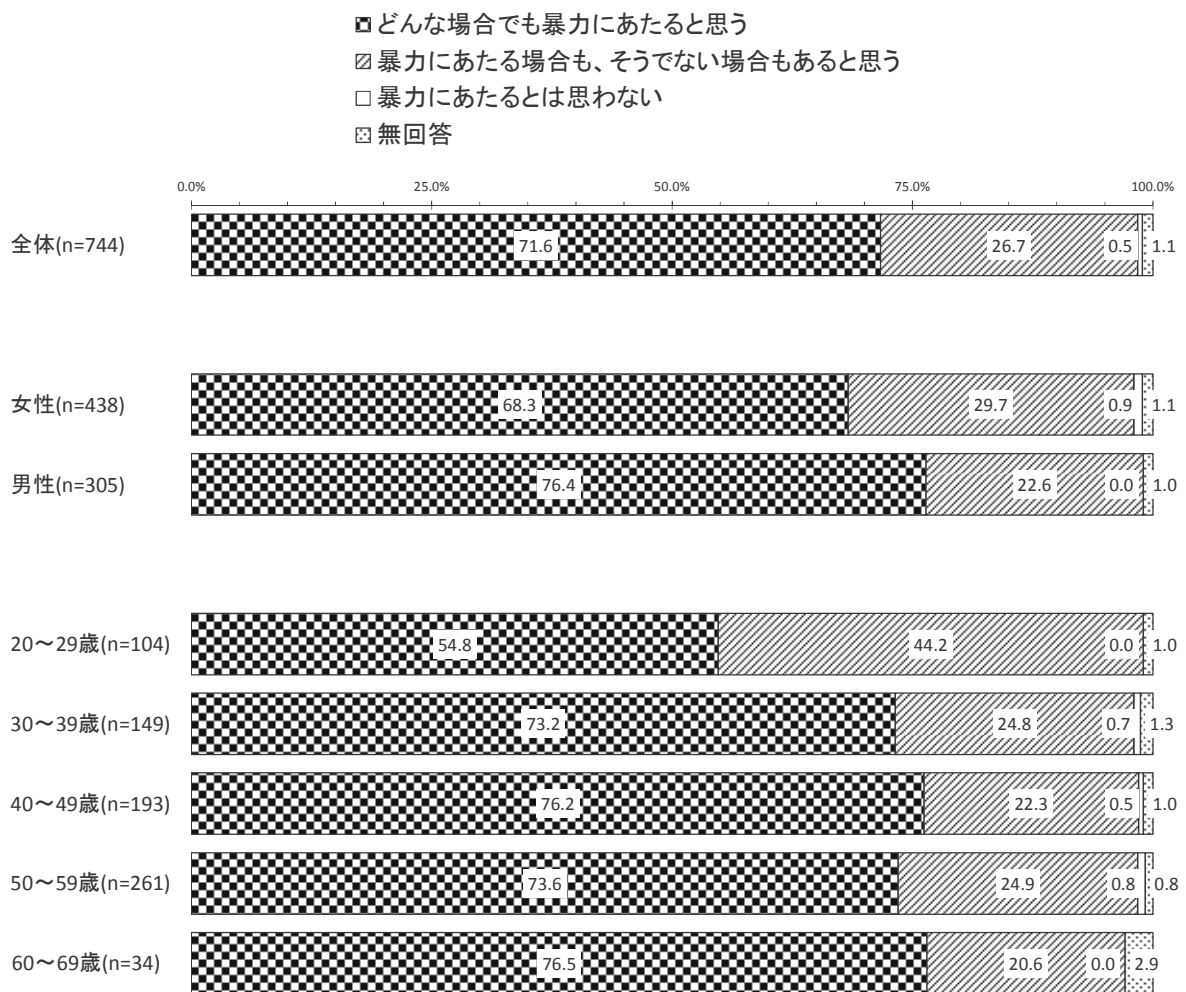
『性行為を強要する』（65.9%）、『避妊に協力しない』（56.5%）、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』（56.3%）など、性的な強制、いやがらせも暴力と思う割合が高い。

前回（平成 21 年）も、『いやがっているのに性的な行為を強要する』は 64.6%、『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』は 47.2%であり、性行為の強要やいやがらせを暴力と思う割合がより高くなっている。

①夫婦間の暴力 『殴る、蹴る、首を絞める』

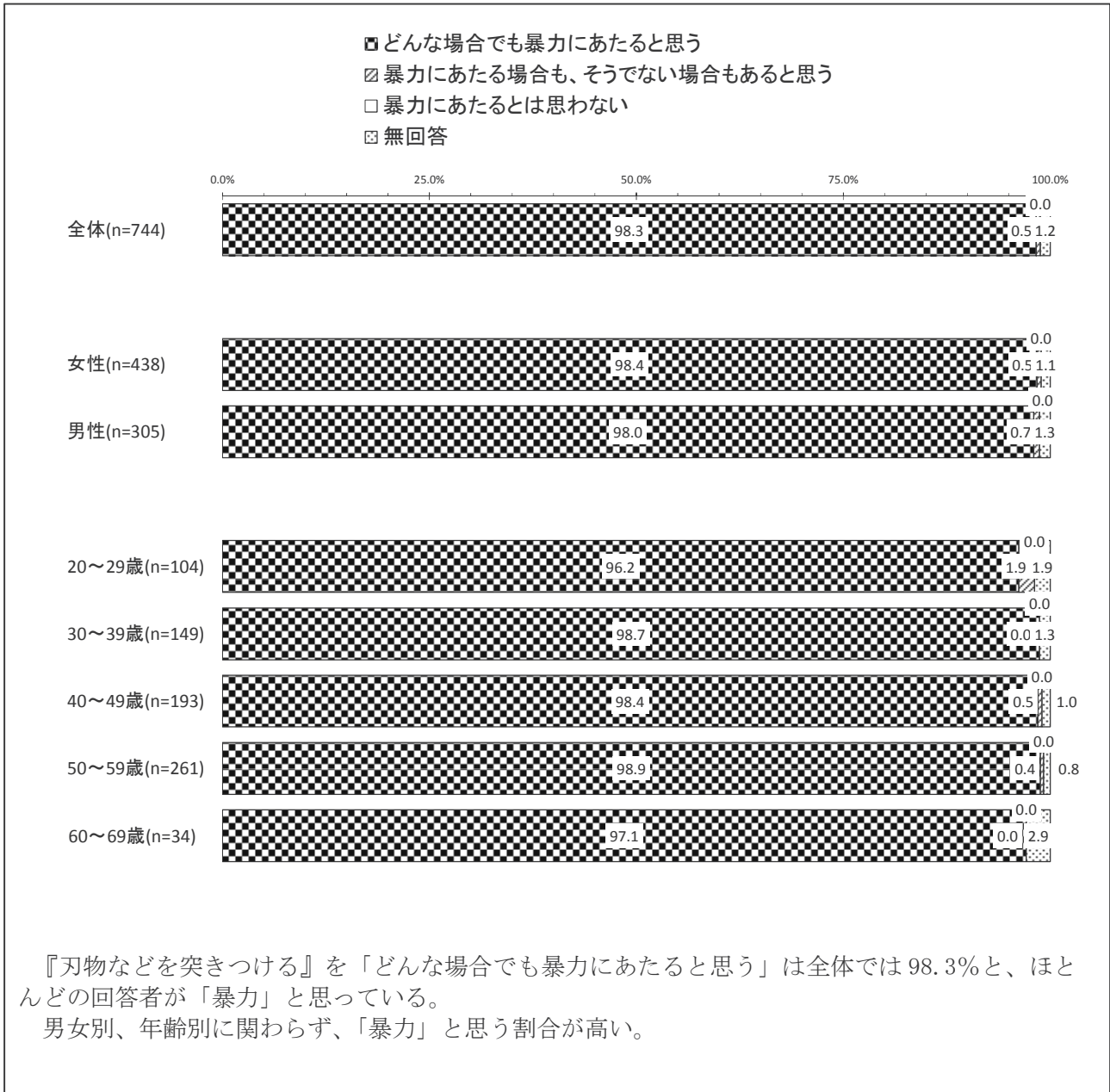


②夫婦間の暴力 『物を投げつける』

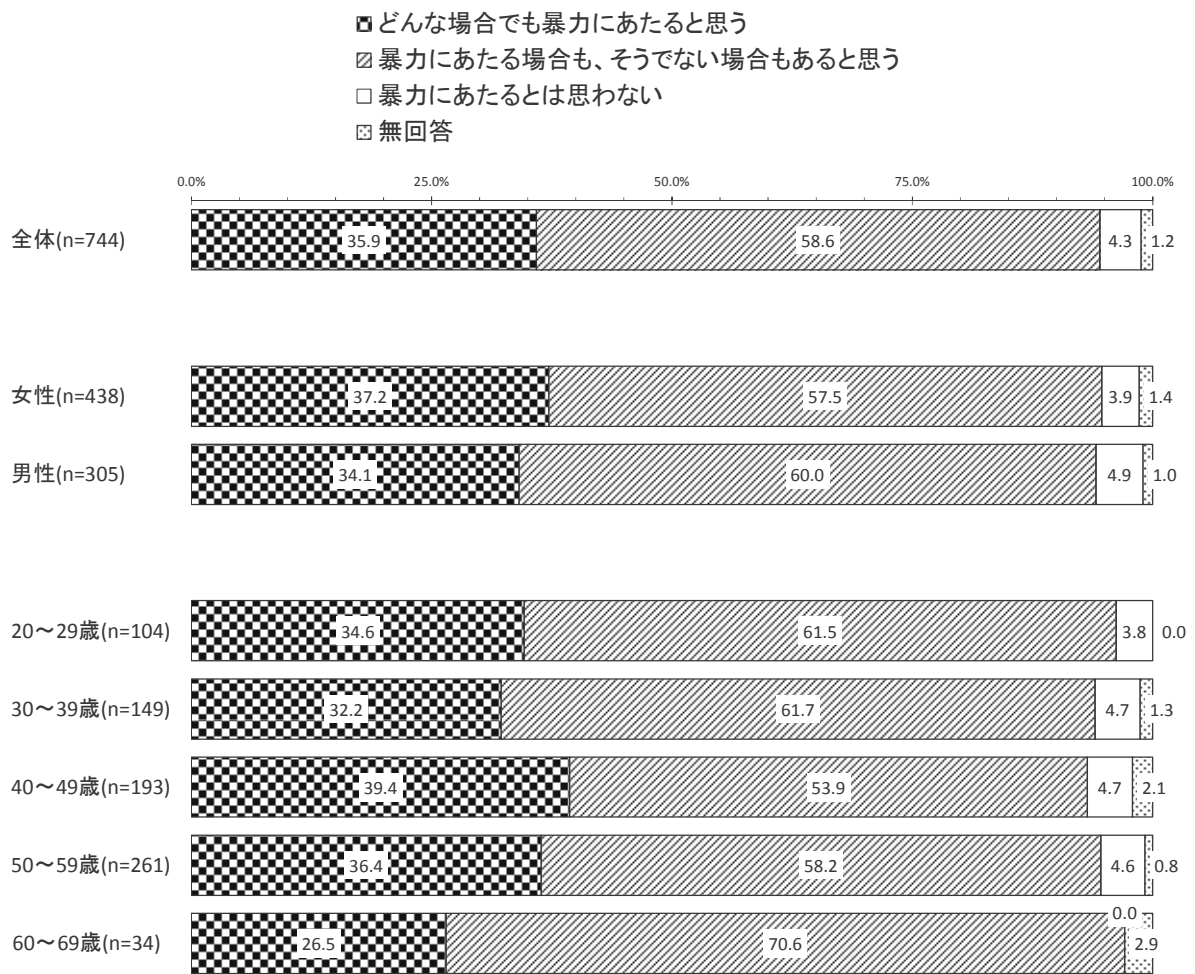


『物を投げつける』を「どのような場合でも暴力にあたると思う」は全体では71.6%。
 男女別では、女性の68.3%が「どのような場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が76.4%と、男性の方が「暴力」と思う割合が高い。
 年齢別にみると、20～29歳では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が44.2%と、他の年齢に比べて高い。

③夫婦間の暴力 『刃物などを突きつける』



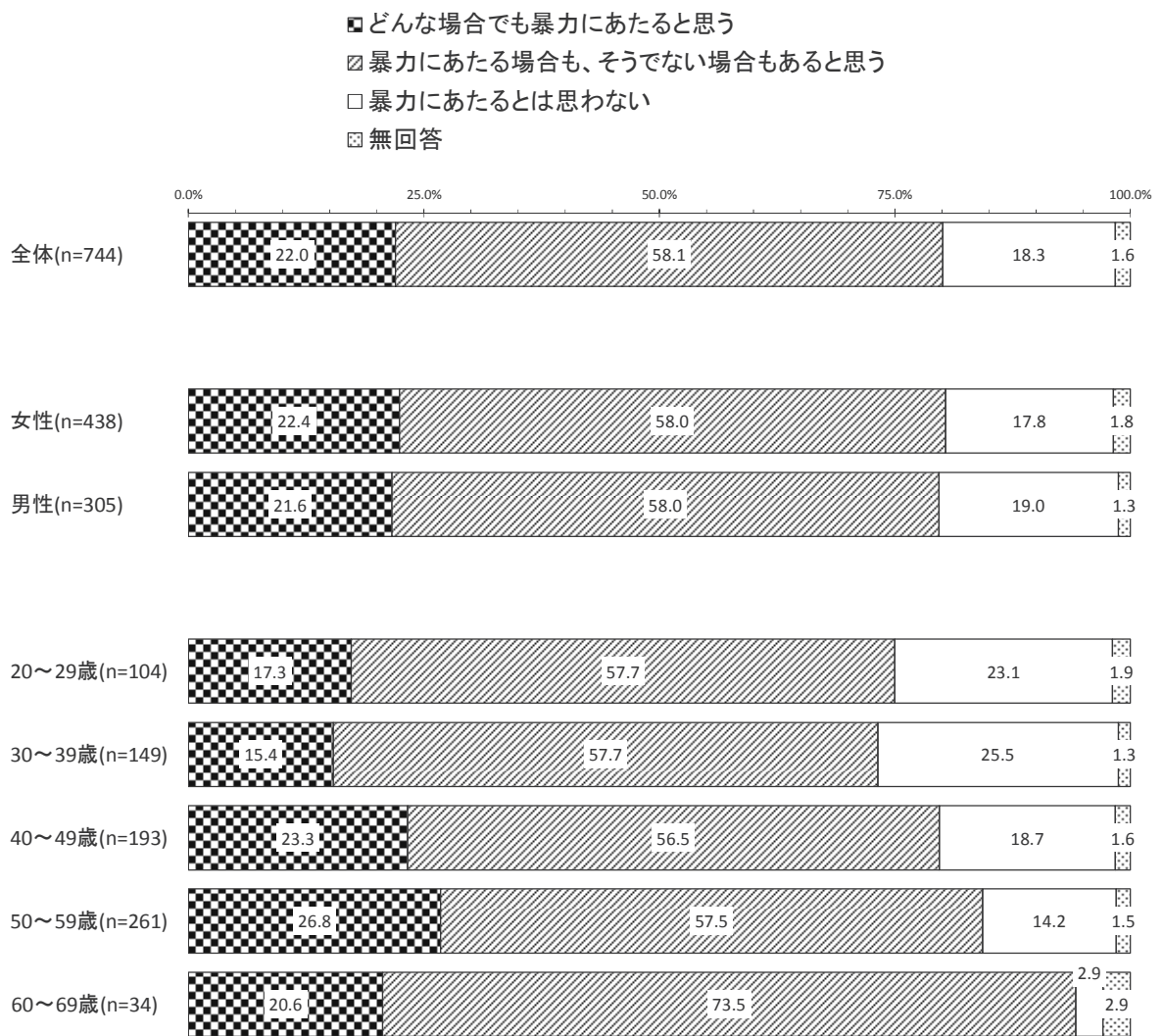
④夫婦間の暴力 『大声でどなる』



『大声でどなる』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 35.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 58.6%である。

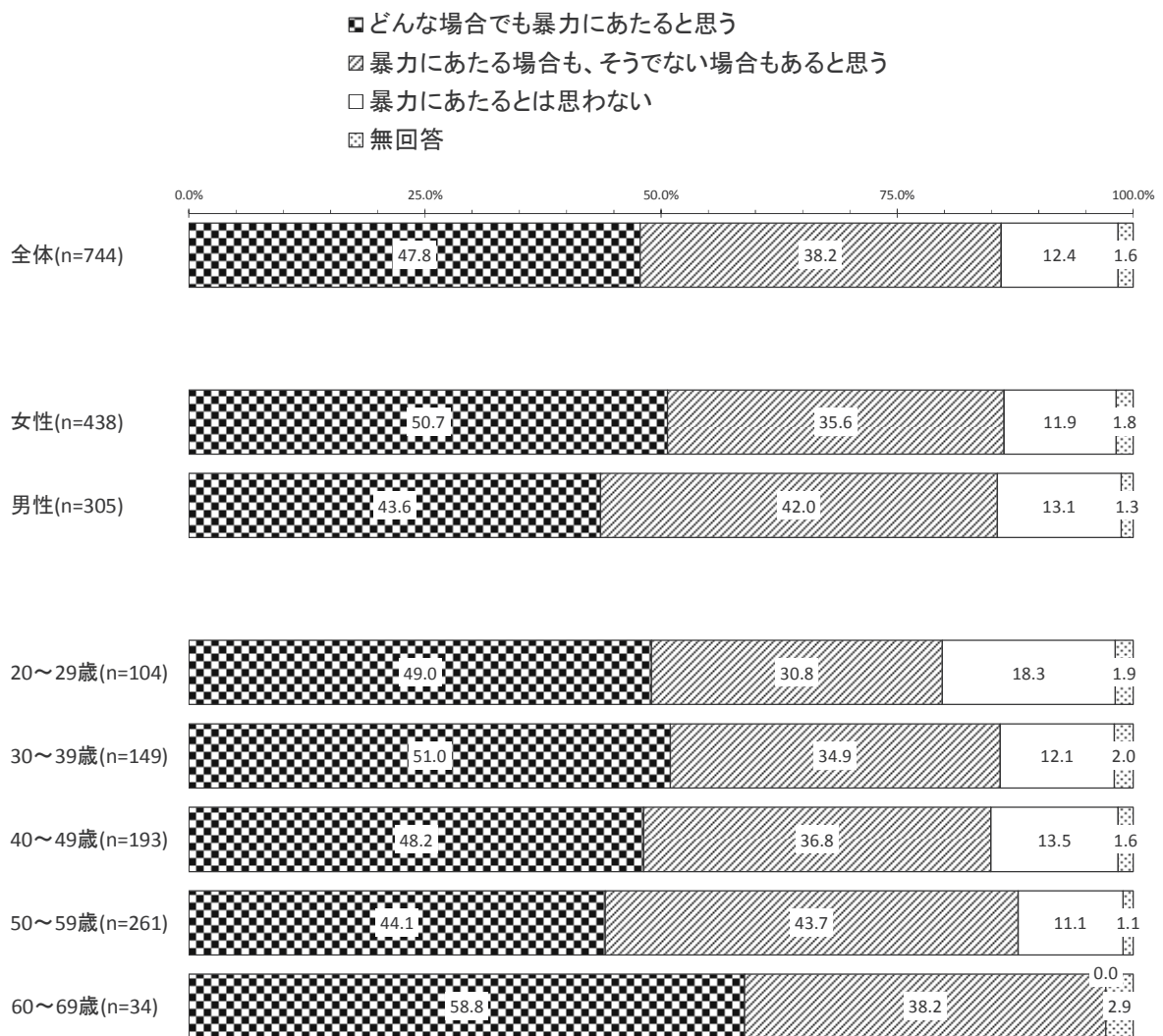
男女別では、女性の 37.2%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が 34.1%と、女性の方が「暴力」と思う割合が若干高い。

⑤夫婦間の暴力 『無視する』



『無視する』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 22.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 58.1%、「暴力にあたるとは思わない」が 18.3%である。年齢別にみると、年齢が若いほど、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高い。

⑥夫婦間の暴力 『「別れるなら自殺する」などと言う』

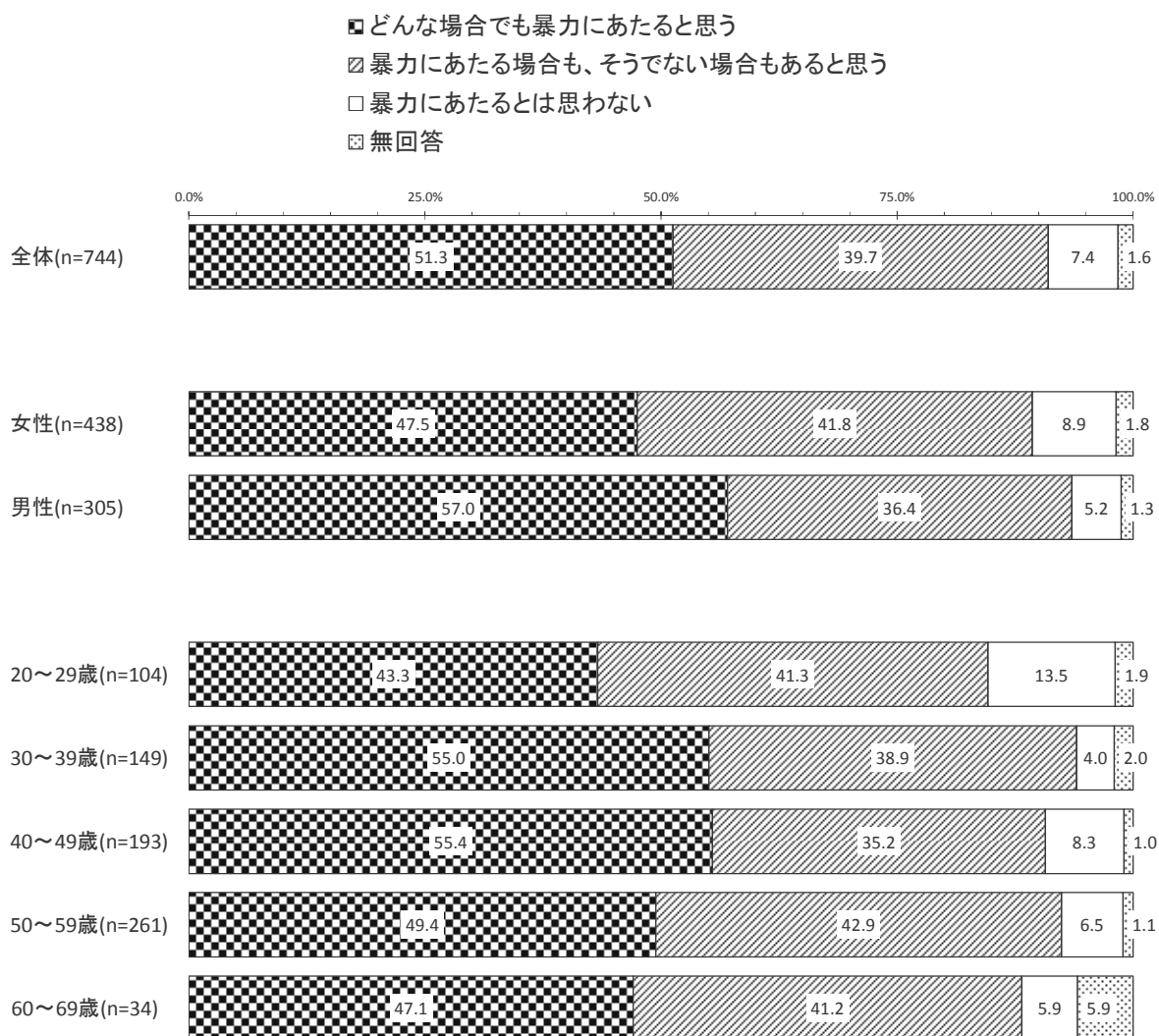


『「別れるなら自殺する」などと言う』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では47.8%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が38.2%、「暴力にあたるとは思わない」が12.4%で、半数近くが「暴力」と思っている。

男女別では、女性の50.7%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が43.6%と、女性の方が「暴力」と思う割合が高い。

年齢別にみると、年齢が若いほど、「暴力にあたるとは思わない」の割合が高い。

⑦夫婦間の暴力 『相手が大切にしている物を壊す』

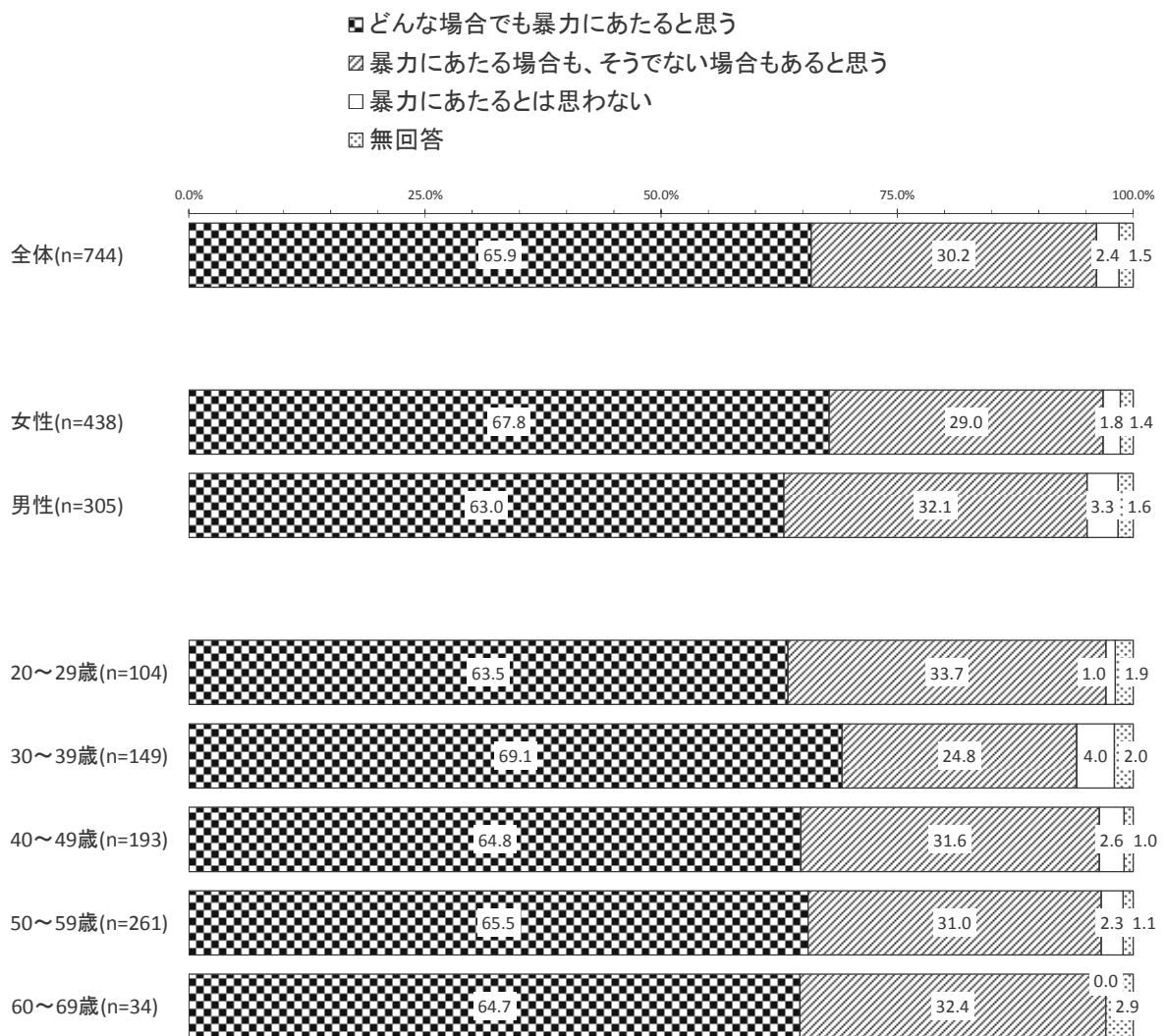


『相手が大切にしている物を壊す』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では51.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が39.7%、「暴力にあたるとは思わない」が7.4%で、半数以上が「暴力」と思っている。

男女別では、女性の47.5%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が57.0%と、男性の方が「暴力」と思う割合が高い。

年齢別にみると、20～29歳で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高い。

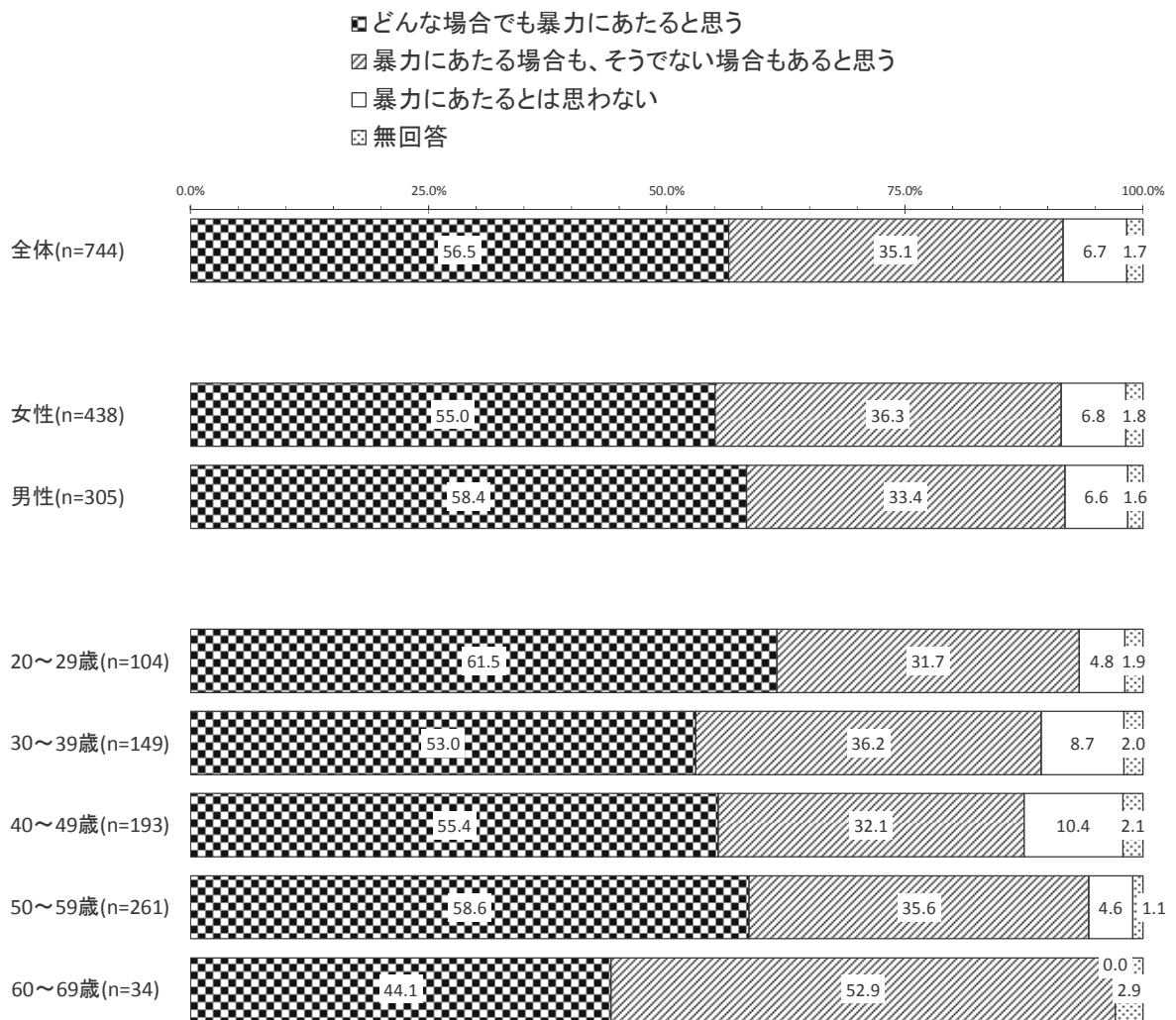
⑧夫婦間の暴力 『性行為を強要する』



『性行為を強要する』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 65.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 30.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.4%で、「暴力」と思う割合が高い。

男女別では、女性の 67.8%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が 63.0%と、女性の方が「暴力」と思う割合が高い。

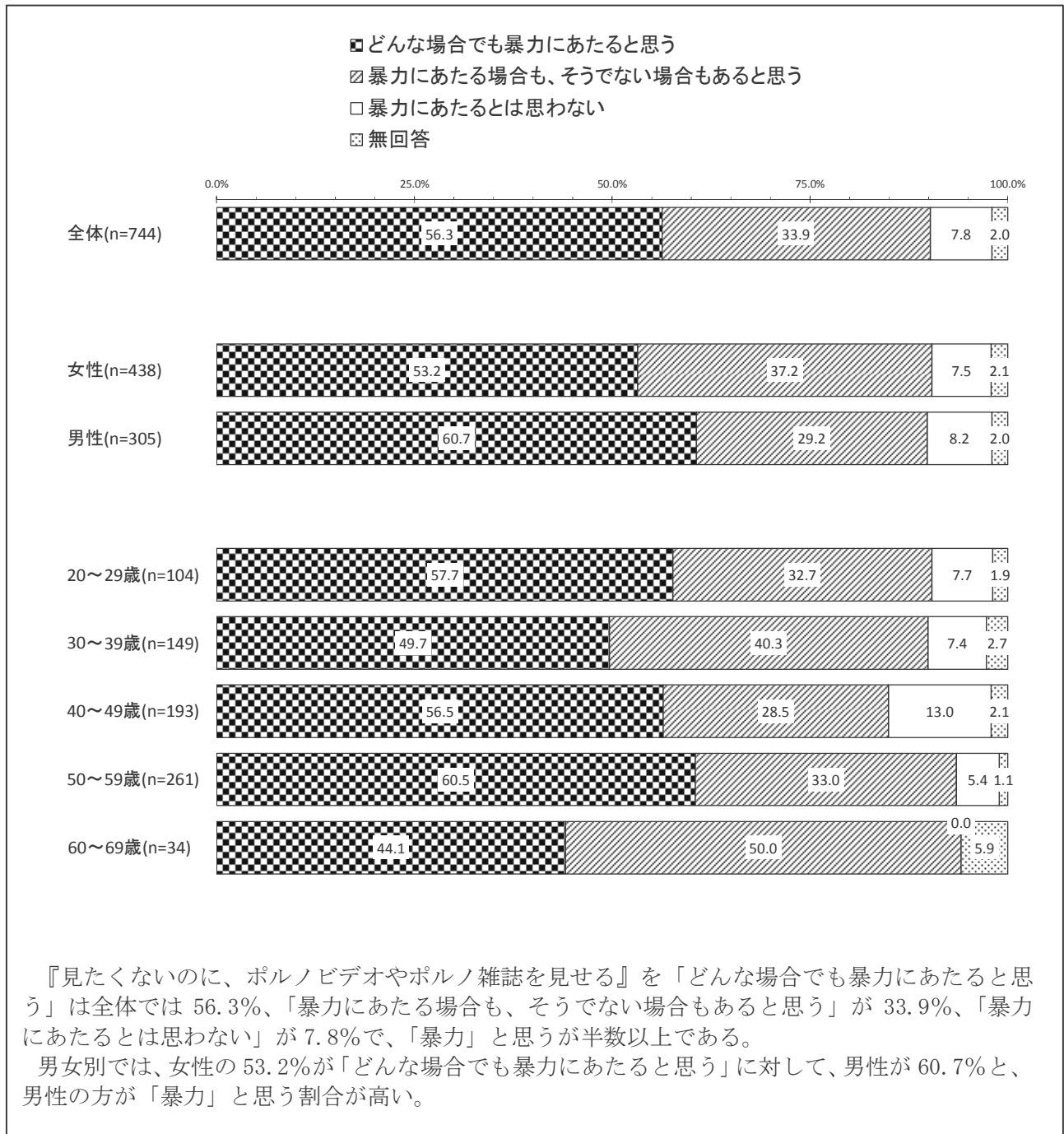
⑨夫婦間の暴力 『避妊に協力しない』



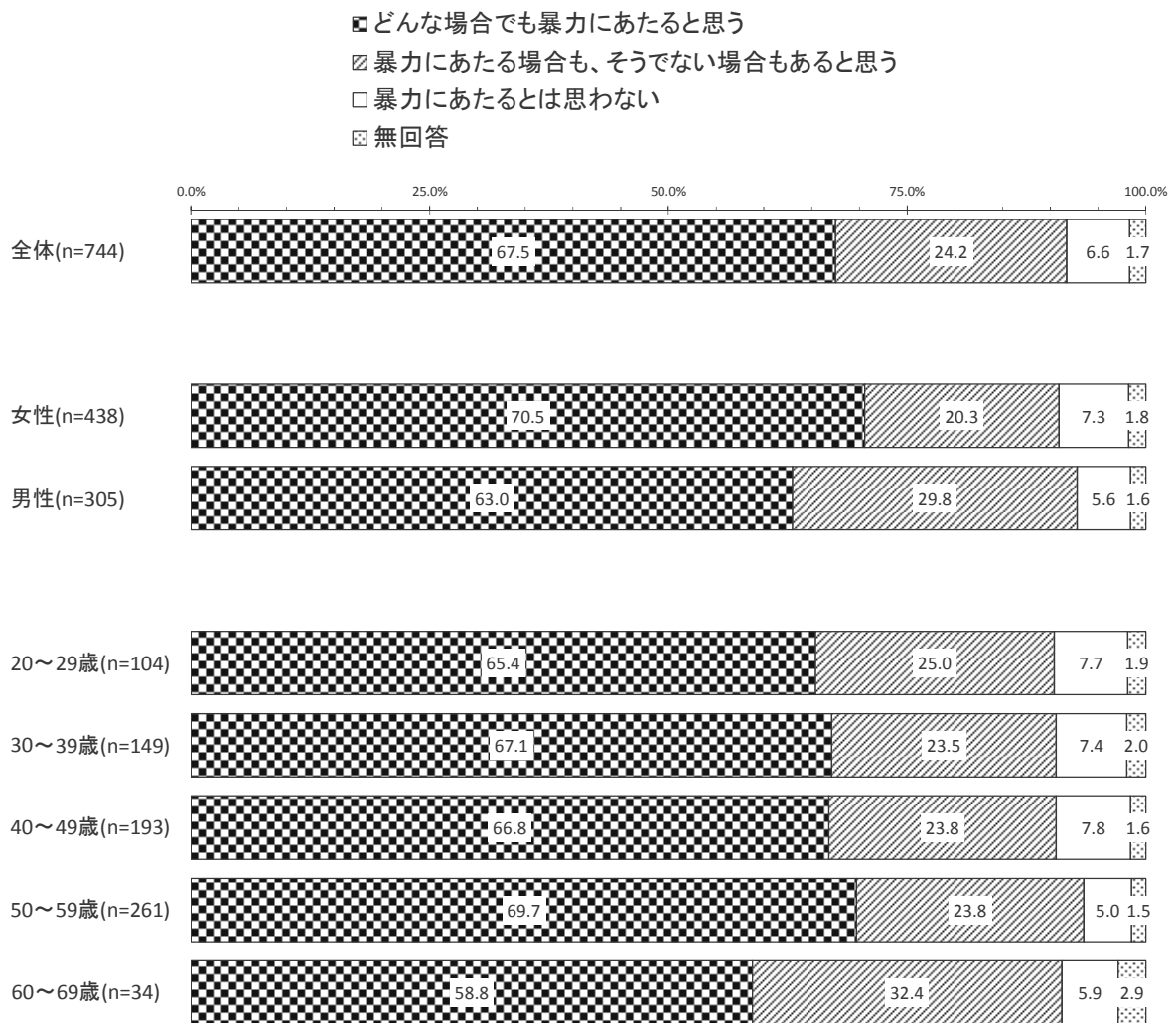
『避妊に協力しない』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 56.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 35.1%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.7%で、「暴力」と思うが半数以上である。

男女別では、女性の 55.0%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」に対して、男性が 58.4%と、男性の方が「暴力」と思う割合が高い。

⑩夫婦間の暴力 『見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる』



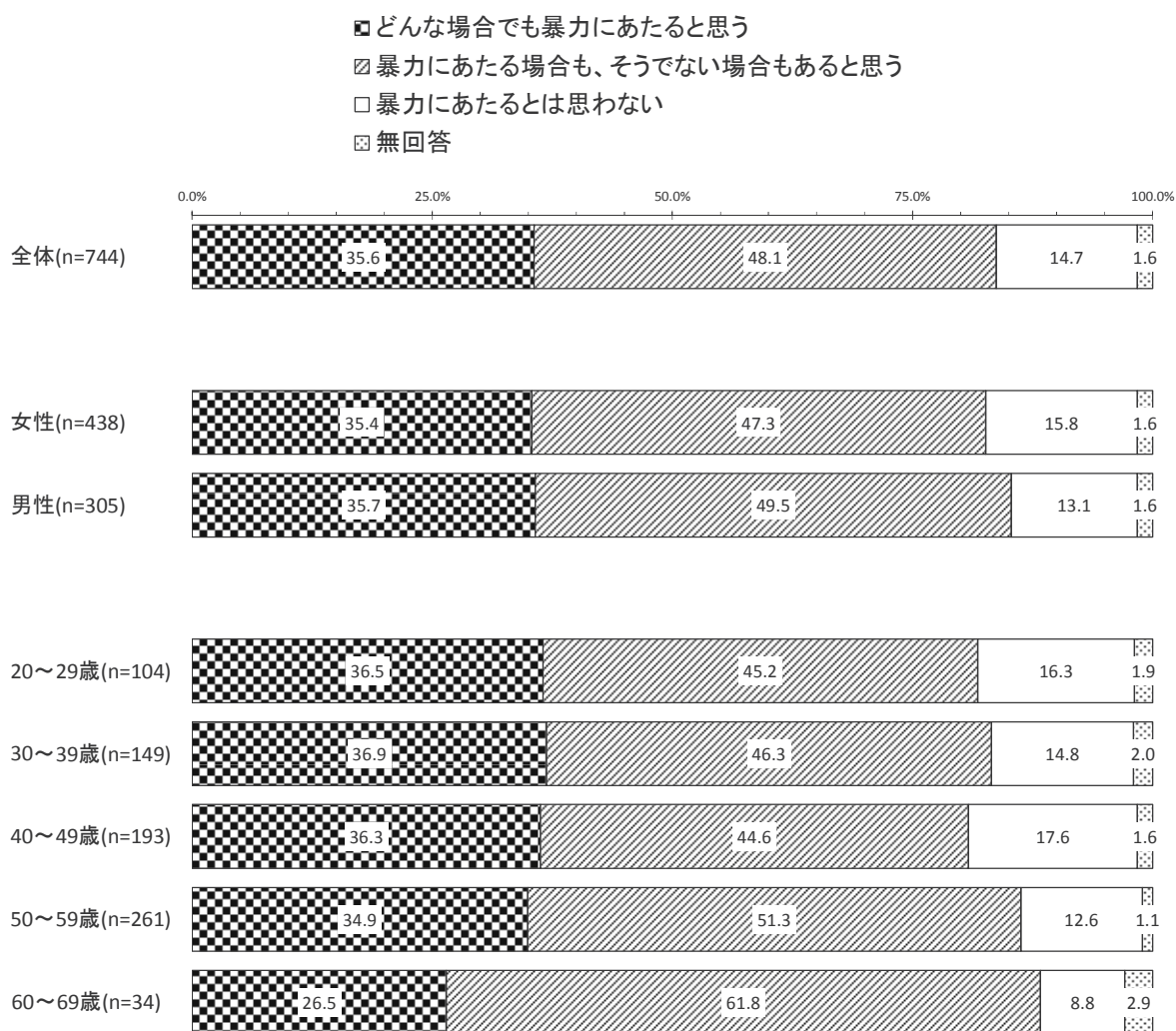
⑪夫婦間の暴力 『生活費を渡さない』



『生活費を渡さない』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 67.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 24.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.6%で、「暴力」と思う割合が高い。

男女別では、女性の 70.5%が「どんな場合でも暴力にあたると思う」のに対し、男性が 63.0%と、女性の方が「暴力」と思う割合が高い。

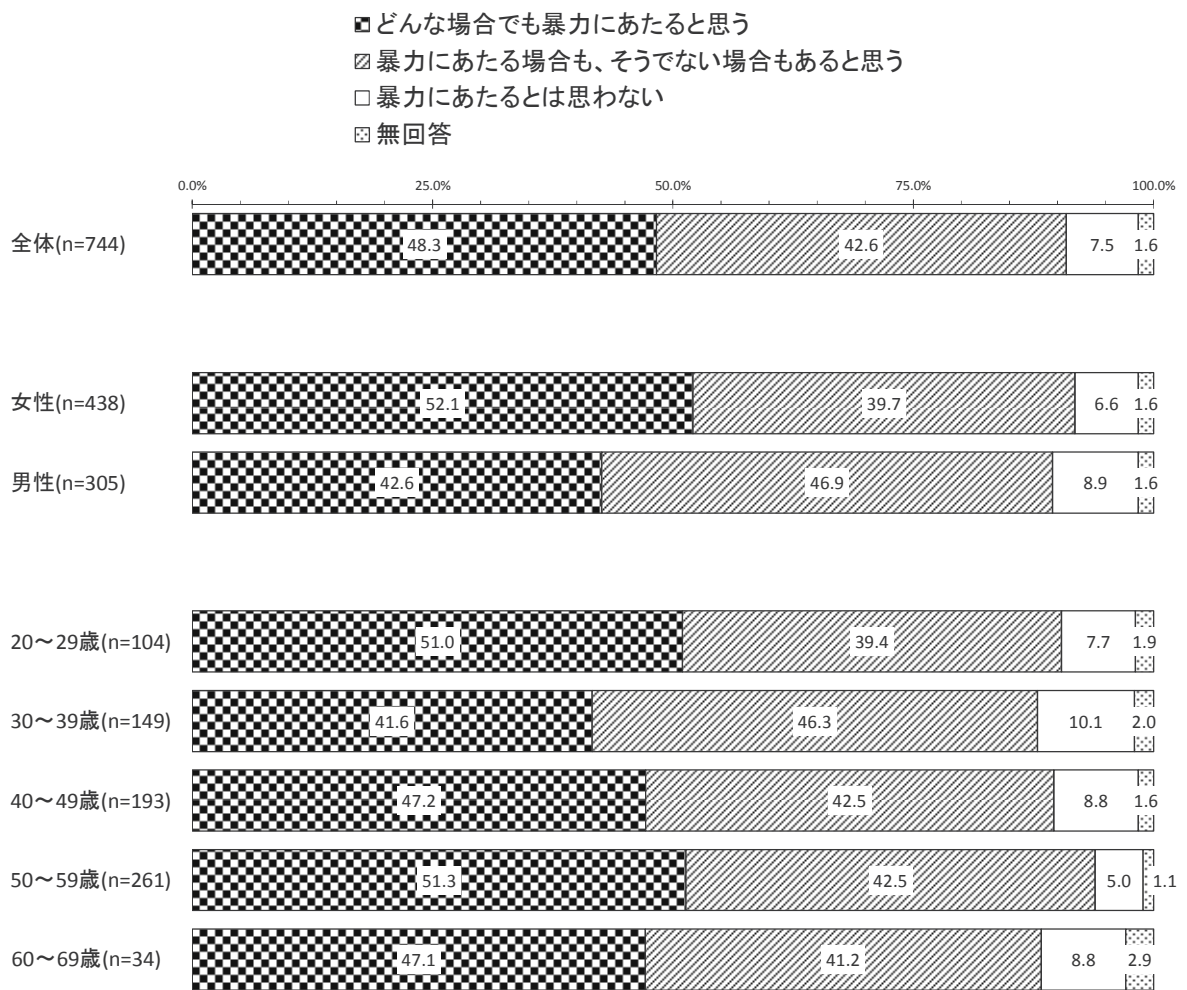
⑫夫婦間の暴力 『妻（夫）を働かせない』



『妻（夫）を働かせない』を「どのような場合でも暴力にあたると思う」は全体では 35.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 48.1%、「暴力にあたるとは思わない」が 14.7% で、暴力にあたるかどうかはケースバイケースという割合が高い。

男女別でも、ほぼ同様の傾向がうかがえる。

⑬夫婦間の暴力 『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』

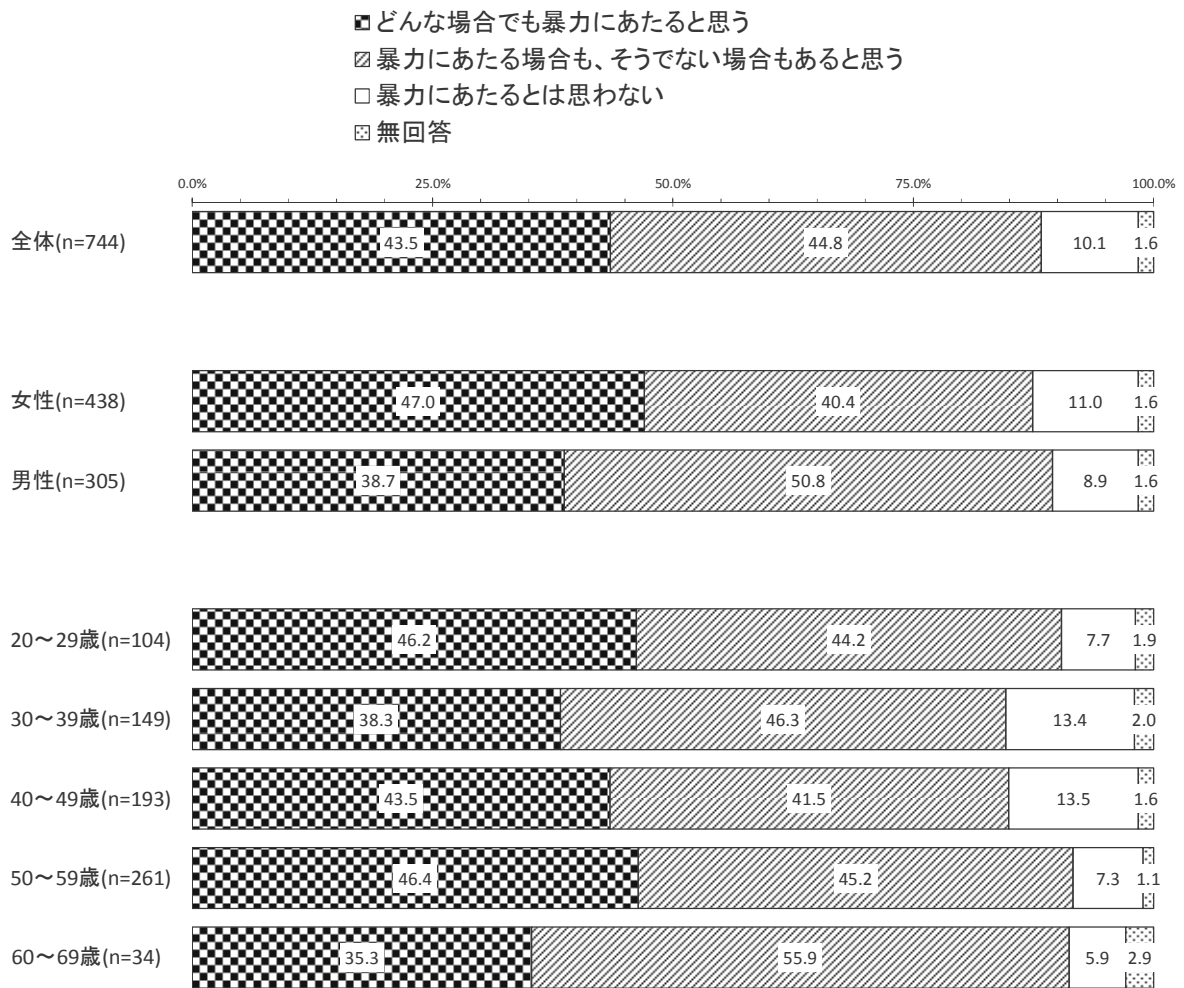


『家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 48.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 42.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 7.5%である。

男女別にみると、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 52.1%と半数以上であったのに対し、男性は 42.6%と、男性より女性の方が「暴力」と思っている。

年齢別にみると、20～29 歳、50～59 歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が半数以上と、他の年齢に比べ高い。

⑭夫婦間の暴力 『友人などとの付き合いを制限する』

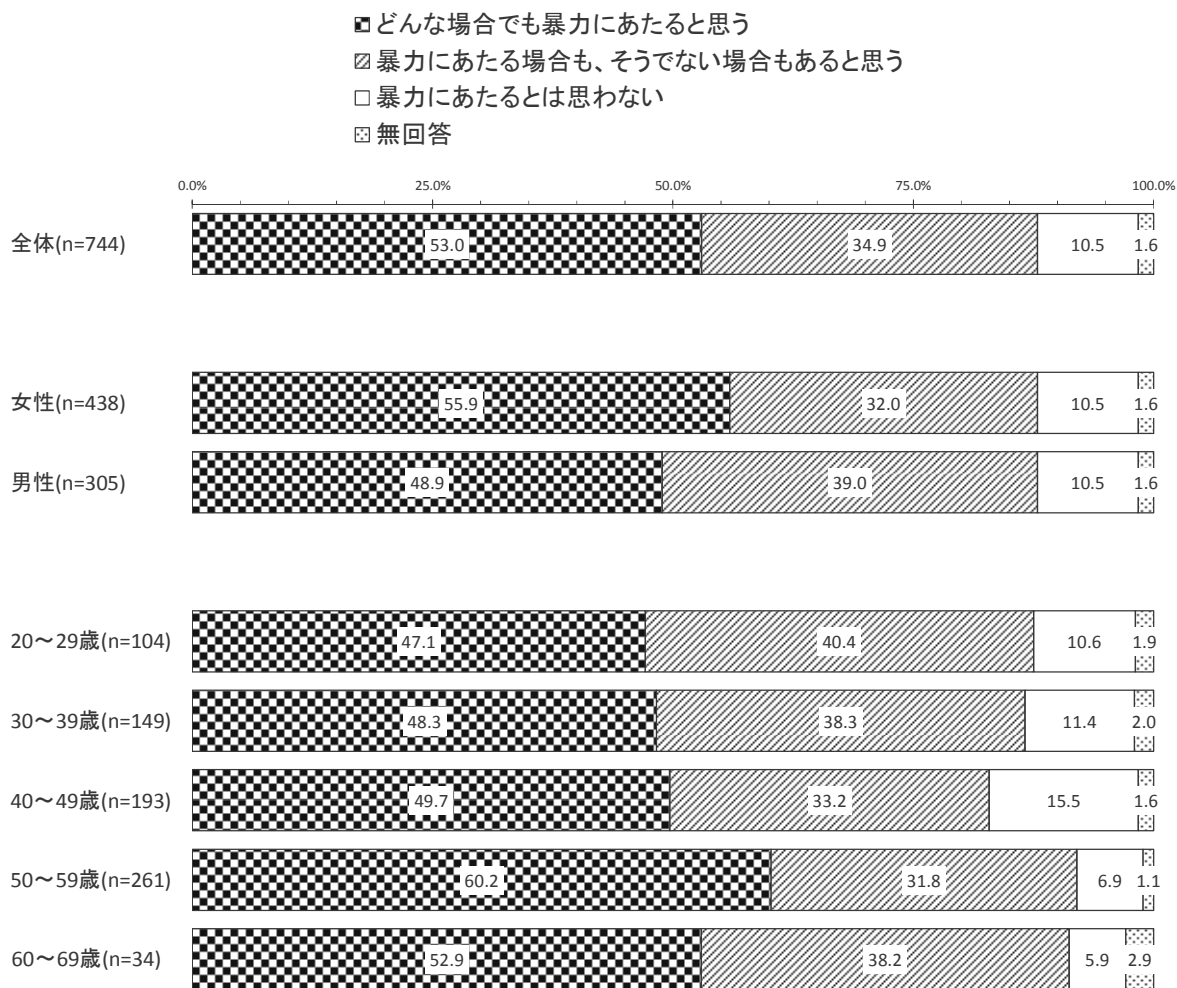


『友人などとの付き合いを制限する』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では43.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が44.8%、「暴力にあたるとは思わない」が10.1%である。

男女別にみると、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が47.0%であったのに対し、男性は38.7%と、男性より女性の方が「暴力」と思っている。

年齢別にみると、20～29歳、50～59歳で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が他の年齢に比べ高い。

⑮夫婦間の暴力 『電話・メールの内容を細かくチェックする』

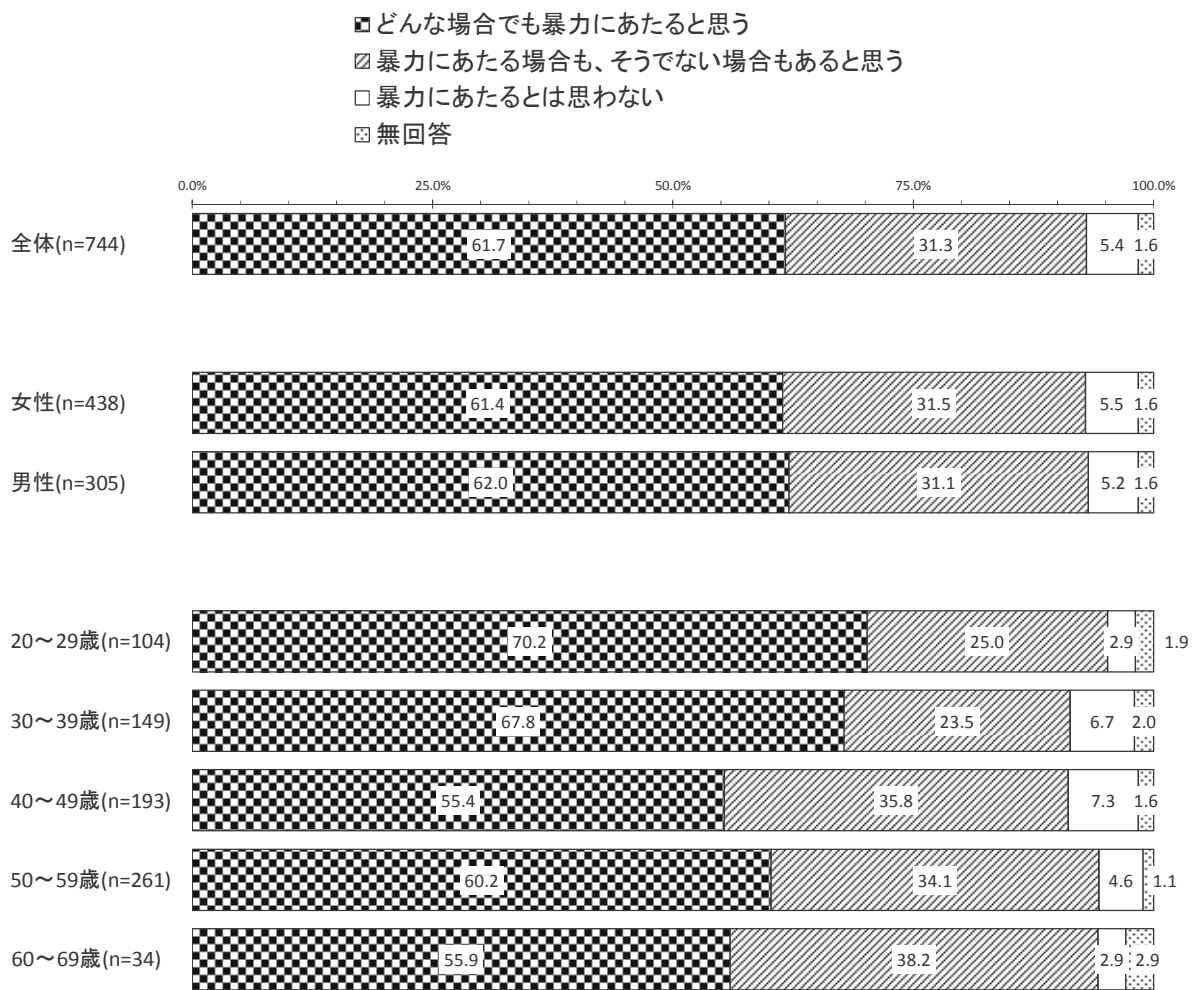


『電話・メールの内容を細かくチェックする』を「どのような場合でも暴力にあたると思う」は全体では 53.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 34.9%、「暴力にあたるとは思わない」が 10.5%と、半数以上が「暴力」と思っている。

男女別にみると、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 55.9%であったのに対し、男性は 48.9%と、男性より女性の方が「暴力」と思っている。

年齢別にみると、50～59歳で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 60.2%と、他の年齢に比べ高い。

⑩夫婦間の暴力 『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』



『子どもに母親（父親）を非難することを言わせる』を「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全体では 61.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 31.3%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.4%と、「暴力」と思う割合が高い。

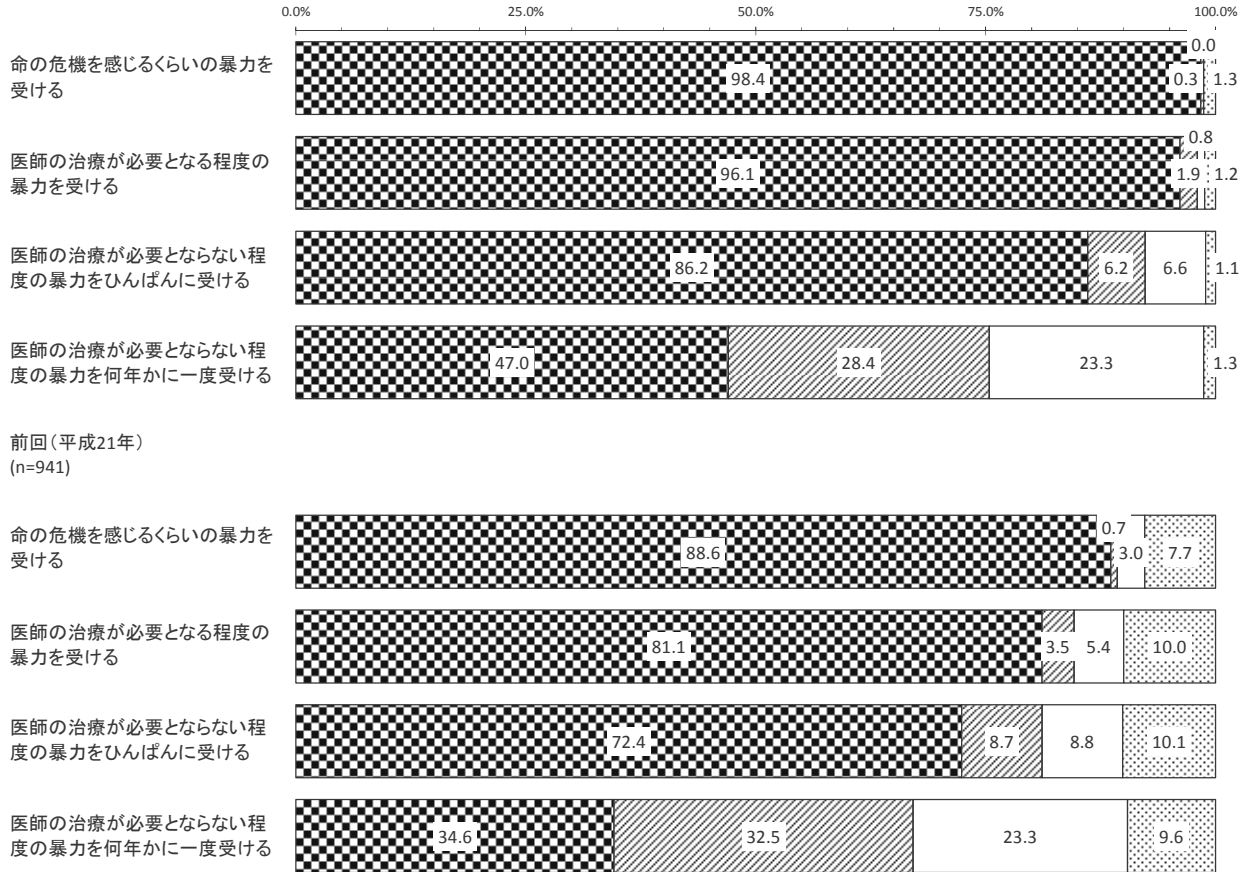
年齢別にみると、20～29歳、30～39歳の子育て世代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割前後と、他の年齢に比べ高い。

(4) 夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入

問 27 あなたは、次にあげた①～④のことが夫婦の間で行われた場合、警察などの公的な機関が、解決に向けて関わるべきだと思いますか。①～④それぞれについてお答えください。
(それぞれ○は1つだけ)

(n=744)

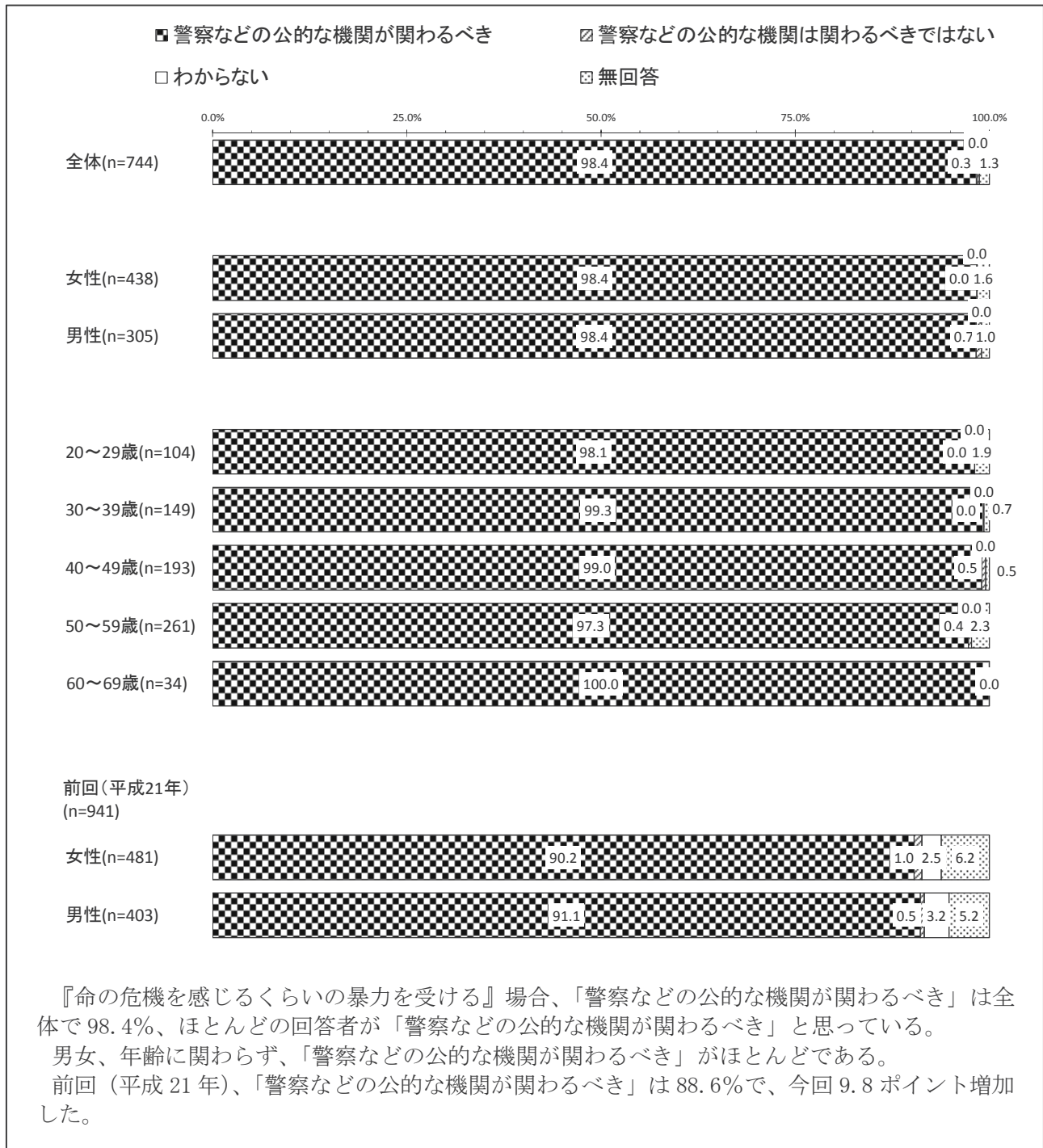
- 警察などの公的な機関が関わるべき
- ▣ 警察などの公的な機関は関わるべきではない
- わからない
- ▨ 無回答



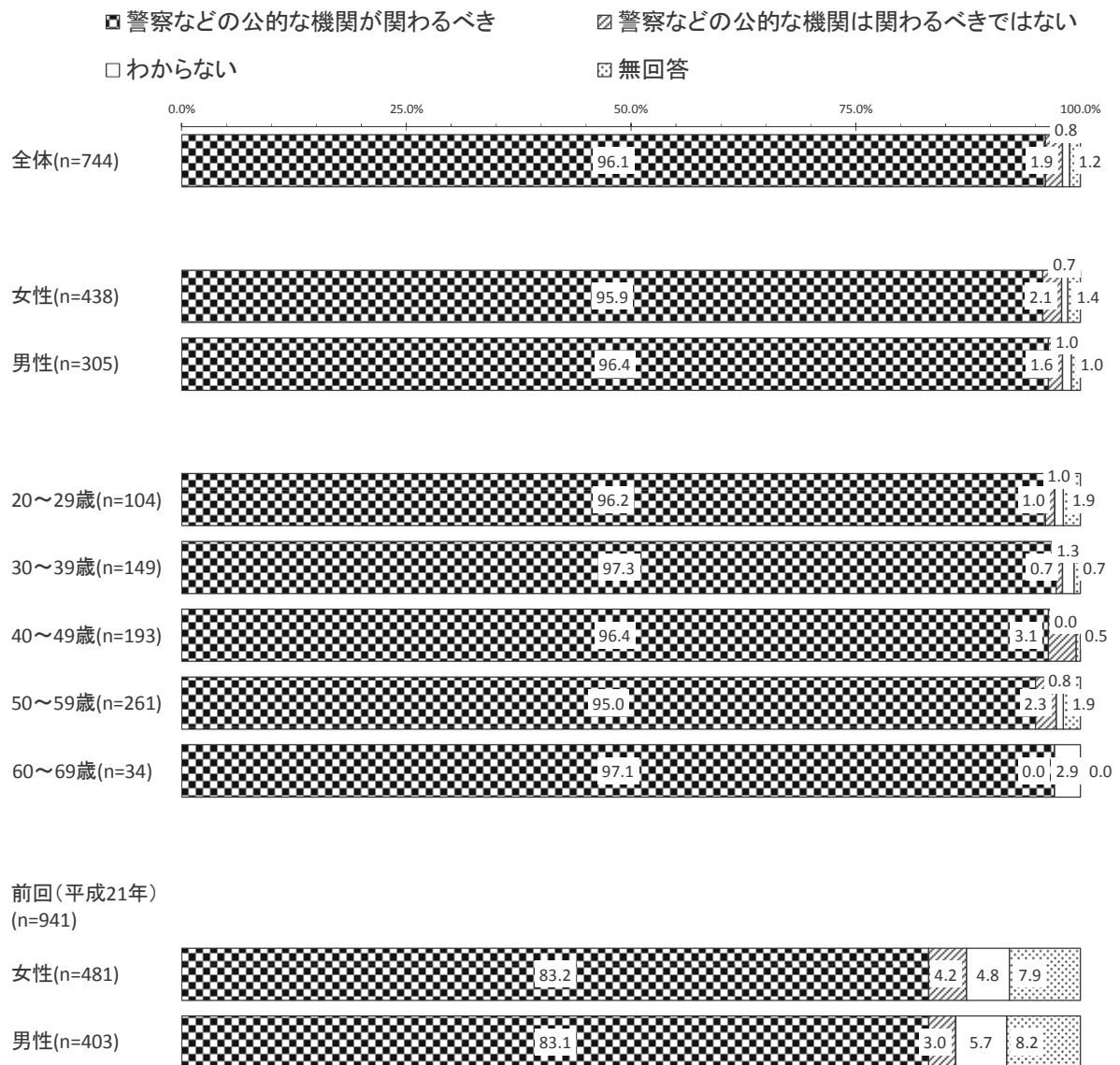
夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入について、『医師の治療が必要とされない程度の暴力を何年かに一度受ける』(47.0%)を除いて、『命の危機を感じるくらいの暴力を受ける』(98.4%)、『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』(96.1%)、『医師の治療が必要とされない程度の暴力をひんぱんに受ける』(86.2%)のいずれも「警察などの公的な機関が関わるべき」と思っている。

前回(平成21年)に比べ、いずれも「警察などの公的な機関が関わるべき」が増加している。

①夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入 『命の危機を感じるくらいの暴力を受ける』



②夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入
『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』

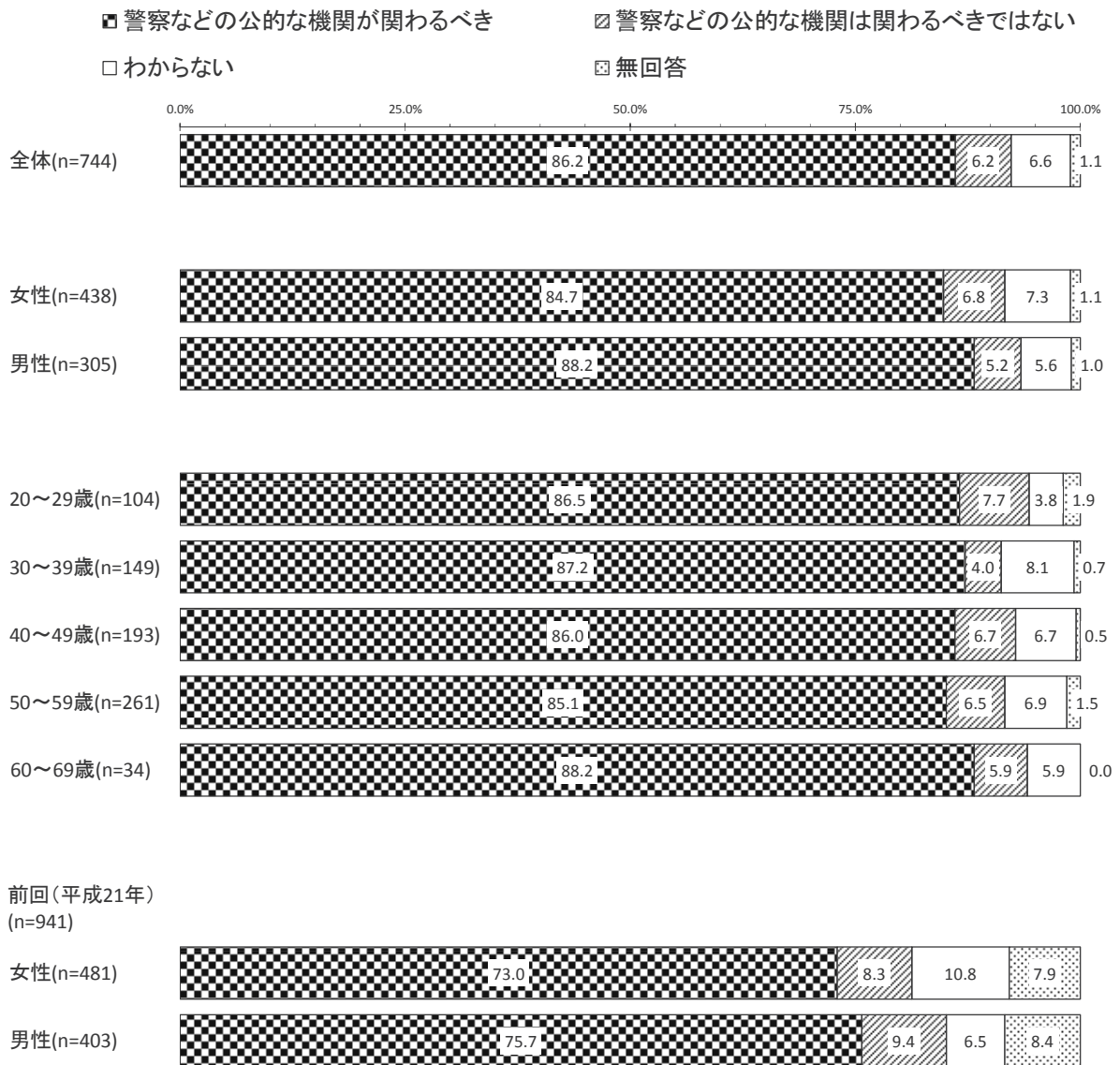


『医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける』場合、「警察などの公的な機関が関わるべき」は全体で96.1%、ほとんどの回答者が「警察などの公的な機関が関わるべき」と思っている。

男女、年齢に関わらず、「警察などの公的な機関が関わるべき」がほとんどである。

前回(平成21年)、「警察などの公的な機関が関わるべき」は81.1%で、今回15.0ポイント増加した。

③夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入
『医師の治療が必要とならない程度の暴力をひんぱんに受ける』

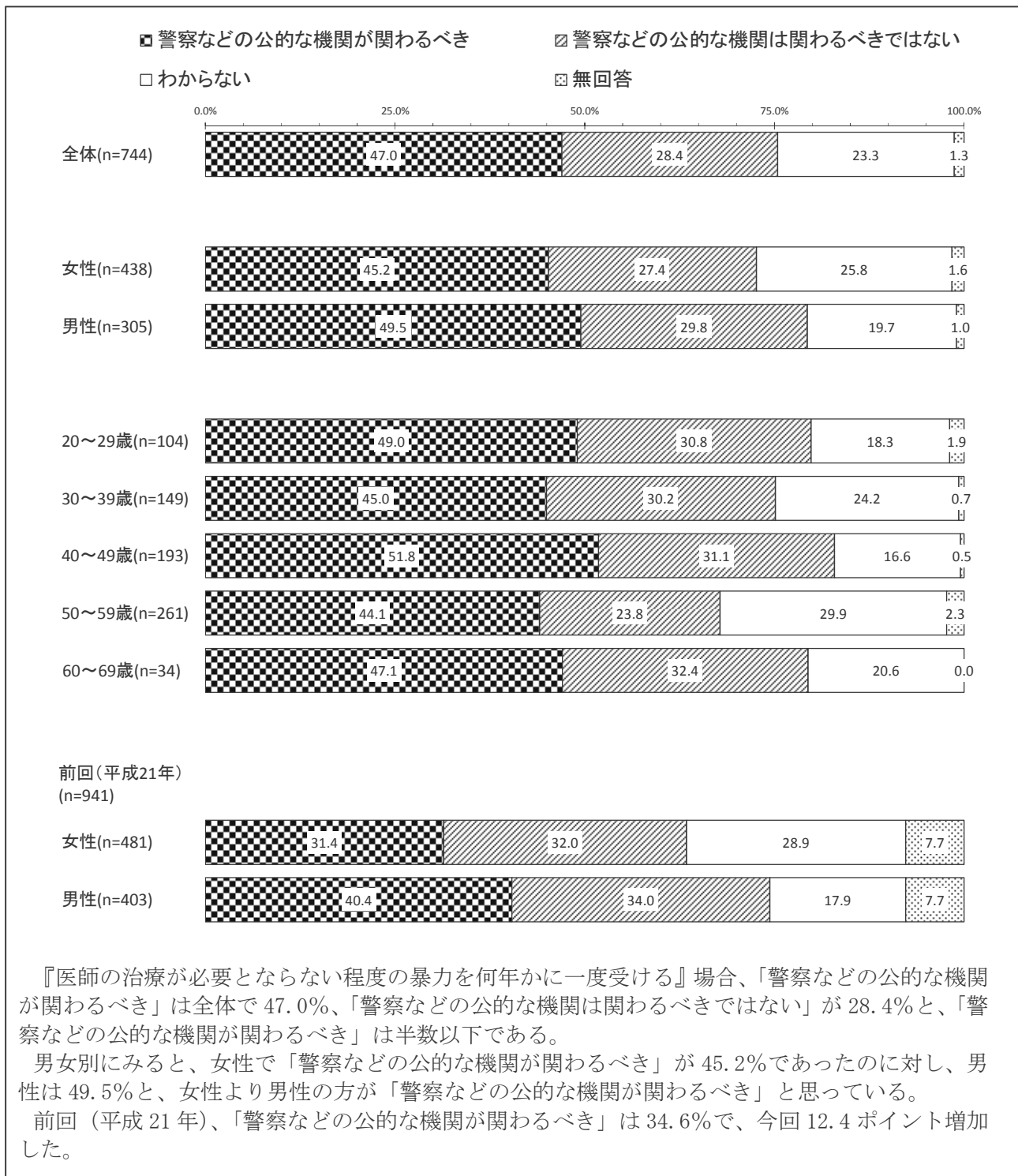


『医師の治療が必要とならない程度の暴力をひんぱんに受ける』場合、「警察などの公的な機関が関わるべき」は全体で86.2%、「警察などの公的な機関は関わるべきではない」が6.2%と、大多数の回答者が「警察などの公的な機関が関わるべき」と思っている。

男女、年齢に関わらず、「警察などの公的な機関が関わるべき」が多い。

前回(平成21年)、「警察などの公的な機関が関わるべき」は72.4%で、今回13.8ポイント増加した。

④夫婦間の暴力に対する警察などの公的機関の介入
『医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける』



10. 地域の慣習

問 28 あなたが住んでいる地域で、男性と女性を差別しているようなしきたりや慣習がありますか。ありましたら、具体的にご記入ください。

【町内会・自治会など】に関する回答

- ◇ 町内会での清掃やら草刈機での除草の時は、男性が出るように声かけがあり、当然とも思います。やはり、力仕事は男性にはかないませんが、それを当然と思う女性側にも問題があるのかも。男と女の問題はむずかしいところです。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 町内会の新年会や総会などの行事で、女性だけが働かされる。葬儀の時も男性は何もしなくて OK である。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 地元青年団はあるが、それに対応するような女性の組織はない。(女性・40代・県北地域)
- ◇ 区の集まりで意見等を若い女性が言うと年上の男性は「女はだまっている」や意見を聞こうとしない。年取った女性が言うとそういう事はない。見た目で見聞かす・聞かないところがある。(女性・30代・会津地域)
- ◇ 私は組長会議に夫の代わりに参加しました。その席上自分たちの地域住民が不利になる様な事を言われたので反論したら「女のくせに…(つつしめ・でしゃばるな・わかりもしねえくせに)」と言われとても不愉快な悲しい思いをしました。(昨年の今頃の出来事です)今の時代男女平等と言われる中、今でもその様に地区の公の会議でその様に言っている所があることは事実で残念なことだと思います。新しい事をしたくても思ったことがつぶされ新しい芽はのびません。女性は公の場で色々発言してはいけないのでしょうか？未だに古い考えの人は男女ともにいます。(女性・50代・会津地域)
- ◇ 自治会の役員はすべて男性である(婦人会等を除く)。(男性・50代・会津地域)
- ◇ 公民館役員に男性、女性と別れており、(別々になっている)理由がわからない。保健衛生協力員も女性だけがやるようになってる。交通安全母の会というものがあるが、なぜ母親だけなのか不思議です。(女性・無回答・県南地域)
- ◇ 会津は全てにおいて女性は後ろに・・・という土地柄です。地域の役員の長も学校のPTAの長もめったに女性は居ません。(女性・50代・会津地域)
- ◇ 村の役員は男のみ。しかし、力仕事やトラクターなどの操作も必要になるので、女性では十分にできない。よって、仕方ないとも思える。(女性・50代・会津地域)
- ◇ 忘年会、新年会、部落の会合。(男性・50代・県南地域)
- ◇ 町内会の会長は男性がやることになっている。(女性・30代・県北地域)
- ◇ 町内会の役員に一人も女性がいない(婦人会という形にされて、町内会の中心には入ってこれない)。(男性・20代・県中地域)
- ◇ 消防団。(男性・40代・県北地域)
- ◇ トップ(会長、部長など長がつくもの)は男性が出ないと、そのあとスムーズに事が進まない事が多い。(暗黙で決まっているという感じ)逆に男性が名前だけでも出てくれると、その場が丸くおさまる感じ。会合では男性の意見は出やすく、女性が何か発言すると、でしゃばりととられてしま

- う。なので、何も言えない（思っけていても）。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 他県から来ましたのでしきたり等はわかりませんが、地域の役員、区長、班長等は男性が積極的に参加されていると思います。(女性・40代・県中地域)
 - ◇ 地域活動すべてにおいて、男性が先で、集会等もまずは、男性の話、女性はお茶入れなどにまわされているようです。(女性・20代・県中地域)
 - ◇ 祭礼・自治会、町内会の役員等々それらが当然の事となっている。(女性・60代・県中地域)
 - ◇ 自治会の役員は男性のみ。女は口を出すべきではないという風潮がある。(女性・60代・会津地域)
 - ◇ 交通安全協会と交通安全母の会。同じ事をしているのになぜ別々に分ける必要があるのかわからない。(男性・50代・県中地域)
 - ◇ 雪かきを妻（私）ががんばってやっていました。夫はあまりそういうことは得意ではありません。近所の人が、なぜ夫ではなく妻がやるのか？夫は近所の人と一緒に雪かきをやるべきではないか？という風潮がある。男だから力仕事をせいというのも差別ではないか。(女性・40代・県北地域)

【家庭内の慣習】に関する回答

- ◇ 結婚・同居した時に夫の両親より ・結婚したら仕事は辞めて家事、育児、介護に専念するもの ・嫁は夫と夫の両親・親族に従うもの（意見してはならない） ・酒を飲んだうえでの暴言は暴言にあたらぬ ・子育ては祖父母が行うが全責任は母親にある 旨のことが常識（地方の）であるといわれましたが、他家をみているとなんだか違うように思えます。でも義両親を信頼して書いてみました。(女性・40代・会津地域)
- ◇ 実家の両親は、神棚へお供えする際、父（男性）しかしないが、差別とは思わぬ。(男性・30代・県中地域)
- ◇ 豆まきは男子のみ、神棚に関しては男のみ。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 女性が家の仕事をするのがあたり前と親が思っている。女のくせに！！って言われます。昔の男の人の考えが、まだまだです。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 一般的にある家事は妻がするという慣習がある。(女性・40代・県南地域)
- ◇ 田舎の方になるとあるようによく聞きますが、この地域にはないように感じます。ただ、ご年配の方になると、女性は静かに家の事をしていればよいような事を言うのをよく聞くので、家庭環境によっては私の年代の方でも、そのような考え方の方もいると思います。(女性・30代・県中地域)
- ◇ 女性が家事や育児、介護をすることがあたりまえに求められてきた。(女性・20代・会津地域)
- ◇ 農村地域なので。長男のことを位牌もちと位置づけている。(女性・40代・会津地域)
- ◇ 長男を大事にする。(女性・50代・いわき地域)
- ◇ 地域ではないのですが、男たる者厨房に入るべからぬの時代で育った方もいる。(女性・30代・県北地域)
- ◇ 子育てをするうえで、やはり女性が中心になってしまっている。また、子育てをしながら仕事をすることにあっても、子どもの体調が悪い時や家庭的・地域での行事、仕事があるときにも男性よりも女性がやらなければならない事が多く感じる。生きていく上で女性の負担は大きすぎる。(女性・20代・県中地域)
- ◇ 東京から引っ越してきてすぐに感じたのは、人がたずねてきた時女性は台所に引っこみ話の相手を

しないことが好まれるということ。女性が発言することに対し、暗黙の圧迫を感じた。女性は同等ではないのだと感じた。今も 50～60 歳以上の層では、男女の権利は同等ではないという意識が強いのではないだろうか。(女性・50代・県中地域)

- ◇ 「男は若いうちに都会に出て、社会の荒波にもまれるべきであり、結婚をし、その家族を養えるようになってようやく一人前である。」「女は早くに結婚して子どもを生むべきであり、また実の親、義理の親かかわりなく、介護が必要となった場合、率先してそれを引き受けるべきである。学歴は最低限でよく、就職も親元から近い地方でするのが望ましい。」こうしたことが祖父母～父母の年代の人々に“暗黙の了解”として浸透しているように感じています。そこから外れた場合、周囲から奇異や白い目で見られることもあり、田舎という狭いネットワークの怖さを感じます。(女性・20代・県南地域)

- ◇ おじいちゃん、おばあちゃんが多い地域の為早く結婚しろ、子どもは若い内に産め等いわれるが、これはある意味差別ではないかと苦痛を感じている。実際 30～40 代の独身女性をあわれんでいる声が多いが、とつても失礼な話だと思う。女性が仕事一筋で人生を終えてもイイじゃないか。男性が仕事一筋だと「真面目すぎる」の一言で片付けられるのに……。(女性・20代・県北地域)

【祭り事】に関する回答

- ◇ 祭りの神事は町の中を流し歩くことはできません。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 伝統的な祭りに様々なしきたりがあるようで、U ターンして地元に戻った人に対しても、他から移り住んだ人同様の扱いをされたと聞いたことがあります。封建的で他のものを受け入れられない風土がかなりあると感じています。(女性・60代・県南地域)
- ◇ この地域の神社の祭礼(2年に1度の大きなもの)の参加者は男性のみ。近年は少子化のため、小学生～高校生、若者は女子も出られるようになったが、幹部は男子だけ。彼らの飲み会の準備や後片付けを、喜々としてやっている女性たちにも疑問を感じる。(女性・50代・県南地域)
- ◇ お祭りの時に、提灯を持つ人が男子だけ。(男性・40代・県中地域)
- ◇ 地元の祭りでの子供の三匹獅子には長男しか参加できない。旗持ちは男性だけ！(女性・50代・県中地域)
- ◇ 祭……昔からの伝統なので特に女性を混ぜる必要はないと思います。男女平等としきたりは違うので何もかも一緒に考えるのもどうかと思います。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 祭りなどの参加について(少しずつ、女性の参加も見られるが)あるかもしれません。大概、男性が中心となってなされる例が日本全国多いと思いますが。(男性・50代・県中地域)
- ◇ 祭りに参加できる大人は男性だけで、女性は炊き出しなど食事を作っている。(男性・30代・県南地域)
- ◇ 祭りの時、神社みこしは女性が触れられない。(女性・40代・県南地域)

【職場】に関する回答

- ◇ 昨年12月に出産の為(第二子)、パートで働いていた事務職を辞めました。前職で正社員で働いて

いた時は産休・育休（第一子）共に取得できましたが、パートでは両方とも取得するのは難しかったようです。妊娠したら仕事をどうするか考えなくてはいけないというのが働きたい女性にはつきまといますね。決して保育料も安いわけではないですし…。「働きたい女性、応援します!!」という世の中に対して、現状は伴っていないというのが当事者としての感想です。

（女性・40代・相双地域）

- ◇ 福島県は女性管理職をより多く登用しようとしている。（男性・40代・いわき地域）
- ◇ どの会社も女はお茶を入れ出すと決められている。男だけだと「お茶を出してくれる女の人がないので・・・」と言われたことがあり、男女平等ではないとその会社を不審に思った。男がお茶を入れないと会社全体が思いこんでいるのは古い。役所もお茶入れやコピーをするためにパート、臨時をやとっているようだし・・・。税金をもっとよりよい方法で活用して欲しい。ばかにしている。そのことを疑問にすら思わない日本はおかしい。（女性・40代・相双地域）
- ◇ 企業で同じ仕事をしているにも関わらず、男女の賃金の違いが行われている事と、子供が病気などして会社をやすんだりすると、上司から嫌味など言われ、仕事をやりづらくするなど現代社会は昔となにも変わっていない様に思う。（女性・40代・県北地域）
- ◇ 同じ仕事をしているにも関わらず、地位も同じであるのに、転勤などは女性にない。又、夜勤も女性にはなく平等感に欠ける。（男性・40代・いわき地域）
- ◇ 職場において女性のみ・お茶出し、そうじ、ごみ集め、コピー取り、その他雑用などの業務があり、あたりまえのことと思われている。このような慣習については、現代の社会ではふさわしくないことを、職場の皆にわかってほしい。（女性・30代・いわき地域）
- ◇ 結婚すると同じ職場にいられない（たいていは男性が残り、女性は辞めざるを得ない）。（女性・30代・県北地域）
- ◇ 公立の保育士ですが、高卒の事務職よりあきらかに昇格が遅れています。課長職に女性は1人もいません。理由はどちらも勤務能力の査定によると説明され続けています。事務職と保育職は保育職が能力的に下なのか理解できません。せめて高卒職と同等に主幹にはできないのでしょうか。能力といいながら主幹までは、ほぼ年功です。どこの役所も同じですか。（女性・50代・県中地域）

【葬儀】に関する回答

- ◇ 昔に比べたら…。お葬式のお手伝いは男性が出なければいけないとか、は、ずいぶん緩和されて、女性が夫の代わりに出てもよくなってきている。ただ、地域の自治体の役職などはまだまだ男性が多く、女性の登用は0に等しい。この事は、女性自身の意識を変えて、積極的に関わっていくべきところだと思う。（女性・60代・県中地域）
- ◇ 葬儀の近所協力時の役割分担。 ・祭礼参加の神事にかかわる役割。（女性・60代・県中地域）
- ◇ 家長（男子）でなければ、墓守りになれない、由緒あるお寺なのでしょうが、少子化時代、もう少し柔軟性を持つては・・・と考えるしまう次第です（一人、養子に、名義だけでも・・・との要望が有り、困惑しています。）。（女性・50代・いわき地域）

【その他の事柄】に関する回答

- ◇ 女性はアルコールを飲んではいけない。などと言われた人がいます。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 小、中、高と元軍人(日本軍)の教員などもおり男女共同参画などは「まだまだ」だった。しかし現在は報道や自治体の努力により、男女の差別は徐々になくなってきている。しかしながら児童ポルノ、売春等女を武器とした犯罪や、女性自ら性産業に身を捨てる者もいる。生活保護受給者の中では(私の近所の母子家庭の)母親が生活保護の不足分を売春行為でかせいでいる者もいる。男女共同参画と同時に格差の是正、景気の回復等国民の所得も増やすのも肝要と思料するところです。長年男尊女卑の国でした。今が改革のしどころ頑張ってください。追伸私の子どもの頃はこんなことがありました。今もいやな思い出です。(元軍人の)教員は「女の分在で何ごとか」とよく生徒をしかりつけていた。しかられた生徒は「女の分在とは何んですか。」と逆にたずね、ビンタをくらっていた。私は同じ人間なのに何で差別するかというと、私もビンタされた。
(男性・50代・いわき地域)
- ◇ 自然の理としてオスの使命、メスの使命があると思います。男性が子どもを生めますか?女性が男性と同じ事をすべてできますか。すべて同じ事ができたら種の存続は不可能です。
(男性・40代・県中地域)
- ◇ 温泉街は、女将ばかり映っている。男性も頑張っていて欲しい。(男性・30代・県北地域)
- ◇ 地域的なことではないが健康保険で子どもを扶養に入れるときや、扶養手当の支給など同程度の収入なら夫を主に手続きすること。(女性・40代・県南地域)
- ◇ 男女共同参画とは話がずれるが、セクシャルマイノリティーについて理解がない。教育現場等ではもっと積極的に学ぶべき。セクシャルマイノリティーが生きやすい世の中になる事を願います。自殺をする人、いじめを受ける人、様々な方がいることをご理解いただければと思います。
(無回答・20代・相双地域)
- ◇ 地域の慣習は、現代ではあまりなくなっている印象はあります。逆に、家庭環境で複雑になってきて(離婚、ひとり親、再婚)性的虐待がとても女性からすると差別だと思われれます。
(男性・50代・県中地域)
- ◇ 特にしきたりというか、当然のように女性はお母さん、おばあちゃんという呼び方をされる。独身でも子どもがいなくても、自分では若いつもりでも、はじめてあった人にも。除染にきた他県の人からも言われてびっくりしました。あまり地味な格好をしていると、女の人よりさげすまれる。というか、自分が社会の中の少数派なので、言われる人の方がふつうなのか?とよくわからない。女性が1人で子どもを育てられる社会はありえないのでしょうかね。こういう人にこそあたたかくすべきと思います。ちょっと話がごちゃごちゃですね。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 女のくせに…、女…という言葉遣いをされる。昔からの空気からも感じる。
(女性・50代・県南地域)
- ◇ 女性だけセットにデザートが付く。(男性・20代・県中地域)

1 1. 自由意見・要望

男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策等について、ご意見、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

【男女共同参画の施策】に関する意見

- ◇ 先日の選挙の報道などを見ると、国の政治に携わる立場の方のほうが、「女性の活躍促進」というものを上手く使っているような気がしました。一般の人たちは、“利用する”という意識ではなく、そのようなシステムに対して謙虚に真剣に受け止めて、仕事に反映させようと頑張っているように思います。メディアに登場する方程、しっかりとしていただきたいと思います。
(女性・40代・いわき地域)
- ◇ 金のムダ この方面に震災であれだけ役に立った自衛隊と同額の予算が使われていると伺うと、その差がぐんとする。やるならば、理想論でなく、社会に対する効果を、きちんと評価して行うべき。
(男性・40代・いわき地域)
- ◇ 「女性の活躍」という時点でもう区別している。男女にかかわらず、働きやすい、生きていきやすい社会を目指すべきである。
(女性・50代・県北地域)
- ◇ 男女それぞれに向いてる職業、地域活動の場があると思うので、何から何まで男女平等を目指すのはおかしいと思います。男性は男性の得意な分野で、女性は女性の得意な分野で活躍し、お互いに尊重しあえれば良いと思います。
(男性・30代・県中地域)
- ◇ 体力、能力の差はやはりあるので、それぞれ男と女にかかわらず、やれる人がやる！！でいいんじゃないのですか？
(女性・40代・県南地域)
- ◇ 「クリティカルマス」決定的多数ある一定の女性比率に達しないと連鎖的な変化は生じない。その割合は3割程度と経験的に判っている。3割以下だと女性自身が男性規範を身につけてしまい組織文化を変革する事は出来ない。政治の場をはじめ全ての決定権のある所にジェンダーバランス（多様性）を確保することが重要だと考えます。ジェンダークォーター制度を取り入れない限り、無理だと思います。
(女性・50代・会津地域)
- ◇ 男と女の視点は絶対に違うので、福島からあらゆる制度を変えて行って欲しい。
(男性・30代・県北地域)
- ◇ 男女共同と言いながら、声高に女性側の事をのみ取り上げるのはいかがなものでしょうか？男女平等とし、女性らしさ、男性らしさをもう少し大切にしながらこれからの“ふくしま”を作って行ってほしいと感じました。お互いの良さを反映しながらの共同参画としてほしいものです。
(女性・50代・県北地域)
- ◇ 男女共同参画、男女平等とは、男女全く同じということではないと考えます。男女ともそれぞれの特性にあった役割を適切にはたすことによって、対等に向き合って社会をつくっていくことが真の平等だと思います。単純に男女の機会均等を企ていくと間違った社会になると思います。
(男性・50代・いわき地域)
- ◇ 女性の活躍促進という言葉はきれいである。まるで、女性がまったく活躍していないと思込ませる言葉である。また、女性の管理職登用を数字で管理するのは、全く意味がない。女性でも男性で

もできる人が管理職になるべきで、数字が低いから、女性を登用すること自体、女性をなめていると思う。(男性・40代・県南地域)

- ◇ 現在の日本の仕事は派遣会社中心の状況になっており、男女が活躍する為には、国や県が環境を変える必要があると感じる。(女性・40代・県北地域)
- ◇ 男と女という性の違いがあり、男が子どもを産むことができない以上はすべてを男女平等とはできないと思います。「女性も男性のように・・・」＝「男女共同参画・女性の活躍」ではなく、それぞれの性の違いを活かしたうえで、充実した人生を送るための自由な選択ができる社会・対策等を行政の方には作っていただきたいと思います。(男性・20代・県中地域)
- ◇ この内容について、大きく取り上げることが差別等を生みやすくしているのでは？(男性・20代・相双地域)
- ◇ 女性に能力があっても配偶者が長時間勤務のため、家庭生活を優先させなければならない事例を多く見えています。そのため、女性個人だけを見て管理職などに登用させても、その女性の負担は増え、女性の頑張りに支えられた男女共同参画ということになりかねません。男性の働き方の見直しと併せて、女性の能力活用を図っていくことが大切だと思います。(女性・40代・相双地域)
- ◇ 子育て中の個人に対しては育休給付金支給をはじめ、かなり充実してきていると感じます。その一方企業に対しては支援の義務化が拡大する中、ほとんど援助がないため子育てと関係のない社員への負担が大きくなってきているような気がします。地方の赤字企業で働く人間にとっては深刻です。助成金なども社員数300人以下など頭数で対象の制限がされています。医療機関などは工場と違って人員数が必要であり、それをもって「大企業」と言えるものではないのに…と思います。利益が確保され、人員が満たされる中で女性の働きやすい環境も生まれると思います。表向きだけの対策ではなく、内実をみきわめた支援策を期待します。(女性・60代・県北地域)
- ◇ 女性が社会で活躍していくには、育児制度や産休等、法整備は必要と思う。(法律で休暇をとらせることができるような制度) 各種ハラスメントに対する法整備も必要と思う。(男性・40代・県中地域)
- ◇ 男女平等を声高にさげぶのであれば、全てにおいて男女平等でなければならないと思う。(男性・40代・県南地域)
- ◇ 男女共同参画の具体策がほしいです。職場での経験からですが、園児が体調を崩すとほぼ母親が職場を休まなければなりません。父親には連絡すらしないケースが多い状況です。職場に連絡をいれないでほしいという父親も少なくありません。(そのため父子家庭は大変な面もあります) 子供の事は母親がみるのが当たり前といった社会の考えが変わらなければ、結婚出産する女性の負担は大きく、少子化は止められないと思います。保育園を増やすだけでは解決できません。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 男女共同参画・女性の活躍促進も大切な事ではありますが、私は人間として子孫繁栄は大切な事だと思います。その為には、女性の活躍は子育て期間はきちっと行うシステム、または子育てを事業で行っている人への保育費を支払うようなシステムも必要かと思う。保育所などに依存する社会では子どもにとって本当に望ましい環境かどうか？働かないで専業主婦でいることの孤独と疎外感を埋めるようなケアをもっとすべきであると思う。社会に出ることだけが男女共同参画と思われるのは悲しい現実。(女性・50代・会津地域)
- ◇ 数値目標などをたてても、実のない事になってしまいそう。政府や県の目標としてやっていきたいのならまずはどうすればいいのかということをちゃんと考えて政策を行っていけば自然と、男女共

同参画ができてくると思う。(男性・40代・いわき地域)

【男女共同参画の現状に対する不満や希望】に対する意見

- ◇ 60年近く生きてきて、男性の社会だと今更思います。と同時に、女性は家庭を守るのが適しているとも。が、やはり協力は必要です。まあ言えることは、今まで生きてこれた自分は幸せだったという事です。これからの人達は、どうなっていくのでしょうか？男性も女性も人間として中身の立派な人でなくては、無意味です。人としての道徳が肝心なのではと思うこの頃です。
(女性・50代・県中地域)
- ◇ 会津地方では、女性が前に出ることを良く思っていない。これは男女ともにである。
(男性・50代・会津地域)
- ◇ 地方の細かい部分まで入りこんで、現状を把握するべきだと思う。(女性・30代・相双地域)
- ◇ 組織改革を行政がまず行わない限り何も解決などしないと思います。アンケートをとることもいいと思いますが、一つ一つの会社、組織の実態を調査した方がいいと思います。
(女性・20代・会津地域)
- ◇ 管理職につく人達には、労働者が持っている権利や制度をきちんと把握して、出産、介護、やむをえず休暇をとりたい時の保障される書類等作成、何が必要かを知っていてほしい。
(女性・30代・県北地域)
- ◇ 女性の活躍、女性の社会進出というよりも男性・女性に関わらず「個」を大切にする社会になって欲しいと思います。我をださない協調の世の中になって欲しいです。(女性・40代・県中地域)
- ◇ 男女の別なく、まず家庭(家族)の幸せな暮らしを作る事が大事です。その事によってのみ、仕事や社会への貢献が可能となります。家族のあり様が良くなるしくみになっていけば、おのずと社会も良くなり男女の別なく活躍できる世の中になると考えます。社会に向けてだけの女性の活躍が声高に言われる事には、違和感があります。(男性・50代・会津地域)
- ◇ 男女問わず能力があれば活躍する場が必要と考えます。一部を除き生理的な違いにより男女差はありますので、全て平等にできない現実があると思います。(男性・50代・会津地域)
- ◇ 男性、女性を問わず、自主性と能力が必要と思う。(男性・40代・いわき地域)
- ◇ 男女共同参画社会、男女平等…は理想ですが、私達より上の世代はまだまだ男尊女卑傾向が根強いと思います。東京都議会でも「セクハラ野次」が飛び出す始末で、男性からの見方を変えなければ、女性の地位向上は難しいと思います。男女共同参画社会には、義務教育からの正しい教えが必要ではないでしょうか。(女性・50代・県南地域)
- ◇ 女性が活躍することにより、将来的に離婚率も上昇するのではないかと思います。活躍促進は良い事だと思いますが、家庭が大事という意識は忘れてはならない事だと思います。
(女性・40代・県北地域)
- ◇ 生まれながらの性の違いによる特徴・差は、尊重されるべきであると考えます。なんでも男女平等という風潮には賛成できません。また、女性の管理職を増やす傾向にあります。比率を上げるためだけに資質もないのに男性に比べ昇任するのも賛成できません。男女というよりも、あくまでも一人一人の個人を大切にする社会が大事かと思います。(男性・50代・いわき地域)
- ◇ 個人差があるので参画の推進を積極的になる意味がピンとこない。(男性・30代・相双地域)

- ◇ 昭和一ケタ代の男性の中には女性はいろいろな会議で意見を言うべきでないと思ってる人が多い。女性は本音で物を言うが、男性は縦社会でもまれているせいか、もどかしい。会議の構成員の割合が30%を超えるように意見を吸い上げる場が広がればいいと思う。(女性・60代・会津地域)
- ◇ 女性の社会進出が進まないのは、社会だけではなく、女性自身が“結婚したら家に入りたい。”“専業主婦になりたい”というような考えを持っている人が多く、“どうせ結婚したらやめるし”“旦那がいるし”等、仕事に責任を持とうとしないのも1つの要因なのではないか。(女性・20代・県中地域)

【子育て・介護支援】に関する意見

- ◇ 子育て中・介護中の女性（男性にも）が仕事しやすい環境や労働の形態の多様化・柔軟化が図れると良いと思います。未だに育児家事介護は嫁のすることと決めている60歳以上の人達の意識改革が必要ではないでしょうか。妻子がいても育休・介護休暇がとれるような男性側への配慮も必要だと思います。仕事・家事・育児・介護は妻ひとりが担う事ではないはず。(女性・40代・会津地域)
- ◇ 60歳・70歳代の男性がいなくなるころには、変わってくると思うので、それまで、若い女性が働きやすいように託児所を増やしてほしい。(少しでも人口が増える様に)。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 子育てしやすい環境を充実させること。高齢者の社会保障ばかりでなく、現代を担う若者世代の社会保障も充実させてほしい。(女性・30代・会津地域)
- ◇ どうしても、親の介護は女性の方に多くの負担が掛る場合が多いので、介護サービスやホーム等の施設を充実させていただきたいと思います。(女性・50代・県南地域)
- ◇ 自分が仕事をしていた時はがむしゃらで、子どもが病気で仕事に行けなくなる心配とか今思うと一番大切なのが子どもなのに、何が大切か分からなくなっていたと思う。今50歳の半ばになり、得るものと失うものがあることとか、子育ては10年ぐらいで、あととは見守ることしかできないこととか若くてがむしゃらな時に気づいていればよかったと思うことが多々あります。女は女に対してがむしゃらになりすぎる事があります。それが女性の立場を一番つらくさせていると思います。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 育児の分担ができる社会環境、支援体制を充実させる。(男性・50代・いわき地域)
- ◇ 育児・子育て・介護などおもに女性が受け持つのがあたりまえになっているこれらの分野のサポート体制が充実すれば女性をもっともっと外で働けるのではないかと思います。児童保育や介護施設を増やしてほしいと思います。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 子育てしながら仕事できるように、保育所の充実をしていただきたいです。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 女性が活躍するのは、大変な事だと思います。いなかの古い考え方のほうが多い。男性の上にも立っても、良く思われたいし、子どもの事で仕事をやすむ事などでも、理解がない。でも男女平等になれば、結婚しても自立できてれば、離婚がふえると思います。子どもを夜まで預け仕事したら子育てなんて出来ないし、子どももかわいそうです。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 震災以降、中通りの人口が増えたのに、労働人口はたまりません。女性も男性も働ける人は、皆働いてほしいと思っています。私は、医療機関ですが、看護師が非常に足りません。女性が働きやすく

するために、介護や育児が楽に出来るような、対策（フィンランドのように老人が一人ぐらしでも生活できるような、社会保障をもっと手あつくすべきと思います）少子高齢のため若い人がいない事の大切さを最近実感するようになりました。高齢者の介護のために女性が仕事を辞めたりする事がないようにと思っています。（女性・50代・県中地域）

- ◇ 少子化の流れと女性活躍促進の対策は相反するものである。また、子どもが幼児の間は母親、もしくは父親がそばで子どもを育てるべきである。これら矛盾を両立させる為には、行政の制度をもっと分かり易くきっちりと示す必要があると考えます。民間企業に対し、もっと手厚い制度を強制力のある形で施行しないと少子化の流れは止まらないと思います。（男性・40代・いわき地域）
- ◇ 結婚・出産後も女性が働きやすい環境を作って欲しいです。女性も生きがいを求めて、社会との関わりを求めて生きています。今後の社会政策に期待しています。（女性・30代・県北地域）
- ◇ 家事と育児を夫婦で協力することがふつうであるという社会になることが、女性が社会に出ていくことができると思う。（女性・無回答・県南地域）
- ◇ 核家族が増えた今、仕事を持つ母親が仕事を続ける為には何をにおいても仕事と子育ての両立のバランスが上手くとれていることが1番ストレスなく生活できる要素だと思います。産休、育休、職場復帰の確約などしっかりした体制がどの職場においても整って欲しいと思います。（女性・50代・県北地域）
- ◇ 障がいのある子の通える学童やデイサービスがとにかく足りない。年単位での待機も珍しくない。障がい児を預かってくれる場所がもっと増えれば、働きたいと思っている障がい児のお母さんが仕事しやすくなると思う。（女性・30代・県中地域）
- ◇ それぞれの価値感に合った選択が出来る様、地域や社会が一体となった支援活動が必要と思います。（仕事と家庭両立出来るか否かは、人それぞれ・・・子どもの状況や当人の健康にも左右されます。）
介護に関しては、重大です。私自身、自分の両親に対しては、看取りましたが、子どもにその苦勞はさせたくないという本音が・・・。（女性・50代・いわき地域）
- ◇ 女性が活躍できるように、結婚、子育て、出産といったことを社会全体がサポートできることが重要と思う。（男性・60代・県南地域）
- ◇ 家事、育児、介護等をしながら働く女性のためのしくみや体制が整っていけばいいと思います。（女性・30代・県北地域）
- ◇ 子育てのために仕事を辞め現在は再就職をしています。子どもには、どうしても母親じゃなければダメという場面もあり、全て男女平等だという訳にはいきません。子育てや、介護の場面で、融通のきく勤務体制や休みが必要かと思っています。（女性・50代・会津地域）
- ◇ 協力してくれる男性もいると思いますが、女性は、仕事、家事、子育てととても忙しいです。特に、子育てには、時間もお金もかかります。女性が子育てしやすい社会にならないと、子どもの数も増えていかないと思います。専業主婦の方でも、仕事をしたいという人は多勢いますが、良い仕事がないようです。自分のことで精一杯な社会でしかないな～。と思います。好転を願っております。（女性・40代・いわき地域）
- ◇ 男性も職場において育休を推進するような会社の体制がもっとよくなると良い。あるがとりづらいのが現状のようである。2～3日でも少しはとるのがあたり前となると、産後の女性の体調はかなり助かると思う。また、女性が仕事に復帰したいという際に、確実に子どもを預けられるかわからず、不安な状況にある。求職中においても仕事につきたい意志が強くある場合、仕事についている人と同じように保育施設に預けられるようにして欲しい。そちらが決まらないと、安心して仕事を

さがしたり、仕事をする事ができない。(女性・30代・県中地域)

【男女共同参画の意識啓発】に関する意見

- ◇ 男女共同参画の具体的事項を把握していないので、何とも言えませんが…。どうしても男性が主体になってしまうのではないかと思う。これを機に、もっとアンテナをあげて、勉強してゆきたいと思う。(女性・60代・県中地域)
- ◇ 女だからやらなくていい、できなくていい、という考え(意識的・無意識的に関わらず)の女性もまだまだ多いと感じます。主張する人としない人の温度差がある状態では社会全体は変わりません。女性自身の意識改革、当事者意識を持つことも必要であると感じます(もちろんそのための教育の機会も必要です)。(女性・40代・県北地域)
- ◇ 男女共同参画等の講演会などに参加していますが、なかなか進まないのが現状ではないでしょうか。メディア、新聞、テレビなどで情報を発信し、今後地域に広がる社会になることを願います(今の子供達が生活しやすい社会になること)。(女性・50代・南会津地域)
- ◇ 今の時代、強い女性もいますが、私達親が子ども達を男女の境なしに家庭に出来ることを、また社会の中でも色々な体験・経験をさせることも大事な事かと思う。人間平等の意識が大事な。(男性・60代・いわき地域)
- ◇ 男女という言い方を使わず(たとえば成人くでいいとおもう)、学生、幼児)どんな分野においても同じく対応することが望ましい。(男性・40代・県中地域)
- ◇ 家庭の中で両親が男女共同の生活を日頃から見せれば、子どもは特別な事とは感じることなく自然に身につくと思う。大人の意識が大事だと思う。(女性・50代・いわき地域)
- ◇ 男性の特性、女性の特性それぞれの良さを社会の中で生かしていくことが大切であると思います。男女、それぞれが同じではありません。男女同権という何ものが同じにかんがえがちですが、性差の良さを生かしながら社会に貢献していくことが大切であると考えています。男性の考えに沿った考えだけではなく女性と共に考えを深められる社会になればよいと思います。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 教育現場では、男女共同参画について自然なものとして扱ってると思う。意識の中で、わだかまりを持つ年代は、40才代以上のように思う。(女性・50代・会津地域)
- ◇ セミナーなど気軽に参加できる場をつくってほしいです。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 男女共同参画はいいと思いますが、そういう事に興味がない人(特に男性)を如何に引き込むかが大事だと思います。視点は違いますが、ちょっと変わった方法として、妻(夫)の職場訪問をやってみたらどうでしょう。(子どもの場合はよくありますが)職場(パートも含めて)で働く妻の違う顔が見られるはずです。(女性・40代・県北地域)
- ◇ 将来、起業を考えている、あるいは何かやりたいと考えているなど…そんな20代、30代の若者たちが夢を語る気楽な場を企画したり、子育ても終わり自分を充実させたいと考え、どうかと迷っている中高年が意見を出し合い、また、自分の経験を教えたいと思っている人生の先輩達の話が聞くことのできる場があればいいなと思います。(女性・50代・県中地域)
- ◇ 「男女の平等」というテーマは、とても難しく永遠の課題だと思います。現実、男女で体の作りや思考が違うからこそ、子孫を残し、日本の生活というものを引き継いできたのだと思います。現代

は情報が多く、生活水準が変化するので、このような問題が増えています。「平等」という理想を実現する為には、男性が女性を、女性が男性を理解する教育を、将来の子どもたちにしていくべきだと考えます。(女性・20代・県北地域)

- ◇ 高校の保健体育の教員にもっと女の人を採用するようにしてほしい。保健体育となると男女差別を感じる。(女性・20代・いわき地域)
- ◇ 「強くやさしく男の子、やさしく強く女の子」サトーハチロー お互いが不可欠で違いと同じ所を大切にし、社会の変化の中で役割をとらえていく文化が押し付けでなく生きてくのをゆっくり育ててください。(男性・50代・県北地域)
- ◇ 男女体の構造上体力的にも男性にかなわず下に見られがち 協力していくという精神を教育していくことが大切かなと思います。(女性・20代・県中地域)
- ◇ 女性と男性が顔を合わせて喋れるコミュニティがあればいいかなあ。(男性・30代・県南地域)

【職場の環境】に関する意見

- ◇ 男女平等は確かに必要である。ただ、企業や、公的な職業の中で女性の管理職の割合をかかげてそれを達成することが目標になっており、希望する人が少ない場合は能力的に？の人もなりうるのは疑問である。人が人を選ぶ世の中では、その人を全面的にとらえ正しく判断してほしい。努力や熱意が報われる世の中であってほしい。(男性・50代・県北地域)
- ◇ 正社員としての再就職が難しいのが、女性は男性よりも大きいのではないかと思う。(女性・30代・県北地域)
- ◇ 女性の再就職が難しい。(女性・40代・県中地域)
- ◇ 男性の不満も解消・軽減するような方策を行ってほしい。60代以降(50代半ば?)の男性が、社会のトップから退かないと、難しいかとも思います。男性(若手)職員に昔からの長時間労働を強制する考え方が全く変わらない為。(女性・30代・県北地域)
- ◇ 職場の給与が男女で、基本給が違う。同じ仕事をしているのに、納得できない。(女性・40代・県南地域)
- ◇ 女性が、男性に劣らない仕事能力を身に付ける。小さな子どもを持った若いお母さんが、働き易い職場を作ってあげる事。根本は、明るい職場を作るという事が原点の様な気がします。(女性・50代・いわき地域)
- ◇ 会社でも給料面で同じ年であっても男の方が給料が良かったり、能力がないのに役職が付いたり、不満が一杯です。こういうのがなくなる法があればいいのに！(女性・50代・県中地域)
- ◇ 「責任のない」仕事はいいないと思います。「男女平等に」ではなくて、自分に合った“仕事”をそれぞれが自分でみつけることが、大事なのではと思います。(女性・30代・会津地域)
- ◇ 給料、ボーナスを男性と同じにする。(男性・40代・県南地域)
- ◇ 今の会社は産休制度もあり、比較的、他の会社よりは良いと思います。女性の幹部社員も早く出で欲しいです。県の支援を期待しています。(男性・50代・県中地域)
- ◇ 男女共同参画は、大事なことであると思いますが、それにだけかたより女性を、女性を、とやっっていくのはどうかと思います。職場や社会においてその個人の能力に応じて対処してもらえばよいと思います。しかし、女性が働きやすくなる職場環境の整備は必要であると思います。

(男性・50代・県中地域)

- ◇ 女性が就業しやすい環境を作っていかなければ、これからの日本は発展していかないと思う。

(女性・20代・会津地域)

- ◇ 女性だからという理由で、職場などにもよるがパートや臨時のまま、正規職員にしてもらえない話を聞いた。「子育てや家庭の…」というあいまいな回答だったとのこと。(女性・30代・会津地域)

【その他の事柄】に関する意見

- ◇ 少子高齢化が進んでいるので、女性の活躍は必要と思います。世の中全員で取組む必要が有ると思います。(男性・40代・いわき地域)
- ◇ 少しずつ改善すればよい。(男性・50代・県南地域)
- ◇ 男女ともに家事の出来る人が多くなってきているような気がします。(女性・50代・県北地域)
- ◇ 差別・区別はあって当然、能力があれば男女の区別なく雇えばいい。常識があれば自然と上手く流れると思う。(男性・40代・会津地域)
- ◇ 政治がかわらなければ、政治家がかわらなければ何もかわらない。もっと小さな会社、地域にも目をむけて考えるべきだ。政治がすべて悪すぎる。(女性・40代・相双地域)
- ◇ 時間とお金についての会話など。(女性・40代・いわき地域)
- ◇ 女性は美しく、キレイを保つためにお金がかかります。なぜ女性の方が収入が少ない仕事しかできないのでしょうか？女性が働きやすい時代にはなっています。女性が強い時代になってきます。しかし、わがままな女性も多く、欲張りな女性も多いため、なんとなく男性が強いというか、男性をたてる世の中なのかなと思います。(女性・30代・県南地域)
- ◇ 第三者が中立にかつ公平に物事を解決させた方がよい(男と女という垣根を超えて)。(男性・40代・会津地域)
- ◇ 女の人は町内会の役員になれない。(男性・50代・会津地域)
- ◇ 妹の子息がアメリカ人と結婚して東京に住んでいるのだが、家はいつも泥棒に入られたように、食事は息子が会社から帰って一緒に作るのだという。共同参画・民主主義の国なのか考えさせられる。(女性・60代・県中地域)
- ◇ 女性が活躍するのは期待するが、その為のスキルを持ってはげんで欲しい。あまりにも非常識な女性が多すぎる。(男性・30代・いわき地域)
- ◇ 現在、女性の活躍促進に国を上げているが、男性でも一部で仕事につけない男性も多くいるのではないか。自分も妻と離婚をして3人の子ども(男3人)を男手でなんとか育て上げたが、国、県、市からなんの手助けもなかった。女性だからということだけで手助けがあるが、男女平等というのが平等ではないのではないか？(男性・50代・いわき地域)

付. 調査票様式



男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査 ～ご協力をお願いします～

ふくしまから
はじめよう。

県民の皆様には、日頃から県政の推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
さて、福島県では、「ふくしま男女共同参画プラン」に基づき、県民や事業者の皆様と協働し、連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めております。
人口減少・高齢化の進行、地域社会や家族形態の変化など、社会情勢が急速に変化する中、女性が活躍できる社会づくりの重要性が増しております。
つきましては、今後の施策の参考とさせていただきますために、県内にお住まいの20歳以上の方2,000人を無作為に抽出させていただき、男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査を実施することといたしました。
調査の趣旨をご理解いただき、年始でお忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださるようお願いいたします。

平成27年1月

福島県生活環境部青少年・男女共生課

ご回答にあたってのお願い

- この調査は、個人を対象にしていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身をご記入ください。(ご本人による記入が困難な場合は、ご家族などがご本人から聞き取って代筆をお願いします。)
- この調査は、無記名でお願いいたします。また、この調査票に記入された内容は統計的に処理しますので、内容が外部に漏れたりしてご迷惑をおかけしたりすることは決してございません。どうぞありのままをお答えください。
- 特にことわり書きがない限り、全ての質問にお答えください。
- 回答は問1から順に、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○をつけてお答えください。なお、質問によっては、1つだけ選んでいただく場合と、複数選んでいただく場合もありますので、各質問に従ってお答えください。
- 質問の回答で、「その他」を選んでいた場合は、()内にその内容を具体的に記入してください。
- 貼った番号に○をつけた場合は、はつきりと×により消して、改めて正しい番号に○をつけてください。
- ご記入いただいた調査票は、お手数でも三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、1月16日(金)までにご投函くださいますようお願いいたします。(お名前を書いたいただく必要はありません)

本調査について、お問い合わせなどございましたら、下記までご連絡をお願いします。

福島県生活環境部青少年・男女共生課
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号
TEL: 024-521-7188 (直通)
FAX: 024-521-7887

【はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします。】 (フェイスイースト)

F 1 あなたのお住まいは次のどの地域ですか。

- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1 県北地域 | 3 県南地域 | 5 南会津地域 | 7 いわき地域 |
| 2 県中地域 | 4 会津地域 | 6 相双地域 | |
- お住まいの地域がおわかりにならない場合は、以下に市町村名をご記入ください。
()

F 2 あなたの性別をお知らせください。

- | | |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

F 3 あなたの年齢をお知らせください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 3 40～49歳 | 5 60～69歳 |
| 2 30～39歳 | 4 50～59歳 | |

F 4 あなたの現在のご職業は何ですか。
複数の職業をお持ちの方は、主にあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

【自営業】

- 1 農・林・漁業(農業・林業・漁業の自営者、家族従業者)
- 2 商・工・サービス業(小売店・飲食店・理髪店などの自営者、家族従業者)
- 3 自由業(開業医・弁慶士・芸術家・華道家・茶道の師匠などの自営者、家族従業者)

【勤め人】 ※雇用形態についても併せてお答えください。

- 4 役員・管理職(民間会社・官公庁の課長級以上)

ア 常勤(フルタイム)	イ パートタイム	ウ その他
-------------	----------	-------
- 5 専門技術者(勤務医・看護師・研究者・教員・栄養士・保育士・技術者など)

ア 常勤(フルタイム)	イ パートタイム	ウ その他
-------------	----------	-------
- 6 事務職(一般事務職・司書など)

ア 常勤(フルタイム)	イ パートタイム	ウ その他
-------------	----------	-------
- 7 労務・技能職(技能工・調理師・自動車運転手・労務員など)

ア 常勤(フルタイム)	イ パートタイム	ウ その他
-------------	----------	-------
- 8 販売・サービス業(外交員・販売員・理美容師・飲食店の接客員など)

ア 常勤(フルタイム)	イ パートタイム	ウ その他
-------------	----------	-------

【無職】

- 9 主婦・主夫
- 10 学生
- 11 その他（具体的に：)
- 12 無職

F 5 失礼ですが、あなたはご結婚(事実婚を含む)されていますか。

- 1 未婚
- 2 既婚(配偶者あり)
- 3 既婚(配偶者と離別・死別)

F 5-1 お宅は共働きですか。

- 1 共働きである
- 2 共働きでない

F 6 お宅の家族形態をお知らせください。

- 1 あなただけの単身世帯
- 2 夫婦だけの世帯
- 3 親と子の世帯
- 4 親と子と孫の世帯
- 5 その他
- 6 (具体的に：)

F 7 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

- 1 いる
- 2 いない

F 7-1 あなたのお子さんは次のどれにあたりませんか。(○はいくつでも)

- 1 乳児
- 2 幼児
- 3 小学生
- 4 中学生
- 5 高校生
- 6 大学・大学院生(高専、短大、専門学校を含む)
- 7 学校を卒業した(中退を含む)未婚の子ども
- 8 学校を卒業した(中退を含む)既婚の子ども

F 8 あなたの最終卒業学校をお知らせください。

- 1 中学校
- 2 高等学校
- 3 各種専門・専修学校
- 4 短大・高等専門学校
- 5 大学(中退を含む)
- 6 大学院(中退を含む)

【引き継ぎ、男女共同参画・女性の活躍促進に関するお問い合わせ】

I 男女の地位の平等感、男女の生き方についてお問い合わせ

問 1 あなたは次のような各分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～④のそれぞれの項目ごとにお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
① 家庭において	1	2	3	4	5	6
② 職場において	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場において	1	2	3	4	5	6
④ 習慣・しきたりの面から	1	2	3	4	5	6

問 2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。
女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。

【女性の生き方について】 (○は1つだけ)

- 1 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- 6 わからない

【男性の生き方について】 (○は1つだけ)

- 1 家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念する
- 6 わからない

II 家庭、結婚観についてお伺いします

問3 仕事や家庭など、家庭の生活に必要な労働について、あなたはどのくらい分担していますか。
①～③のそれぞれについて、一番近いものを選んでください。

① 家事【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

- 1 全部 3 半分くらい 5 まったくしていない
2 大部分 4 一部している

② 育児【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

- 1 全部 3 半分くらい 5 小さい子どもはいない
2 大部分 4 一部している

③ 介護【あなたがしている割合】（○は1つだけ）

- 1 全部 3 半分くらい 5 介護が必要な家族はいない
2 大部分 4 一部している

問4 次にあげた①～⑥の結婚、家庭、離婚に関する考え方について、それぞれあなたのお考えに最も近いものをお選びください。（それぞれ○は1つだけ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
③ 女性に結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	5
④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤ 一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	1	2	3	4	5

問5 最近、出生数が少なくなっていますが、あなたはその理由は何だと思えますか。
（○はいくつでも）

- 1 子どもの教育にお金がかかるとから 8 結婚しない人が多いから
2 育児の心理的、肉体的負担がかかるとから 9 結婚しないで子どもをもつことに
3 育児の負担がもつばら女性にかかるとから 対して、抵抗感が強いから
4 家が狭いから 10 子どもが欲しくないとから
5 経済的に余裕がないから 11 その他
6 仕事をしながら子育てをするのが困難だから (具体的に：)
7 自分の趣味やレジャーと両立しないから 12 わからない

III 子どもの教育についてお伺いします

問6 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいと思えますか。
お子さんがいらっしゃる方、お子さんが既に学校を終えられた方も、ご自分に女の子と男の子がいると仮定してお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

【女の子の場合】

- 1 中学校 5 大学 1 中学校 5 大学
2 高等学校 6 大学院 2 高等学校 6 大学院
3 各種学校 7 その他 () 3 各種学校 7 その他
・専修学校 () ・専修学校 ()
4 短期大学 8 わからない 4 短期大学 8 わからない

【男の子の場合】

問7 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようかと思えますか。（○はいくつでも）

- 1 学校における、特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
2 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
3 学校において、人権や男女平等に関する授業を行う
4 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進する
5 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
6 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
7 女性の校長や教頭を増やす
8 今のままでよい ()
9 その他 ()
10 わからない

IV 職業についてお伺いします

一現在、収入をともなう仕事をしたいらっしゃる方(学生の方のアルバイトは除く)にだけお聞きします一

問 8 あなたが仕事をしている理由は何ですか。(○はいいくつでも)

- 1 生計を維持するため
- 2 家計の足しにするため
- 3 住宅ローンなど借金の返済のため
- 4 教育資金を得るため
- 5 将来に備えて貯蓄するため
- 6 自分で自由に使えるお金を得るため
- 7 生きがいを得るため
- 8 自分の能力・技能・資格を生かすため
- 9 視野を広げたり、友人を得るため
- 10 社会に貢献するため
- 11 仕事をするのが好きだから
- 12 働くのが当然だから
- 13 時間的に余裕があるから
- 14 家業だから
- 15 その他(具体的に:)
- 16 わからない

一これまでに仕事を退職した経験のある方にだけお聞きします一

問 9 あなたが仕事を辞めた理由は何ですか。(○はいいくつでも)

- 1 独立するため
- 2 別の仕事を経験するため
- 3 仕事が自分に向いていないため
- 4 仕事や待遇に対する不満があったため
- 5 職場の人間関係のため
- 6 職場のセクシュアル・ハラースメント*、パワハラ
- 7 勤め先の都合(事業縮小等)
- 8 職場での結婚・出産退社の習慣があったため
- 9 休業後の職場復帰がスムーズに行かなくなったため
- 10 経済的に働く必要がなくなったため
- 11 家族の同意・協力が得られなかったため
- 12 結婚のため
- 13 出産、育児のため
- 14 子どもの教育のため
- 15 介護のため
- 16 家事専念のため
- 17 配偶者の転勤のため
- 18 親と同居するため
- 19 家業を継ぐ(手伝う)ため
- 20 家業を後継者に譲ったため
- 21 自分の健康上の理由
- 22 定年のため
- 23 その他

※セクシュアル・ハラースメントとは:
一般的に、相手が望まない性的な意味合いを持つ言動を相手に強いることをいい、「性的いやがらせ」と訳されることが多い。「セクハラ」ともいう。

※パワハラ・ハラースメントとは:
一般的に、同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える行為をいう。「パワハラ」ともいう。

問10 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについてどうお考えになりますか。あなたの中からあなただけのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つだけ)

- 1 職業は一生持ち続けるほうがよい
- 2 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 4 子どもができたら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- 5 女性は職業を持たないほうがよい
- 6 その他(具体的に:)
- 7 わからない

問11 女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。特に重要だと思うものを選んでください。(○は3つまで)

- 1 賃金、仕事内容など、労働条件での男女差をなくす
- 2 パート、派遣労働等の労働条件を改善する
- 3 労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど、働きやすい労働条件とする
- 4 セクシュアル・ハラースメント(性的いやがらせ)のない職場をつくる
- 5 女性に対して研修や職業訓練の機会を確保する
- 6 女性に対して昇進、昇格の機会を確保する
- 7 女性自身が意欲・能力を高める
- 8 託児施設、託児サービスを充実する
- 9 介護施設、介護サービスを充実する
- 10 育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する
- 11 家族の理解や協力を得る
- 12 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
- 13 仕事と家事・育児・介護の両立(ワーク・ライフ・バランス*)のための職場の支援制度を充実する
- 14 その他(具体的に:)
- 15 わからない

※ワーク・ライフ・バランスとは:
男女がともに、ライフステージに応じて、仕事や家庭、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動を含めた生活スタイルを自らの選択によるバランスで形成すること。「仕事と生活の調和」ともいう。

V 女性の活躍促進についてお伺いします

問12 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。
(○は1つだけ)

- 1 活躍している
- 2 どちらかといえば活躍している
- 3 どちらかといえば活躍していない
- 4 活躍していない

(問12で、1 または 2 を回答した方にお聞きします)

問12 補助質問1 活躍していると感じている理由は何か。(○は3つまで)

- 1 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
- 2 女性の経営者や管理職が増えている
- 3 管理職でないが活躍する女性が増えている
- 4 女性の職域(研究開発、マーケティング、営業など)が広がっている
- 5 各種報道などで女性の活躍を目にする機会が増えた
- 6 女性のキャリア意識が上がっている
- 7 長時間労働の慣習が改善されてきている
- 8 PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている
- 9 その他(具体的に)

(問12で、3 または 4 を回答した方にお聞きします)

問12 補助質問2 活躍していないと感じている理由は何か。(○は3つまで)

- 1 産休・育休などの支援制度が不充実である
- 2 産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい(できない)
- 3 女性の経営者や管理職が少ない
- 4 女性の職域が限定的である
- 5 女性のキャリア意識が向上していない
- 6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
- 7 男性優位の考え方が変わっていない
- 8 長時間労働の慣習が改善されていない
- 9 PTAや自治会の会長等役職に就いている女性が少ない
- 10 その他(具体的に)

問13 女性が活躍するには何が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
- 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
- 3 育児・介護等との両立についての職場の支援制度が整っていること
- 4 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
- 5 身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること
- 6 仕事が適正に評価されていること
- 7 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
- 8 キャリア形成のための研修制度があること
- 9 保育施設が充実していること
- 10 国や地方自治体など行政による企業支援があること
- 11 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
- 12 その他(具体的に)

問14 男性の育児休暇取得についてどう思いますか。(○は1つだけ)

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問15 働く女性が、出産・育児の際にどのような選択をするのが望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 早期に復職し、仕事に専念する
- 2 職場の支援制度(育児休暇等)を活用した上で、仕事を継続する
- 3 退職し、育児を終えてから再就職する
- 4 退職し、専業主婦になる

(問15で、1 または 3 を回答した方にお聞きします)

問15 補助質問 復職・再就職する際どのような支援が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟に働きやすい勤務体制
- 2 保育サービス供給体制の整備・充実
- 3 スムーズに復職できる復職前研修制度
- 4 再就職の再チャレンジや起業のための研修制度
- 5 その他(具体的に)

問16 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 なりたい
- 2 できることならなりたい
- 3 できることならなりたい
- 4 なりたい

(問16で、1 または 2 を回答した方だけお聞きします)

問16 補助質問1 なぜなりたいたと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 責任を持った仕事をした
- 2 能力やスキルを思う存分に活かしたい
- 3 仕事を通して、社会に貢献したい
- 4 その他(具体的に)

(問16で、3 または 4 を回答した方だけお聞きします)

問16 補助質問2 なぜなりたいたと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 責任を持ちたくない
- 2 能力やスキルが十分でない
- 3 人間関係で苦労したくない
- 4 その他(具体的に)

VI 介護についてお伺いします

問17 あなたは、自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(○は1つだけ)

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)
- 2 ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)
- 3 特別介護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)
- 4 その他(具体的に)
- 5 わからない

(問17で、1 または 2 を回答した方だけお聞きします)

問17 補助質問 自宅で介護する場合、家族の中では主に誰が介護することになると思いますか。(○は1つだけ)

- 1 主に、自分が介護すると思う(している)
- 2 主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)
- 3 主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
- 4 主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
- 5 その他(具体的に)
- 6 わからない

問18 もしあなた自身が介護をしてもらった状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい
- 2 ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護してもらいたい
- 3 特別介護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
- 4 その他(具体的に)
- 5 わからない

(問18で、1 または 2 を回答した方だけお聞きします)

問18 補助質問 自宅で介護される場合、主にだれに介護してもらいたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 配偶者
- 2 息子
- 3 娘
- 4 息子の妻
- 5 娘の夫
- 6 その他の家族(女性)
(具体的に)
- 7 その他の家族(男性)
(具体的に)
- 8 ホームヘルパー等
- 9 わからない

VII 男女の人権についてお伺いします

問19 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

- 1 売春・買春(いわゆる「援助交際」を含む)
- 2 ボルノ産業や女性の働く風俗営業
- 3 女性のヌード写真などを掲載した雑誌、女性の肌びたポーズなどを使用した広告、女性の身体を強調したテレビ番組など
- 4 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 5 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 6 家庭内における夫から妻に対する暴力(なぐるなど)
- 7 「女流○○」「未亡人」のように女性だけに用いられる言葉
- 8 「女は家庭」「女は補助的仕事」など、男女の固定的な役割分担意識や価値観を押しつけること
- 9 その他(具体的に)
- 10 特にない
- 11 わからない

問20 女性は、妊娠、出産を担う性であることからもわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたって心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること
- 2 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供
- 3 学校における人権尊重及び健康の観点に立った性教育の実施
- 4 思春期、青年期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進
- 5 女性専用外来の設置に代表される、性差医療の充実
- 6 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備
- 7 職場等でのメンタルヘルズ体制の充実
- 8 その他(具体的に：)
- 9 特になし
- 10 わからない

VIII 社会参加についてお伺いします

問21 職業以外に、次のような社会活動、地域活動の中で、あなたが参加しているものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)

- 1 各種ボランティア、NPO
- 2 自治会・町内会の役員活動
- 3 子ども会・青少年グループの世話
- 4 PTA活動
- 5 各種女性団体の活動
- 6 消費者団体等の消費者活動
- 7 趣味・サークル・スポーツ等の活動
- 8 政治活動・労働組合活動
- 9 環境・美化・自然保護活動
- 10 国際交流、国際理解活動
- 11 その他(具体的に：)
- 12 参加していないものはない

問22 本県は、政策、方針決定に関わる役職の女性の割合が全国平均と比べて低い現状にあります。あなたが、次にあげるような政策、方針決定に関わる役職において、今後女性がもっと増えたほうがよいと思うものはどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 都道府県、市町村の首長
- 2 国会議員、都道府県議員、市町村議員
- 3 国家公務員、地方公務員の管理職
- 4 裁判官、検察官、弁護士
- 5 大学教授、教育関係の管理職(校長・教頭)
- 6 国連などの国際機関の管理職
- 7 企業の管理職
- 8 起業家、経営者
- 9 労働組合の幹部
- 10 農協の役員
- 11 自治会、町内会の役員
- 12 PTAの役員
- 13 その他(具体的に：)
- 14 今のままでよい
- 15 わからない

問23 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること
- 2 学校教育や生涯学習の場において、男女共同参画についての学習を充実すること
- 3 男女ともに、家事などができようなくつや育て方をすること
- 4 男性が生活面において自立できるような能力を身に付けること
- 5 女性自身が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身に付けること
- 6 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること
- 7 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを周知徹底すること
- 8 労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること
- 9 年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させること
- 10 パートタイム、派遣労働者等の労働条件を向上させること
- 11 官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実すること
- 12 その他(具体的に：)
- 13 わからない

IX 配偶者等からの暴力に関することについてお伺いします

問24 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が『良い妻』である」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

問25 あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。あなたがご存じのものをすべてお書きください。(〇はいくつでも)

- 1 警察
- 2 法務局、地方法務局、人権擁護委員
- 3 保健福祉(福祉)事務所、女性相談員
- 4 女性のための相談支援センター、男女共生センター
- 5 県庁
- 6 市役所、町村役場
- 7 裁判所
- 8 民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)
- 9 その他(具体的に：)
- 10 相談できる窓口として知っているといるところはない

問26 あなたは、次にあげた①～⑯のことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。
①～⑯のそれぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つだけ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
① 殴る、蹴る、首を絞める	1	2	3
② 物を投げつける	1	2	3
③ 刃物などを突きつける	1	2	3
④ 大声でどなる	1	2	3
⑤ 無視する	1	2	3
⑥ 「別れるなら自殺する」などと言う	1	2	3
⑦ 相手が大切にしている物を壊す	1	2	3
⑧ 性行為を強要する	1	2	3
⑨ 避妊に協力しない	1	2	3
⑩ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑪ 生活費を渡さない	1	2	3
⑫ 妻(夫)を働かせない	1	2	3
⑬ 家計を厳しく管理し、金銭的自由を与えない	1	2	3
⑭ 友人などの付き合いを制限する	1	2	3
⑮ 電話・メールの内容を細かくチェックする	1	2	3
⑯ 子どもに母親(父親)を非難することを言わせる	1	2	3

問27 あなたは、次にあげた①～④のようなことが夫婦の間で行われた場合、警察などの公的な機関が、解決に向けて関わるべきだと思いますか。①～④のそれぞれについてお答えください。
(それぞれ○は1つだけ)

	警察などの公的な機関が関わるべきである	警察などの公的な機関は関わるべきではない	わからない
① 命の危険を感じるくらい暴力を受ける	1	2	3
② 医師の治療が必要となる程度の暴力を受ける	1	2	3
③ 医師の治療が必要とならない程度の暴力をひんばんに受ける	1	2	3
④ 医師の治療が必要とならない程度の暴力を何年かに一度受ける	1	2	3

X 地域の慣習についてお伺いします

問28 あなたが住んでいる地域で、男性と女性を差別しているようなしきたりや慣習がありますか。ありましたら、具体的に記入ください。

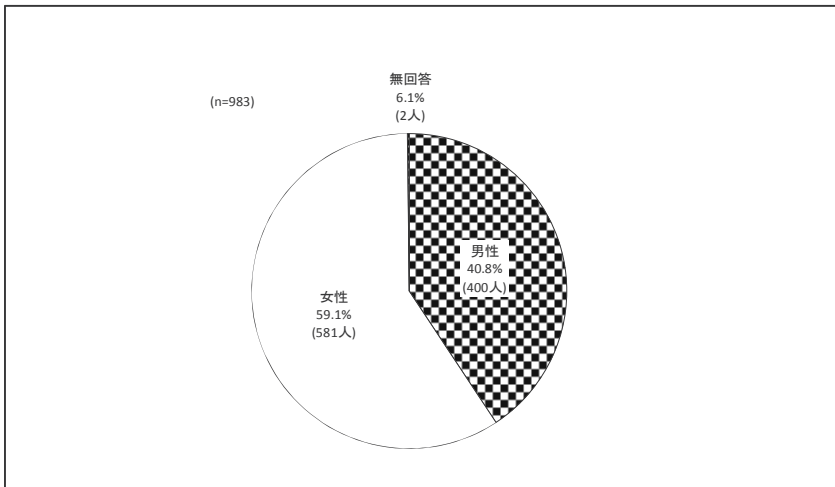
○ ご意見、ご要望 ○
男女共同参画の推進、女性の活躍促進のための対策等について、ご意見、ご要望がありましたらご自由に記入ください。

以上で質問は終わりです。
お忙しいところ、ご協力をいただきありがとうございます。

【高校生意識調査】の結果

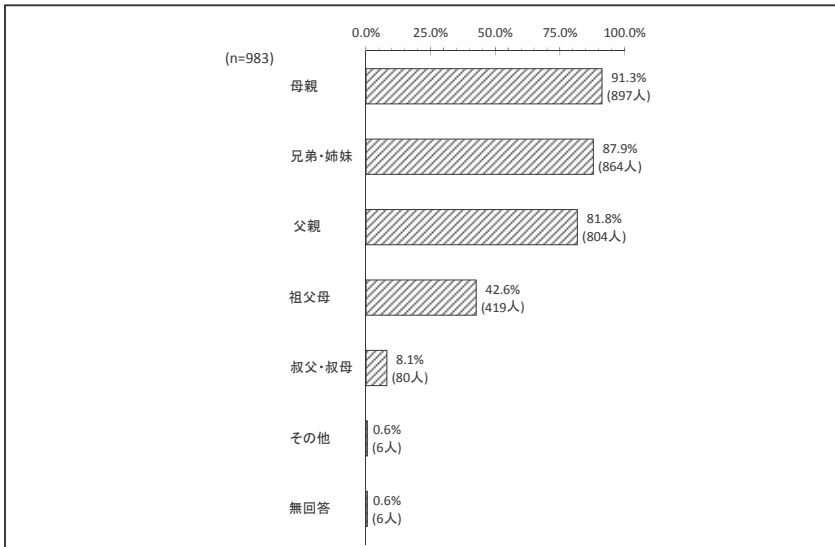
回答者の構成

①性別



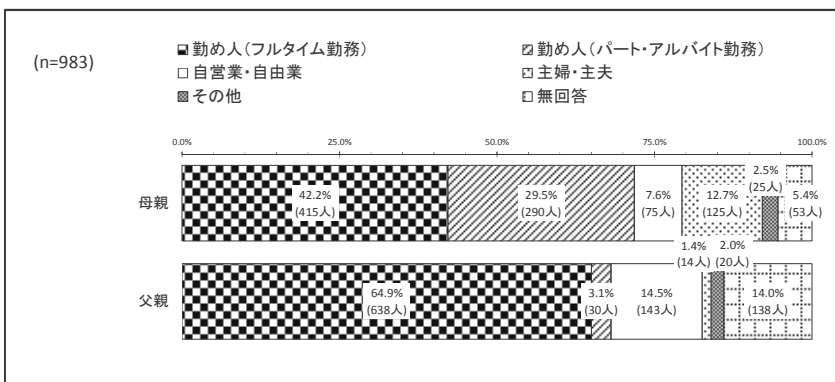
回答者（高校生）の男女比は、男子生徒が 40.8%（400 人）、女子生徒が 59.1%（581 人）である。

②家族構成



家族構成は、「母親」が 91.3%（897 人）、「兄弟・姉妹」が 87.9%（864 人）、「父親」が 81.8%（804 人）、「祖父母」が 42.6%（419 人）などとなっている

③親の勤務状況



親の勤務状態は、『母親』が「勤め人（フルタイム・パート・アルバイト）」が 71.7%（705 人）、「自営業・自由業」が 7.6%（75 人）、「主婦」が 12.7%（125 人）などである。

『父親』が「勤め人（フルタイム・パート・アルバイト）」が 68.0%（668 人）、「自営業・自由業」が 14.5%（143 人）、「主夫」が 1.4%（14 人）などである。

調査結果の要約

1. 進学・就職

○高校卒業後の進路について（150～156 ページ）

高校卒業後の進路についてたずねた。

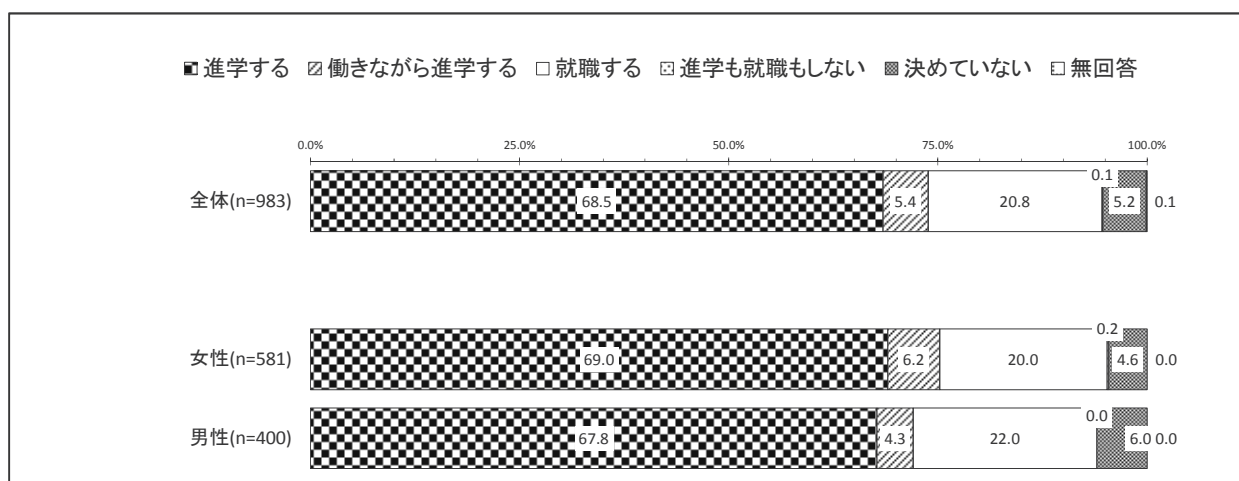
「進学する」「働きながら進学する」を合わせると、73.9%が「進学」を希望している。「就職する」は20.8%、「まだ決めていない」が5.2%である。

進学希望者が考えている最終学校は「大学」が49.6%と最も多い。進学を希望する男子生徒の68.4%が「大学」まで考えているのに対し、女子生徒は37.1%であり、「専門学校」が36.2%とほぼ同じ割合である。

希望する分野は「文系」が45.3%と「理系」34.7%を上回っている。女子生徒の51.9%が「文系」を希望しているが、男子生徒は「理系」が44.4%と、「文系」35.1%を上回っている。希望分野を選んだ理由としては、「自分の希望する職業につながるものだから」が男女ともに最も多く、職業選択が進路選択につながっている。

就職希望者が就職を考えている理由は、男女ともに「早く経済的に自立したいから」が最も多く、特に男子で多い。つきたい職業の理由として、男子生徒では「将来性、安定性があるから」が最も多いのに対し、女子生徒では「自分のやりたい仕事だから」が最も多い。職業選択の際、影響を受けた人では、女子生徒では「母親」が、男子生徒では「友人・先輩などの知人」が最も多い。「父親」は特に女子生徒で少ない。

専門分野・就職・職業とも、「無回答」の割合が5割以上と高く、進路についてまだ明確に決めていない様子が見られる。



2. 男女共同参画

○男女の平等感について（157～160 ページ）

「家庭生活」「学校生活」「法律・制度上」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」で男女が平等かをたずねた。

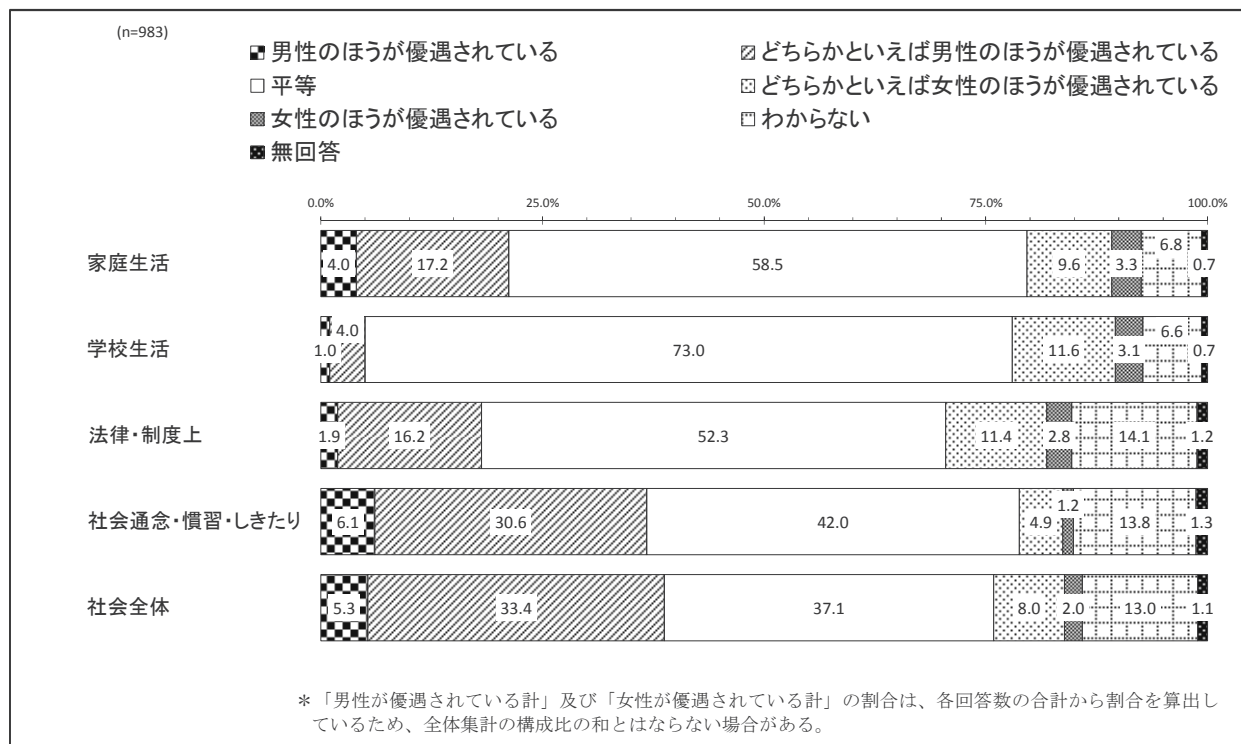
「家庭生活」では「平等」と感じている割合が58.5%と高いが、「平等」と感じる割合は、女子生徒より男子生徒にほうが高い。

「学校生活」においては73.0%が「平等」と感じている。男子生徒では「女性が優遇されている」と感じる割合が女子生徒より高い。

「法律・制度上」では「平等」が52.3%と高いが、女子生徒は「男性が優遇されている」「わからない」の割合が男子生徒に比べて高い。

「社会通念・慣習・しきたり」では42.0%が「平等」と感じているものの、「男性が優遇されている」も36.7%と高い。特に女子生徒では41.2%が「男性が優遇されている」と感じており、「平等」を上回っている。

「社会全体」では「男性が優遇されている」が38.7%で、「平等」の37.1%を上回っている。家庭や学校では「平等」であるが、社会的には「男性が優遇されている」と感じている。



○男女の望ましい姿について (161～163 ページ)

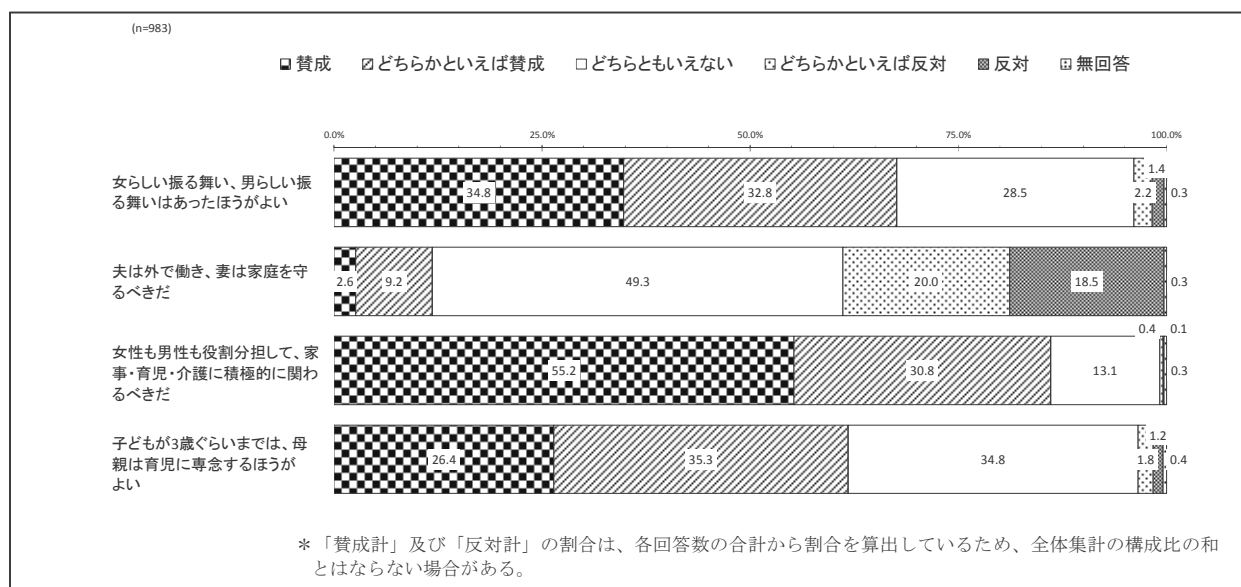
女性及び男性の望ましい姿についてたずねた。

「女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい」は、67.5%が「賛成」と答えており、特に男子生徒の割合が高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は「どちらともいえない」が49.3%と最も多い。「反対」は、女子生徒が44.4%、男子生徒30.3%と女子生徒の方が高い。

「女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に関わるべきだ」は、「賛成」*が86.1%と多く、「反対」は0.5%と少ない。

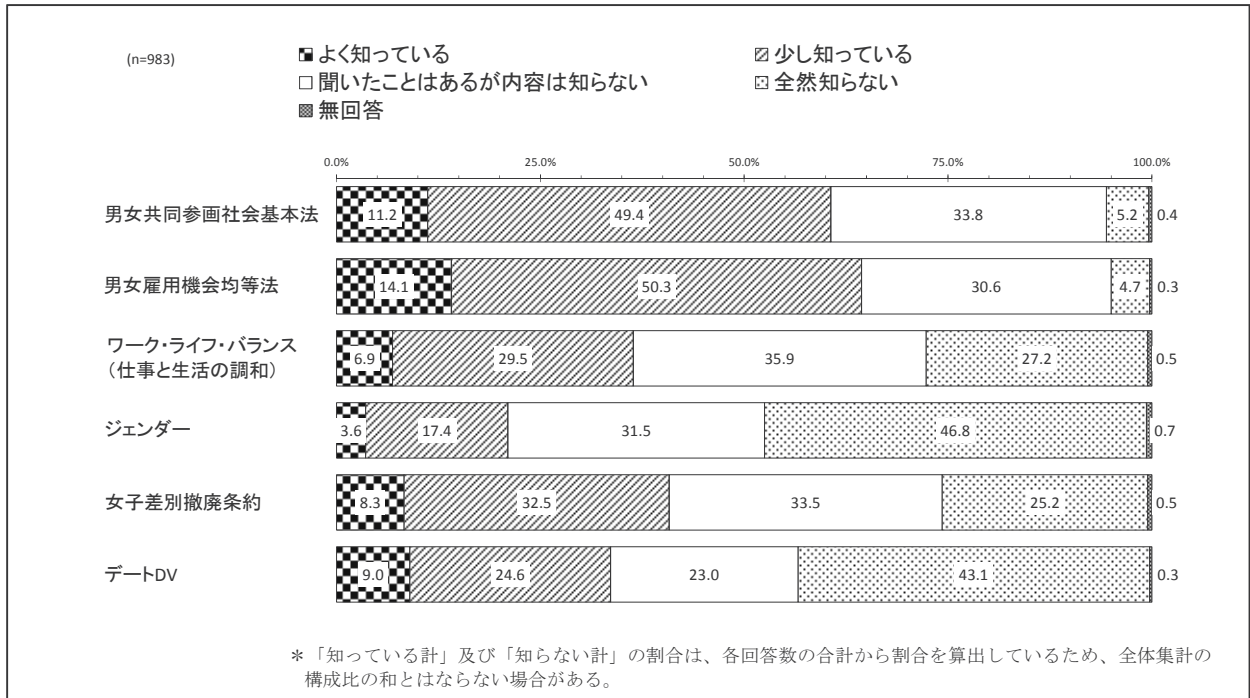
「子どもが3歳ぐらいまでは、母親は育児に専念するほうがよい」は61.7%で「賛成」が多く、男子生徒より女子生徒のほうが「賛成」の割合が高い。



○男女共同参画の認知度について（164～167 ページ）

「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「女子差別撤廃条約」「デートDV」について知っているかたずねた。

「男女共同参画社会基本法」と「男女雇用機会均等法」は6割以上が「知っている」と答えた。「女子差別撤廃条約」は40.8%、「ワーク・ライフ・バランス」は36.4%、「デートDV」は33.6%が「知っている」と答えているが、「ジェンダー」を「知っている」と答えているのは、21.0%と少ない。

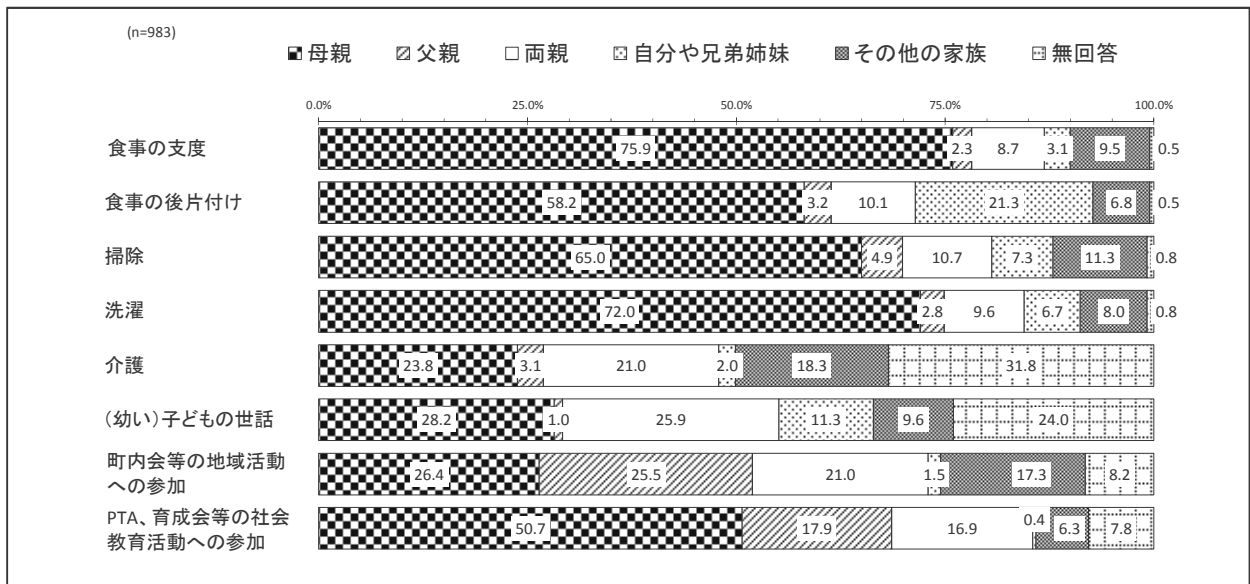


3. 家族や社会の状況

○日常的役割の負担割合について（168～172 ページ）

「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「介護」「(幼い)子どもの世話」「町内会等の地域社会への参加」「PTA、育成会等の社会教育活動への参加」について、主に誰が行っているかたずねた。

「食事の支度」「洗濯」「掃除」「食事の後片付け」は主に「母親」が行っている。「PTA、育成会等の社会教育活動への参加」は主に「母親」だが、「父親」「両親」の参加も比較的多い。「介護」「(幼い)子どもの世話」は「母親」と「両親」の割合が同程度である。「町内会等の地域社会への参加」は「母親」「父親」「両親」が負担している割合に近いが、どの日常的役割も、「父親」が負担はきわめて少ない。



4. 女性の活躍促進

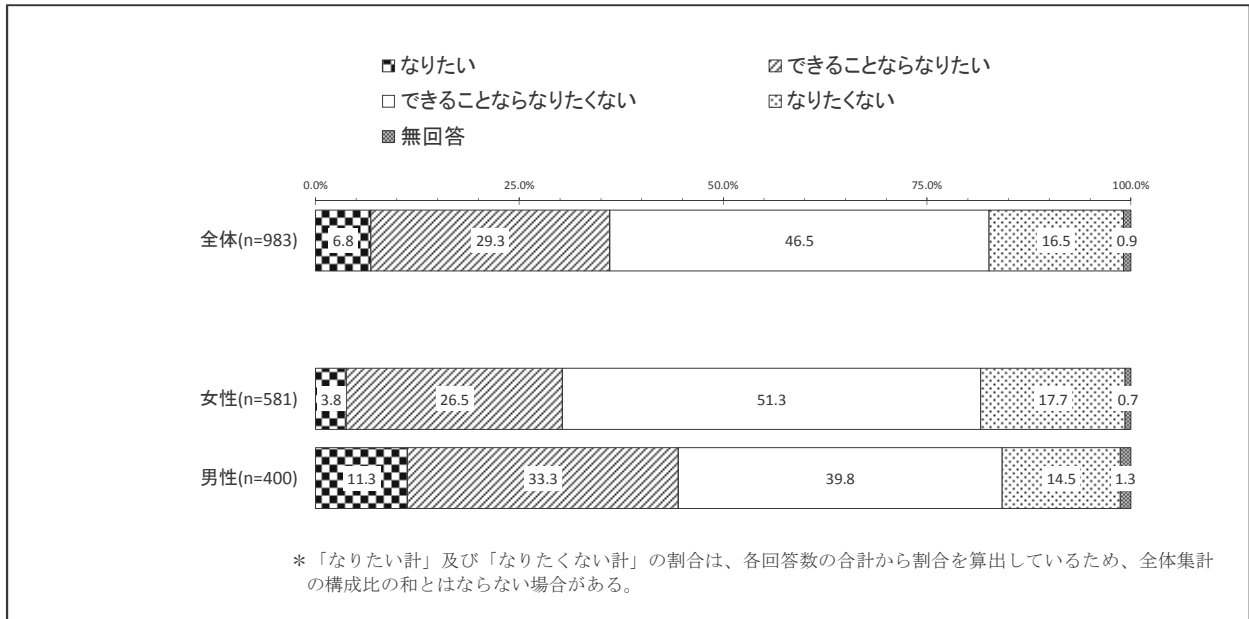
○リーダー・管理職への意欲について（174～176 ページ）

リーダー・管理職になりたいかたずねた。

リーダー・管理職については、「なりたくない」*が63.0%で、「なりたい」の36.1%を大きく上回った

リーダー・管理職に「なりたい」理由は「仕事を通して、社会に貢献したい」と「能力やスキルを思う存分活かしたい」が多い。

「なりたくない」理由では、「能力やスキルが十分でない」が半数以上で、「責任を持ちたくない」「人間関係で苦労したくない」がそれぞれ2割程度である。

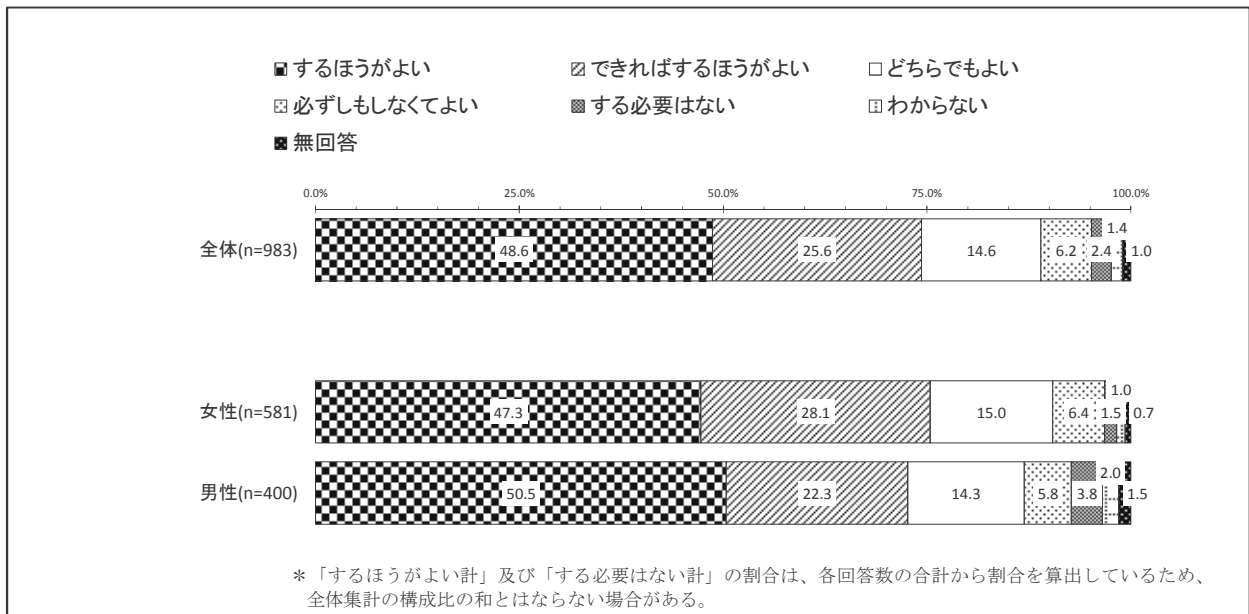


5. 将来について

○結婚について（177 ページ）

結婚についてどう考えるかたずねた。

男女とも、7割以上が結婚を「するほうがよい」と考えている。「する必要はない」は1割に満たない。



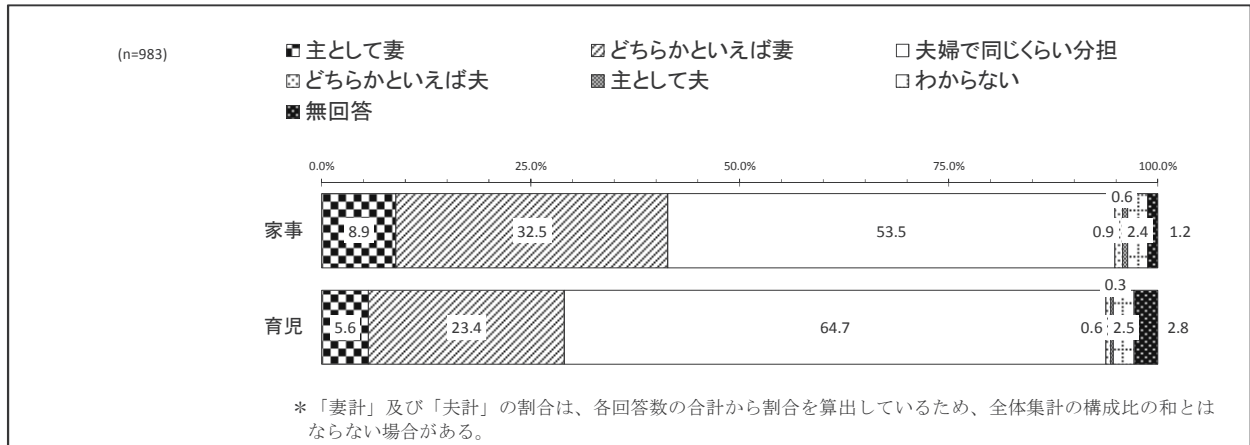
○家事・育児の分担意向について（178～179 ページ）

将来家庭を持ったとき、家事・育児は誰がすればよいかたずねた。

「家事」は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいが53.5%、主に「妻」*がするほうがよいが41.3%である。

「育児」は64.7%が「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと考えており、「妻」は29.0%である。

どちらも「夫」が主にすればよいという割合はきわめて低い。また、「妻」がするほうがよいと考えている割合は、男子生徒より女子生徒の方が高い。



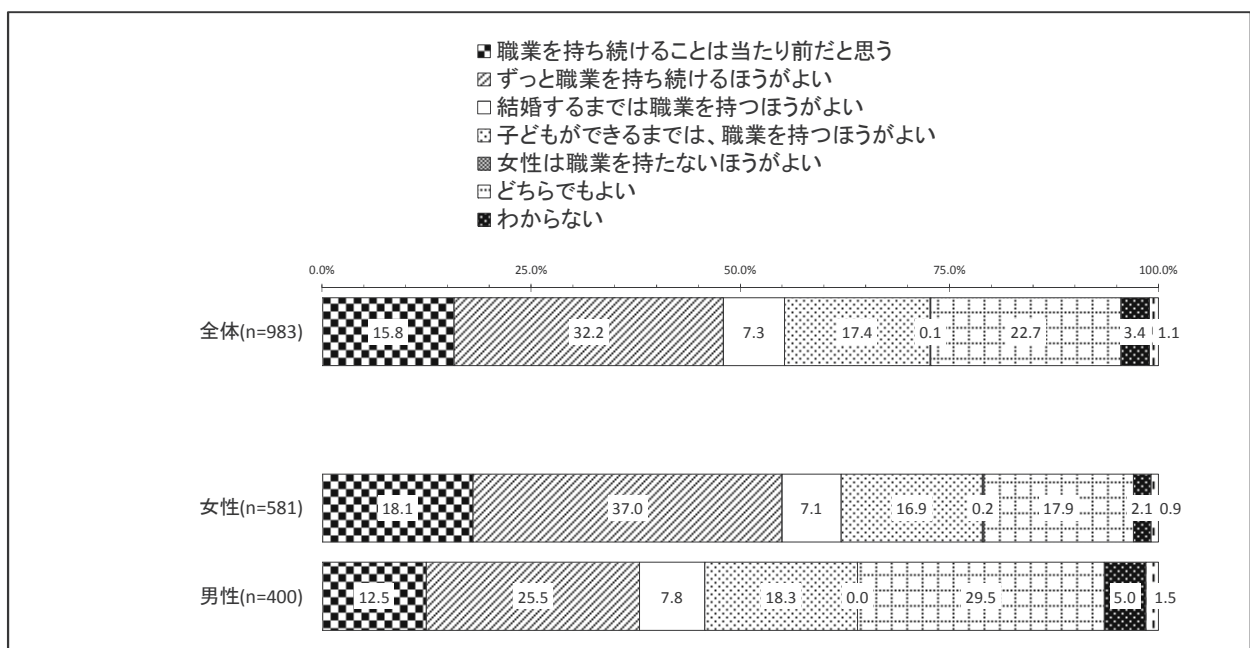
○女性が職業を持つことについて（180～182 ページ）

女性が職業を持つことについてどう考えるかたずねた。

「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が32.2%と最も多く、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」(17.4%)と「結婚するまでは職業を持つほうがよい」(7.3%)など、結婚・出産を機に仕事を辞めたほうがよいという考えを上回っている。

職業を持ち続けることがよい理由としては、「経済的に自立できるから」が最も多く、次いで「能力を生かしたほうがよいから」である。女子生徒は「経済的自立」、男子生徒は「能力活用」をあげる割合が高い。

「結婚するまでは職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と考える生徒に、子どもが小学生になったころの再就職について意見をたずねると「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」という意見が5割以上と最も多く、「フルタイムで再就職したほうがよい」は1割強である。



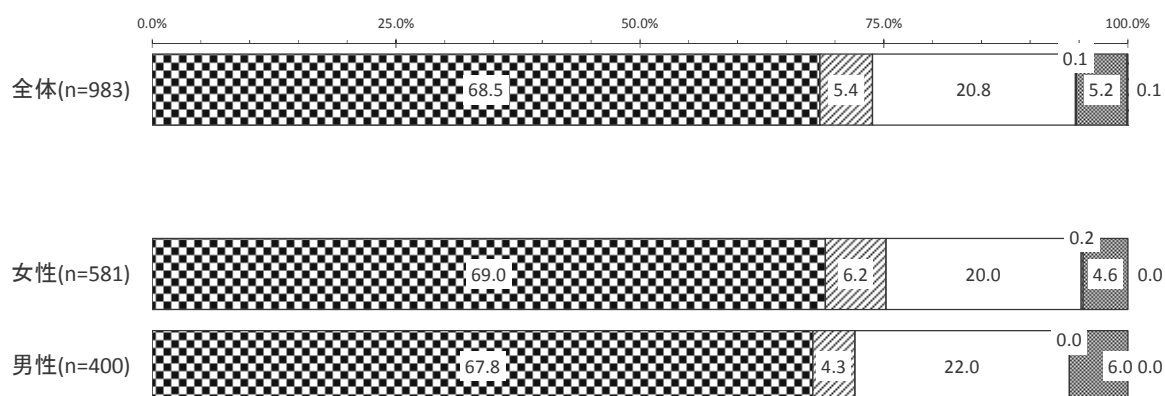
調査結果の詳細

1. 進学・就職

(1) 高校卒業後の進路

問4 現時点で、あなたは高校卒業後の進路について、どのように考えていますか。

■進学する □働きながら進学する □就職する □進学も就職もしない ■決めていない □無回答

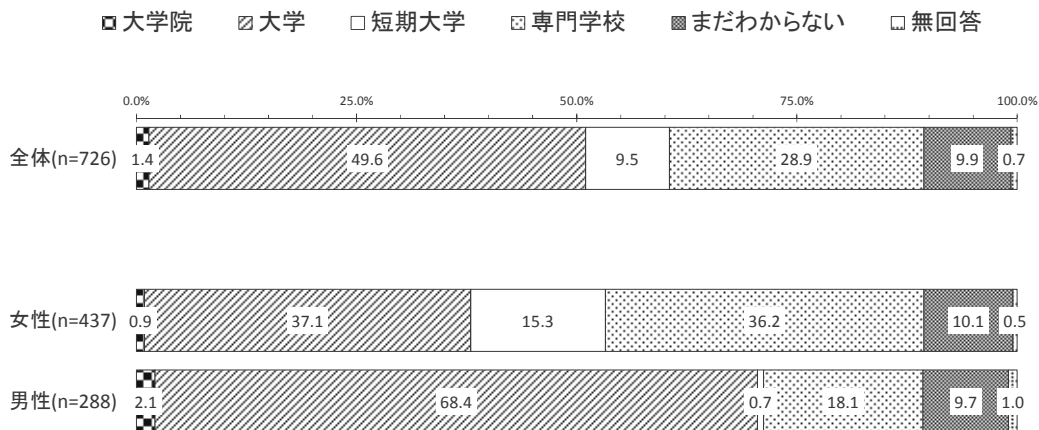


高校卒業後の進路については、68.5%が「進学する」と回答している。「働きながら進学する」(5.4%)と合わせると73.9%が進学を希望している。「就職する」は20.8%、「進学も就職もしない」は0.1%、「決めていない」が5.2%である。

男女とも進学希望の割合は約7割以上と高い。「働きながら進学する」と考えている割合は、男子生徒の4.3%に比べ女子生徒のほうが6.2%と高い。「決めていない」は男子生徒の割合の方が高い。

①希望している最終学校

(問4補助質問1 問4で1「進学する」または2「働きながら進学する」と回答した方のみ)
あなたは、現時点で最終学校はどこまでと考えていますか。

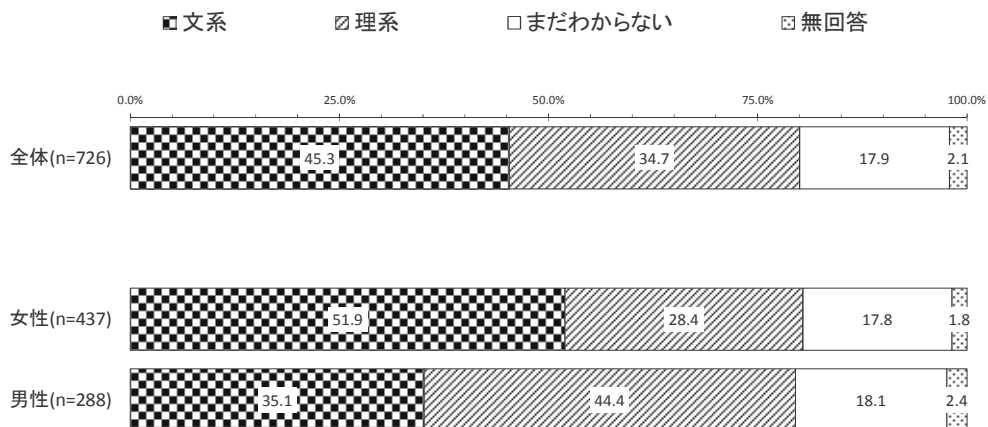


進学を考えている生徒が希望している最終学校は、「大学」が最も多く49.6%である。次いで「専門学校」(28.9%)、「短期大学」(9.5%)、「大学院」(1.4%)となっている。「まだわからない」は9.9%である。

女子生徒は「大学」(37.1%)と「専門学校」(36.2%)がほぼ同程度で、「短期大学」も15.3%であるが、男子生徒は「大学」が68.4%であり、「専門学校」(18.1%)、「短期大学」(0.7%)は少ない。

②希望している専門分野

(問4補助質問2 問4で1「進学する」または2「働きながら進学する」と回答した方のみ)
あなたが進学を考えている分野は、文系ですか、理系ですか。

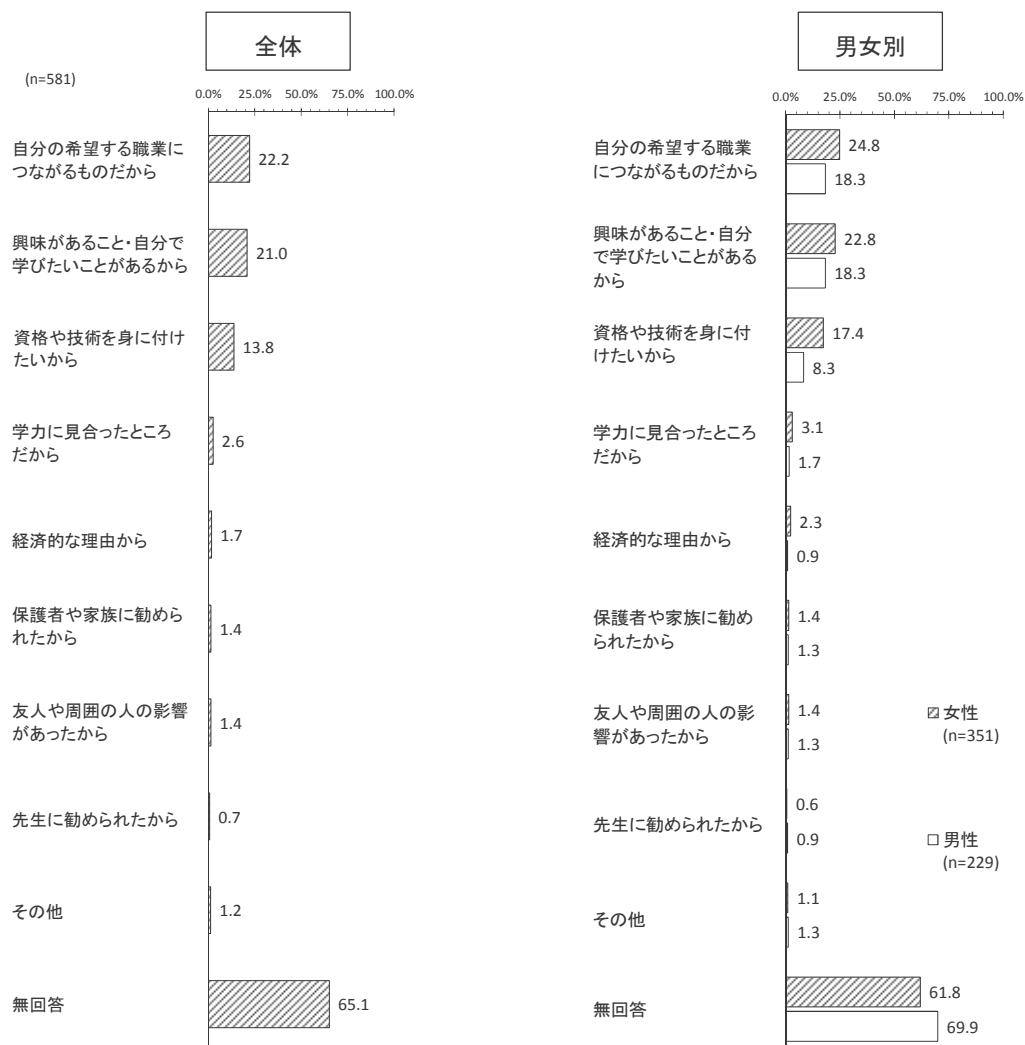


進学を考えている生徒が希望している専門分野は、「文系」が45.3%、「理系」が34.7%と、「文系」が「理系」を上回っている。

女子生徒は「文系」が51.9%と半数以上で、「理系」は28.4%であるが、男子生徒は「理系」が44.4%、「文系」が35.1%と、理系を希望する割合が高い。どちらも「まだわからない」が2割程度いる。

③専門分野を選んだ理由

(問4補助質問3 問4補助質問2で1「文系」または2「理系」と回答した方のみ)
 あなたがその分野を選んだのは、どのような理由からですか。(複数回答可)



それぞれの専門分野を選んだ理由としては、「自分の希望する職業につながるものだから」が22.2%と最も多く、次いで「興味があること・自分で学びたいことがあるから」(21.0%)、「資格や技術を身に付けたいから」(13.8%)となっている。「無回答」が65.1%である。

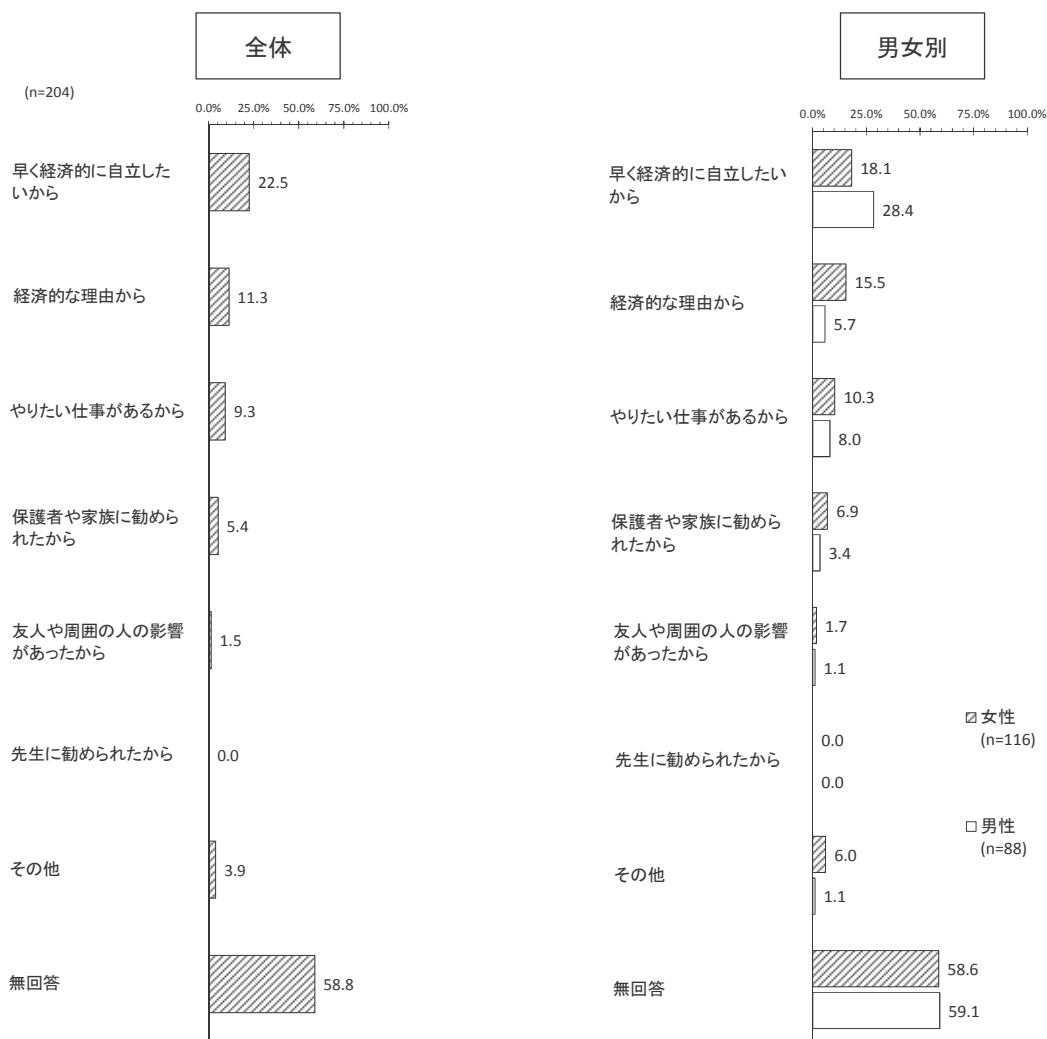
男女別でも上記理由の割合が高いが、男子生徒に比べ女子生徒のほうがそれぞれの理由を選択した割合が高く、「自分の希望する職業につながるものだから」「資格や技術を身に付けたいから」の割合も高いことから、将来を見据えて進路を考えていることがうかがわれる。「無回答」の割合は女子生徒より男子生徒の割合が高い。

* 専門分野を選んだ理由<その他>

- ◇ 自分がいきたいと思った。(男子)
- ◇ 就職した時に給料が上がるから。(女子)
- ◇ 今、文系クラスだから。(女子)
- ◇ やりたいことを認めてくれなくて、いやいや。(女子)
- ◇ オープンキャンパスに行って、様々な体験をして、楽しいと思ったから。(女子)
- ◇ せっかく理系のクラスにすすんだから。(女子)
- ◇ 高校にいる時点で、その専門分野を選択してしまったから。(男子)

④就職を考えている理由

(問4補助質問4 問4で3「就職する」と回答した方のみ)
 あなたが現時点で就職を考えたのは、どのような理由からですか。(複数回答可)



就職を考えている理由としては、「早く経済的に自立したい」が22.5%と最も多く、次いで「経済的な理由から」が11.3%である。「やりたい仕事がある」は9.3%であり、「保護者や家族に勧められた」が5.4%となっている。「無回答」が56.8%である。

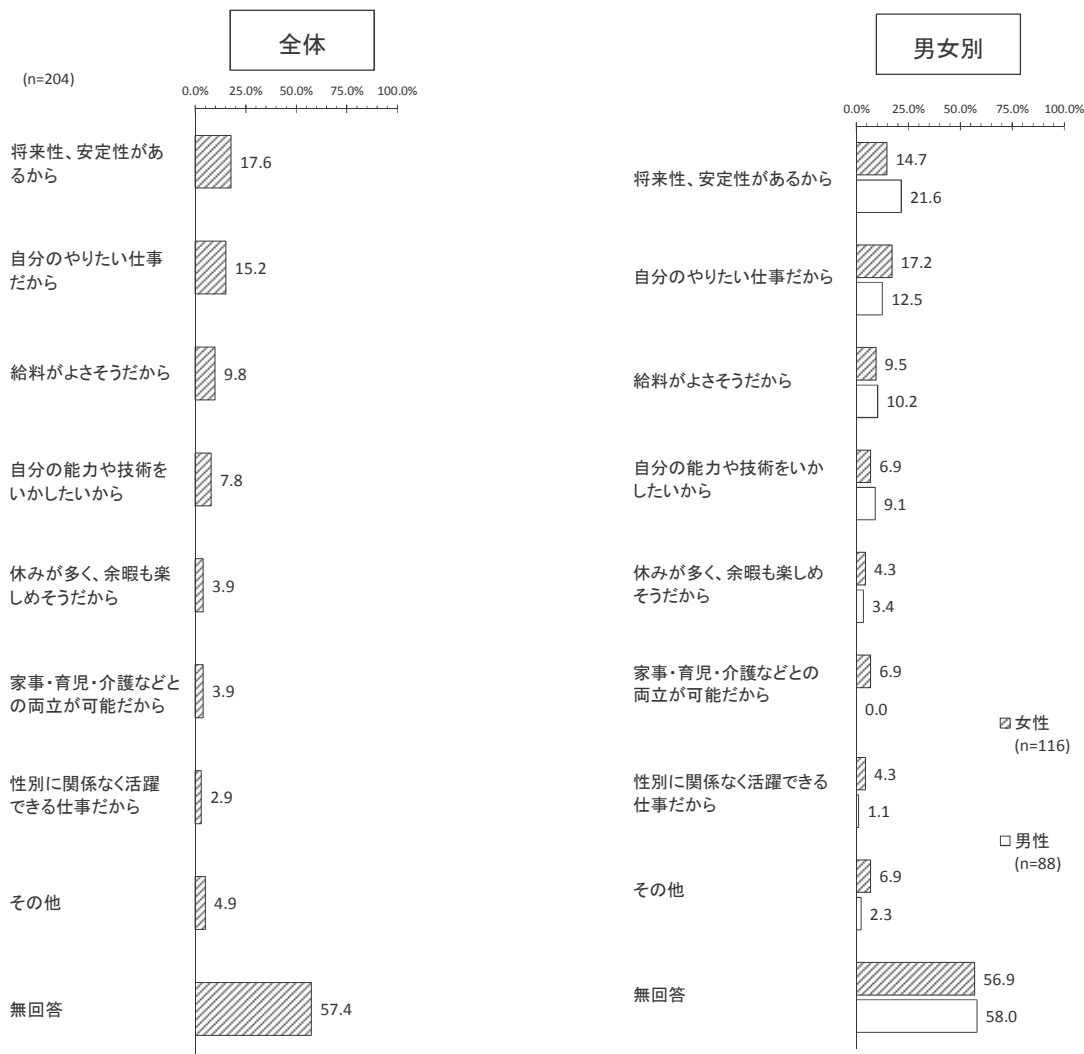
男女別でみると、「早く経済的に自立したい」は女子生徒(18.1%)より男子生徒(28.4%)の割合が高く、「経済的な理由から」(女子生徒15.5%、男子生徒5.7%)、「保護者や家族に勧められた」(女子生徒6.9%、男子生徒3.4%)は男子生徒より女子生徒の割合が高い。「やりたい仕事がある」も、女子生徒の割合が10.3%と男子生徒(8.0%)より高い。

* 就職を考えている理由<その他>

- ◇ お金がなく、奨学金も利用したくない。(女子)
- ◇ 家族が多いから家族をたすけたくて。(女子)
- ◇ 自分を変えるため。(男子)
- ◇ 無理して嫌な勉強に多大なお金を使うことはないと思ったから。(女子)
- ◇ 進学する気はなく、就職したいと思ったから。(女子)
- ◇ 保険がしっかりしているから。(女子)
- ◇ 結婚したい。(男子)
- ◇ になりたいものがないから、とりあえず就職。(女子)

⑤ つきたい職業の理由

(問4補助質問5 問4で3「就職する」と回答した方のみ)
 あなたがその職業につきたい理由はどのようなことでしょうか。(複数回答可)



考えている職業につきたい理由としては、「将来性、安定性があるから」が17.6%と最も多く、次いで「自分のやりたい仕事だから」が15.2%、「給料がよさそうだから」が9.8%、「自分の能力や技術を活かしたいから」が7.8%となっている。「無回答」が57.4%である。

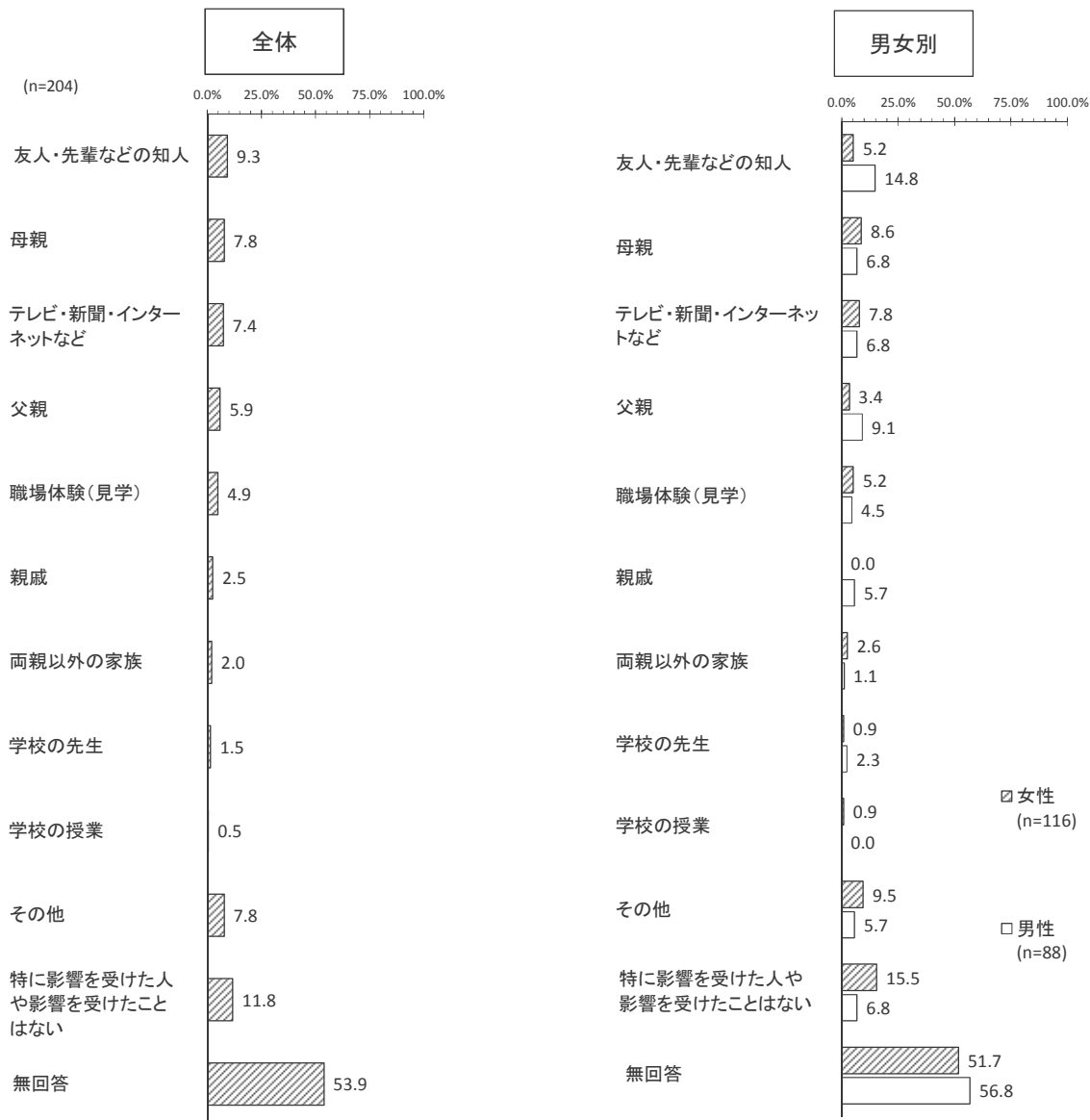
男女別でみると、女子生徒は「自分のやりたい仕事だから」が17.2%で最も多く、男子生徒は「将来性、安定性があるから」が21.6%と最も多い。

* つきたい職業の理由<その他>

- ◇ まだ、具体的にこの職業がいいと決めているものはない。(女子)
- ◇なんとなく自分に出来そうだから。(男子)
- ◇ 信頼される人になりたいから。(男子)
- ◇ 保険がしっかりしているから。(女子)
- ◇ 忙しそうだから。(女子)
- ◇ 自分の好きな事だから。(男子)
- ◇ お金が必要だから。(男子)
- ◇ 働くことが楽しいから。(女子)
- ◇ 病院に入院したことがあり、自分も人の命を救う仕事をしたいと思った。(女子)

⑥職業先選択に影響を受けた人・こと

(問4補助質問6 問4で3「就職する」と回答した方のみ)
 あなたがその職業先を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたことを選んでください。
 (複数回答可)



考えている職業を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたこととしては、「友人・先輩などの知人」が9.3%で最も多く、次いで「母親」(7.8%)、「テレビ・新聞・インターネットなど」(7.4%)、「父親」(5.9%)、「職場体験(見学)」(4.9%)などとなっている。「無回答」が53.9%である。

女子生徒は「母親」が8.6%と最も多く「父親」は3.4%である。男子生徒は「友人・先輩などの知人」が14.8%と最も多く、「父親」は9.1%、「母親」と「テレビ・新聞・インターネットなど」は6.8%である。

* 職業先選択に影響を受けた人・こと<その他>

- ◇ 実体験（女子）（男子）
- ◇ 父親の知人（男子）
- ◇ ボランティア（女子）（男子）
- ◇ 自分が足を痛めたときにお世話になったから（女子）
- ◇ 保育園の先生（女子）
- ◇ 病院の看護師（女子）
- ◇ クラブのコーチ（女子）
- ◇ 給食のおばさん（女子）
- ◇ OTOMODATI プロジェクト（男子）
- ◇ アルバイト（女子）
- ◇ 震災の影響（女子）
- ◇ 近所の人（女子）
- ◇ 東方神起（女子）
- ◇ 行きつけの美容室のお姉さん（女子）
- ◇ 知り合い（男子）
- ◇ 接骨院（女子）
- ◇ 姉（女子）
- ◇ 病院で入院していたとき（女子）
- ◇ 病院のカウンセラーの方（男子）
- ◇ 修学旅行（女子）

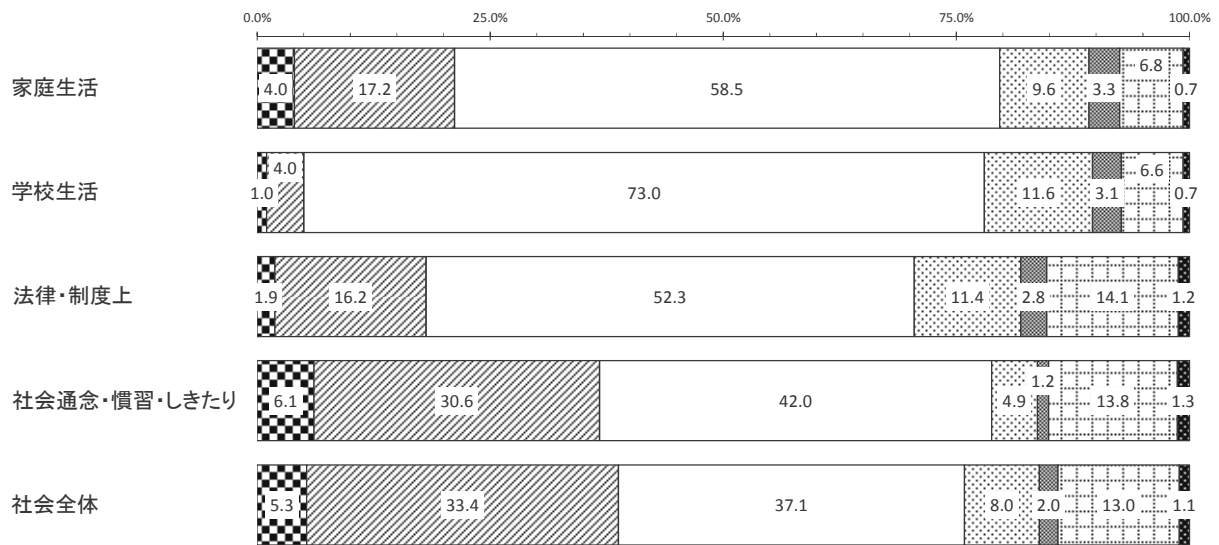
2. 男女共同参画

(1) 男女の平等感

問5 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。
それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=983)

- 男性のほうが優遇されている
- 平等
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- ☒ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ☒ どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ☒ わからない



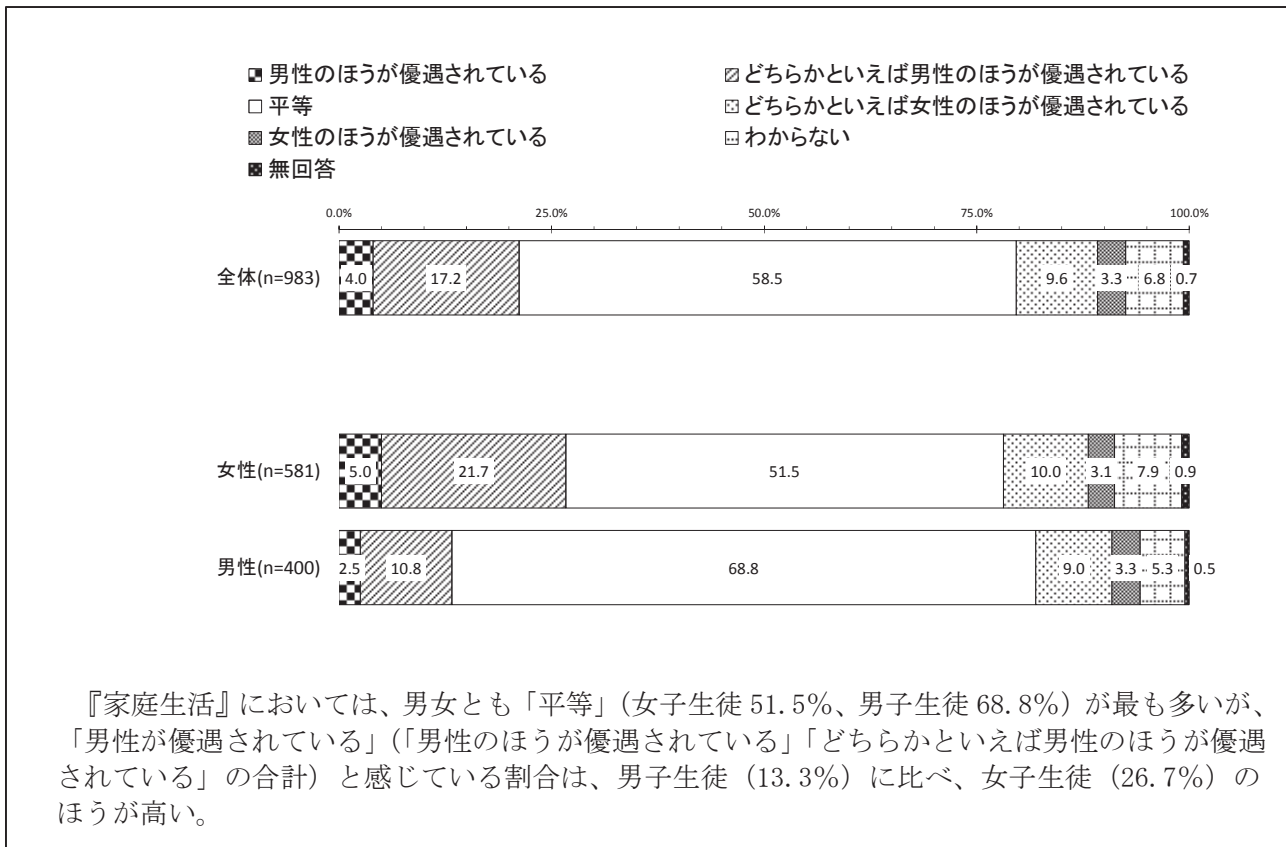
(単位: %)

	男性が優遇されている計	平等	女性が優遇されている計
家庭生活	21.2	58.5	12.8
学校生活	5.0	73.0	14.6
法律・制度上	18.1	52.3	14.2
社会通念・慣習・しきたり	36.7	42.0	6.1
社会全体	38.7	37.1	10.1

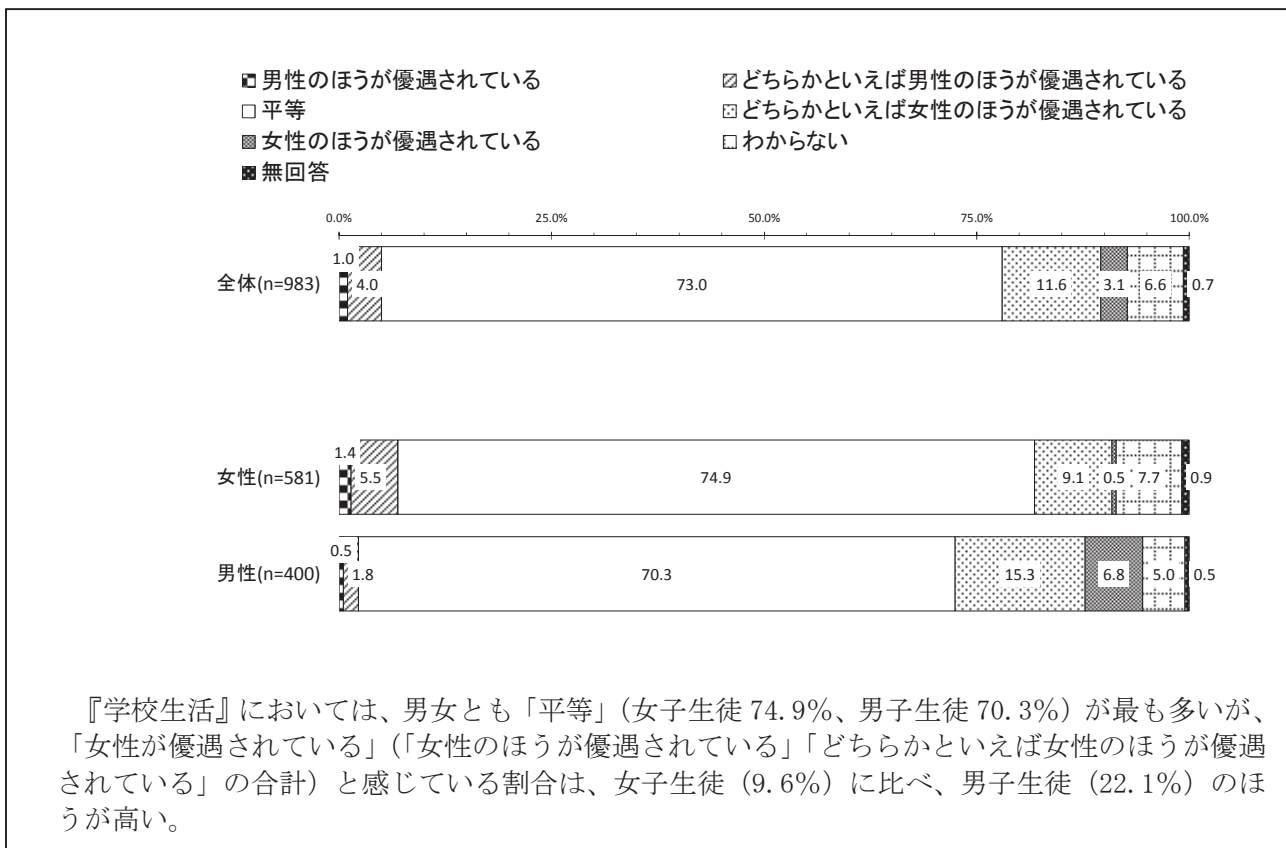
* 「男性が優遇されている計」及び「女性が優遇されている計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

『家庭生活』『学校生活』『法律・制度上』『社会通念・慣習・しきたり』では「平等」が最も多いが、『社会全体』では「男性が優遇されている」（「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）が「平等」を上回っている。特に『学校生活』では「平等」が73.0%であり、「男性が優遇されている」（計5.0%）より「女性が優遇されている」（「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計）（14.6%）の割合が高い。『社会通念・慣習・しきたり』では「男性が優遇されている」「平等」と感じている割合が高い。

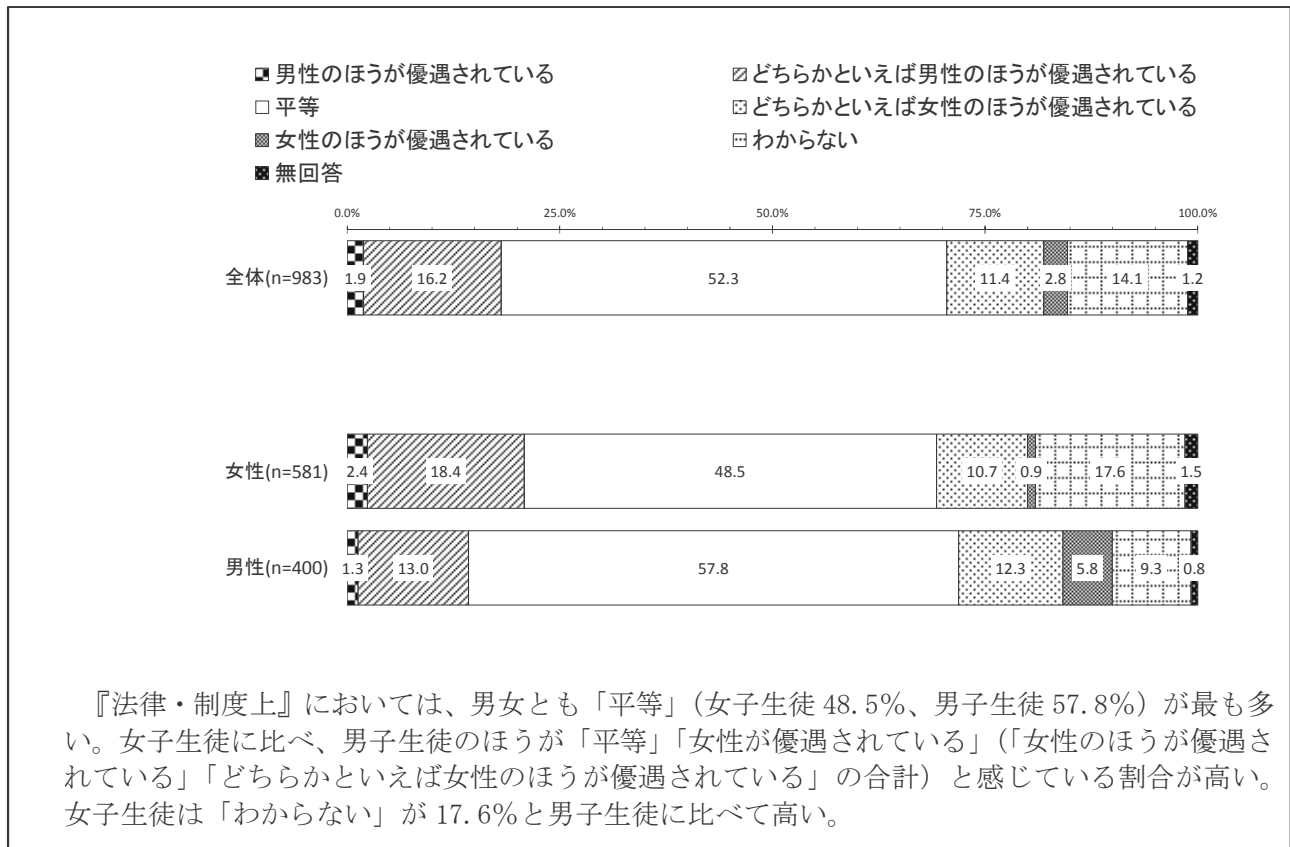
①男女の平等感 『家庭生活』



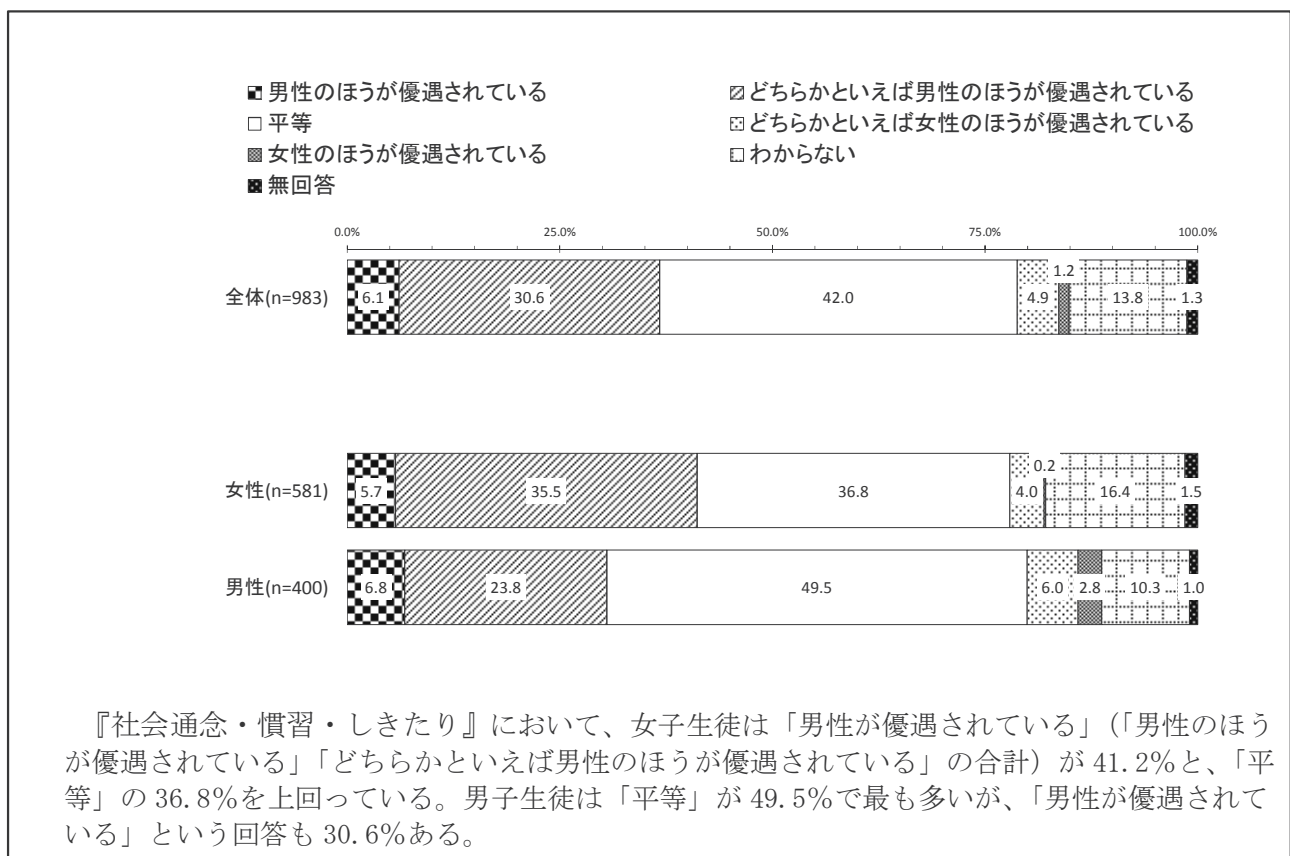
②男女の平等感 『学校生活』



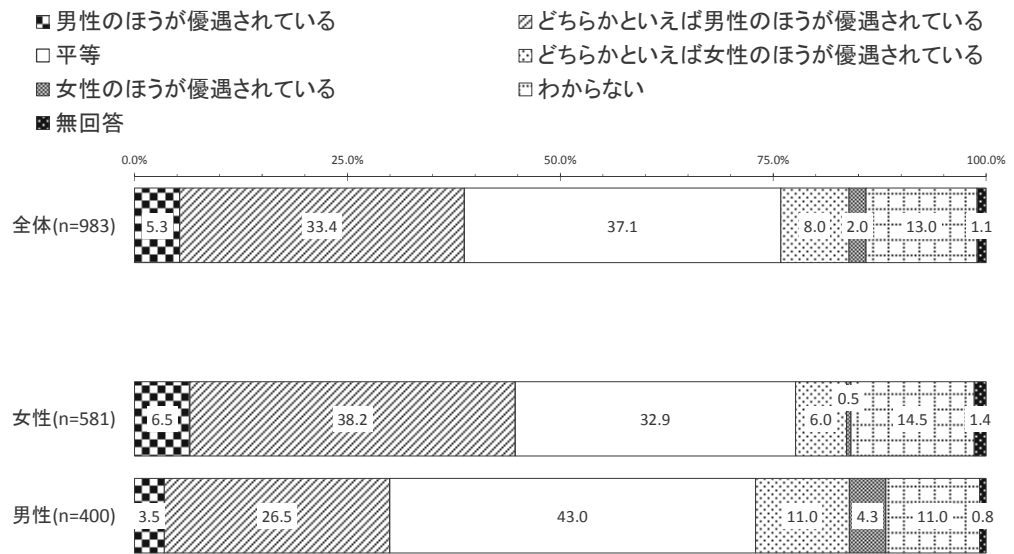
③男女の平等感 『法律・制度上』



④男女の平等感 『社会通念・慣習・しきたり』



⑤男女の平等感 『社会全体』



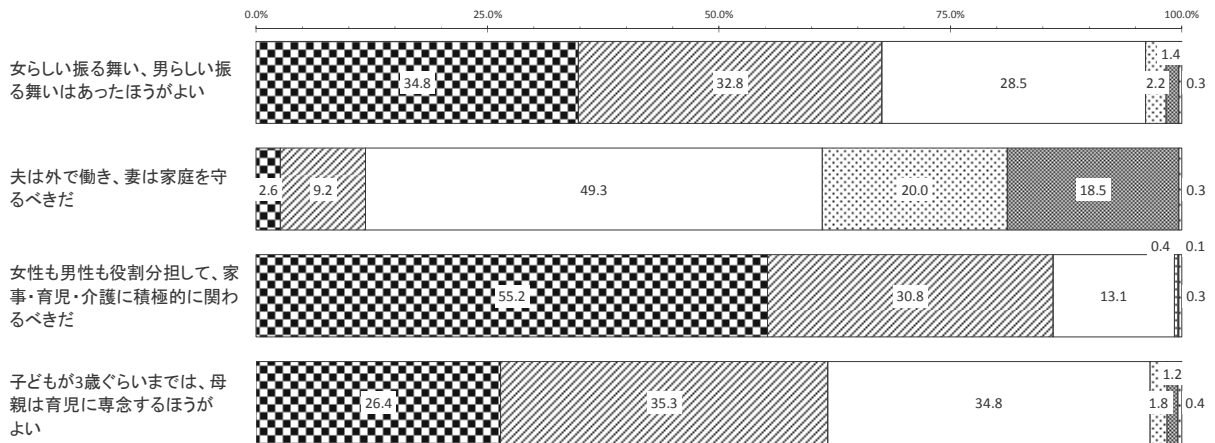
『社会全体』では、女子生徒は「男性が優遇されている」（「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）が44.7%と、「平等」の32.9%を上回っている。男子生徒は「平等」が43.0%で最も多いが、「男性が優遇されている」という回答も30.0%ある。

(2) 男女の望ましい姿

問6 あなたは、次のことについてどう思いますか。
それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=983)

■ 賛成 ▨ どちらかといえば賛成 □ どちらともいえない ▩ どちらかといえば反対 ■ 反対 ◻ 無回答



「賛成計」と「反対計」の割合

(単位: %)

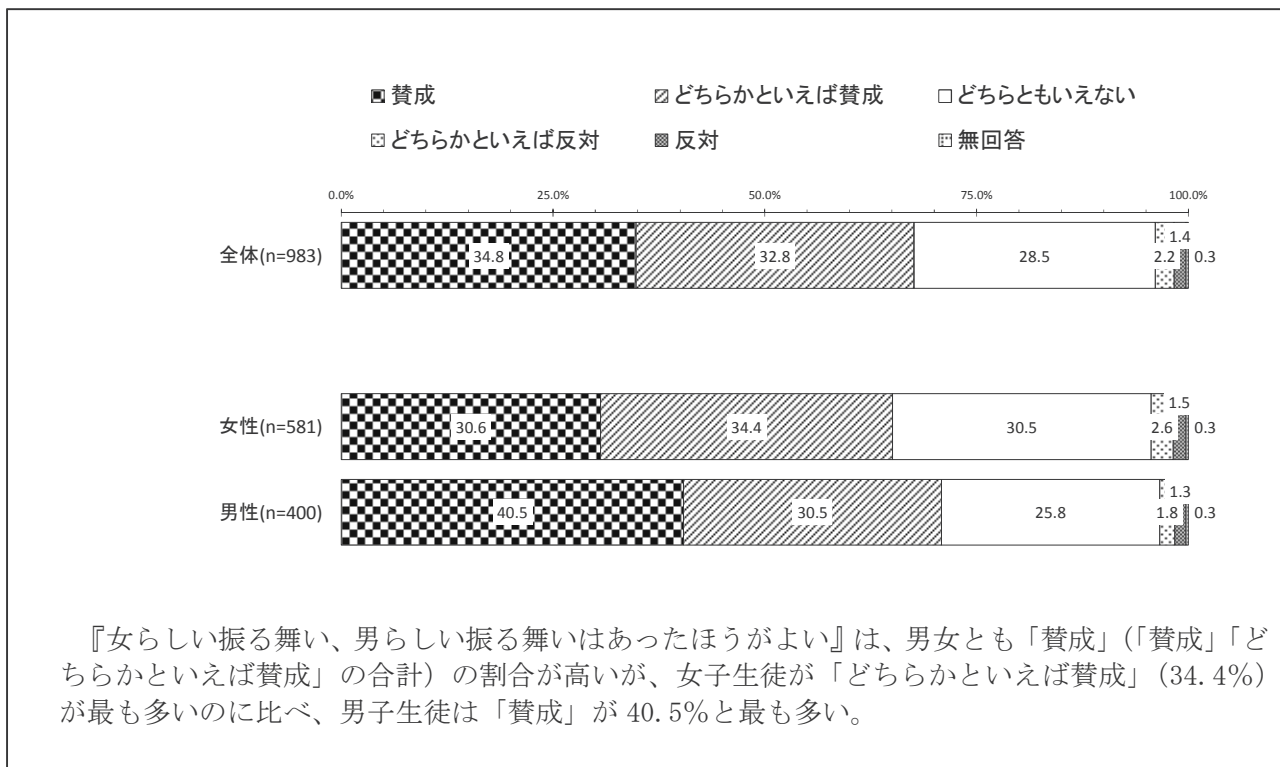
	賛成計	どちらともいえない	反対計
女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい	67.5	28.5	3.7
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	11.8	49.3	38.6
女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ	86.1	13.1	0.5
子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい	61.7	34.8	3.1

* 「賛成計」及び「反対計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

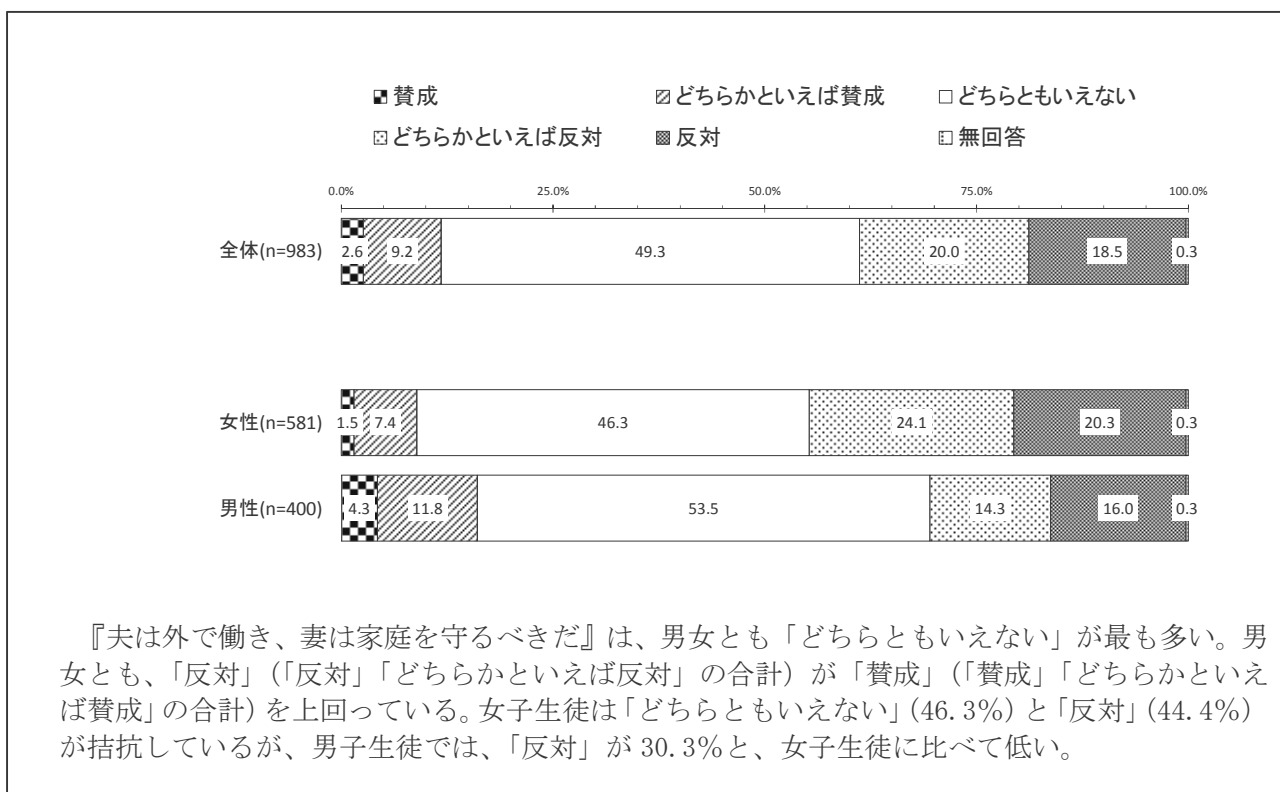
『女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ』(86.1%)、『女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあった方がいい』(67.5%)、『子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい』(61.7%)は、「賛成」(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)が多いが、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ』は「どちらともいえない」が49.3%で最も多く、「反対」(「反対」「どちらかといえば反対」の合計)が38.6%と「賛成」(11.8%)を上回っている。

高校生は、家事・育児・介護は男女で分担すべきだが、子どもが小さい間、母親は育児に専念したほうがよく、女らしさ、男らしさは必要だと考えている。

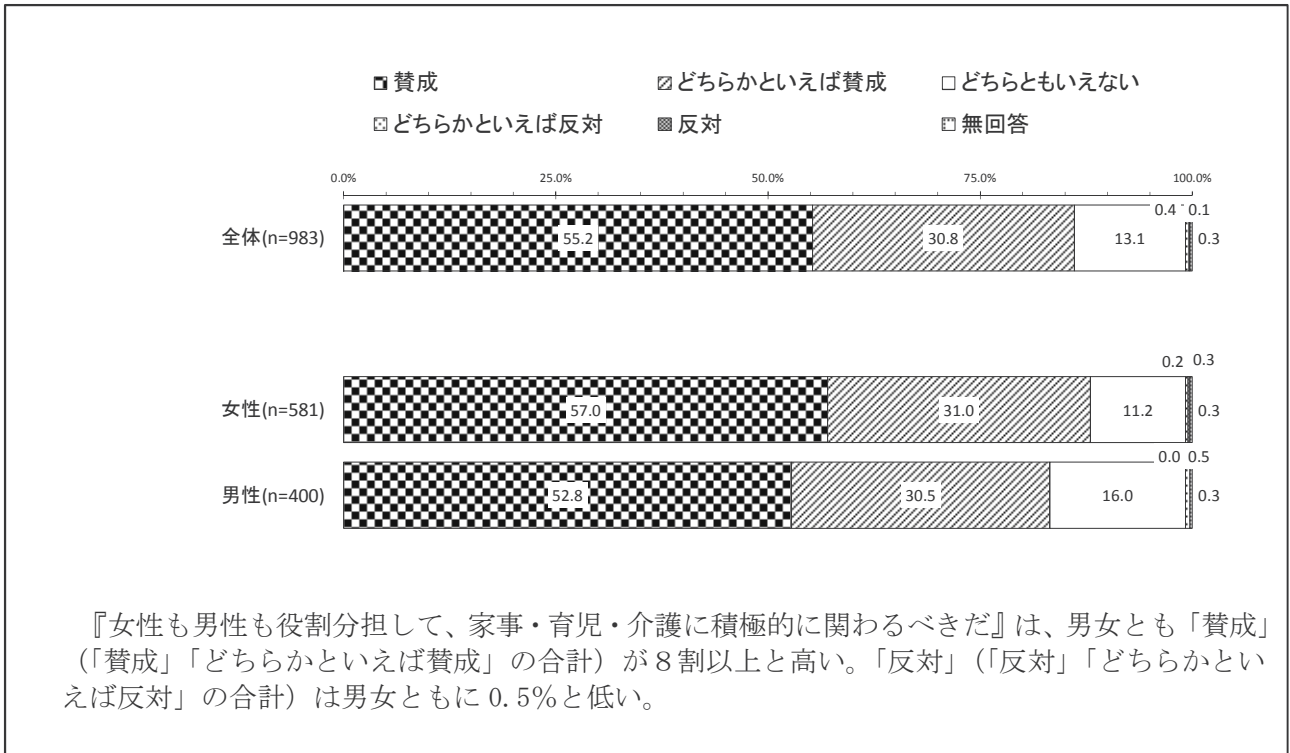
①女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい



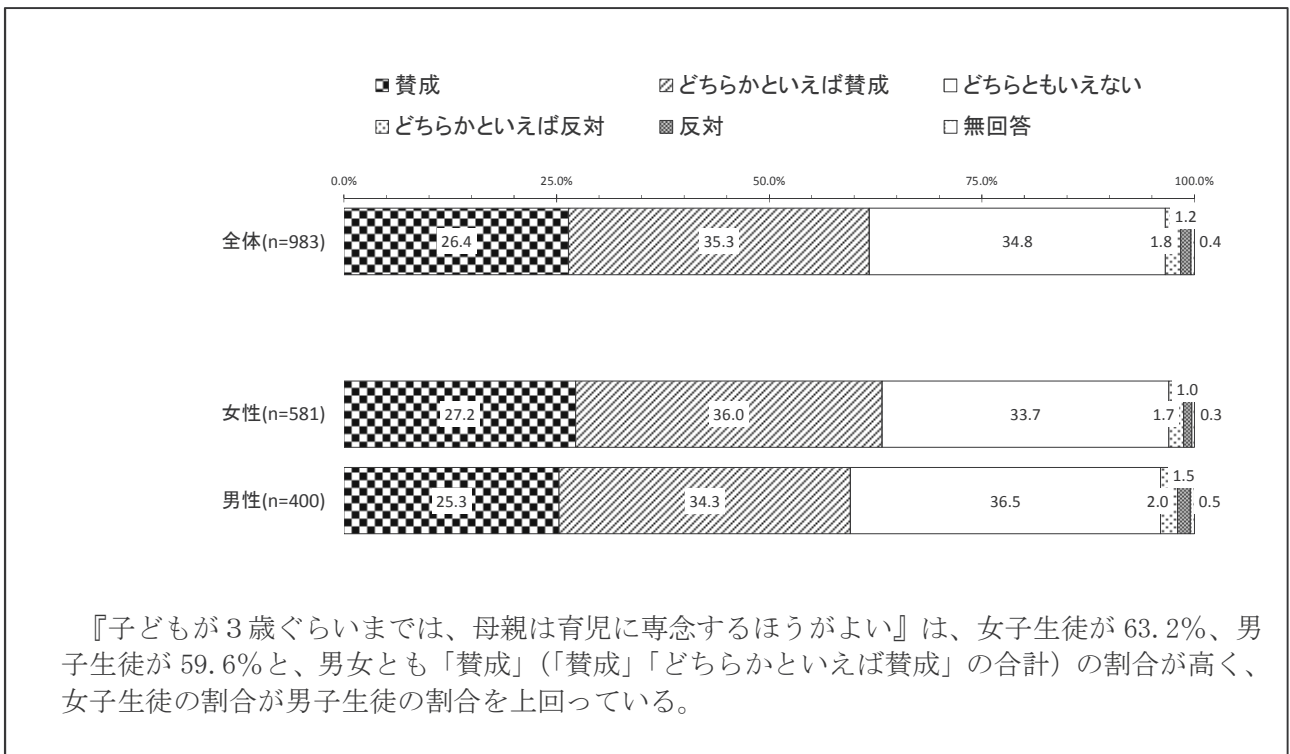
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



③女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ



④子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい

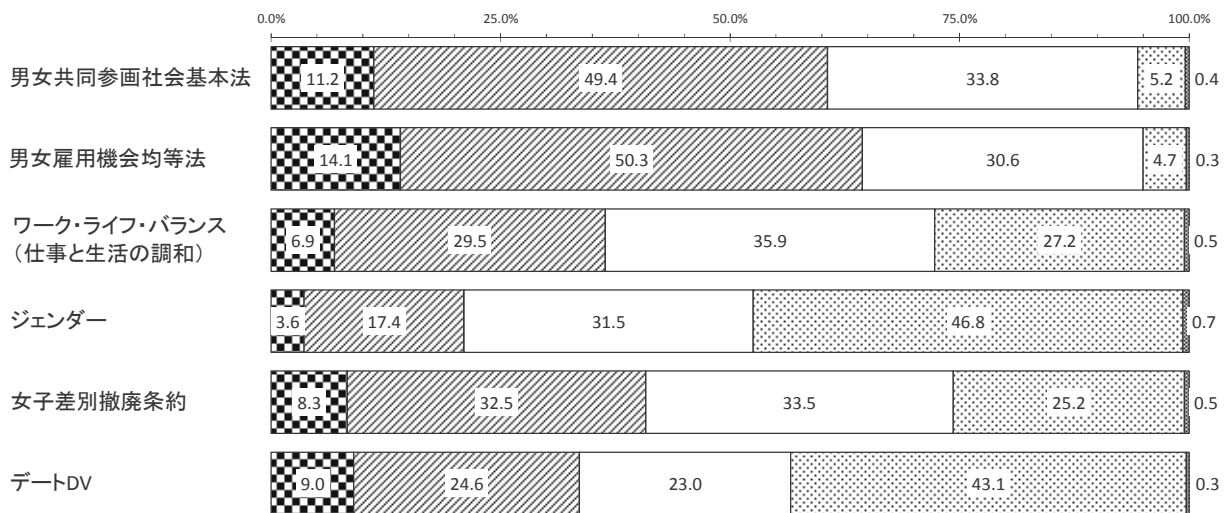


(3) 男女共同参画の認知度

問7 あなたは、次のことについて見たたり聞いたりしたことがありますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=983)

- よく知っている
- 聞いたことはあるが内容は知らない
- 無回答
- ▨ 少し知っている
- ▩ 全然知らない



「知っている計」と「知らない計」の割合

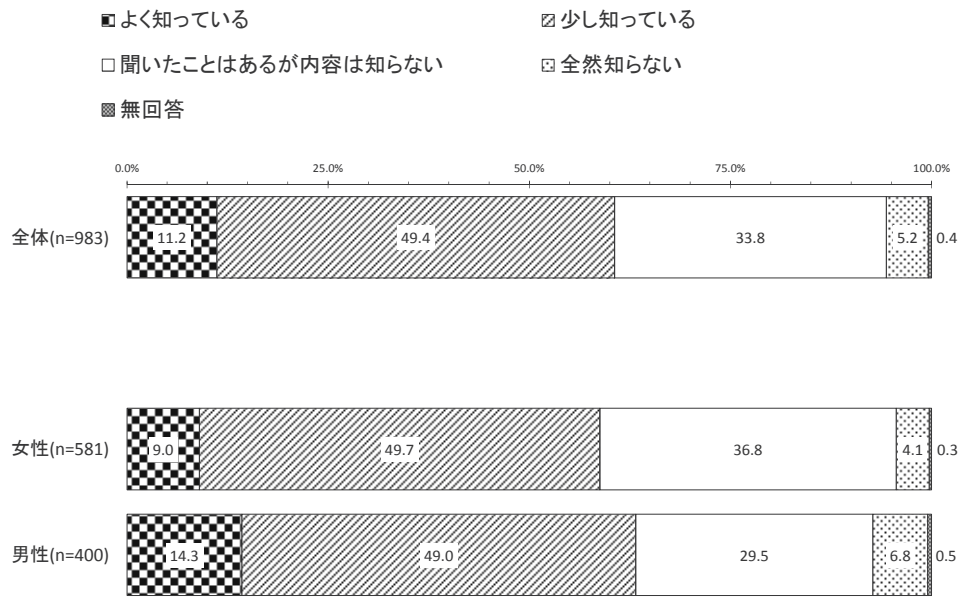
(単位: %)

	知っている計	知らない計
男女共同参画社会基本法	60.6	39.0
男女雇用機会均等法	64.4	35.3
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	36.4	63.1
ジェンダー	21.0	78.3
女子差別撤廃条約	40.8	58.7
デートDV	33.6	66.1

* 「知っている計」及び「知らない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

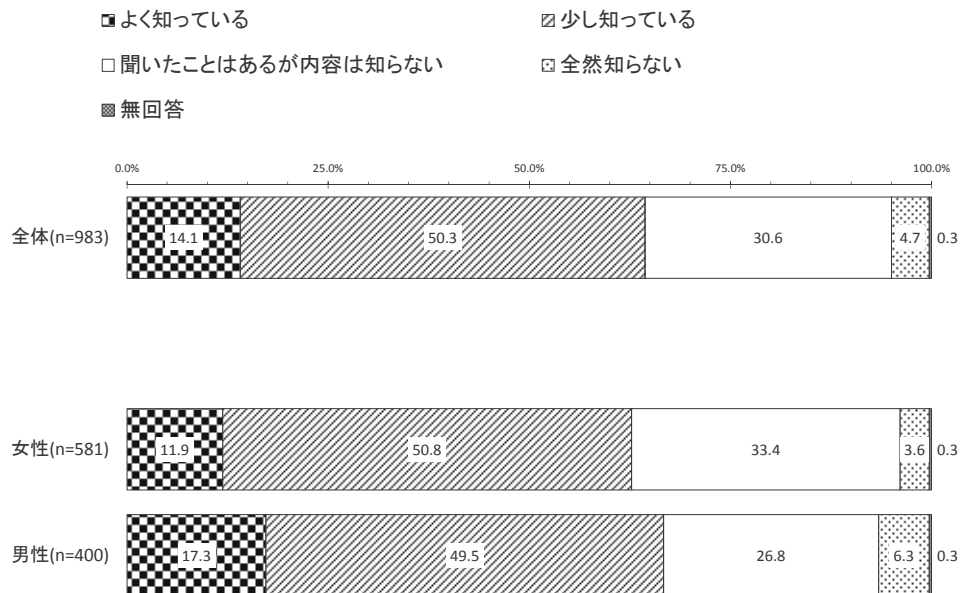
『男女雇用機会均等法』(64.4%)、『男女共同参画社会基本法』(60.6%)は6割以上が「知っている」(「よく知っている」「少し知っている」の合計)と答えている。『女子差別撤廃条約』(40.8%)、『ワーク・ライフ・バランス』(36.4%)、『デートDV』(33.6%)、『ジェンダー』(21.0%)は認知度が低く、「知らない」(「聞いたことはあるが内容は知らない」「全然知らない」の合計)が「知っている」を上回っている。『ジェンダー』、『デートDV』は、「全然知らない」が半数近くと最も多い。

①男女共同参画社会基本法



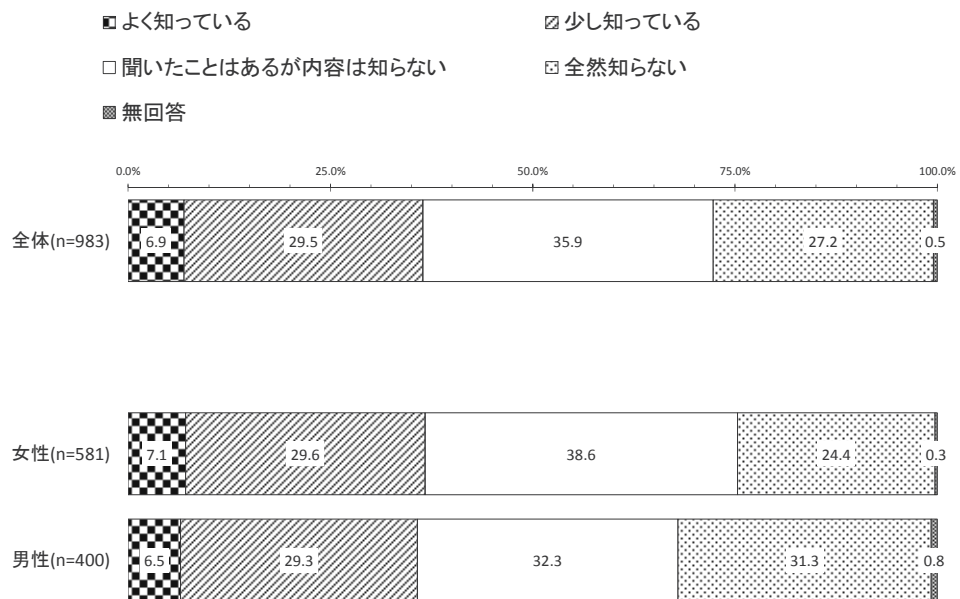
『男女共同参画社会基本法』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子生徒が 58.7%、男子生徒が 63.3%であるが、「よく知っている」の割合は女子生徒が 9.0%、男子生徒が 14.3%と、男子生徒の方が高い。

②男女雇用機会均等法



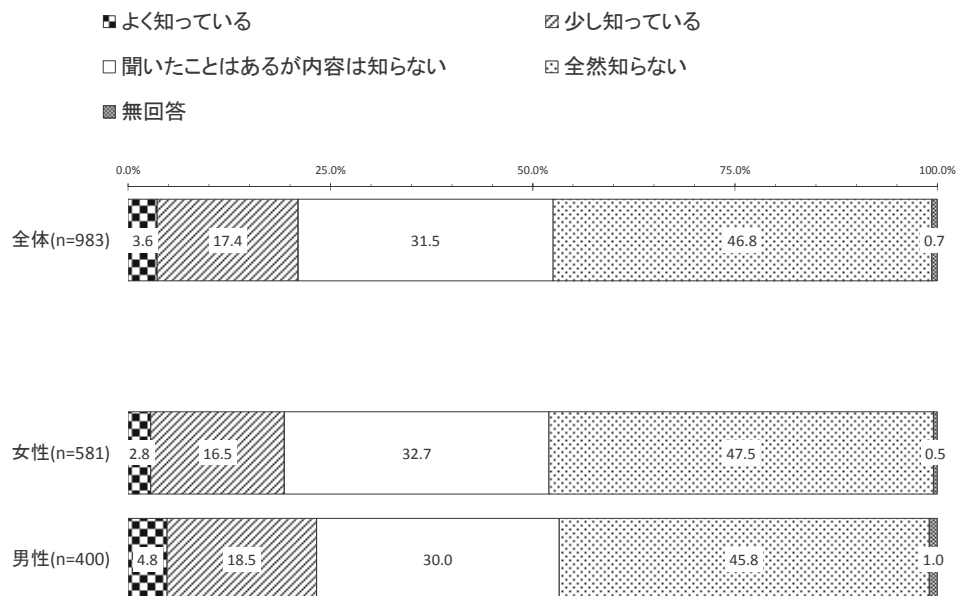
『男女雇用機会均等法』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子生徒が 62.7%、男子生徒が 66.8%であるが、「よく知っている」の割合は女子生徒が 11.9%、男子生徒が 17.3%と、男子生徒の方が高い。

③ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



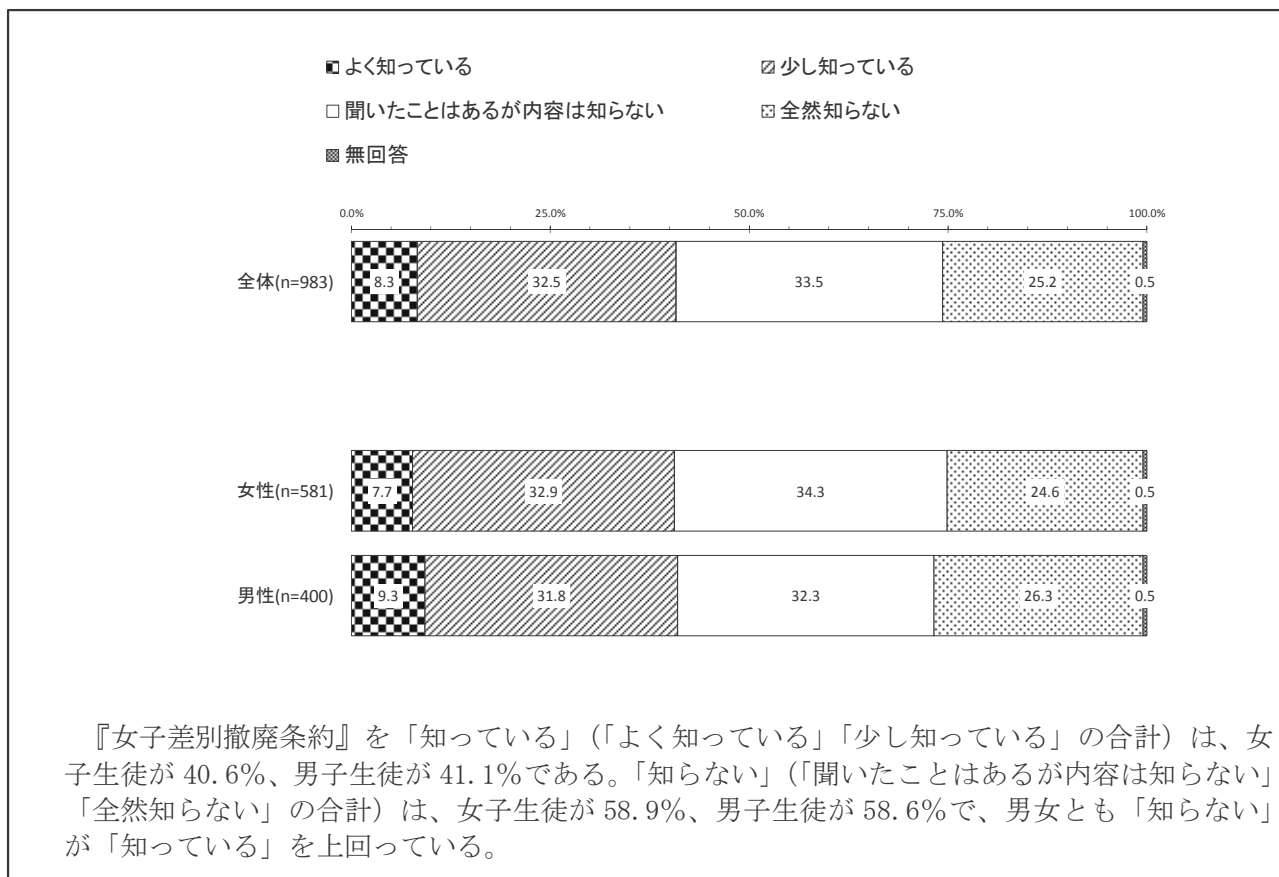
『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子生徒が 36.7%、男子生徒が 35.8%である。「知らない」（「聞いたことはあるが内容は知らない」「全然知らない」の合計）は、女子生徒が 63.0%、男子生徒が 63.6%で、男女とも「知らない」が「知っている」を大きく上回っている。

④ジェンダー

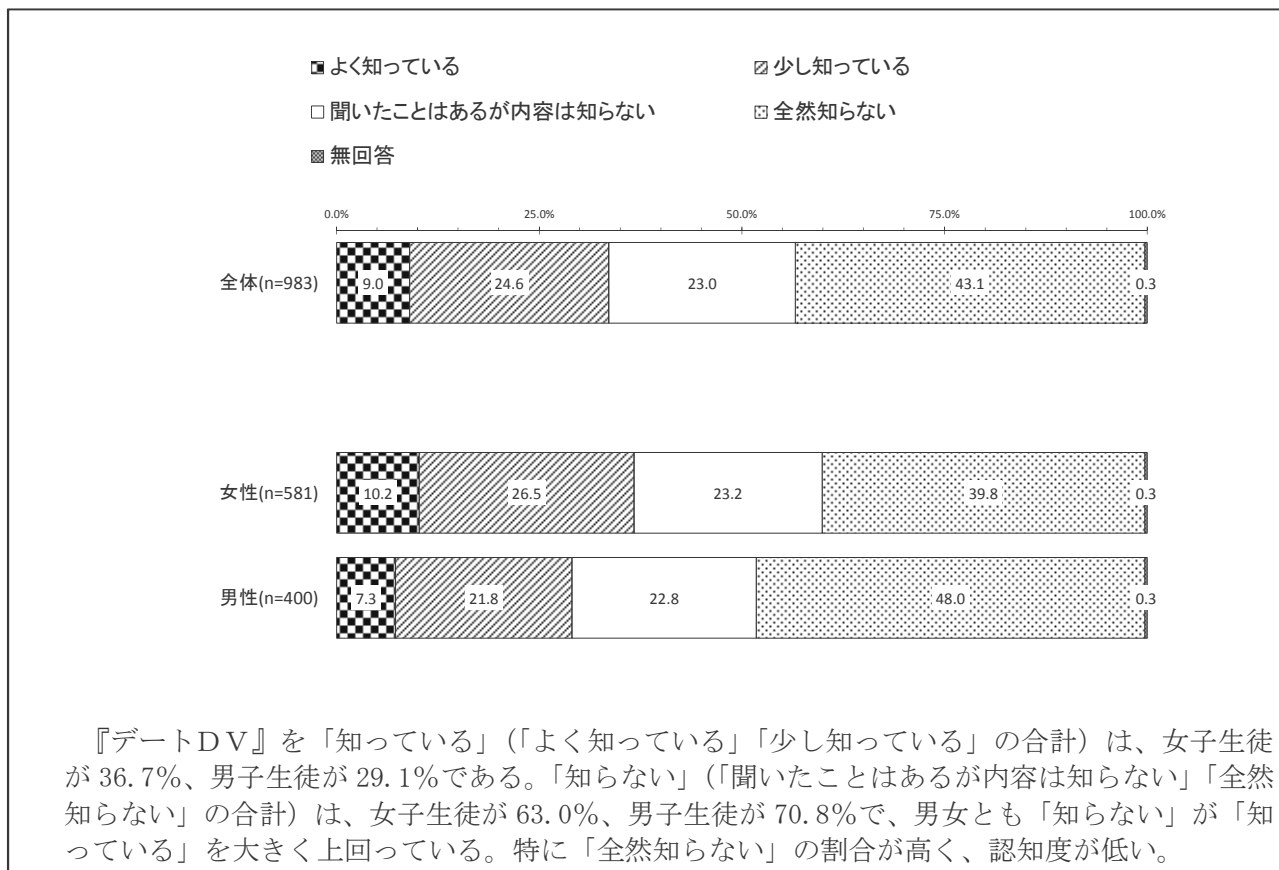


『ジェンダー』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子生徒が 19.3%、男子生徒が 23.3%と認知度は低い。「知らない」（「聞いたことはあるが内容は知らない」「全然知らない」の合計）は、女子生徒が 80.2%、男子生徒が 75.8%で、男女とも「知らない」が「知っている」を大きく上回っている。

⑤女子差別撤廃条約

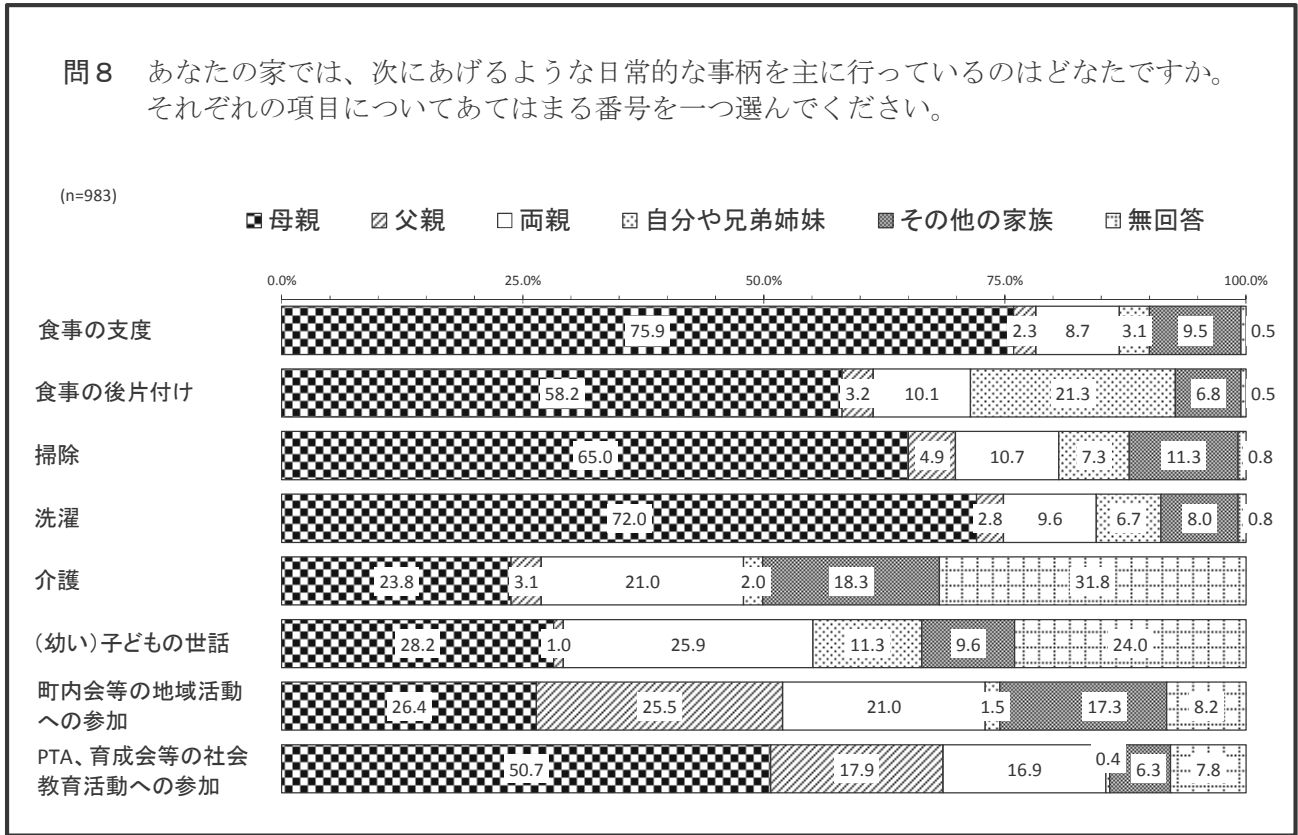


⑥デートDV



3. 家族や社会の状況

(1) 日常的役割の負担割合

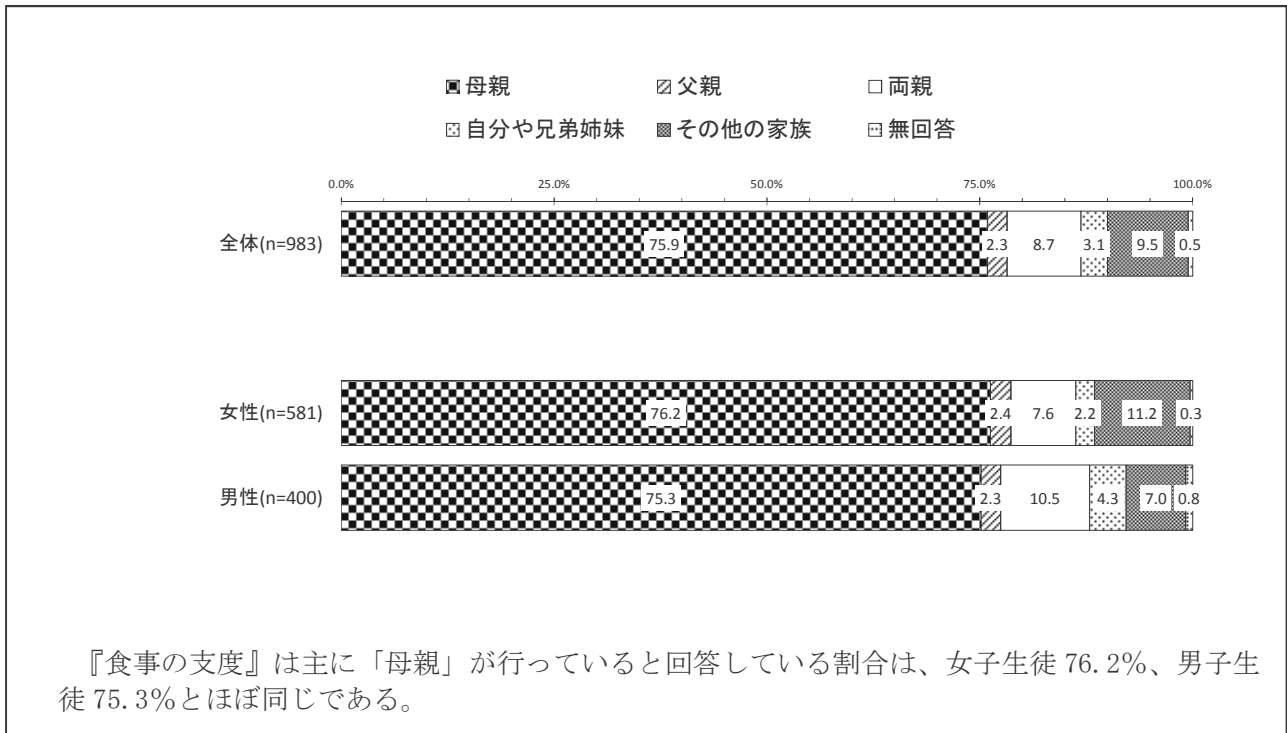


日常的な事柄で、主に「母親」が行っているのは、『食事の支度』(75.9%)、『洗濯』(72.0%)、『掃除』(65.0%)、『食事の後片付け』(58.2%)、で、母親の負担割合が7割以上である。「父親」の負担割合はいずれも低い。『PTA、育成会等の社会教育活動への参加』は、「母親」が50.7%と約半数であるが、「父親」が17.9%、「両親」が16.9%と、父親の負担割合も比較的高い。

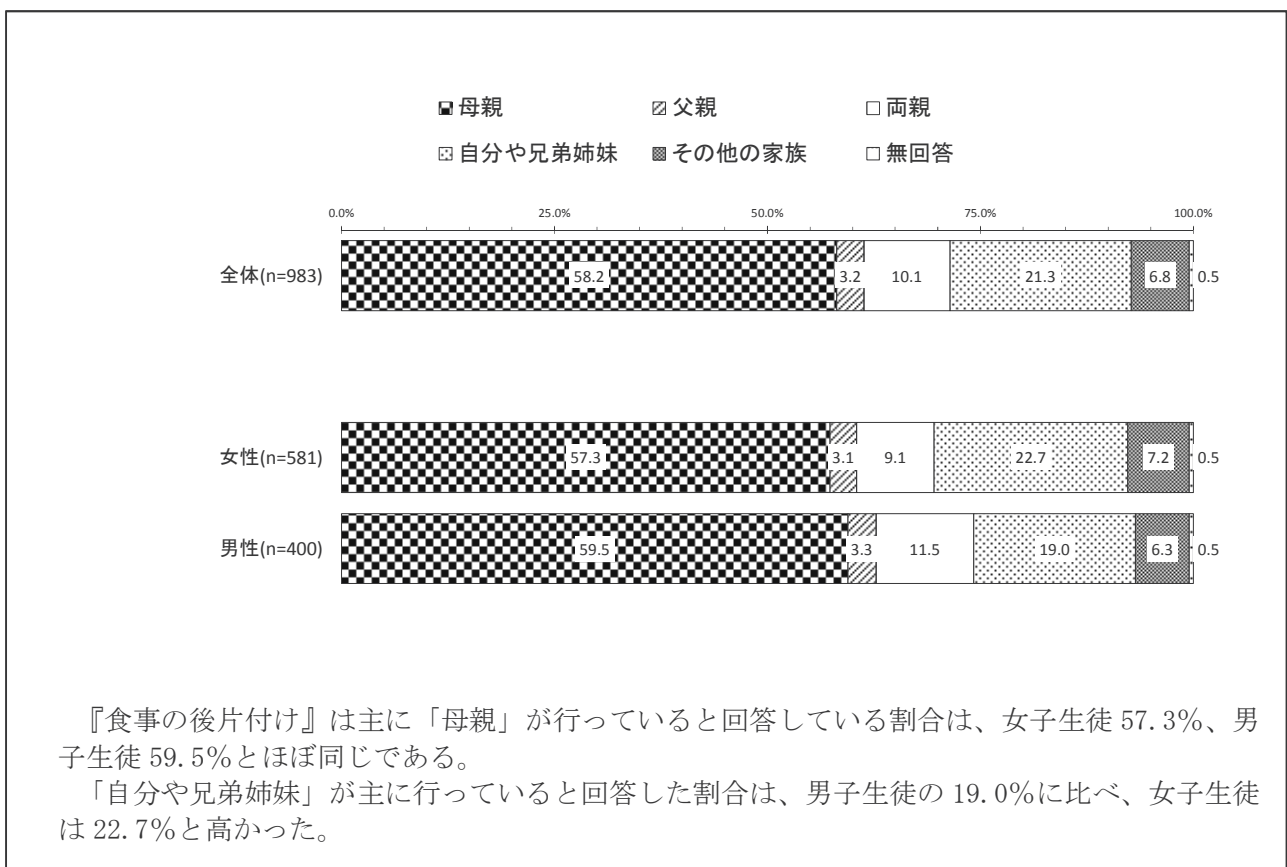
「父親」の負担割合が高いのは『町内会等の地域活動への参加』の25.5%であるが、「母親」も26.4%でほぼ同じ割合である。

『(若い)子どもの世話』『介護』は「母親」(『(若い)子どもの世話』28.2%、『介護』23.8%)の負担が最も多いものの、「両親」(『(若い)子どもの世話』25.9%、『介護』21.0%)も負担の程度は近く、分担して行っている割合が高い。

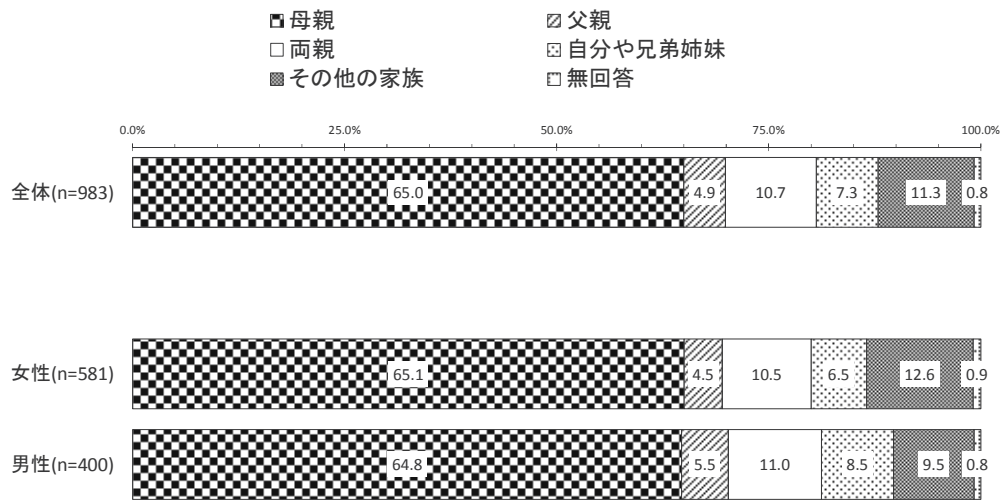
①食事の支度



②食事後片付け



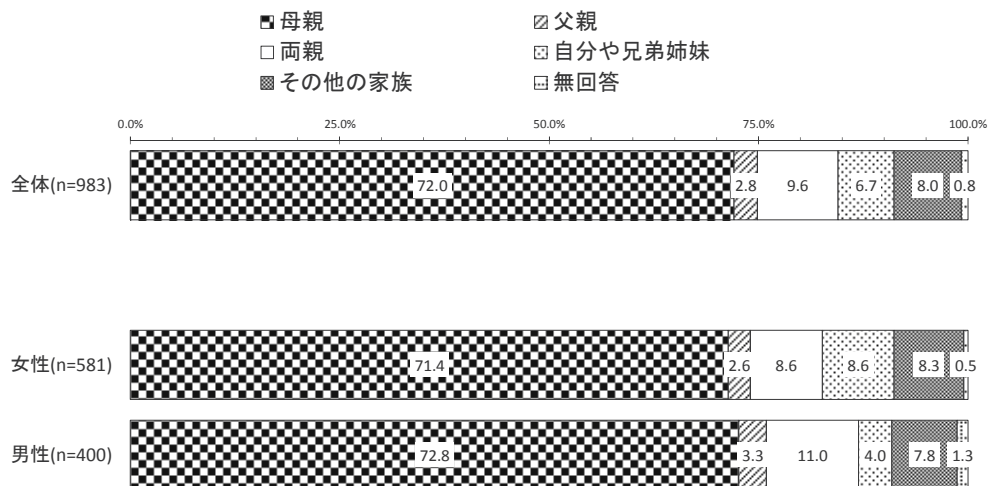
③掃除



『掃除』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子生徒 65.1%、男子生徒 64.8% とほぼ同じである。

「自分や兄弟姉妹」が主に行っていると回答した割合は、女子生徒の 6.5% に比べ、男子生徒は 8.5% と高かった。

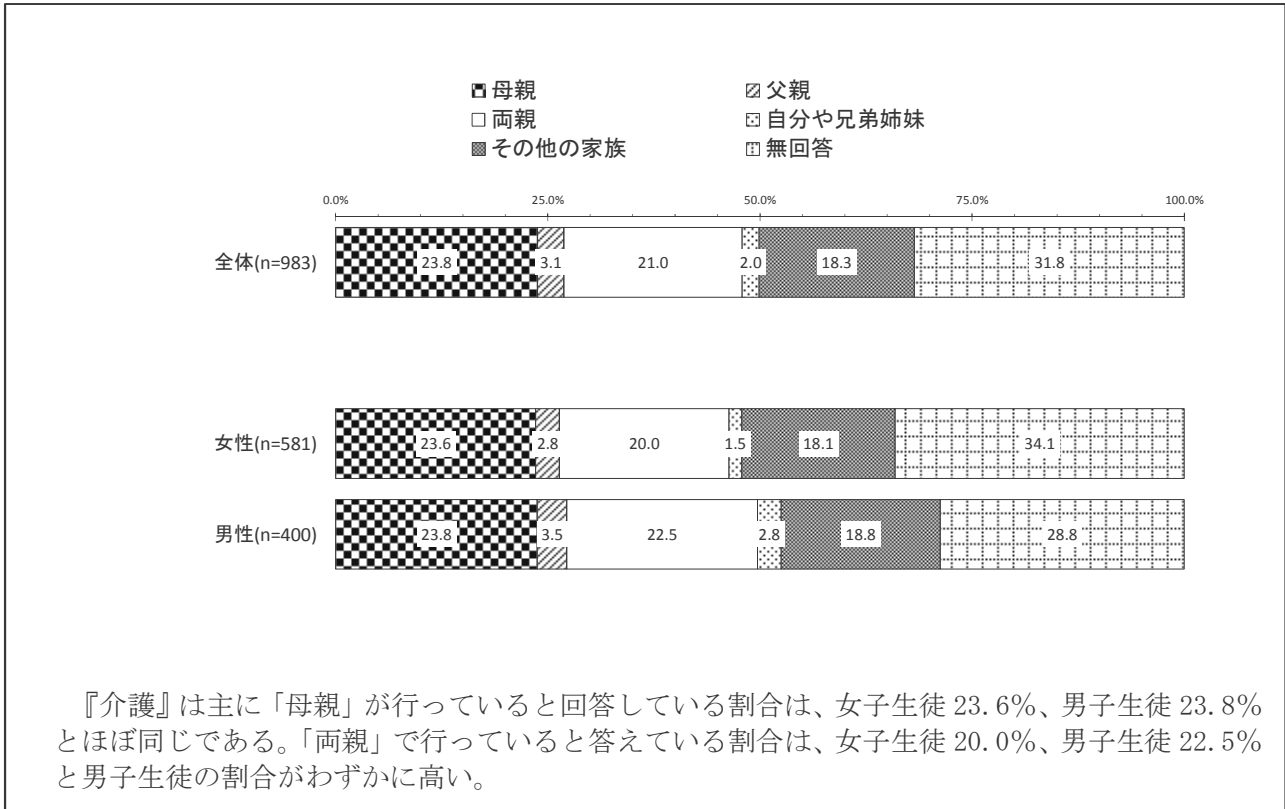
④洗濯



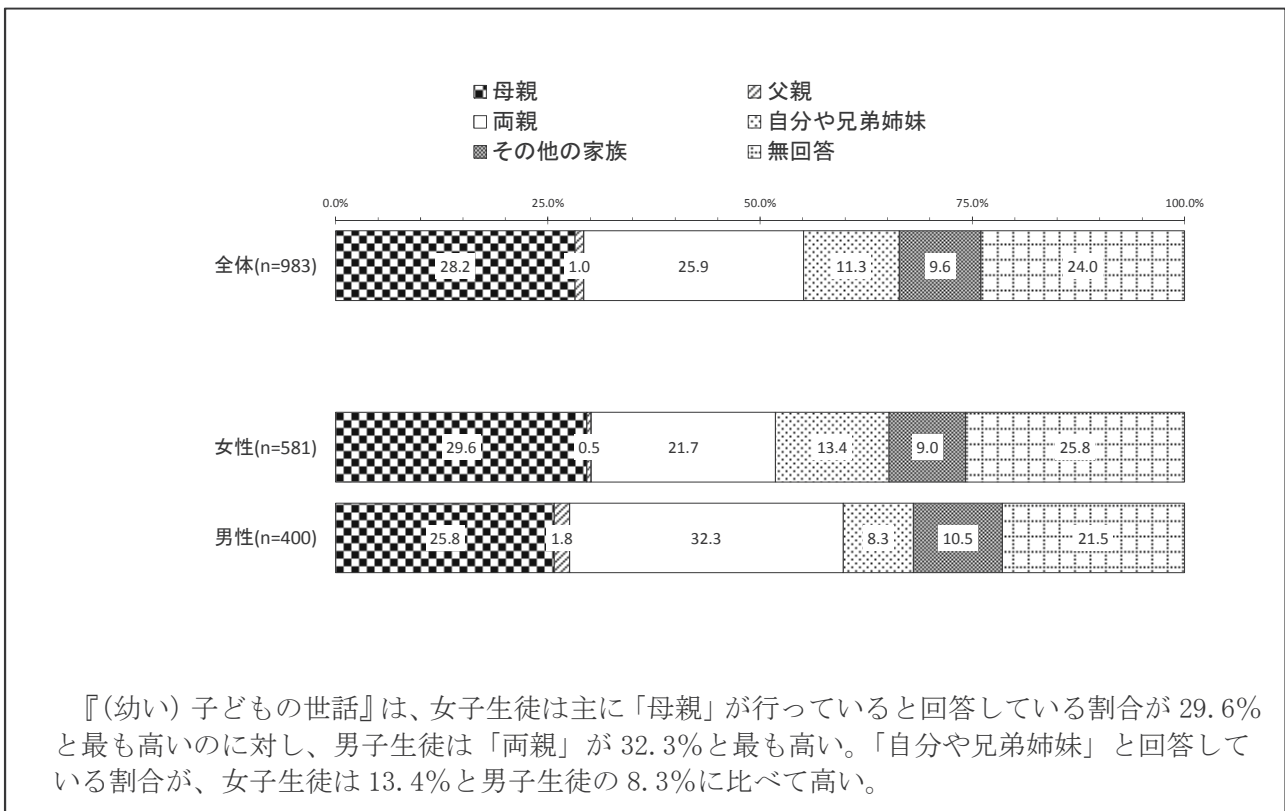
『洗濯』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子生徒 71.4%、男子生徒 72.8% とほぼ同じである。

「自分や兄弟姉妹」が主に行っていると回答した割合は、男子生徒の 4.0% に比べ、女子生徒は 8.6% と高かった。

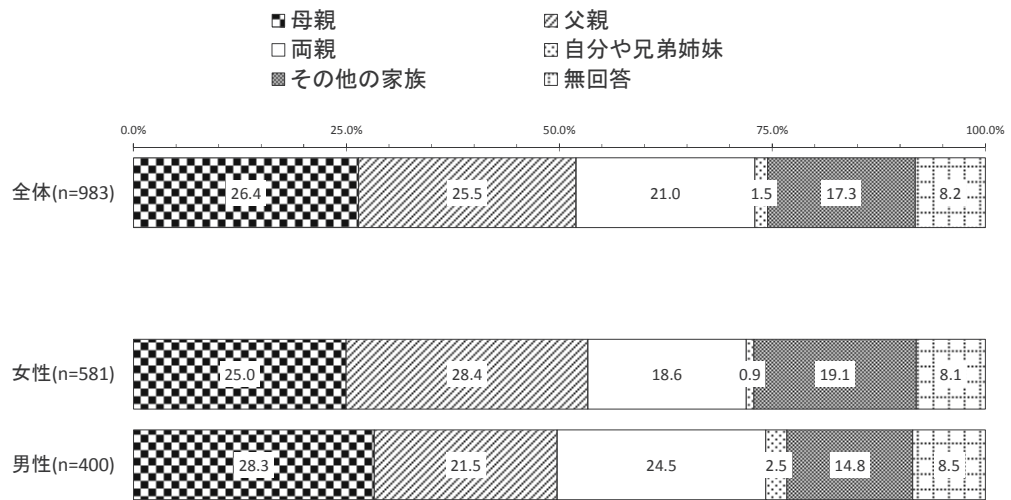
⑤ 介護



⑥ (幼い) 子どもの世話

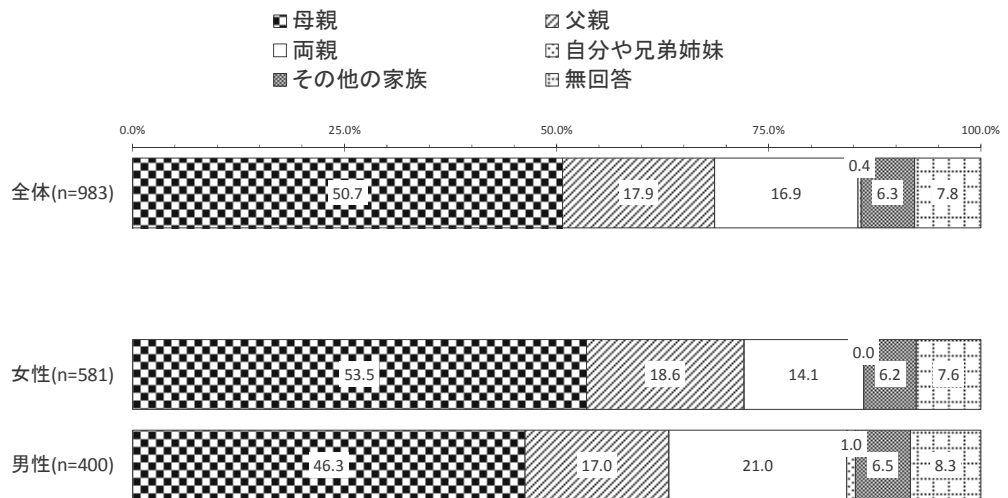


⑦町内会等の地域活動への参加



『町内会等の地域活動への参加』は、女子生徒は主に「父親」が行っていると回答している割合が28.4%と最も高い。男子生徒は「母親」が28.3%と最も高いが、「両親」と答えた割合も24.5%と女子生徒の18.6%に比べて高い。

⑧PTA、育成会等の社会教育活動への参加



『PTA、育成会等の社会教育活動への参加』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子生徒53.5%、男子生徒46.3%と女子生徒が高い。男子生徒では、「両親」と答えた割合が21.0%と、女子生徒の14.1%に比べて高い。

4. 女性の活躍促進

(1) 女性の活躍状況

問9 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(〇は1つだけ)



「活躍している計」と「活躍していない計」の割合 (単位: %)

	活躍している計	活躍していない計
身近な女性は仕事や地域活動で活躍していると思うか	82.3	16.6

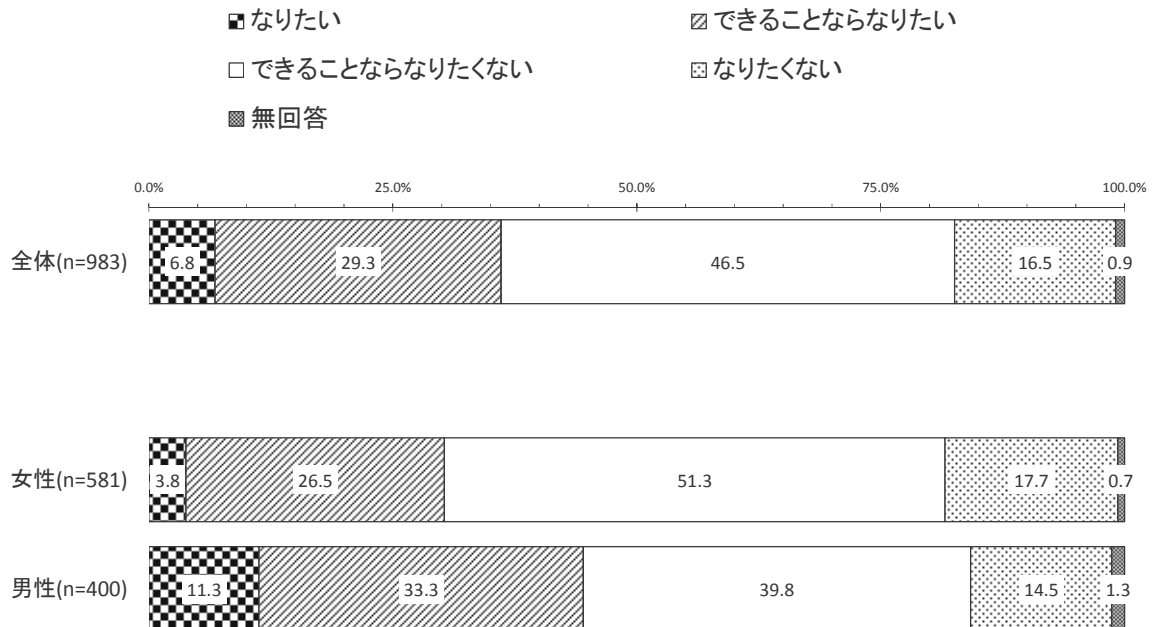
* 「活躍している計」及び「活躍していない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

「活躍している」「どちらかという活躍している」を合わせると82.3%が、女性は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

「活躍している(計)」は男女ほぼ同じ割合であるが、「活躍している」の割合は、男子生徒が40.0%と、女子生徒の29.9%に比べて高い。

(2) リーダー・管理職への意欲

問 10 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)



「なりたい計」と「なりたくない計」の割合 (単位:%)

	なりたい計	なりたくない計
リーダー・管理職になりたいと思うか	36.1	63.0

* 「なりたい計」及び「なりたくない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

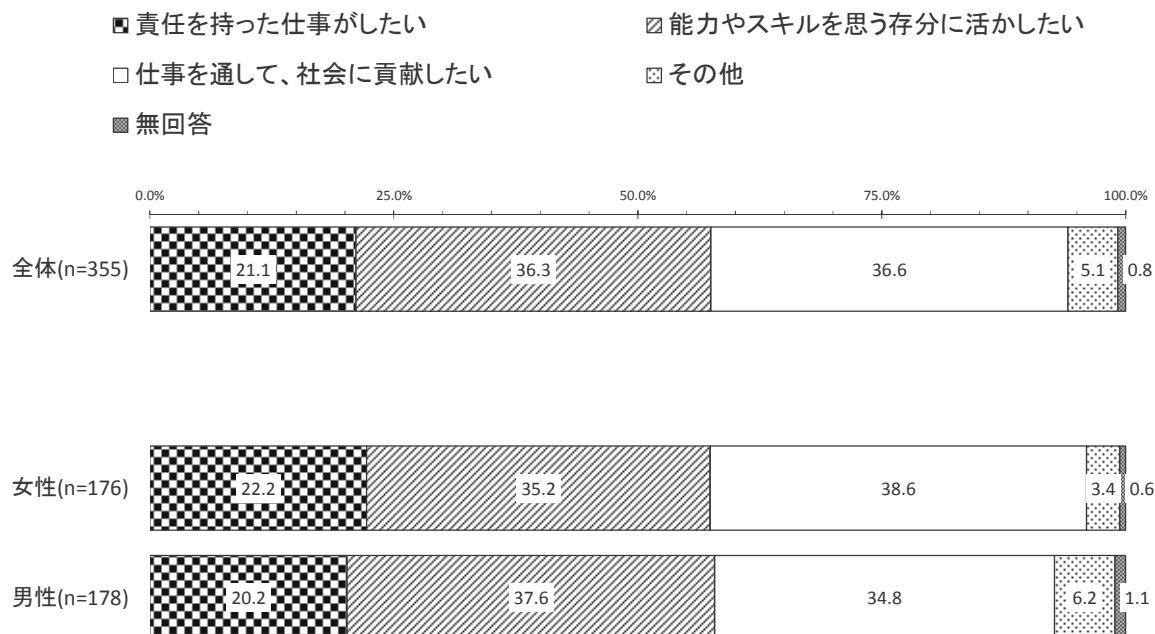
リーダー・管理職に「なりたい」「できることならなりたい」を合わせた割合は36.1%、「なりたくない」「できることならなりたくない」を合わせた割合は63.0%と、「なりたくない」が「なりたい」を大きく上回っている。

男女ともに「なりたくない」の割合が高いが、男子生徒は「なりたい」が44.6%と、女子生徒の30.3%に比べ高い。

①リーダー・管理職になりたい理由

(問 10 補助質問 1 問 10 で 1 「なりたい」または 2 「できるならなりたい」を回答した方だけお聞きします)

なぜなりたいと思いますか。(○は1つだけ)



リーダー・管理職になりたい理由としては、「仕事を通して、社会に貢献したい」が 36.6%と最も多く、ついで「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が 36.3%である。

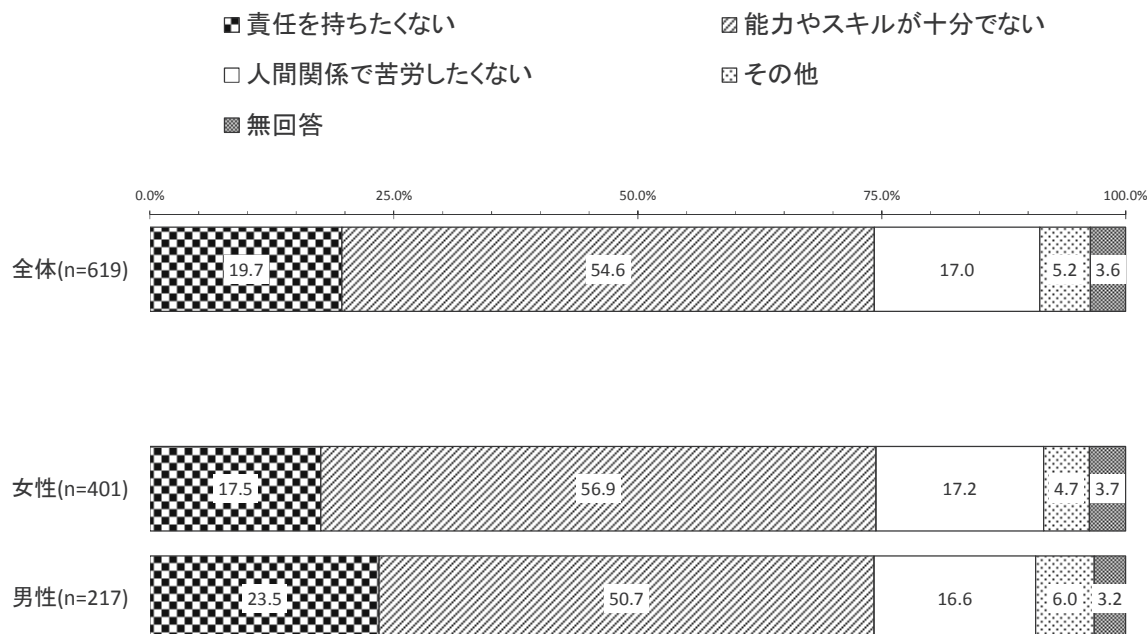
女子生徒は「仕事を通して、社会に貢献したい」が 38.6%と最も高いが、男子生徒は「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が 37.6%と最も高い。

* リーダー・管理職になりたい理由<その他>

- ◇ 人から頼りにされることは素晴らしいことだと思うから。(女子)
- ◇ 興味がある。(女子)
- ◇ みんなの役に立てるならやってみたい。(無回答)
- ◇ みんなをまとめてみたい。まとめる力がほしい。(女子)
- ◇ リーダーとかの役割が行っていて楽しいから。(男子)
- ◇ 目立ちたい…。(女子)
- ◇ 彼女、もしくは妻がいた場合、安心させたいから。(男子)
- ◇ リーダーってカッコいい。(男子)
- ◇ できるなら、なんでもやりたい。(女子)
- ◇ 収入が良くなるならと思ったから。(女子) (男子)

②リーダー・管理職になりたくない理由

(問10 補助質問2 問10で3「できるならなりたくない」または4「なりたくない」を回答した方だけお聞きします)
なぜなりたくないと思いますか。(〇は1つだけ)



リーダー・管理職になりたくない理由としては、「能力やスキルが十分でない」が54.6%と最も多く、「責任を持ちたくない」が19.7%、「人間関係で苦労したくない」が17.0%である。

男女ともに「能力やスキルが十分でない」(女子生徒56.9%、男子生徒50.7%)の割合が高いが、男子生徒は「責任を持ちたくない」が23.5%と、女子生徒の17.5%に比べて高い。

* リーダー・管理職になりたくない理由<その他>

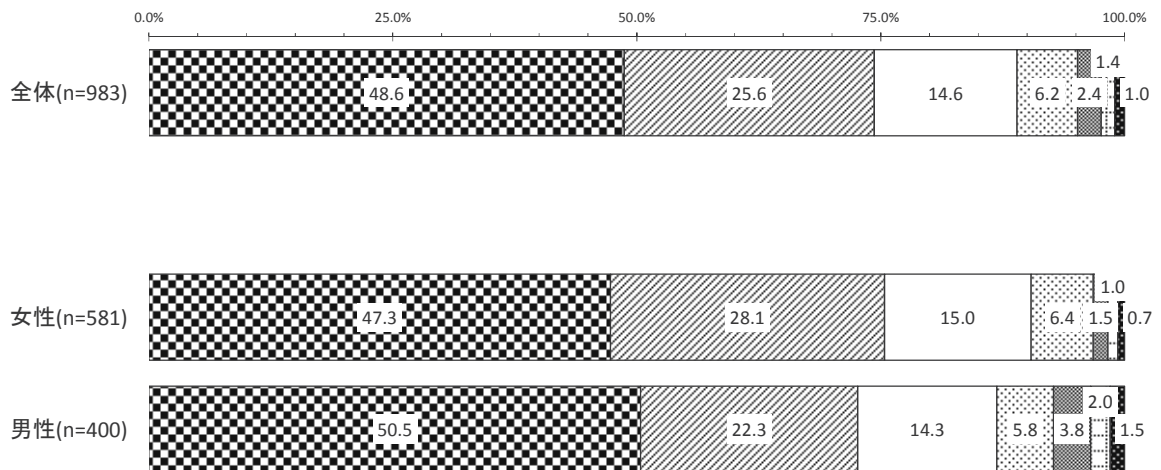
- ◇ 皆平等に生きていきたい。(男子)
- ◇ 現場で働きたい。(女子)
- ◇ 一度経験して、自分には向いていないと分かった。(女子)
- ◇ 全ての理由があてはまる。(男子)
- ◇ リーダーとになると目立ってしまうから、できるだけ目立ちたくない。(女子)
- ◇ リーダーなどの下で働く方が自分の能力を発揮できるから。(男子)
- ◇ めんどくさい。(女子)(男子)
- ◇ やれっていわれたことを全力でやるタイプなんだ。(女子)
- ◇ リーダーなど、中心になってしきるのは苦手。(女子)
- ◇ なりたいと思ったことがない。(女子)
- ◇ 自由がいい。(女子)
- ◇ 自分にリーダー性があると思わないから。(女子)
- ◇ 自信がないし、不安だから。(女子)(男子)
- ◇ 責任もあるが、まとめる自信がない。(男子)

5. 将来について

(1) 結婚

問11 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。(○は1つだけ)

- するほうがよい
- ▨ できればするほうがよい
- どちらでもよい
- ▤ 必ずしもしなくてよい
- する必要はない
- ▤ わからない
- 無回答



「するほうがよい計」と「する必要はない計」の割合

(単位: %)

	するほうがよい計	どちらでもよい	する必要はない計
結婚についてどのように考えているか	74.3	14.6	8.6

* 「するほうがよい計」及び「する必要はない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

「するほうがよい」「できればするほうがよい」を合わせると、74.3%が、結婚を「するほうがよい」と回答している。「する必要はない」「必ずしもしなくてよい」を合わせた割合は8.6%である。「どちらでもよい」が14.6%である。

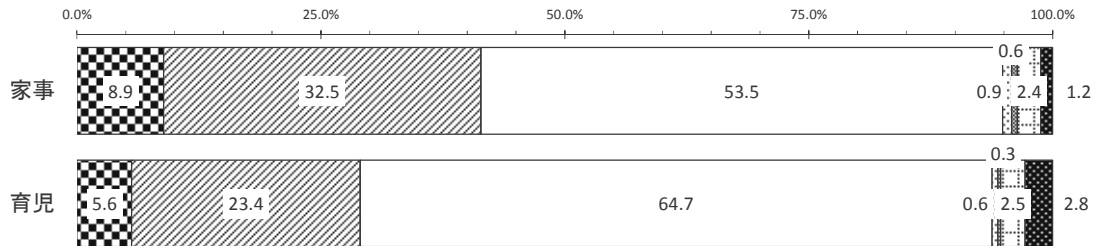
男女ともに「するほうがよい」(女子生徒75.4%、男子生徒72.8%)の割合が高い。

(2) 家事・育児の分担意向

問 12 あなたは、将来家庭を持ったとしたら、家事、育児は主に誰がすればよいと思いますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=983)

- 主として妻
- ▨ どちらかといえば妻
- 夫婦で同じくらい分担
- ▩ どちらかといえば夫
- 主として夫
- わからない
- 無回答



「妻計」と「夫計」の割合 (単位: %)

	妻計	夫婦で同じくらい分担	夫計
家事	41.3	53.5	1.5
育児	29.0	64.7	0.9

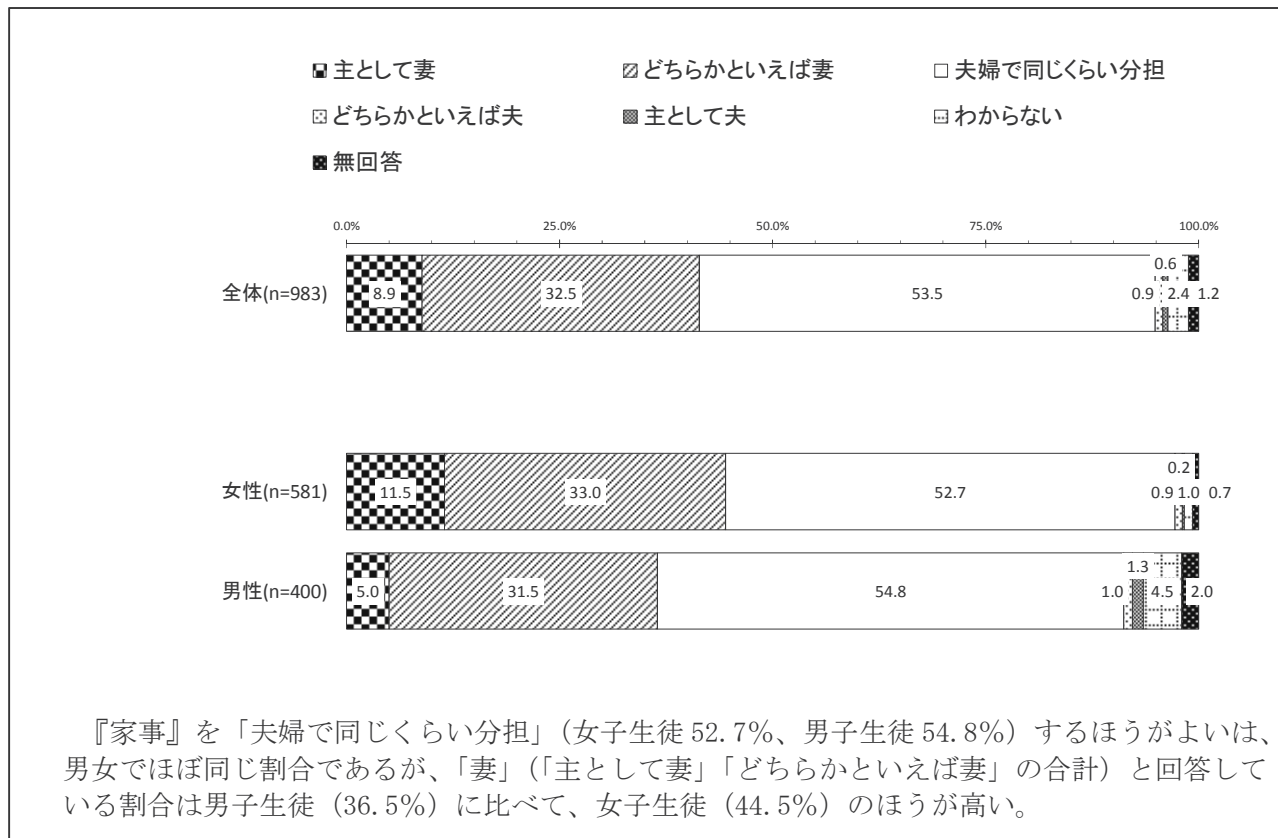
* 「妻計」及び「夫計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

将来家庭を持ったら、『家事』は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと思うが53.5%、「妻」（「主として妻」「どちらかといえば妻」の合計）がすればよいが41.3%である。「夫」がすればよいは1.5%と低い。

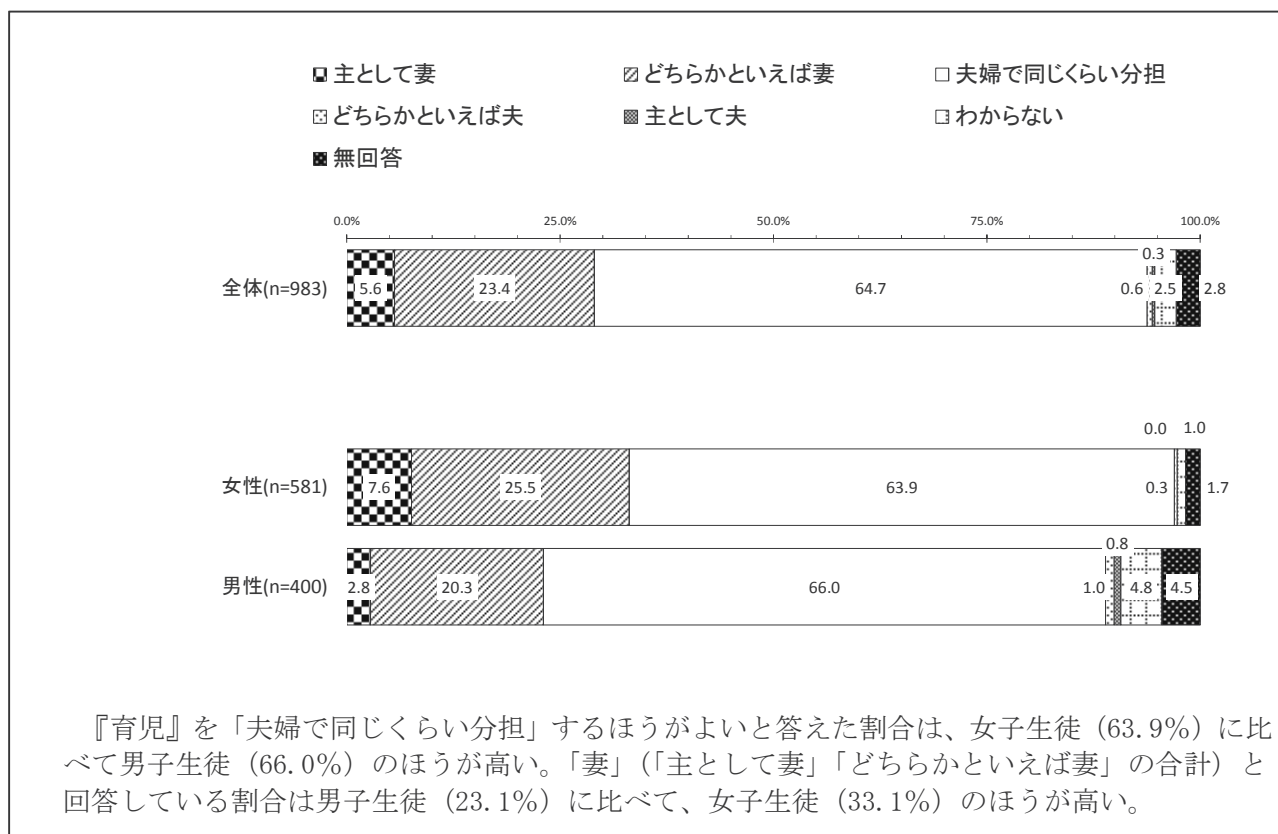
『育児』は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと思うが64.7%、「妻」がすればよいが29.0%である。「夫」がすればよいは0.9%と低い。

『家事』も『育児』も「夫婦で同じくらい分担」すればよいと考える割合が高いが、『育児』のほうがより分担意識が高い。

①家事・育児の分担意向 『家事』



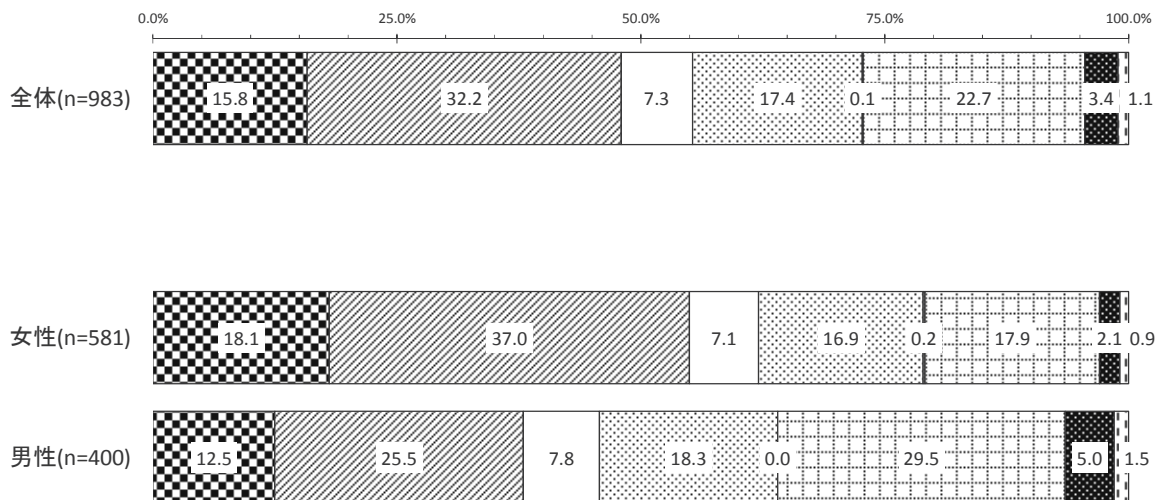
②家事・育児の分担意向 『育児』



(3) 女性が職業を持つこと

問 13 あなたは一般的に女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。(○は1つだけ)

- 職業を持ち続けることは当たり前だと思う
- ▨ ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- ▩ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- ▨ どちらでもよい
- わからない
- 無回答



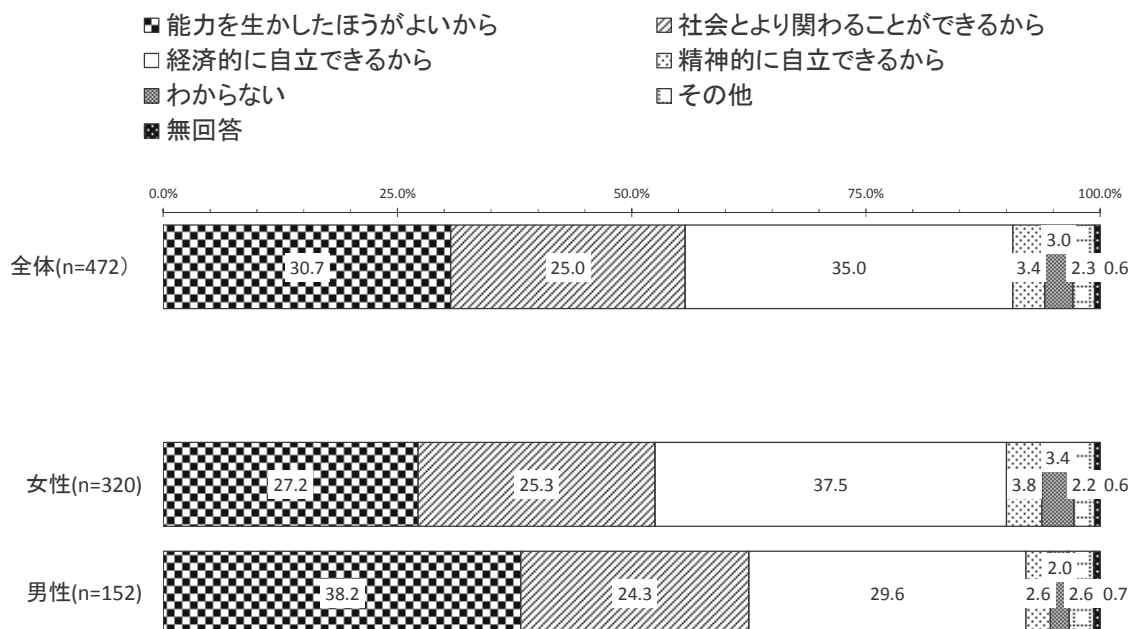
女性が職業を持つことについては、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が32.2%で最も多い。「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」が17.4%、「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」が15.8%、「結婚するまでは職業を持つほうがよい」は7.3%となっている。「どちらでもよい」が22.7%である。

女子生徒は「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が37.0%と最も多いが、男子生徒は「どちらでもよい」が29.5%と最も多い。「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」は女子生徒が18.1%であるのに対して、男子生徒は12.5%である。

①女性が職業を持ち続けることがよい理由

(問 13 補助質問 1 問 13 で 1 「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」または 2 「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した方のみ)

あなたが「女性が職業を持ち続けるほうがよい」と考えたのは、どのような理由からですか。
(○は1つだけ)



女性が職業を持ち続けるほうがよい理由としては、「経済的に自立できるから」が 35.0%と最も多い。次いで「能力を生かしたほうがよいから」が 30.7%、「社会とより関わることができるから」が 25.0%である。

女子生徒では、「経済的に自立できるから」が 37.5%と最も多いが、男子生徒では「能力を生かしたほうがよいから」が 38.2%と最も多い。

* 女性が職業を持ち続けることがよい理由<その他>

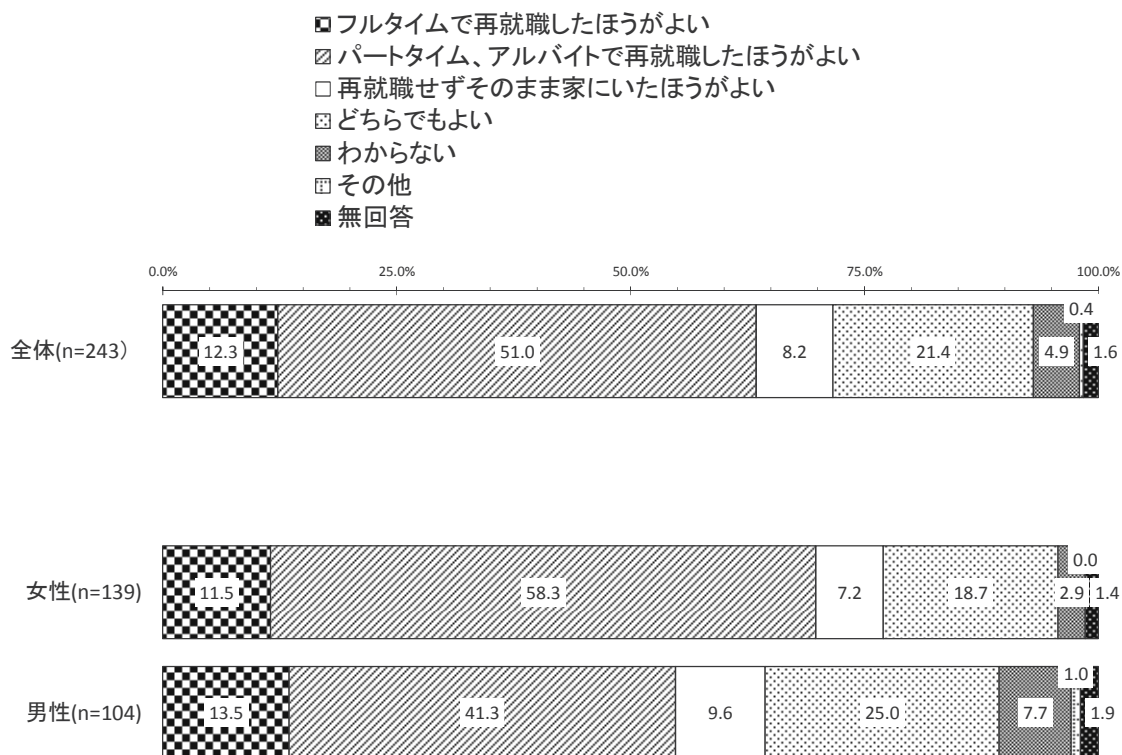
- ◇ 女性だけとかに全ての負担を押しつけるのではなく、男性も協力するべきだと思う。(女子)
- ◇ 働くことは本人が決めることであって、その本人がはたらきたい場合は、はたらいた方がよい。はたらくことは、日本国民の義務でもある。(男子)
- ◇ 働きたい女性はたくさんいるから。(女子)
- ◇ 子どもが大きくなった時に戻れなくなるから。(女子)
- ◇ 自分のなりたい分野の職業につけたのなら、それを続けたいと思うから。(女子)
- ◇ その人の生きがいになるから。(男子)
- ◇ 子どもが…って言って、自分のやりたいことやめるのは、まちがっているとおもう。(女子)
- ◇ 自分のやりたい仕事をしているなら、すきなだけやればよい。(男子)
- ◇ 社会貢献するべき。(女子)
- ◇ 金銭的に両親が働いた方が安定するから。(男子)

②子どもが小学生になったころの再就職

(問 13 補助質問 2 問 13 で 3 「結婚するまでは職業を持つほうがよい」または 4 「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と回答した方のみ)

あなたは、子どもが小学生になったころに再就職する(職業を持つ) ことについてどう思いますか。

(○は1つだけ)



「結婚するまでは職業を持つほうがよい」または「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と考える高校生に、子どもが小学生になったころに再就職する(職業を持つ) ことについてたずねると、「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」が 51.0%と最も多く、「フルタイムで再就職したほうがよい」は 12.3%である。「再就職せずにそのまま家にいたほうがよい」が 8.2%、「どちらでもよい」が 21.4%である。

女子生徒は 58.3%が「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」と回答している。男子生徒は、「フルタイムで再就職したほうがよい」が 13.5%と女子生徒の 11.5%に比べて高いが、「再就職せずにそのまま家にいたほうがよい」も 9.6%と女子生徒の 7.2%に比べて高い。

* 子どもが小学生になったころの再就職<その他>

- ◇ 授業参観か子どもの行事くらいは出てあげられればいいと思います。(女子)
- ◇ 中学生になった頃からフルタイムかパートでやった方がよい。(男子)
- ◇ 再就職ではなく、育児休暇をとれる会社が増える社会でないといけないと思う。(男子)
- ◇ 日本は遅れていると思うから。(女子)

6. 自由意見・要望

男女共同参画の推進や女性の活躍促進に関連して、あなたの身近で感じたことや将来に望むことなどありましたら、ご自由にお書きください。

【男女共同参画の施策】に関する意見

- ◇ 女性が活躍しているかどうかなんては、その人から見た目線でかわってくる。活躍していない人なんて、世の中になんかと思うし、活躍すればいいものでもないと思う。女性の社会進出の前に、社会進出のための制度が未だ不十分なのではないかと思う。(男子)
- ◇ 女性らしい意見や技術を活かしてほしい。ただ、もっているだけじゃもったいない。(男子)

【男女共同参画の現状に対する不満や希望】に関する意見

- ◇ 男女は平等であるべきだと思う。(男子) (女子)
- ◇ 詳しくは分からないが、仕事をする人は男性が多いと思う。仕事をしたい女性もいると思うので、平等にしていくべきだと思う。(男子)
- ◇ 将来は女性も不平等なくなしてほしい。(男子)
- ◇ 女性には、まだ差別がある。女性が差別なく働くことができるようになってほしい。(女子)
- ◇ 男性と女性が同じように活躍したほうが良い。(女子)
- ◇ 「男性が偉い」という考え方をなくし、家庭でも社会でも男女平等になるといいと思う。(女子)
- ◇ 今までに深く根付いている男女差別を一日でも早く撤廃してほしい。(男子)
- ◇ 男女は平等であるべきだと思うが、まだまだ出来ていない。(女子)
- ◇ やはり、男女共同参画は、まだ社会でなりたっていないので、はやくなんとかしてほしいと思った。(男子)
- ◇ 男女は平等じゃない。(男子)
- ◇ 妻は家事、夫は仕事とか、長男な跡を継ぐのが当たり前とか、そういう風習があるのは今の時代変えていくべきだと思う。男性でも女性でも平等に同じ扱いをすべきだと思います。(男子)
- ◇ 男女で格差がなく、互いに協力しながら働く事が出来る社会になれば良いなと思います。(男子)
- ◇ まだまだ女性は社会で活躍するのが難しいと思うので、もっと女性は社会に出るべきだと思う。(女子)
- ◇ 法律や制度の話になると男性の言葉を聞き入れない世の中ではいけないと思う。(男子)
- ◇ 男だから働く、女だから育児という考えはあまり良くないと思った。その人がやりたいようにやればいいと思いました。(女子)
- ◇ 女性専用のアパートなどが多すぎて、男が自由を無くしている。(男子)
- ◇ 女性が活躍できる場所や、法律とかがあったとしても、実際にはまだまだ差別とかがあると思うから。これから先は、そういう事がなくなってほしい。(女子)

- ◇ 男女共同参画などと言っておきながら、実際、女性の差別がかなりのこっている。(女子)
- ◇ もっと男女平等になることも大切だと思うが、働かずに育児だけをして、夫の収入だけで生活している人や、シングルマザーの人にとっては、男女平等になり、法律が変わっていくのは困ると思う。それに、消費税が上がり、10%になろうとしているが、どんどん国民の生活は苦しくなると思う。(女子)
- ◇ 父親は仕事をしていて当たり前、プラス家事、育児もやれと言われたら、母親は家事、育児があるから仕事はしなくていいという考えに対し、男としてそれは不満に思う。両立ができないなら、子どもは作らない方が良く。もしくは、男は働いて当たり前というのであれば、主婦になってもらうしかない。女性の中でも考えは人それぞれなので、平等になることは難しいと思う。(男子)
- ◇ 日本の総理や会社の社長などは、どうしても男性が圧倒的に多いので、女性がもっとリーダーになって欲しい。男ばかりの世界に女性がたった1人しかいなかったら、女性はばかにされるし、そういう所で差別するのではなく、男女が平等な世の中にしてほしい。(男子)
- ◇ 男女差別なく、自分が好きな仕事ができたらいいと思います。家庭で男性は仕事、女性は家事や育児ということではなく、男性も女性も家事や育児、仕事をしたほうがいいと思います。自分が好きな仕事ができればいいと思います。(男子)
- ◇ 女性のルールばかりで厳しい。(女子)
- ◇ パワハラなどの言葉を最近よく聞きます。将来的にそのような事がなくなれば良いなと思っています。(女子)
- ◇ 女性が世の中で活やくすることは良いことだと思います。(女子)
- ◇ 男女で役割が違うというのが一般的なのではなくて、それぞれの家庭でそれぞれの分担があるところが増えれば良いと思う。働きたい私は、子どもができたとしても、なりたい職があるので、もしその職につければ、できるだけ長く関わっていたいから。(女子)
- ◇ 女性的な差別はまだ社会にたくさんあるので、何とも言えない。(男子)
- ◇ 女性の活躍促進などにともない、女性を優先的にする社会の雰囲気が出来上がってしまったように感じます。昔は男性が優ぐうされていましたが、今は女性、ともとれます。しかし、私は、女性も男性も同じぐらいの社会がいいと感じました。(女子)
- ◇ 「女性は女性らしく、男性は男性らしく」でも、特に反抗はしない。こうやってアンケートをとる時に、男女の差を感じる。女性ばかり、と思う。(女子)
- ◇ 家庭環境によって、男が優位か女が優位かという価値観が変わっている気がします。また、高齢の人は男が優位と思う職業が多いと思っているようです。(女子)
- ◇ 昔と違って今は、仕事や学校、社会の中でも男女平等が広がっていて、女性も男性も活躍できていると思う。(女子)

【家事・子育て】に関する意見

- ◇ 育児休暇をより促進させた方がいい。(男子)
- ◇ 女性がもっと働きやすい環境をつくる。育児休暇の充実など、育児休暇が取れないことによって、働きたい女性が子どもを作らないということにより、少子化がより進んでしまうと思うので、産休、育休をもっと取りやすい社会作り。最低でも、1年は取れると良いと考えます。保育園や幼稚園を

もう少し増やす。老人ホームが増える一方で、保育園などは減っている。少子化だからしかたないのかもしれないが、それではもっと少子化が進んでしまうのではないか。(女子)

- ◇ 女性は育児とか家事など、やるのが当たり前だけど、少しは手伝ってほしい。(女子)
- ◇ 今は、女性が働こうにも、子どもを預ける場所が少ないので、女性が働けるよう、保育園などを増やした方がいいと思う。(女子)
- ◇ 家事は男性も積極的にやるほうがよい。(女子)
- ◇ 家庭内の事は、家族なんだから分担して、母を休ませてあげるのも、当たりの事だと思う。父は、自分が働いているんだからと言いますが、母がパートなどで働いている現状を理解出来ないのかと不思議です。もっと協調性を持って欲しいですね、父には。母も母ですが、父も父だと、娘の私には思います。お互い、不満があるなら、話し合っって仕事のこと、家事のこときっちり決めたら、もめないと思います。(女子)
- ◇ 保育所などの小さい子どもを預けられる場所があれば、女性の社会進出がもっと増えると思う。(男子)
- ◇ 女性は子どもを産んだり、育てたりするので、仕事をしている人の制度をしっかりと整えてほしい。(女子)
- ◇ 政治の面でも女性が進出してきているから、これからも、積極的に女性が活躍するといいと思った。家事などは、主は女性でいいと思う。だけど、完全に女性じゃなくて、男性も少しは手伝った方がいいと思う。(女子)

【男女共同参画の意識啓発】に関する意見

- ◇ 女性が活躍する社会はとてもいいと思うが、女性はどうしても男性の下という考えをもった人がいることが、この世の中非常に残念である。そういった考え方をなくして、女性が大いに社会に貢献できる社会が来るといいと思う。(男子)
- ◇ 子どもができた時、母親がしっかりと世話をし、立派な人として育てあげる必要があると思う。(女子)
- ◇ 育児休かを女性がするのは分かるけど、男性がすると驚くのがふつうだと思うけど、それは女性が育児するのが当たり前でことだから、その考えがなくなってほしい。「イクメン」という言葉もおかしいと思う。(女子)
- ◇ 最近は、経済的な理由もあったか、共働きの家庭も多くあるなかで、家事や育児など、平等にするという考えが多くの人々に伝わっていると思う。ニュースや TV でもよく男女共同参画はとりあげられているので、関心をみんながもつことにより、より女性の活躍促進となると考える。(女子)
- ◇ あまりよくは知りませんでしたが、このアンケートで色々知っていた方がよいと思うので、自分も社会貢献できるように調べていきたいです。(女子)
- ◇ 私の母は、女でありながらもバスの運転手をしています。女だからという理由でびっくりされることも多いですが、いつか女でもバスの運転手はいてもおかしくないといえるような社会になるといいなとおもいます。(女子)

【職場の環境】に関する意見

- ◇ 女性の社会進出が進んでいるといっても、まだまだ再就職はしづらい状況だと思うため、フルタイムで働ける機会が欲しい。(女子)
- ◇ 育児休暇等の制度が会社で設けられていたり、女性の社会進出、男性の育児参加をうながす決まり、条約等があるのは良いと思うが、職場の雰囲気等でそれらを利用しづらくなるのはもったいないと思う。(女子)
- ◇ 現代の社会では、女性が働ける場が広がっていると思う。(女子)
- ◇ 最近では男性の仕事のイメージの職種でも女性がいたりするので、そういうのを継続してほしい。(男子)
- ◇ 女性が活躍できる場をふやす。(女子)
- ◇ 就職において、まだ男性の方が有利な分野が多いと思った。(女子)
- ◇ 少子化で働く世代の人達がへっているから、女性も積極的に仕事をしたほうがいいと思う。(男子)

【その他の事柄】に関する意見

- ◇ 将来は自分がやくに立てる仕事につきたいです。自分の能力をのばしたい。(男子)
- ◇ 別に個人の自由だとは思いますが、平等な方が良いと思う。(女子)
- ◇ 自分のやりたいことをやる。(女子)
- ◇ 女性がどうかでなく、個人の自由に任せるべき。(男子)
- ◇ 結婚率が低下しそうな気はする。(男子)
- ◇ 最近では、選挙で女の人が当選されるのが多くなってきた。(女子)
- ◇ [男女共同参画社会について]法律・条約等を深く理解することは重要。(男子)
- ◇ 教師が生徒に差別をすることがある。(女子)
- ◇ 将来いい仕事についていたい。(女子)
- ◇ 女性の活躍促進はとてもいいことだと思うが、度が過ぎて、今度は男性が不利になってしまわないかが心配です。例えば、どこかで食事をするときなどで、レディースランチなどというものは聞いたことがあるが、男性の得するような特典などは聞いたことはありません。ですので、ぜひ、男性のためのものもできないかなと思います。それでこそ平等だと思います。(女子)
- ◇ 今は女子ばかりお得なことがある。男子にもあっていいと思った。(男子)
- ◇ むしろ、最近では男性の扱いの方がどうかと思う。たとえば女性にもあるように「男性用車両」があれば…と。(女子)
- ◇ 女性が優遇されすぎている。声をかけただけで通報されるのは間違っている。(男子)
- ◇ 未だに父が育児はしているのですが、叱りつけてくれなく、まだ、私が怒ると、怒った私が言われてしまい、父親はどっぷりしているものだと言われるので、さらにがっかりしてしまいます。(女子)
- ◇ これからの社会は若さを重視して男女はいらない。(男子)

付. 調査票様式

III 男女共同参画社会についてお伺いします

(問4 補助質問2で1または2と回答した方のみ)
問4 補助質問3 あなたがその専門分野を選んだのは、どのような理由からですか。
(複数回答可)

- 1 興味があること・自分で学びたいことがあるから
- 2 自分の希望する職業につながるものだから
- 3 資格や技術を身に付けたいから
- 4 保護者や家族に勧められたから
- 5 先生に勧められたから
- 6 友人や周囲の人の影響があったから
- 7 学力に見合ったところだから
- 8 経済的な理由から
- 9 その他(具体的に)

(問4で3と回答した方のみ)
問4 補助質問4 あなたが現時点で就職を考えたのは、どのような理由からですか。
(複数回答可)

- 1 やりやすい仕事があるから
- 2 早く経済的に自立したいから
- 3 保護者や家族に勧められたから
- 4 先生に勧められたから
- 5 友人や周囲の人の影響があったから
- 6 経済的な理由から
- 7 その他(具体的に)

問4 補助質問5 あなたがその職業につきたい理由はどのようなことでしょうか。
(複数回答可)

- 1 自分のやりやすい仕事だから
- 2 自分の能力や技術をいかしたいから
- 3 将来性、安定性があるから
- 4 給料がよそよりだから
- 5 性別に関係なく活躍できる仕事だから
- 6 休みが多く、余暇も楽しめるから
- 7 家事・育児・介護などの両立が可能だから
- 8 その他(具体的に)

問4 補助質問6 あなたが就職先を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたことを選んでください。(複数回答可)

- 1 母親
- 2 父親
- 3 両親以外の家族
- 4 親戚
- 5 学校の先生
- 6 友人・先輩などの知人
- 7 職場体験(見学)
- 8 学校の授業
- 9 テレビ・新聞・インターネットなど
- 10 その他()
- 11 特に影響を受けた人や影響を受けたことはない

問5 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等だと思いませんか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等	どちらかといえば女性ほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	わからない
家庭生活	1	2	3	4	5	6
学校生活	1	2	3	4	5	6
法律・制度上	1	2	3	4	5	6
社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
社会全体	1	2	3	4	5	6

問6 あなたは、次のことについてどう思いませんか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対
女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあつたほうがよい	1	2	3	4	5
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わらすべきだ	1	2	3	4	5
子どもが3歳ぐらいいまでは、母親は育児に専念するほうがよい	1	2	3	4	5

問7 あなたは、次のことについて見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	よく知っている	少し知っている	聞いたことがない
男女共同参画社会基本法	1	2	3
男女雇用機会均等法	1	2	3
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
ジェンダー	1	2	3
女子差別撤廃条約	1	2	3
デートDV	1	2	3

IV 家族や社会の状況についてお伺いします

問8 あなたの家庭では、次にあげるような日常的な事柄を主にやっているのはどなたですか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	母	親	父	親	両	親	自分や兄 姉姉妹	その他の 家族
食事の支度	1	2	3	3	4	5		
食事の後片付け	1	2	3	3	4	5		
掃除	1	2	3	3	4	5		
洗濯	1	2	3	3	4	5		
介護	1	2	3	3	4	5		
(幼い) 子どもの世話	1	2	3	3	4	5		
町内会等の地域活動への参加	1	2	3	3	4	5		
PTA、育成会等の社会教育活動への参加	1	2	3	3	4	5		

V 女性の活躍促進についてお伺いします

問9 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性の活躍は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(○は1つだけ)

- 1 活躍している
- 2 どちらかといえば活躍している
- 3 どちらかといえば活躍していない
- 4 活躍していない

問10 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 なりたい
- 2 できることならなりたい
- 3 できることならなりたくない
- 4 なりたくない

(問10で、1 または 2 を回答した方だけお聞きします)

問10 補助質問1 なせなりたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 責任を持った仕事をした
- 2 能力やスキルを思う存分に活かしたい
- 3 仕事を通して、社会に貢献したい
- 4 その他 (具体的に)

(問10で、3 または 4 を回答した方だけお聞きします)

問10 補助質問2 なせなりたくないと思いますか。(○は1つ)

- 1 責任を持ちたくない
- 2 能力やスキルが十分でない
- 3 人間関係で苦勞したくない
- 4 その他 (具体的に)

VI 将来についてお伺いします

問11 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。

- 1 するほうがよい
- 2 できればするほうがよい
- 3 どちらでもよい
- 4 必ずしもなくてもよい
- 5 する必要はない
- 6 わからない

問12 あなたは将来家庭を持ったとしたら、家事、育児は主に誰がすれば良いと思いますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	主として 妻	主として 夫	どちらか とえば 分担	どちらか とえば 夫	主として 夫	わからな い
家事	1	2	3	4	5	6
育児	1	2	3	4	5	6

問13 あなたは一般的に女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。

- 1 職業を持ち続けることは当たり前だと思
- 2 ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- 3 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 4 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 5 女性は職業を持たないほうがよい
- 6 どちらでもよい
- 7 わからない

(問13で 1 または 2 と回答した方のみ)

問13 補助質問1 あなたが「女性が職業を持ち続けるほうがよい」と考えたのは、どのよう

- 1 能力を生かしたほうがよいから
- 2 社会とより関わることができから
- 3 経済的に自立できるから
- 4 精神的に自立できるから
- 5 わからない
- 6 その他 (具体的に)

(問13で 3 または 4 と回答した方のみ)

問13 補助質問2 あなたは、子どもが小学生になったところに再就職する (職業を持つ) こと

- 1 フルタイムで再就職したほうがよい
- 2 パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい
- 3 再就職せずそのまま家にいたほうがよい
- 4 どちらでもよい
- 5 わからない
- 6 その他 (具体的に)

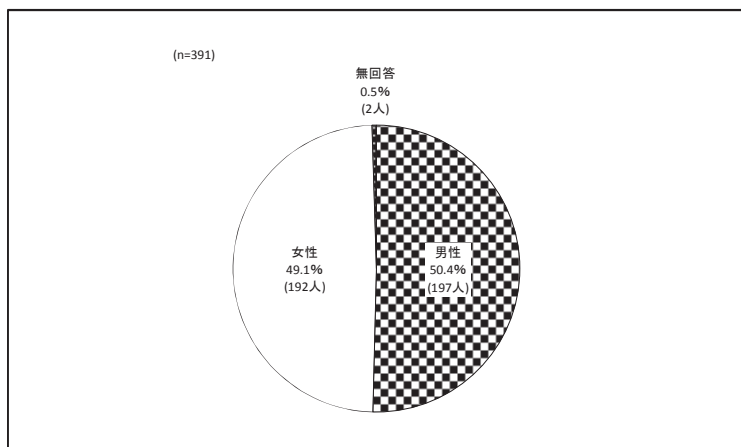
最後に、男女共同参画の推進や女性の活躍促進に関連して、あなたの身近で感じたことや将来に望むことなどありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【大学生・短大生意識調査】の結果

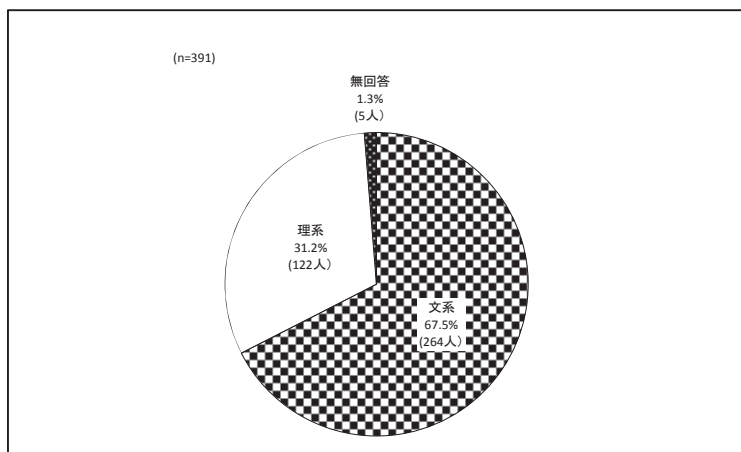
回答者の構成

①性別



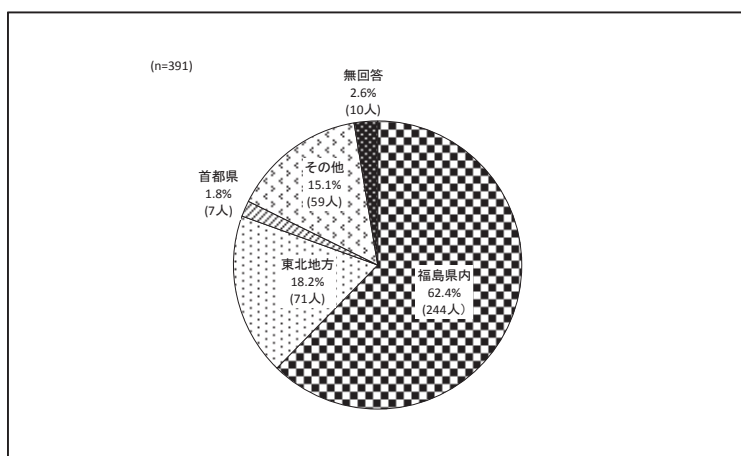
回答者（大学生・短大生）の男女比は、男子学生が 50.4%（197 人）、女子学生が 49.1%（192 人）である。

②専門分野



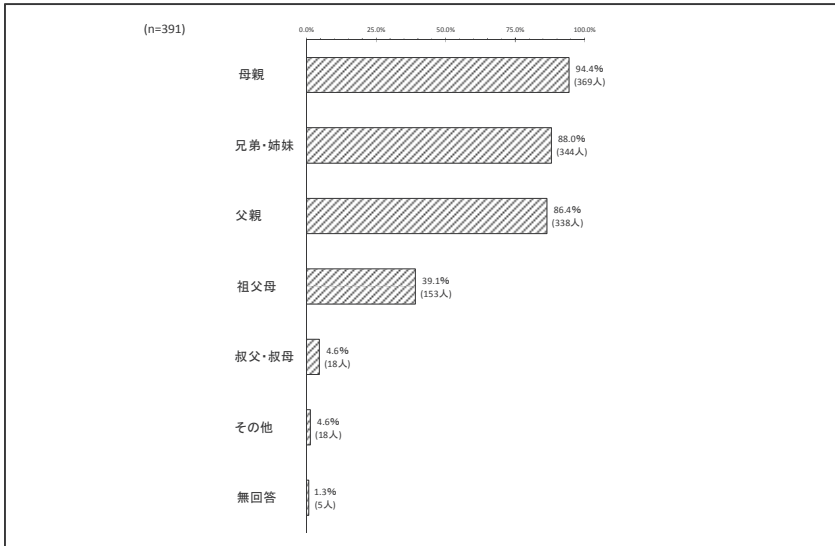
在籍している学部・学科を文系・理系別に見ると、文系が 67.5%（264 人）、理系が 31.2%（122 人）である。

③出身



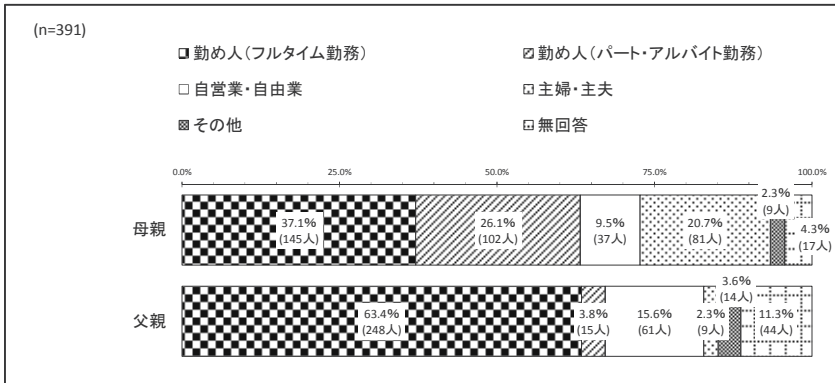
出身は福島県内が 62.4%（244 人）、東北地方が 18.2%（71 人）、首都圏が 1.8%（7 人）、その他が 15.1%（59 人）となっている。

④家族構成



家族構成は、「母親」が94.4% (369人)、「兄弟・姉妹」が88.0% (344人)、「父親」が86.4% (338人)、「祖父母」が39.1% (153人) などとなっている

⑤親の勤務状況



親の勤務状態は、『母親』が「勤め人(フルタイム・パート・アルバイト)」が63.2% (247人)、「自営業・自由業」が9.5% (37人)、「主婦」が20.7% (81人) などである。

『父親』が「勤め人(フルタイム・パート・アルバイト)」が67.2% (263人)、「自営業・自由業」が15.6% (61人)、「主夫」が2.3% (9人) などである。

調査結果の要約

1. 進学・就職

○大学卒業後の進路について（202～204 ページ）

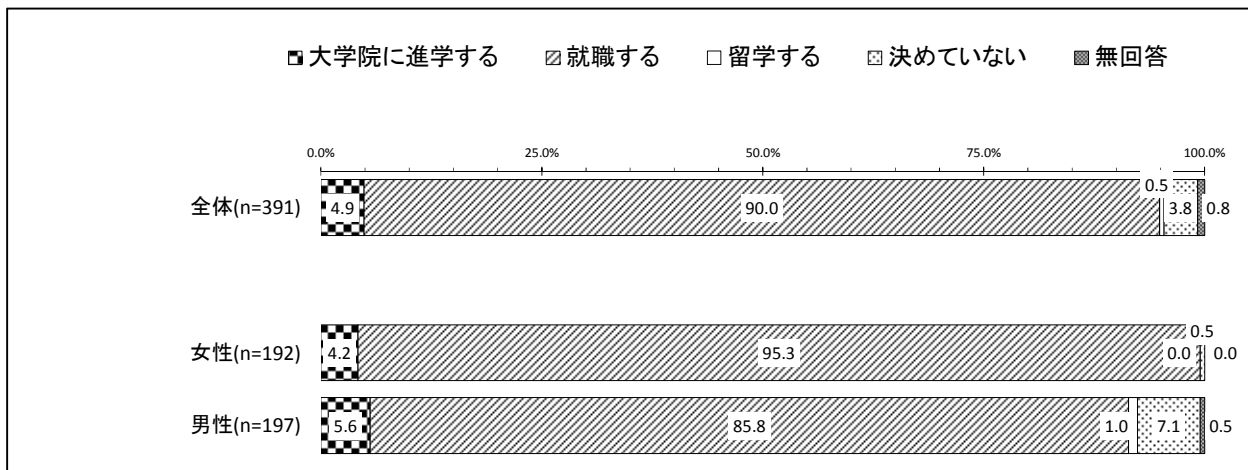
大学卒業後の進路についてたずねた。

90.0%が「就職する」と回答している。

女子学生は95.3%が「就職する」と答えているが、男子学生は85.8%で、「決めていない」が7.1%である。

就職先を選ぶ理由では、「自分のやりたいことだから」が54.0%、「将来性、安定性があるから」が51.1%と多い。女子学生では「家事・育児・介護などとの両立が可能だから」の割合が15.8%と、男子学生の2.4%と比べて高い。

就職先選択に影響を受けた人や影響を受けたことでは、「友人・先輩などの知人」が26.1%と最も多い。次いで「学校の先生」「母親」である。女子学生では「学校の先生」「母親」が、男子学生では「友人・先輩などの知人」「テレビ・新聞・インターネットなど」、次いで「父親」が多い。「特に影響を受けた人や影響を受けたことはない」と回答している割合は女子学生より男子学生の方が高い。



2. 男女共同参画

○男女の平等感について（206～209 ページ）

「家庭生活」「学校生活」「法律・制度上」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」で男女が平等かをたずねた。

「家庭生活」では「平等」と感じている割合が46.5%と高いが、「平等」と感じる割合は、女子学生より男子学生のほうが高く、女子学生は「男性が優遇されている」が「平等」をわずかに上回っている。

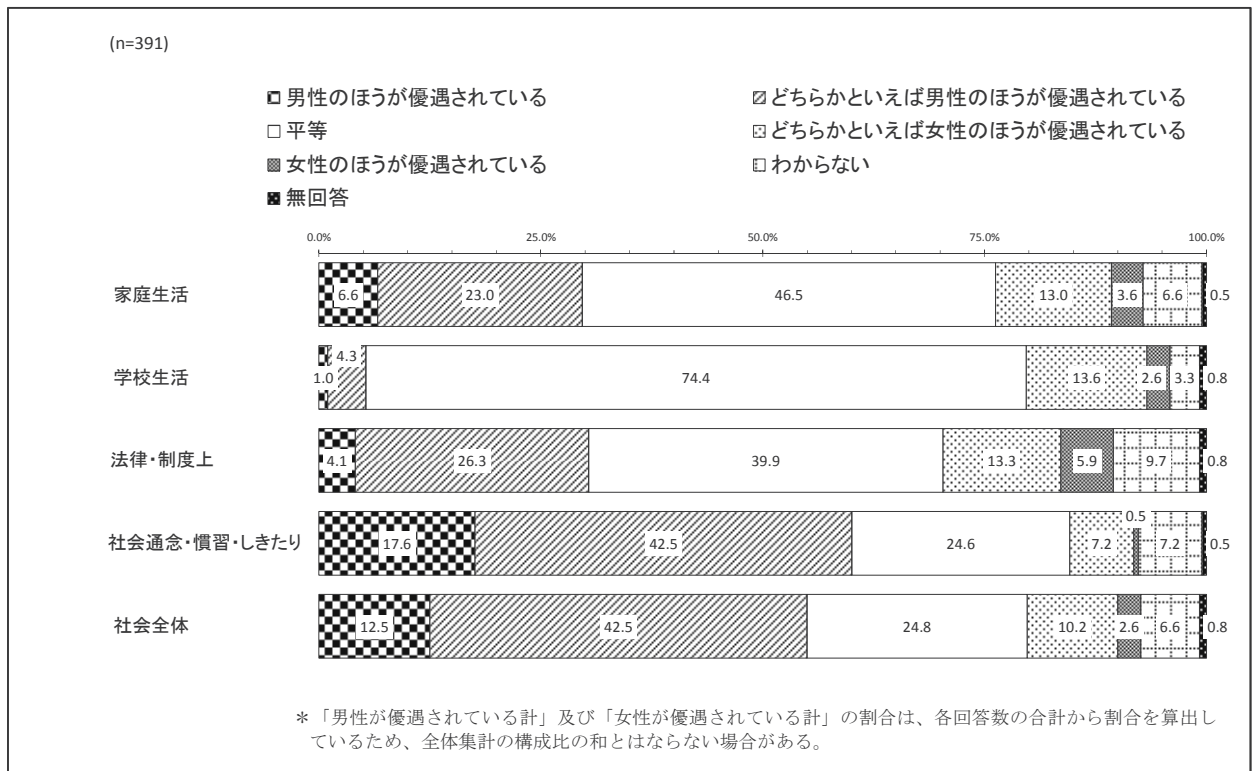
「学校生活」においては74.4%が「平等」と感じている。男女とも「男性が優遇されている」に比べ「女性が優遇されている」と感じる割合が高いが、男子学生のほうが「女性が優遇されている」と感じている割合が高い。

「法律・制度上」では「平等」が39.9%と最も多いが、女子学生は「男性が優遇されている」が「平等」を上回っている。

「社会通念・慣習・しきたり」では「男性が優遇されている」が60.1%である。男女ともに「男性が優遇されている」の割合が高く、特に女子学生では67.7%が「男性が優遇されている」と感じている。

「社会全体」では「男性が優遇されている」が55.0%である。男女ともに「男性が優遇されている」の割合が高く、特に女子学生では62.5%が「男性が優遇されている」と感じている。

家庭や学校では「平等」であるが、社会的には「男性が優遇されている」と感じている。



○男女の望ましい姿について (210~212 ページ)

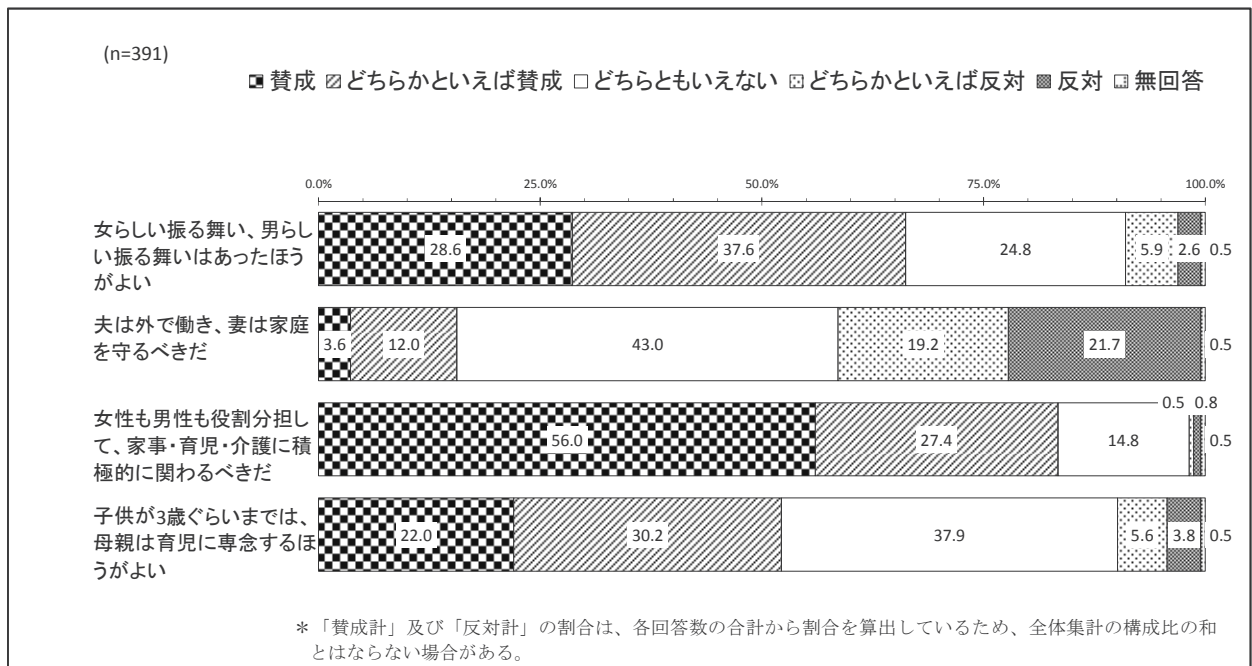
女性及び男性の望ましい姿についてたずねた。

「女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい」は、66.2%が「賛成」と答えており、男子学生に比べて女子学生の割合が高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」は「どちらともいえない」が43.0%と最も多い。女子学生は「反対」が「どちらともいえない」を上回っている。

「女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に関わるべきだ」は、「賛成」が83.4%と多く、「反対」は1.3%と少ない。

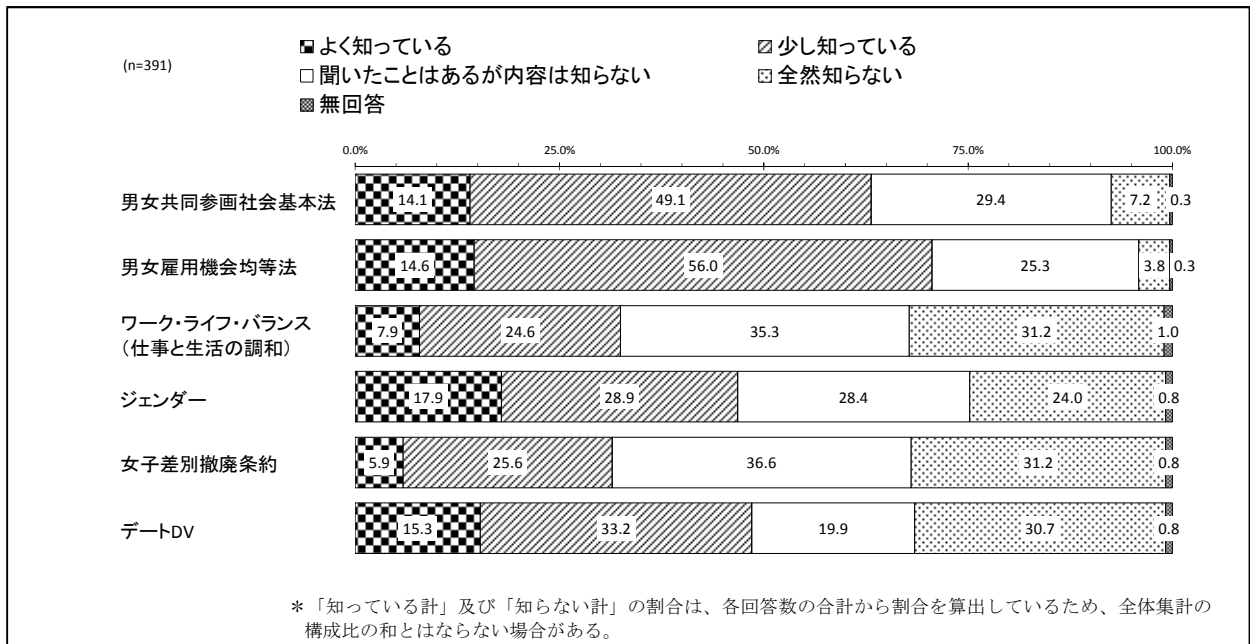
「子どもが3歳ぐらいまでは、母親は育児に専念するほうがよい」は52.2%で「賛成」が多いが、「どちらともいえない」も37.9%である。



○男女共同参画の認知度について（213～216 ページ）

「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「女子差別撤廃条約」「デートDV」について知っているかたずねた。

「男女雇用機会均等法」は70.6%、「男女共同参画社会基本法」は63.2%が「知っている」と答えた。「デートDV」は48.6%、「ジェンダー」は46.8%、「ワーク・ライフ・バランス」は32.5%、「女子差別撤廃条約」は31.5%と「知っている」の割合が半数以下で認知度が高くない。

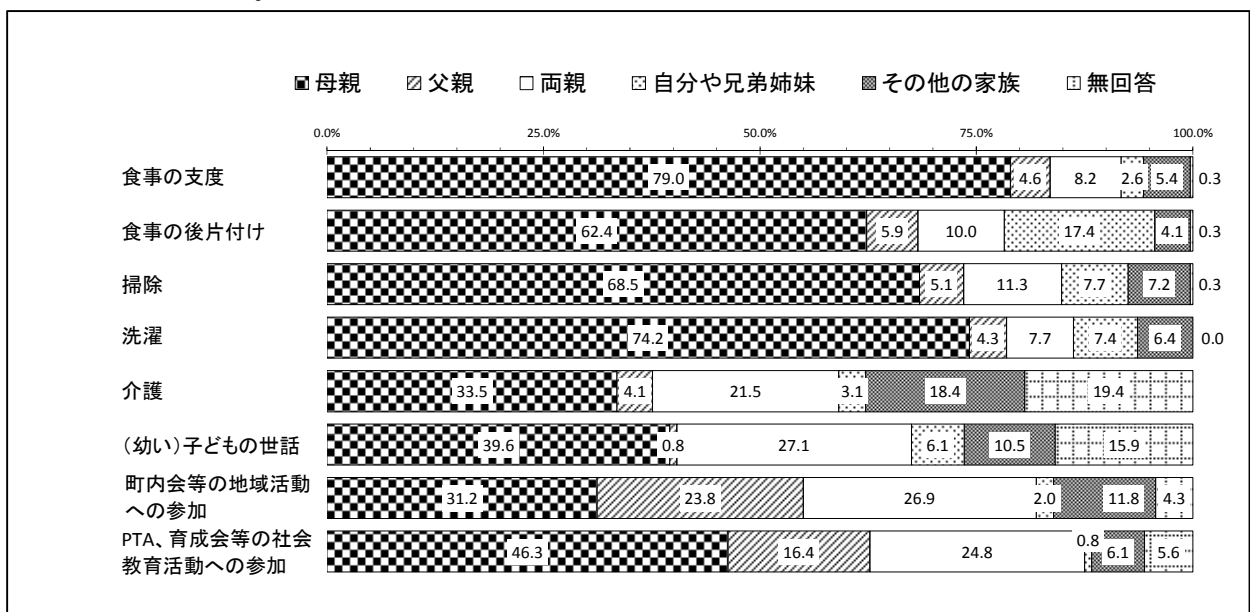


3. 家族や社会の状況

○日常的役割の負担割合について（217～221 ページ）

「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「介護」「(幼い)子どもの世話」「町内会等の地域社会への参加」「PTA、育成会等の社会教育活動への参加」について、主に誰が行っているかたずねた。

「母親」が行っている割合が高いのは、「食事の支度」が79.0%、「洗濯」が74.2%、「掃除」が68.5%、「食事の後片付け」が62.4%である。「PTA、育成会等の社会教育活動への参加」は主に「母親」(46.3%)だが、「父親」(16.4%)「両親」(24.8%)の割合も比較的多い。「介護」「(幼い)子どもの世話」は主に「母親」だが、「両親」の割合も比較的高い。「町内会等の地域社会への参加」は「母親」(31.2%)「父親」(23.8%)「両親」(26.9%)が負担している割合に近いが、どの日常的役割も、「父親」の負担はきわめて少ない。

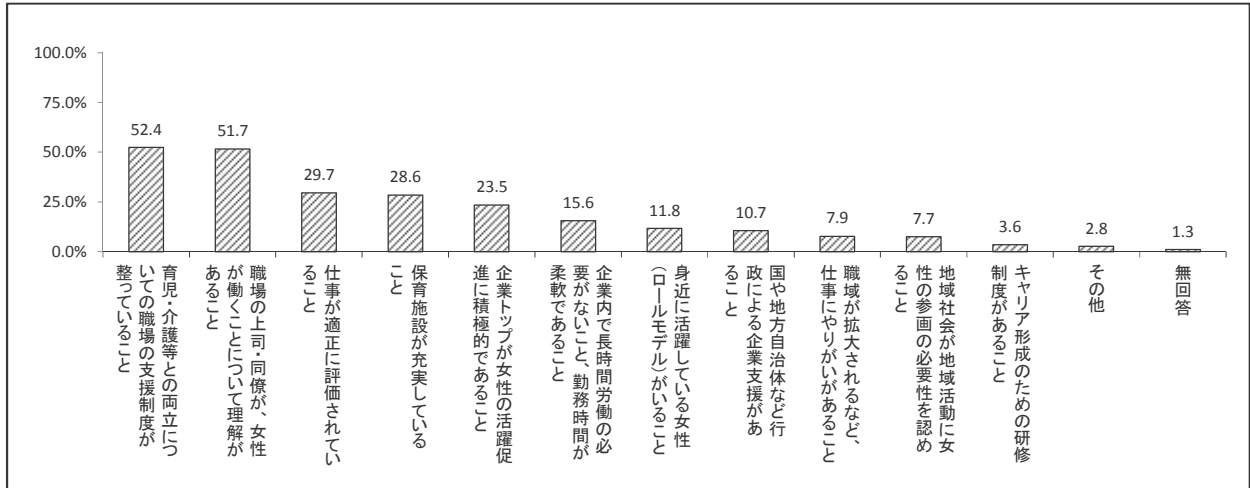


4. 女性の活躍促進

○女性の活躍に必要なこと（225 ページ）

女性が活躍するには何が必要かたずねた。

「育児・介護等との両立についての職場の支援制度が整っていること」（52.4%）、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」（51.7%）が多く、特に女子学生で割合が高い。女性が活躍するためには、職場の支援制度や上司・同僚の理解が必要だと考えている。



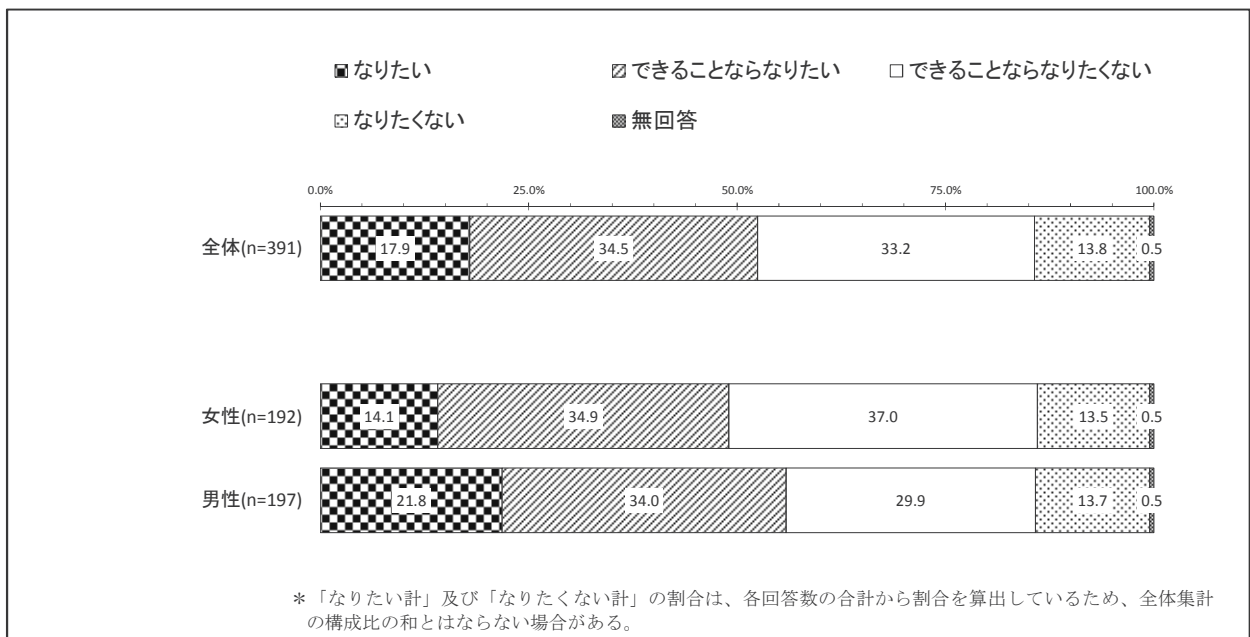
○リーダー・管理職への意欲について（226～228 ページ）

リーダー・管理職になりたいかたずねた。

リーダー・管理職に「なりたい」*が52.4%、「なりたくない」が47.1%と、「なりたい」が「なりたくない」を上回っている。男子学生は55.8%が「なりたい」、女子学生は50.5%が「なりたくない」と回答している。

リーダー・管理職に「なりたい」理由は「能力やスキルを思う存分活かしたい」が40.0%で最も多く、次いで「仕事を通して、社会に貢献したい」が33.2%と多い。

「なりたくない」理由では、「能力やスキルが十分でない」が46.7%で最も多く、次いで「責任を持ちたくない」が26.6%となっている。

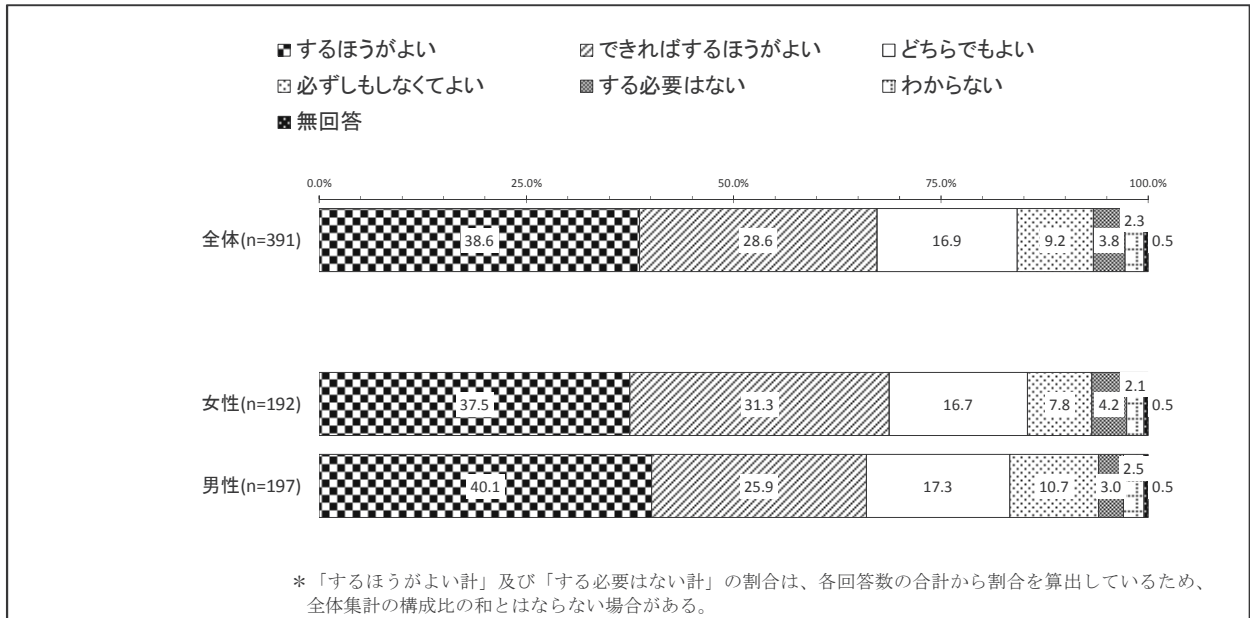


5. 将来について

○結婚について (229 ページ)

結婚についてどう考えるかたずねた。

男女とも、7割近く(女性 68.8%、男性 66.0%)が結婚を「するほうがよい」*と考えている。「する必要はない」は約1割である。



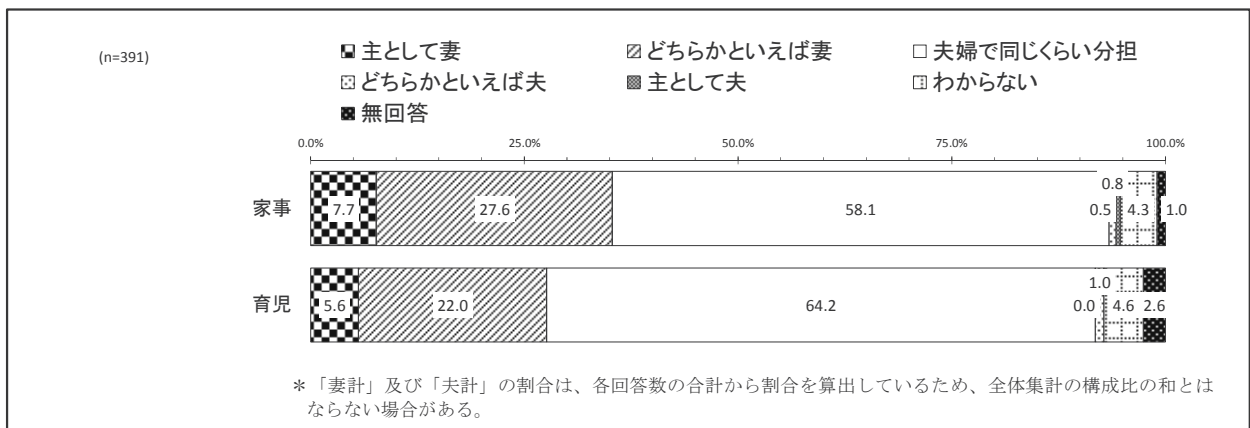
○家事・育児の分担意向について (230~231 ページ)

将来家庭を持ったとき、家事・育児は誰がすればよいかたずねた。

「家事」は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいが58.1%、主に「妻」*がするほうがよいが35.3%である。

「育児」は64.2%が「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと考えており、「妻」は27.6%である。

どちらも「夫」が主にすればよいという割合はきわめて低い。また、「妻」がするほうがよいと考えている割合は、男子生徒より女子生徒のほうが高い。



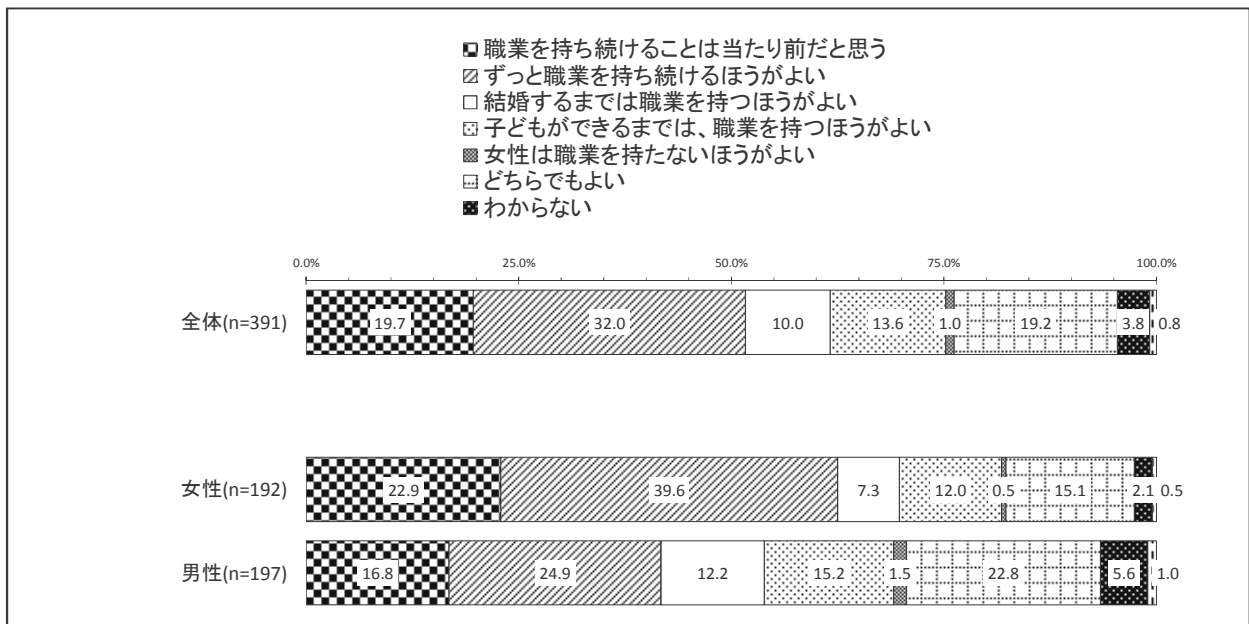
○女性が職業を持つことについて（232～234 ページ）

女性が職業を持つことについてどう考えるかたずねた。

「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が32.0%と最も多く、次いで「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」が19.7%である。「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」は13.6%、「結婚するまでは職業を持つほうがよい」は10.0%であり、職業を持ち続けるほうがよいが、結婚・出産を機に仕事を辞めるほうがよいという考えを上回っている。

職業を持ち続けることがよい理由としては、「経済的に自立できるから」が37.6%で最も多く、次いで「能力を生かしたほうがよいから」が24.3%である。女子学生は「経済的自立」、男子学生は「能力活用」をあげる割合が高い。

「結婚するまでは職業を持つほうがよい」「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と考える学生に、子どもが小学生になったころの再就職について意見をたずねると、「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」が44.6%と最も多く、「フルタイムで再就職したほうがよい」は7.6%である。



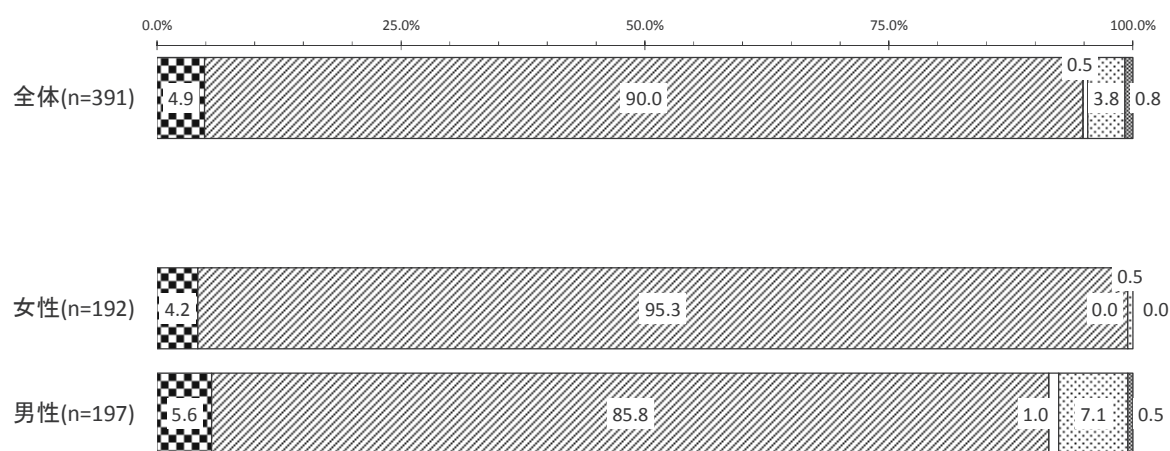
調査結果の詳細

1. 進学・就職

(1) 大学卒業後の進路

問6 現時点で、あなたは大学卒業後の進路について、どのように考えていますか。

■ 大学院に進学する ▨ 就職する □ 留学する ▩ 決めていない ■ 無回答

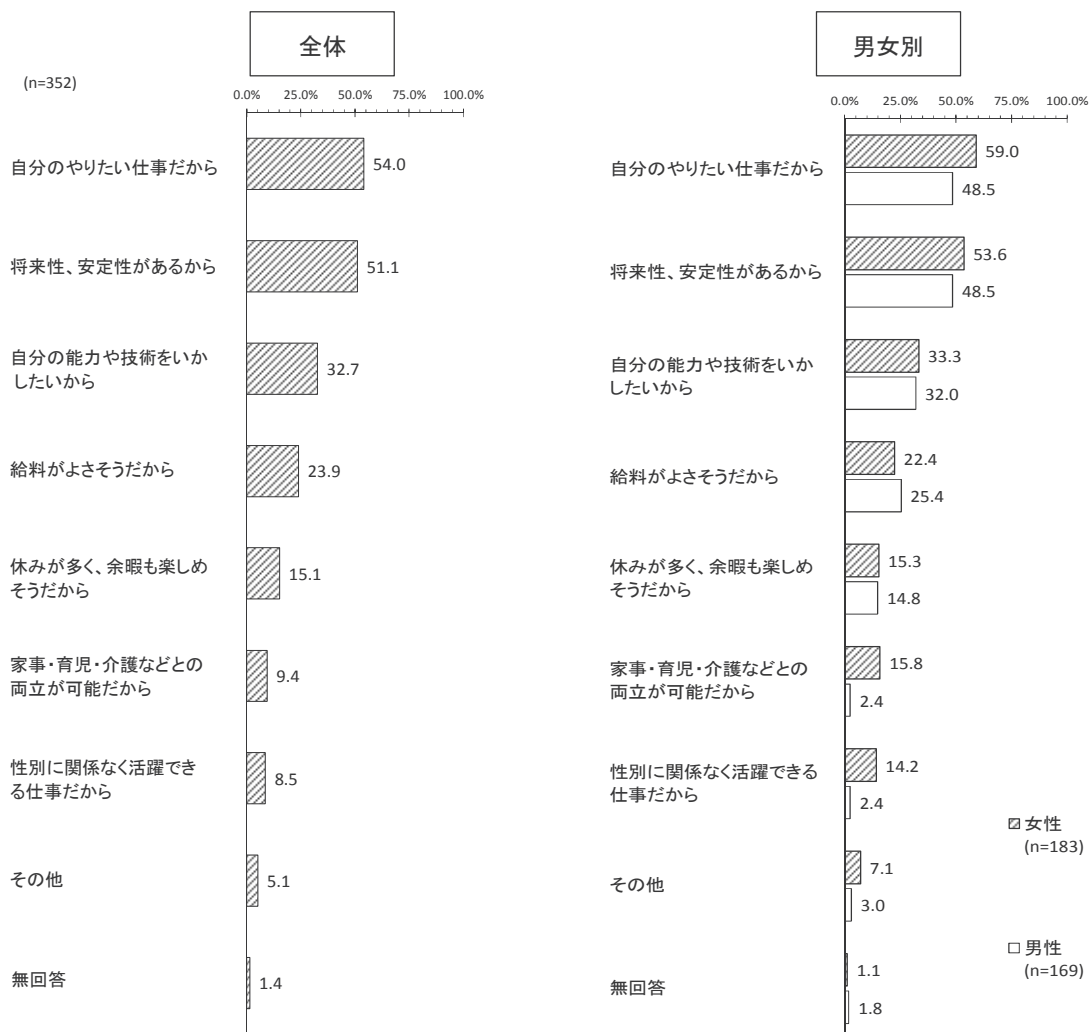


大学卒業後の進路については、90.0%が「就職する」と回答している。「大学院に進学する」が4.9%、「留学する」が0.5%、「決めていない」が3.8%である。

女子学生は95.3%が「就職する」と答えているが、男子学生では、「決めていない」が7.1%いる。

①就職先を選ぶ理由

(問6補助質問1 問6で2「就職する」と回答した方のみ)
 あなたが就職先を選ぶ理由はどのようなことでしょうか。(複数回答可)



就職先を選ぶ理由としては、「自分のやりたい仕事だから」が54.0%と最も多く、次いで「将来性、安定性があるから」が51.1%、「自分の能力や技術をいかしたいから」が32.7%「給料がよさそうだから」が23.9%などとなっている。

男女別でみると、女子学生は「自分のやりたい仕事だから」が59.0%で最も多く、次いで「将来性、安定性があるから」が53.6%だが、男子学生は「自分のやりたい仕事だから」と「将来性、安定性があるから」が共に48.5%で最も多い。女子学生では「家事・育児・介護などの両立が可能だから」の割合が15.8%と男子学生(2.4%)に比べて高い。

* つきたい職業の理由<その他>

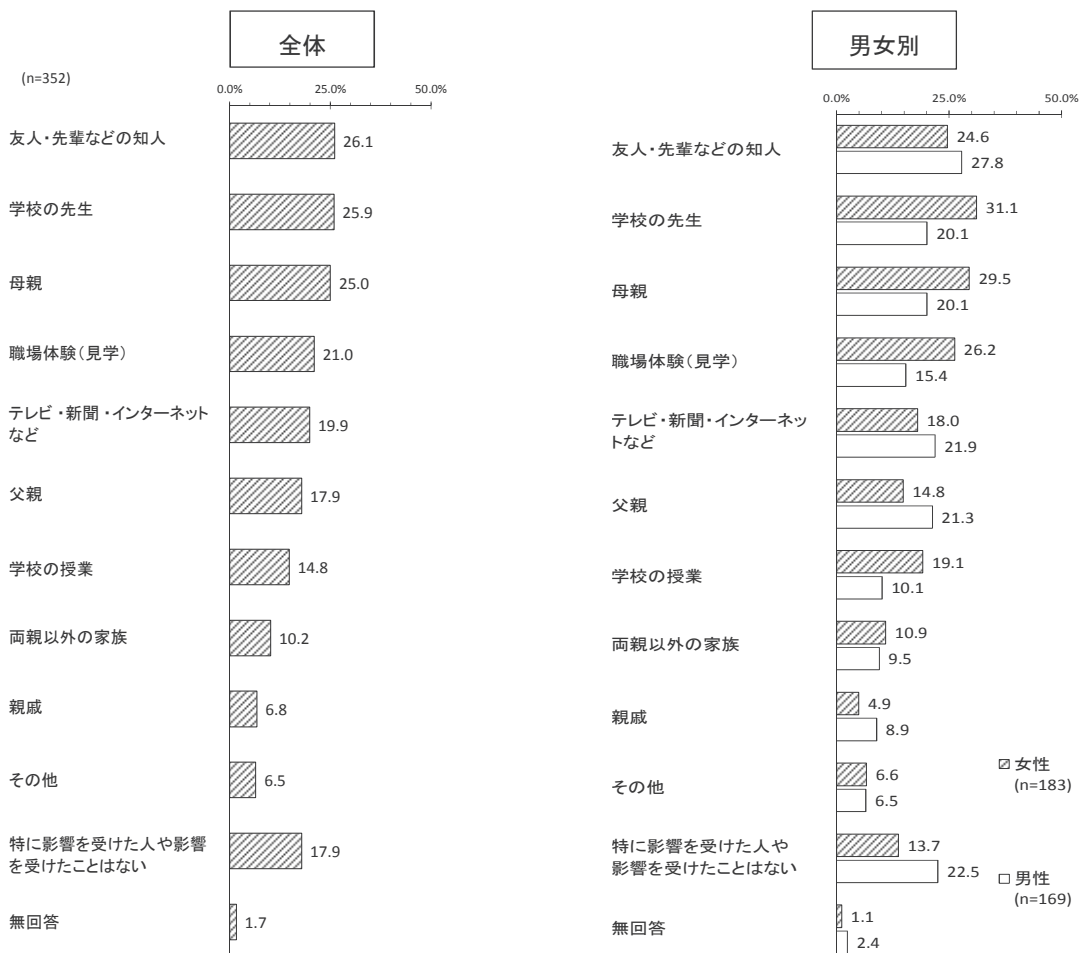
- ◇ 会社の雰囲気。(女性)
- ◇ 自営業のためある程度自由だし、仕事の内容も分かっているから。(女性)
- ◇ 地元が近いこと。(女性)
- ◇ 福利厚生。(女性)
- ◇ 心からワクワクした仕事ができるか。(男性)
- ◇ 親に面倒をかけたくない。(男性)
- ◇ 家に帰れる仕事。(男性)
- ◇ 自分のやりたい仕事以外に、給料が良さそうだから。(男性)
- ◇ 親のすすめ。(女性)

②職業先選択に影響を受けた人・こと

(問6補助質問2 問4で2「就職する」と回答した方のみ)

あなたが職業先を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたことを選んでください。

(複数回答可)



就職先を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたこととしては、「友人・先輩などの知人」が26.1%で最も多く、次いで「学校の先生」(25.9%)、「母親」(25.0%)、「職場体験(見学)」(21.0%)、「テレビ・新聞・インターネットなど」(19.9%)などとなっており、「父親」は17.9%である。

女子学生は「学校の先生」(31.1%)が最も多く、次いで「母親」が29.5%であるが、男子学生は「友人・先輩などの知人」が27.8%と最も多く、次いで「テレビ・新聞・インターネットなど」が21.9%、「父親」が21.3%である。「特に影響を受けた人や影響を受けたことはない」は女子学生13.7%、男子学生22.5%と、男子学生の割合が高い。

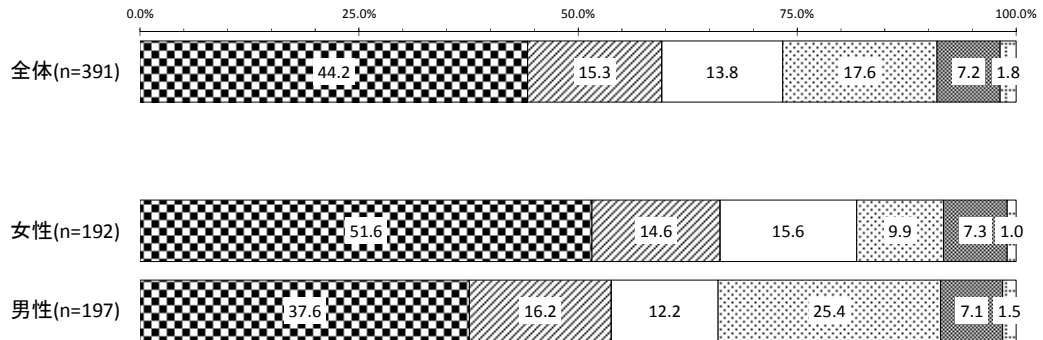
* 業先選択に影響を受けた人・こと<その他>

- ◇ アルバイト先のお客様・上司・社員 (男性・女性)
- ◇ アニメなど (女性)
- ◇ その業界の有名人 (男性)
- ◇ 実習先 (女性)
- ◇ 経験など (女性)
- ◇ 祖父が亡くなったのがきっかけ (女性)
- ◇ シルベスター・スタローン (男性)
- ◇ 趣味 (男性)
- ◇ 大学での活動 (男性)

(2) 進学や就職先の所在地

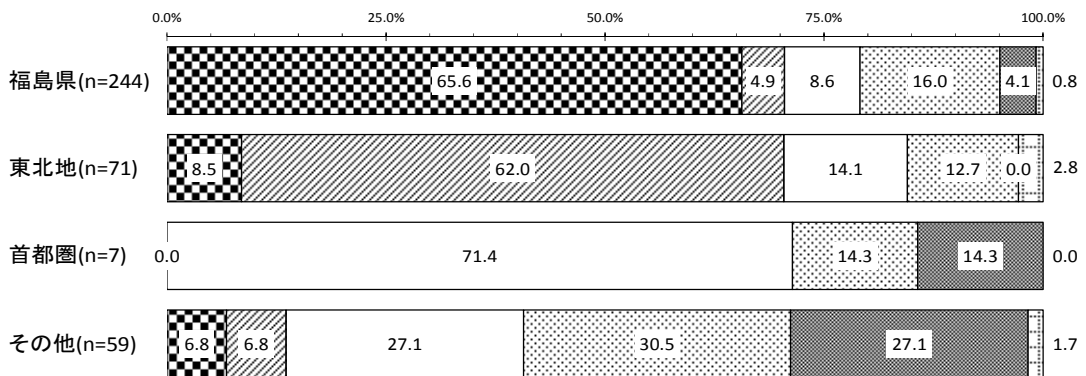
問7 あなたは、現時点で、進学や就職先としてどこを希望しますか。

☐ 福島県内 ☑ 東北地方 □ 首都圏 ☑ こだわらない ■ その他 ▨ 無回答



希望する就職先の所在地<出身地別>

☐ 福島県内 ☑ 東北地方 □ 首都圏 ☑ こだわらない ■ その他 □ 無回答



全体では「福島県内」が44.2%で最も多い。

女子学生の51.6%、男子学生の37.6%が「福島県内」での就職を希望している。

出身地別にみると、福島県内出身者は、「福島県内」で就職を希望している割合が65.6%と最も多く、16.0%は「こだわらない」としている。

東北地方出身者は「東北地方」での就職を希望している割合が62.0%と高いが、「福島県内」で就職を希望している割合も8.5%ある。首都圏出身者の71.4%は「首都圏」での就職を希望しており、「福島県内」の就職希望者はいない。

* 進学や就職先の所在地<その他>

- ◇ 東日本 (男性)
- ◇ 関東 (女性・男性)
- ◇ 茨城県 (女性・男性)
- ◇ 埼玉県 (男性)
- ◇ 静岡県 (男性)
- ◇ 関西圏 (女性・男性)
- ◇ 国内 (男性)
- ◇ 宮城県 (女性)
- ◇ 栃木県 (女性・男性)
- ◇ 千葉県 (女性)
- ◇ 新潟県 (女性・男性)
- ◇ 名古屋 (男性)
- ◇ 県外 (男性)

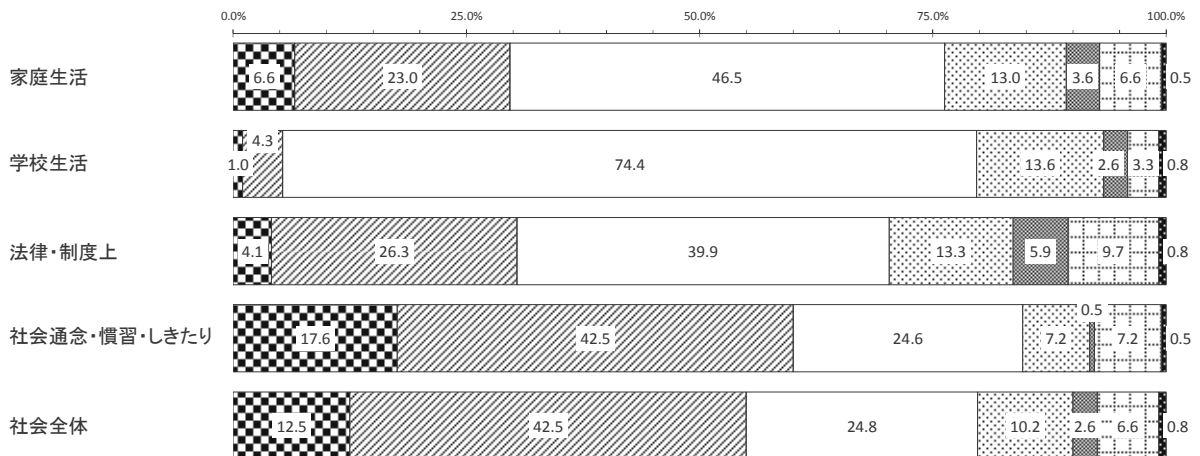
2. 男女共同参画

(1) 男女の平等感

問8 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。
それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=391)

- 男性のほうが優遇されている
- 平等
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- わからない



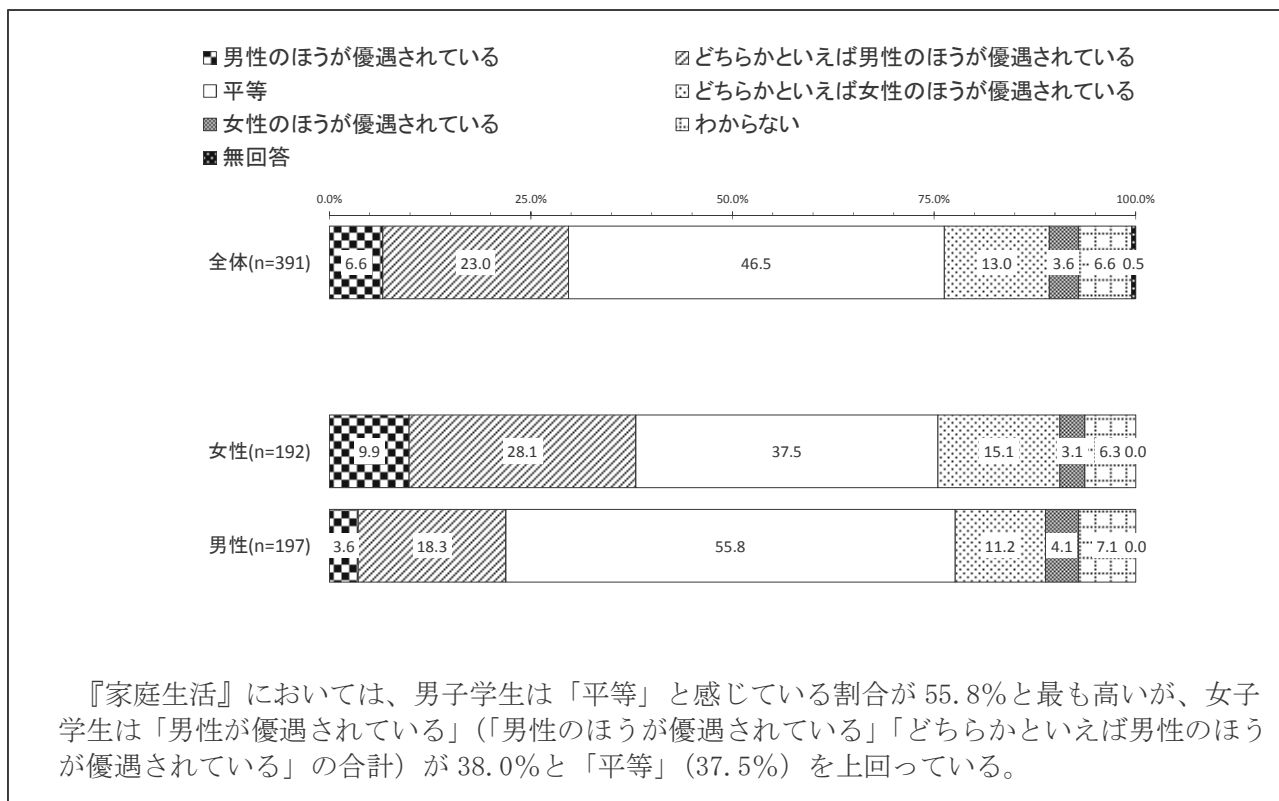
(単位: %)

	男性が優遇されている計	平等	女性が優遇されている計
家庭生活	29.7	46.5	16.6
学校生活	5.4	74.4	16.1
法律・制度上	30.4	39.9	19.2
社会通念・慣習・しきたり	60.1	24.6	7.7
社会全体	55.0	24.8	12.8

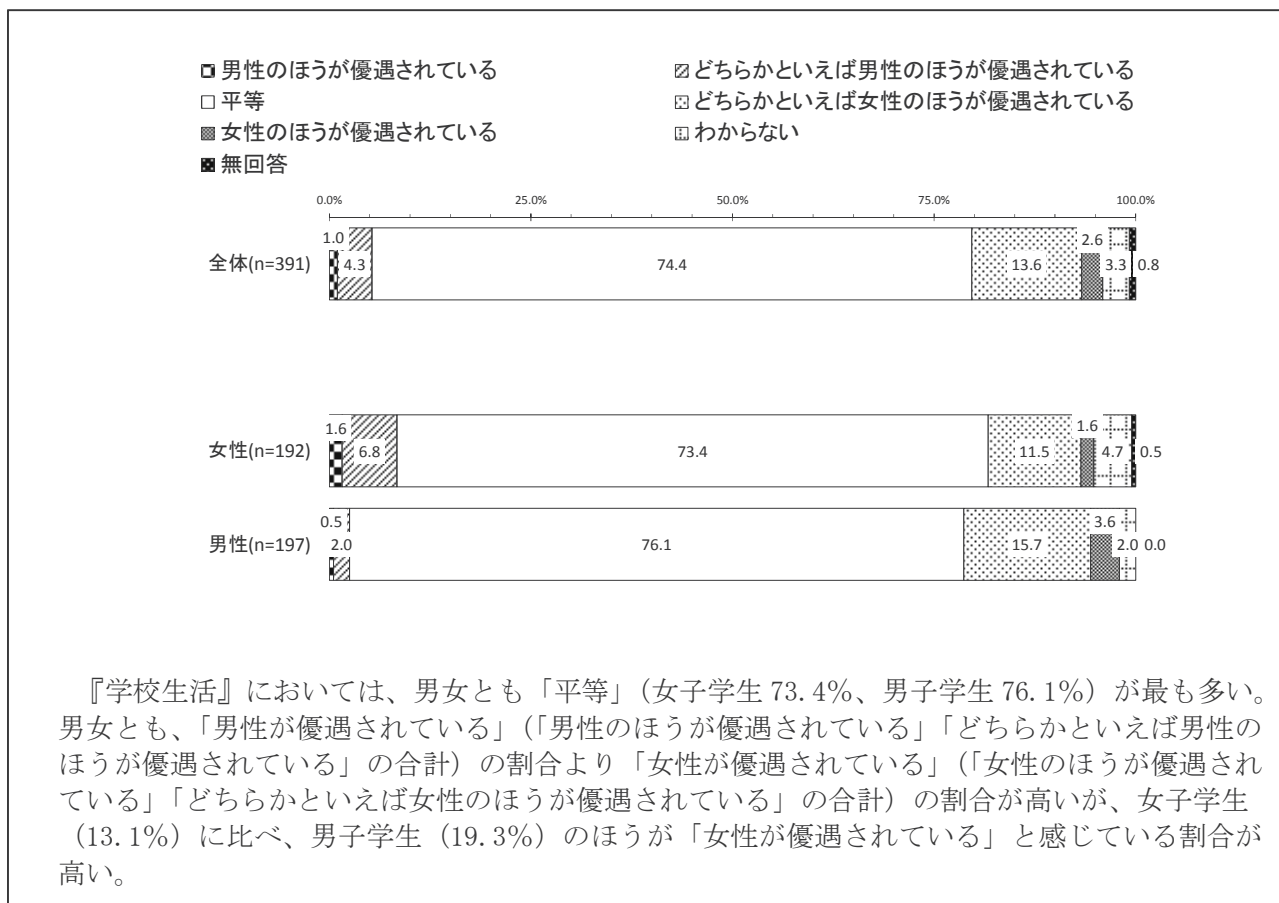
* 「男性が優遇されている計」及び「女性が優遇されている計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

『家庭生活』『学校生活』『法律・制度上』では、「平等」が多いが、『社会通念・慣習・しきたり』『社会全体』では「男性が優遇されている」が多い。特に『学校生活』では「平等」が74.4%であり、「男性が優遇されている」（「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の計5.4%）より「女性が優遇されている」（「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の計16.1%）の割合が高い。『社会通念・慣習・しきたり』『社会全体』では「男性が優遇されている」と感じている割合が半数以上と高い。

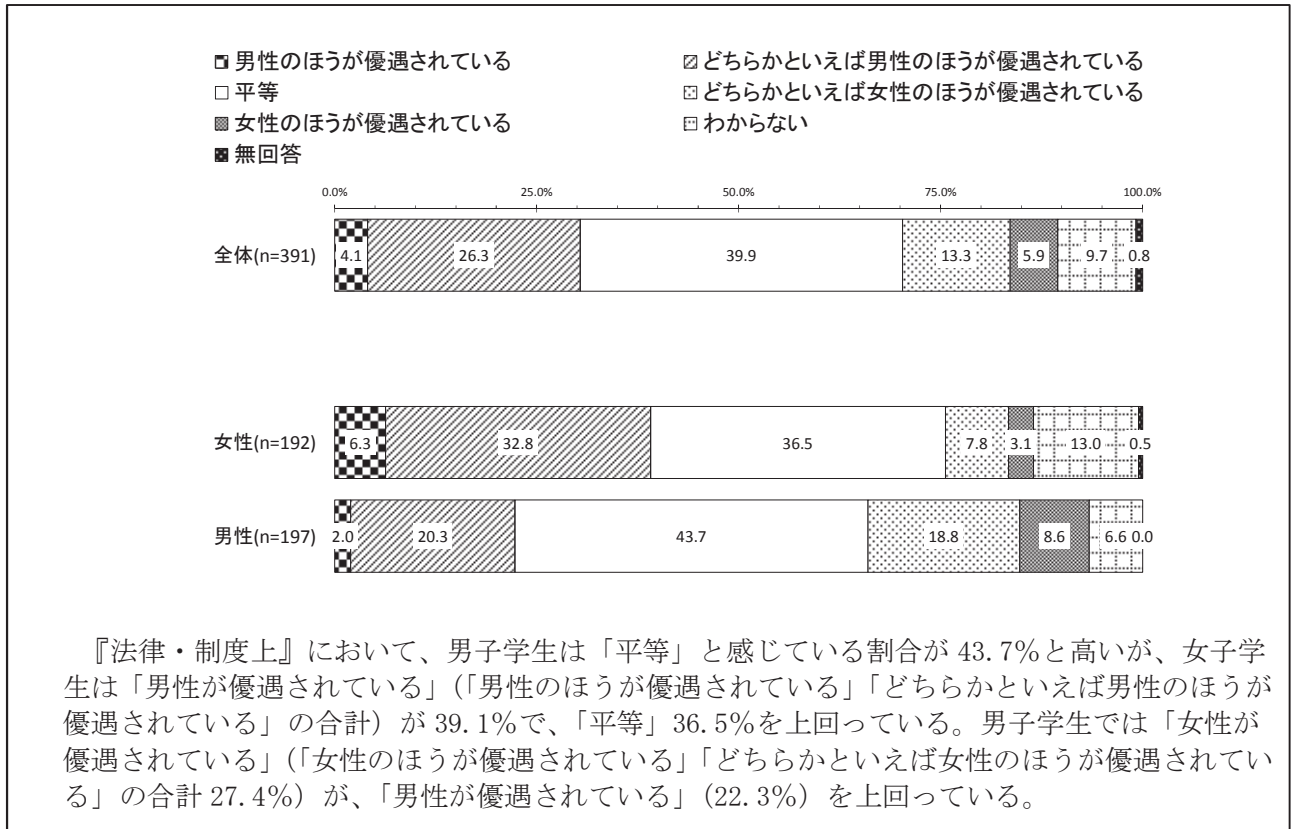
①男女の平等感 『家庭生活』



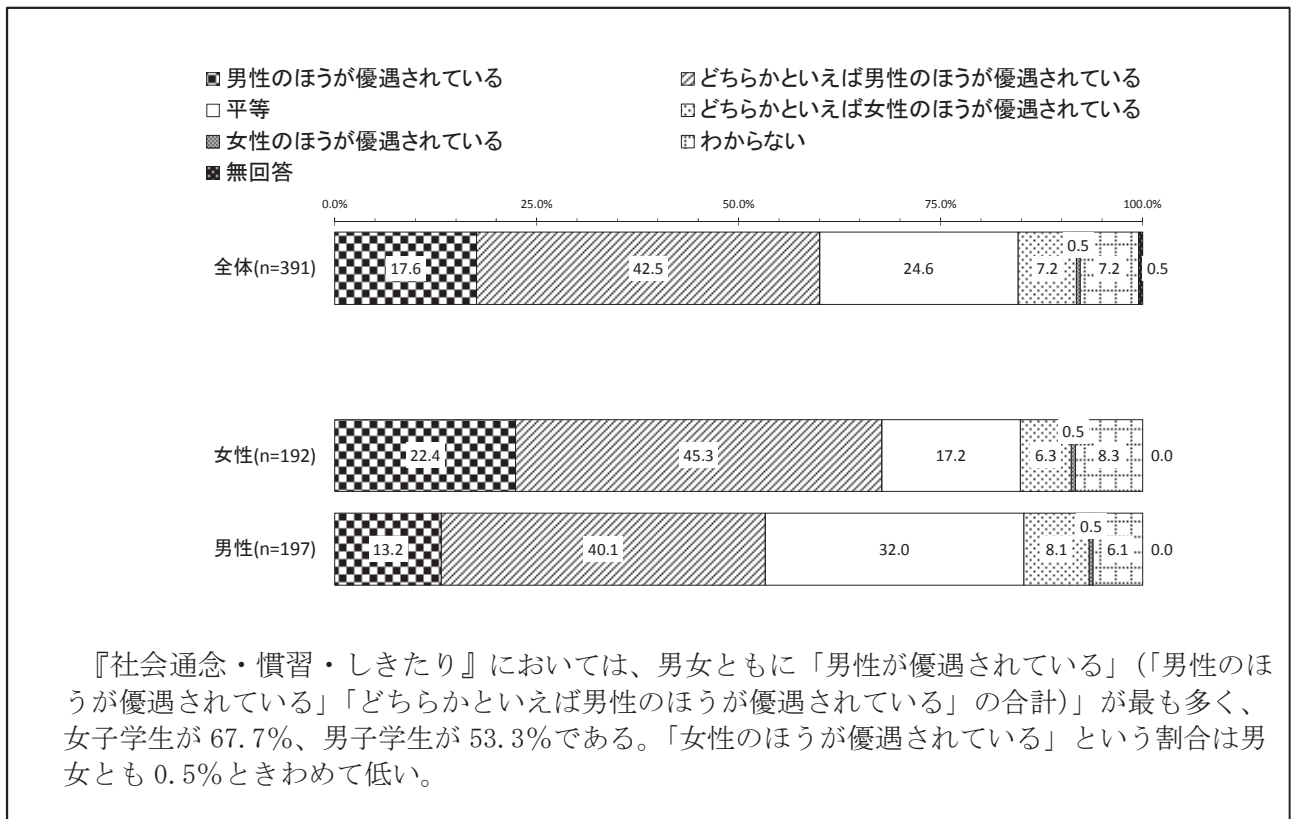
②男女の平等感 『学校生活』



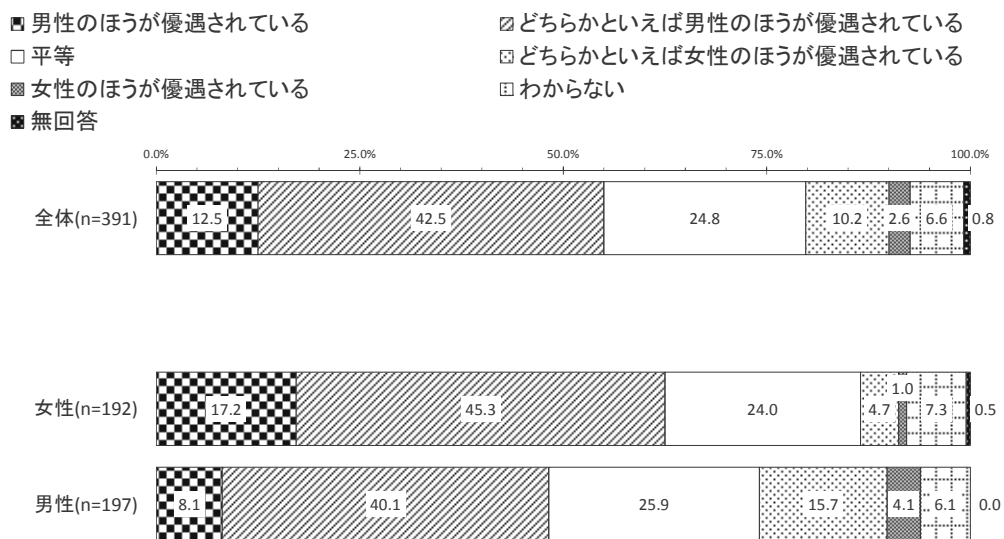
③男女の平等感 『法律・制度上』



④男女の平等感 『社会通念・慣習・しきたり』



⑤男女の平等感 『社会全体』



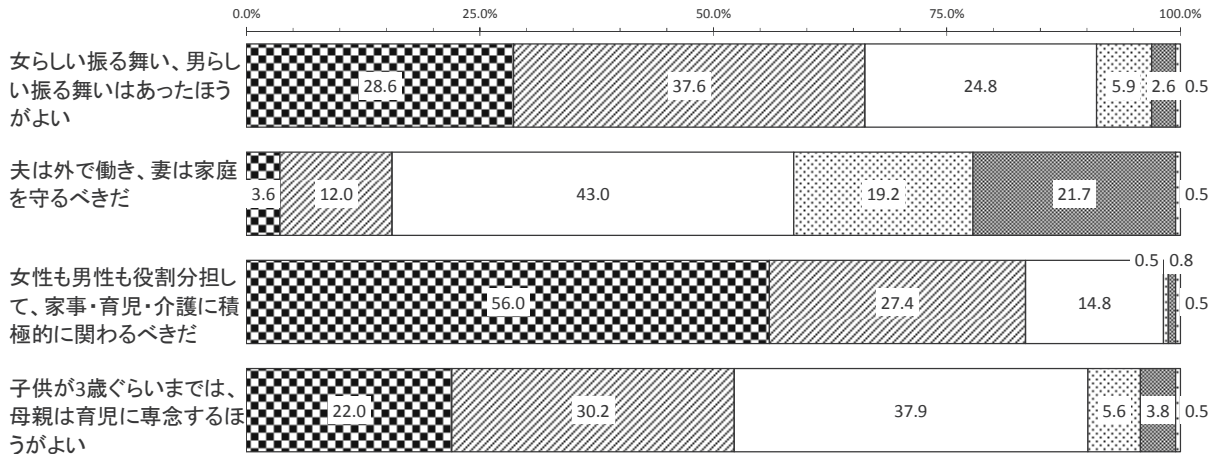
『社会全体』においては、男女ともに「男性が優遇されている」（「男性のほうが優遇されている」「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）が最も多く、女子学生では62.5%、男子学生で48.2%である。男子学生では「女性が優遇されている」（「女性のほうが優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計）の割合が19.8%あり、女子学生の5.7%と大きな差がある。

(2) 男女の望ましい姿

問9 あなたは、次のことについてどう思いますか。
それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=391)

■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 □ どちらともいえない □ どちらかといえば反対 ■ 反対 □ 無回答



「賛成計」と「反対計」の割合

(単位: %)

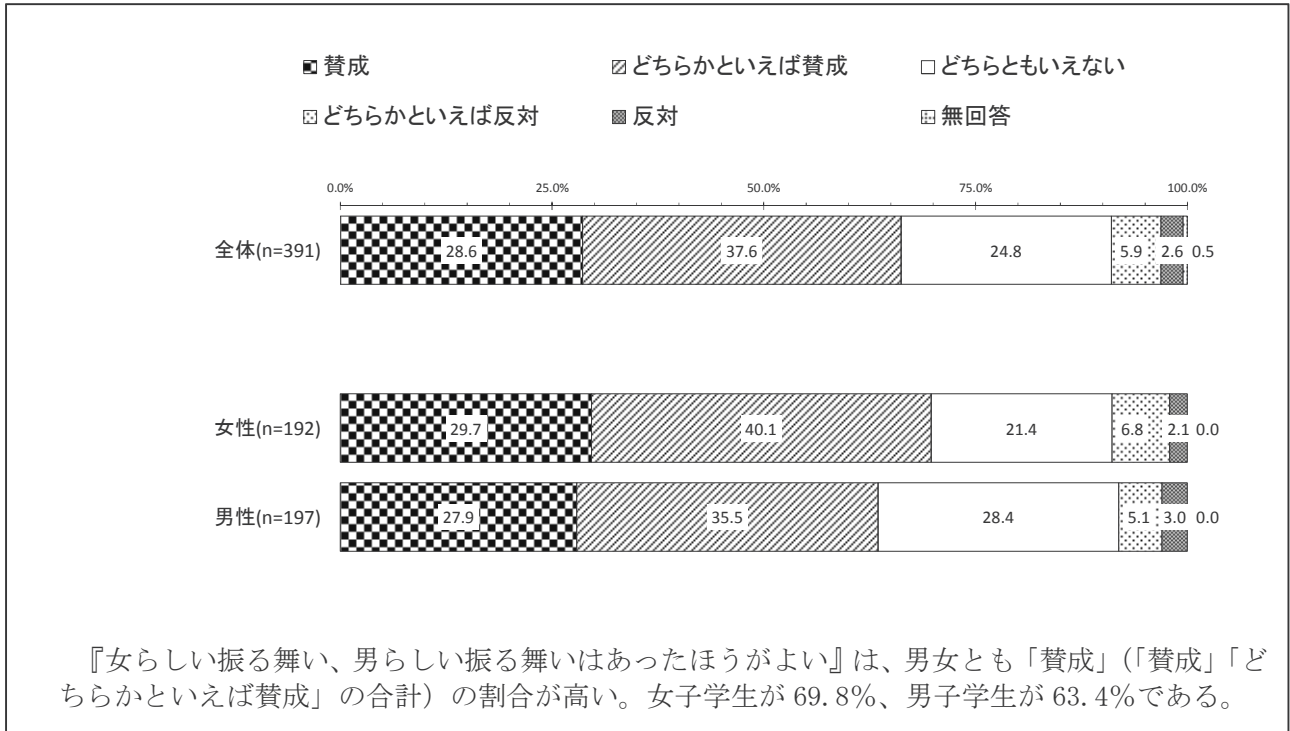
	賛成計	どちらともいえない	反対計
女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい	66.2	24.8	8.4
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	15.6	43.0	40.9
女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ	83.4	14.8	1.3
子供が3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい	52.2	37.9	9.5

* 「賛成計」及び「反対計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

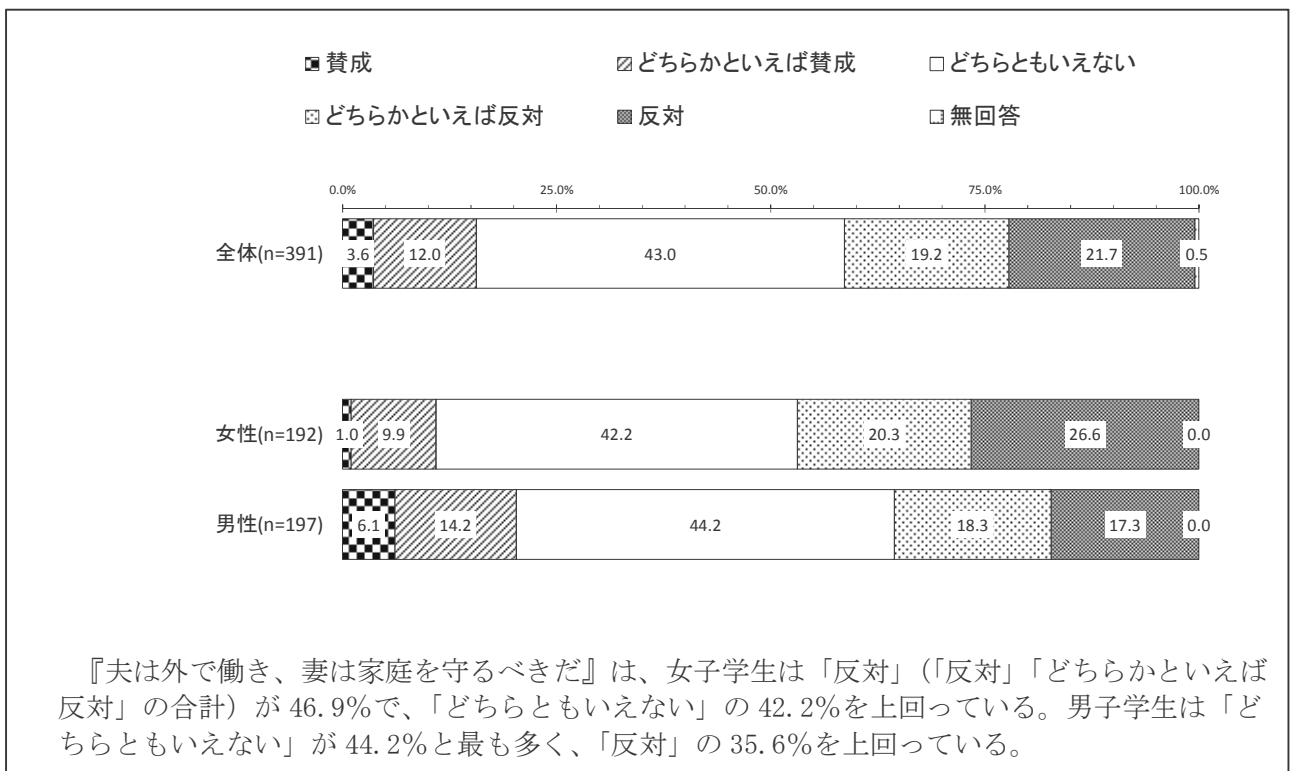
『女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ』(83.4%)、『女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあった方がいい』(66.2%)、『子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい』(52.2%)は、「賛成」(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)が多いが、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ』は「どちらともいえない」が43.0%で最も多く、「反対」(「反対」「どちらかといえば反対」の合計)が40.9%と「賛成」の15.6%を上回っている。

大学生・短大生は、家事・育児・介護は男女で分担すべきだが、子どもが小さい間、母親は育児に専念したほうがよく、女らしさ、男らしさは必要だと考えている。

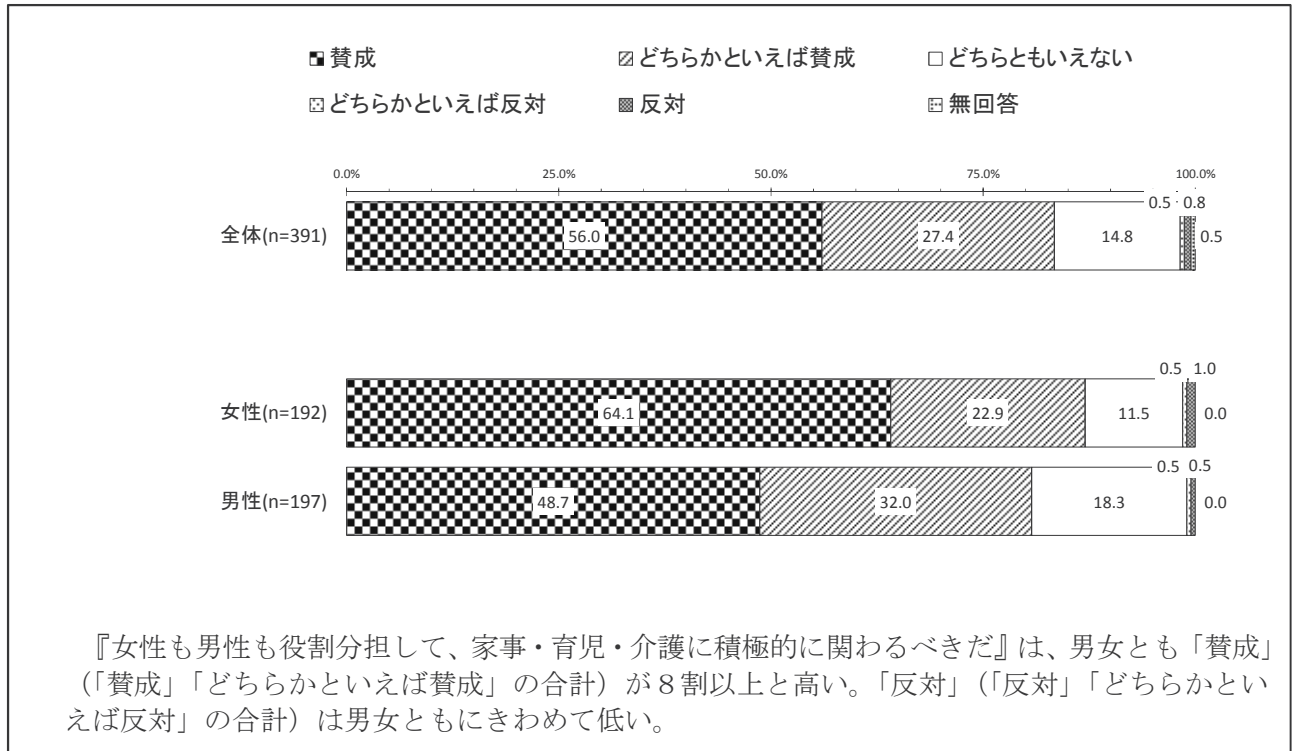
①女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあったほうがよい



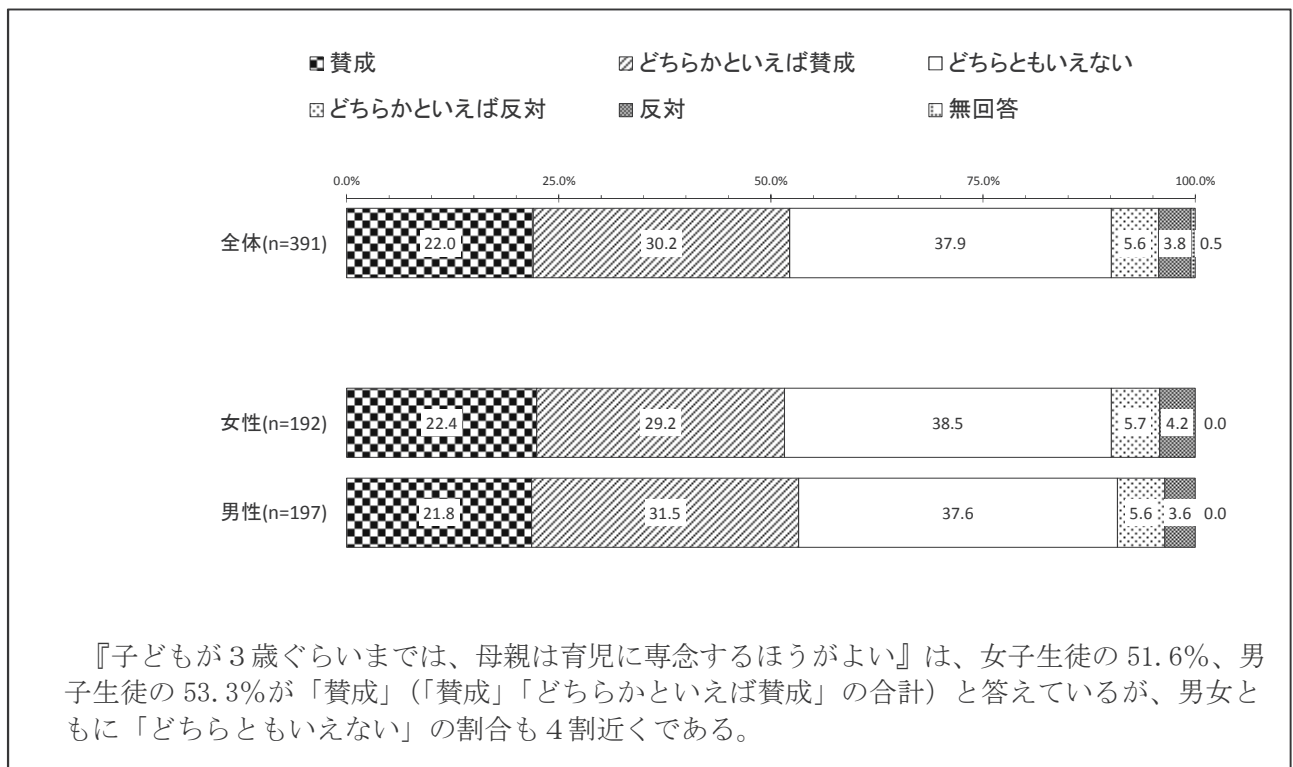
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



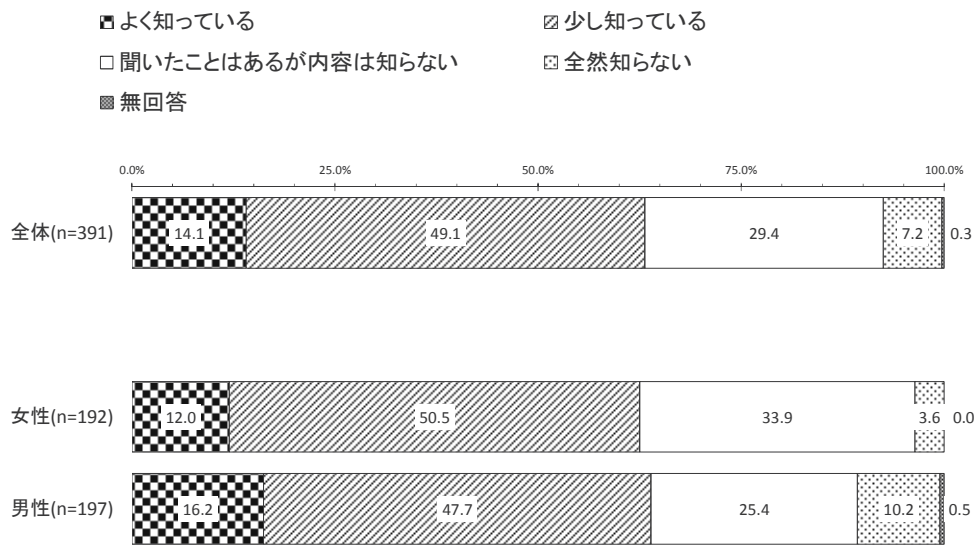
③女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わるべきだ



④子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい

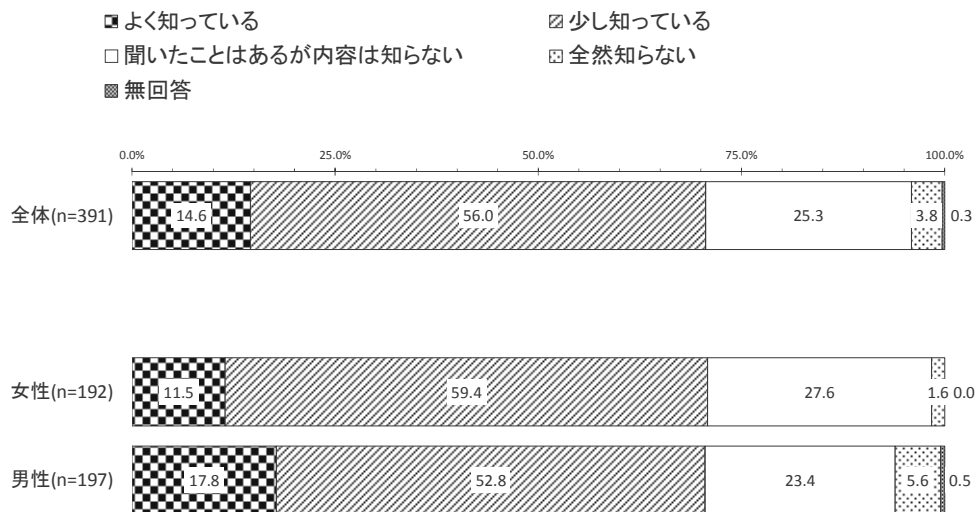


①男女共同参画社会基本法



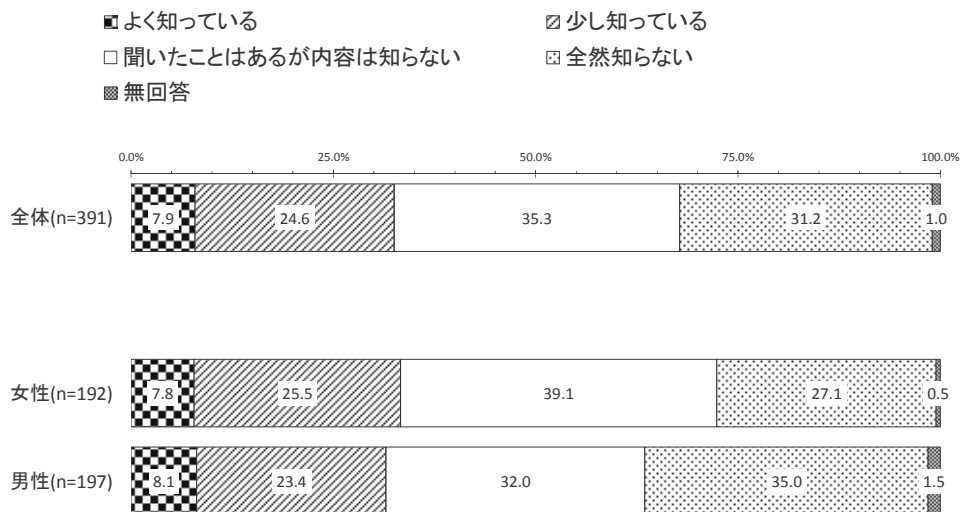
『男女共同参画社会基本法』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子学生が62.5%、男子学生が63.9%とほぼ同じ割合であるが、「全く知らない」の割合は女子学生が3.6%、男子学生が10.2%と、男子学生の方が高い。

②男女雇用機会均等法



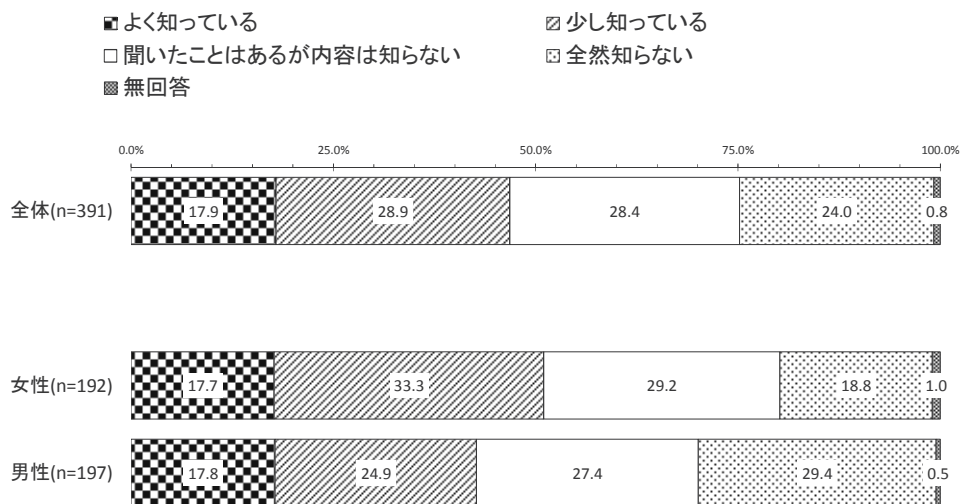
『男女雇用機会均等法』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子学生が70.9%、男子学生が70.6%とほぼ同じ割合であるが、「全く知らない」の割合は女子学生が1.6%、男子学生が5.6%と、男子学生の方が高い。

③ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



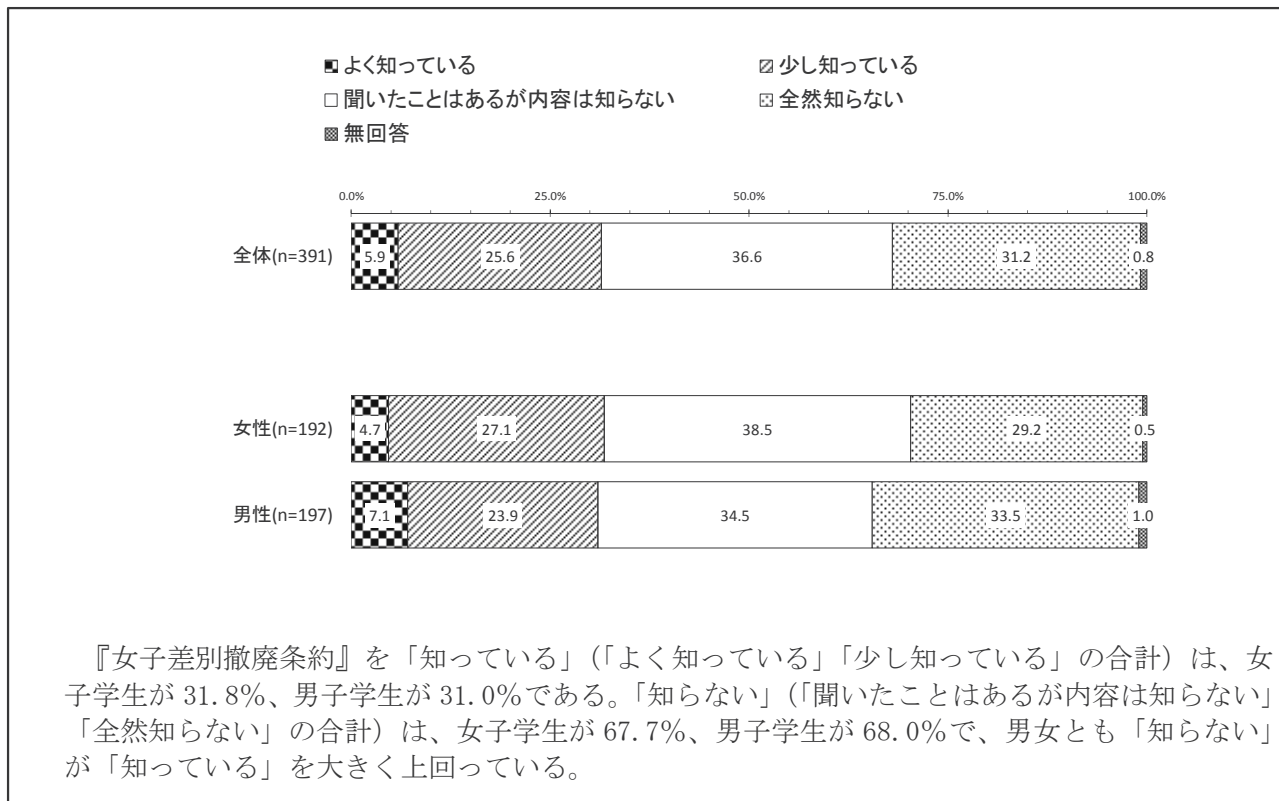
『ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子学生が33.3%、男子学生が31.5%である。「知らない」（「聞いたことはあるが内容は知らない」「全然知らない」の合計）は、女子学生が66.2%、男子学生が67.0%で、男女とも「知らない」が「知っている」を大きく上回っている。

④ジェンダー

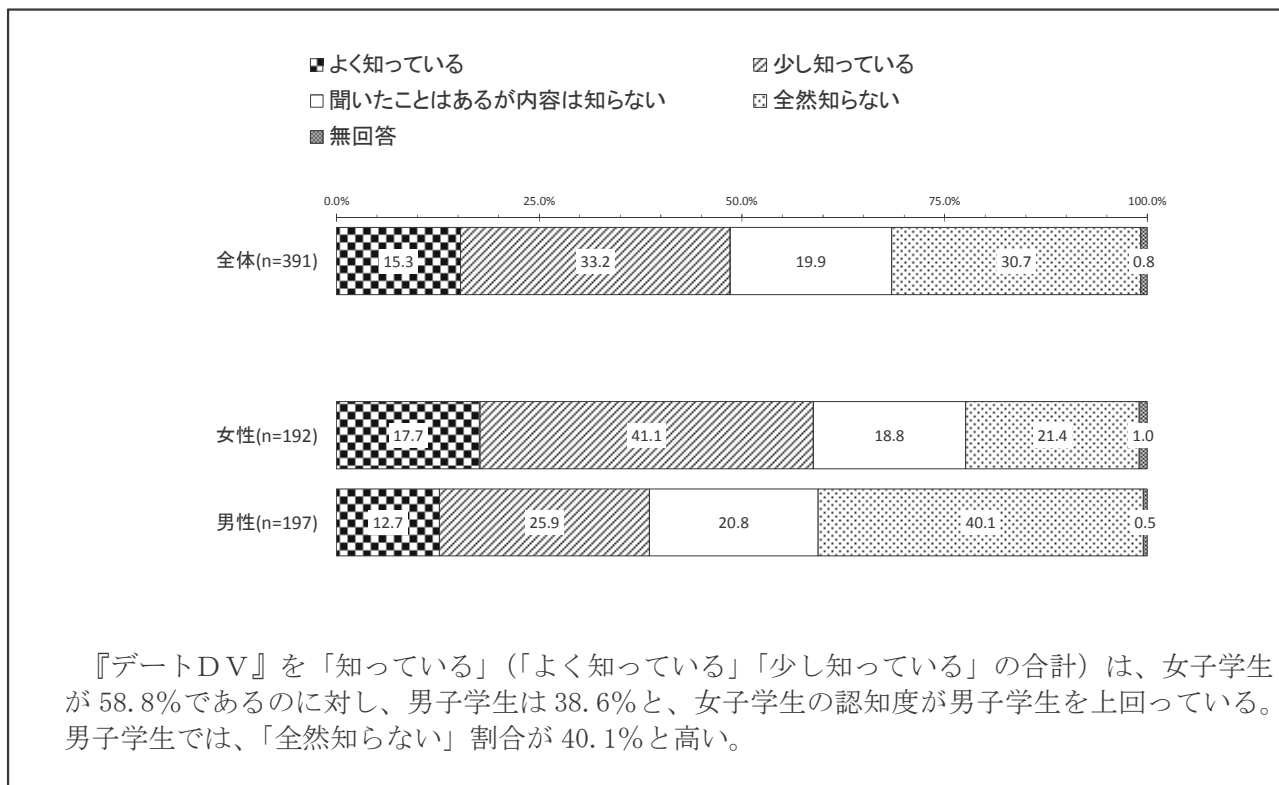


『ジェンダー』を「知っている」（「よく知っている」「少し知っている」の合計）は、女子学生は51.0%で「知らない」（「聞いたことはあるが内容は知らない」「全然知らない」の合計）48.0%を上回っているが、男子学生は「知らない」が56.8%で「知っている」の42.7%を上回っている。

⑤女子差別撤廃条約

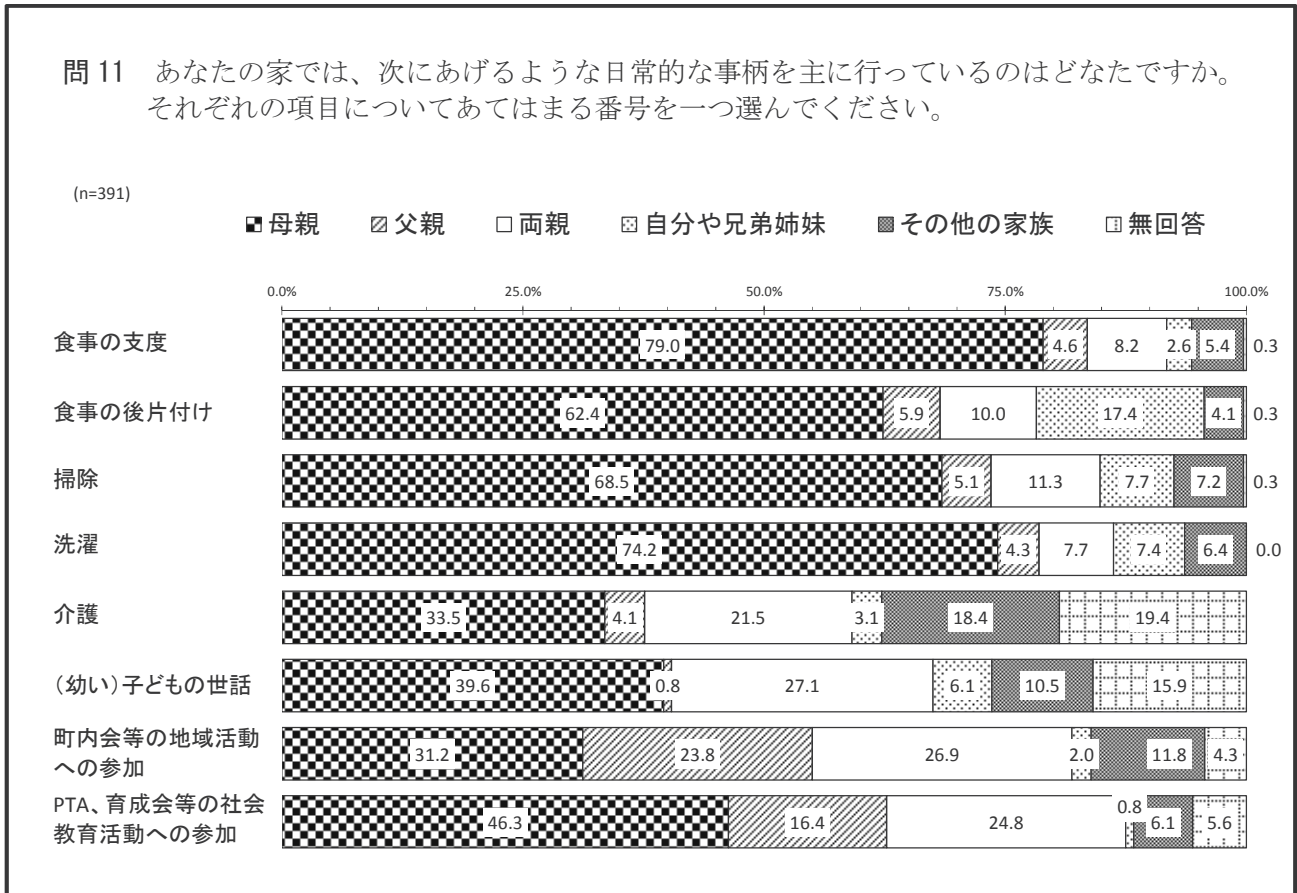


⑥デートDV



3. 家族や社会の状況

(1) 日常的役割の負担割合

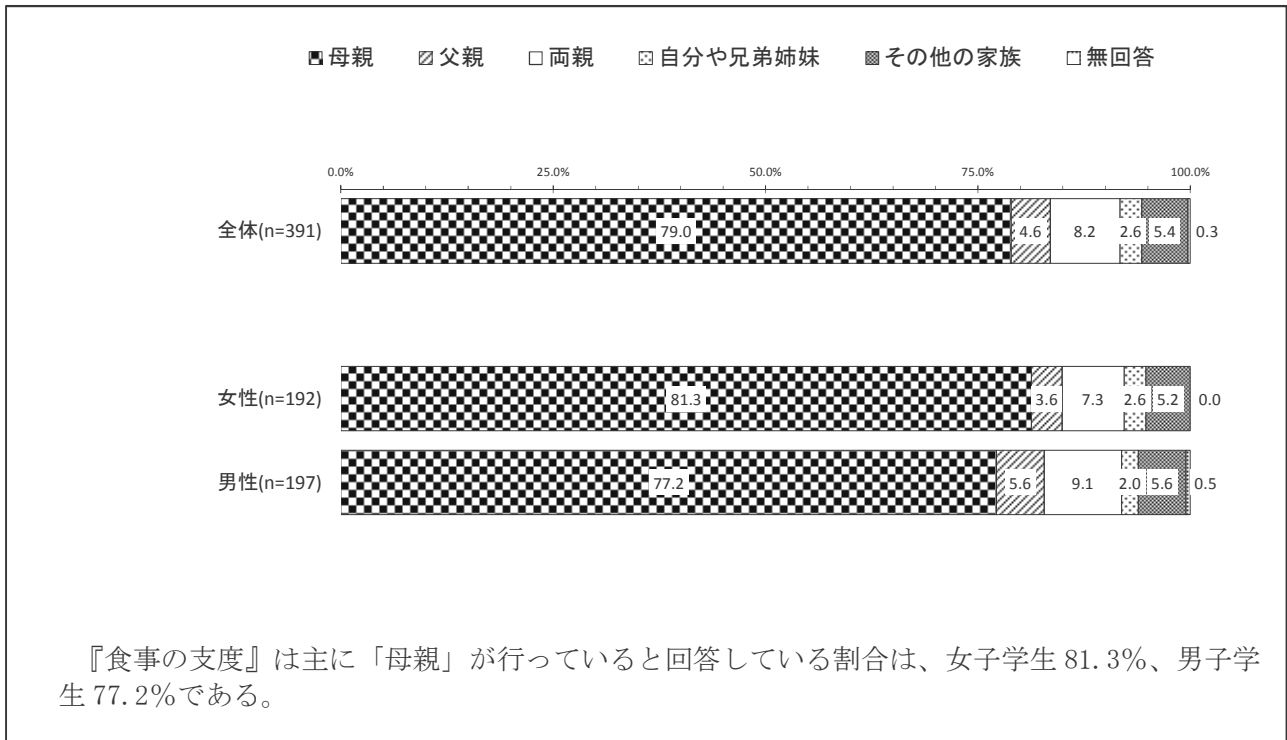


日常的な事柄で、主に「母親」が行っているのは、『食事の支度』(79.0%)、『洗濯』(74.2%)、『掃除』(68.5%)、『食事の後片付け』(62.4%)、で、母親の負担割合が非常に高く、「父親」の負担割合はいずれも低い。『PTA、育成会等の社会教育活動への参加』は、「母親」が46.3%と半分弱であるが、「父親」が16.4%、「両親」が24.8%と、父親の負担割合も比較的高い。

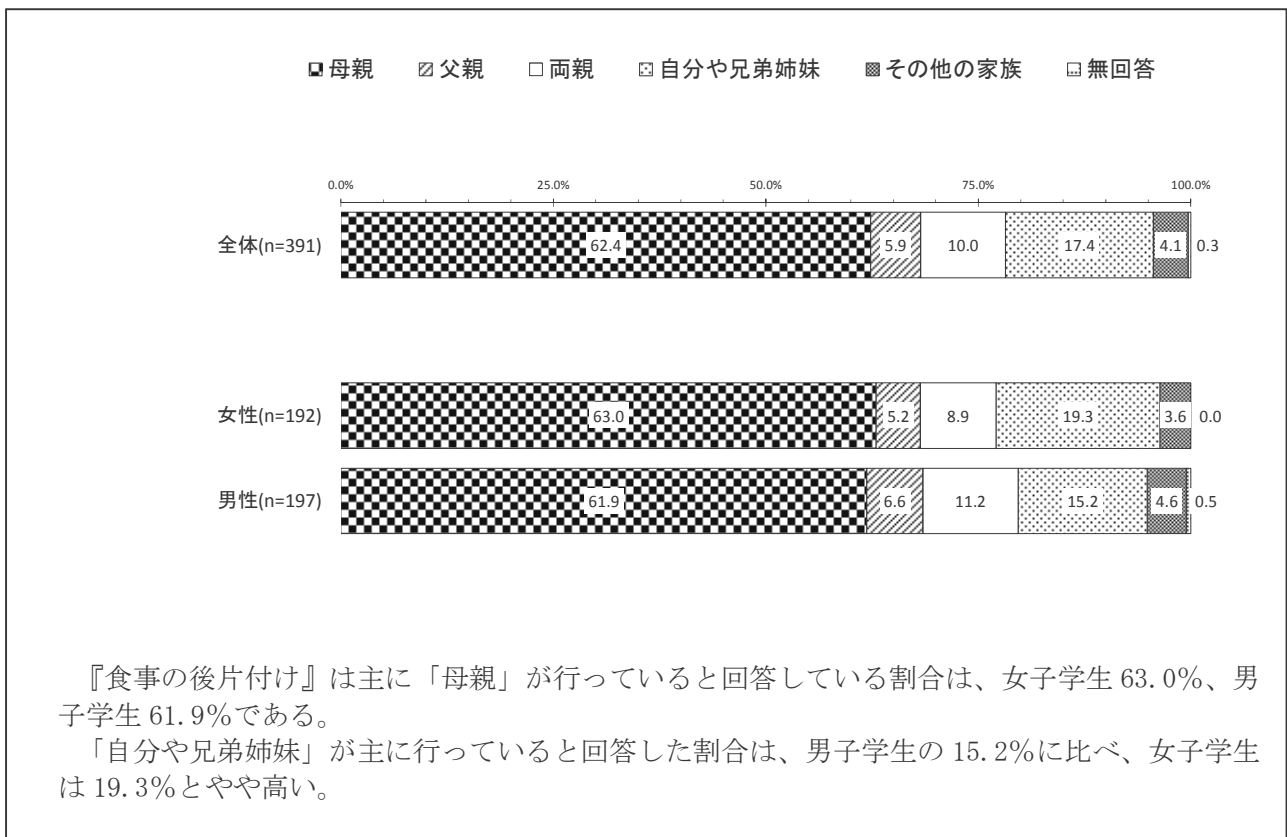
「父親」の負担割合が高いのは『町内会等の地域活動への参加』の23.8%であるが、「母親」が31.2%、「両親」が26.9%であり、比較すると「母親」の負担割合が高い。

『(若い)子どもの世話』『介護』は「母親」(『(若い)子どもの世話』39.6%、『介護』33.5%)の負担が最も多いものの、「両親」も『(若い)子どもの世話』では27.1%、『介護』では21.5%と、分担して行っている割合も高い。

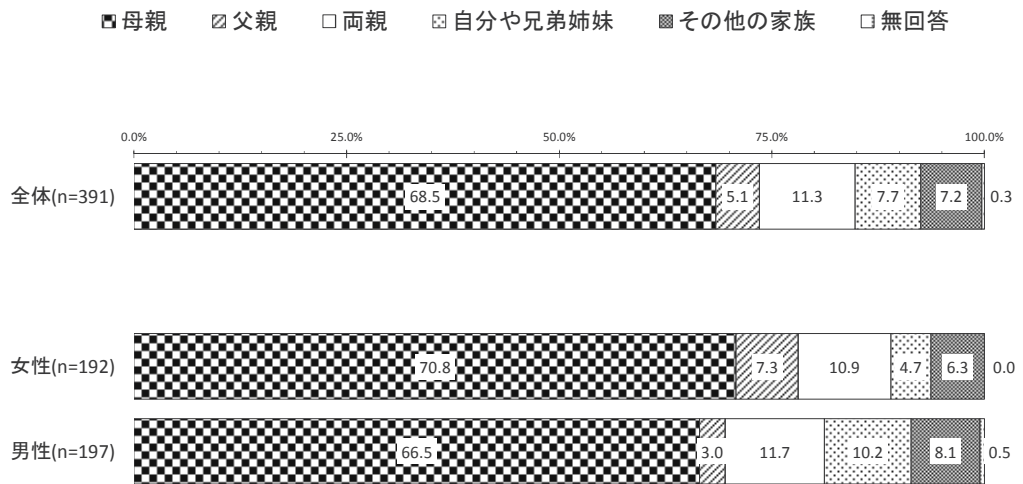
①食事の支度



②食事の後片付け



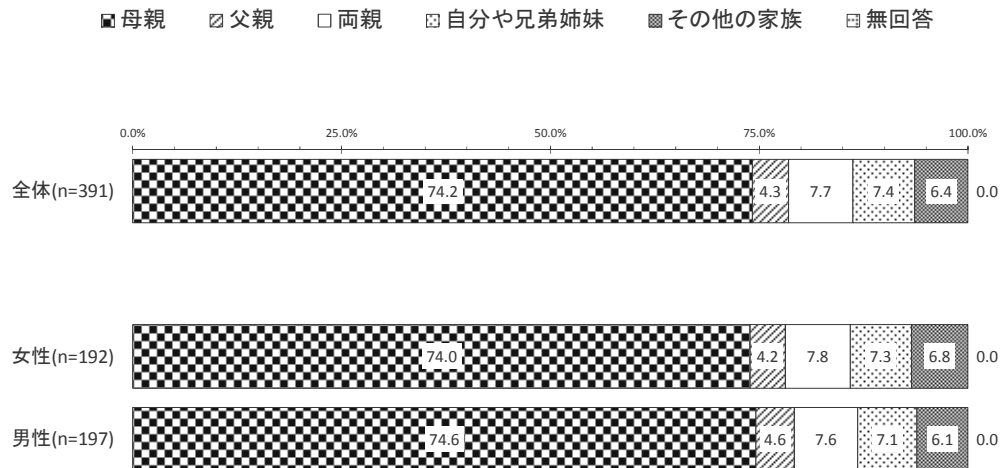
③掃除



『掃除』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子学生 70.8%、男子学生 66.5% である。

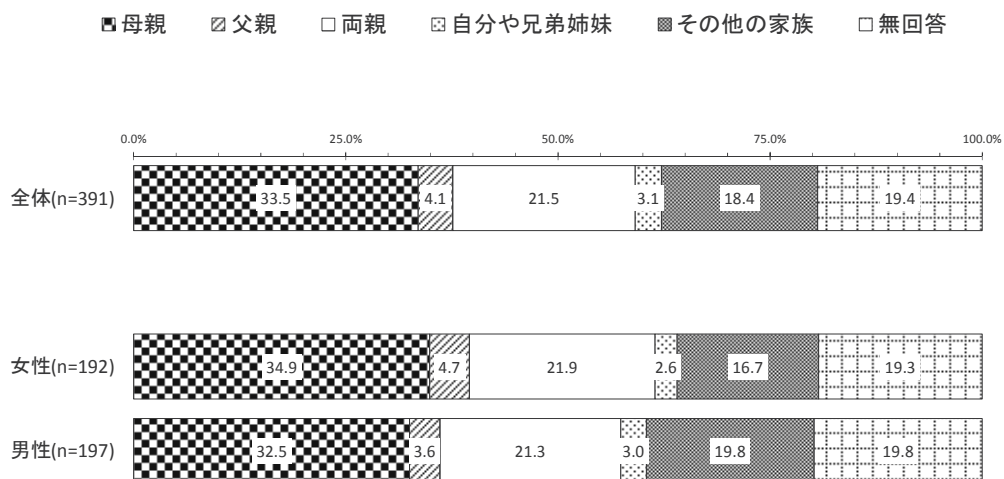
「自分や兄弟姉妹」が主に行っていると回答した割合は、女子学生の 4.7% に比べ、男子学生は 10.2% と高い。

④洗濯



『洗濯』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子学生 74.0%、男子学生 74.6% とほぼ同じである。

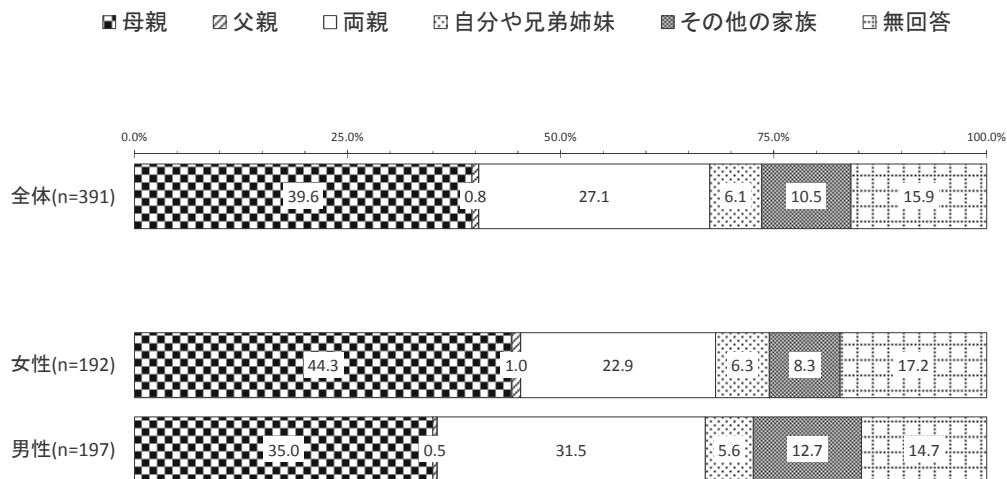
⑤ 介護



『介護』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子学生 34.9%、男子学生 32.5% とほぼ同じである。「両親」で行っていると答えている割合も、女子学生 21.9%、男子学生 21.3% とほぼ同じである。

「その他の家族」が主に行っていると回答した割合は、女子学生 16.7%、男子学生 19.8% と高い。

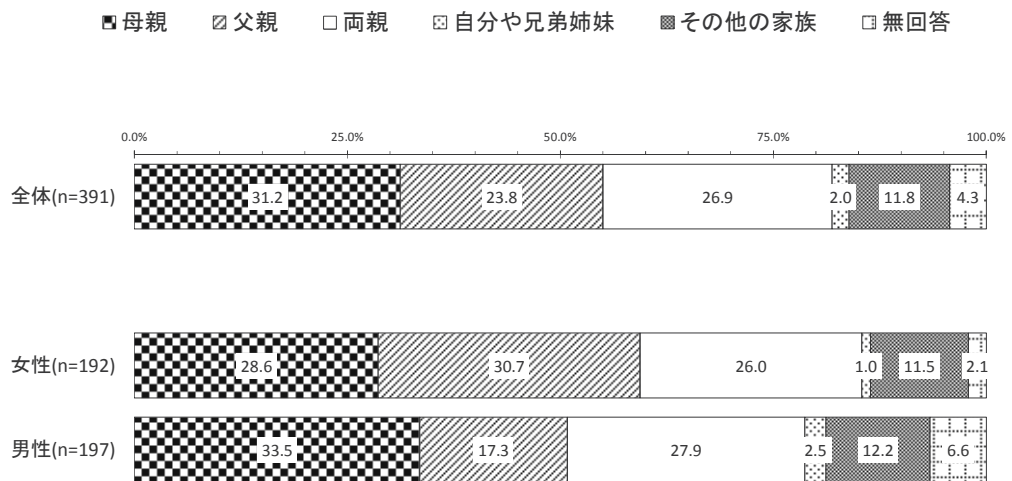
⑥ (若い) 子どもの世話



『(若い) 子どもの世話』は、男女とも「母親」(女子学生 44.3%、男子学生 35.0%) の割合が最も高い。男子学生は「両親」も 31.5% と高い。

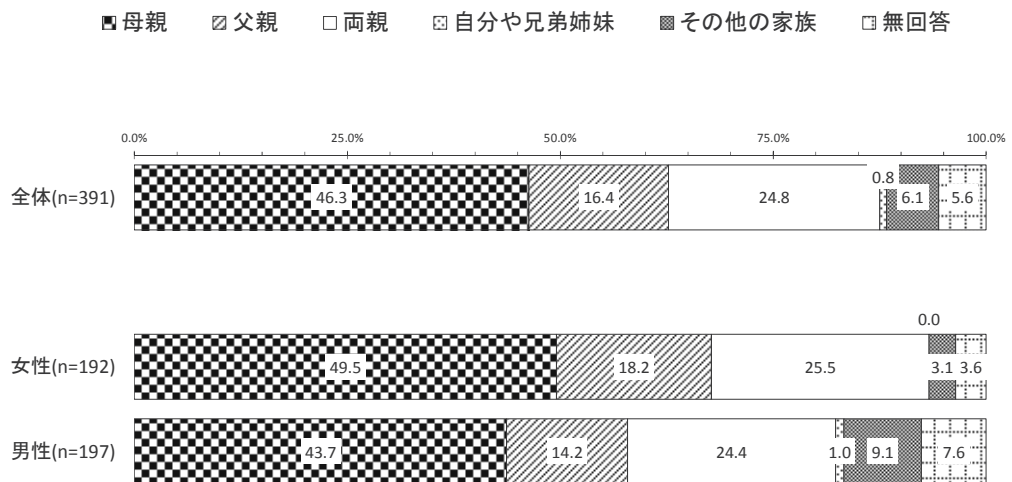
「その他の家族」が主に行っていると回答した割合は、男子学生が 12.7% と、女子学生の 8.3% と比較して高い。

⑦町内会等の地域活動への参加



『町内会等の地域活動への参加』は、女子学生は主に「父親」が行っていると回答している割合が30.7%と最も高く、次いで「母親」(28.6%)、「両親」(26.0%)である。男子学生は「母親」が33.5%と最も多く、次いで「両親」が27.9%、「父親」は17.3%である。

⑧PTA、育成会等の社会教育活動への参加

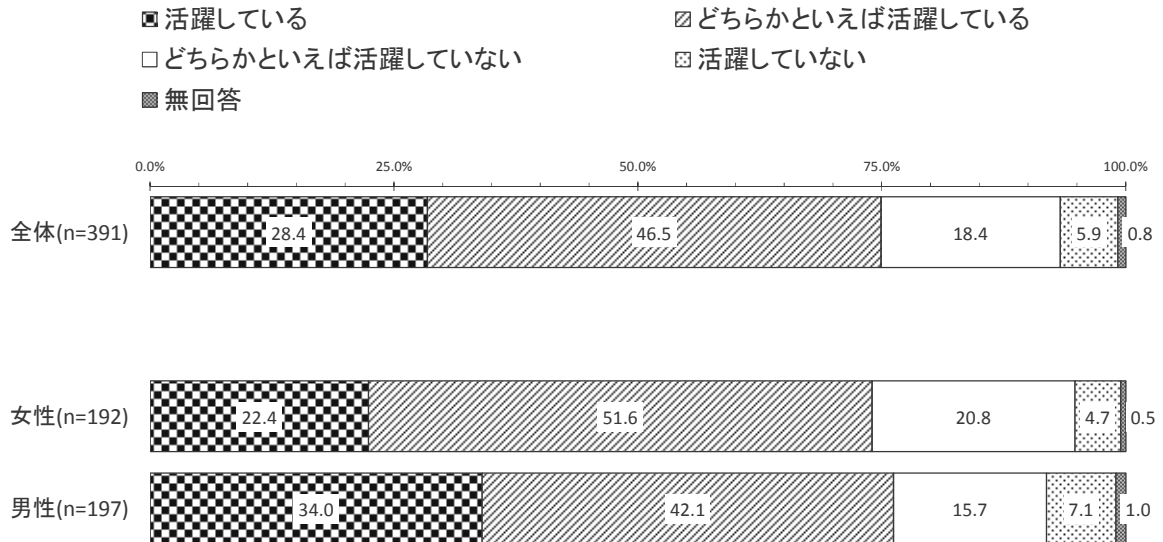


『PTA、育成会等の社会教育活動への参加』は主に「母親」が行っていると回答している割合は、女子学生49.5%、男子学生43.7%と女子学生が高い。次いで、男女とも「両親」(女子学生25.5%、男子学生24.4%)の割合が高い。

4. 女性の活躍促進

(1) 女性の活躍状況

問12 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。(〇は1つだけ)



「活躍している計」と「活躍していない計」の割合 (単位:%)

	活躍している計	活躍していない計
身近な女性は仕事や地域活動で活躍していると思うか	74.9	24.3

* 「活躍している計」及び「活躍していない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

「活躍している」「どちらかという活躍している」を合わせると74.9%が、女性は仕事や地域活動で「活躍している」と感じている。

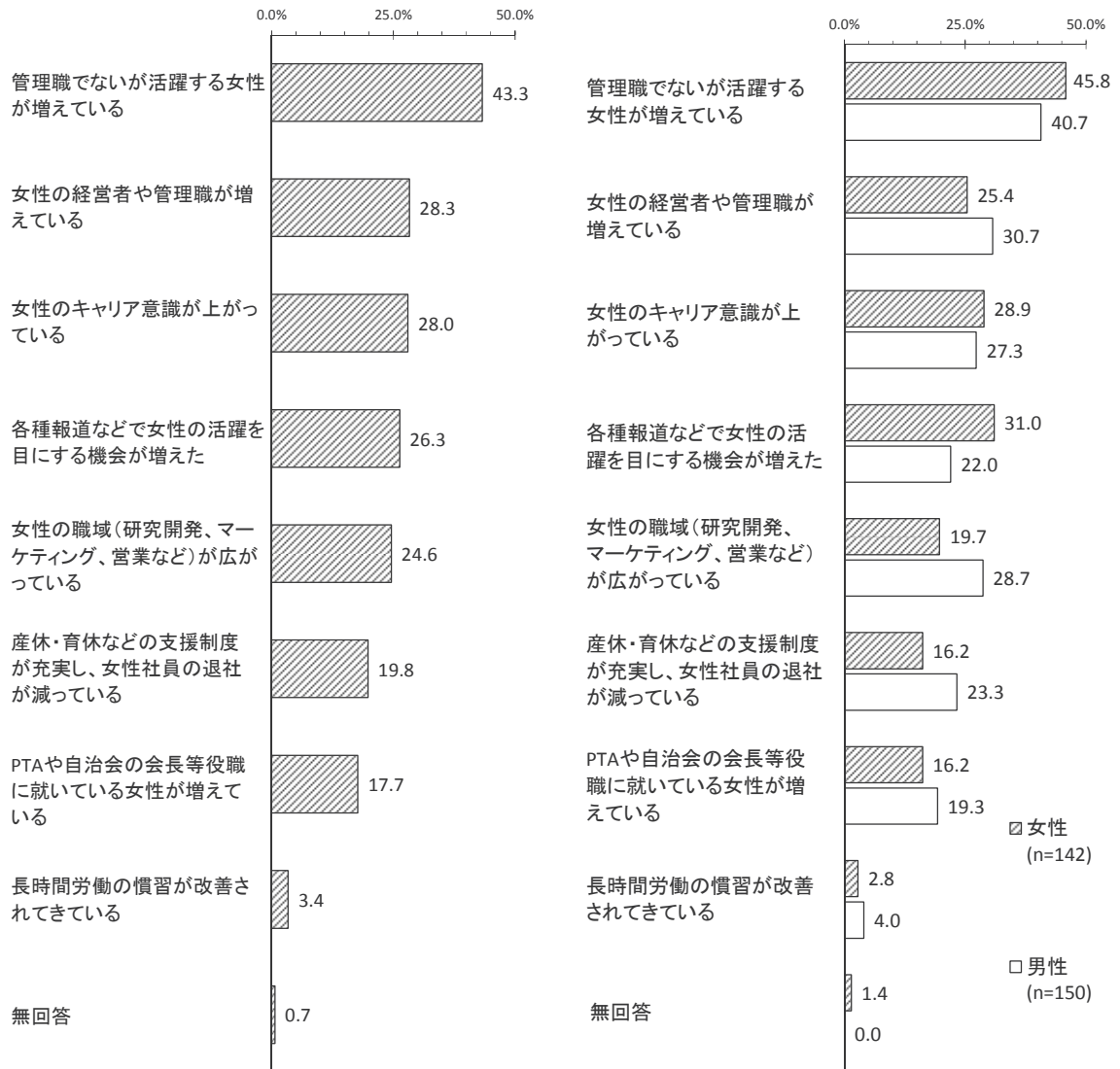
「活躍している(計)」は男女ほぼ同じ割合であるが、「活躍している」の割合は、男子学生が34.0%と、女子学生の22.4%に比べて高い。

①女性が活躍している理由

(問 12 補助質問 1 問 12 で 1 「活躍している」または 2 「どちらかといえば活躍している」と回答した方にだけお聞きします)

活躍していると感じている理由は何ですか (〇は 3 つまで)

(n=293)



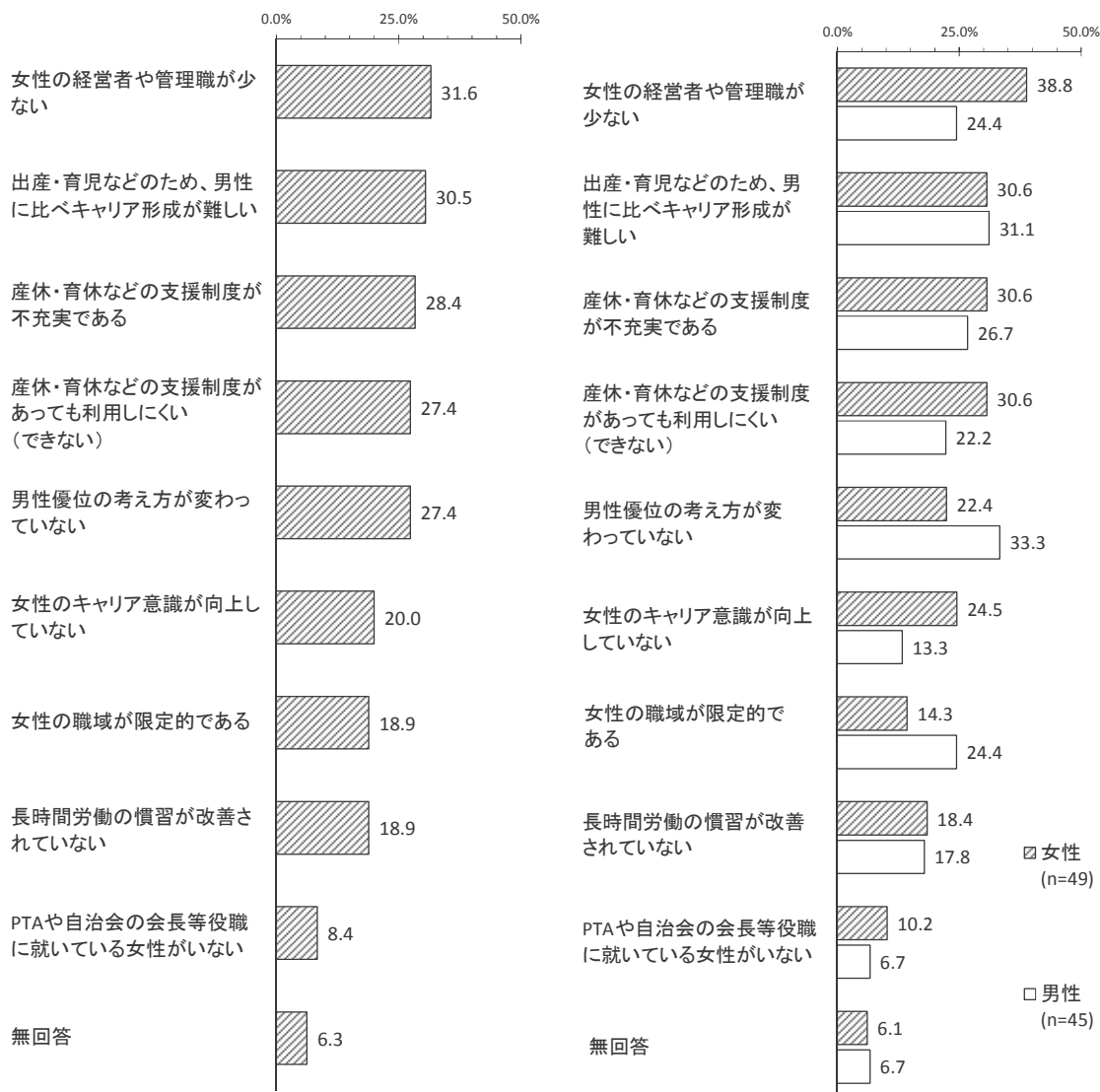
女性が仕事や地域活動で活躍していると感じる理由としては、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が最も多く、43.3%である。男女ともに、「管理職でないが活躍する女性が増えている」が最も多く、役職に関係なく活躍している女性が身近に多いことがうかがわれる。

②女性が活躍していない理由

(問 12 補助質問 2 問 12 で 3「どちらかといえば活躍していない」または 4「活躍していない」と回答した方にだけお聞きします)

活躍していないと感じている理由は何ですか (〇は 3 つまで)

(n=95)

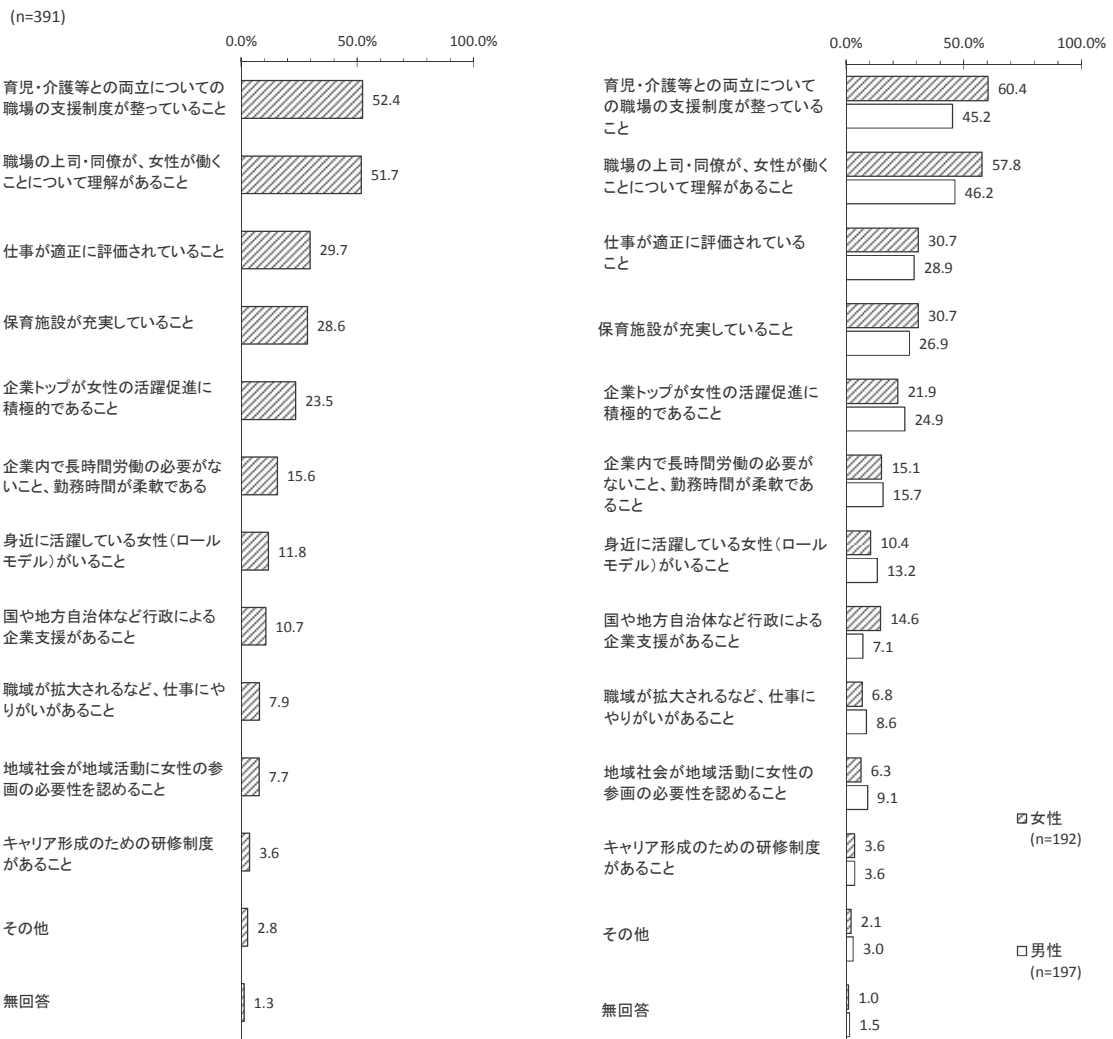


女性が仕事や地域活動で活躍していないと感じる理由としては、「女性の経営者や管理職が少ない」が最も多く 31.6%である。次いで「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が 30.5%である。女子学生では「女性の経営者や管理職が少ない」という理由が 38.8%と最も多いが、男子学生では「男性優位の考え方が変わっていない」が 33.3%と最も多い。

女子学生では「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」「産休・育休などの支援制度が不充実である」「産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい (できない)」など、出産・産休・育児が活躍の障害になっているという回答も多い。

(2) 女性の活躍に必要なこと

問 13 女性が活躍するには何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)



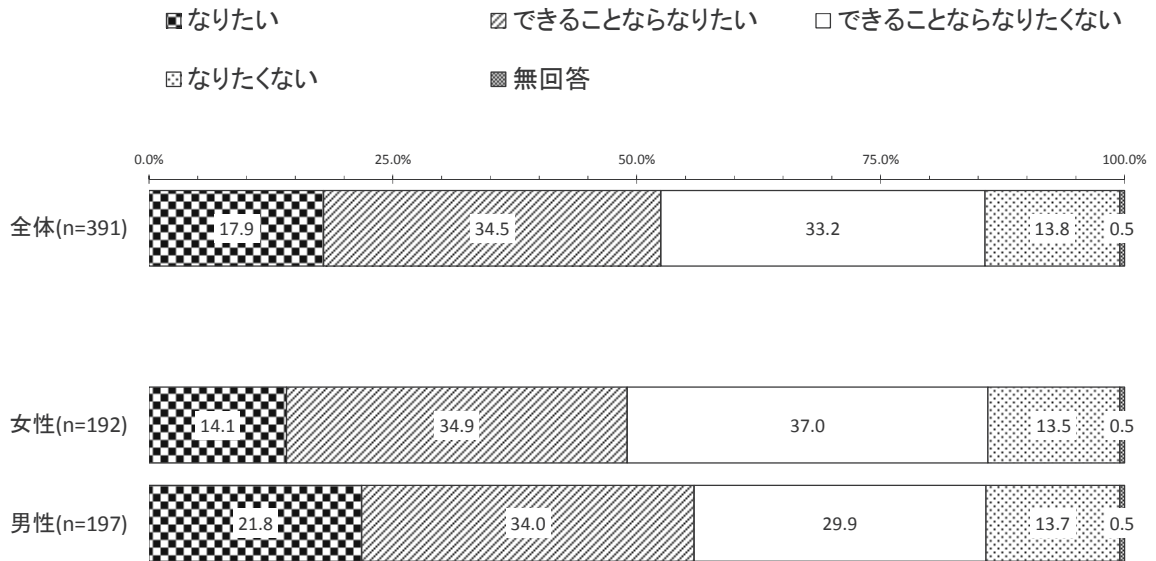
女性が活躍するために必要なこととして、「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」が52.4%と最も多い。次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」が51.7%である。この2つは女子学生で必要だとする割合が高く、女子学生は、女性が活躍するためには職場の支援制度や上司・同僚の理解が必要だと考えている。

* 女性の活躍に必要なこと<その他>

- ◇ 男性の考え方の大幅な改善。(女性・男性)
- ◇ 表面的には制度が整えられ、女性支援をしているように見えても、全てに浸透していないし、暗黙の威圧(空気)がそうさせない場合がある。本当の意味での意識改革が必要。(女性)
- ◇ その人自身の技量、努力。(男性)
- ◇ 女性を活躍させるために能力のない女性が上の地位についたりすることをなくす。(男性)
- ◇ 制度、しきたり、慣習の改善。(男性)
- ◇ 男性との差を感じないこと。(男性)
- ◇ そもそも女性の意識が足りない。(女性)
- ◇ 男尊女卑の考えを改めること。(女性)

(3) リーダー・管理職への意欲

問 14 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つだけ)



「なりたい計」と「なりたくない計」の割合 (単位:%)

	なりたい計	なりたくない計
リーダー・管理職になりたいと思うか	52.4	47.1

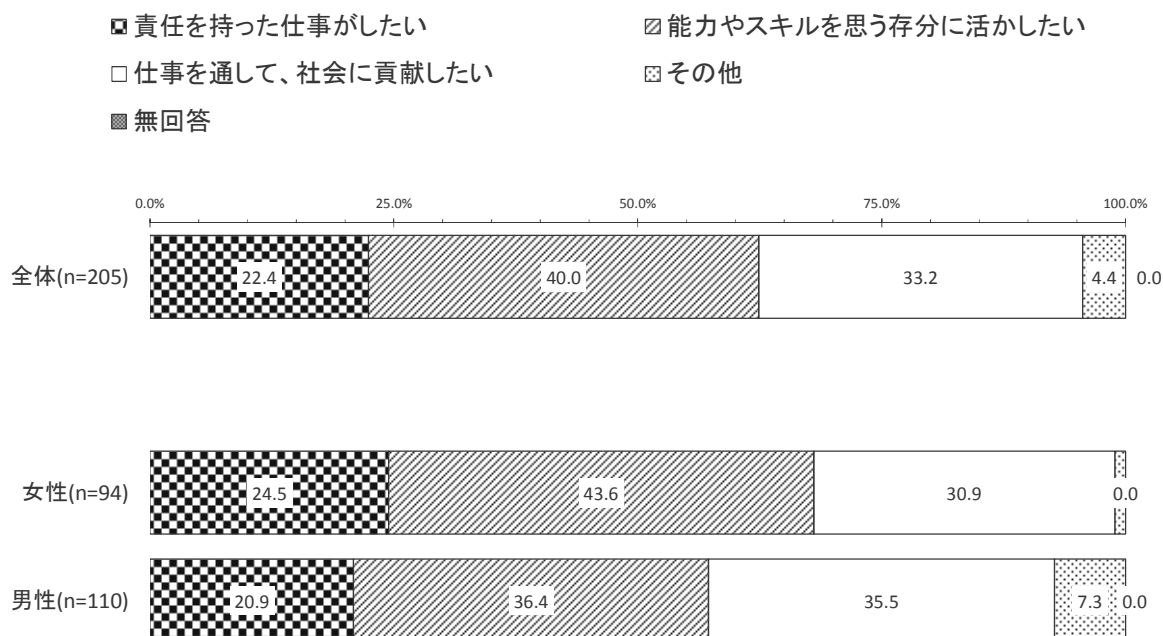
* 「なりたい計」及び「なりたくない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

リーダー・管理職に「なりたい」「できることならなりたい」を合わせた割合は52.4%、「なりたくない」「できることならなりたくない」を合わせた割合は47.1%と、「なりたい」が「なりたくない」を上回っている。

男子学生は「なりたい」(「なりたい」「できることならなりたい」の合計)が55.8%と半数以上だが、女子学生は「なりたくない」(「なりたくない」「できることならなりたくない」の合計)が50.5%で、「なりたくない」の49.0%を上回っている。

①リーダー・管理職になりたい理由

(問 14 補助質問 1 問 14 で 1 「なりたい」または 2 「できるならなりたい」を回答した方にだけお聞きします)
なぜなりたいと思いますか。(○は 1 つだけ)



リーダー・管理職になりたい理由としては、「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が 40.0%と最も多く、次いで「仕事を通して、社会に貢献したい」が 33.2%である。

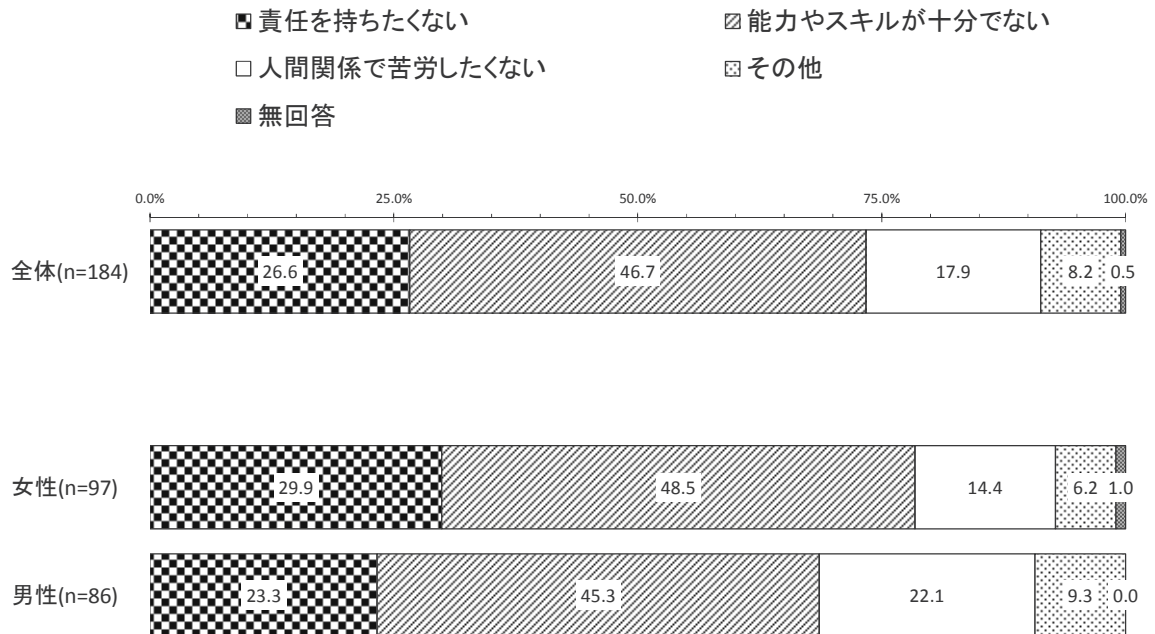
女子学生は「能力やスキルを思う存分に活かしたい」が 43.6%と他に比べて高いが、男子学生は「能力やスキルを思う存分に活かしたい」と「仕事を通して、社会に貢献したい」がほぼ同じ割合である。

* リーダー・管理職になりたい理由<その他>

- ◇ 金 (女性・男性)
- ◇ キャリアアップ (男性)
- ◇ 給料が上がるから。(男性)

②リーダー・管理職になりたくない理由

(問 14 補助質問 2 問 14 で 3 「できるならなりたくない」 または 4 「なりたくない」 を回答した方にだけお聞きします)
なぜなりたくないと思いますか。(○は1つだけ)



リーダー・管理職になりたくない理由としては、「能力やスキルが十分でない」が46.7%と最も多く、「責任を持ちたくない」が26.6%、「人間関係で苦勞したくない」が17.9%である。

男女ともに「能力やスキルが十分でない」(女子生徒48.5%、男子生徒45.3%)の割合が高い。「責任を持ちたくない」と考えている割合は男子学生(23.3%)より女子学生(29.9%)のほうが高く、「人間関係で苦勞したくない」と考えている割合は女子学生(14.4%)より男子学生(22.1%)のほうが高い。

* リーダー・管理職になりたくない理由<その他>

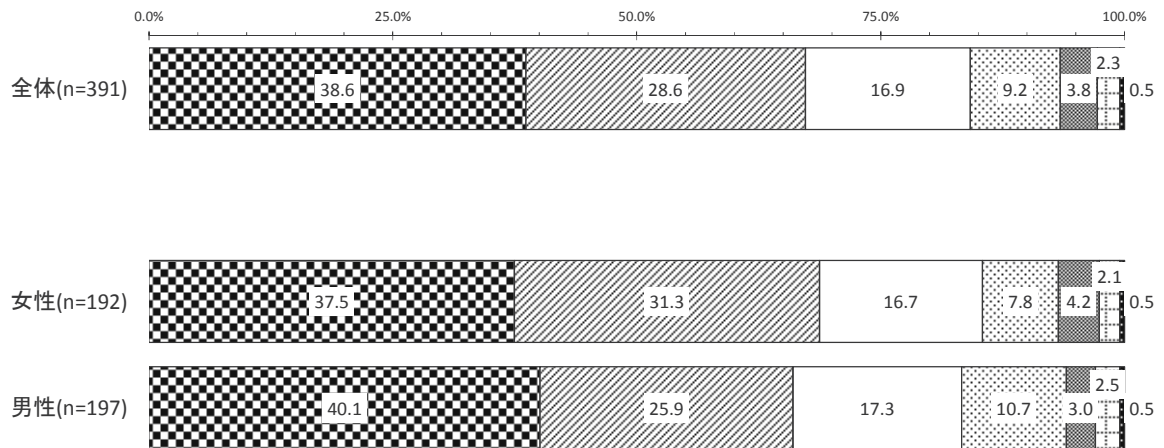
- ◇ 与えられた仕事をこなしたい。(女性)
- ◇ 長時間拘束されそうだから。(男性)
- ◇ 末端で働くことが自分に向いている。(男性)
- ◇ 女の言う事を男が聞こうとしていないと感じるから。社会＝「男の方が分かっている」みたいな。(女性)
- ◇ 人の上に立つ自信がない。(男性)
- ◇ リーダーを支える立場の人材になりたいから。(女性)
- ◇ 上の人を支えたいと思うため。(女性)

5. 将来について

(1) 結婚

問 15 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。(○は1つだけ)

- するほうがよい
- ▨ できればするほうがよい
- どちらでもよい
- ▩ 必ずしもしなくてよい
- する必要はない
- ▨ わからない
- 無回答



「するほうがよい計」と「する必要はない計」の割合 (単位:%)

	するほうがよい計	どちらでもよい	する必要はない計
結婚についてどのように考えているか	67.3	16.9	13.0

* 「するほうがよい計」及び「する必要はない計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

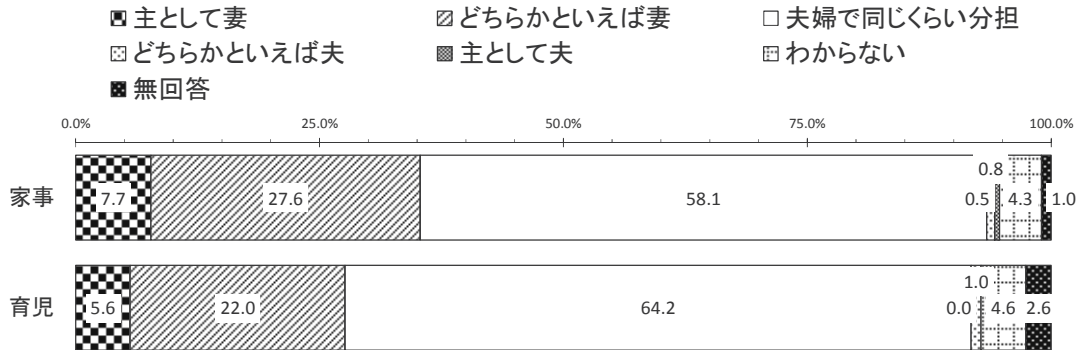
「するほうがよい」「できればするほうがよい」を合わせると、67.3%が、結婚を「するほうがよい」と回答している。「する必要はない」「必ずしもしなくてよい」を合わせた割合は13.0%である。「どちらでもよい」は16.9%である。

男女ともに「するほうがよい」(女子学生68.8%、男子学生66.0%)の割合が高い。

(2) 家事・育児の分担意向

問 16 あなたは、将来家庭を持ったとしたら、家事、育児は主に誰がすればよいと思いますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

(n=391)



「妻計」と「夫計」の割合 (単位:%)

	妻計	夫婦で同じくらい分担	夫計
家事	35.3	58.1	1.3
育児	27.6	64.2	1.0

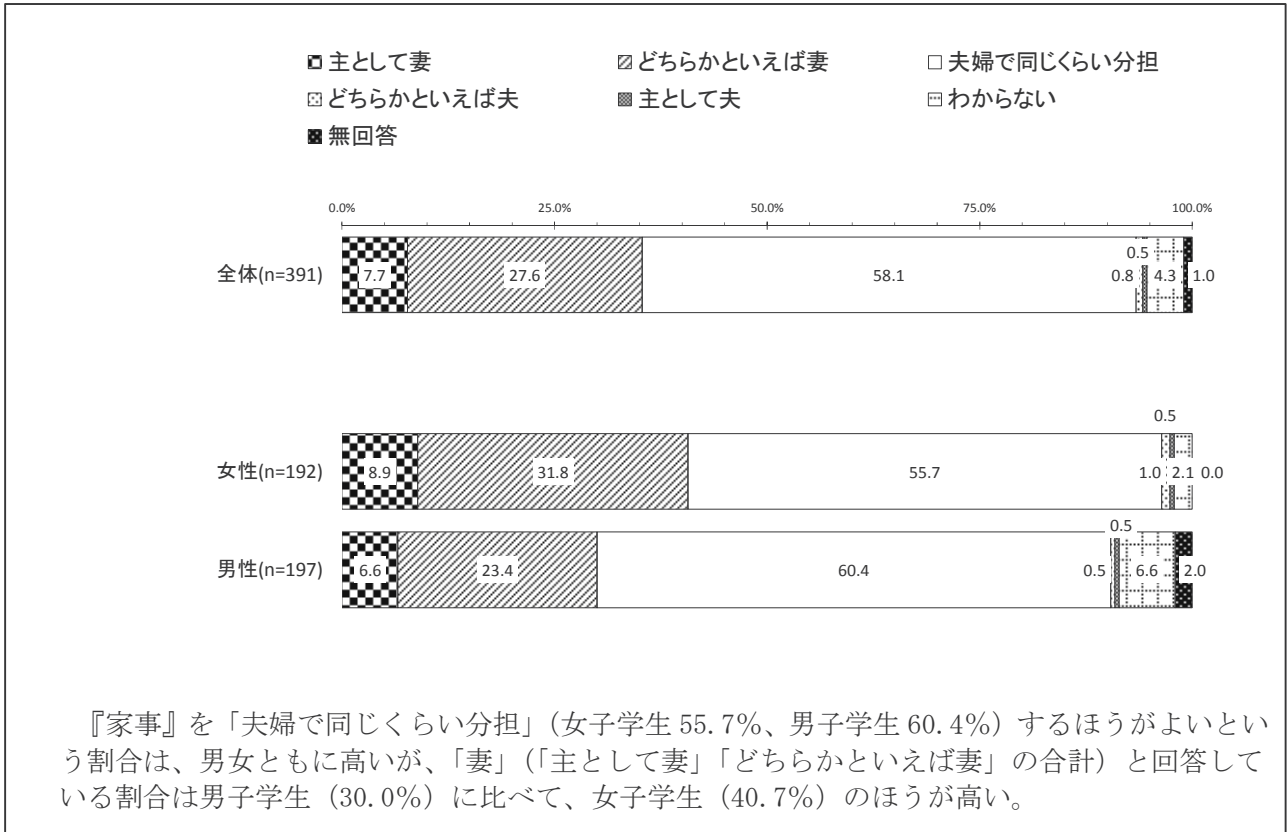
* 「妻計」及び「夫計」の割合は、各回答数の合計から割合を算出しているため、全体集計の構成比の和とはならない場合がある。

将来家庭を持ったら、『家事』は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと思うが58.1%、「妻」（「主として妻」「どちらかといえば妻」の合計）がすればよいが35.3%である。「夫」がすればよいは1.3%と低い。

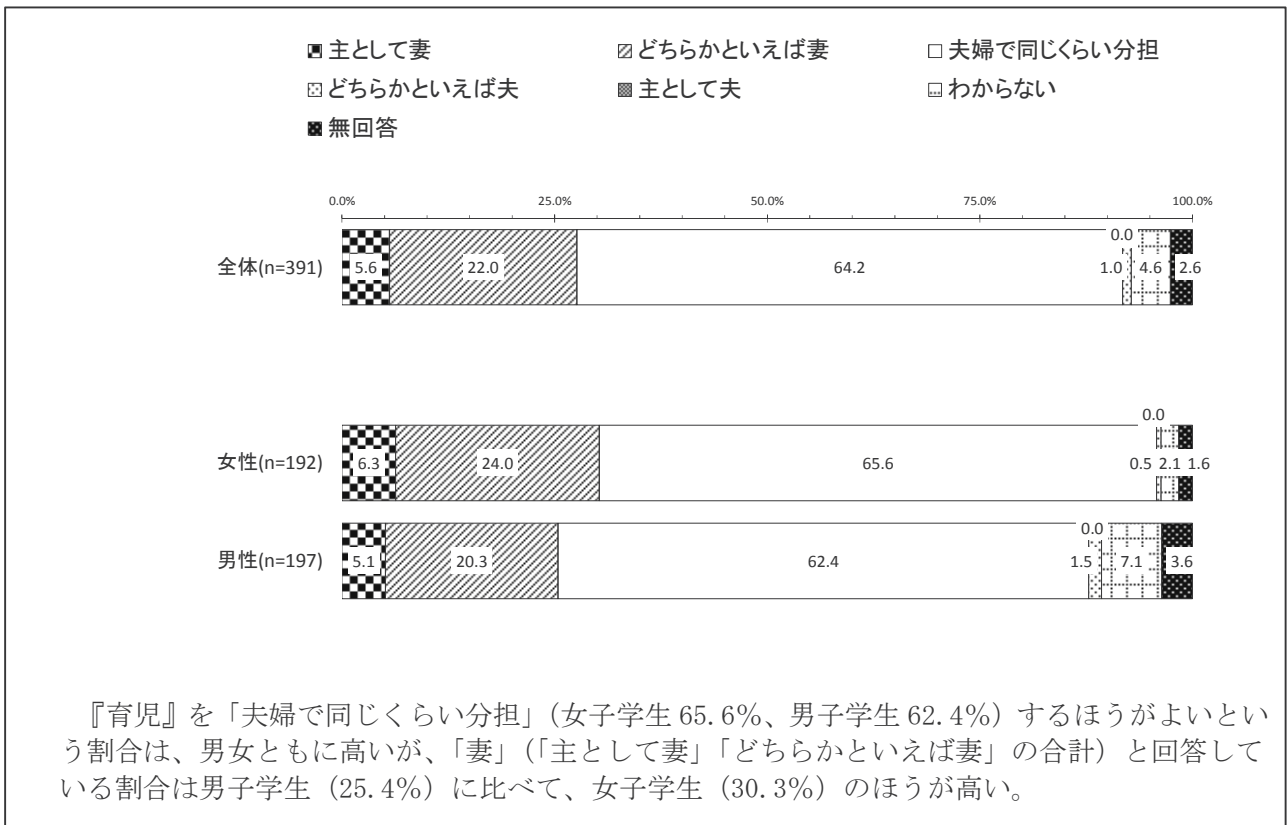
『育児』は「夫婦で同じくらい分担」するほうがよいと思うが64.2%、「妻」がすればよいが27.6%である。「夫」がすればよいは1.0%と低い。

『家事』も『育児』も「夫婦で同じくらい分担」すればよいと考える割合が高いが、『育児』のほうがより分担意識が高い。

①家事・育児の分担意向 『家事』



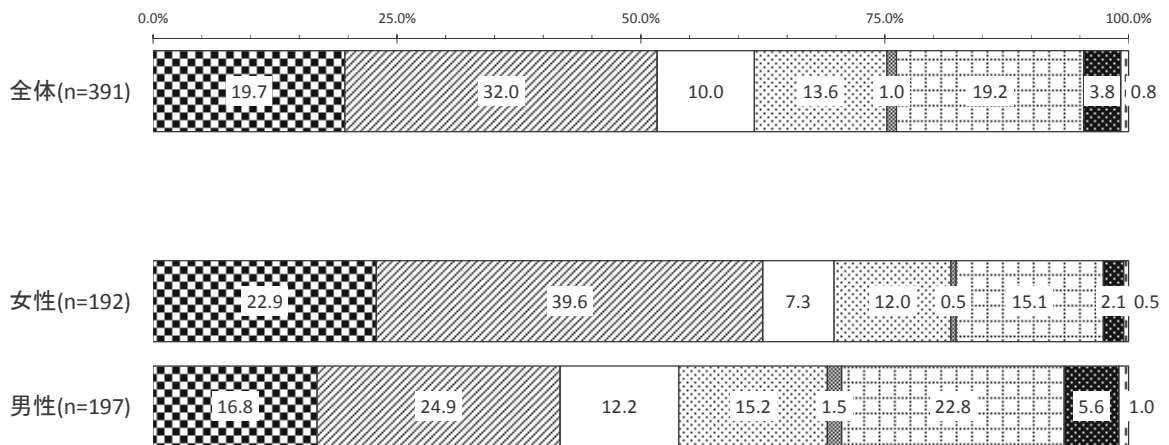
②家事・育児の分担意向 『育児』



(3) 女性が職業を持つこと

問 17 あなたは一般的に女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。(○は1つだけ)

- 職業を持ち続けることは当たり前だと思う
- ▨ ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- ▩ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 女性は職業を持たないほうがよい
- ▨ どちらでもよい
- わからない
- 無回答



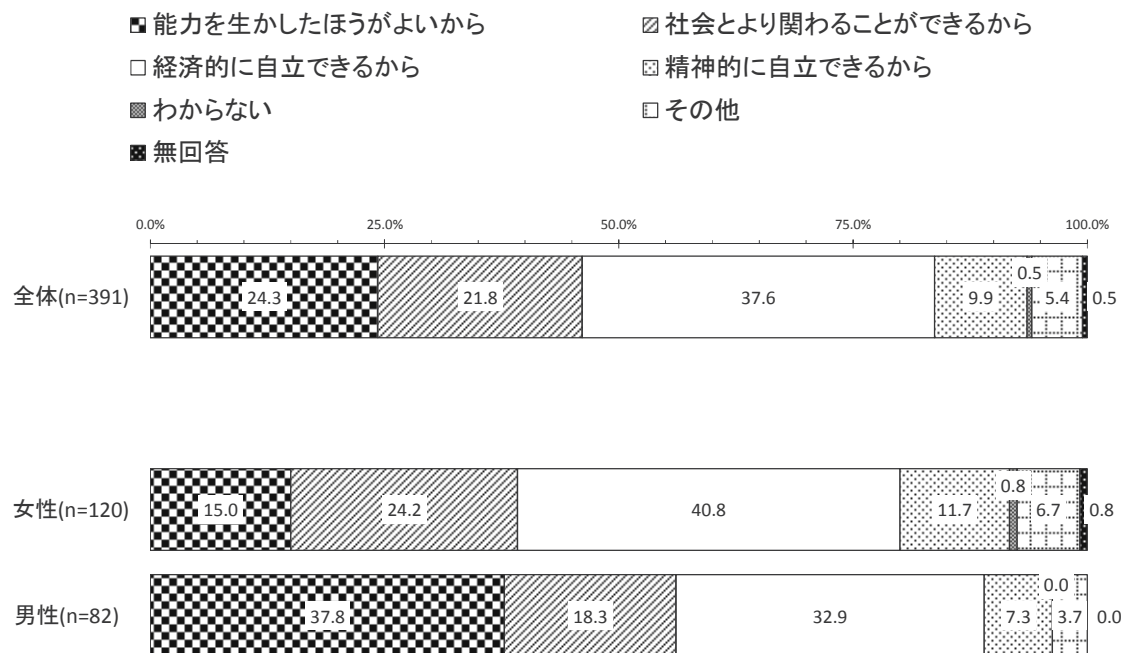
女性が職業を持つことについては、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が32.0%で最も多い。次いで「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」が19.7%、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」が13.6%、「結婚するまでは職業を持つほうがよい」が10.0%となっている。「どちらでもよい」が19.2%である。

男女ともに「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も多いが、女子学生の39.6%に比べて男子学生は24.9%である。次いで男子学生では「どちらでもよい」が22.8%と多い。「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」は女子学生が22.9%であるのに対して、男子学生は16.8%である。

①女性が職業を持ち続けることがよい理由

(問 17 補助質問 1 問 17 で 1「職業を持ち続けることは当たり前だと思う」または 2「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した方のみ)

あなたが「女性が職業を持ち続けるほうがよい」と考えたのは、どのような理由からですか。
(○は1つだけ)



女性が職業を持ち続けるほうがよい理由としては、「経済的に自立できるから」が 37.6%と最も多い。次いで「能力を生かしたほうがよいから」が 24.3%、「社会とより関わることができるから」が 21.8%である。

女子学生では、「経済的に自立できるから」が 40.8%と最も多いが、男子学生では「能力を生かしたほうがよいから」が 37.8%と最も多い。

* 女性が職業を持ち続けることがよい理由<その他>

- ◇ 外の世界と関わっていたほうが良いと思うから。(女性)
- ◇ 家計が安定するから。(女性・男性)
- ◇ 男女平等というのなら当たり前では？(女性)
- ◇ 女性にも働く権利があるから。(女性)
- ◇ 本人が働きたいなら働いても良いと思う。(男性)
- ◇ 結婚、出産を機に職を失うのはおかしな話だと思う。数年間職場を離れても、戻る場所を作っておいてほしい。(男性)
- ◇ このような質問がある時点で、女性=家庭の発想になっているから。女性=仕事でも良いと思う。(女性)
- ◇ 社会に貢献すべきだから。(女性)

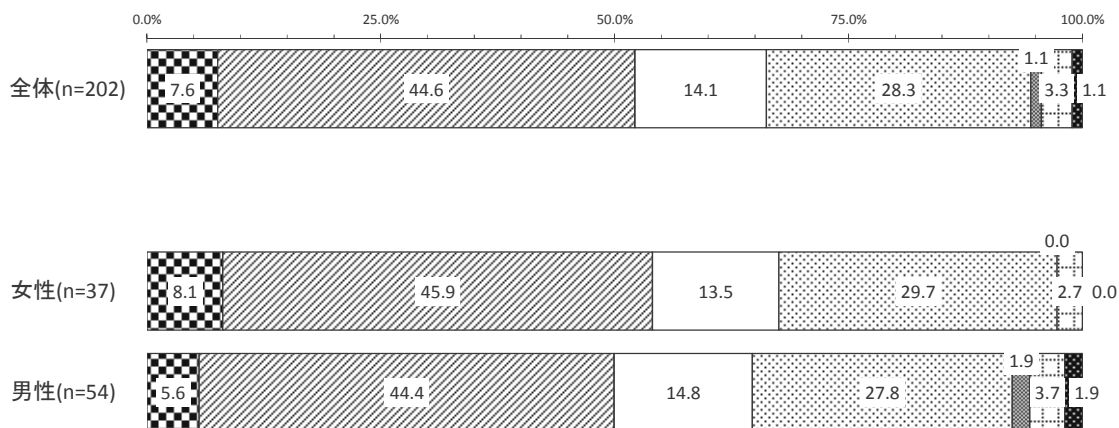
②子どもが小学生になったころの再就職

(問 17 補助質問 2 問 17 で 3 「結婚するまでは職業を持つほうがよい」または 4 「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と回答した方のみ)

あなたは、子どもが小学生になったころに再就職する(職業を持つ) ことについてどう思いますか。

(○は1つだけ)

- フルタイムで再就職したほうがよい
- ▨ パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい
- 再就職せずそのまま家にいたほうがよい
- ▤ どちらでもよい
- わからない
- その他
- 無回答



「結婚するまでは職業を持つほうがよい」または「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」と考えている学生が、子どもが小学生になったころに再就職する(職業を持つ) ことについてどう思うかでは、「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」が 44.6%と最も多く、「フルタイムで再就職したほうがよい」は 7.6%である。「再就職せずにそのまま家にいたほうがよい」が 14.1%、「どちらでもよい」が 28.3%である。

女子学生は 45.9%が「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」と回答しており、「フルタイムで再就職したほうがよい」が 8.1%である。男子学生は、「パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい」(44.4%)と「フルタイムで再就職したほうがよい」(5.6%)のどちらの割合も女子学生と比べて低く、「再就職せずにそのまま家にいたほうがよい」は 14.8%で、女子学生の 13.5%に比べて高い。

*子どもが小学生になったころの再就職<その他>

- ◇ 家庭の環境による。(男性)
- ◇ それは各個人の問題であり、家庭の環境によりけりだと思う。(男性)
- ◇ 子どもがいる女性は子どもの年齢に関わらず早く帰宅できるような体制があるならフルタイムで働きたい。(女性)

6. 自由意見・要望

男女共同参画の推進や女性の活躍促進に関連して、あなたの身近で感じたことや将来に望むことなどありましたら、ご自由にお書きください。

【男女共同参画の施策】に関する回答

- ◇ 近頃ニュースで「マタニティハラスメント」について放送されていたので見ました。出産や育児で休暇を取ることが出来ない、あるいは休暇を取っても後に上司や同僚などから好ましくない事を言われたりと、心地よく働く女性の環境が減ってきているという内容でした。自分の感じた事は、「男女共同参画」が適用されている、あるいはきちんとこれを守っている会社はほぼないのではないかと思います。国が適用したルールなので、これを守れていないというのは、その時点で将来性のある子供達の社会環境の悪化の一つではないかと感じました。(男性)
- ◇ 男女とは別のものであり、扱いには差が出るのは仕方のないことだと考えているが、ここ数年の女性差別といわれているものは、ほとんどが差別ではなく「区別」の域の話だと思う。例えるなら、女性がスカートをはくのは普通だが、男性がスカートをはくと変質者、変態扱いされる。他の例を挙げるならば、男性と同じ仕事量を女性がこなすというのは難しいであろう。そういったレベルの話が肥大化しているだけな気がしているため、そういった活動というか政策は、大いに結構だが、そのあたりはしっかり区別して行ってほしい。(男性)
- ◇ 「女性だから」という理由で、無理矢理社会に出そうという考え方は間違っていると思います。能力等を考えながら、フラットに考えていくべきだと思います。(男性)
- ◇ 今日、社会で男女平等と言われ、様々な所で門戸が広がりつつあるが、あくまでも女性が男性に合わせる、つまり「女性も男性と同じレベルで仕事をするなら構いませんよ」というのが、今の制度での男女平等ではないのか。これが本当に平等かと疑問を持たざるを得ない。また、制度や管理職の考えの違いからか、女性の社会進出と共に、晩婚化、少子化といった問題にももの大いに関係しているように思う。女性の自立というのは賛成だが、少子化といった問題で日本社会が悪い方向に向かう、女性の社会の進出と共に、子ども達と接してあげられる時間が減るとするのは、何とも考えものだと思っている。(男性)
- ◇ 女性の活躍を促進するのは良いが、女性枠を採用などに設けるのは間違っていると思う。これは実質的に不平等だし、女性の活躍が促進したとは言えない。また、母子家庭だけ給食費が無償なものもおかしい。やむを得ぬ事情の人もいるが、自分の好きで離婚するような女性をなぜ支援しなければならないのか。女性専用車両があり、男性専用車両がないのもおかしい。以上、全てにおいて男女の支援体制に差をつけるべきではない。差をつけるということは、女性の能力が不足していることの裏返しということになり、失礼である。単に制度的不平等を生み出すのではなく、意識の転換が必要だと感じる。例えば小学校で男の子は机、女の子は軽い椅子を運ぶという指導は、私の小さい頃はよく行われていたが、身体の小さい子、大きい子という区別や、力持ちの子、そうでない子の区別は行われないのである。男の子でも女の子でも、運べる子は運べば良いのであって、社会においてもそのような性的差別は害悪である。女性枠を設けるとするのは、形だけ女性数を増やしたい

愚かな施策だと、女から見ても思う。(女性)

- ◇ 男女共同参画は、男性と女性も自分の生きたいように生きることが出来る社会を形成するためにあると思う。自分がアンケートで回答した内容が、社会全体に適用されるべきとは考えていない。現状、女性は社会制度や社会通念によって生き方が狭まっているからこそ、男女平等である。(男性)

【男女共同参画の現状に対する不満や希望】に関する回答

- ◇ 政治家や医者などの役職人口の男女割合が同じにならないければ、共同参画なんて難しいことなんじゃないか思います。(女性)
- ◇ 今の社会状況から見ても、男女が「平等」であることは不可能と思われる。いかにして、社会が女性に対して柔軟な思考を持つことができるのかが重要だと思います。「平等」ではなく、「対等」になる社会になることが、今後に関わるのではないのでしょうか。とりあえず、結婚・妊娠に対する社会の批判的対応と理解をどうにかしてほしい。少子化だなんだと言っておきながら、矛盾していることに気付いてほしい。(女性)
- ◇ 女の人に気を遣って、今の社会ができているので現状維持が一番かと。(男性)
- ◇ 活躍を抑制させるような環境、状況を替えなければならない。「働かなければならない空気」によって当たり前のように男性は働き、働ける一方で「女性は家庭という空気」によって、働きたいのに働かなくなってしまう。それを当たり前に入れている女性も変わらなければいけない。疑問を持つべき。そうなった場合の女性の負担(死ぬ思いで出産、育児、家事、会社、身だしなみ etc.) は大きいものなので、協力は絶対に必要。(女性)
- ◇ 今は共働きの時代が到来していると思う。昔は、父親が働いて、母親が家を守るという風潮があったが、今はそんなふうに父親だけが収入を得るとするのは、生活していくのが困難になると思う。なので今の時代は、女性が働くというのは当たり前になっていると思う。私は、個人の自由だと思う。男性が働いて女性が家を守るのが日本の風潮になっているが、今はそうではないと思う。(男性)
- ◇ 女性を重視するあまり、男性の存在が忘れられることが最も怖い。(男性)
- ◇ 男女関係なく実力が評価される社会になってほしい。その一方で、女性を優先するあまり、男性を必要以上に貶めることだけはやめて頂きたい。(男性)
- ◇ 研究者には女性が少ないと感じる。家庭や地域では、私の地元においては女性が中心となっていて、役員などは男性がしているというイメージがある。こうしたイメージがあるということは、まだまだ平等であるとはいえない。しかし無理に平等を推し進める必要はなく、役割がなんとなくできるのは悪いことではないと考える。(女性)
- ◇ もっと女性の活躍が評価される地域社会になってほしい。(男性)
- ◇ 今よりも更に女性が活躍できる社会になればと思います。(女性)

【家事・子育て】に関する回答

- ◇ 産休、育休の支援体制があっても利用しにくい職場もある。支援体制があるならば利用しやすい雰囲気づくりを職場ごとにできればより良いと思う。(女性)
- ◇ 女性の働きやすい社会になることを強く願います。子どものいる方には、育児支援ができたり、仕事復帰しやすい現況にすべきだと思います。男女平等と女性が活躍の促進が実現することを応援したいと思います。(男性)
- ◇ 女性が社会進出するためには保育施設等の充実が必要であるとする。(男性)
- ◇ 育児、家事に対して社会がもっと手助けをすれば良いと思います。(男性)
- ◇ 技術職に限ったことではないが、技術やそれをとりまく環境がたえず変化している中で、育休を取るということは、そこで自分自身が社会的にストップしてしまうということに繋がると思う。その間のブランクをどう埋めるかが、今度の課題でもあると思うので、企業には対策を講じて欲しいと感じた。(女性)
- ◇ 女性だけでなく男性の育児休暇も取りやすいようにした方が良いと思う。(まだ少ないと思うので)(女性)
- ◇ 女性だからといって家事を専門的に行うのではなく、育児をしながら女性も仕事をしたほうが充実した生を送ることができると思う。(女性)
- ◇ 今後、女性の社会進出は推進していくべきだと思います。そのためには、結婚・出産・育児を控えた女性に対する会社の支援制度を改善していくべきだと思います。たとえ制度があっても使いにくい、一度会社を産後休暇として休んだとしても復帰しにくい、といった話をよく聞きます。福島県では、そのような福利厚生をしっかりと掲げることで地元で就職したいという声が増えるのではないかと考えます。私達が会社・社会に求めるのはそこです。男性が社会で活躍するのは、プライドもありますし、世間一般的にそう思われている可能性が高いですが、女性もある程度の地位を持ち、産後も安心して働ける社会になってほしいです。このような機会を設けて頂き、ありがとうございました。(女性)
- ◇ 働きながら家事ができる職場づくりをもっとしたほうが良いと思った。(女性)
- ◇ 女性が結婚や育児で以前と同じように働くことができなくなるのはどうかと思う。変わらずに働くことのできる環境づくりを充実させてほしいです。(女性)
- ◇ 会社内に保育所があるなど、社内システム(女性が働きやすい)が充実している会社ほど、男女共同参画社会が実現できている会社だと考えます。そのような会社が増えることを望みます。(男性)
- ◇ 女性が仕事について育児等で離れても、快く受け入れられる環境であってほしい。(女性)
- ◇ 女性の社会進出を進めるためには、育休などの制度を取りやすくする必要があるため、職場環境や周囲の人々の理解を変えていくことが大切だと思う。(男性)
- ◇ 保育所と企業が連携すれば、子どもを育てながらも働くことができるのではないかとと思う。(男性)
- ◇ 産休の制度があつたとしても、利用しにくい空気や昔からの風習が妨げとなる。またアベノミクスや、法律、制度全体的に大企業が優位になるものも多くある。育児を相談できる人が周りにいないことや、保育所の数など、都心に住んでいる人達は、制度だけでなく、そもそも人の数が足りない。実家から会社に通える人は地方に住む方がほとんど。出産の適性年齢と実際の出産年齢もズレている。自分の将来には、今よりは女性が育児しやすくなっているとは思いますが、子どもを持つ父への風

当たりも良くなっていて欲しい。(育児が大変な時期に定時で帰れたり等、両親共に子育てに参加できる社会) (男性)

- ◇ 民間企業では公務員などに比べ育児休暇などへの理解が少ないと思うので将来的に改善してほしいと思う。(男性)
- ◇ 保育施設を増やしてほしい。(男性)

【男女共同参画の意識啓発】に関する回答

- ◇ ニュース番組を見て、ある女性議員がセクハラ発言を受けた問題について、未だに女性は男性から見て軽視されていることが分かりました。この問題を踏まえて、男女が平等であり続けるように男女共同参画社会を望みます。(男性)
- ◇ 女性の活躍が出来る機会を適宜設けるため、将来に役立つセミナー等を開いてほしい。(男性)
- ◇ 近年の施策を見ると、男尊女卑の実質格差を制度による女性優遇で埋めようとしているような印象を受ける。確かに制度を用いて平等を目指していくことは間違いではないだろうが、あからさまな優遇策は、かえって「女性＝弱者だから仕方ない」「なぜ女性ばかり優遇される？」という誤った意図が伝染するリスクを背負っているように思う。男女共同参画の実現には、「格差是正の取り組み」内容の公開ではなく、「男＝女＝平等という意識」を浸透させていくことが大事ではないだろうか。(男性)

【職場の環境】に関する回答

- ◇ 女性の参画のために、多くの企業支援が行われることを望みます。(男性)
- ◇ 依然として営業の場では男社会だと思う。(男性)
- ◇ 男女関係なく能力ある者が上にあがっていける世の中になればいいんだと思います。(男性)
- ◇ 土木系に女性を使うことがニュースになった時がありましたが、正直、なんで男性向けの仕事に？と思いました。力の関係などで女性は男性に勝つことは難しいです。職の幅を広げるのであれば、もっと管理職やリーダーとして女性を雇用して、制度や見方・意識を変えることに努めさせるべきだと思います。男の人だけが社会を支えているうちは、女性の地位も意識も向上しないと思います。働く女性の事について一点。女性の中にも、子育てしている人としていない人では、理解に差があります。子ども優先になることを、子どもを持たない人が理解できない事も事実なので、同性間でも理解し合うことが必要です。(女性)
- ◇ 女性の正社員が減ってきているのは、企業側の理解のなさではないか。産休や育児休暇などにより、クビを切られては、女性の正社員は減ることが当たり前。女性の活躍には、女性の上司や管理職が必要。出産や育児は男女で考えていくことで、必ずしも男性が働かなければならないということはない。逆に、女性で優秀な人材を減らすきっかけとなっているのではないか。(男性)
- ◇ 恋人が長時間労働を強いられていた頃、「夫がこの労働時間では、子育てするなら退職しなくては」などと考えていた。4年生大学卒の人間が専業主婦になろうというのだから、客観的に見れば勿体ない話である。女性の活躍推進には、男性の長時間労働をやめさせることが必要。せめて夕飯を一

緒に食べられるようにしてもらわなければ子育てはできない。(女性)

- ◇ 女性が仕事をする職場であっても、労働時間が8時間をかなりオーバーしているところがある。また、勤務が夜中の11時、12時になることもある。時には1時近くになったりすることがある。このような会社を放任しておいて良いのかどうか、疑問である。(女性)
- ◇ パートが多い気がする。(男性)

【その他の事項】に関する回答

- ◇ 女性が働かなくてもよいくらい、生活にゆとりがほしい。(女性)
- ◇ 古来の日本は男性優位社会でバランスを取っており、時代が変わったとはいえ、その日本での基本は変えるべきではないと思っていた。しかし、女性が組織に入ると、その組織が女性側の意見も取り入れられ、組織がより良くなったという経験を最近した。私の意見は男女共同参画については分からないというのが本音である。(男性)
- ◇ どうしたって身体的な理由があるから叶わない願いだと思う。(男性)
- ◇ 生物的に根本的な違いがある以上、盲目に男女平等ばかり主張するのは問題がありすぎる。(男性)
- ◇ 男も女も差を気にするのが悪い。(男性)
- ◇ 宗教や何かに捕われるのは現代的ではないと私は思う。今、女性も戦争する時代になっているのだから、男だの女だので職を潰すことはあまり好ましくない。だから男も女も同じ土俵で職をするのがベストだと思う。特にいわきなどの所はお金が滞っている所ばかりなので、男と女が働き、経済をよりよく回していくのが理想だと私は思っている。(男性)
- ◇ みんな、良い生活できるならなんでも良いと思う。(男性)
- ◇ まず私が思うのは、安倍総理がせっかく女性を大臣にしたのに、女性が二人共だめだったことから、女性のイメージを悪くしてしまったと思う。将来的にはこれからもっと、男性とか女性とかいう目で見るとはなく、自由になればいいと思った。(男性)
- ◇ とりあえず、女性だけが苦勞しないで男女共に築き合っていく。(男性)
- ◇ 支援制度が存在して、女性の活躍する場を増やすと言っているけど、結局女性は子どもを産まなければならないといった考えが、まだ深く根付いているため、女性が自分の意思で選択できるような社会を作りたい。(女性)
- ◇ 男性であれ女性であれ、やりたいことを自由にやればいい。差別する制度は改善すべきだが、いつまでもルールの上で生きる必要はないと思う。好きなことをすることが一番の幸せである。その中で支え合える相手と生きることが人生を生きることだと思う。(男性)

付. 調査票様式

問6 補助質問2 あなたが就職先を選ぶ際に影響を受けた人、影響を受けたことを選んでください。(複数回答可)

- 1 母親
- 2 父親
- 3 両親以外の家族
- 4 親戚
- 5 学校の先生
- 6 友人・先輩などの知人
- 7 職場体験(見学)
- 8 学校の授業
- 9 テレビ・新聞・インターネットなどマスメディア
- 10 その他()
- 11 特に影響を受けた人や影響を受けたことではない

問7 あなたは、現段階で、進学や就職先の所在地としてどこを希望しますか。

- 1 福島県内
- 2 東北地方
- 3 関東
- 4 こたわらない
- 5 その他()

III 男女共同参画社会についてお伺いします

問8 あなたは、次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	どちらか 男性のほうが優 れている	どちらか 女性ほうが優 れている	平 等	どちらか 男性のほうが優 れている	どちらか 女性ほうが優 れている	わから ない
家庭生活	1	2	3	4	5	6
学校生活	1	2	3	4	5	6
法律・制度上	1	2	3	4	5	6
社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
社会全体	1	2	3	4	5	6

問9 あなたは、次のことについてどう思いますか。

	賛 成	どちらか 男性のほうが優 れている	どちらか 女性ほうが優 れている	反 対	
女らしい振る舞い、男らしい振る舞いはあつたほうがよい	1	2	3	4	5
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
女性も男性も役割分担して、家事・育児・介護に積極的に関わらるべきだ	1	2	3	4	5
子どもが3歳ぐらまでは、母親は育児に専念するほうがよい	1	2	3	4	5

問10 あなたは、次のことについて見て聞いたりしたことがありますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	よく知っ ている	少し知っ ている	聞いたこ とはある が内容は 知らない	全然知 らない
男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
男女雇用機会均等法	1	2	3	4
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3	4
ジェンダー	1	2	3	4
女子差別撤廃条約	1	2	3	4
デートDV	1	2	3	4

IV 家族や社会の状況についてお伺いします

問11 あなたの家では、次にあげるような日常的な事柄を主にやっているのはどなたですか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	母 親	父 親	両 親	自分や兄 弟姉妹	その他の 家族
食事の支度	1	2	3	4	5
食事の後片付け	1	2	3	4	5
掃除	1	2	3	4	5
洗濯	1	2	3	4	5
介護	1	2	3	4	5
(幼い) 子どもの世話	1	2	3	4	5
町内会等の地域活動への参加	1	2	3	4	5
P.T.A.、育成会等の社会教育活動への参加	1	2	3	4	5

V 女性の活躍促進についてお伺いします

問12 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性に仕事や地域活動で活躍していると思いませんか。(○は1つだけ)

- 1 活躍している
- 2 どちらかといえば活躍している
- 3 どちらかといえば活躍していない
- 4 活躍していない

(問12で、1 または 2 を回答した方だけにだけお聞きします)

問12 補助質問1 活躍していると感じている理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退社が減っている
- 2 女性の経営者や管理職が増えている
- 3 管理職でないが活躍する女性が増えている
- 4 女性の職域(研究開発、マーケティング、営業など)が広がっている
- 5 各種報道などで女性の活躍を目的とする機会が増えた
- 6 女性のキャリア意識が上がっている
- 7 長時間労働の慣習が改善されてきている
- 8 P.T.Aや自治会の会長等役職に就いている女性が増えている

(問12で、3 または 4 を回答した方だけにだけお聞きします)

問12 補助質問2 活躍していないと感じている理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 産休・育休などの支援制度が不充実である
- 2 産休・育休などの支援制度があっても利用しにくい(できない)
- 3 女性の経営者や管理職が少ない
- 4 女性の職域が限定的である
- 5 女性のキャリア意識が向上していない
- 6 出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
- 7 男性優位の考え方が変わっていない
- 8 長時間労働の慣習が改善されていない
- 9 P.T.Aや自治会の会長等役職に就いている女性がいない

- 問13 女性が活躍するには何が重要だと思いますか。(○は3つまで)
- 1 企業トップが女性の活躍促進に積極的であること
 - 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
 - 3 育児・介護等との両立についての職場の支援制度が整っていること
 - 4 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
 - 5 身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること
 - 6 仕事が道性に評価されていること
 - 7 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
 - 8 キャリア形成のための研修制度があること
 - 9 保育施設が充実していること
 - 10 国や地方自治体など行政による企業支援があること
 - 11 地域社会が地域活動に女性の参画の必要性を認めること
 - 12 その他(具体的に)

問14 リーダー・管理職になりたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 なりたい
- 2 できることならなりたい
- 3 できることならなりたいくない
- 4 なりたいくない

(問14で、1 または 2 を回答した方だけにだけお聞きします)

問14 補助質問1 なぜなりたいたと思いますか。(○は1つ)

- 1 責任を持った仕事がしたい
- 2 能力やスキルを思う存分に活かしたい
- 3 仕事を通して、社会に貢献したい
- 4 その他(具体的に)

(問14で、3 または 4 を回答した方だけにだけお聞きします)

問14 補助質問2 なぜなりたいたくないと思いますか。(○は1つ)

- 1 責任を持ちたくない
- 2 能力やスキルが十分でない
- 3 人間関係で苦勞したくない
- 4 その他(具体的に)

VI 将来についてお伺いします

問15 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。

- 1 するほうがよい
- 2 できればするほうがよい
- 3 どちらでもよい
- 4 必ずしもしなくてもよい
- 5 する必要はない
- 6 わからない

問16 あなたは将来家庭を持ったとしたら、家事、育児は主に誰がすれば良いと思いますか。それぞれの項目についてあてはまる番号を一つ選んでください。

	主として妻	どちらかどいえば妻	夫婦で同じくらい	どちらかどいえば夫	主として夫	わからな
家事	1	2	3	4	5	6
育児	1	2	3	4	5	6

問17 あなたは一般的に女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。

- 1 職業を持ち続けることは当たり前前だと思つ
- 2 ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- 3 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 4 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 5 女性は職業を持たないほうがよい
- 6 どちらでもよい
- 7 わからない

(問17で、1 または 2 と回答した方のみ)

問17 補助質問1 あなたが「女性が職業を持ち続けるほうがよい」と考えたのは、どのような理由からですか。

- 1 能力を生かしたほうがよいから
- 2 社会とより関わることができから
- 3 経済的に自立できるから
- 4 精神的に自立できるから
- 5 わからない
- 6 その他(具体的に)

(問17で、3 または 4 と回答した方のみ)

問17 補助質問2 あなたは、子どもが小学生になったころに再就職する(職業を持つ)ことについてどう思いますか。

- 1 フルタイムで再就職したほうがよい
- 2 パートタイム、アルバイトで再就職したほうがよい
- 3 再就職せずそのまま家にいたほうがよい
- 4 どちらでもよい
- 5 わからない
- 6 その他(具体的に)

男女共同参画・女性の活躍促進に関する
意識調査報告書

平成27年3月発行

福島県生活環境部青少年・男女共生課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

T E L : 024-521-7188

F A X : 024-521-7887

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005c/danjo-top.html>